千葉県文化財センター調査報告第452集

成田国際物流複合基地埋蔵文化財調査報告書2

——成田市駒井野荒追遺跡——

——成田市台ノ田Ⅱ(2)遺跡——

平成15年3月

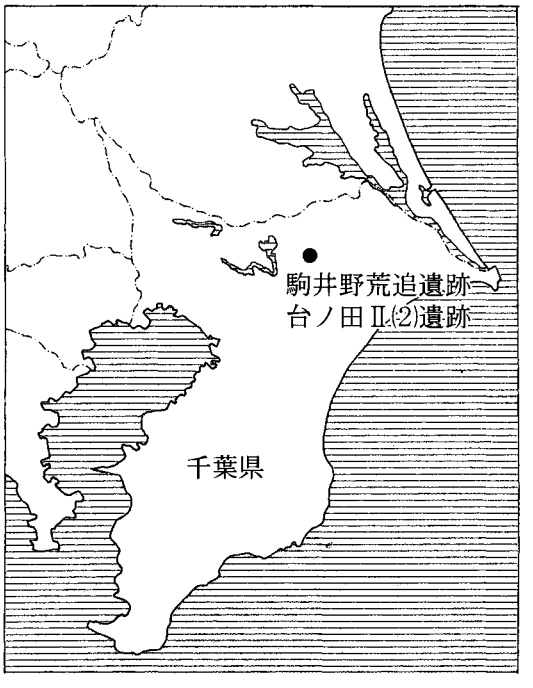
千　葉　県　企　業　庁

財団法人　千葉県文化財センター

成田国際物流複合基地埋蔵文化財調査報告書2

——成田市駒井野荒追遺跡——

——成田市台ノ田Ⅱ(2)遺跡——



序　文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県文化財センター調査報告書第452集として、千葉県企業庁の成田国際物流複合基地造成事業に伴って実施した成田市駒井野荒追遺跡・台ノ田Ⅱ(2)遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

特に駒井野荒追遺跡では、旧石器時代から中・近世に至る各時代の遺構、遺物が出土しており、複合遺跡としてこの地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報告書が、学術資料として、また埋蔵文化財の保護と理解のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し、御指導、御協力いただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成15年３月

財団法人千葉県文化財センター

理事長　　清　水　　新　次

凡　例

1　本書は、千葉県企業庁による成田国際物流複合基地造成に伴う埋蔵文化財の発掘調査である。

2　本書に収録した遺跡は、千葉県成田市駒井野字荒追857ほかに所在する駒井野荒追遺跡（遺跡コード211－056）、千葉県成田市駒井野字台ノ田2018ほかに所在する台ノ田Ⅱ（2）遺跡（遺跡コード211－059）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県企業庁の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の組織、担当者及び実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は、成田調査室長　西口徹が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化財課、千葉県企業庁、成田市教育委員会ほか多くの方々から御指導、御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第３図　国土地理院発行　１／25,000地形図「新東京国際空港」（N1－54－19－10－1）

〃　「成田」　（N1－54－19－10－3）

8　周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和46年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

10　挿図に使用したスクリーントーン及び記号は以下の通りである。

カマド袖№112、焼土№111、燃焼部№320、硬化面の範囲は波線、須恵器の断面は黒色、土師器の赤色処理は赤、黒色処理は青、その他については文中に記載した。

11　滓の分類方法は、サイズ、肉眼観察、磁着力に基づいておこなった。なお詳細については『新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ』（1993千葉県文化財センター）等を参照されたい。

本文目次

Ⅰ　はじめに……1
　1　調査の概要……1
　　(1) 調査の経緯と経過……1
　　台ノ田Ⅱ(2)遺跡の確認調査結果……3
　　(2) 調査の方法……3
　2　遺跡の位置と環境……4
　　(1) 遺跡の周辺の歴史的環境……4
　　(2) 層序区分……5
Ⅱ　旧石器時代……14
　1　概要……14
　2　石器集中地点……14
　　(1) 第1地点……14
　　(2) 第2地点……20
　　(3) 第3地点……24
　　(4) 第4地点……26
　　(5) 第5地点……28
　　(6) 第6地点……30
　　(7) 第7地点……32
　　(8) 第8地点……32
　3　礫群集中地点……34
　　(1) 第1礫群集中地点……34
　4　確認グリッド他出土遺物……34
Ⅲ　縄文時代……44
　1　概要……44
　2　遺構……44
　　(1) 陥穴……44
　　(2) 炉穴……68
　　(3) 土坑……68
　3　遺物……74
　　(1) 064号陥穴上層出土縄文土器……74
　　(2) 縄文時代早期の包含層……74
Ⅳ　古墳時代～奈良・平安時代……83
　1　概要……83
　2　遺構と遺物……83
　　(1) 住居跡……83
　　(2) 土坑等……133
　　(3) 遺構外出土土器等……135
　　(4) 製鉄関連遺物……146
Ⅴ　中・近世……152
　1　概要……152
　2　遺構と遺物……152
　　(1) 遺構……152
　　(2) 中・近世関係遺物……192
　　(3) 金属器等及び銭貨……192
Ⅵ　まとめ……196
報告書抄録……巻末

挿 図 目 次

第１図　グリッド配置図……3
第２図　基本層序……5
第３図　遺跡位置図……6
第４図　駒井野荒追遺跡及び台ノ田Ⅱ遺跡周辺の地形……7
第５図　上層確認調査トレンチ配置図……8
第６図　上層本調査範囲図及び遺構配置図……9
第７図　時代別遺構分布図（1）……10
第８図　時代別遺構分布図（2）……11
第９図　時代別遺構分布図（3）……12
第10図　下層確認グリッド配置図及び下層本調査範囲図……13
第11図　旧石器時代第１地点遺物出土状況図……15
第12図　旧石器時代第１・２地点石材別出土状況図……16
第13図　旧石器時代第１地点出土遺物実測図（1）……17
第14図　旧石器時代第１地点出土遺物実測図（2）……18
第15図　旧石器時代第１地点出土遺物実測図（3）……19
第16図　旧石器時代第２地点遺物出土状況図……20
第17図　旧石器時代第２地点出土遺物実測図（1）……21
第18図　旧石器時代第２地点出土遺物実測図（2）……22
第19図　旧石器時代第３地点遺物出土状況図……24
第20図　旧石器時代第３地点石材別出土状況図……25
第21図　旧石器時代第３地点出土遺物実測図……26
第22図　旧石器時代第４地点遺物出土状況図……27
第23図　旧石器時代第４地点石材別出土状況図……28
第24図　旧石器時代第４地点出土遺物実測図……29
第25図　旧石器時代第５地点遺物出土状況図……30
第26図　旧石器時代第５地点石材別出土状況図……31
第27図　旧石器時代第５地点出土遺物実測図……32
第28図　旧石器時代第６地点遺物出土状況図……33
第29図　旧石器時代第６地点石材別出土状況図……34
第30図　旧石器時代第６地点出土遺物実測図……35
第31図　旧石器時代第７地点遺物出土状況図……36
第32図　旧石器時代第７地点石材別出土状況図……36
第33図　旧石器時代第７地点出土遺物実測図……37
第34図　旧石器時代第８地点遺物出土状況図……38
第35図　旧石器時代第８地点出土遺物実測図……39
第36図　旧石器時代確認グリッド他出土遺物実測図……39
第37図　旧石器時代第２地点礫接合及び単独礫片等出土状況図……40
第38図　005号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……45
第39図　007号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図……45
第40図　009号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……45
第41図　011号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……45
第42図　017号土坑平面図及びエレベーション図……45
第43図　018号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……45
第44図　024号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……47
第45図　028号土坑平面図及びセクション図……47
第46図　030号陥穴平面図、セクション図及びエ

レベーション図……47
第47図　031号陥穴平面図及びセクション図 …… 47
第48図　038号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……47
第49図　032号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……47
第50図　046号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……49
第51図　047号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……49
第52図　048号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……49
第53図　053号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……49
第54図　055号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……49
第55図　056号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……49
第56図　057号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……51
第57図　058号土坑平面図及びセクション図 …… 51
第58図　059号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……51
第59図　060号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……51
第60図　061号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……51
第61図　064号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……51
第62図　080号陥穴平面図及びセクション図 …… 53
第63図　081号陥穴平面図及びセクション図 …… 53
第64図　085号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……53
第65図　089号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……53
第66図　090号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……53
第67図　100号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……53
第68図　101号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……55
第69図　103号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……55
第70図　114号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……55
第71図　115号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……55
第72図　116号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……55
第73図　121号陥穴、125号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……55
第74図　122号土坑平面図及びセクション図 …… 57
第75図　123号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……57
第76図　130号陥穴平面図及びセクション図 …… 57
第77図　131号土坑平面図及びセクション図 …… 57
第78図　135号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……57
第79図　136号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図……57
第80図　168号陥穴平面図及びセクション図 …… 59
第81図　169号土坑平面図及びセクション図 …… 59
第82図　170号陥穴平面図及びセクション図 …… 59
第83図　173号土坑平面図及びセクション図 …… 59
第84図　181号土坑平面図及びセクション図 …… 59
第85図　182号陥穴平面図及びセクション図 …… 59
第86図　183号陥穴平面図及びセクション図 …… 61
第87図　184号陥穴平面図及びセクション図 …… 61
第88図　192号陥穴平面図及びセクション図（その他周辺遺構平面図含む）……61
第89図　194号陥穴平面図及びエレベーション図……61
第90図　195号陥穴平面図及びエレベーション図……61

第91図　216号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……63
第92図　302号陥穴平面図及びセクション図 …… 63
第93図　304号土坑平面図及びエレベーション図……63
第94図　305号土坑平面図及びエレベーション図……63
第95図　306号陥穴平面図及びセクション図 …… 63
第96図　308号陥穴平面図及びセクション図 …… 65
第97図　309号陥穴平面図及びセクション図 …… 65
第98図　322号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……65
第99図　323号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図……65
第100図　324号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図 …… 67
第101図　325号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図 …… 67
第102図　326号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 …… 67
第103図　327号土坑平面図及びセクション図……67
第104図　329号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 …… 67
第105図　330号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 …… 67
第106図　332号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 …… 71
第107図　333号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 …… 71
第108図　337号土坑平面図及びエレベーション図 …… 71
第109図　303号土坑平面図及びエレベーョン図…71
第110図　137号炉穴平面図及びセクション図……71
第111図　064号陥穴上層出土縄文土器……74
第112図　包含層出土縄文土器１ …… 75
第113図　包含層出土縄文土器２ …… 76
第114図　包含層出土縄文土器３ …… 77
第115図　20－Ｎ－52～64区縄文包含層調査区遺物出土状況図 …… 78
第116図　縄文時代早期包含層出土石器実測図(1)……79
第117図　縄文時代早期包含層出土石器等実測図(2)……80
第118図　縄文時代グリット等出土石器実測図(3)……81
第119図　021号住居跡平面図(遺物分布含む)及びエレベーション図 …… 84
第120図　021号住居跡出土遺物実測図１……85
第121図　021号住居跡出土遺物実測図２……86
第122図　033号住居跡平面図(遺物分布含む)セクション図及びエレベーション図 … 88
第123図　033号住居跡カマド平面図(遺物分布含む)及びセクション図……88
第124図　033号住居跡出土遺物実測図……88
第125図　034号住居跡平面図(遺物分布含む)セクション図及びエレベーション図 … 90
第126図　034号住居跡カマド平面図及びセクション図 …… 90
第127図　034号住居跡出土遺物実測図……91
第128図　051号住居跡平面図(炭化材、山砂分布含む)セクション図及びエレベーション図 …… 92
第129図　102号住居跡平面図(遺物分布含む)セクション図及びエレベーション図 … 94
第130図　102号住居跡カマド平面図及びセクション図 …… 94
第131図　102号住居跡出土遺物実測図……95
第132図　120号住居跡平面図(遺物分布含む)セクション図及びエレベーション図 … 96
第133図　120号住居跡出土遺物実測図……97
第134図　124号住居跡平面図(遺物分布含む)セクション図及びエレベーション図 … 98
第135図　124号住居跡カマド平面図及びセクション図 …… 98

第136図　124号住居跡出土遺物実測図……99
第137図　128号住居跡平面図(遺物分布含む)
セクション図及びエレベーション図…101
第138図　128号住居跡カマド平面図及びセク
ション図……101
第139図　128号住居跡出土遺物実測図 …… 102
第140図　132号住居跡平面図(遺物分布含む)
セクション図及びエレベーション図…104
第141図　132号住居跡カマド平面図及びセク
ション図……104
第142図　132号住居跡出土遺物実測図 …… 105
第143図　151号住居跡平面図(遺物分布含む)
セクション図及びエレベーション図…107
第144図　151号住居跡出土遺物実測図 …… 107
第145図　154号住居跡平面図(遺物分布含む)
及びエレベーション図……109
第146図　154号住居跡出土遺物実測図 …… 109
第147図　155号住居跡平面図(遺物分布含む)
及びセクション図……110
第148図　155号住居跡カマド平面図及びセク
ション図……110
第149図　155号住居跡出土遺物実測図 …… 110
第150図　189号住居跡平面図及び遺物分布図 … 111
第151図　189号住居跡出土遺物実測図 …… 111
第152図　190号住居跡平面図(遺物分布含む)
セクション図及びエレベーション図…112
第153図　190号住居跡カマド平面図及びセク
ション図……112
第154図　190号住居跡出土遺物実測図 …… 112
第155図　197号住居跡平面図(遺物分布含む)
及びセクション図……114
第156図　197号住居跡カマド平面図及びセク
ション図……114
第157図　197号住居跡出土遺物実測図 …… 115
第158図　204号住居跡平面図(遺物分布含む)
セクション図及びエレベーション図…117
第159図　204号住居跡カマド平面図及びセク
ション図……117
第160図　204号住居跡(旧)平面図及びエレエ
レベーション図……118
第161図　204号住居跡(新)出土遺物実測図 …… 118
第162図　209号住居跡平面図(遺物分布含む)
セクション図及びエレベーション図…120
第163図　209号住居跡カマド平面図(遺物分
布含む)及びセクション図 …… 120
第164図　209号住居跡出土遺物実測図 …… 120
第165図　217号住居跡平面図(遺物分布含む)
及びセクション図……121
第166図　217号住居跡出土遺物実測図 …… 121
第167図　310号住居跡平面図(遺物分布含む)
及びセクション図……122
第168図　310号住居跡カマド平面図(遺物分
布含む)及びセクション図 …… 122
第169図　310号住居跡出土遺物実測図 …… 124
第170図　311号住居跡平面図(遺物分布含む)
及びセクション図……126
第171図　311号住居跡カマド平面図及びセク
ション図……126
第172図　311号住居跡出土遺物実測図 …… 126
第173図　317号住居跡平面図(遺物分布含む)
及びセクション図……127
第174図　317号住居跡カマド平面図及びセク
ション図……128
第175図　317号住居跡出土遺物実測図１ …… 128
第176図　317号住居跡出土遺物実測図２ …… 129
第177図　317号住居跡出土遺物実測図３ …… 131
第178図　076号土坑平面図及びセクション図 … 134
第179図　104号土坑平面図及びセクション図 … 134
第180図　127号土坑平面図、セクション図及び
エレベーション図……134
第181図　134号土坑平面図、セクション図及び
エレベーション図……134
第182図　138号土坑平面図、セクション図及び
エレベーション図……135

第183図　139号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図……135
第184図　遺構外出土土器実測図……137
第185図　製鉄関連遺物実測図１……147
第186図　製鉄関連遺物実測図２……148
第187図　001号火葬墓平面図(茅分布含む)、セクション図及びエレベーション図…153
第188図　006号有天井土坑平面図、セクション図及びエレベーション図……153
第189図　010号火葬墓平面図、セクション図及びエレベーション図……153
第190図　016号火葬墓平面図、セクション図及びエレベーション図……153
第191図　039号土坑平面図及びセクション図…153
第192図　049号土坑平面図及びセクション図…153
第193図　050号土坑平面図及びセクション図…155
第194図　062号土坑平面図及びセクション図…155
第195図　063号土坑平面図及びセクション図…155
第196図　065号土壙墓平面図、セクション図及びエレベーション図……155
第197図　066号土坑平面図及びセクション図…155
第198図　067号火葬墓平面図及びセクション図……155
第199図　068号火葬墓平面図及びセクション図……155
第200図　069号土壙墓平面図、セクション図及びエレベーション図……155
第201図　072号炭窯平面図及びセクション図…157
第202図　074号炭窯平面図、セクション図及びエレベーション図……157
第203図　077号炭窯平面図、セクション図及びエレベーション図……157
第204図　078号土坑平面図及びセクション図…157
第205図　079号土坑平面図及びセクション図…157
第206図　082号土坑平面図及びセクション図…157
第207図　086号土坑平面図及びセクション図…157
第208図　087号地下式壙平面図、セクション図及びエレベーション図……159
第209図　093号土坑平面図及びセクション図…159
第210図　094号炭窯平面図及びセクション図…159
第211図　095号土坑平面図及びセクション図…161
第212図　096号土壙墓平面図及びセクション図……161
第213図　098号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図……161
第214図　099(A)、(B)号炭窯、火葬墓平面図、セクション図及びエレベーション図…161
第215図　117号井戸平面図及びセクション図…161
第216図　129号柱列平面図及びエレベーション図……161
第217図　152号土坑平面図(スラグ分布含む)及びエレベーション図……163
第218図　153号炭窯平面図及びセクション図…163
第219図　155号炭窯平面図及びセクション図…163
第220図　158号土坑、159号土坑平面図及びセクション図……165
第221図　160号土坑平面図及びセクション図…165
第222図　161号土坑平面図及びセクション図…165
第223図　162号土坑平面図及びセクション図…165
第224図　163号土坑平面図及びセクション図…165
第225図　164号土坑平面図及びセクション図…167
第226図　165号土坑平面図及びエレベーション図……167
第227図　166号土坑、167号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図……167
第228図　174号炭窯平面図及びエレベーション図……167
第229図　175号炭窯平面図及びエレベーション図……167
第230図　176号炭窯平面図及びエレベーション図……169
第231図　179号炭窯平面図及びエレベーション図……169
第232図　185号土坑平面図及びセクション図…169

第233図　187号炭窯・188号炭窯平面図及びエレベーション図……169
第234図　191号炭窯・193号土坑等平面図、セクション図及びエレベーション図……169
第235図　196号炭窯平面図及びエレベーション図……171
第236図　198号土坑平面図及びエレベーション図……171
第237図　199号土坑平面図及びエレベーション図……171
第238図　200号土坑平面図及びエレベーション図……171
第239図　201号土坑平面図及びエレベーション図……171
第240図　202号土坑平面図及びエレベーション図……171
第241図　203号土坑平面図及びエレベーション図……171
第242図　205号土坑平面図及びセクション図 … 172
第243図　208号土坑平面図及びセクション図 … 172
第244図　210～215号土坑平面図及びエレベーション図……172
第245図　301号竪穴状遺構平面図、セクション図及びエレベーション図……174
第246図　312号小竪穴平面図及びセクション図……174
第247図　313号地下式壙、314号小竪穴平面図、セクション図及びエレベーション図…174
第248図　315号小竪穴平面図及びエレベーション図……176
第249図　316号小竪穴平面図及びセクション図……176
第250図　318号掘立柱建物跡平面図、セクション図及びエレベーション図……176
第251図　319号竪穴状遺構平面図、セクション図及びエレベーション図……177
第252図　320号地下式壙平面図、セクション図及びエレベーション図……177
第253図　321号炭窯平面図、セクション図及びエレベーション図……178
第254図　328号地下式壙平面図、セクション図及びエレベーション図……178
第255図　331号小竪穴平面図、セクション図及びエレベーション図……179
第256図　334号竪穴状遺構平面図、セクション図及びエレベーション図……179
第257図　002号溝、004号溝平面図及びセクション図……180
第258図　003号道路状遺構、008号柵列、023号平面図及びセクション図……181
第259図　015号溝平面図 …… 182
第260図　075号柵列、220号溝、341号溝平面図及び075号、112号溝セクション図……183
第261図　105号溝、109号溝、110号溝、112号溝、113号溝、118号溝平面図及び112号溝セクション図……185
第262図　221号溝平面図 …… 185
第263図　110号溝、339号溝、340号溝、112号溝、075柵列、218号柵列、338号柵列平面図及び110号溝、339号溝、340号溝セクション図……187
第264図　157号溝、172号溝、178号溝、179号溝、180号溝、185号溝、335号溝、171号柵列、336号柵列平面図 …… 188
第265図　112号溝、340号溝平面図……188
第266図　207号溝、335号溝、336号柵列平面図 … 190
第267図　150号溝、150号(B)溝平面図……191
第268図　中近世関係遺物実測図……193
第269図　金属器等実測図及び銭貨拓影図(1) …… 194
第270図　銭貨拓影図(2) …… 195
第271図　台ノ田Ⅱ遺跡位置図……198
第272図　台ノ田Ⅱ遺跡確認調査範囲及び出土遺物実測図……199

表　目　次

第１表　旧石器時代　第１地点石器観察表……41
第２表　旧石器時代　第２地点石器観察表……41
第３表　旧石器時代　第３地点石器観察表……42
第４表　旧石器時代　第４地点石器観察表……43
第５表　旧石器時代　第５地点石器観察表……43
第６表　旧石器時代　第６地点石器観察表……43
第７表　旧石器時代　第７地点石器観察表……43
第８表　旧石器時代　第８地点石器観察表……43
第９表　縄文時代　陥穴一覧表１……72
第10表　縄文時代　陥穴一覧表２……73
第11表　縄文時代　炉一覧表……73
第12表　縄文時代　土坑一覧表……73
第13表　縄文時代　石器属性表……82
第14表　021号住居跡出土土器等観察表……138
第15表　033号住居跡出土土器等観察表……138
第16表　034号住居跡出土土器等観察表……139
第17表　102号住居跡出土土器等観察表……139
第18表　120号住居跡出土土器等観察表……140
第19表　124号住居跡出土土器等観察表……140
第20表　128号住居跡出土土器等観察表……140
第21表　132号住居跡出土土器等観察表……141
第22表　151号住居跡出土土器等観察表……141
第23表　154号住居跡出土土器等観察表……141
第24表　155号住居跡出土土器等観察表……142
第25表　189号住居跡出土土器等観察表……142
第26表　190号住居跡出土土器等観察表……142
第27表　197号住居跡出土土器等観察表……142
第28表　204号住居跡(新)出土土器等観察表……143
第29表　209号住居跡出土土器等観察表……143
第30表　217号住居跡出土土器等観察表……143
第31表　310号住居跡出土土器等観察表……143
第32表　311号住居跡出土土器等観察表……144
第33表　317号住居跡出土土器等観察表……144
第34表　遺構外出土土器等観察表 …… 145
第35表　駒井野荒追遺跡　製鉄関連資料
一覧表 …… 149

図　版　目　次

図版１　駒井野荒追遺跡と台ノ田Ⅱ遺跡の周辺地形図
図版２　調査前風景・基本層序・確認トレンチ等
図版３　旧石器時代第１、２地点
図版４　旧石器時代第３～５地点
図版５　旧石器時代第６地点、台ノ田Ⅱ遺跡
図版６　旧石器時代第１地点出土遺物
旧石器時代第２地点出土遺物１
図版７　旧石器時代第２地点出土遺物２
旧石器時代第３地点出土遺物
旧石器時代第４地点出土遺物
図版８　旧石器時代第５地点出土遺物
旧石器時代第６地点出土遺物
旧石器時代第７地点出土遺物
旧石器時代第８地点出土遺物
旧石器時代確認グリッド他出土遺物
図版９　005号陥穴、007号土坑、009号陥穴、011号陥穴、017号土坑、018号陥穴
図版10　024号陥穴、028号土坑、031号陥穴、032号陥穴、038号陥穴、039号土坑
図版11　046号陥穴、047号陥穴、048号陥穴、055号陥穴、056号陥穴
図版12　057号陥穴、058号土坑、059号陥穴、060号陥穴、061号陥穴、064号陥穴

図版13　053号陥穴、080号陥穴、081号陥穴、085号陥穴、089号陥穴
図版14　090号陥穴、100号陥穴、101号陥穴、103号陥穴、114号陥穴、115号陥穴
図版15　116号陥穴、121号陥穴、122号陥穴、123号陥穴、125号陥穴、130号陥穴
図版16　135号陥穴、136号土坑、168号陥穴、173号土坑、181号土坑、182号陥穴
図版17　183号陥穴、184号陥穴、192号陥穴、194号陥穴
図版18　195号陥穴、216号陥穴、302号陥穴
図版19　304号土坑、305号土坑、306号土坑、308号土坑、309号陥穴
図版20　309号陥穴、322号陥穴、323号陥穴、324号土坑、326号陥穴、327号土坑
図版21　329号陥穴、330号陥穴、332号陥穴、333号陥穴、337号陥穴
図版22　064号陥穴上層出土縄文土器、包含層出土土器１
図版23　包含層出土土器２
図版24　縄文時代石器
図版25　021号住居跡遺構、遺物１
図版26　021号住居跡遺物２
図版27　033号住居跡遺構、遺物
図版28　034号住居跡遺構、遺物１
図版29　034号住居跡遺物２
図版30　102号住居跡遺構、遺物
図版31　120号住居跡遺構、遺物
図版32　124号住居跡遺構、遺物、104号土坑、127号土坑
図版33　128号住居跡遺構、遺物１
図版34　128号住居跡遺物２
図版35　132号住居跡遺構、遺物１
図版36　134号井戸、138号土坑、139号土坑、150号溝
図版37　150号溝、151号住居跡、154号住居跡
図版38　154号住居跡、155号住居跡
図版39　189号住居跡遺物、190号住居跡遺構、遺物
図版40　197号住居跡遺構、遺物
図版41　204号住居跡遺構、遺物
図版42　209号住居跡遺構、遺物
図版43　217号住居跡遺構、遺物、310号住居跡遺構、遺物
図版44　311号住居跡遺構、遺物
図版45　317号住居跡遺構、遺物１
図版46　317号住居跡遺物２
図版47　317号住居跡遺物３
図版48　317号住居跡遺構４
図版49　001号火葬墓、006号有天井土坑、010号火葬墓
図版50　016号火葬墓、049号土坑、050号土坑、062号土坑、063号土坑、065号土壙墓
図版51　066号火葬墓、067号土坑、069号土壙墓、074号炭窯、077号炭窯、082号土坑
図版52　086号土坑、087号地下式壙、079・093号土坑、098号土坑、078・098号土坑、096号土坑
図版53　099号炭窯、129号柱列、109・113号溝、110・112号溝、118号溝、152号土坑
図版54　152号土坑、153号土坑、164号土坑、165号土坑、163号土坑、166号土坑
図版55　169号土坑、171・172号溝、157号溝・158・159号土坑、162号土坑、177号溝
図版56　191号炭窯、193号土坑、205号土坑、210号土坑、210号～215号ピット群
図版57　208号土坑、207号溝、199号土坑、218号土坑
図版58　010・338・340号溝、075号柵列、110・112号溝
図版59　207号溝、301号竪穴状遺構、312号小竪穴、312～314号小竪穴・地下式壙
図版60　315号小竪穴、316号小竪穴、318号小竪穴、319号小竪穴、320号地下式壙、321号炭窯・325号土坑
図版61　328号地下式壙、331号小竪穴、335号溝、336号柵列
図版62　002号溝、003号道路状遺構、008号溝、023号溝、075号柵列

Ⅰ　はじめに

1　調査の概要

（1）調査の経緯と経過

千葉県は、千葉県新産業三角構想のプロジェクトの一つである「成田国際空港都市構想」に基づき、平成２年12月に「成田国際物流複合基地構想及び事業化計画」を策定した。千葉県企業庁ではこの基本構想を受け、国際物流機能の集積を図るため、成田空港への近接性を活かし、国際物流の効率化、地域経済の活性化等を目的として、平成３年度から、新東京国際空港の北側から東関東自動車道隣接地にいたる約78haの土地に成田物流複合基地の建設を計画した。県企業庁は、物流基地建設に当たり、千葉県教育委員会と事業地内に所在する埋蔵文化財に関して協議し、記録保存の措置を講ずることとなった。調査は財団法人千葉県文化財センターが実施することとなり、県企業庁との間に平成６年２月に発掘調査委託契約が締結された。

物流基地の事業地内の台地上には全面に遺跡が確認されており、駒井野城跡、駒井野西ノ下遺跡、駒井野荒追遺跡、台ノ田Ⅱ遺跡の４遺跡が所在している。事業地内に所在する遺跡の調査は、事業地計画との整合を図りつつ実施することとなり、平成６年２月、駒井野荒追遺跡から調査が開始された。なお本遺跡の調査は以下に記載されたとおり、三次にわたり調査されている。

一次調査は平成６年２月１日から開始され、平成６年３月30日までに遺跡の西側を中心に調査対象面積16,300㎡の上層確認調査1,630㎡と下層確認調査652㎡及び、上層本調査の10,660㎡のうち2,000㎡を終了した。引き続いて平成６年４月１日から平成６年７月29日までに上層本調査10,660㎡の残り8,660㎡及び下層本調査1,416㎡を終了した。調査の結果、旧石器時代の石器集中地点６ヶ所（調査終了時の地点数）、縄文時代の包含層１ヶ所、陥穴23基、古墳時代～奈良・平安時代の住居跡７軒、中近世の溝６条、火葬墓２基、地下式壙１基、縄文時代～中世にかけての土坑14基などが検出されている。

二次調査は平成７年11月１日から平成８年３月27日までに遺跡の東側を中心に調査対象面積11,000㎡で上層本調査9,920㎡（上層確認は表土剥ぎを行うことで終了）、下層確認440㎡及び引き続き下層本調査360㎡を行い終了した。調査の結果、旧石器時代の石器集中地点１ヶ所、縄文時代の土坑６基、陥穴７基、古墳時代の住居跡10軒、溝１条、中世土坑14基、土坑列３列、溝３条などが検出されている。

三次調査は平成13年８月３日から平成13年11月29日までに遺跡の中程を中心に調査対象面積5,112㎡の上層確認調査511㎡と下層確認調査200㎡を行い、引き続き上層本調査5,112㎡を行い終了した。調査の結果、縄文時代陥穴12基、土坑６基、古墳時代住居跡４軒、中世地下式壙３基、掘立柱建物跡１棟、溝・柵列５条、中近世小竪穴５基、竪穴状遺構３基などが検出されている。

整理作業は平成11年８月１日～８月14日、平成11年10月１日～11月30日まで一次、二次の発掘調査で行われた範囲について水洗注記から挿図の一部まで行われた。平成13年12月１日～平成14年３月29日まで三次発掘調査で行われて範囲について水洗・注記～挿図の一部、一次～二次発掘調査の挿図の一部まで行われた。平成14年４月１日～平成14年８月31日、10月１日～11月29日まで一次～三次発掘調査の挿図～原稿執筆・報告書刊行まで行われた。

発掘調査及び整理作業に係わる各年度の組織担当職員及び作業内容は、下記のとおりである。

① 平成５年度（一次発掘調査）

期　　間：平成６年２月１日～平成６年３月30日

組　　織：成田調査事務所長　矢戸三男

担当職員：主任技師　森本和雄、蜂屋孝之

内　　容：上層確認調査・下層確認調査、上層本調査（一部）

② 平成６年度（一次発掘調査）

期　　間：平成６年４月１日～平成６年７月29日

組　　織：成田調査事務所長　矢戸三男

担当職員：調査係長　小高春雄

内　　容：上層本調査、下層本調査

③ 平成７年度（二次発掘調査）

期　　間：平成７年11月１日～平成８年３月27日

組　　織：成田調査事務所長　石田廣美

担当職員：調査係長　栗田則久、主任技師　酒井宏

内　　容：上層確認調査（重機による表土剥ぎ）、下層確認調査、上層本調査、下層本調査

④ 平成11年度（整理作業）

期　　間：平成11年８月１日～８月14日、平成11年10月１日～11月30日

組　　織：東部調査事務所長　三浦和信

担当職員：　副所長　雨宮龍太郎

内　　容：水洗・注記～挿図・写真撮影の一部（一次～二次発掘調査分）

⑤ 平成13年度（三次発掘調査）

期　　間：平成13年８月３日～平成13年11月29日

組　　織：東部調査事務所長　折原繁

担当職員：主席研究員　宮重行、高橋博文

内　　容：上層確認調査、下層確認調査（確認調査で終了）、上層本調査

⑥ 平成13年度（整理作業）

期　　間：平成13年12月１日～平成14年３月29日

組　　織：東部調査事務所長　折原繁

担当職員：主席研究員　高橋博文、成田調査室長　西口徹

内　　容：水洗・注記～挿図の一部（三次発掘調査分）、挿図の一部（一次～二次発掘調査分）

⑦ 平成14年度（整理作業）

期　　間：平成14年４月１日～平成14年８月31日、10月１日～11月30日

組　　織：東部調査事務所長　折原繁

担当職員：成田調査室長　西口徹

内　　容：挿図の一部～原稿執筆、報告書刊行（一次～三次発掘調査分）

また、台ノ田Ⅱ遺跡の二次調査（第171図～172図参照）が以下の内容で行われた。調査対象面積1,200㎡

の上層確認調査120㎡、下層確認調査55㎡の結果、本調査へは移行しなかった。一次調査では旧石器時代の石器集中地点、縄文時代早期（特に撚糸文系）の土器群が多く検出されていたが、今回の調査区は縁辺部に限られているため確認調査時に旧石器時代の石器が１点、縄文時代早期の土器片が２点検出されたのみである。

遺物の点数が少量のためここで簡単に述べることにする。（P198～P199第272図１～３、図版５）１は縄文時代早期の撚糸文系の土器の口縁部破片である。２は同じ時期の土器の胴部破片である。３は旧石器時代の安山岩製の横広の剥片である。一次調査の第１ブロックと同様にⅨ層、第２黒色帯下部に相当する石器と思われる。

① 平成13年度（二次発掘調査）

期　　間：平成13年７月13日～平成13年８月２日

組　　織：東部調査事務所長　折原繁

担当職員：主席研究員　宮重行

内　　容：上層確認調査・下層確認調査（本調査なし）

② 平成14年度（整理作業）

期　　間：平成15年２月１日～平成15年２月28日

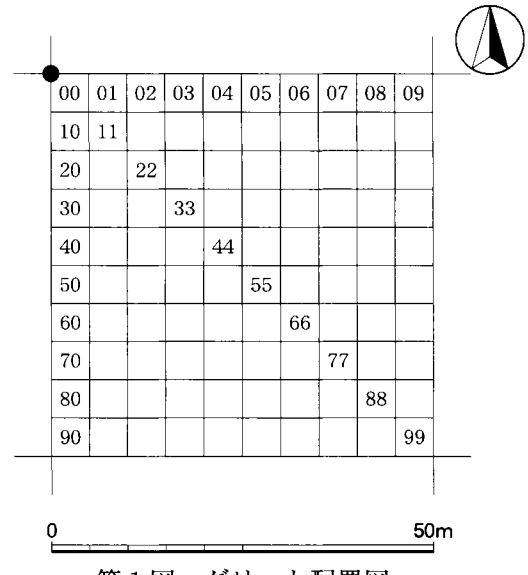
組　　織：東部調査事務所長　折原繁

担当職員：成田調査室長　西口徹

内　　容：水洗・注記～報告書刊行（二次発掘調査分）

（２）調査の方法

調査区の設定　物流基地地区の調査対象範囲全域について、公共座標に合わせて東西南北50ｍ×50ｍの方眼網を設定し大グリッドとした。したがって、駒井野荒追遺跡、駒井野西ノ下遺跡、台ノ田Ⅱ遺跡、駒井野荒追城跡の４遺跡に統一した大グリッドを設定している。大グリッドの呼称法は、北西に起点を置いて、北から南に１、２、３、……とし、西から東へA、B、C……として、これを組み合わせて使用した。大グリッド内は５ｍ×５ｍに100分割の小グリッドを設定し、北西隅を起点に00、01、02……として南東隅を99とする。最小グリッドの表記はこれにより、大グリッドと小グリッドを組み合わせて、例えば20－Q－01のようになる（第１図）。



第１図　グリット配置図

上層確認調査　縄文時代以降の上層の調査は、調査区全域に幅２ｍのトレンチを南北を基本に設定して、調査対象面積の10％を実施し、遺構・遺物の分布、包含の有無を確認した。ただし駒井野荒追遺跡の二次調査の上層確認調査については重機による表土剥ぎを行い、その後上層の遺構確認を行った。

下層確認調査　旧石器時代の下層（ローム層中）の確認調査は、調査区全域に２ｍ×２ｍを調査対象面積の４％設定し、石器等の遺物が出土した地点について周囲を拡張し、遺物集中の存否と広がりを追求す

る方法を採った。

本調査　上層確認調査の結果に基づき、まず縄文時代以降の陥穴、住居跡、土坑などの遺構及び縄文時代の遺物包含層を対象として精査を行った。その後、下層の確認調査を行い、その結果に基づき、石器が出土した地点の周囲を拡張して石器集中地点の精査を行った。

遺物番号　調査時点においては、検出された遺構に対して精査を行った順に001号跡、002号跡……のように一連の番号を付した。本書では、後々の混乱を避けるため調査時の遺構番号のまま表記し、遺構の性格が明らかなものについては番号の後ろに住居跡、土坑、陥穴等と表記することとした。

2　遺跡の位置と環境

（1）遺跡周辺の歴史的環境

駒井野荒追遺跡の一次調査部分は駒井野荒追遺跡として成田市駒井野字荒追858－1ほかに所在する。終了確認時の報告では旧石器時代の石器集中地点６ヶ所、縄文時代早期の包含層１ヶ所、陥穴23基等、古墳時代前期～奈良・平安時代住居跡７軒、中近世の地下式壙１基や火葬墓２基、炭窯、溝状遺構などの遺構遺物が多数検出されている。

駒井野荒追遺跡の二次調査部分は駒井野荒追遺跡として成田市駒井野字廣田899－1ほかに所在する。終了確認時の報告では旧石器時代の石器集中地点１ヶ所、縄文時代陥穴６基、古墳時代後期～奈良・平安時代住居跡10軒、鉄滓出土の土坑１基、中近世の柵列（土坑列）３条、炭窯、溝状遺構などが検出されている。

駒井野荒追遺跡の三次調査部分は駒井野荒追⑵遺跡として成田市駒井野字荒追857ほかに所在する。終了確認時の報告では縄文時代陥穴12基、土坑６基、古墳時代後期住居跡４軒、中世地下式壙３基、掘立柱建物跡１棟、溝・柵列５条、中近世小竪穴５基、竪穴状遺構３基などが検出されている。

台ノ田Ⅱ⑵遺跡は台ノ田Ⅱ遺跡の二次調査部分で前回調査区の南側台地の縁辺部分に位置し、成田市駒井野字台ノ田2018他に所在する。調査部分が台地縁辺部の一部であるため、確認調査で旧石器時代の石器１点、縄文時代早期土器破片２点検出されたのみである。

千葉県分布地図の名称を踏襲し、駒井野荒追遺跡と駒井野荒追⑵遺跡についてはまとめて駒井野荒追遺跡として報告する。千葉県北部に広がる下総台地に立地している。駒井野荒追遺跡周辺の下総台地東部は北総台地と呼ばれ、ちょうど新東京国際空港地域を分水嶺として、北は、利根川に流入する大小の河川の開析により支谷が複雑に入り込む地形を呈し、南は、九十九里浜に注ぎ込む幾筋もの河川が北から南に流れ、この河川から分かれる小支谷による開析で南方向に緩やかに傾斜する幅の狭い樹枝状の台地が延びている。

遺跡は根木名川の支流取香川最上流部の台地上にある。調査区域は台ノ田Ⅱ遺跡の西対岸のほぼ全域におよぶ。遺跡周辺の台地の標高は40m前後で、低地までの比高差はおよそ20mである。

本遺跡の周辺の台地には多くの遺跡の存在が知られ、調査された遺跡も多い。次に本遺跡に関係する時期を中心にこれらの遺跡を概観しておきたい。

旧石器時代の遺跡としては、今回報告する調査区の京成線より北側の部分の駒井野荒追遺跡[1)]で細石器石器群が検出されている。対岸の台ノ田Ⅱ遺跡のⅢ層下部～Ⅳ層の切り出し形のナイフ形石器を伴う石器群と今回調査区で検出されている石器群とは似たような石器組成を持つと思われる。また、新東京国際空港

内で大規模な調査が実施されており、後期旧石器時代の初期から終末期の細石刃石器群の時期まで豊富な資料が存在する。

縄文時代の遺跡としては対岸の台ノ田Ⅱ遺跡でも同様の縄文時代早期撚糸文土器群が大量に出土している。新東京国際空港内の調査でも取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）[2]、木ノ根拓美遺跡（空港No.６遺跡）[3]や香山新田中横堀遺跡（空港No.７遺跡）[4]などで大量の縄文時代早期撚糸文土器群が出土している。

古墳時代では、数多くの遺跡と古墳群が知られている。小菅三ツ塚遺跡では今回の調査区とほぼ同時期の前期の住居跡が検出されている。また小菅法華塚Ⅰ遺跡、小菅法華塚Ⅱ遺跡では古墳時代後期の住居跡が検出されている。

奈良・平安時代の遺跡としては、取香川上流域で空港予定地内の諸遺跡を中心に製鉄関連の遺跡が展開する。取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）[5]、取香御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）等が有名である。駒井野荒追遺跡では僅かではあるが鉄滓の検出された住居跡や土坑が見られるため小鍛治等の製鉄関連の遺構があった可能性がある。

中世では、城郭遺跡として駒井野城跡が知られている。城の構造として郭、腰曲輪、空堀、土塁が確認され、戦国後期の時期にあたるものと考えられている。また、駒井野荒追遺跡の印旛郡市文化財センター調査範囲からは屋敷跡と中世土坑群が検出されている。駒井野西ノ下遺跡でも建物跡や土坑が大量に検出されており、馬骨埋葬土坑も数基検出されている。

近世では、空港周辺地域で、「佐倉七牧」の１つである取香牧が展開しており、野馬土手が各所に存在している。

（２）層序区分

本遺跡は、前項で説明したように取香川上流域の台地に位置している。この台地上は地形面では下末吉面（Ｓ面）に比定されている。これまでの下総台地における立川ローム層中の調査の層序区分を踏まえて、基本的には発掘調査での観察を中心に層序区分を行った結果を示した。

基本層序

Ⅰ　層：黒褐色土。表土及び耕作土。削平され天地返しを受けたようにローム小ブロックが混入する。

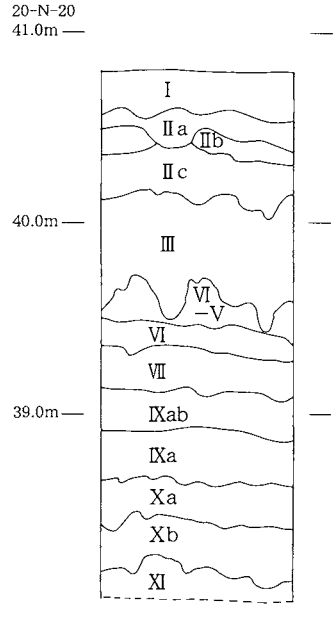
Ⅱａ層：黒色土。Ⅰ層と比べると黒味が強く粘りがある。

Ⅱｂ層：褐色土。全体として赤みのある褐色を呈する。遺跡全体ではとぎれとぎれに確認されている。いわゆる「新期テフラ層」と思われる層である。

ⅡＣ層：黒褐色土。遺跡北西部で縄文時代早期の撚糸文系土器群を包含する層となっていた。

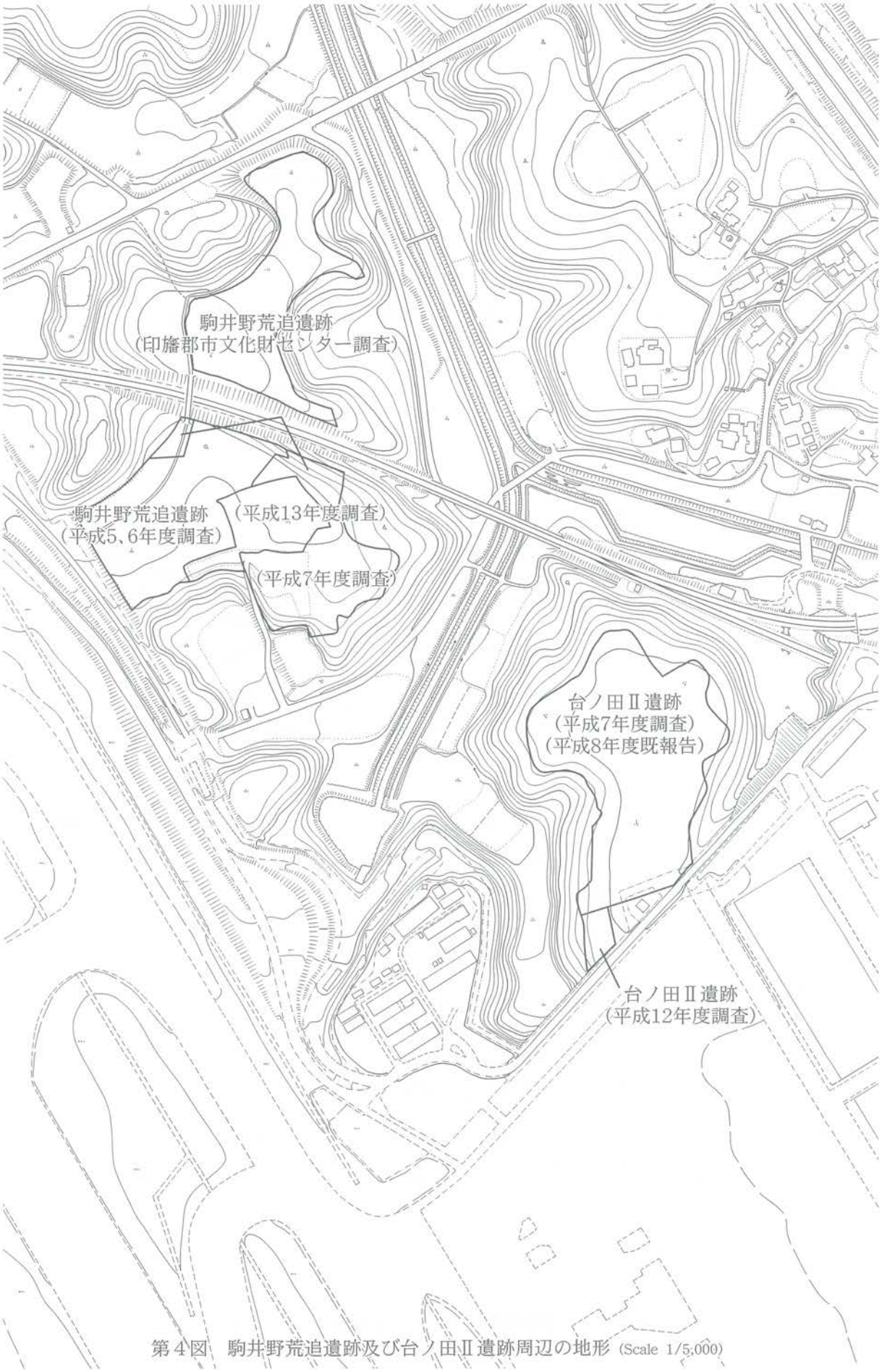
Ⅲ　層：黄褐色ローム土。いわゆるソフトローム層と呼ばれる層である。オレンジスコリアを微量に含む。遺跡の西南部分を中心に検出されている旧石器時代の石器群はこの層の下部からⅣ層上位にかけて出ているものが多いと思われる。

Ⅳ・Ⅴ層：黄褐色ローム土。Ⅳ層の上部は一部ソフト化が進

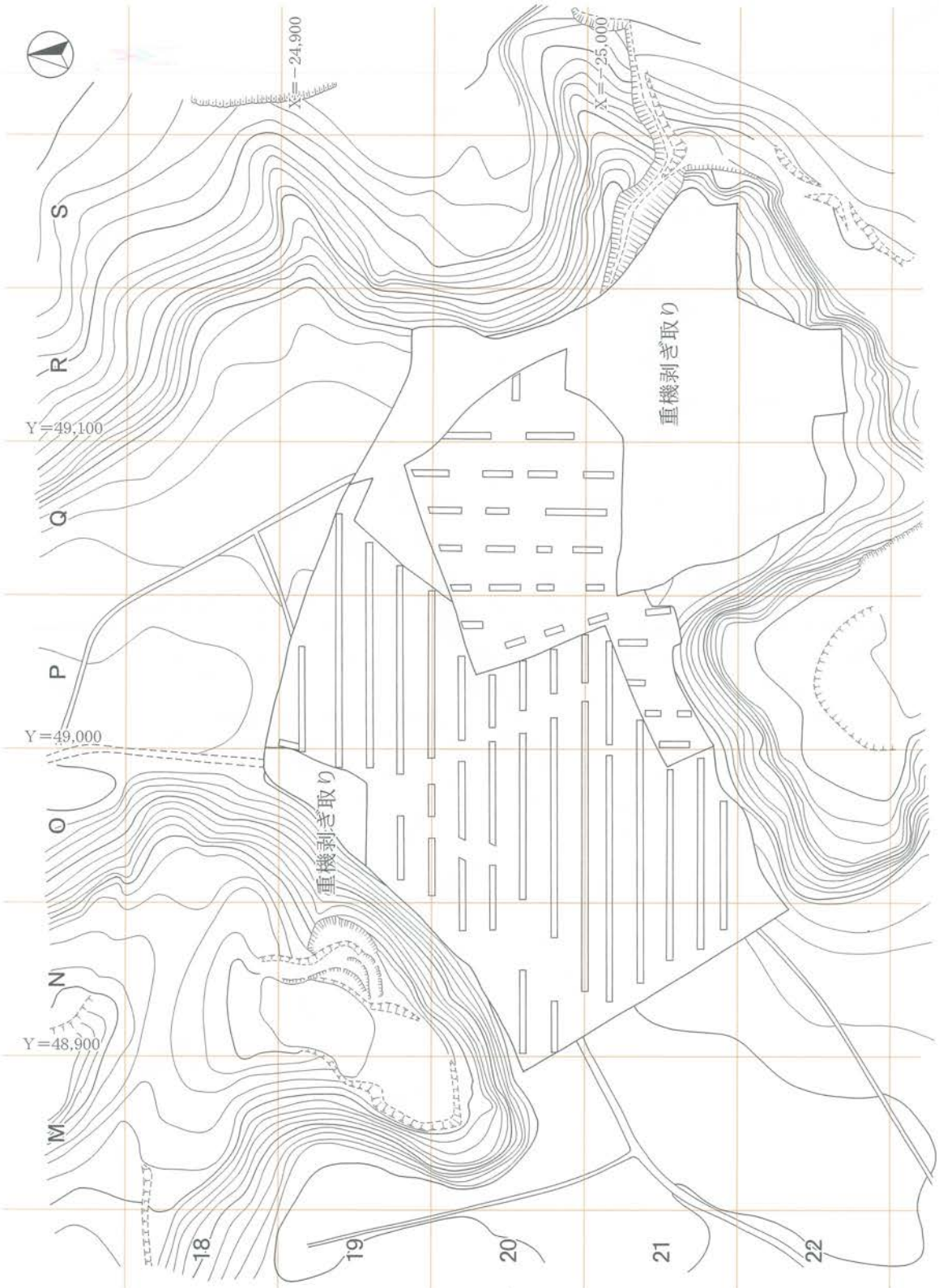


第２図　基本層序 (Scale 1/40)

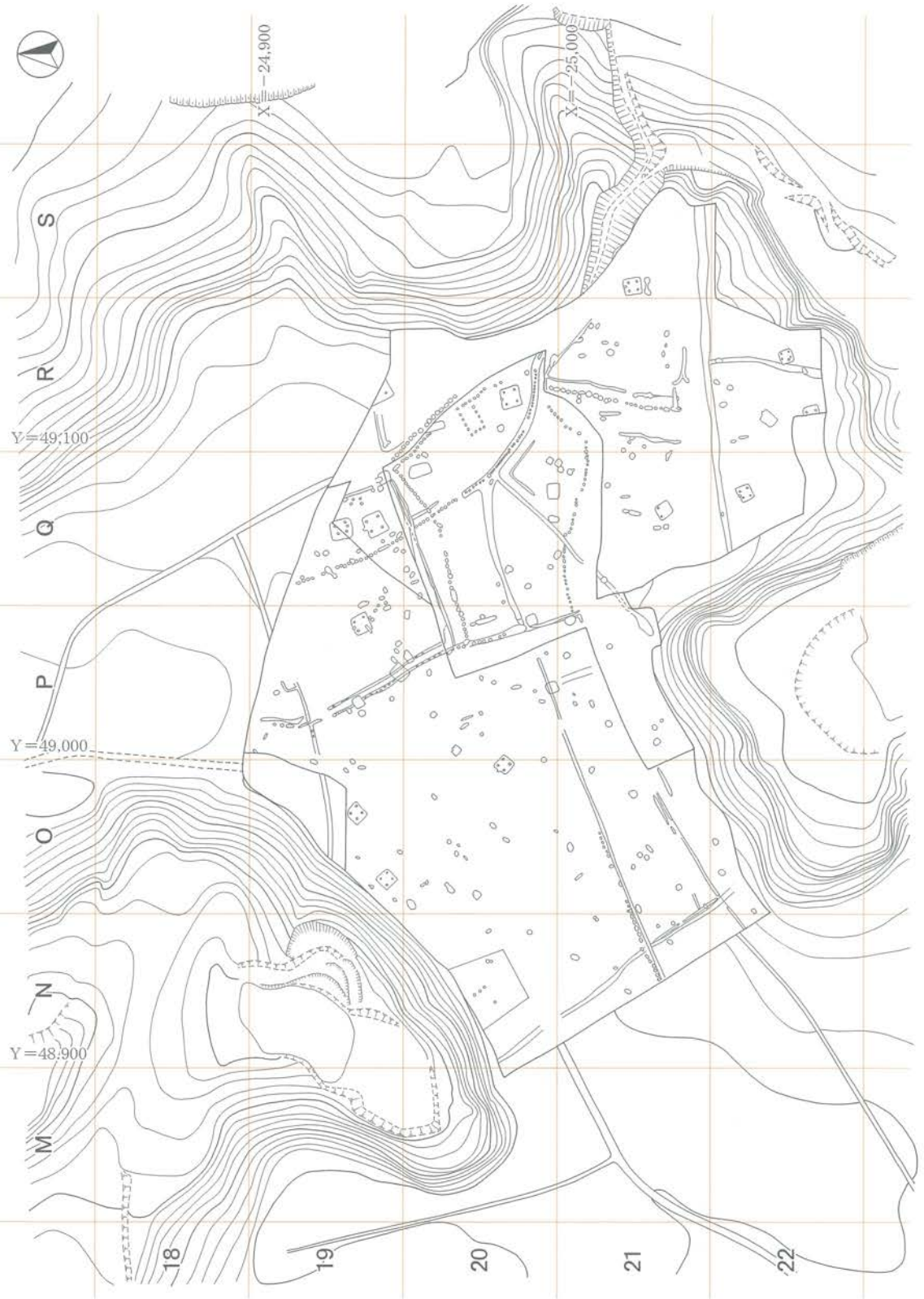
第3図　遺跡位置図 (Scale 1/25,000)



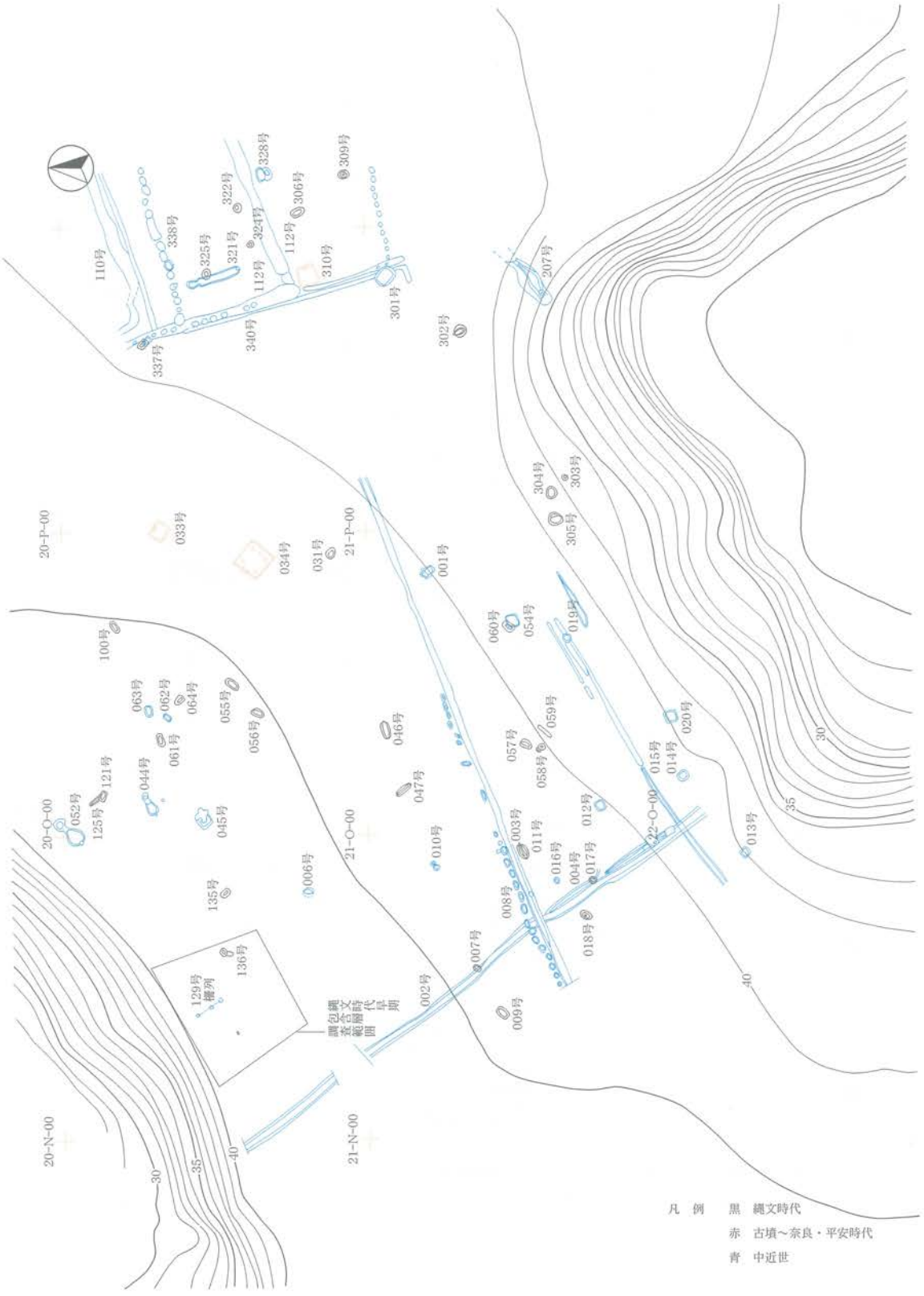
第４図　駒井野荒追遺跡及び台ノ田Ⅱ遺跡周辺の地形 (Scale 1/5,000)



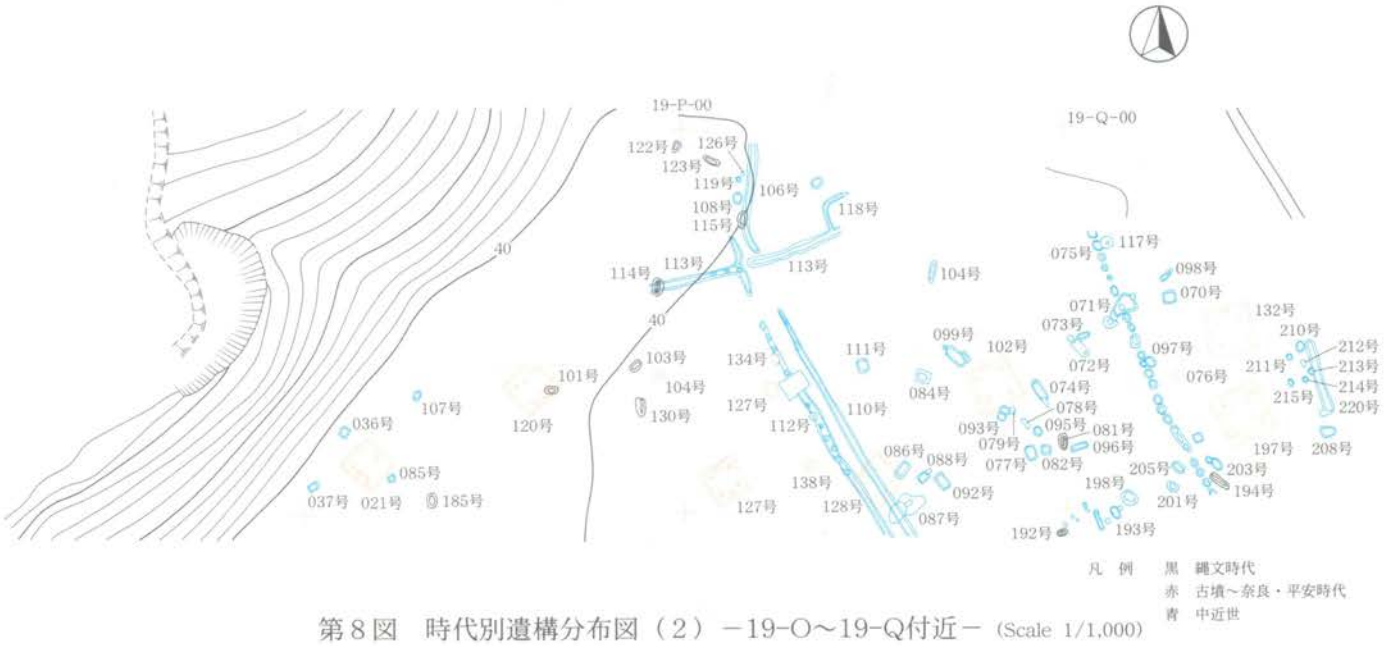
第５図　上層確認調査トレンチ配置図 (Scale 1/2,000)



第６図　上層本調査範囲図及び遺構配置図 (Scale 1/2,000)



第７図　時代別遺構分布図（１）－20-N～21-P付近－ (Scale 1/1,000)



第８図　時代別遺構分布図（２）－19-O～19-Q付近－ (Scale 1/1,000)

行しているものと思われる。Ⅴ層については一部暗色化が見られ、斑状に識別可能な部分もあるが、層として認識するには至らない。

Ⅵ　層：明黄褐色ローム土。姶良火山灰層（ＡＴ層）である。
白色パミスを多量に含む。ＡＴが濃密に分布している範囲をⅥ層とした。層厚は約15cmである。

Ⅶ　層：暗黄褐色ローム土。第二黒色帯上部に相当する層である。Ⅵ層よりやや暗色である。赤色、白色、黒色スコリアを少量含む。ＡＴはこの層まで拡散している。層厚は約20cmである。

Ⅸａｂ層：暗褐色ローム土。第二黒色帯下部に相当する層である。赤色スコリアを多く含む。

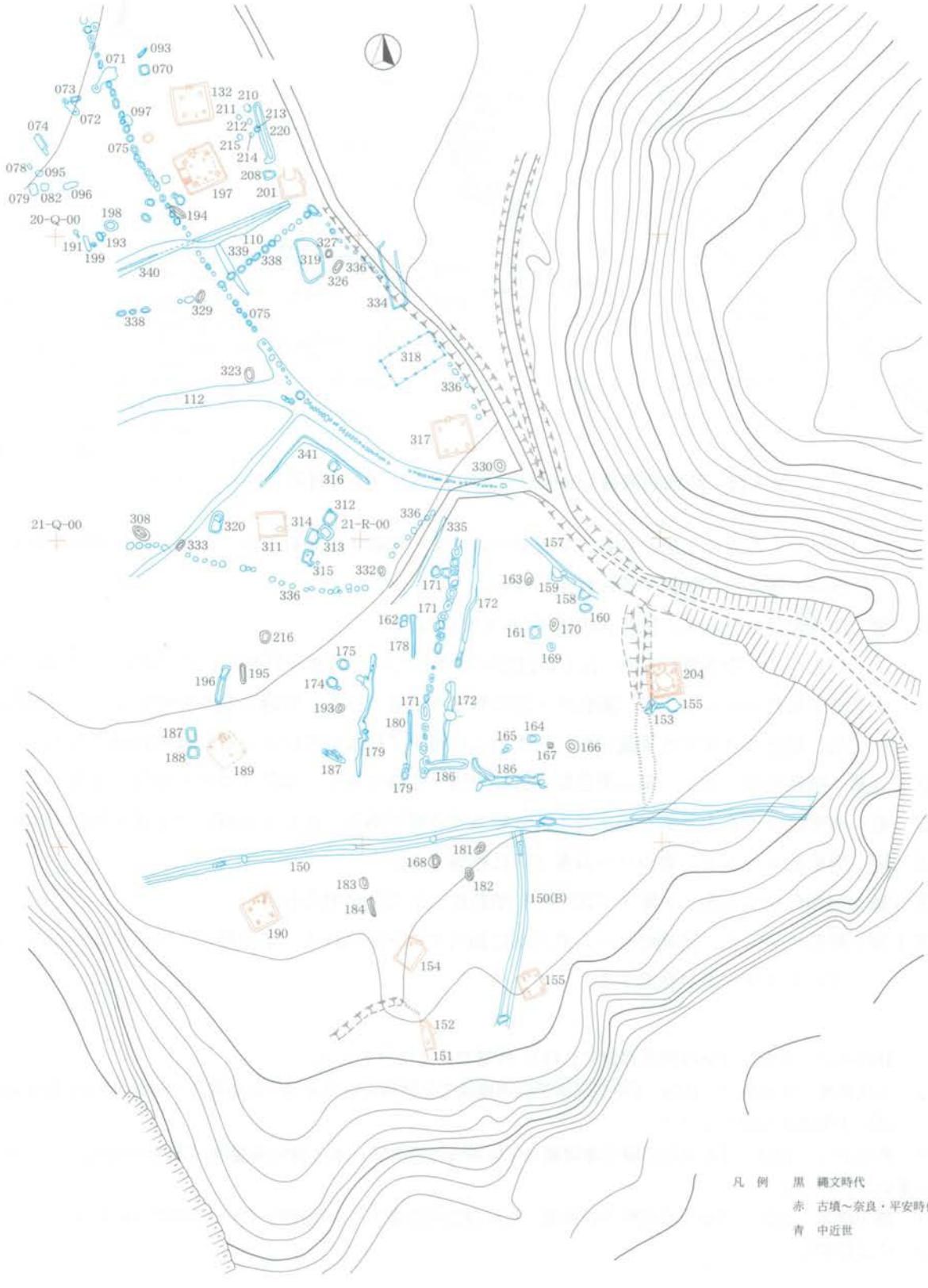
Ⅸｃ層：暗褐色ローム土。第二黒色帯下部に相当する層である。ａｂとの境目はあまり明瞭ではない。

Ⅹａ層：明褐色ローム土。立川ローム最下部に相当する。

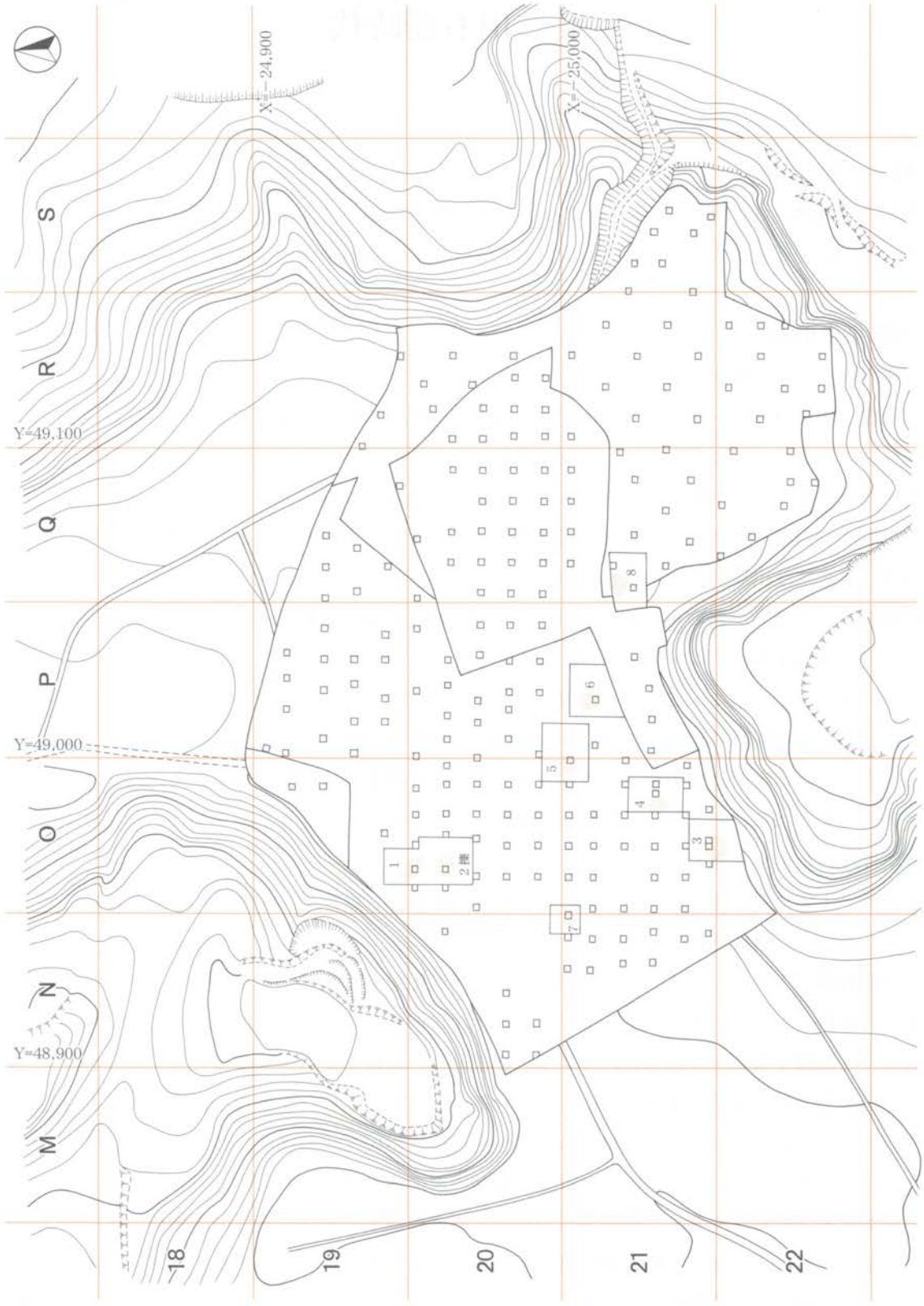
Ⅹｂ層：明褐色ローム土。ａ層の下部でやや暗色化した部分が見られる。

ⅩⅠ層：褐色ローム土。武蔵野ローム最上部に相当すると思われる。上位層より粘性が強くなり、乾燥するとクラックが発達する。

注１　林田利之　1992　『駒井野荒追遺跡』（財）印旛郡市文化財センター
２　小久貫隆・新田浩三　1994　『新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅷ－取香和田戸遺跡（空港No.65遺跡）－』（財）千葉県文化財センター
３　新田浩三　1993　『新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅶ－木ノ根拓美遺跡（空港No.6遺跡）－』（財）千葉県文化財センター
４　西川博孝　1984　『新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅳ－No.7遺跡』（財）千葉県文化財センター
５　注２に同じ



第９図　時代別遺構分布図（３）－19-Q～22-R付近－ (Scale 1/1,000)



第10図　下層確認グリット配置図及び下層本調査範囲図 (Scale 1/2,000)

Ⅱ　旧石器時代

1　概　　要

駒井野荒追遺跡では、調査区西側を中心に下層本調査終了時に７ヶ所報告されていたが、その後整理作業を進めた段階で新たに１ヶ所確認された。合計８ヶ所の石器集中地点がⅢ層～Ⅳ層中から検出された。

2　石器集中地点

（１）第１地点（第11図～15図１～15、表１、図版３、６）

分布状況　19－Ｏ－92～20－Ｏ－02区を中心に検出された石器集中地点である。20－Ｏ－03の南2.5mを中心に径２mほどの範囲にまとまる一群及び北側に東西方向に広く散漫に分布する一群として捉えることが可能である。また、この地点より南に６m付近に第２地点（礫群主体）が検出されている。

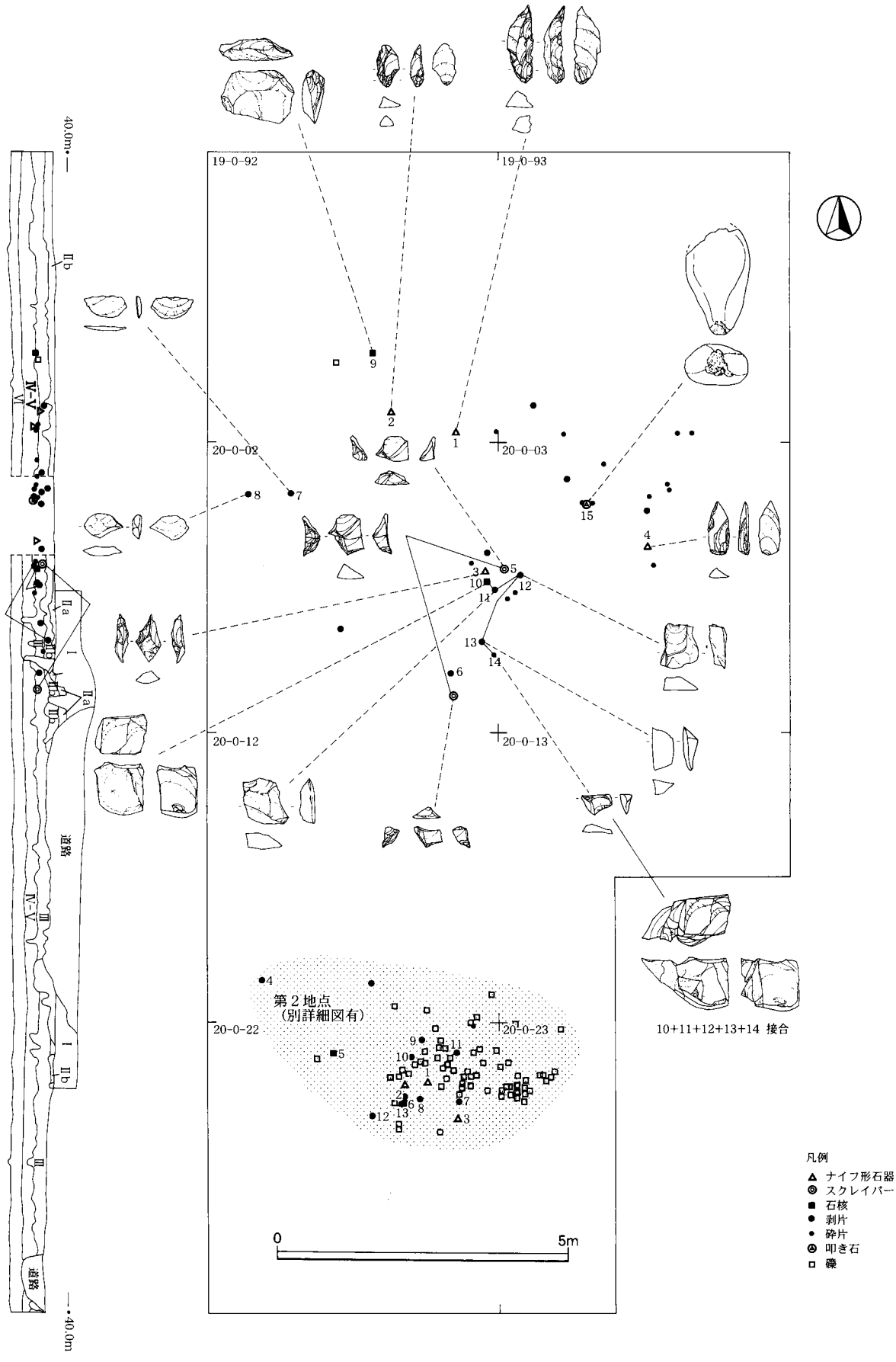
遺物総数は37点で、比較的小規模な石器集中地点である。土層断面の投影ではⅢ層～Ⅳ層にかけて分布しており、Ⅳ層に産出層位が求められる。

母岩別資料　７母岩が認められる。安山岩Ａ①母岩12点、安山岩Ｂ①母岩７点、珪質頁岩①母岩14点、粗粒安山岩①母岩１点、ホルンフェルス①母岩１点、メノウ①母岩１点、礫（粗粒安山岩）１点で構成されている。メノウ①、ホルンフェルス①母岩は北よりの位置でそれぞれナイフ形石器の単独出土となっている。珪質頁岩①母岩は石核を中心に剥片剥離された剥片及び砕片、スクレーパー等の接合資料なども南側のまとまりのある場所に集中する。安山岩Ａ①、安山岩Ｂ①母岩は北側の東西方向に広く散漫に分布する範囲に多く見られる。ハンマーストーン（粗粒安山岩①母岩）もあり、明らかにこれらの場所で剥片剥離作業が行われた痕跡が窺われる。

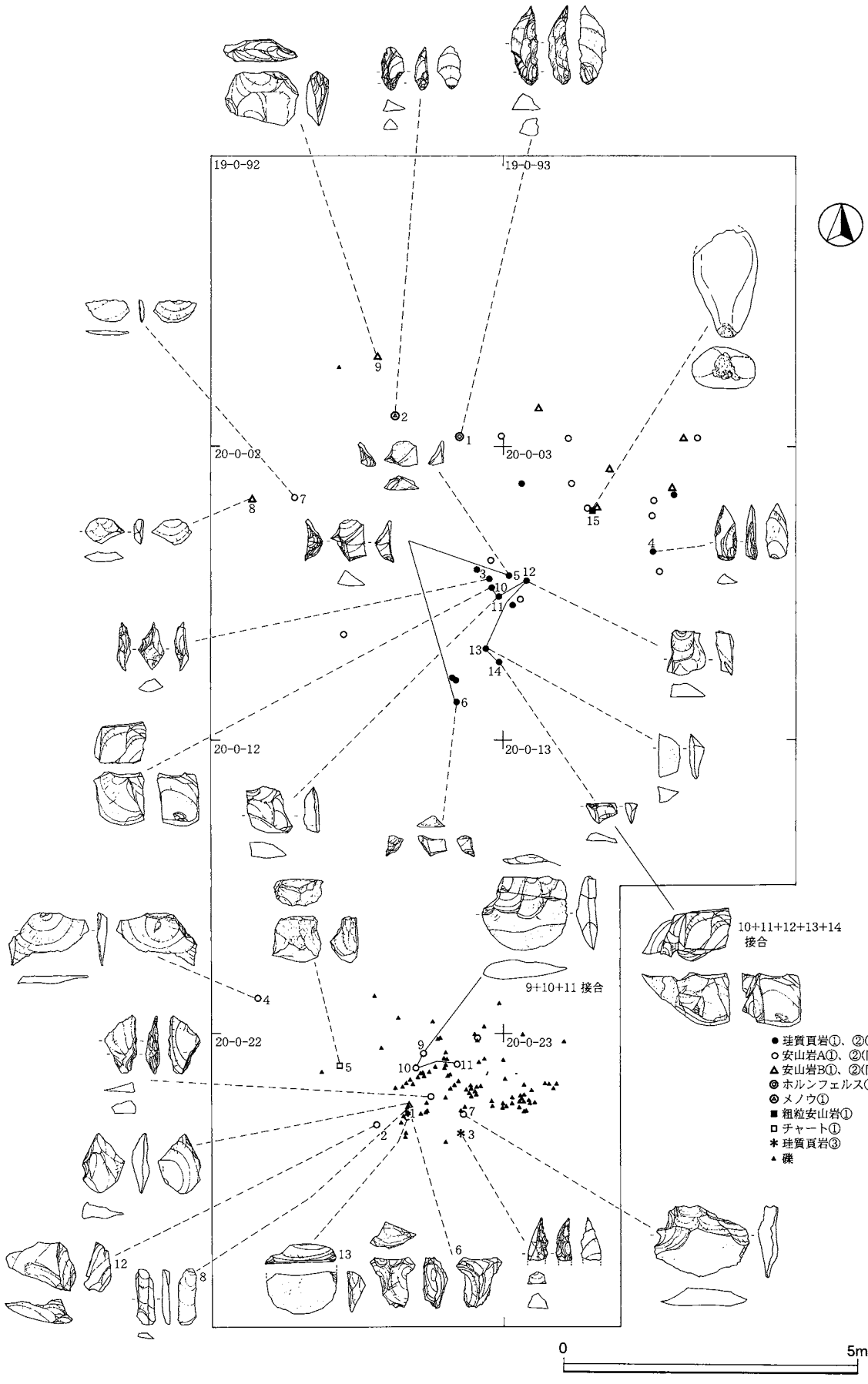
出土遺物　ナイフ形石器４点、スクレイパー２点（接合）、石核２点、ハンマーストーン１点、剥片13点、砕片14点、礫１点で構成されている。

ナイフ形石器　１～４はナイフ形石器である。１は風化面が青味がかった黒色を呈し、やや縞状の節理面の著しい石材（ホルンフェルス①）で作られたナイフ形石器である。縦長剥片を逆位に用いて両側縁を比較的大きく剥離することで調整されている。比較的剥片素材を変形させることなく作られている。このブロックへ製品の形で持ち込まれたものと思われる。２はややオレンジ色で不透明なメノウ①で作られたナイフ形石器で、短く切り出し形を呈する。剥片を逆位に用いて両側縁を比較的大きく剥離することで調整されている。これについてもこのブロックへ製品の形で持ち込まれたものと思われる。３は珪質頁岩①で作られたナイフ形石器である。やや茶色がかった肌理の細かい石材の剥片の両側側辺部を加工し、先端を刃部としている。４は３と同様に珪質頁岩①で作られたナイフ形石器である。背面に原礫面を残す薄目の縦長剥片を素材として片側先端部、基部を中心に加工されている。３、４ともこの場に同じ石材の剥片剥離の工程が検出されていることから近くで作られていた可能性もある。

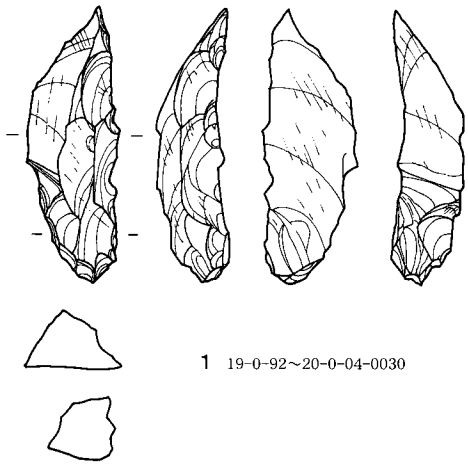
スクレイパー（接合資料）　５と６はスクレイパーで接合する。珪質頁岩①の縦長の剥片を素材として左側辺部と先端部にかけて調整されている。折断面に多少齟齬があるため、別個体で使用されていた可能性もある。



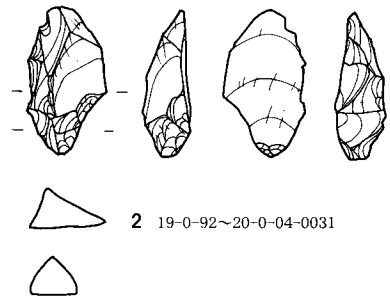
第11図　旧石器時代第１地点遺物出土状況図(Scale 1/100)



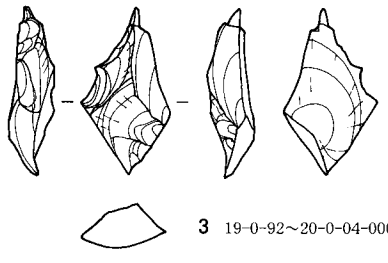
第12図　旧石器時代第１・２地点石材別出土状況図(Scale 1/100)



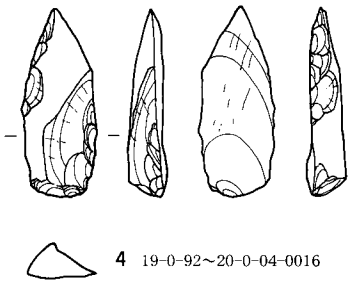
1 19-0-92～20-0-04-0030



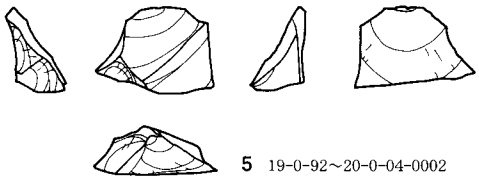
2 19-0-92～20-0-04-0031



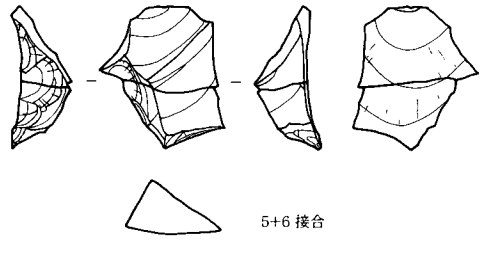
3 19-0-92～20-0-04-0007



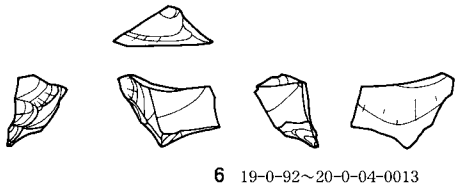
4 19-0-92～20-0-04-0016



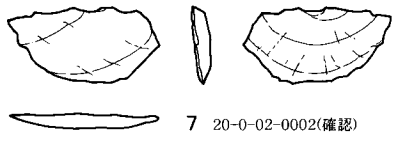
5 19-0-92～20-0-04-0002



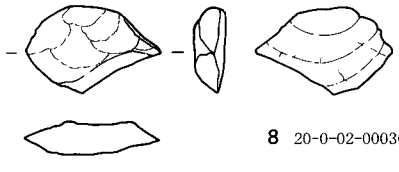
5+6 接合



6 19-0-92～20-0-04-0013

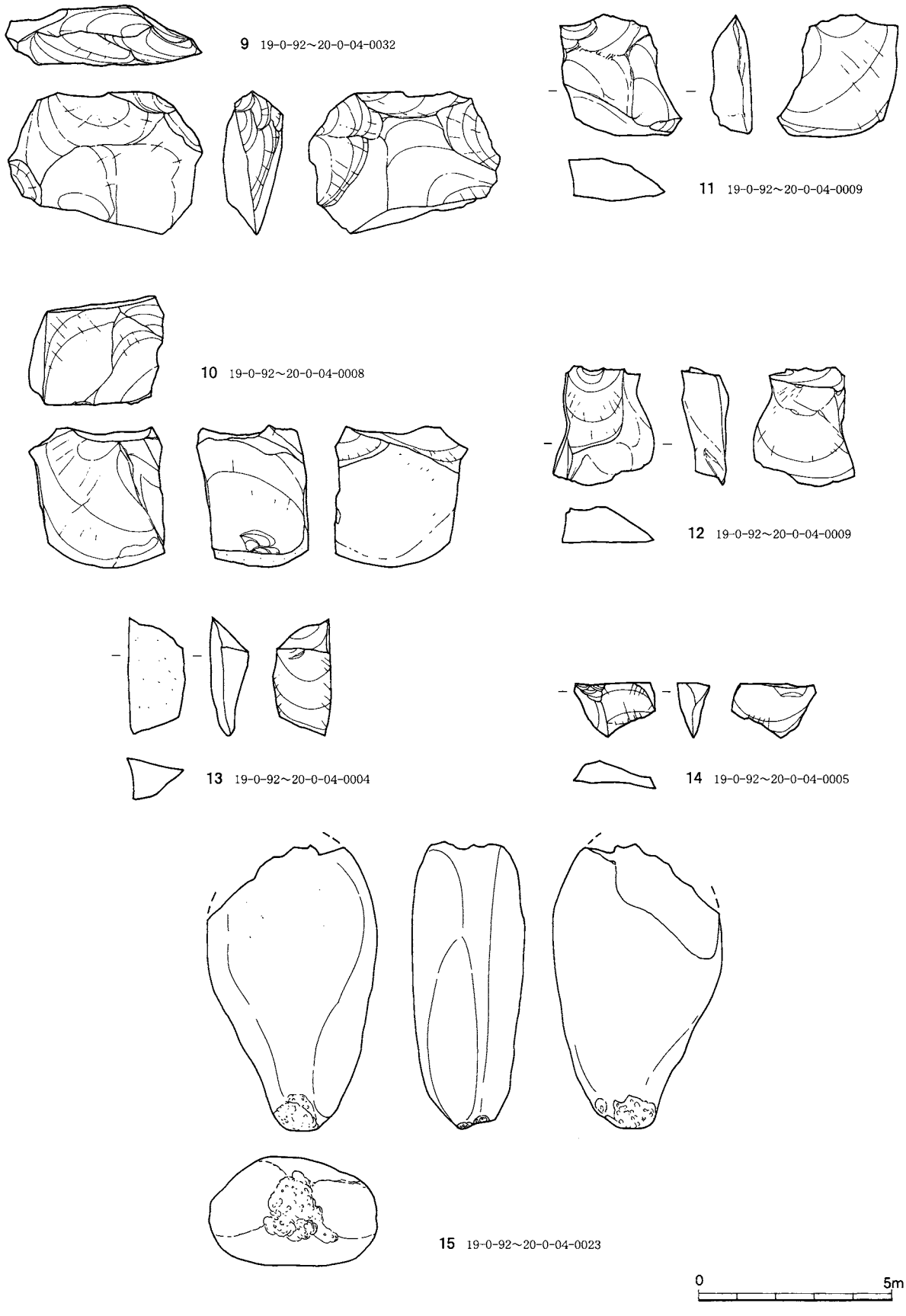


7 20-0-02-0002(確認)

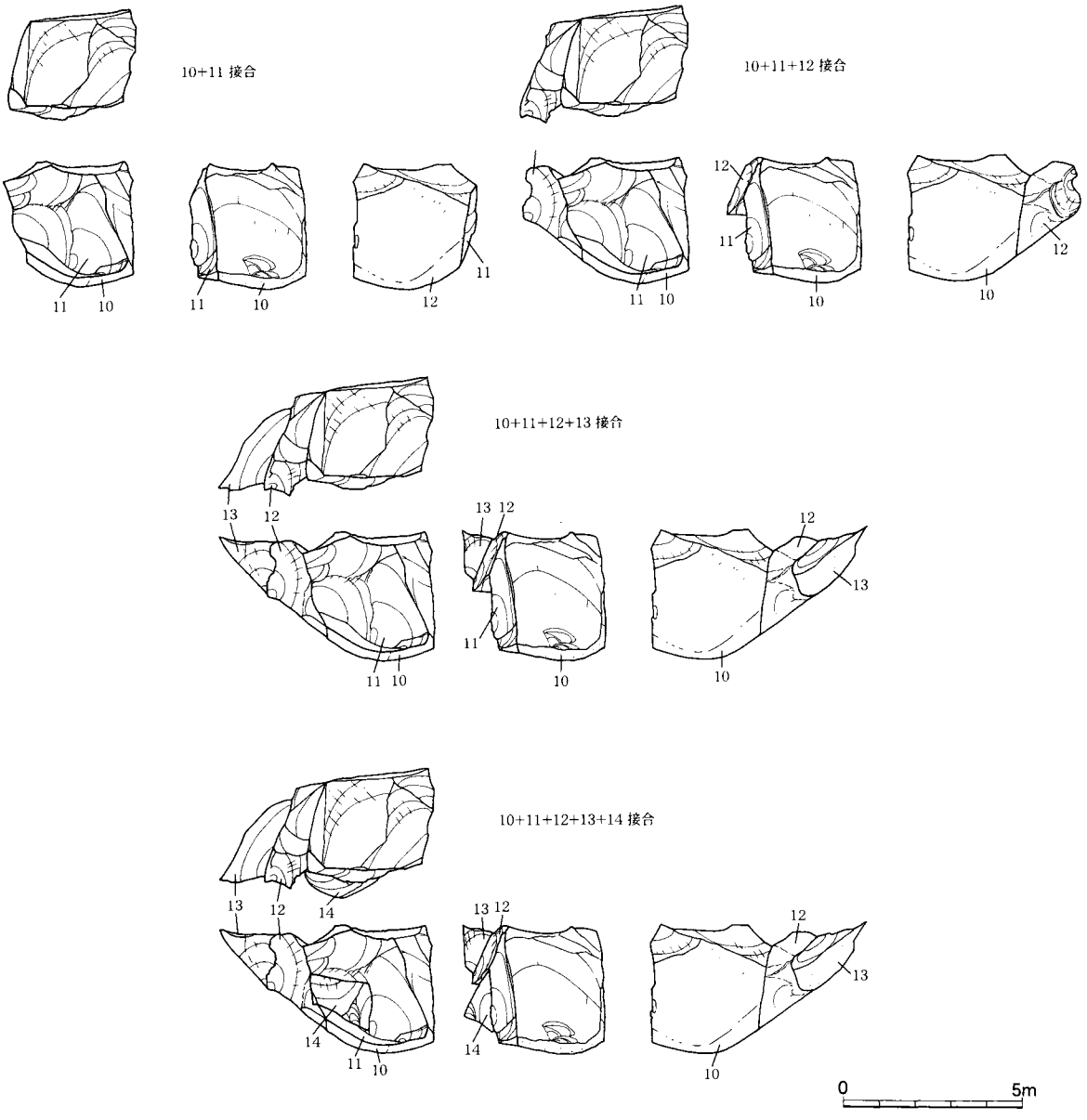


8 20-0-02-0003(確認)

第13図　旧石器時代第１地点出土遺物実測図(1)



第14図　旧石器時代第１地点出土遺物実測図(2)

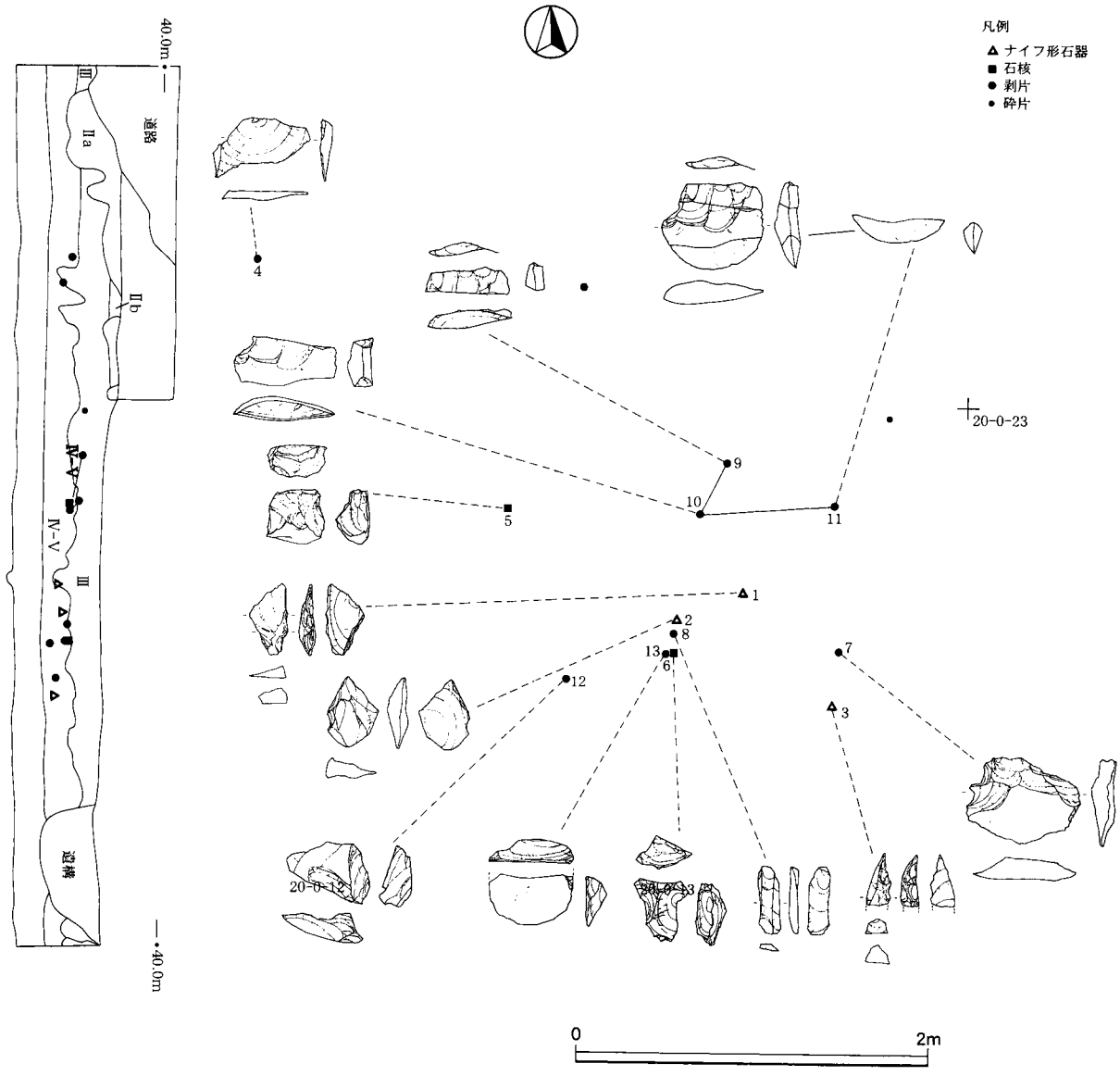


第15図　旧石器時代第１地点出土遺物実測図(3)

石核　９と10は石核である。９は所謂トロトロ石と称される風化面が灰色がかった安山岩Ｂ①の石核である。大形の剥片を素材にして小さな剥片を両面にわたって剥離している様子が窺われる。10は珪質頁岩①の石核である。円礫を用いて分割した面を打面として複数回剥離している。４点の剥片類と接合しており、剥片剥離の工程の一部を体現している。

ハンマーストーン　15は粗粒安山岩①の長楕円礫を使っている。片側の先端部に集中して著しい打撃痕が見られる。反対側は打撃によるものかは不明であるが、破損している。石器が検出された傍で剥片剥離等が行われていた可能性が高い。

剥片、接合資料　７～８、11～14は剥片である。７は風化面がオリーブ色をした安山岩Ａ①の剥片である。横広の剥片である。８は安山岩Ｂ①の剥片である。比較的分厚い横広の剥片である。９の石核から剥がされた様な形態である。11～14は珪質頁岩①の剥片類で10の石核から剥がされたもので接合資料となる。11は14の次に剥がされた剥片で14とともに剥離方向が他の剥片と異なり逆方向となる。その他の剥片は外側から内側に向かって打面が転移されているのが解る。



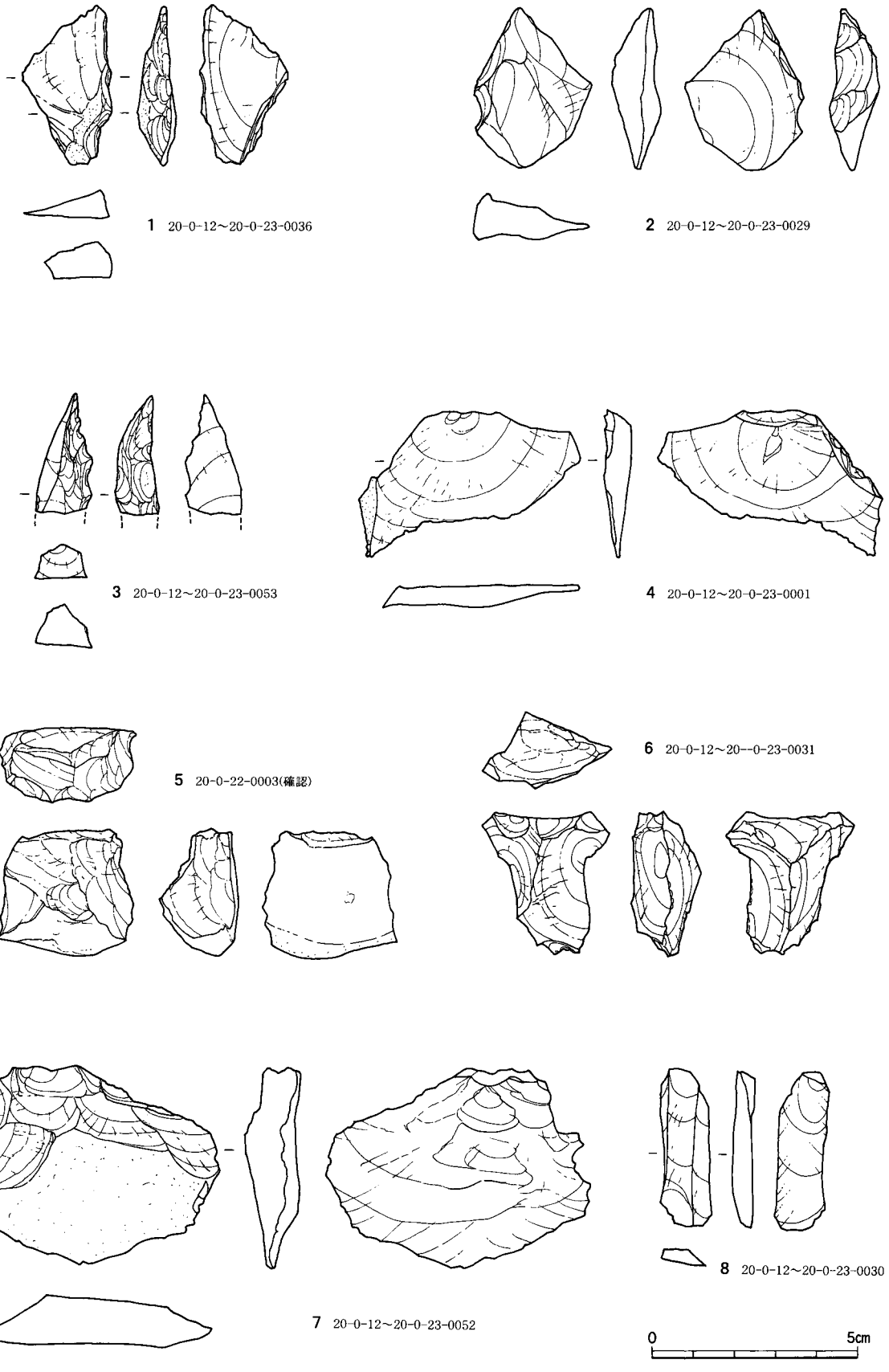
第16図　旧石器時代第２地点遺物出土状況図(Scale 1/40)

（２）第２地点（第16図～18図１～13、表２、図版３、６、７）

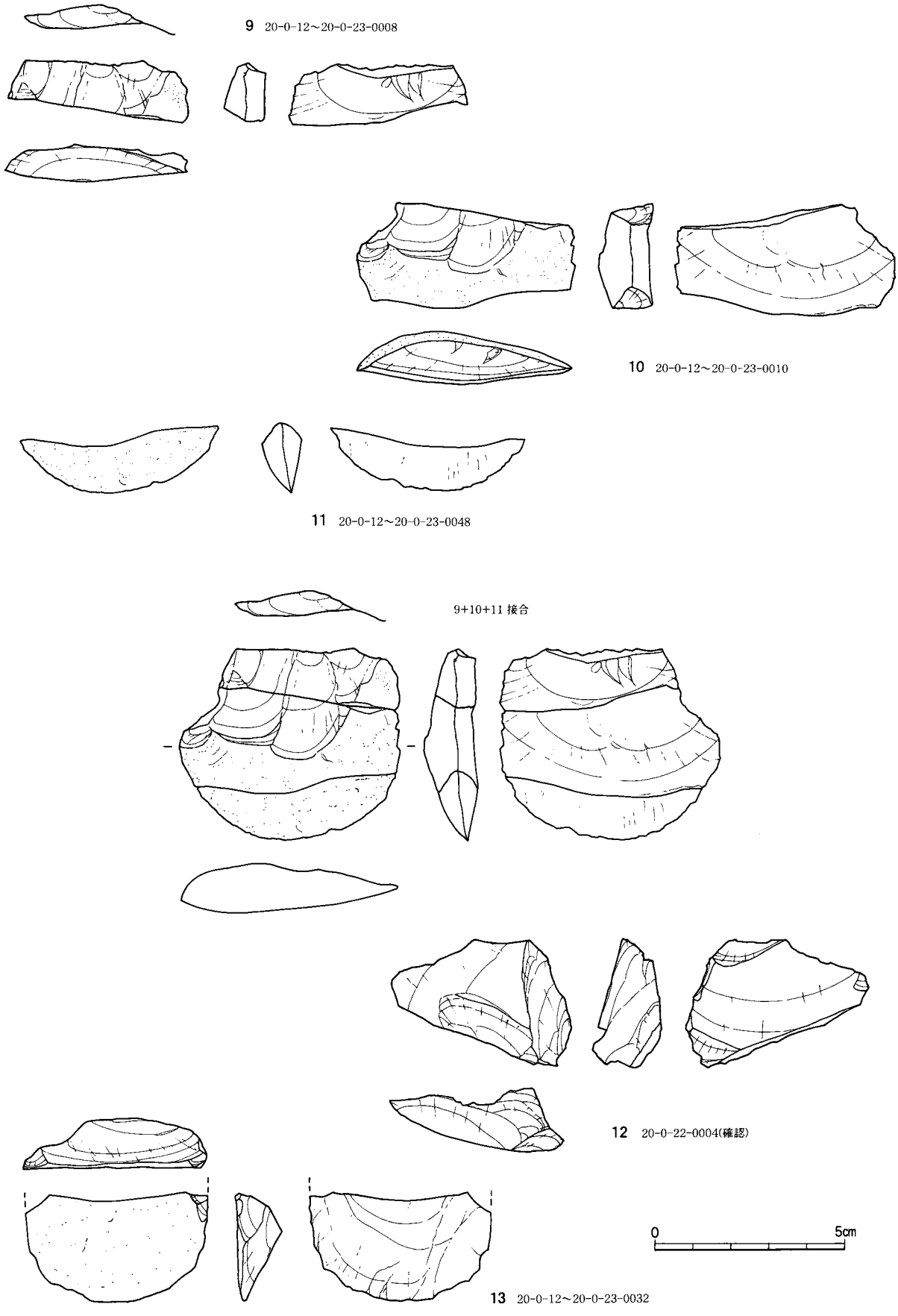
分布状況　20－Ｏ－22～20－Ｏ－23区を中心に検出された石器集中地点である。20－Ｏ－23を中心に径2.5mの範囲で礫群を中心にして15点の石器がほぼ同じように広がっている。また、この地点より北に６ｍ付近に第１地点が検出されている。

遺物総数は106点で、やや大規模な石器集中地点である。ただし石器については15点で小規模である。土層断面の投影ではⅢ層～Ⅳ層にかけて分布しており、Ⅳ層に産出層位が求められる。

母岩別資料　５母岩が認められる。安山岩Ａ②母岩９点、安山岩Ｂ②母岩２点、珪質頁岩②母岩１点、珪質頁岩③母岩１点、チャート①母岩１点、礫（第１礫群で詳細に説明）92点で構成されている。安山岩Ａ②母岩は礫群中央部分よりナイフ形石器、大形剥片、接合した折断剥片等が全体より検出されており、剥片剥離に伴う小剥片、砕片類は見られない。安山岩Ａ①母岩とは似た色調で特徴も似るが、直接的に接合関係が無いため区別した。安山岩Ｂ②母岩についても同様である。安山岩Ｂ②母岩は礫群の西南側で刃



第17図　旧石器時代第２地点出土遺物実測図(1)



第18図　旧石器時代第２地点出土遺物実測図(2)

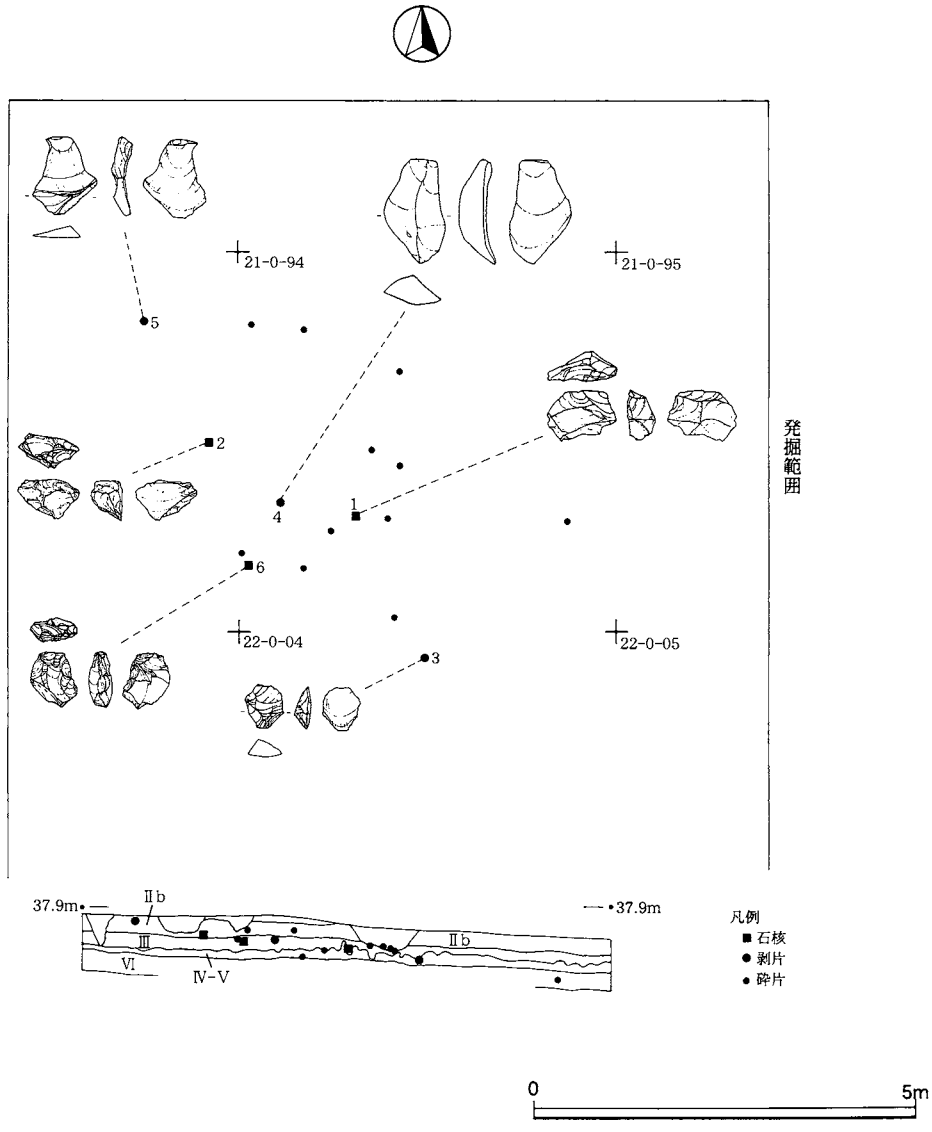
器状剥片及びナイフ形石器が検出されている。チャート①母岩は礫群の北西側で１点石核が検出されている。珪質頁岩②母岩は石核が、珪質頁岩③母岩はナイフ形石器が礫群の南側から各々検出されている。礫群の周辺に石器の製品が取りまくという図式が浮かぶ。第１ブロックとの直接的な接合関係は認められない。

出土遺物　ナイフ形石器３点、刃器状剥片１点、石核２点、剥片７点、砕片１点、礫92点で構成されている。

ナイフ形石器　１～３はナイフ形石器である。１は安山岩Ａ②のナイフ形石器である。一部に礫面を持つ横広の剥片を用いて両側縁を比較的大きく剥離することで調整されている。２は安山岩Ｂ②のナイフ形石器である。横広の部厚い剥片の先端部分を大きい剥離で調整している。素材をあまり大きく変形させないで作られている。３は珪質頁岩③で作られたナイフ形石器である。珪質頁岩③はやや灰色が強くガラス質の光沢の顕著なものである。単独石材のため製品の形で持ち込まれた可能性が高い。縦長剥片の片側側縁部分を比較的大きめの剥離で丁寧に調整されている。基部にかけては折れているため不明である。

石核　５と６は石核である。５はチャート①の石核である。赤茶色した節理面が著しい石材である。円礫を素材にして上、左右からの剥離が認められる。礫面を大きく残す。６は珪質頁岩②の石核である。この石材は珪質頁岩①よりの灰白色の強い色調でやや凝灰質が強いようにも思える。最終剥離を行った後廃棄されたような小さな横広の剥離面が表裏にわたって見られる。

剥片、接合資料　４、７～13は剥片である。４は風化面がオリーブ色をした安山岩Ａ②の剥片である。横広の剥片である。一部に礫面を残す。表裏とも同じ方向からの剥離である。７は安山岩Ａ②の横広の大形剥片である。背面の上部は主剥離面の剥離方向と同方向の小剥離が多数残る。背面の半分以上は礫面で覆われている。８は安山岩Ｂ②の縦長の刃器状の剥片である。風化面が灰色で細かな使用痕などは認められない。９～11は接合された状態で安山岩Ａ②の１個の大形剥片である。背面に複数の主剥離と同方向の剥離面を残す。また７と同様に半分以上は礫面で覆われている。特に10の折断された剥片は側縁部分に使用痕とも思われる摩滅痕のようなものが見られる。12は安山岩Ａ②の剥片である。石核に転用されているかもしれない。13は安山岩Ａ②の剥片で９～11の折断剥片と同じような例である可能性が高い。背面はほぼ礫面で覆われている。



第19図　旧石器時代第３地点遺物出土状況図(Scale 1/100)

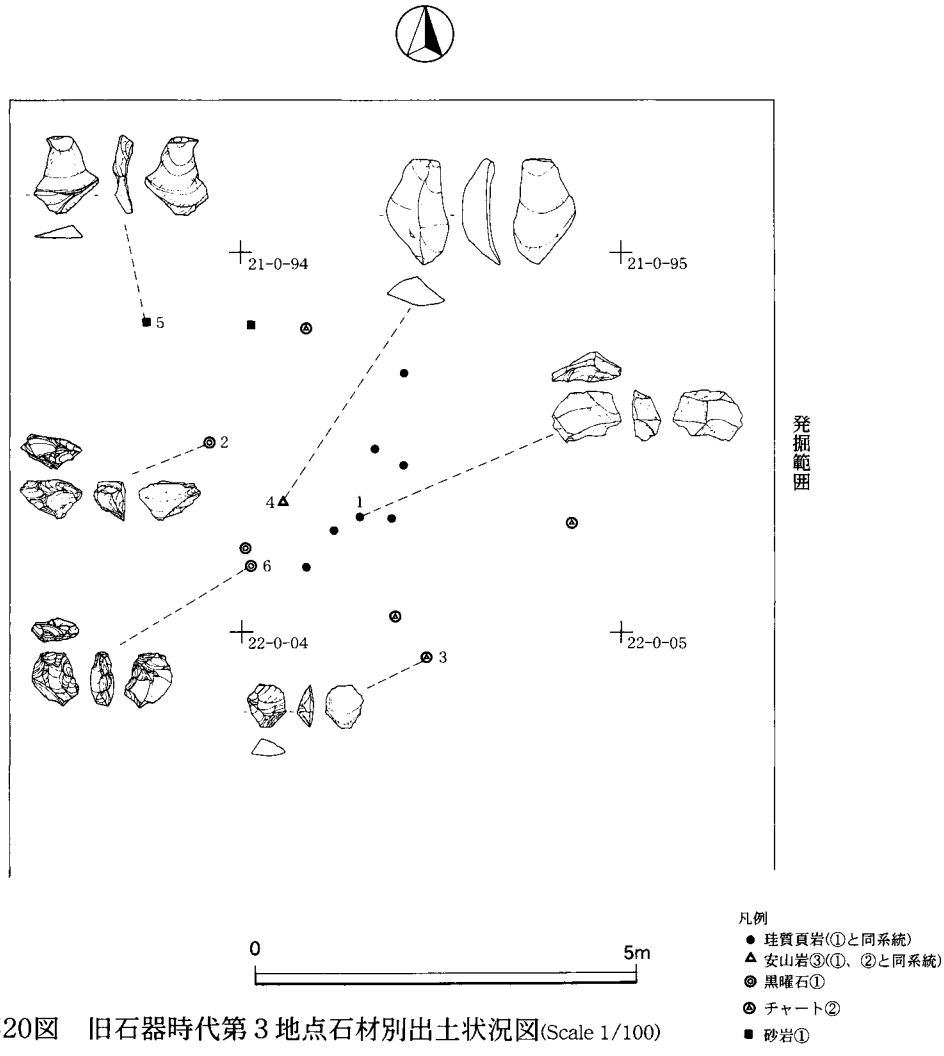
（３）第３地点（第19図～21図１～６、表３、図版４、７）

分布状況　21－Ｏ－44～21－Ｏ－54区を中心に検出された石器集中地点である。北西から南東方向にやや散漫に広がる。遺物総数は18点で、小規模な石器集中地点である。土層断面の投影ではⅢ層を主体に分布しており、Ⅲ層に産出層位が求められる。接合資料が見られないことと石核、砕片類を主体としていることが特徴である。細石刃やナイフ形石器などの特徴的な利器が見られないがⅢ層上位の細石器の出現以前の時期にあたる石器群と思われる。

母岩別資料　４母岩が認められる。安山岩Ｂ③母岩１点、珪質頁岩④母岩７点、チャート②母岩４点、黒曜石①母岩３点、砂岩①母岩２点、礫１点で構成されている。

出土遺物　石核３点、剥片３点、砕片11点、礫１点で構成されている。

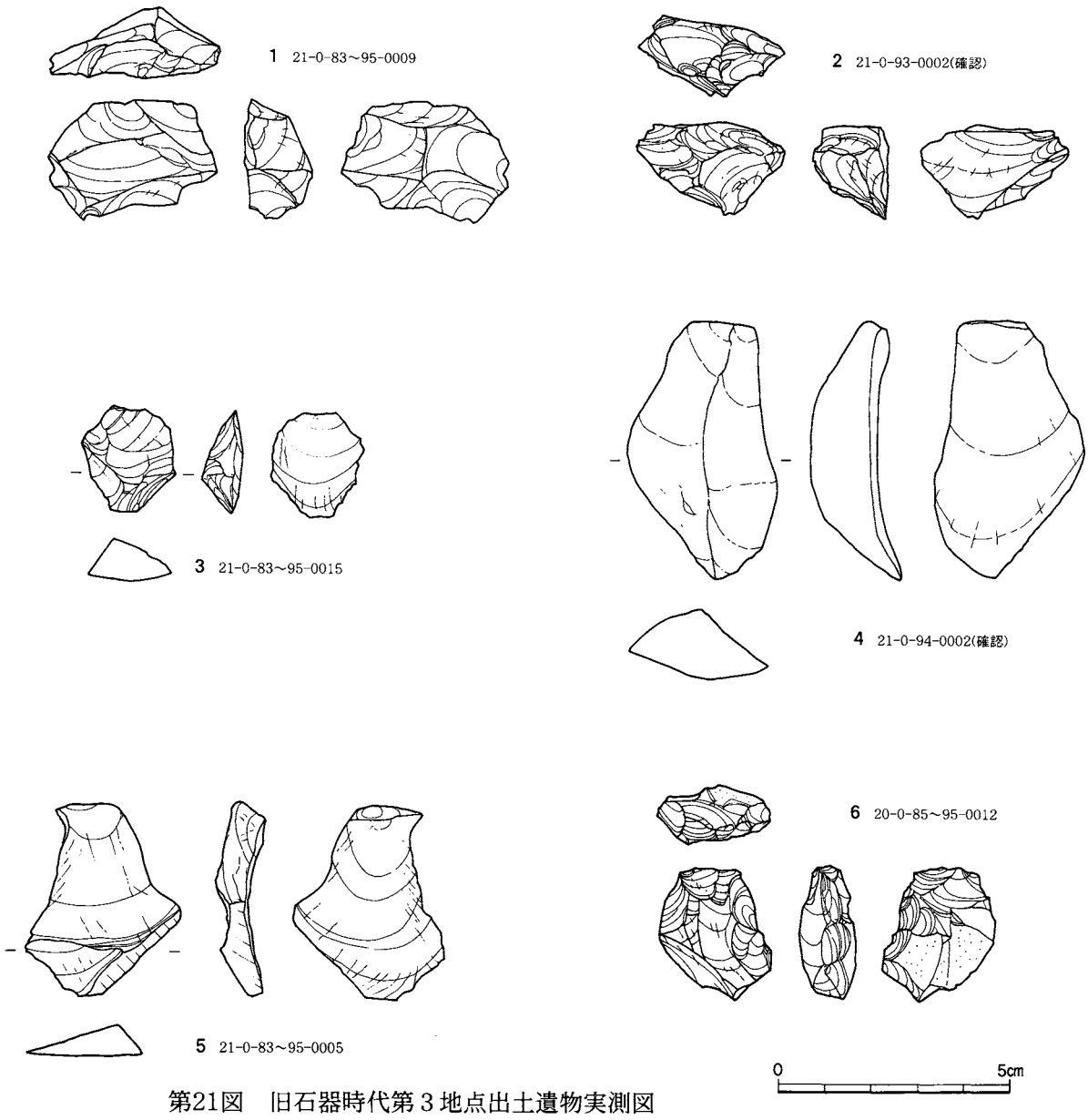
石核　１～２、６は石核である。珪質頁岩④の石核である。やや灰白色で白っぽい縞状の節理が走る石材である。剥片を再利用して石核にしたものでより小さな剥片を剥いだ様である。２は黒曜石①の石核である。打面転移を繰り返しながら小さな剥片を剥がしたものと思われる。６も黒曜石①の石核である。細



第20図　旧石器時代第３地点石材別出土状況図(Scale 1/100)

かく調整をしながら小さな剥片を剥がしたものと思われる。

剥片　３～５は剥片である。３はやや青みがかった灰色でガラス化の顕著なチャート②の剥片である。やや厚みはあるものの縁辺部は薄く鋭い。利器として利用した可能性はある。４は風化面が薄灰色がかった通称トロトロ石といわれる安山岩Ｂ③の大形剥片である。全体に風化が著しく縁辺部の使用状況は観察できない。５はやや粒子の細かな硬質で青味のある砂岩①の縦長剥片である。左側縁辺下端部に多少の刃こぼれが見られる。右側辺はやや厚みのある形状で先端に一部平滑な礫面を持つ。河原の転石を石核として利用した可能性がある。



第21図　旧石器時代第３地点出土遺物実測図

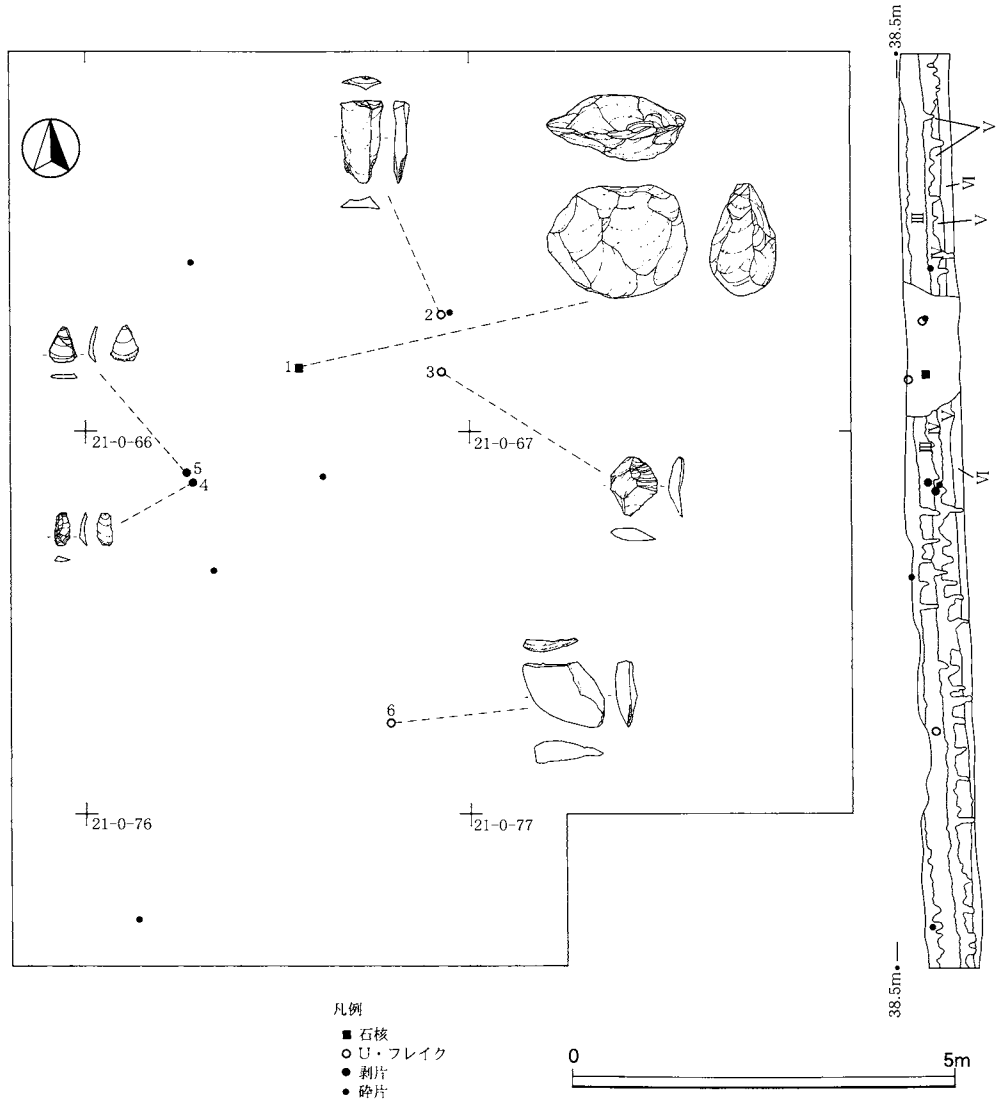
（４）第４地点（第22図～24図１～６、表４、図版４、７）

分布状況　21－Ｏ－56～21－Ｏ－77区を中心に検出された石器集中地点である。径６ｍの範囲にやや散漫に広がる。遺物総数は12点で、小規模な石器集中地点である。土層断面の投影ではⅡｂ～Ⅳ層に分布しており、Ⅲ層の上位に産出層位が求められる。接合資料が見られないこととＵ・フレイク、砕片類を主体としていることが特徴である。また細石刃や使用痕のある剥片などが見られる。細石刃とおぼしき石器が見られるところからⅢ層上位の細石器の出現時期にあたる石器群と思われる。

母岩別資料　４母岩が認められる。安山岩Ｂ④母岩１点、黒曜石②母岩５点、ホルンフェルス②母岩１点、珪質凝灰岩①母岩２点、珪質頁岩⑤母岩１点で構成されている。

出土遺物　石核１点、Ｕ・フレイク４点、細石刃１点、砕片５点で構成されている。

石核　１は石核である。安山岩Ｂ④の石核である。風化面が灰白色を呈する所謂トロトロ石と呼ばれる石材で他の石器集中地点で出ているものとほぼ同質と思われる。円礫の片側縁部分を打面にして中央に向

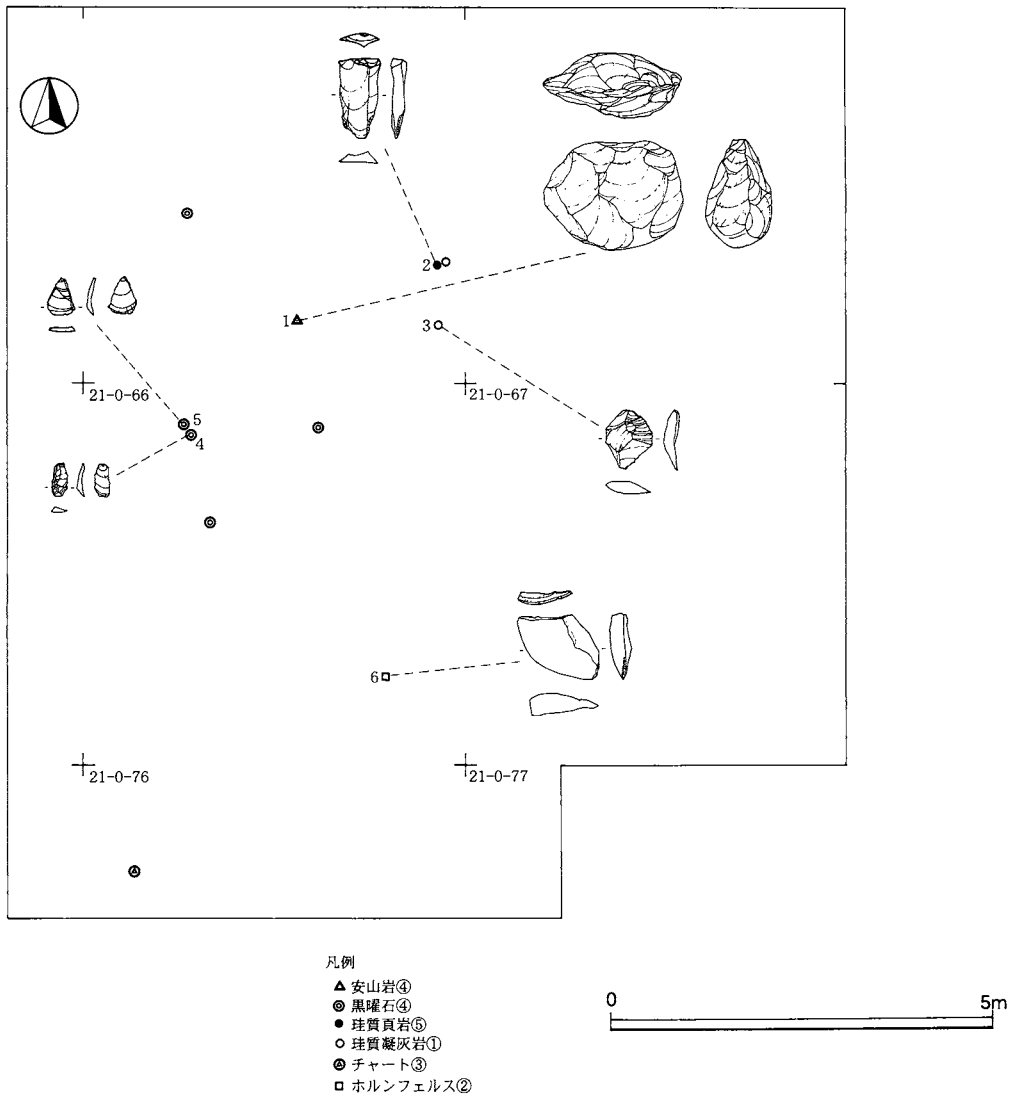


第22図　旧石器時代第４地点遺物出土状況図(Scale 1/100)

かって比較的大きめの剥離を行っている。両面ともに剥片剥離作業を行っている。ただしこの場に類似する石材は全く見られないため他の場所で作業を行った後この場に持ち込まれたものと思われる。

U・フレイク　２～３、５～６は使用痕と思われる小剥離の見られる剥片、所謂U・フレイクである。２は茶色味強い石材である珪質頁岩⑤のU・フレイクである。刃器状剥片で右先端部に細かな連続的な剥離痕が見られる。３は薄灰色の珪質凝灰岩①のU・フレイクである。この石材は珪質頁岩の凝灰岩質の部分の白色化の強い部分とも思われるので２と同一母岩である可能性もある。右先端部側の側縁部付近に細かな刃こぼれ状の小剥離が不連続に見られる。５は比較的透明度の強い黒曜石②のU・フレイクである。小剥片の左側縁部に連続的な小剥離が見られる。６は灰色の横縞が顕著に見られる淡黄色のホルンフェルス②のU・フレイクである。剥片の右先端部近くに比較的大きめの連続的な剥離が見られる。背面は礫面で覆われている。

細石刃　４は黒曜石②の細石刃である。押圧剥離による連続剥離で作出されたものと思われる。印旛郡



第23図　旧石器時代第４地点石材別出土状況図(Scale 1/100)

市文化財センターで調査された範囲では細石刃核を伴う石器群も見つかっており、関連があるものと思われる。

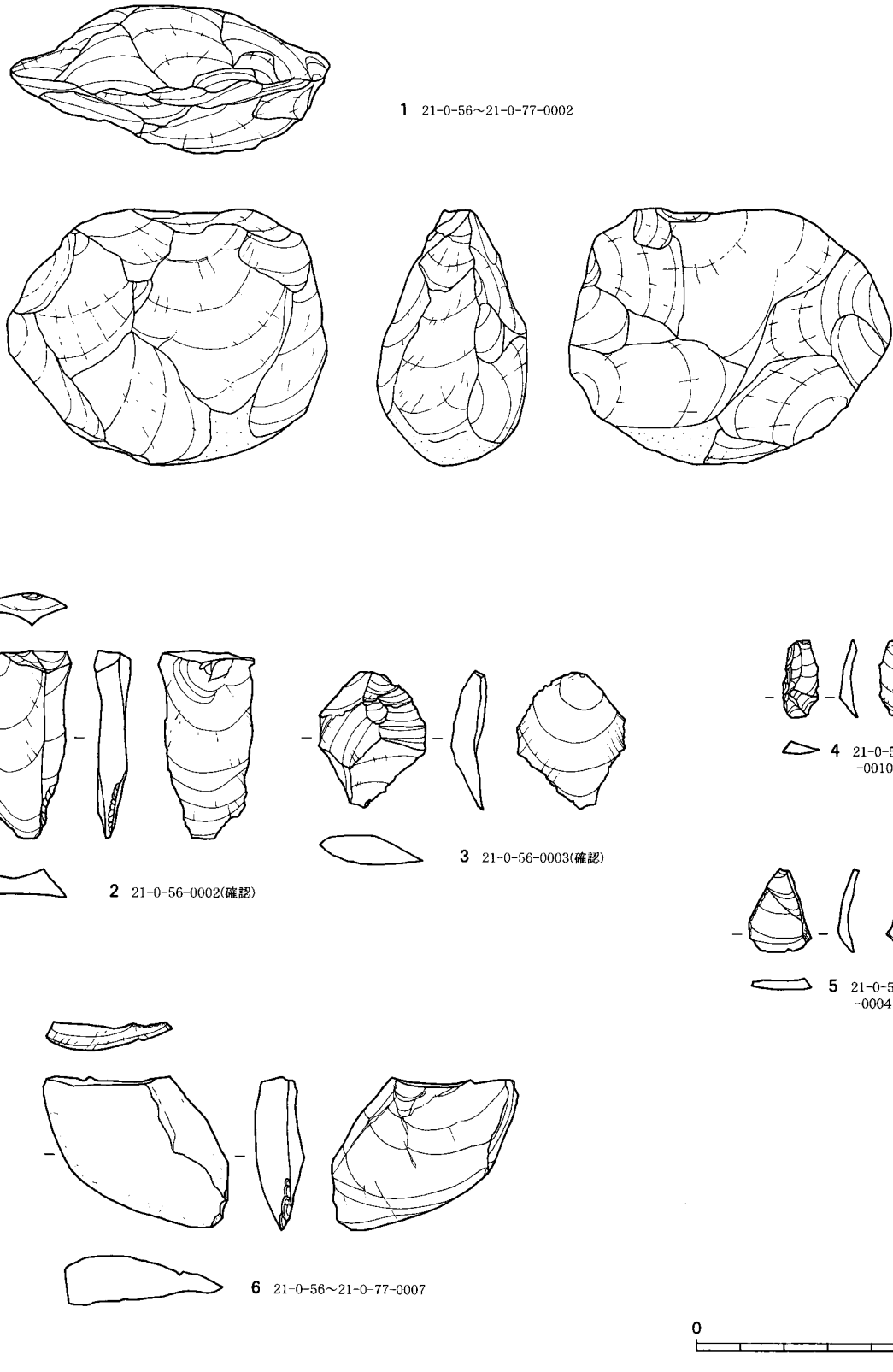
（５）第５地点（第25図～27図１～５、表５、図版４、８）

分布状況　20－Ｏ－98～21－Ｐ－00区を中心に検出された石器集中地点である。径４～５ｍの範囲にやや散漫に広がる。遺物総数は18点で、小規模な石器集中地点である。土層断面の投影ではⅡｂ～Ⅳ層に分布しており、Ⅲ層の上位に産出層位が求められる。接合資料が見られないこととＵ・フレイク、砕片類を主体としていることが特徴である。第４地点と同様にⅢ層上位の細石器の出現前後の時期にあたる石器群と思われる。

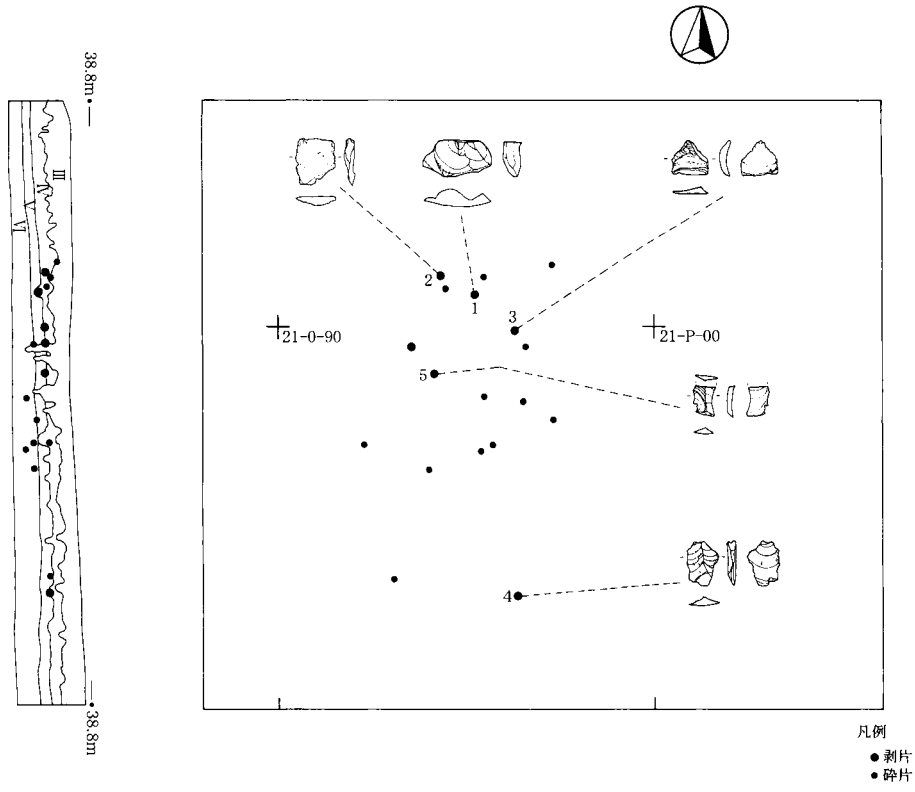
母岩別資料　４母岩が認められる。黒曜石③母岩12点、メノウ②母岩４点、安山岩Ａ③母岩１点、チャート④母岩１点で構成されている。黒曜石を主体とする石器群である。

出土遺物　Ｕ・フレイク１点、折断剥片１点、剥片４点、砕片12点で構成されている。

Ｕ・フレイク　３は比較的黒みが強い黒曜石③の剥片の左側縁部によって細かな小剥離が連続的に見ら



第24図　旧石器時代第４地点出土遺物実測図



第25図　旧石器時代第５地点遺物出土状況図(Scale 1/100)

れるものである。他の黒曜石の砕片類とも同じ石材と思われる。背面の剥離痕からは小さな石核から多方位の剥離で小剥片を剥がした様子が窺われる。

剥片　１～２、４～５は剥片である。１はメノウ②の横長の剥片である。２もメノウ②の剥片である。両者ともに背面の剥離方向が主剥離面と同じ方向から剥がされているのが解る。４～５は黒曜石③の剥片である。５は頭部が折断された剥片で、細石刃ではないが細石刃的に使用することが可能な剥片である。

（６）第６地点（第28図～30図１～10、表６、図版５、８）

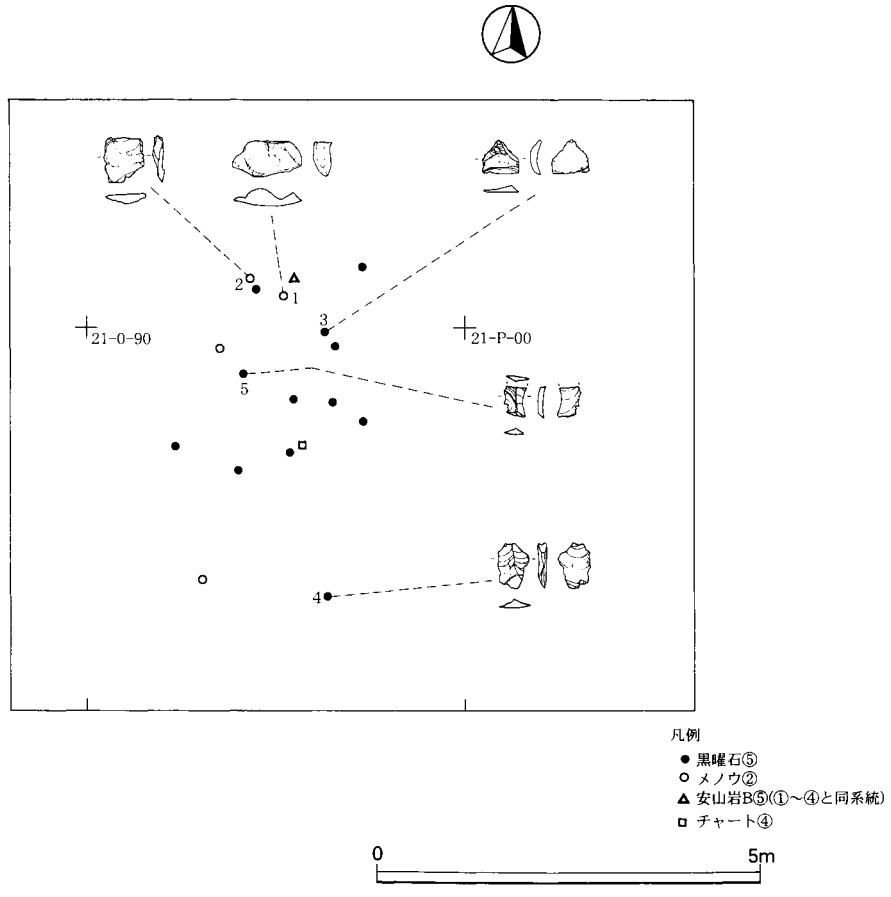
分布状況　21－Ｐ－12～21－Ｐ－23区を中心に検出された石器集中地点である。径５～６ｍの範囲に散漫に広がる。遺物総数は13点で、小規模な石器集中地点である。土層断面の投影ではⅢ層上～下部に分布しており、Ⅲ層の上位に産出層位が求められる。第４地点と同様にⅢ層上位の細石器の出現前後の時期にあたる石器群と思われる。

母岩別資料　５母岩が認められる。黒曜石④母岩３点、メノウ③母岩３点、珪質頁岩⑥母岩１点、珪質頁岩母岩⑦４点、チャート⑤母岩２点で構成されている。点数の割に変化に富む石器群である。

出土遺物　Ｒ・フレイク１点、くさび形石器１点、石核１点、剥片７点、砕片３点で構成される。

Ｒ・フレイク　７はＲ・フレイクである。黒曜石④の小剥片の縁辺の一部に連続的な小剥離が施されている。黒曜石④は比較的黒味が強く半透明な石材である。

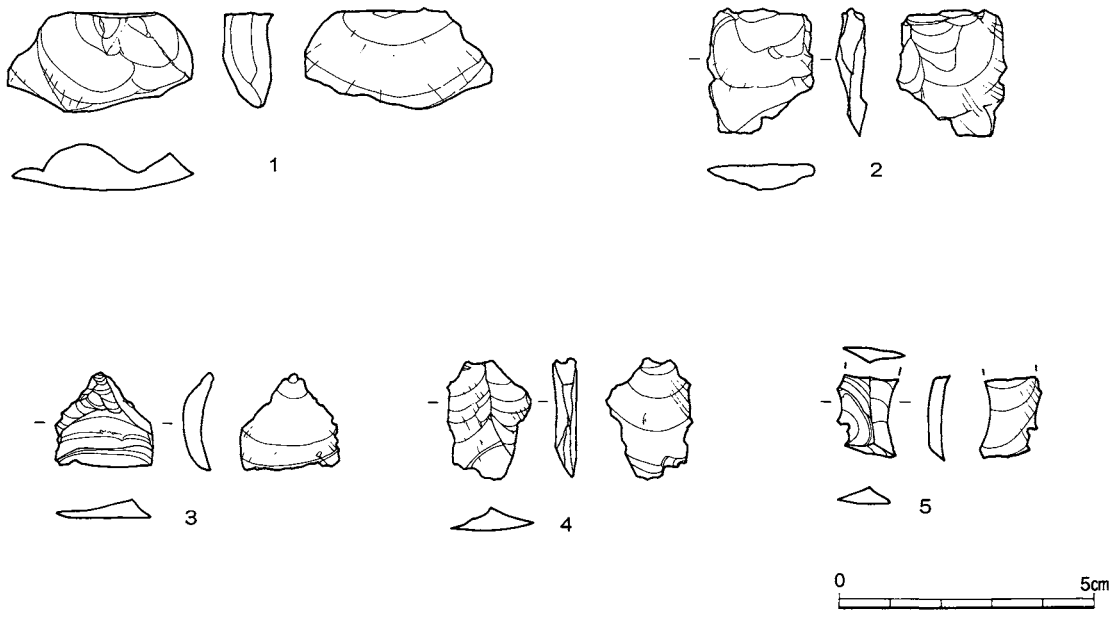
くさび形石器　８は珪質頁岩⑥のくさび形石器である。剥片の上下両端、特に下端に打撃時に付いたと思われる連続的な小剥離が認められる。珪質頁岩⑦と比べるとやや黒味の強い不透明な石材である。



第26図　旧石器時代第５地点石材別出土状況図(Scale 1/100)

石核　５は珪質頁岩⑦の石核である。風化面が黄土色～オリーブ色を呈する比較的ガラス質の強い石材である。一部に原礫面を残す。剥離面を打面として何枚かの小剥片を剥離した後に廃棄されている。４の剥片とは同一の母岩と思われるが、色調からは離れた部位と思われる。

剥片　１はチャート⑤の剥片である。やや灰～黒色がかったガラス質の強く縞状の節理面を多く見られるチャート⑤の剥片である。特徴は背面に横方向からの剥離面を残すやや不整な剥片である。２はメノウ③の縦長剥片である。やや半透明の乳白色のガラス質の石材である。背面には主剥離面と同方向の剥離面は複数認められる。３はチャート⑤のやや縦長の不整な剥片である。１よりやや青みがかった黒色を呈する。背面は横方向と上方向からの剥離面を残す。４は珪質頁岩⑦の剥片である。一部茶褐色の部分はあるものの濃い灰色の不透明な石材である。主剥離面と同様に上からの剥離面が複数見られる。６はチャート⑤の剥片である。１よりはやや灰色の強い石材である。主剥離面と同様に上からの剥離面が複数見られる。９は黒曜石④の剥片である。背面は主剥離面の剥離方向と上下逆方向からの剥離が見られる。縁辺部は比較的鋭く刃器として使用した可能性もある。頭部が折り取られた折断剥片と思われる。10は小さな黒曜石④の石核の調整を行った時の剥片と思われる。背面にネガティブな剥離面を残している。



第27図　旧石器時代第５地点出土遺物実測図

（７）第７地点（第31図～33図１～５、表７、図版８）

分布状況　21－Ｎ－08～21－Ｎ－09区を中心に検出された石器集中地点である。径２～３ｍの範囲に散漫に広がる。遺物総数は13点で、小規模な石器集中地点である。土層断面の投影ではⅢ層上～下部に分布しており、Ⅲ層の上位に産出層位が求められる。第４地点と同様にⅢ層上位の細石器の出現前後の時期にあたる石器群と思われる。

母岩別資料　２母岩が認められる。黒曜石⑤母岩８点、メノウ④母岩４点、礫１点で構成されている。黒曜石を主体とする石器群である。

出土遺物　Ｕ・フレイク３点、剥片３点、砕片６点、礫１点で構成される。

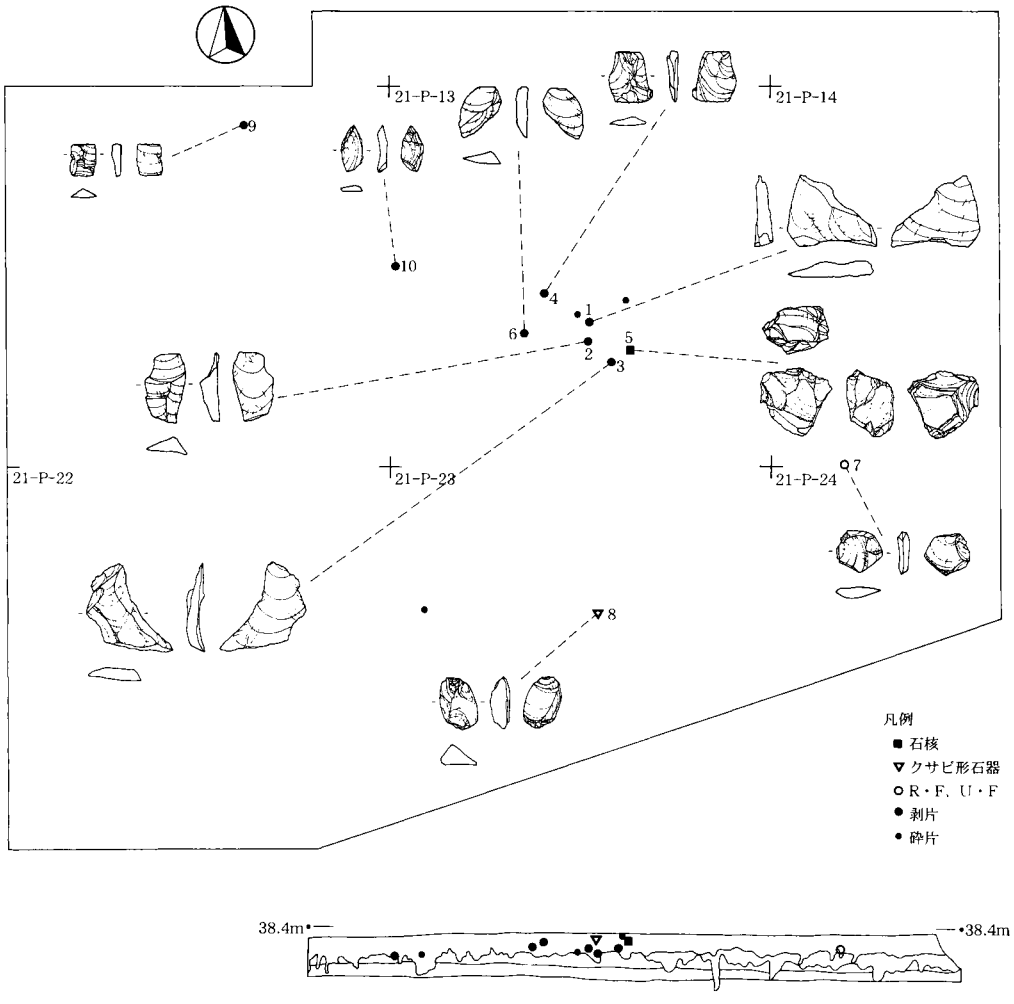
Ｕ・フレイク　１はＵ・フレイクである。黒曜石⑤の小剥片の先端～縁辺の一部にやや不連続な小剥離が見られる。黒曜石⑤は黒味が強くやや夾雑物の入った石材である。２はＵ・フレイクである。やや縦長の先端部が折れているメノウ④の剥片で側辺部分にやや不連続な小剥離が見られる。メノウ④は気泡が若干見られる半透明の乳白色を呈する石材である。３はＵ・フレイクである。メノウ④の剥片の縁辺部にやや不規則な小剥離が見られる。

剥片　４は黒曜石⑤の剥片である。上下両端が折り取られた比較的薄手の縦長剥片の折断された中程の剥片である。縁辺部は鋭いものの使用されたような跡は窺われない。５は黒曜石⑤の剥片である。頭部を折り取られた剥片である。

（８）第８地点（第34図～35図１～６、表８、図版８）

分布状況　21－Ｑ－20～21－Ｎ－42区を中心に検出された石器集中地点である。径５～６ｍの範囲に散漫に広がる。遺物総数は６点で、小規模な石器集中地点である。土層断面の投影ではⅢ層上～下部に分布しており、Ⅲ層の上位に産出層位が求められる。第４地点と同様にⅢ層上位の細石器の出現前後の時期にあたる石器群と思われる。

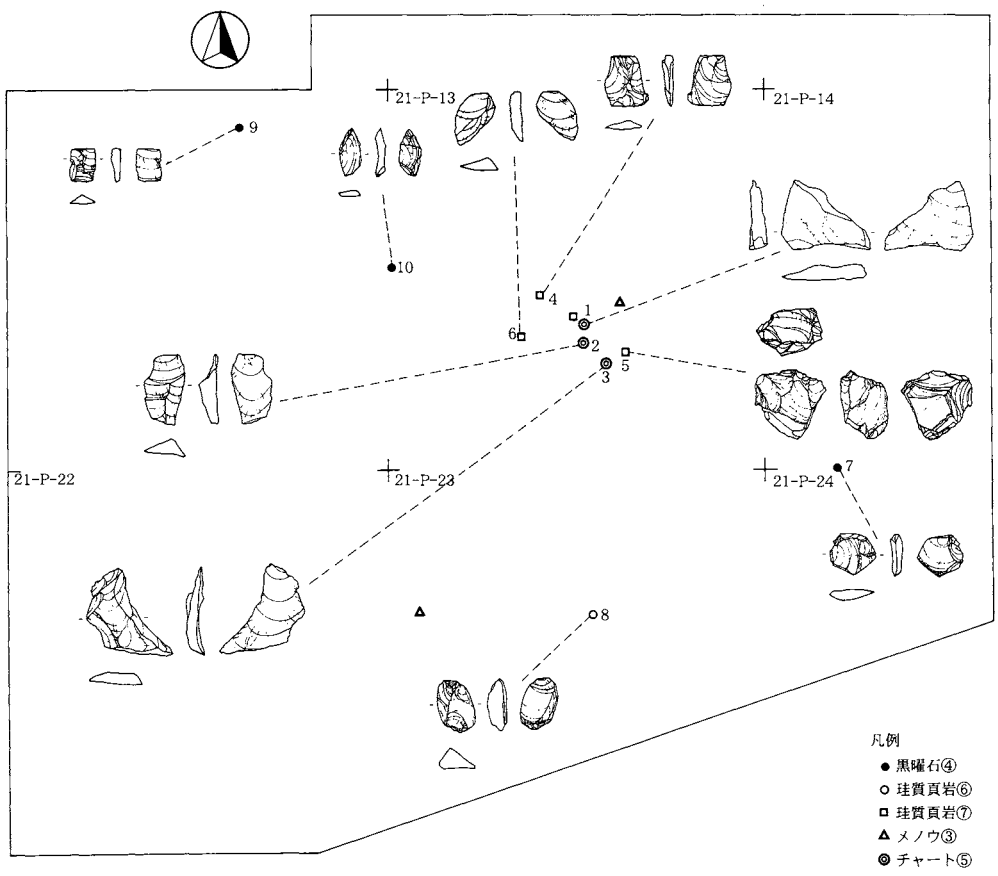
母岩別資料　１母岩が認められる。黒曜石⑥母岩６点の単一な石材で構成されている。



第28図　旧石器時代第６地点遺物出土状況図(Scale 1/100)　0　5m

出土遺物　剥片６点で構成される。

剥片　１は黒曜石⑥の剥片である。非常に黒味が強くやや夾雑物のある透明感のない石材である。背面に左右両方向からの剥離面が複数見られる。先端部分がやや厚味が増す。縁辺部に微細な刃こぼれが見られるものの使用痕とは思われない。２は黒曜石⑥の横長の剥片である。剥離時に打面側が折れた可能性が高い。比較的厚みのある剥片であるが縁辺部は薄く刃器として使用できる可能性も考えられる。３は黒曜石⑥の縦長剥片である。背部に左右両方向から複数の小剥離面が残されており、直前まで石核として機能していたことが窺われる。４は黒曜石⑥の小剥片である。比較的薄い剥片である。背面には横方向の剥離面を残す。先端部は夾雑物のため多少折れている。５は黒曜石⑥の剥片である。比較的薄手の剥片で背部に左方向からの剥離が見られる。左側側辺部には小規模の剥離が見られるので使用痕とも考えられるが詳細は不明である。６は黒曜石⑥の小剥片である。当初は石錐の先端部分とも思われたが、石核の調整剥片である可能性が高い。断面は台形状を呈する。



第29図　旧石器時代第６地点石材別出土状況図(Scale 1/100) 0 5m

3　礫群集中地点

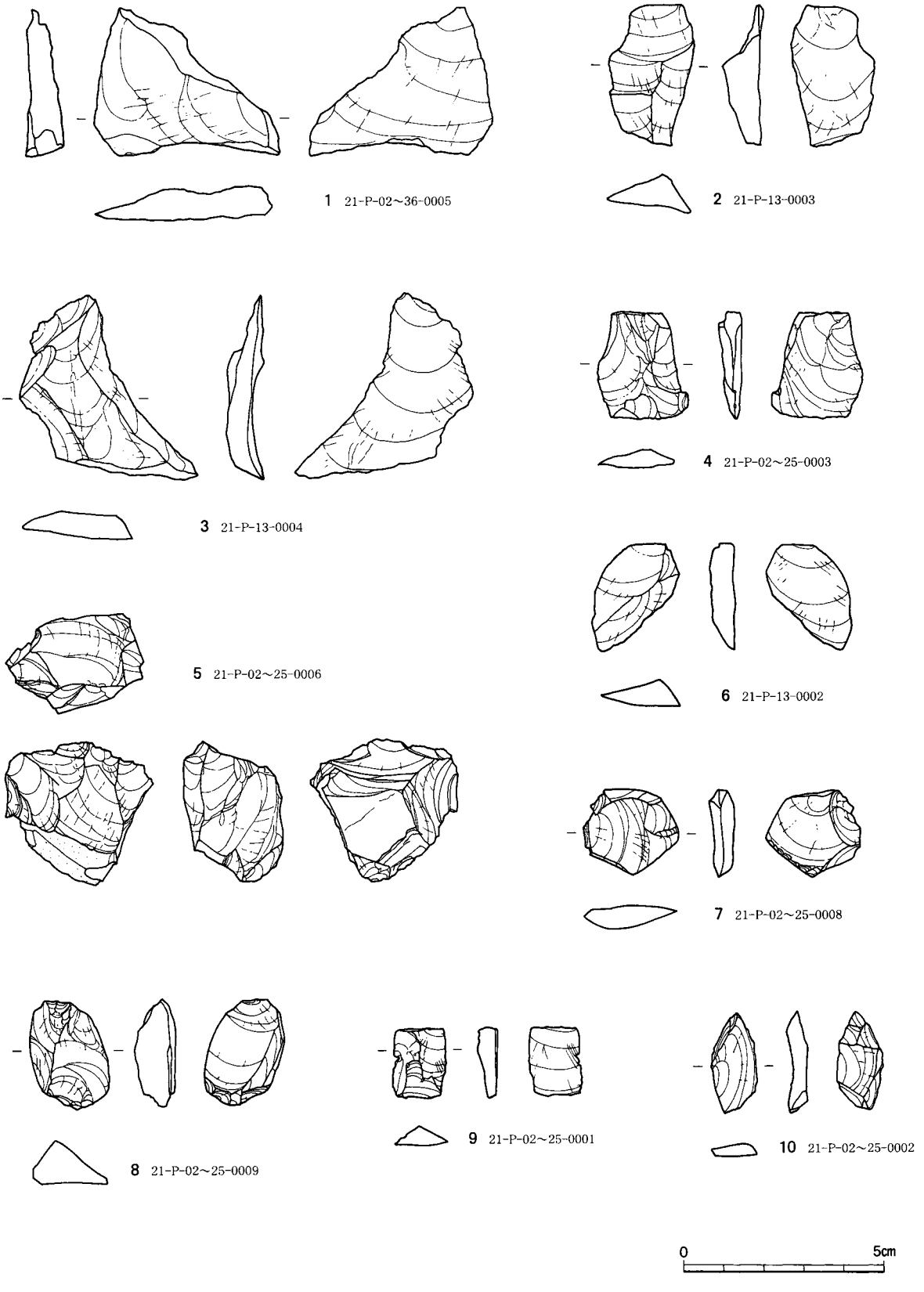
（１）第１礫集中地点（第37図、表10）

分布状況　20－Ｏ－22～20－Ｏ－23区を中心に検出された礫群集中地点である。また、この地点より北に６ｍ付近に第１地点が検出されている。

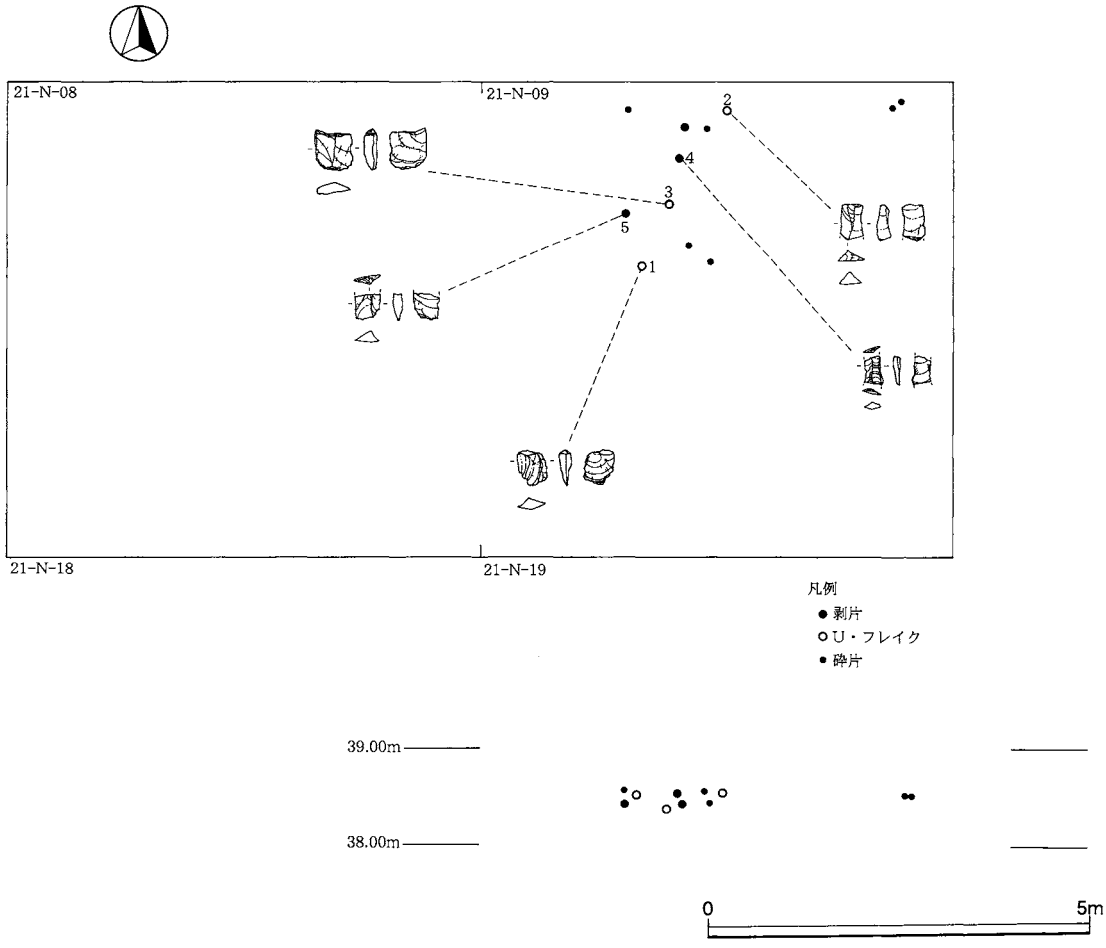
石器集中第２地点と伴って検出された礫群である。総点数92点のうち64点が赤化もしくはタール状の付着の見られる個体である。接合されて復元された資料（16個体分）のうち240ｇ～500ｇ程の重量で、15cm前後の楕円礫になるものが多く見られる。石材は安山岩系のものがもっとも多く、砂岩系、珪岩系、頁岩系なども含まれる。接合する範囲は比較的まとまりは見られるものの焼土等は見られないためこの場所に廃棄された可能性がある。

4　確認グリッド他出土遺物（第36図１～４、表９、図版８）

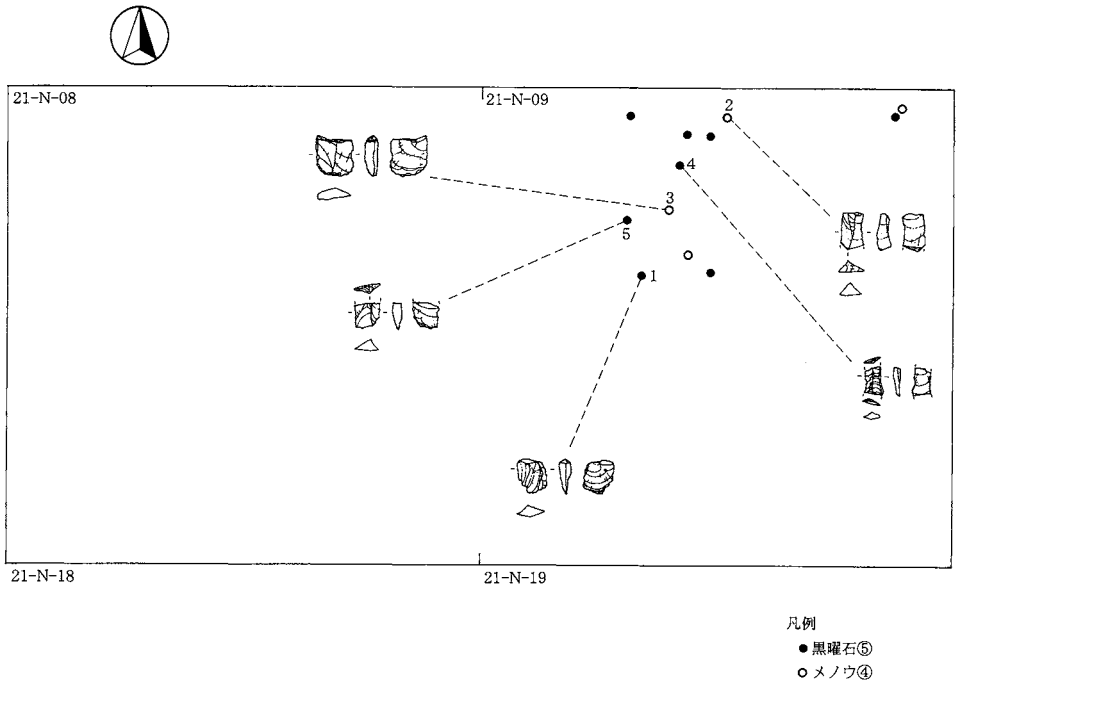
１は確認調査時に単独出土した珪質凝灰岩の横長剥片である。背部は多方向からの剥離が認められる。２は同じく単独出土した珪質頁岩の縦長剥片である。３は150号溝の覆土中から検出された安山岩の剥片で礫面を一部残す。４は001号火葬墓の一括遺物中の黒曜石の剥片である。やや風化面が認められるため旧石器時代のものとした。



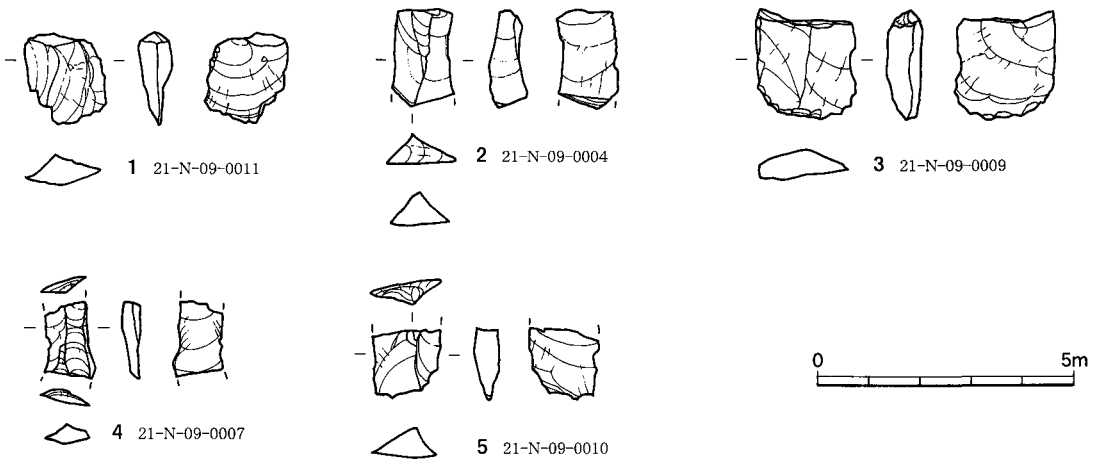
第30図　旧石器時代第６地点出土遺物実測図



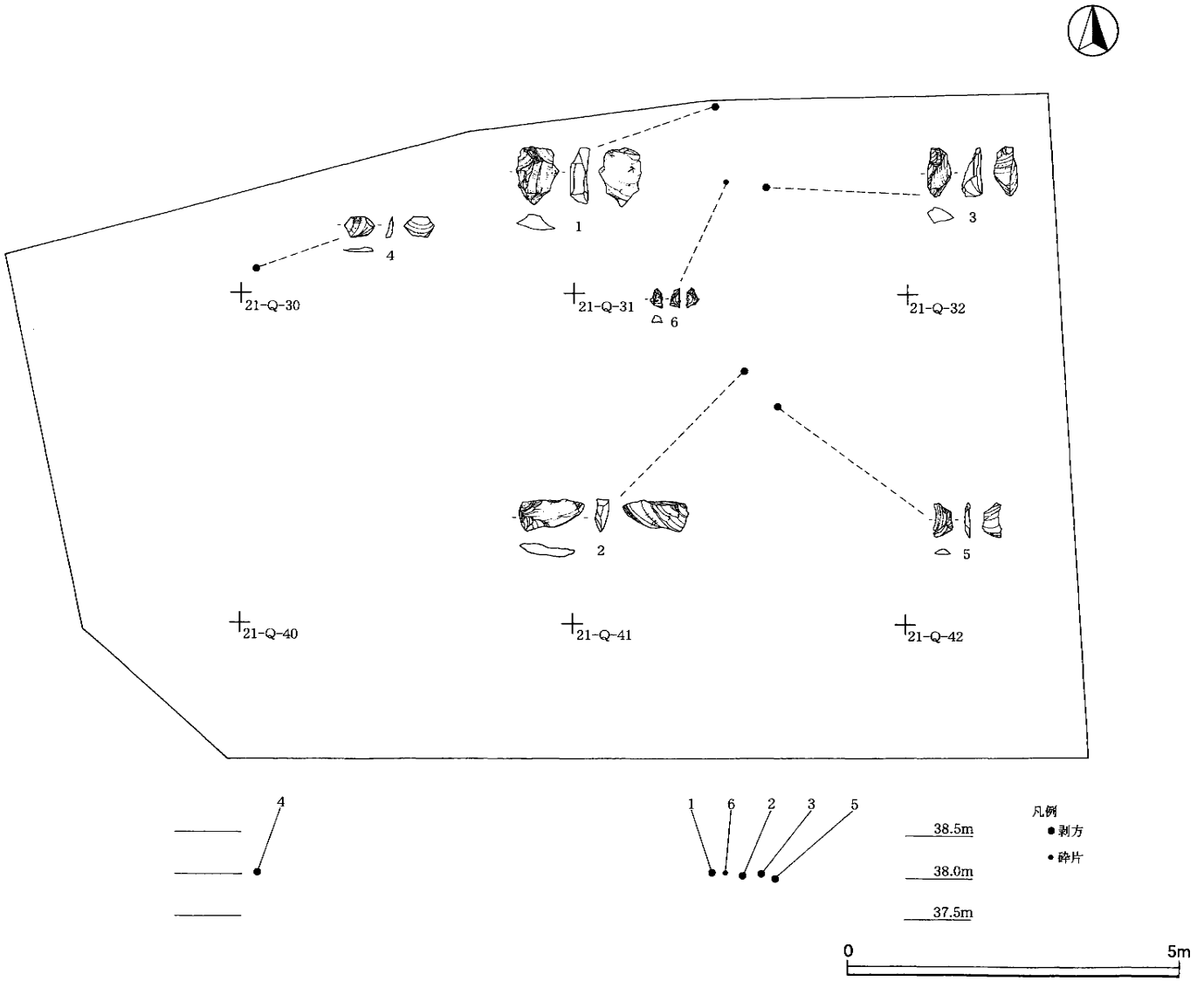
第31図　旧石器時代第７地点遺物出土状況図(Scale 1/100)



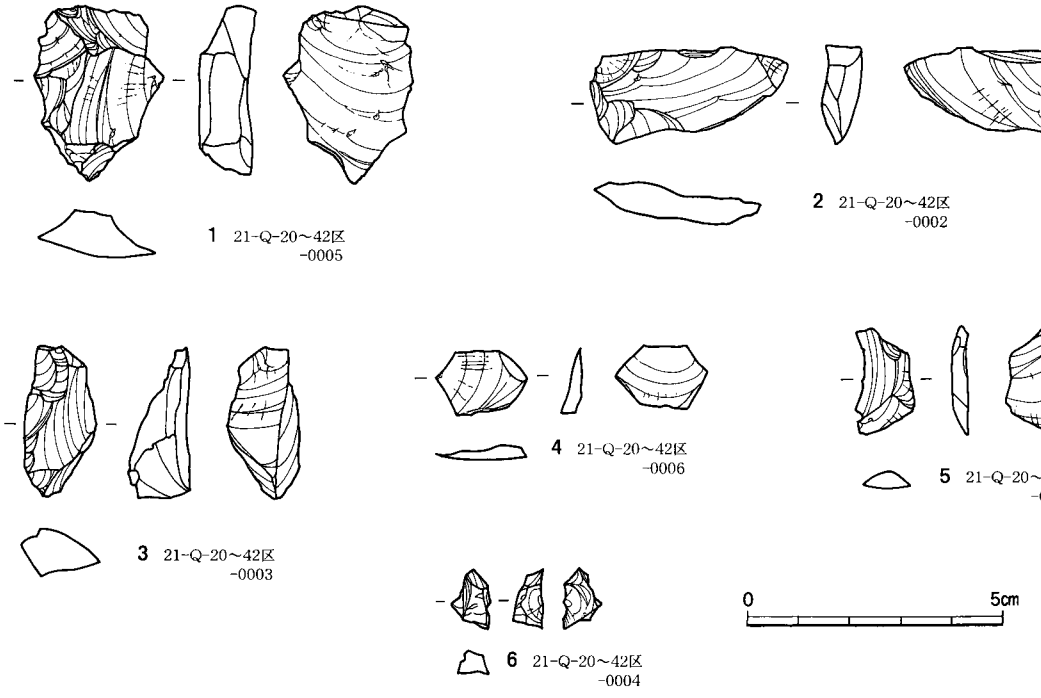
第32図　旧石器時代第７地点石材別出土状況図(Scale 1/100)



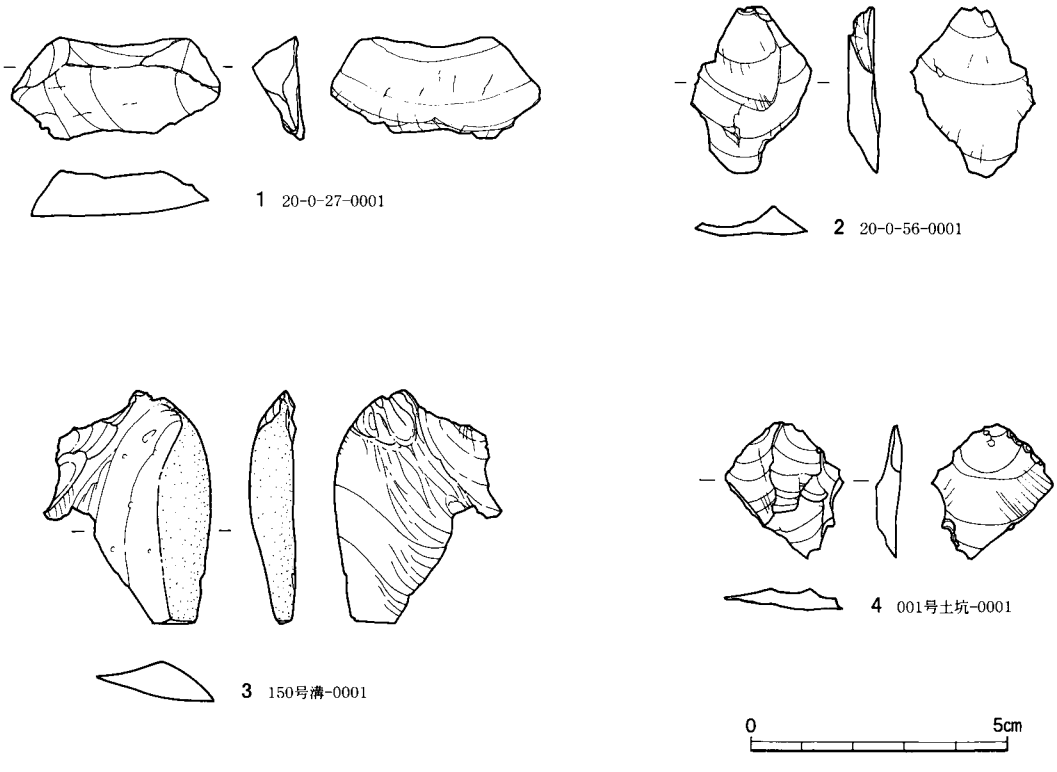
第33図　旧石器時代第７地点出土遺物実測図



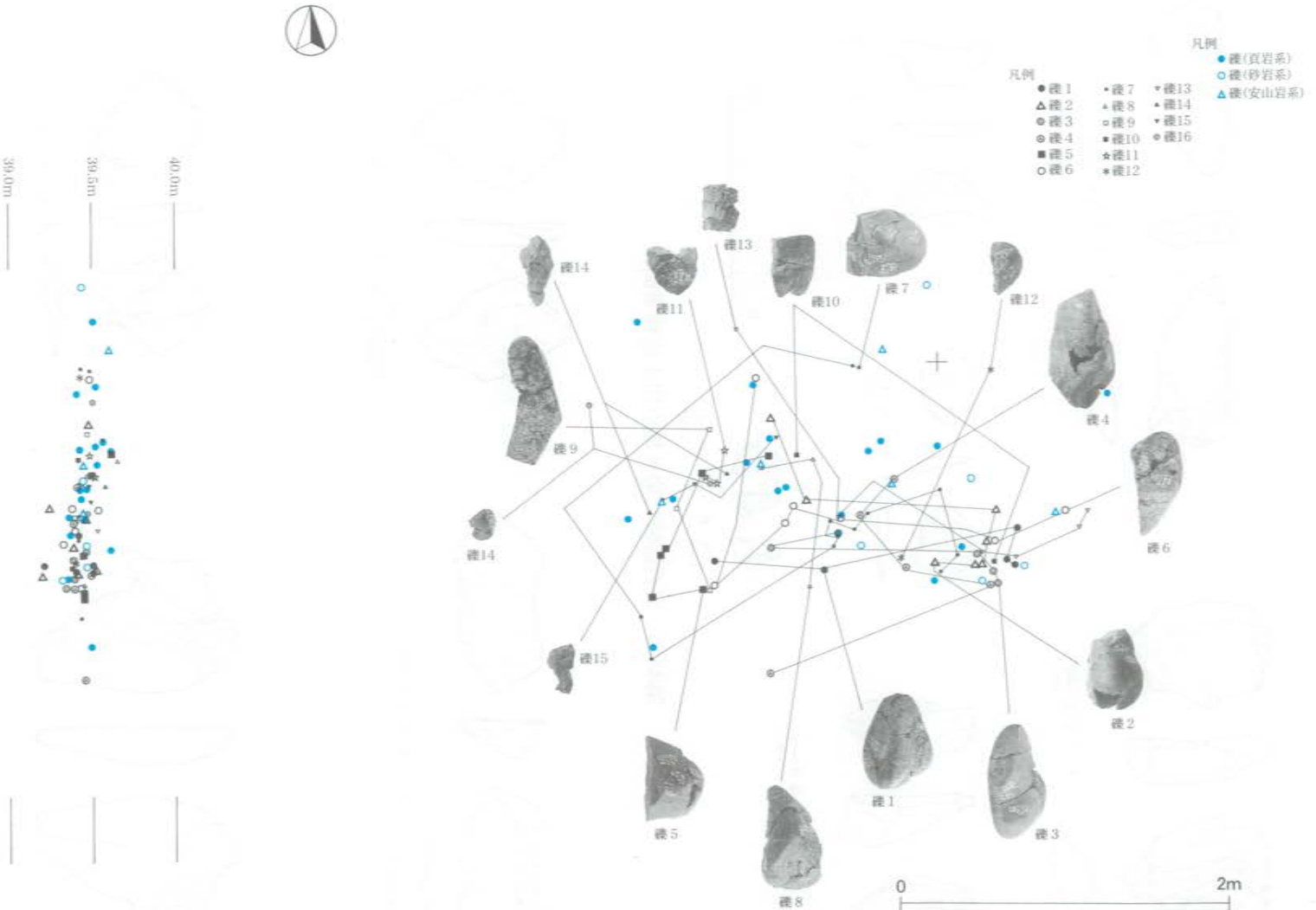
第34図　旧石器時代第８地点遺物出土状況図(Scale 1/100)



第35図　旧石器時代第８地点出土遺物実測図



第36図　旧石器時代確認グリット他出土遺物実測図



第37図　旧石器時代第２地点礫接合及び単独礫片等出土状況図 (Scale 1/40)

第１表　旧石器時代　第１地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
	19-O-92～20-O-04	1	剥片													17.0	25.0	4.5	2.33	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.535	
第13図5	19-O-92～20-O-04	2	(スクレイパー)													16.0	23.0	9.0	2.82	珪質頁岩①	13	Ⅳ～Ⅴ	39.477	折断
	19-O-92～20-O-04	3	剥片													15.4	19.5	8.7	3.56	珪質頁岩①		Ⅳ～Ⅴ	39.535	
第14図13	19-O-92～20-O-04	4	剥片	1	H		F	○								30.0	15.0	10.0	3.34	珪質頁岩①	8+9+12+5	Ⅳ～Ⅴ	39.679	
第14図14	19-O-92～20-O-04	5	小剥片	C			F			2						14.0	21.0	8.0	1.52	珪質頁岩①	8+9+12+4	Ⅳ～Ⅴ	39.565	
	19-O-92～20-O-04	6	砕片													20.6	13.5	5.6	1.02	珪質頁岩①		Ⅳ～Ⅴ	39.455	
第13図3	19-O-92～20-O-04	7	ナイフ形石器													32.5	17.9	7.4	3.31	珪質頁岩①		Ⅳ～Ⅴ	39.498	
第14図10	19-O-92～20-O-04	8	石核													33.5	34.0	24.9	48.35	珪質頁岩①	9+12+4+5	Ⅳ～Ⅴ	39.449	
第14図11	19-O-92～20-O-04	9	剥片	P	H		F	○		1			2			31.8	34.0	10.2	9.98	珪質頁岩①	8+12+4+5	Ⅳ～Ⅴ	39.529	
	19-O-92～20-O-04	10	砕片													13.1	14.3	2.3	0.41	珪質頁岩①		Ⅳ～Ⅴ	39.463	
	19-O-92～20-O-04	11	砕片													8.6	16.5	4.0	0.50	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.467	
第14図12	19-O-92～20-O-04	12	剥片	1	H		F	○		1						30.4	25.0	10.7	9.18	珪質頁岩①	8+9+4+5	Ⅳ～Ⅴ	39.445	
第13図6	19-O-92～20-O-04	13	(スクレイパー)													13.0	22.0	9.0	1.84	珪質頁岩①	2	Ⅳ～Ⅴ	39.544	折断
第13図5+6	19-O-92～20-O-04	13+2接合	スクレイパー													28.0	22.0	11.0	4.63					接合
	19-O-92～20-O-04	14	剥片													20.9	37.0	7.7	5.61	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.531	自然面を残す
	19-O-92～20-O-04	15	砕片													18.8	10.8	6.0	1.12	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.519	
第13図4	19-O-92～20-O-04	16	ナイフ形石器	2	RL	T		○					1			36.4	14.7	6.7	3.63	珪質頁岩①		Ⅳ～Ⅴ	39.463	自然面を残す
	19-O-92～20-O-04	17	剥片													20.0	24.8	3.3	1.95	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.545	自然面を残す
	19-O-92～20-O-04	18-1	砕片													12.8	14.7	2.6	0.51	珪質頁岩①		Ⅳ～Ⅴ	39.452	
	19-O-92～20-O-04	18-2	砕片													17.2	6.5	4.1	0.34	安山岩B①		同上	同上	
	19-O-92～20-O-04	19	砕片													4.3	13.9	2.8	0.11	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.395	
	19-O-92～20-O-04	20	砕片													22.9	22.8	6.1	1.99	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.469	
	19-O-92～20-O-04	21	砕片													23.1	18.6	5.9	2.01	安山岩B①		Ⅳ～Ⅴ	39.4	
	19-O-92～20-O-04	22	砕片													31.1	13.2	7.9	2.39	安山岩B①		Ⅳ～Ⅴ	39.434	
第14図15	19-O-92～20-O-04	23	ハンマーストーン													73.0	44.0	28.0	111.24	粗粒安山岩①		Ⅳ～Ⅴ	39.434	
	19-O-92～20-O-04	24	剥片													32.7	21.8	8.5	4.99	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.447	
	19-O-92～20-O-04	25	剥片													26.4	22.1	10.0	4.93	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.587	
	19-O-92～20-O-04	26	砕片													18.3	17.5	4.8	1.16	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.434	
	19-O-92～20-O-04	27	剥片													24.1	24.9	5.1	2.39	安山岩B①		Ⅳ～Ⅴ	39.599	
	19-O-92～20-O-04	28	砕片													5.6	8.9	1.8	0.08	珪質頁岩①		Ⅳ～Ⅴ	39.449	
	19-O-92～20-O-04	29	砕片													18.0	22.1	4.1	1.51	安山岩A①		Ⅳ～Ⅴ	39.456	
第13図1	19-O-92～20-O-04	30	ナイフ形石器													54.0	19.0	13.0	11.60	ホルンフェルス①		Ⅳ～Ⅴ	39.405	
第13図2	19-O-92～20-O-04	31	ナイフ形石器													28.7	15.4	8.6	3.01	メノウ①		Ⅳ～Ⅴ	39.532	
第13図9	19-O-92～20-O-04	32	石核													36.8	50.5	16.1	25.67	安山岩B①		Ⅳ～Ⅴ	39.485	
	19-O-92～20-O-04	33	礫片																105.63	粗粒安山岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.473	
	19-O-92～20-O-04	34	砕片													12.3	12.8	3.4	0.55	安山岩B①		Ⅳ～Ⅴ	39.487	
第13図7	20-O-02	2	剥片													15.0	29.3	2.7	1.36	安山岩A①		Ⅲ 中位	39.655	確認調査
第13図8	20-O-02	3	剥片													16.6	26.9	5.8	2.32	安山岩B①		Ⅲ 下位	39.595	確認調査

第２表-１　旧石器時代　第２地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
第17図1	20-O-12～23	1	剥片	1			F			1						38.7	56.8	5.0	7.95	安山岩A②		Ⅳ～Ⅴ	39.492	
	20-O-12～23	2	剥片	P			F			2						25.8	22.9	5.6	2.89	安山岩A②		Ⅳ～Ⅴ	39.421	
第18図9	20-O-12～23	8	剥片(折断)	1		T		○		3						(15.8)	(48.0)	(10.3)	(8.63)	安山岩A②	10+48	Ⅳ～Ⅴ	39.576	礫面あり
第18図10	20-O-12～23	10	剥片(折断)			H		○		2						(29.0)	(58.8)	(13.5)	(26.30)	安山岩A②	8+48	Ⅳ～Ⅴ	39.479	礫面あり
第17図2	20-O-12～23	29	ナイフ形石器													39.7	29.6	9.2	8.91	安山岩B②		Ⅳ～Ⅴ	39.44	
第17図8	20-O-12～23	30	刃器状剥片	1			F			3						38.1	11.4	3.7	2.22	安山岩B②		Ⅳ～Ⅴ	39.467	
第17図6	20-O-12～23	31	石核													39.5	31.6	15.2	11.29	珪質頁岩②		Ⅳ～Ⅴ	39.485	
第18図13	20-O-12～23	32	剥片(折断)			H	F	○								27.8	47.8	12.5	17.33	安山岩A②		Ⅳ～Ⅴ	39.48	礫面あり
第17図1	20-O-12～23	36	ナイフ形石器													40.0	23.0	9.1	6.42	安山岩A②		Ⅳ～Ⅴ	39.415	礫面あり
第18図11	20-O-12～23	48	剥片(折断)			H	F	○								(14.9)	(51.9)	(10.8)	(6.55)	安山岩A②	8+10	Ⅳ～Ⅴ	39.545	礫面あり
		10+32+48	(接合石器1)													50.2	58.6	13.6	41.50	安山岩A②				
第17図7	20-O-12～23	52	剥片	1			F	○		4						47.9	64.3	13.1	35.64	安山岩A②		Ⅳ～Ⅴ	39.376	礫面あり
第17図3	20-O-12～23	53	ナイフ形石器(折)													(28.5)	13.7	9.9	(3.22)	珪質頁岩③		Ⅳ～Ⅴ	39.405	
	20-O-12～23	67	砕片													29.2	13.2	3.7	0.82	安山岩A②		Ⅳ～Ⅴ	39.55	
第17図5	20-O-22	3	石核													29.8	32.9	17.8	21.04	チャート①		Ⅳ	39.344	確認調査
第18図12	20-O-22	4	剥片	1			F			3						32.8	47.2	16.2	17.13	安山岩A②		Ⅳ	39.433	確認調査
	20-O-12～23	39	礫片(礫1)																	安山岩系	50+75+82+83	Ⅳ～Ⅴ	39.51	焼け
	20-O-12～23	50	礫片(礫1)																	安山岩系	39+75+82+83	Ⅳ～Ⅴ	39.5	焼け・タール付着
	20-O-12～23	75	礫片(礫1)																	安山岩系	39+50+82+83	Ⅳ～Ⅴ	39.419	焼け
	20-O-12～23	82	礫片(礫1)																	安山岩系	39+50+75+83	Ⅳ～Ⅴ	39.39	焼け
	20-O-12～23	83	礫片(礫1)																	安山岩系	39+50+75+82	Ⅳ～Ⅴ	39.202	焼け
			(接合礫1)																247.0	安山岩系	5点			
	20-O-12～23	11	礫片(礫2)																	安山岩系	49+74+88+91+94+98	Ⅳ～Ⅴ	39.457	焼け・タール付着
	20-O-12～23	49	礫片(礫2)																	安山岩系	11+74+88+91+94+98	Ⅳ～Ⅴ	39.424	焼け・タール付着
	20-O-12～23	74	礫片(礫2)																	安山岩系	11+49+88+91+94+98	Ⅳ～Ⅴ	39.435	焼け・タール付着
	20-O-12～23	88	礫片(礫2)																	安山岩系	11+49+74+91+94+98	Ⅳ～Ⅴ	39.387	焼け・タール付着
	20-O-12～23	94	礫片(礫2)																	安山岩系	11+49+74+88+91+98	Ⅳ～Ⅴ	39.32	焼け・タール付着
	20-O-12～23	91	礫片(礫2)																	安山岩系	11+49+74+88+94+98	Ⅳ～Ⅴ	39.391	焼け・タール付着
	20-O-12～23	98	礫片(礫2)																	安山岩系	11+49+74+88+91+94	Ⅳ～Ⅴ	39.501	焼け・タール付着
			(接合礫2)																243.0	安山岩系	7点			
	20-O-12～23	41	礫片(礫3)																	砂岩系	85+95+106	Ⅳ～Ⅴ	39.445	焼け
	20-O-12～23	85	礫片(礫3)																	砂岩系	41+95+106	Ⅳ～Ⅴ	39.374	焼け
	20-O-12～23	95	礫片(礫3)																	砂岩系	41+85+106	Ⅳ～Ⅴ	39.371	焼け
	20-O-12～23	106	礫片(礫3)																	砂岩系	41+85+95	Ⅳ～Ⅴ	39.359	焼け
			(接合礫3)																270.0	砂岩系	4点			
	20-O-12～23	40	礫片(礫4)																	安山岩系	58+62+92+99	Ⅳ～Ⅴ	39.43	焼け
	20-O-12～23	58	礫片(礫4)																	安山岩系	40+62+92+99	Ⅳ～Ⅴ	39.375	焼け
	20-O-12～23	62	礫片(礫4)																	安山岩系	40+58+92+99	Ⅳ～Ⅴ	39.401	焼け
	20-O-12～23	92	礫片(礫4)																	安山岩系	40+58+62+99	Ⅳ～Ⅴ	39.375	焼け
	20-O-12～23	99	礫片(礫4)																	安山岩系	40+58+62+92	Ⅳ～Ⅴ	39.495	焼け
			(接合礫4)																500.0	安山岩系	5点			
	20-O-12～23	13	礫片(礫5)																	砂岩系	20+27+28+33+102	Ⅳ～Ⅴ	39.602	焼け
	20-O-12～23	20	礫片(礫5)																	砂岩系	13+27+28+33+102	Ⅳ～Ⅴ	39.481	焼け
	20-O-12～23	27	礫片(礫5)																	砂岩系	13+20+28+33+102	Ⅳ～Ⅴ	39.441	焼け
	20-O-12～23	28	礫片(礫5)																	砂岩系	13+20+27+33+102	Ⅳ～Ⅴ	39.45	焼け
	20-O-12～23	33	礫片(礫5)																	砂岩系	13+20+27+28+102	Ⅳ～Ⅴ	39.439	焼け
	20-O-12～23	102	礫片(礫5)																	砂岩系	13+20+27+28+33	Ⅳ～Ⅴ	39.434	焼け
			(接合礫5)																280.0	砂岩系	6点			
	20-O-12～23	7	礫片(礫6)																	安山岩系	37+42+43+57+77+87	Ⅳ～Ⅴ	39.508	焼け
	20-O-12～23	37	礫片(礫6)																	安山岩系	7+42+43+57+77+87	Ⅳ～Ⅴ	39.431	焼け
	20-O-12～23	42	礫片(礫6)																	安山岩系	7+37+43+57+77+87	Ⅳ～Ⅴ	39.441	焼け

第２表-２　旧石器時代　第２地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
	20-O-12～23	43	礫片(礫6)																	安山岩系	7+37+42+57+77+87	Ⅳ～Ⅴ	39.338	焼け
	20-O-12～23	57	礫片(礫6)																	安山岩系	7+37+42+43+77+87	Ⅳ～Ⅴ	39.409	焼け
	20-O-12～23	77	礫片(礫6)																	安山岩系	7+37+42+43+57+87	Ⅳ～Ⅴ	39.565	焼け
	20-O-12～23	87	礫片(礫6)																	安山岩系	7+37+42+43+57+77	Ⅳ～Ⅴ	39.343	焼け
			(接合礫6)																368.0	安山岩系	7点			
	20-O-12～23	34	礫片(礫7)																	砂岩系	54+55+56 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.438	焼け
	20-O-12～23	54	礫片(礫7)																	砂岩系	34+55+56 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.439	焼け
	20-O-12～23	55	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+56 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.415	焼け
	20-O-12～23	56	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+55 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.396	焼け
	20-O-12～23	59	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+55 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.404	焼け
	20-O-12～23	61	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+55 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.415	焼け
	20-O-12～23	65	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+55 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.451	焼け
	20-O-12～23	66	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+55 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.448	焼け
	20-O-12～23	72	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+55 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.519	焼け
	20-O-12～23	97	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+55 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.436	焼け
	20-O-12～23	101	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+55 他8点	Ⅳ～Ⅴ	39.409	焼け
	20-O-12～23	107	礫片(礫7)																	砂岩系	34+54+55 他8点	Ⅳ～Ⅴ	38.53	焼け
			(接合礫7)																238.0	砂岩系	12点			
	20-O-12～23	47	礫片(礫8)																	安山岩系	57＋103	Ⅳ～Ⅴ	39.466	
	20-O-12～23	51	礫片(礫8)																	安山岩系	51＋103	Ⅳ～Ⅴ	39.44	
	20-O-12～23	103	礫片(礫8)																	安山岩系	47＋51	Ⅳ～Ⅴ	39.477	
			(接合礫8)																241.0	安山岩系	3点			
	20-O-12～23	9	礫片(礫9)																	安山岩系	23＋38	Ⅳ～Ⅴ	40.48	
	20-O-12～23	38	礫片(礫9)																	安山岩系	9＋23	Ⅳ～Ⅴ	39.445	
	20-O-12～23	23	礫片(礫9)																	安山岩系	9＋38	Ⅳ～Ⅴ	39.401	
			(接合礫9)																200.0	安山岩系	3点			
	20-O-12～23	46	礫片(礫10)																	安山岩系	86	Ⅳ～Ⅴ	39.428	
	20-O-12～23	86	礫片(礫10)																	安山岩系	46	Ⅳ～Ⅴ	39.385	
			(接合礫10)																144.5	安山岩系	2点			
	20-O-12～23	16	礫片(礫11)																	珪岩系	18＋19	Ⅳ～Ⅴ	39.471	焼け
	20-O-12～23	18	礫片(礫11)																	珪岩系	16＋19	Ⅳ～Ⅴ	39.527	焼け
	20-O-12～23	19	礫片(礫11)																	珪岩系	16＋18	Ⅳ～Ⅴ	39.434	焼け
			(接合礫11)																88.9	珪岩系	3点			
	20-O-12～23	70	礫片(礫12)																	安山岩系	89	Ⅳ～Ⅴ	39.425	焼け
	20-O-12～23	89	礫片(礫12)																	安山岩系	70	Ⅳ～Ⅴ	39.392	焼け
			(接合礫12)																59.8	安山岩系	2点			
	20-O-12～23	78	礫片(礫13)																	珪岩系	5+79+84+90+100	Ⅳ～Ⅴ	39.523	焼け
	20-O-12～23	79	礫片(礫13)																	珪岩系	5+78+84+90+100	Ⅳ～Ⅴ	39.523	焼け
	20-O-12～23	84	礫片(礫13)																	珪岩系	7+78+79+90+100	Ⅳ～Ⅴ	39.405	焼け
	20-O-12～23	90	礫片(礫13)																	珪岩系	5+78+79+84+100	Ⅳ～Ⅴ	39.395	焼け
	20-O-12～23	100	礫片(礫13)																	珪岩系	5+78+79+84+90	Ⅳ～Ⅴ	39.384	焼け
			(接合礫13)																64.4	珪岩系	6点			
	20-O-12～23	15	礫片(礫14)																	安山岩系	25	Ⅳ～Ⅴ	39.577	
	20-O-12～23	25	礫片(礫14)																	安山岩系	15	Ⅳ～Ⅴ	39.475	
			(接合礫14)																52.6	安山岩系	2点			
	20-O-12～23	21	礫片(礫15)																	珪岩系	24＋104	Ⅳ～Ⅴ	39.455	
	20-O-12～23	24	礫片(礫15)																	珪岩系	21＋104	Ⅳ～Ⅴ	39.482	
	20-O-12～23	104	礫片(礫15)																	珪岩系	21＋24	Ⅳ～Ⅴ	39.532	
			(接合礫15)																21.3	珪岩系	3点			
	20-O-12～23	4	礫片(礫16)																	珪岩系	17	Ⅳ～Ⅴ	39.438	焼け
	20-O-12～23	17	礫片(礫16)																	珪岩系	4	Ⅳ～Ⅴ	39.438	焼け
			(接合礫16)																21.3	珪岩系	2点			
	20-O-12～23	6	礫片																0.85	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.516	
	20-O-12～23	12	礫片																9.96	安山岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.554	
	20-O-12～23	14	礫片																3.81	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.52	
	20-O-12～23	22	礫片																4.61	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.437	多少焼け
	20-O-12～23	26	礫片																1.03	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.45	多少焼け
	20-O-12～23	35	礫片																11.29	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.492	
	20-O-12～23	44	礫片																12.26	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.419	
	20-O-12～23	45	礫片																1.35	安山岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.466	
	20-O-12～23	60	礫片																1.50	砂岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.466	
	20-O-12～23	62	礫片																9.96	安山岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.401	
	20-O-12～23	63	礫片																3.33	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.611	
	20-O-12～23	64	礫片																0.47	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.501	
	20-O-12～23	68	礫片																6.60	安山岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.601	焼け
	20-O-12～23	69	礫片																1.42	砂岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.44	多少焼け
	20-O-12～23	71	礫片																0.63	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.429	
	20-O-12～23	73	礫片																4.26	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.439	
	20-O-12～23	76	礫片																0.63	安山岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.431	多少焼け
	20-O-12～23	80	礫片																3.04	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.403	多少焼け
	20-O-12～23	81	礫片																3.73	砂岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.386	多少焼け
	20-O-12～23	93	礫片																7.08	砂岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.323	
	20-O-12～23	96	礫片																3.66	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.51	多少焼け
	20-O-12～23	105	礫片																0.86	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.375	多少焼け
	20-O-12～23	108	礫片																2.39	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.363	多少焼け
	20-O-12～23	109	礫片																19.86	安山岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.44	多少焼け
	20-O-12～23	110	礫片																1.13	頁岩系		Ⅳ～Ⅴ	39.356	
	20-O-22	2	礫																7.73	頁岩系		Ⅲ 下部	39.47	確認調査

第３表-１　旧石器時代　第３地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
	21-O-83～95	1	礫片																58.18	珪質頁岩系		Ⅲ	37.45	オリーブ色
	21-O-83～95	2	砕片													11.8	5.5	1.2	0.08	珪質頁岩④		Ⅲ	37.37	
	21-O-83～95	3	砕片													11.6	19.2	3.3	0.79	チャート②		Ⅲ	37.448	
	21-O-83～95	4	砕片													16.7	17.6	4.9	1.53	砂岩①		Ⅲ	37.715	
第21図5	21-O-83～95	5	剥片	1			H	○		1						42.4	34.2	7.6	8.98	砂岩①		Ⅲ	37.75	やや粗の粗い
	21-O-83～95	6	砕片													20.8	11.1	2.0	0.44	珪質頁岩④		Ⅲ	37.449	灰色がかった石材
	21-O-83～95	7	砕片													10.9	7.2	1.0	0.09	珪質頁岩④		Ⅲ	37.44	
	21-O-83～95	8	砕片													15.5	17.9	2.7	0.44	珪質頁岩④		Ⅲ	37.375	
第21図1	21-O-83～95	9	石核													26.0	35.3	12.5	11.75	珪質頁岩④		Ⅲ	37.492	
	21-O-83～95	10	砕片													14.2	11.3	3.1	0.52	珪質頁岩④		Ⅲ	37.471	

第３表-２　旧石器時代　第３地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
	21-O-83～95	11	砕片													18.8	13.5	6.8	1.23	珪質頁岩④		Ⅲ	37.363	
第21図6	21-O-83～95	12	石核													28.9	23.8	13.7	7.59	黒曜石①		Ⅲ	37.595	
	21-O-83～95	13	砕片													13.1	6.6	1.5	0.11	黒曜石①		Ⅲ	37.61	
	21-O-83～95	14	砕片													11.9	12.2	3.3	0.42	チャート②		Ⅲ	37.49	
第21図3	21-O-83～95	15	剥片	L			F					1	2			22.6	19.3	8.8	3.34	チャート②		Ⅲ	37.337	
	21-O-83～95	16	砕片													14.6	14.2	1.9	0.28	チャート②		Ⅲ	37.094	
第21図2	21-O-９３	2	石核													22.5	32.4	16.4	8.19	黒曜石①		Ⅲ	37.595	確認調査
第21図4	21-O-94	2	剥片	1			F			2						55.5	31.3	14.6	22.01	安山岩B③		Ⅲ	37.595	確認調査

第４表　旧石器時代　第４地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
第24図1	21-O-56～77	2	石核													58.2	72.2	33.6	132.5	安山岩B④		Ⅲ	38.001	
	21-O-56～77	3	砕片													5.4	9.5	1.9	0.06	黒曜石②		Ⅳ	37.943	
第24図5	21-O-56～77	4	U・フレイク	P	L		O			1						18.8	13.7	3.4	0.63	黒曜石②		Ⅲ	37.948	
	21-O-56～77	5	砕片													6.3	8.2	1.0	0.01	黒曜石②		Ⅳ	37.846	
	21-O-56～77	6	砕片													11.4	13.3	1.4	0.14	黒曜石②		Ⅳ	37.842	
第24図6	21-O-56～77	7	U・フレイク	P			F	○							2	36.4	42.1	10.3	14.30	ホルンフェルス②		Ⅲ	37.906	
	21-O-56～77	9	砕片													13.2	12.0	1.3	0.21	チャート③		Ⅱb	37.946	
第24図4	21-O-56～77	10	細石刃	L						2		1				17.0	8.0	3.1	0.28	黒曜石②		Ⅳ	37.863	
	21-O-56～77	11	砕片													13.1	13.8	3.4	0.55	珪質凝灰岩①		Ⅱb	37.986	
第24図2	21-O-56	2	U・フレイク	1	T		F			2						43.2	22.1	8.4	6.05	珪質頁岩⑤		Ⅲ	38.029	確認調査
第24図3	21-O-56	3	U・フレイク	L			F			2	1	1				30.9	25.2	7.0	4.36	珪質凝灰岩①		Ⅱ	38.213	確認調査

第５表　旧石器時代　第５地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
	20-O-98～21-P-00	2	砕片													13.1	13.9	3.4	0.63	黒曜石③		Ⅲ	38.252	
	20-O-98～21-P-00	3	砕片													10.7	6.9	3.5	0.27	黒曜石③		Ⅲ	38.28	
	20-O-98～21-P-00	4	剥片													2.20	2.17	0.4	1.83	メノウ②		Ⅲ	38.422	半透明
第27図5	20-O-98～21-P-00	5	切断剥片			H	F					1	1			15.9	11.6	3.2	0.53	黒曜石③		Ⅲ	38.408	
	20-O-98～21-P-00	6	砕片													12.0	18.8	7.0	1.12	黒曜石③		Ⅲ	38.44	
第27図2	20-O-98～21-P-00	7	剥片	L			F			1						25.3	21.2	5.1	2.48	メノウ②		Ⅲ	38.4	
第27図1	20-O-98～21-P-00	8	剥片	1			F			1						18.9	36.9	8.6	5.95	メノウ②		Ⅲ	38.336	
	20-O-98～21-P-00	9	砕片													14.2	24.4	3.9	0.75	安山岩A③		Ⅲ	38.494	
	20-O-98～21-P-00	10	砕片													10.6	7.4	2.1	0.14	黒曜石③		Ⅲ	38.587	
第27図3	20-O-98～21-P-00	11	U・フレイク	L			O			1	1					18.3	19.1	4.8	1.44	黒曜石③		Ⅱb	38.396	
	20-O-98～21-P-00	12	砕片													10.9	15.5	1.8	0.18	黒曜石③		Ⅲ	38.26	
	20-O-98～21-P-00	13	砕片													19.0	12.5	2.7	0.41	黒曜石③		Ⅲ	38.29	
	20-O-98～21-P-00	14	砕片													8.9	8.7	3.0	0.12	黒曜石③		Ⅲ	38.136	
	20-O-98～21-P-00	15	砕片													13.1	13.8	2.6	0.42	黒曜石③		Ⅳ	38.4	
	20-O-98～21-P-00	16	砕片													17.3	9.8	2.9	0.47	チャート④		Ⅲ	38.385	
	20-O-98～21-P-00	17	砕片													9.0	10.5	2.3	0.20	黒曜石③		Ⅳ	38.131	
	20-O-98～21-P-00	18	砕片													12.5	10.3	2.5	0.29	メノウ②		Ⅲ	38.34	
第27図4	20-O-98～21-P-00	19	小剥片	2			F			2						23.1	16.1	4.0	1.41	黒曜石③		Ⅱb	38.451	

第６表　旧石器時代　第６地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
第30図9	21-P-02～25	1	折断剥片			H	F			1	1	1				17.8	12.7	5.7	1.13	黒曜石④		Ⅲ	38.317	
第30図10	21-P-02～25	2	調整剥片	L						1						11.6	26.0	5.0	1.34	黒曜石④		Ⅲ	38.026	
第30図4	21-P-02～25	3	剥片	1			F					1	1			27.3	23.9	6.7	3.78	珪質頁岩⑦		Ⅲ	38.224	
	21-P-02～25	4	砕片													15.1	14.1	2.1	0.51	珪質頁岩⑦		Ⅲ	38.108	
第30図1	21-P-02～25	5	剥片	L			F				1					36.9	45.7	8.1	14.94	チャート⑤		Ⅲ	38.117	
第30図5	21-P-02～25	6	石核													37.9	37.6	24.9	32.32	珪質頁岩⑦		Ⅲ	38.27	
	21-P-02～25	7	砕片													11.1	21.3	4.3	0.84	メノウ③		Ⅱb	38.259	
第30図7	21-P-02～25	8	R・フレイク	1	R		F					1				22.6	24.1	6.9	3.31	黒曜石④		Ⅲ	38.146	
第30図8	21-P-02～25	9	くさび形石器	L						1	1					26.6	18.5	10.9	5.22	珪質頁岩⑥		Ⅲ	38.212	
	21-P-02～25	10	砕片													23.5	13.6	5.7	1.47	メノウ③		Ⅲ	38.04	
第30図6	21-P-13	2	剥片	L			F			2						25.1	24.6	8.2	2.86	珪質頁岩⑦		Ⅲ	38.055	
第30図2	21-P-13	3	剥片	1			O			2						35.7	20.8	8.4	4.47	メノウ③		Ⅲ	37.983	
第30図3	21-P-13	4	剥片	L			F			3						43.6	45.0	8.6	11.26	チャート⑤		Ⅲ	38.166	

第７表　旧石器時代　第７地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
	21-N-09	1	礫																35.8	凝灰岩系		Ⅲ	38.529	
	21-N-09	2	砕片													11.8	16.8	5.7	1.17	メノウ④		Ⅲ	38.532	
	21-N-09	3	砕片													10.2	12.7	2.6	0.32	黒曜石⑤		Ⅲ	38.571	
第33図2	21-N-09	4	U・フレイク	1			F	1		3						19.0	12.1	7.0	1.34	メノウ④		Ⅲ	38.44	
	21-N-09	5	砕片													12.2	12.1	3.7	0.53	黒曜石⑤		Ⅲ	38.455	
	21-N-09	6	剥片(調整)													19.2	16.6	7.6	18.3	黒曜石⑤		Ⅲ	38.47	
第33図4	21-N-09	7	折断剥片			H				2	1					15.4	10.2	3.7	0.47	黒曜石⑤		Ⅲ	38.574	
	21-N-09	8	砕片													12.1	12.5	5.1	0.53	黒曜石⑤		Ⅲ	38.607	
第33図3	21-N-09	9	U・フレイク	1	T				1	1	1					19.5	19.3	6.5	3.03	メノウ④		Ⅲ	38.43	
第33図5	21-N-09	10	折断剥片													13.4	13.4	5.5	0.86	黒曜石⑤		Ⅲ	38.546	
第33図1	21-N-09	11	U・フレイク													17.7	17.3	6.5	1.37	黒曜石⑤		Ⅲ	38.546	
	21-N-09	12	砕片													11.7	15.7	6.6	1.02	メノウ④		Ⅲ	38.426	
	21-N-09	13	砕片													11.5	12.5	2.8	0.65	黒曜石⑤		Ⅲ	38.429	

第８表　旧石器時代　第８地点石器観察表

挿図番号	グリッド	遺物番号	器種	打面形状	調整部位	折断部位	末端形状	背面構成 C	S	H	T	R	L	D	V	最大長 mm	最大幅 mm	最大厚 mm	重量 g	母岩番号	接合資料	層位	標高 m	備考
第35図1	21-Q-20～42	5	剥片	1			O					2	2			35.6	26.2	9.5	6.98	黒曜石⑥				
第35図2	21-Q-20～42	2	剥片			H				1						19.2	39.2	6.9	4.93	黒曜石⑥				
第35図3	21-Q-20～42	3	剥片	L			O					2	1			29.2	18.2	12.2	3.92	黒曜石⑥				
第35図4	21-Q-20～42	6	剥片	P								1				12.1	12.6	2.5	0.68	黒曜石⑥				
第35図5	21-Q-20～42	1	小剥片	1									2			21.0	11.2	3.2	0.64	黒曜石⑥		Ⅲ		
第35図6	21-Q-20～42	4	小剥片(調整)																0.37	黒曜石⑥				

Ⅲ　縄文時代

1　概　　要

本遺跡で縄文時代の所産とした遺構は、陥穴54基、炉穴１基、土坑14基である。遺跡全体の発掘面積が大きいためかなり多くの陥穴が検出されている。調査区の北側で縄文時代の包含層を行い、縄文時代早期前半の撚糸文土器群が多く検出されている。またこの範囲から礫や石器が伴って出土している。

2　遺　　構

（１）陥穴

陥穴は豊富な形態が見られる。台ノ田Ⅱ遺跡[1)]で分類されたように開口部と坑底の形状により、以下のように４つの形態に分類した。

第Ⅰ類　開口部が長楕円形の形状を呈し、坑底が細長く狭くなるもの。

第Ⅱ類　開口部が長楕円形の形状を呈し、坑底が隅丸長方形、長方形になるもの。

第Ⅲ類　開口部が隅丸長方形、長方形を呈し、坑底が隅丸長方形、長方形になるもの。

第Ⅳ類　開口部、坑底も円形状になるもの。

さらに、第Ⅰ類～第Ⅳ類は底面のピットの有無により、それぞれ細分される。

005号陥穴（第38図、図版９）

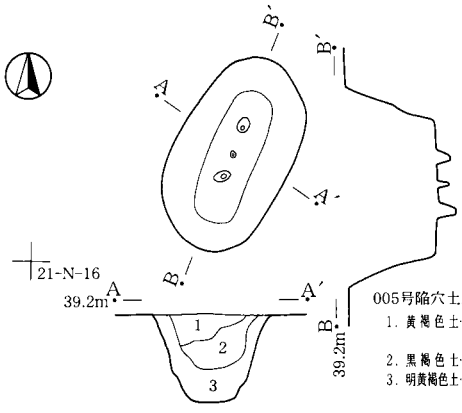
調査区の西側、21－Ｎ－06区に位置する。開口部は楕円形、坑底が隅丸長方形でほぼ平坦である。床面には径10～20cm、深さ20cm程の小ピットが中央に一列に並ぶ。規模は長軸2.25m、短軸1.25m、深さ0.9mを測る。長軸方位はＮ－23°－Ｅを示す。壁は急角度で立ち上がり開口部でやや広がる。覆土は、上層が腐植土をブロック状に含む黄褐色土、中層がローム粒混じりの黒褐色土、下層が腐植土混じりのローム粒混じりの黒褐色土である。中層以下は自然堆積、上層は人為堆積と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類で複数のピットを持つタイプである。

009号陥穴（第40図、図版９）

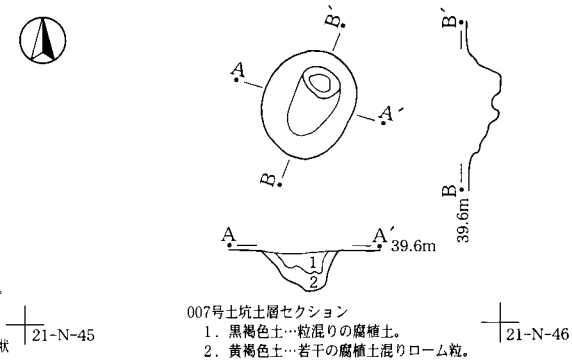
調査区の西側、21－Ｎ－44区に位置する。開口部は丸みのある隅丸長方形に近い形、坑底が隅丸長方形でほぼ平坦である。床面には径10cm前後、深さ10cm～20cm程の小ピットが10個三列に並ぶ。規模は長軸2.06m、短軸1.27m、深さ0.9mを測る。長軸方位はＮ－37°－Ｅを示す。壁は急角度で立ち上がり開口部で大きく広がる。覆土は上層が若干のローム粒混じりの腐植土、中層がローム粒混じりの黒褐色土、下層がローム粒、ロームブロック混じりの黄褐色土である。いずれも自然堆積と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類で複数のピットを持つタイプである。

011号陥穴（第41図、図版９）

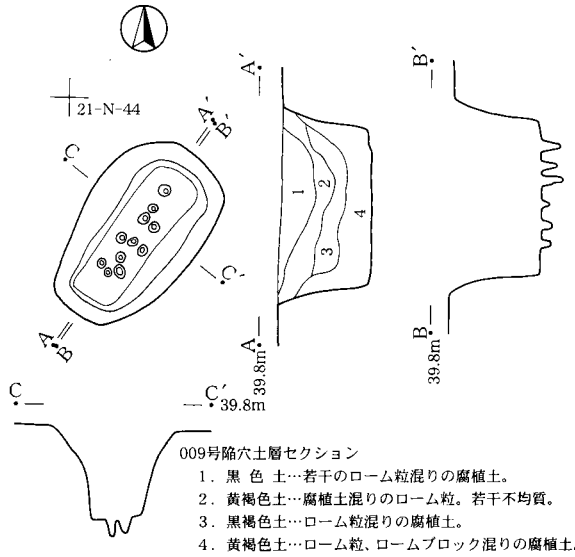
調査区やや北西側、20－Ｎ－59区に位置する。開口部は長楕円形、坑底が細長く狭くなる。床面は細長



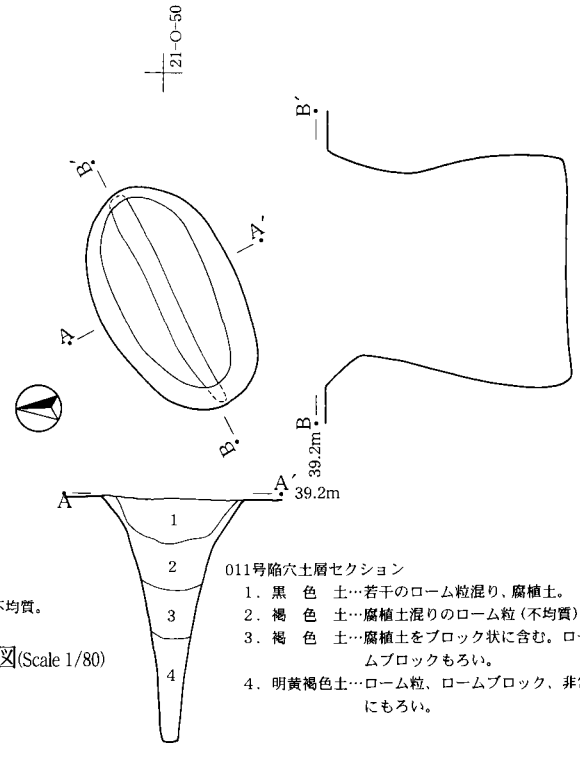
第38図　005号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)



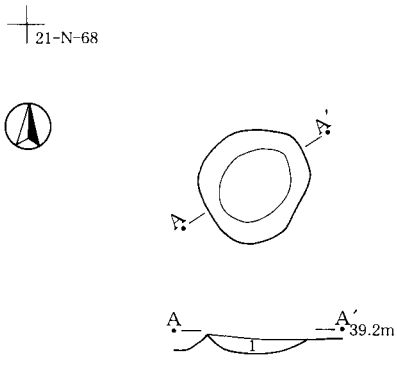
第39図　007号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)



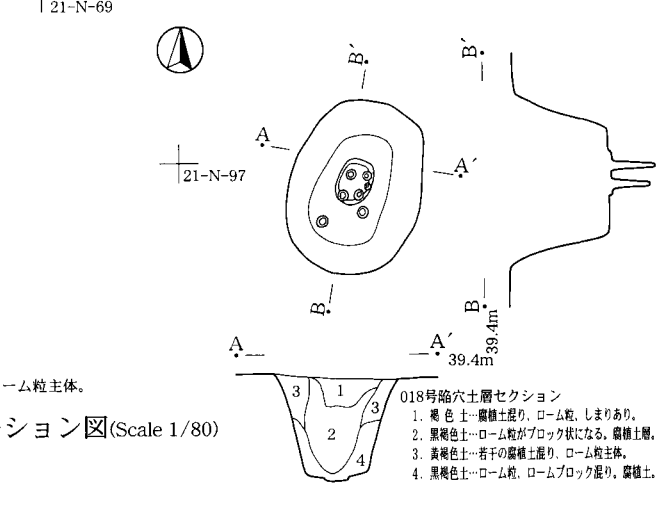
第40図　009号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)



第41図　011号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)



第42図　017号土坑平面図及びエレベーション図(Scale 1/80)



第43図　018号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)

く、長軸方向の壁際がやや深く、中央部がやや高くなる。ピットは見られない。規模は長軸2.44m、短軸1.42m、深さ2.48mである。長軸方位はN－63°－Eを示す。長軸方向の壁はオーバーハングし、開口部でやや外反する。短軸方向の壁は急角度で立ち上がり開口部で大きく広がる。覆土は上層が若干のローム粒混じりの腐植土、中層が腐植土混じり、ローム粒混じりの褐色土、下層がローム粒、ロームブロック混じりの明褐色土である。いずれも自然堆積である。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類でピットのないタイプである。

018号陥穴（第43図、図版９）

調査区西南側、21－N－77区に位置する。開口部は丸みの強い隅丸長方形、坑底が隅丸長方形でやや中程に一段下がる部分が見られる。床面には径10cmで深さ45cm前後の棒状のピットが不規則に６個検出されている。規模は長軸1.85m、短軸1.38m、深さ1.07mである。長軸方位はN－18°－Eを示す。壁はやや斜めに急激に立ち上がる。覆土は上層が腐植土混じりのローム粒を含む褐色土、中層はローム粒、ロームブロック混じりの黒褐色土、下層はローム粒、ロームブロック混じりの黒褐色土である。いずれも自然堆積と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットを持つタイプである。

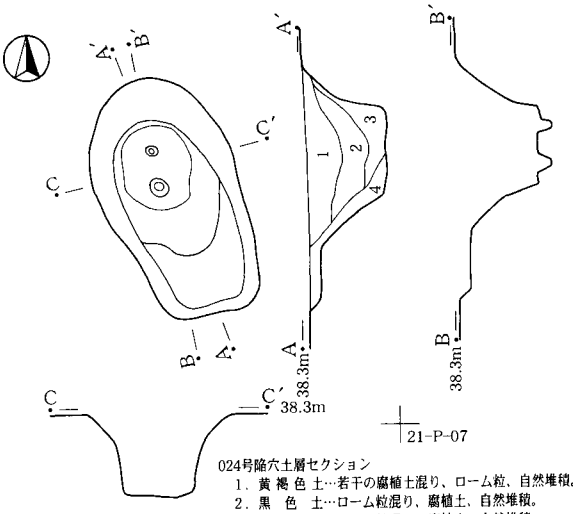
024号陥穴（第44図、図版10）

調査区中央部分、20－P－96区に位置する。開口部はやや楕円形に近い不整形で南側に長方形の浅いテラス状の張り出しを持つ。坑底はやや楕円形に近い円形である。床面はやや凸凹していて中央部分に径10～15cm、深さ15cmの円形ピットを２個持つ。本体部分の規模は長軸1.8m、短軸1.38m、深さ0.83mである。テラス部分の最大幅は1.25m、深さ0.15mで長方形に近い形と思われる。本体の長軸方位はN－10°－Wを示す。壁は急激に立ち上がり開口部近くで大きく広がる。覆土は上層が腐植土混じりのローム粒を含む黄褐色土、中層はローム粒混じりの腐植土含む黒色土、下層はローム粒混じりの腐植土を含む褐色土である。また、テラス部分から下層に流れ込みが見られるところから付属施設と思われるが用途は不明である。いずれも自然堆積と考えられる。遺物等は出土しなかった。形態からやや変則的ではあるが、第Ⅲ類でピットを持つタイプである。

030号陥穴（第46図、図版なし）

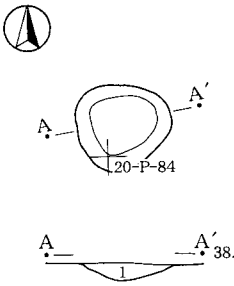
調査区中央部分、20－P－83区に位置する。開口部は隅丸方形に近い楕円形、坑底はやや丸味の強い隅丸方形である。床面はほぼ平坦で中央部分に径10cm、15cm、深さ25cm、60cmの大小２個のピットを持つ。規模は長軸1.93m、短軸1.48m、深さ0.92mである。長軸方位はN－３°－Eを示す。壁はやや開口部に向かって広がりながら立ち上がる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土を含む黒色土、中層がローム粒、ロームブロック混じりの腐植土を含む黄～黒褐色土、下層はローム粒、ロームブロック混じりの腐植土を含む褐色土～黄褐色土である。上層から中層は自然堆積、下層は堆積状態が不均衡なため人為的な堆積の可能性が高い。遺物等は出土しなかった。形態からやや変則的ではあるが、第Ⅲ類でピットを持つタイプである。

031号陥穴（第47図、図版10）



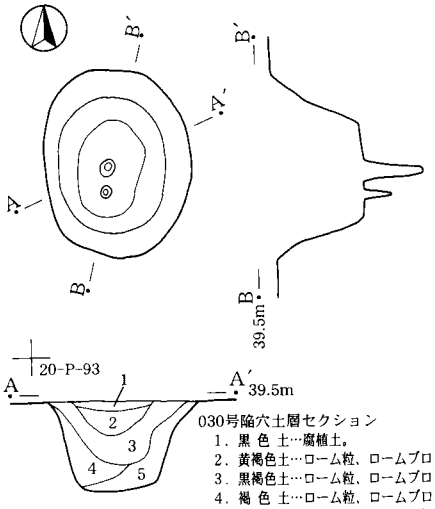
024号陥穴土層セクション
1．黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒、自然堆積。
2．黒　色　土…ローム粒混り、腐植土、自然堆積。
3．褐　色　土…ローム粒混り、腐植土、自然堆積。
4．明黄褐色土…ローム粒主体、自然堆積。

第44図　024号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)



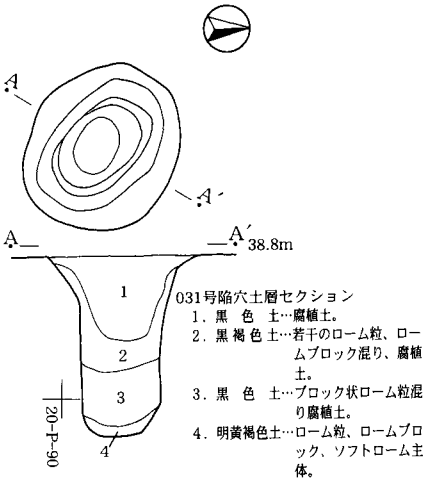
028号土坑土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒混りの腐植土、自然堆積。

第45図　028号土坑平面図及びセクション図(Scale 1/80)



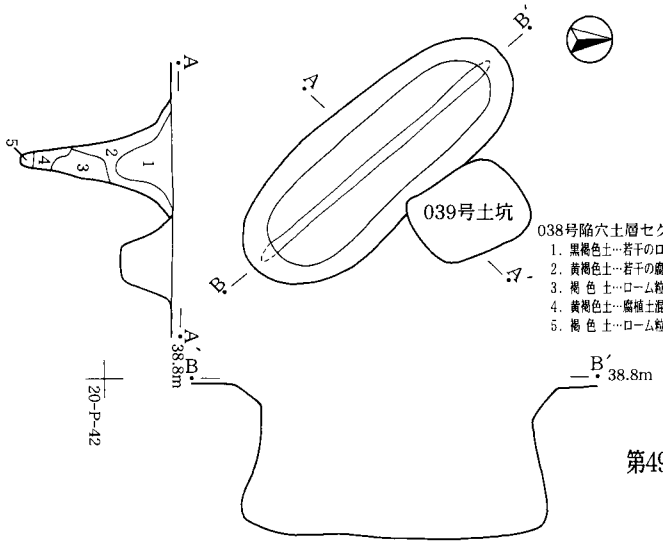
030号陥穴土層セクション
1．黒　色　土…腐植土。
2．黄褐色土…ローム粒、ロームブロック混り、腐植土。
3．黒褐色土…ローム粒、ロームブロック混り、腐植土。
4．褐　色　土…ローム粒、ロームブロック混り、腐植土、不均質。
5．黄褐色土…腐植土混りのローム粒・ロームブロック混り。

第46図　030号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)



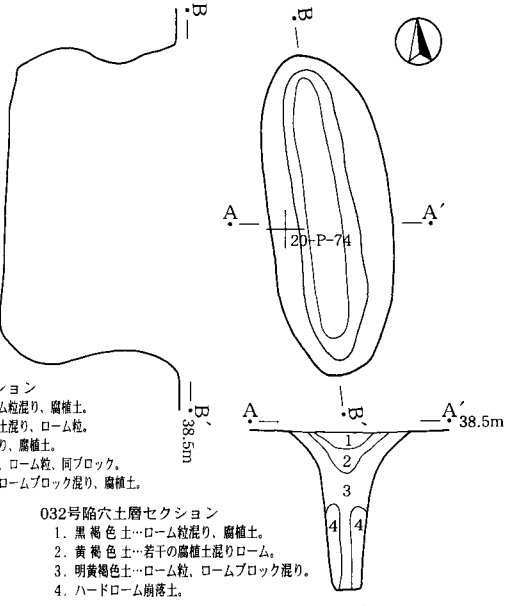
031号陥穴土層セクション
1．黒　色　土…腐植土。
2．黒 褐 色 土…若干のローム粒、ロームブロック混り、腐植土。
3．黒　色　土…ブロック状ローム粒混り腐植土。
4．明黄褐色土…ローム粒、ロームブロック、ソフトローム主体。

第47図　031号陥穴平面図及びセクション図(Scale 1/80)



038号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…若干のローム粒混り、腐植土。
2．黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒。
3．褐　色　土…ローム粒混り、腐植土。
4．黄褐色土…腐植土混り、ローム粒、同ブロック。
5．褐　色　土…ローム粒、ロームブロック混り、腐植土。

第48図　038号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)



032号陥穴土層セクション
1．黒 褐 色 土…ローム粒混り、腐植土。
2．黄 褐 色 土…若干の腐植土混りローム。
3．明黄褐色土…ローム粒、ロームブロック混り。
4．ハードローム崩落土。

第49図　032号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図
(Scale 1/80)

0　4m

調査区中央部分、20－Ｐ－89区に位置する。開口部は円形に近い楕円形、坑底は隅丸方形に近い楕円形である。床面はほぼ平坦でピットは見られない。規模は長軸1.78m、短軸1.53m、深さ1.84mである。長軸方位はＮ－56°－Ｗを示す。壁は急激に立ち上がり開口部近くでやや広がる。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、中層がローム粒、ロームブロック混じりの腐植土を含む黒褐色土、下層がブロック状のローム粒混じりの腐植土を含む黒色土で、さらに床面直上に壁の崩落土と思われる黄褐色土ブロックがサンドウィッチ状に見られる。遺物等は出土しなかった。形態的にやや変則的ではあるが、第Ⅱ類でピットを持たないタイプである。

032号陥穴（第49図、図版10）

調査区中央部分、20－Ｐ－74区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は比較的細長く狭くなる。床面はほぼ平坦でピットは見られない。規模は長軸3.28m、短軸1.42m、深さ1.80mである。長軸方位はＮ－7°－Ｗを示す。壁は長軸方向で崩落のためオーバーハング気味に立ち上がり、開口部付近ではやや外反気味に広がる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土を含む黒褐色土、中層が若干の腐植土の混ざった黄褐色土、下層がローム粒、ロームブロック混じりの暗黄褐色土で、壁際は崩落が認められる。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類でピットを持たないタイプである。

038号陥穴（第48図、図版10）

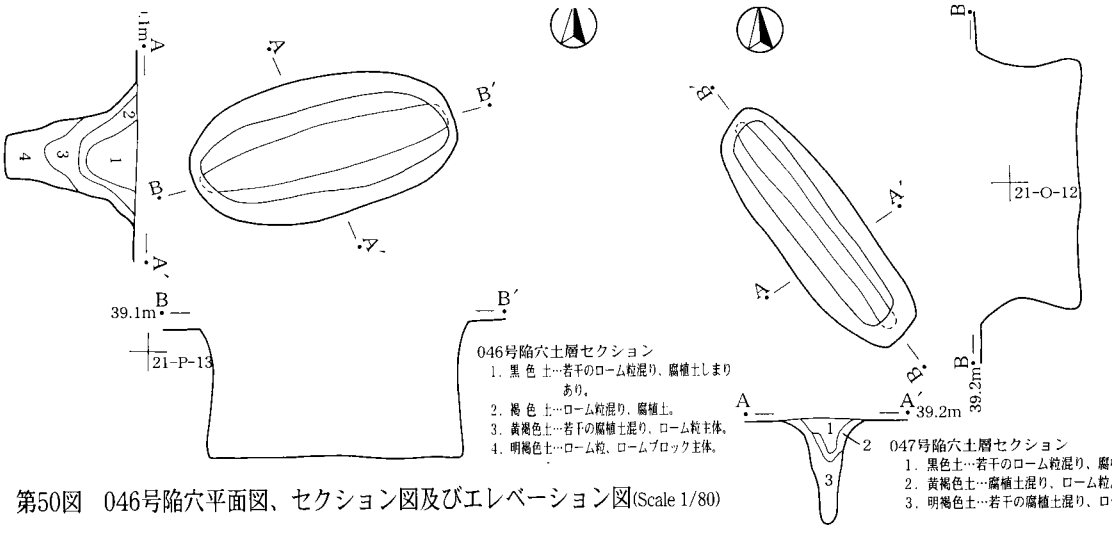
調査区中央部分、20－Ｐ－31区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は細長く狭くなる。床面は狭くピットは見られない。規模は長軸3.42m、短軸1.30m、深さ1.62mである。長軸方位はＮ－40°－Ｗを示す。壁は長軸方向で崩落のためオーバーハング気味に立ち上がり、開口部付近ではやや外反気味に広がる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土を含む黒褐色土、中層が若干の腐植土混じりのローム粒が主体の褐色土～黄褐色土、下層がローム粒とロームブロック混じりの腐植土主体の褐色土である。崩落が認められる自然堆積層である。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類でピットを持たないタイプである。

046号陥穴（第50図、図版11）

調査区西側、20－Ｏ－03区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は比較的細長く狭くなる。床面はほぼ平坦でピットは見られない。規模は長軸2.75m、短軸1.48m、深さ1.39mである。長軸方位はＮ－74°－Ｅを示す。壁は長軸方向で崩落のためオーバーハング気味に立ち上がり、開口部付近ではやや外反気味に広がる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土を主体とする黒色土、中層がローム粒混じりの腐植土主体の褐色土～黄褐色土、下層がローム粒、ロームブロックを含む明褐色土である。全て自然堆積層と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類でピットを持たないタイプである。

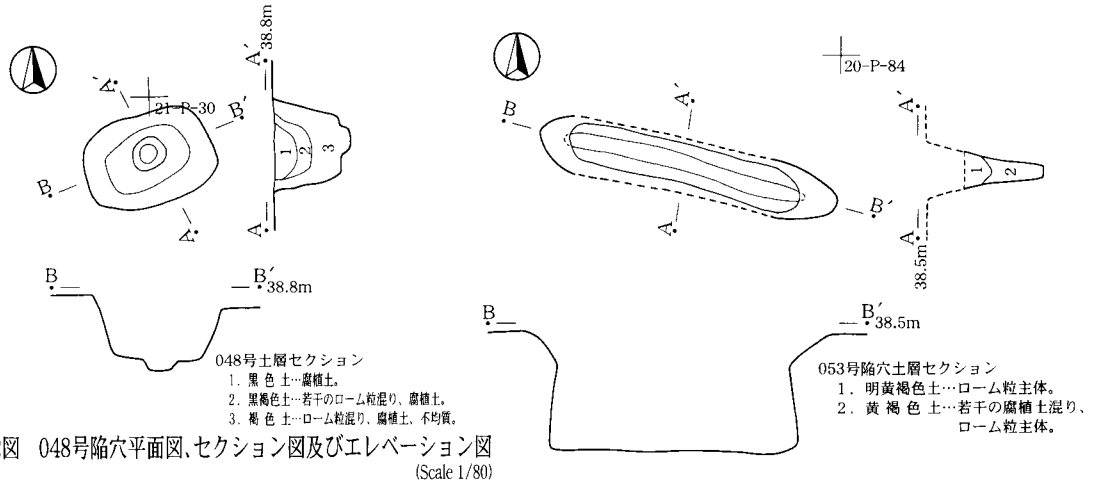
047号陥穴（第51図、図版11）

調査区西側、20－Ｏ－11区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は比較的細長く狭くなる。床面はほぼ平坦でピットは見られない。規模は長軸2.87m、短軸0.9m、深さ1.03mである。長軸方位はＮ－35°－Ｗを示す。壁はほぼ垂直に立ち上がり、開口部付近でやや斜めになる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土を主体とした黒色土、中層が腐植土、ローム粒混じりの黄褐色土、下層がローム粒混じりの明褐色土で



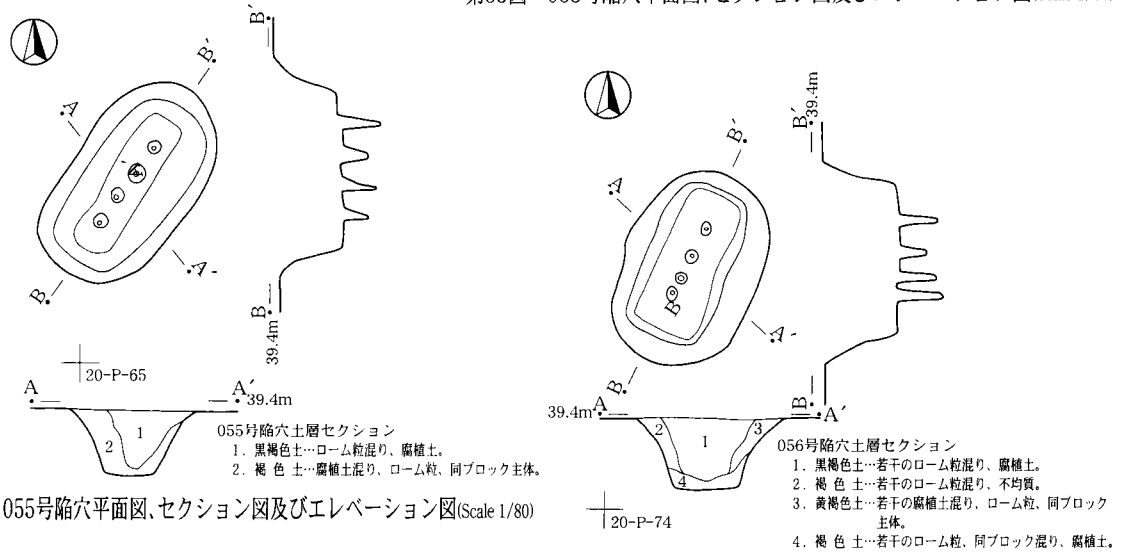
第50図　046号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)

第51図　047号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)



第52図　048号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図
(Scale 1/80)

第53図　053号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)



第54図　055号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)

第55図　056号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale 1/80)

ある。全て自然堆積層と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類でピットを持たないタイプである。

048号陥穴（第52図、図版11）

調査区中央部分、20－Ｐ－30区に位置する。開口部は隅丸長方形、坑底は隅丸方形である。床面中央部分に径40cm、深さ10cm程の円形のピットが１個検出されている。規模は長軸1.36m、短軸0.96m、深さ0.63mである。長軸方位はＮ－70°－Ｅを示す。壁はかなり急激に立ち上がる。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、中層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、下層がローム粒混じり腐植土主体で不均質な褐色土である。全て自然堆積層と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットを持つタイプである。

053号陥穴（第53図、図版13）

調査区中央部分、20－Ｐ－83区に位置する。開口部は隅丸長方形、坑底は細長く狭くなる。床面はほぼ平坦でピットが見られない。規模は長軸3.18m、短軸0.42m、深さ1.18mである。上部は下層確認調査時に削平されており、かなり下がった段階で精査されたものと思われる。長軸方位はＮ－76°－Ｗを示す。壁は長軸方向でほぼ垂直に立ち上がり、開口部に近いところで外反する。覆土は上層がローム粒混じりの明黄褐色土、下層が腐植土混じりのローム粒が多い黄褐色土でソフトロームとの識別が困難な土層である。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類でピットを持つタイプである。

055号陥穴（第54図、図版11）

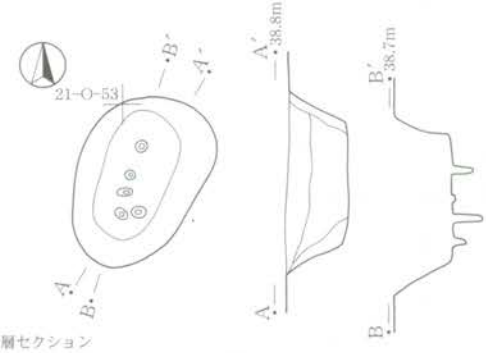
調査区北東側、20－Ｑ－55区に位置する。開口部は隅丸長方形、坑底は長方形である。床面はほぼ平坦で中央部に径15cm、深さ25～35cmの円形ピットが４個並ぶ。規模は長軸2.25m、短軸1.28m、深さ0.67mである。長軸方位はＮ－37°－Ｅを示す。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、下層が腐植土混じりのローム粒を多く含む褐色土である。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットを持つタイプである。

056号陥穴（第55図、図版11）

調査区北東側、20－Ｑ－64区に位置する。開口部は隅丸長方形、坑底は長方形である。床面はほぼ平坦で中央部に径12cm、深さ30～45cmの円形ピットで４個並ぶ。規模は長軸2.13m、短軸1.45m、深さ0.76mである。長軸方位はＮ－26°－Ｅを示す。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は上層がローム粒混じり腐植土主体の黒褐色土、壁崩落部はソフトロームとハードローム粒が混ざった褐色土、下層がローム粒とロームブロックが混ざった褐色土である。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットを持つタイプである。

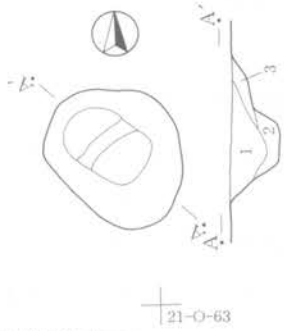
057号陥穴（第56図、図版12）

調査区西南側、21－Ｏ－53区に位置する。開口部は楕円形、坑底は隅丸長方形である。床面はほぼ平坦で中央部に径10～15cm、深さ10～35cmの円形ピットで５個検出されている。規模は長軸1.92m、短軸1.26m、深さ0.62mである。長軸方位はＮ－25°－Ｅを示す。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は上層がローム粒混じり腐植土主体の黒褐色土、中層が上層より腐植が強い黒色土、下層が腐植土混じりローム粒、ロームブロック混じりの黄褐色土である。全て自然堆積と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピッ



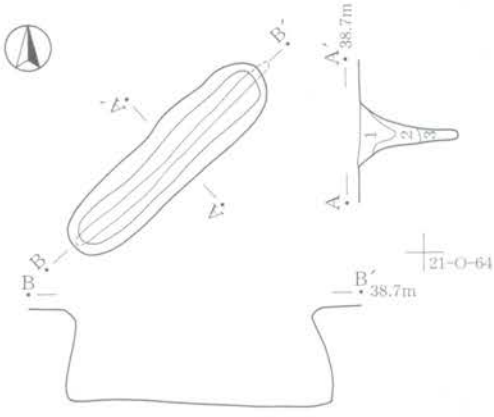
057 号土層セクション
1．黒褐色土…若干のローム粒混り、腐植土。
2．黒 色 土…若干のローム粒混り、1より腐植化強し。
3．黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒、ロームブロック不均質。

第56図　057号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



058 号土坑土層セクション
1．黒色土…腐植土。
2．黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒、ロームブロック主体。
3．黄褐色土…2より均質、自然堆積。

第57図　058号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

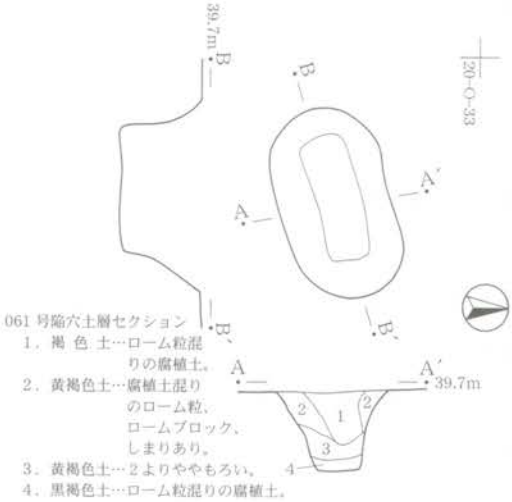


059 号陥穴土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．褐 色 土…ローム粒混りの腐植土。
3．黄褐色土…若干の腐植土混り、ロームブロック主体。もろい。
} 自然堆積

第58図　059号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

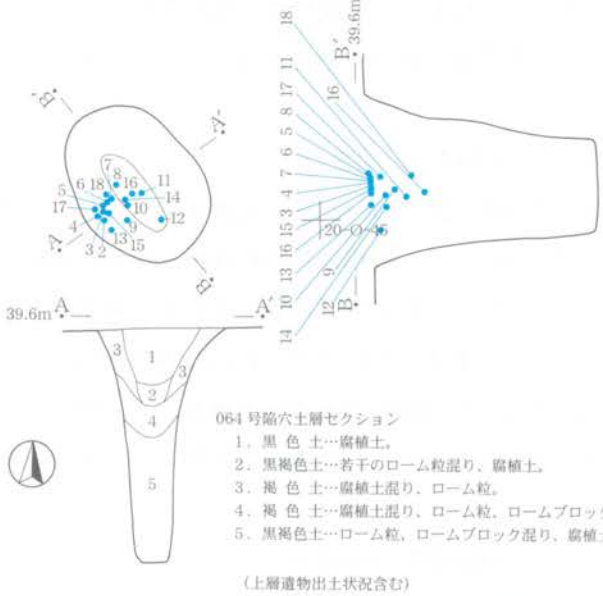
060 号陥穴土層セクション
1．褐 色 土…腐植土混り、ローム粒主体。
2．褐 色 土…同上、1層より不均質でしまりなし。
3．黒褐色土…ローム粒混りの腐植土、若干のロームブロック混入。
4．黄褐色土…ローム粒、ロームブロック主体。
5．黄褐色土…若干の腐植土混りのローム粒、ロームブロック主体。

第59図　060号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



061 号陥穴土層セクション
1．褐 色 土…ローム粒混りの腐植土。
2．黄褐色土…腐植土混りのローム粒、ロームブロック、しまりあり。
3．黄褐色土…2よりややもろい。
4．黒褐色土…ローム粒混りの腐植土。

第60図　061号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



064 号陥穴土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．黒褐色土…若干のローム粒混り、腐植土。
3．褐 色 土…腐植土混り、ローム粒。
4．褐 色 土…腐植土混り、ローム粒、ロームブロック。
5．黒褐色土…ローム粒、ロームブロック混り、腐植土。

（上層遺物出土状況含む）

第61図　064号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

0　4m

トを持つタイプである。

059号陥穴（第58図、図版12）

調査区西南側、21－O－53区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は細く狭くなる。床面は南側は一部高いもののほぼ平坦でピット等は見られない。規模は長軸2.63m、短軸0.67m、深さ1.02mである。長軸方位はN－47°－Eを示す。壁は長軸方向に崩落が見られオーバーハングしている。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、中層がローム粒混じりの腐植土主体の褐色土、下層が腐植土混じりのローム粒、ロームブロック主体の黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅰ類のピットを持たないタイプである。

060号陥穴（第59図、図版12）

調査区西南側、21－O－46区に位置する。開口部は楕円形に近い形、坑底は長方形である。南東壁の上部を炭窯により壊されている。床面はほぼ平坦で中央部分に6個のピットが1列に並ぶ。径8cm～15cm前後の円形、深さ30cm程の規格が認められる。規模は長軸2.03m、短軸1.34m、深さ1.05mである。長軸方位はN－28°－Eを示す。壁は開口部に広がるように斜めに立ち上がる。覆土は上層が腐植土混じりローム粒主体の褐色土、中層が上層よりやや締まりに欠ける褐色土、下層がローム粒、ロームブロック混じりの腐植土主体の黒褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類でピットを持つタイプである。

061号陥穴（第60図、図版12）

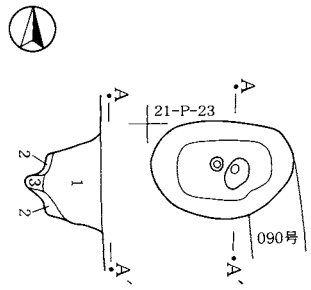
調査区西側、20－O－33区に位置する。開口部は楕円形、坑底は長方形である。床面はほぼ平坦でピット等は見られない。規模は長軸2.03m、短軸1.13m、深さ0.83mである。長軸方位はN－75°－Eを示す。壁は床面直上ではほぼ垂直に立ち上がり、開口部に向かって斜めに広がっている。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の褐色土、壁際には崩落土が主体の黄褐色土、中層が壁の崩落土が主体の黄褐色土、下層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅱ類でピットを持たないタイプである。

064号陥穴（第61図、図版12）

調査区西側、20－O－34区に位置する。開口部は楕円形、坑底は楕円形である。床面はほぼ平坦でピット等は見られない。規模は長軸1.78m、短軸1.30m、深さ2.43mである。長軸方位はN－50°－Wを示す。壁はやや広がりながら急激に立ち上がる。覆土は上層が腐植土を主体とした黒色土、中層が腐植土混じりのローム粒が主体の褐色土でこれらは自然堆積で土器片等の流れ込みが見られた。本来の機能以外に二次的に使用された可能性がある。下層がローム粒、ロームブロック混じり腐植土主体の黒褐色土で人為的に埋め戻されたものと思われる。第Ⅳ類でピットを持たないタイプになると思われる。

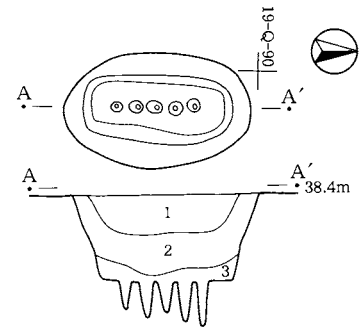
080号陥穴（第62図、図版13）

調査区中央部分、21－P－23区に位置する。開口部は隅丸方形に近い楕円形、坑底についても隅丸方形



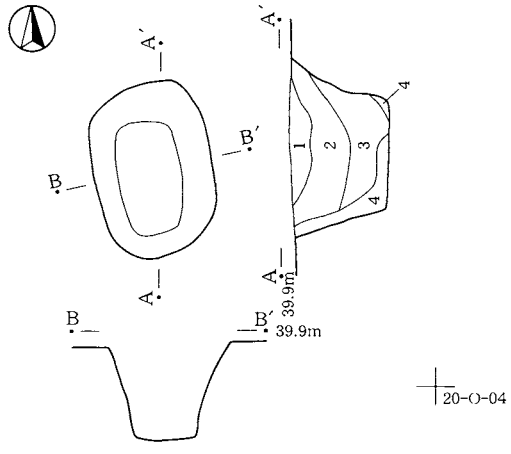
080 号陥穴土層セクション
1．褐　色　土…腐植土混りのローム粒。
2．黄褐色土…腐植土混りのローム粒、ロームブロック主体。
3．黒褐色土…ロームブロック混りの腐植土。

第62図　080号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



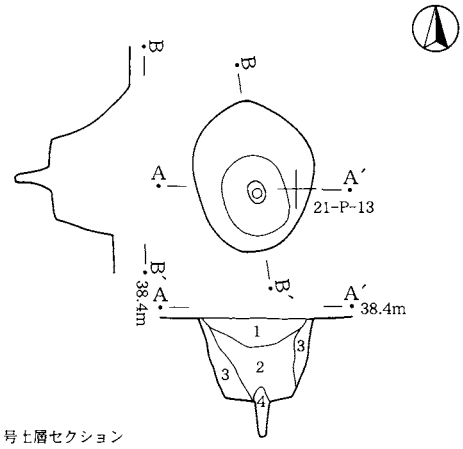
081 号土層セクション
1．黒褐色土…若干のローム粒混り、腐植土
2．褐　色　土…ローム粒混り、腐植土。
3．明黄褐色土…ローム粒、ロームブロック。
} 自然堆積

第63図　081号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



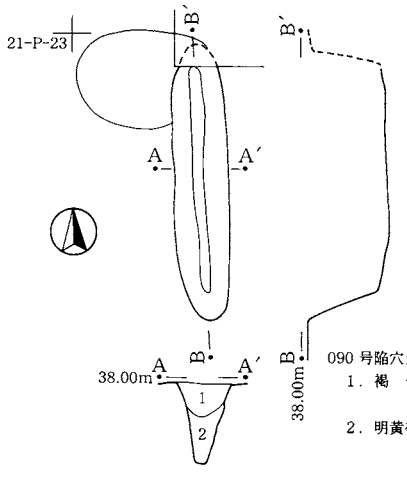
085 号土層セクション
1．黄褐色土…腐植土混り、ローム粒主体。
2．黒褐色土…ローム粒混り、腐植土。
3．黄褐色土…ブロック状腐植土混り、ローム粒、ロームブロック主体。
4．黄褐色土…腐植土混り、ロームブロック主体。

第64図　085号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



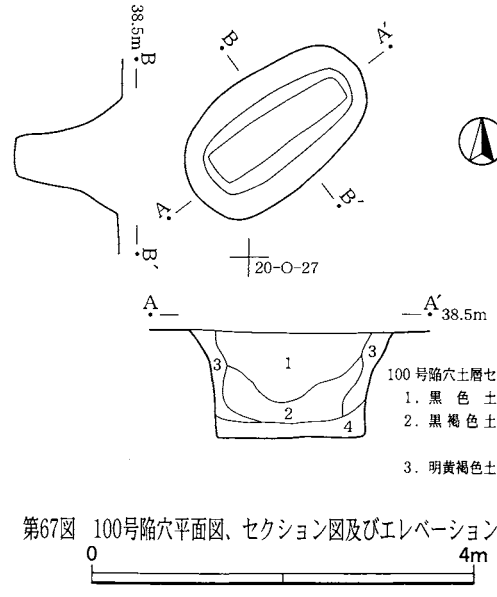
089 号土層セクション
1．黄褐色土…腐植土混りのローム粒、ロームブロック主体。
2．黒褐色土…ローム粒混りの腐植土。
3．明黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒主体。
4．黒褐色土…若干のローム粒混り、腐植土。ソフトローム含む。

第65図　089号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



090 号陥穴土層セクション
1．褐　色　土…腐植土混りのローム粒。
2．明黄褐色土…ローム粒、ロームブロック主体。

第66図　090号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



100 号陥穴土層セクション
1．黒　色　土…腐植土。
2．黒褐色土…若干のローム粒混り、腐植土。
3．明黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒。

第67図　100号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

0　4m

に近い楕円形である。床面はほぼ平坦でピットが２個検出されている。径15～30cmの円形で深さは15cm前後である。規模は長軸1.43m、短軸1.02m、深さ0.65mである。長軸方位はＮ－87°－Ｗを示す。壁は床面より急激に立ち上がる。覆土は上層が腐植土混じりのローム粒が主体の褐色土、下層がローム粒、ロームブロック混じりの腐植土主体の黒褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピットを持つタイプである。

081号陥穴（第63図、図版13）

調査北側、19－Ｑ－90区に位置する。開口部は楕円形、坑底は隅丸長方形である。床面はほぼ平坦で中央部分にピットが一列に６個並ぶ。径12～15cmの円形で深さ35～45cmのものである。規模は長軸1.95m、短軸1.23m、深さ0.89mである。長軸方位はＮ－７°－Ｅを示す。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、中層がローム粒混じりの腐植土主体の褐色土、下層がローム粒、ロームブロック主体の明黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピットを持つタイプである。

085号陥穴（第64図、図版13）

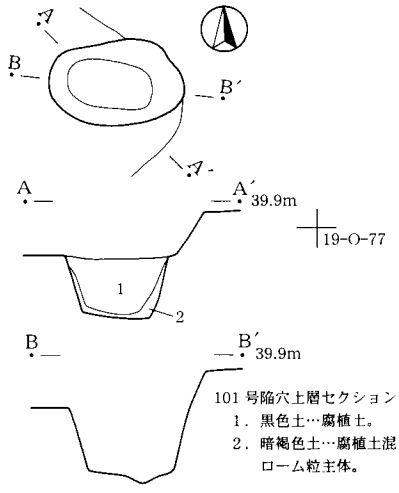
調査区北西側、19－Ｏ－93区に位置する。開口部は隅丸方形、坑底は隅丸方形である。床面はほぼ平坦でピットは見られない。規模は長軸1.80m、短軸1.23m、深さ1.00mである。長軸方位はＮ－９°－Ｗを示す。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は上層が腐植土混じりのローム粒主体の黄褐色土、中層がローム粒混じり腐植土主体の黒褐色土、下層がローム粒、ロームブロック主体の明黄～黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピットを持たないタイプである。

089号陥穴（第65図、図版13）

調査区中央南側、21－Ｐ－13区に位置する。開口部はほぼ楕円形、坑底はほぼ楕円形である床面は平坦で中央に１個ピットが見られる。径15cmの円形で深さ35cmのものである。規模は長軸1.55m、短軸1.25m、深さ0.83mである。長軸方位はＮ－９°－Ｗを示す。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は上層が腐植土混じりのローム粒、ロームブロック主体の黄褐色土、中層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、下層がローム粒混じりの腐植土主体の明黄褐色土、またピット部分が腐植土主体の黒褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅳ類のピットを持つタイプである。

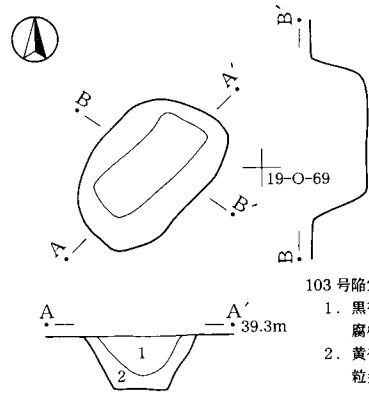
090号陥穴（第66図、図版14）

調査中央南側、21－Ｐ－23区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は細長く狭くなる。床面はやや凹凸が見られる。規模は長軸2.20m以上、短軸0.53m、深さ0.85mである。長軸方位はＮ－５°－Ｗを示す。壁は崩落部分を除き、急激に立ち上がる。覆土は上層が腐植土混じりのローム粒主体の褐色土、下層がローム粒、ロームブロック、ソフトローム主体の明褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅰ類のピットを持たないタイプである。



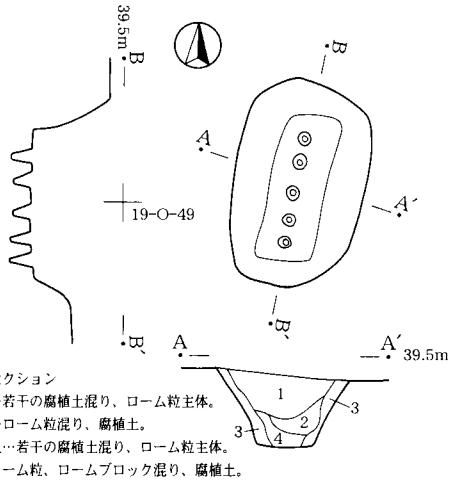
101 号陥穴土層セクション
1．黒色土…腐植土。
2．暗褐色土…腐植土混り、ローム粒主体。

第68図　101号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



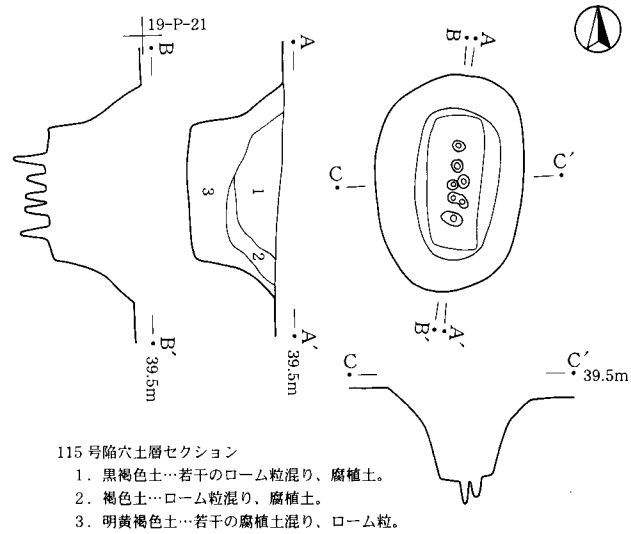
103 号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒混りの腐植土。
2．黄褐色土…1よりもローム粒多い。

第69図　103号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



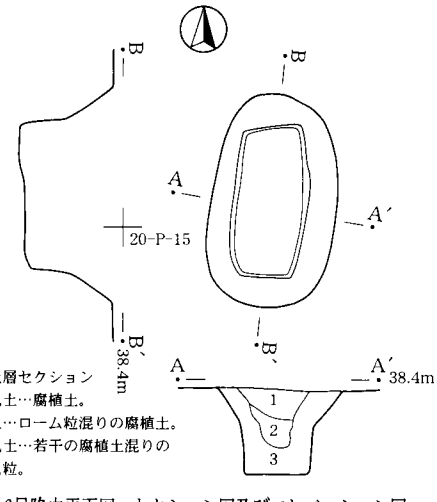
114 号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒主体。
2．黒褐色土…ローム粒混り、腐植土。
3．明黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒主体。
4．褐色土…ローム粒、ロームブロック混り、腐植土。
いずれも自然堆積。

第70図　114号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



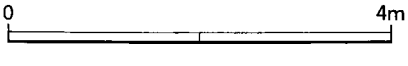
115 号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…若干のローム粒混り、腐植土。
2．褐色土…ローム粒混り、腐植土。
3．明黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒。

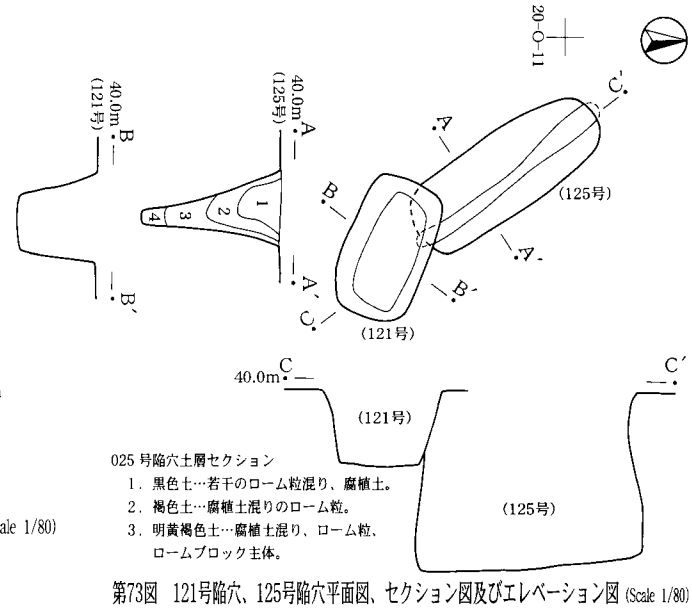
第71図　115号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



116 号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…腐植土。
2．褐色土…ローム粒混りの腐植土。
3．黄褐色土…若干の腐植土混りのローム粒。

第72図　116号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)





025 号陥穴土層セクション
1．黒色土…若干のローム粒混り、腐植土。
2．褐色土…腐植土混りのローム粒。
3．明黄褐色土…腐植土混り、ローム粒、ロームブロック主体。

第73図　121号陥穴、125号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

100号陥穴（第67図、図版14）

調査区北西側、20－O－17区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は長方形になる。床面は平坦でピットは見られない。規模は長軸2.12m、短軸1.21m、深さ1.12mである。長軸方位はN－56°－Eを示す。壁は床面より急激に立ち上がり、開口部で崩落のためやや斜めに立ち上がる。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、中層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、下層がローム粒、ロームブロック混じりの黒褐色土である。床面の直上に薄く腐食土主体の黒色土が見られる。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅱ類のピットを持たないタイプである。

101号陥穴（第68図、図版14）

調査区北側、19－O－66区に位置する。開口部は楕円形、坑底は楕円形になる。床面は平坦でピットは見られない。規模は長軸1.40m、短軸0.94m、深さ1.08mである。長軸方位はN－82°－Wを示す。120号住居跡（古墳時代）の北東壁際から床面にかけて検出されたため開口部分の形態は正確ではない。壁は床面より急激に立ち上がる。覆土はセクションが残されていないので不明である。遺物等は出土しなかった。第Ⅳ類のピットを持たないタイプである。

103号陥穴（第69図、図版14）

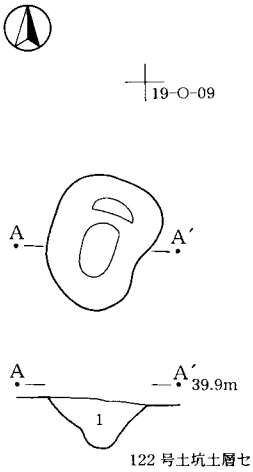
調査区北側、19－O－68区に位置する。開口部は隅丸長方形に近い楕円形、坑底は長方形になる。床面は平坦でピットは見られない。規模は長軸1.73m、短軸1.12m、深さ0.56mである。長軸方位はN－42°－Eを示す。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、中層がローム粒が多く混じる黄褐色土、下層が若干の腐食土混じりのローム粒、ロームブロック主体の明褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピットを持たないタイプである。

114号陥穴（第70図、図版14）

調査区北側、19－O－40区に位置する。開口部は隅丸長方形に近い楕円形、坑底は長方形になる。床面は平坦で中央部に径15cm、深さ22cm前後の円形のピットが５個一列に並ぶ。規模は長軸2.15m、短軸1.37m、深さ0.83mである。長軸方位はN－14°－Eを示す。壁は崩落のためやや斜めに立ち上がる。覆土は上層が腐植土混じりのローム粒主体の黒褐色土、中層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、壁際に腐植土混じりの明黄褐色土である崩落土が見られる。下層がローム粒、ロームブロック主体の褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピットを持つタイプである。

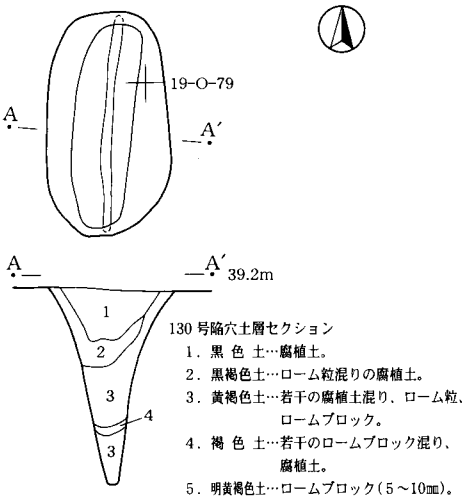
115号陥穴（第71図、図版14）

調査区北側、19－P－21区に位置する。開口部は楕円形、坑底は隅丸長方形になる。床面は平坦で中央部に径12～15cmの円形～楕円形のピットが７個検出されている。そのうち５個はほぼ一列に等間隔で並ぶ。深さは20～30cm前後である。規模は長軸2.48m、短軸1.55m、深さ0.97mである。長軸方位はN－6°－Eを示す。壁は崩落のためやや開口部に向かって広がり気味に立ち上がる。覆土は上層が若干のローム粒混じり腐植土主体の黒褐色土、中層がローム粒混じり腐植土主体の褐色土、下層が若干の腐植土混じりのローム粒が主体の明黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピッ



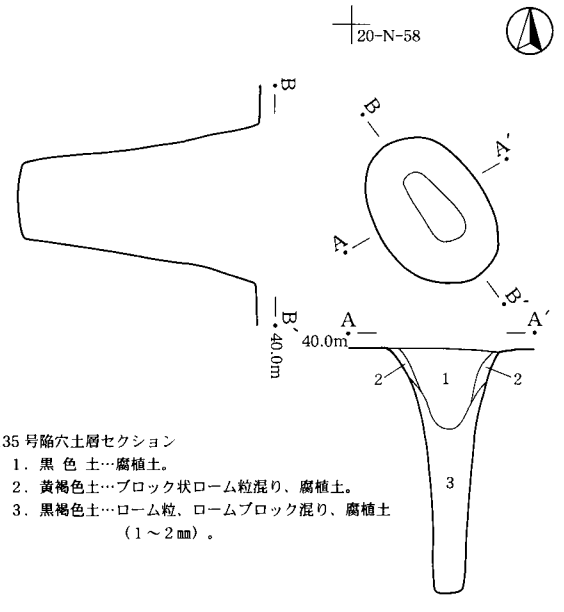
122 号土坑土層セクション
1．褐色土…若干のロームブロック、腐植土混り、ローム粒主体。

第74図　122号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



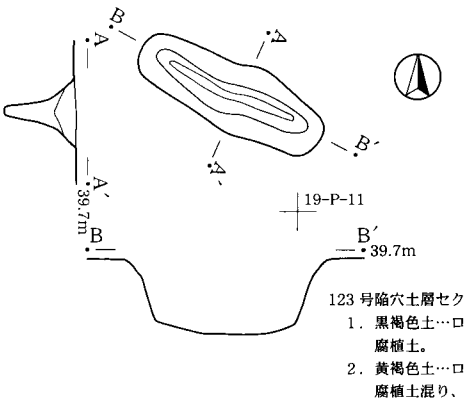
130 号陥穴土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．黒褐色土…ローム粒混りの腐植土。
3．黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒、ロームブロック。
4．褐 色 土…若干のロームブロック混り、腐植土。
5．明黄褐色土…ロームブロック（5～10㎜）。

第76図　130号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



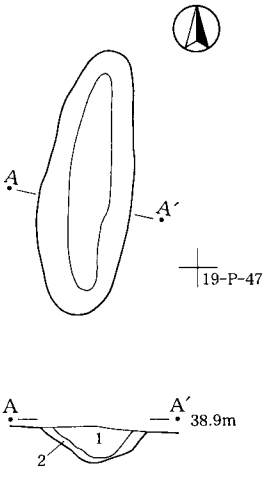
135 号陥穴土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．黄褐色土…ブロック状ローム粒混り、腐植土。
3．黒褐色土…ローム粒、ロームブロック混り、腐植土（1～2㎜）。

第78図　135号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



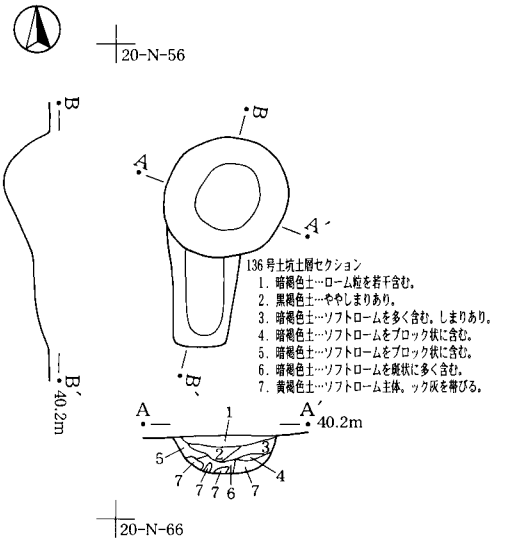
123 号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒混り、腐植土。
2．黄褐色土…ロームブロック、腐植土混り、ローム粒もろい。

第75図　123号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



131 号土坑土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒混りの腐植土。
2．黄褐色土…若干の腐植土混りのローム粒。

第77図　131号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



136 号土坑土層セクション
1．暗褐色土…ローム粒を若干含む。
2．黒褐色土…ややしまりあり。
3．暗褐色土…ソフトロームを多く含む。しまりあり。
4．暗褐色土…ソフトロームをブロック状に含む。
5．暗褐色土…ソフトロームをブロック状に含む。
6．暗褐色土…ソフトロームを斑状に多く含む。
7．黄褐色土…ソフトローム主体。ック灰を帯びる。

第79図　136号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

0　4m

トを持つタイプである。

116号陥穴（第72図、図版15）

調査区北側、20－Ｐ－15区に位置する。開口部は楕円形、坑底は隅丸長方形になる。床面はやや片側が深くなるようではあるがほぼ平坦である。ピット等は見られない。規模は長軸2.33m、短軸1.30m、深さ0.92mである。長軸方位はＮ－５°－Ｅを示す。壁は床からほぼ直立し、開口部に向かって大きく広がる。覆土は上層が腐植土主体の黒褐色土、中層がローム粒混じりの腐植土主体の褐色土、下層が腐植土混じりのローム粒主体の黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピットを持たないタイプである。

121号陥穴（第73図、図版15）

調査区北西側、20－Ｏ－11区に位置する。125号陥穴を切る形で作られている。開口部は隅丸長方形、坑底は隅丸長方形に近い形である。床面はほぼ平坦である。ピット等は見られない。規模は長軸1.50m、短軸0.88m、深さ0.78mである。長軸方位はＮ－70°－Ｗを示す。壁は床から急激に立ち上がる。覆土はセクション図が残されていないので詳細は不明である。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類のピットを持たないタイプである。

123号陥穴（第75図、図版15）

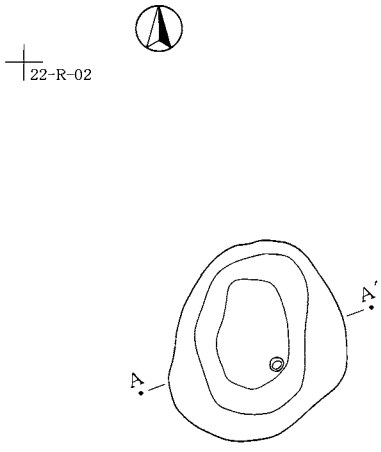
調査区北側、19－Ｐ－00区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は細長く狭くなっている。床面はやや両側に緩やかに立ち上がる。ピット等は見られない。規模は長軸2.10m、短軸0.74m、深さ0.78mである。長軸方位はＮ－62°－Ｗを示す。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、下層がロームブロック、腐植土混じりのローム粒主体の黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類のピットを持たないタイプである。

125号陥穴（第73図、図版15）

調査区北西側、20－Ｏ－11区に位置する。121号陥穴に切られる形で作られている。開口部は一部壊されているものの長楕円形、坑底は細長く狭くなっている。床面はほぼ平坦である。ピット等は見られない。規模は長軸2.20m以上、短軸0.73m、深さ1.86mである。長軸方位はＮ－40°－Ｗを示す。壁は床からオーバーハング気味に立ち上がり開口部に向かってやや外反する。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の黒色土、中層が腐植土混じりのローム粒、ロームブロック主体の褐～明黄褐色土、下層が若干の腐植土混じりのローム粒、ロームブロック主体の灰褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅰ類のピットを持たないタイプである。

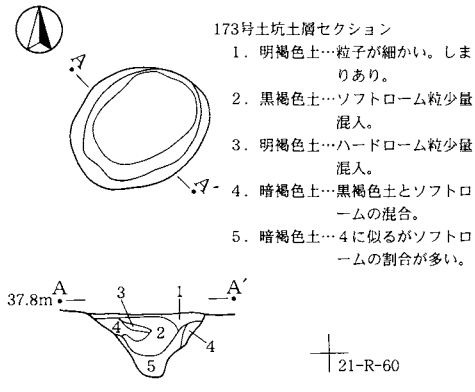
130号陥穴（第76図、図版15）

調査区北側、19－Ｏ－77区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は細長く狭くなる。床面は幅が10cm余りで細くやや丸く窪む。規模は長軸2.37m、短軸1.26m、深さ2.02mである。長軸方位はＮ－３°－Ｅを示す。壁は開口部に向かって急激に立ち上がりあまり崩落も認められない。覆土は上層が腐植土主体の黒～



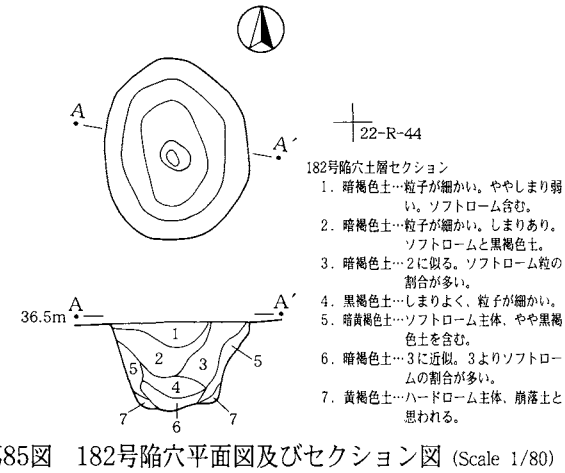
168号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒、ローム
　ブロック少し含む。
2．明褐色土…ローム粒少し含む。
3．黒 色 土…ロームブロック少し含む。
4．明褐色土…2よりやや暗色。ローム粒少量。
5．暗褐色土…やや粒子粗い。しまりやや弱い。
6．暗褐色土…5にロームブロックを含む。
7．黄褐色土…ローム漸移層。

第80図　168号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



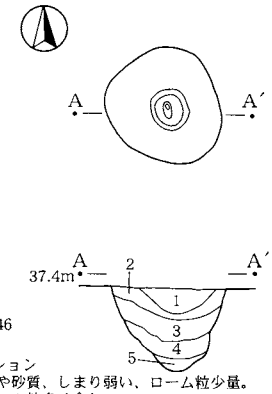
173号土坑土層セクション
1．明褐色土…粒子が細かい。しまりあり。
2．黒褐色土…ソフトローム粒少量混入。
3．明褐色土…ハードローム粒少量混入。
4．暗褐色土…黒褐色土とソフトロームの混合。
5．暗褐色土…4に似るがソフトロームの割合が多い。

第83図　173号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



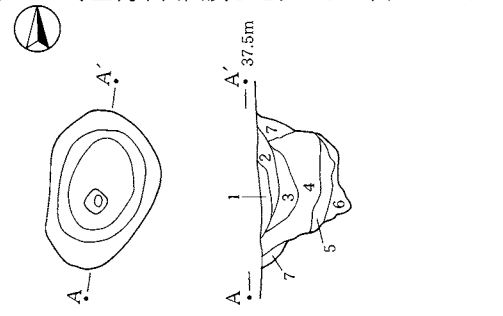
182号陥穴土層セクション
1．暗褐色土…粒子が細かい。ややしまり弱い。ソフトローム含む。
2．暗褐色土…粒子が細かい。しまりあり。ソフトロームと黒褐色土。
3．暗褐色土…2に似る。ソフトローム粒の割合が多い。
4．黒褐色土…しまりよく、粒子が細かい。
5．暗黄褐色土…ソフトローム主体、やや黒褐色土を含む。
6．暗褐色土…3に近似。3よりソフトロームの割合が多い。
7．黄褐色土…ハードローム主体、崩落土と思われる。

第85図　182号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



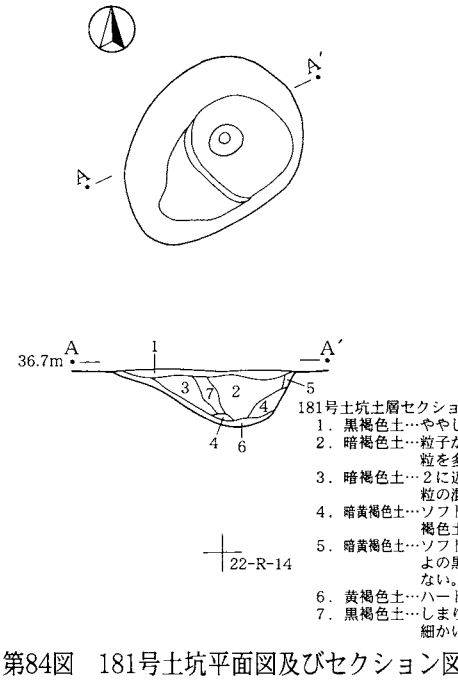
169号土坑土層セクション
1．暗褐色土…やや砂質、しまり弱い、ローム粒少量。
2．暗褐色土…ローム粒多く含む。
3．黒褐色土…ややしまり弱い。
4．黒褐色土…3に類似、ローム粒、ロームブロック含む。
5．暗褐色土…しまり強い、ローム粒、ロームブロック含む。

第81図　169号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



170号陥穴土層セクション
1．暗褐色土…しまりよし。
2．暗褐色土…粒子やや粗く、しまりやや弱い。ローム粒を少し含む。
3．黒褐色土…2に類似。ローム粒を少し含む。
4．明褐色土…粒子が細かくしまり良。ローム粒、ロームブロック含む。
5．暗褐色土…しまり良。0.5～1　のロームブロックを含む。
6．明褐色土…4にローム粒、ロームブロックを多く含む。
7．黄褐色土…ローム粒を主体。
　いずれも自然堆積と思われる。

第82図　170号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



181号土坑土層セクション
1．黒褐色土…ややしまり弱い。
2．暗褐色土…粒子が細かい。ローム粒を多く含む。
3．暗褐色土…2に近似するがローム粒の混入がない。
4．暗黄褐色土…ソフトローム主体、黒褐色土の混入少ない。
5．暗黄褐色土…ソフトローム主体、4よの黒褐色土の混入少ない。
6．黄褐色土…ハードローム主体。
7．黒褐色土…しまりが強く、粒子が細かい。粘性少ない。

第84図　181号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

黒褐色土、中層が腐植土混じりのローム粒、ロームブロック主体の黄褐～褐色土、下層がロームブロック主体の明黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅰ類のピットを持たないタイプである。

135号陥穴（第78図、図版16）

調査区西側、20－N－58区に位置する。開口部は楕円形、坑底は隅丸長方形～楕円形になる。床面はほぼ平坦でやや中央部が下がる。床面にはピットは見られない。規模は長軸1.64m、短軸1.20m、深さ2.52mである。長軸方位はN－38°－Wを示す。壁は開口部に向かってやや広がりながら急激に立ち上がる。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、下層がローム粒、ロームブロック主体の黒褐色土である。下層を人為的に埋め戻した可能性がある。遺物等は出土しなかった。第Ⅱ類のピットを持たないタイプである。

168号陥穴（第80図、図版16）

調査区東南側、22－R－02区に位置する。開口部は楕円形、坑底は隅丸長方形～楕円形になる。床面はほぼ平坦で南東隅に径10cmのロームの塊部分が残る。床面にピットは見られない。規模は長軸2.08m、短軸1.76m、深さ1.20mである。長軸方位はN－5°－Eを示す。壁は崩落のためか途中からやや斜めに立ち上がる。覆土は上層が腐植土主体の黒褐色土とロームブロック主体の明褐色土が交互に入る。中層がやや粒が粗くしまりがない暗褐色土、下層がロームブロックを含む暗褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピットを持たないタイプである。

170号陥穴（第82図、図版なし）

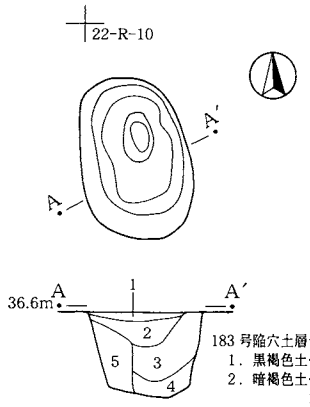
調査区東側、21－R－26区に位置する。開口部は楕円形、坑底はやや楕円形になる。床面はやや北側に緩やかに傾斜する。床面中程やや南よりに径22cm、深さ10cm程の小さな円形ピットが１個検出されている。規模は長軸1.65m、短軸1.13m、深さ0.85mである。長軸方位はN－20°－Eを示す。壁は崩落のためかやや斜めに立ち上がる。覆土は上層が腐植土混じりの暗～黒褐色土、中層がローム粒、ロームブロック主体の明褐色土、下層がロームブロックを多く含む明～黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅳ類のピットを持つタイプである。

182号陥穴（第85図、図版16）

調査区東南側、22－R－43区に位置する。開口部は楕円形、坑底は隅丸方形に近い楕円形になる。床面はほぼ平坦で中央に径30～40cm、深さ32cmの楕円形ピットが１個検出されている。規模は長軸1.87m、短軸1.48m、深さ0.92mである。長軸方位はN－10°－Wを示す。壁は東側がやや崩落のためやや斜めに立ち上がる。覆土は上層がソフトローム粒と腐植土の混ざり合う暗褐色土、中層がしまりの良い粒子が細かい黒褐色土、下層がソフトロームが多く混ざる暗褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピットを持つタイプである。

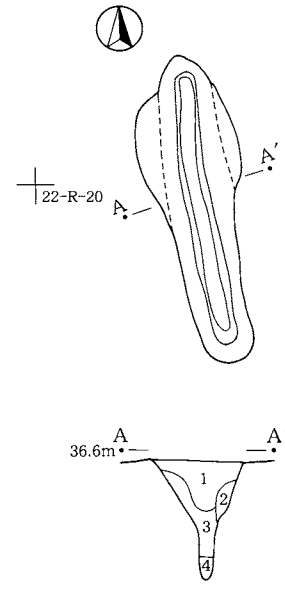
183号陥穴（第86図、図版17）

調査区東南側、22－R－10区に位置する。開口部は隅丸長方形に近い楕円形、坑底は隅丸方形になる。



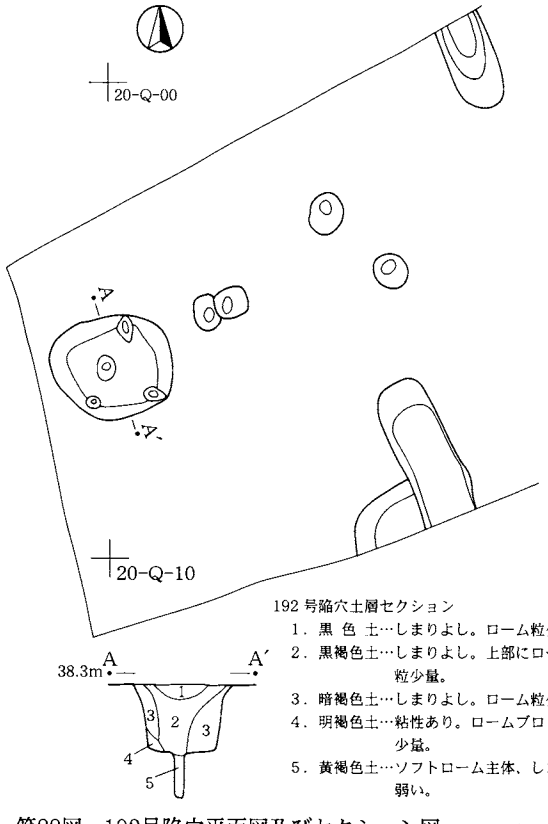
183 号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…粒子が細かい。粘性なし。
2．暗褐色土…粒子がかなり細かい。しまりなし。
3．暗褐色土…ハードロームの小ブロックが少量混入。
4．暗褐色土…3と近似する。ハードロームの混入なし。
5．暗黄褐色土…ソフトローム主体、ややしまりなし。黒褐色土混入。

第86図　183号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



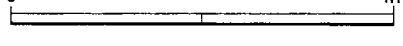
184 号陥穴土層セクション
1．黒 褐 色 土…粒子が細かい。しまりよい。
2．暗黄褐色土…ややしまりなし、ソフトローム主体、黒褐色土少量混入。
3．暗 褐 色 土…粒子が細かい。しまりややあり。粘性。
4．黒 褐 色 土…しまりなし。

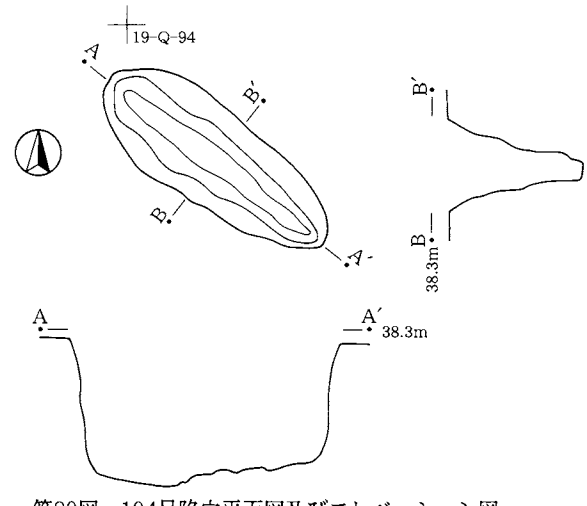
第87図　184号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



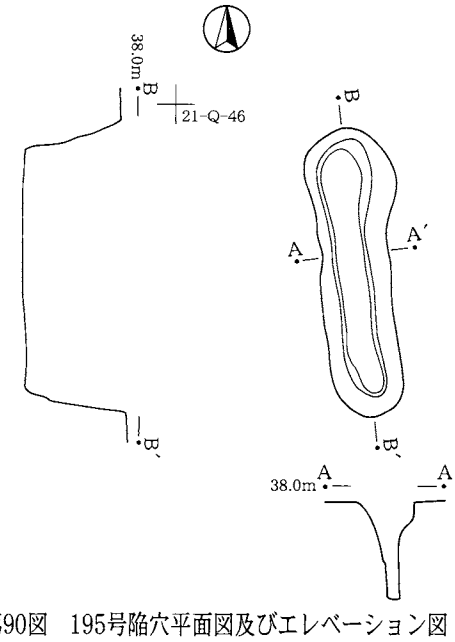
192 号陥穴土層セクション
1．黒 色 土…しまりよし。ローム粒少量。
2．黒褐色土…しまりよし。上部にローム粒少量。
3．暗褐色土…しまりよし。ローム粒少量。
4．明褐色土…粘性あり。ロームブロック少量。
5．黄褐色土…ソフトローム主体、しまり弱い。

第88図　192号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)
（その他周辺遺構平面図含む）





第89図　194号陥穴平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第90図　195号陥穴平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

床面はほぼ平坦で中央部に径30～50cm、深さ20cmの楕円形ピットが１個持検出されている。規模は長軸1.73m、短軸1.14m、深さ0.9mである。長軸方位はN－12°－Wを示す。壁はやや崩落しているため少し斜めに立ち上がる。覆土は上層が粒子が細かくしまりが良い黒～暗褐色土、中層がハードローム粒が少量混ざる暗褐色土、下層がソフトロームが主体の暗黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。いずれも自然堆積と思われる。第Ⅲ類のピットを持つタイプである。

184号陥穴（第87図、図版17）

調査区東南側、22－R－20区に位置する。開口部は北側で崩落のためやや膨らむが基本的には長楕円形でやや長軸が歪むように掘られている。坑底は細長くなる。床面は細く北側部分が若干下がる。規模は長軸3.25m、短軸1.05m、深さ1.25mである。長軸方位はN－10°－Wを示す。壁は前述のとおり開口部で崩落している部分では比較的斜めに立ち上がるが、その他では細く急激に立ち上がるようである。覆土は上層が粒子が細かくしまりの良い黒褐色土、中層がしまりがなくソフトロームが主体の暗褐色土、下層がしまりのない黒褐色土である。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類のピット持たないタイプである。

192号陥穴（第88図、図版17）

調査区中央北側、20－Q－00区に位置する。開口部はほぼ円形、坑底はやや角張った円形に近い形になる。床面はほぼ平坦である。床面中央部分と壁際に４個のやや楕円気味のピットが検出されている。径10～20cm前後、深さ15～35cm前後のものである。規模は長軸1.23m、短軸1.06m、深さ0.70mである。長軸方位はN－90°－Wを示す。壁は比較的急激に立ち上がる。覆土は上層がローム粒が少量含まれ、しまりが良い黒色土、中層がローム粒が少量含まれる黒褐色土、下層が粘性が強く、ロームブロックが少量混ざる明～黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。第Ⅳ類のピットを持つタイプである。

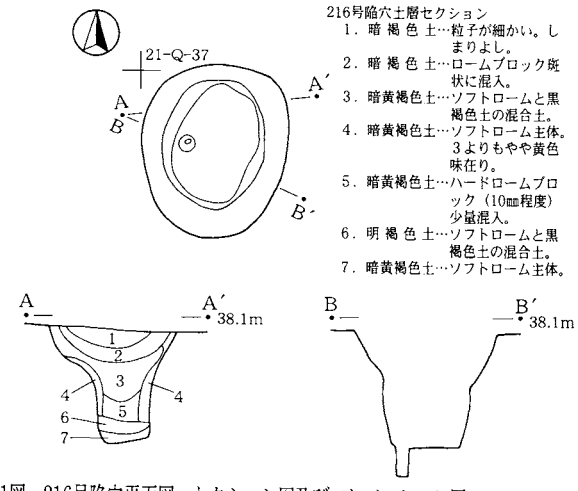
他にこの周辺にピットや土坑状の落ち込みが７ヶ所見られている。ピットについては同時期ではないようである。ピットについては径40cm前後、深さ40～50cmの円形のものであるが遺構の一部であるかどうかは不明である。土坑についても比較的掘り込みはしっかりしているようではあるが性格時代は不明である。また、境界線上にあったため改めて残りの部分を調査したときには認められなかったので全容は不明である。

194号陥穴（第89図、図版17）

調査区北側、19－Q－94区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は細長く狭い。床面は北より部分が少し下がるものの南側に向かってやや高くなる。床面にピット等は見られない。規模は長軸2.82m、短軸1.02m、深さ1.54mである。長軸方位はN－51°－Wを示す。壁は崩落のためやや斜めに立ち上がる。覆土はセクション図を実測していないので不明である。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類のピットを持たないタイプである。

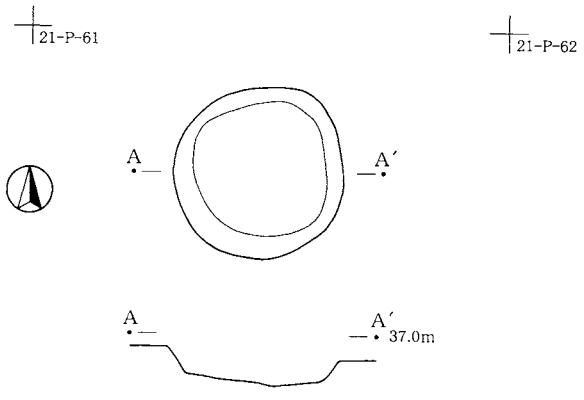
195号陥穴（第90図、図版18）

調査区中央南側、21－Q－46区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は細長い長楕円形になる。床面はほぼ平坦である。規模は長軸3.05m、短軸0.70m、深さ1.06mである。長軸方位はN－10°－Wを示す。壁

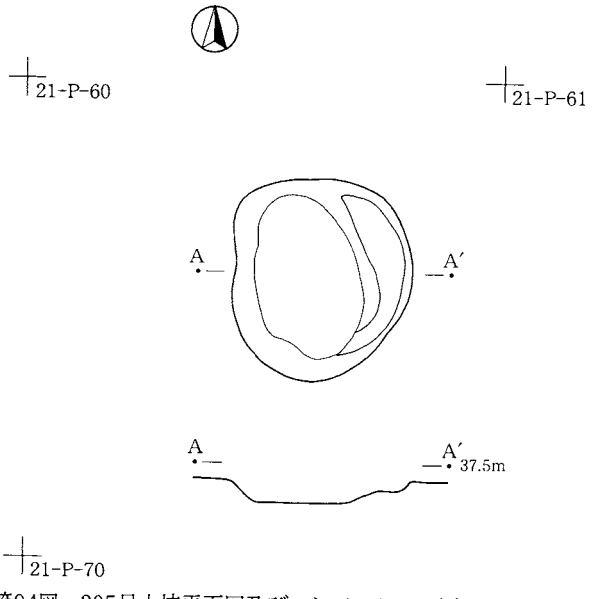


216号陥穴土層セクション
1．暗 褐 色 土…粒子が細かい。しまりよし。
2．暗 褐 色 土…ロームブロック斑状に混入。
3．暗黄褐色土…ソフトロームと黒褐色土の混合土。
4．暗黄褐色土…ソフトローム主体。3よりもやや黄色味在り。
5．暗黄褐色土…ハードロームブロック（10㎜程度）少量混入。
6．明 褐 色 土…ソフトロームと黒褐色土の混合土。
7．暗黄褐色土…ソフトローム主体。

第91図　216号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

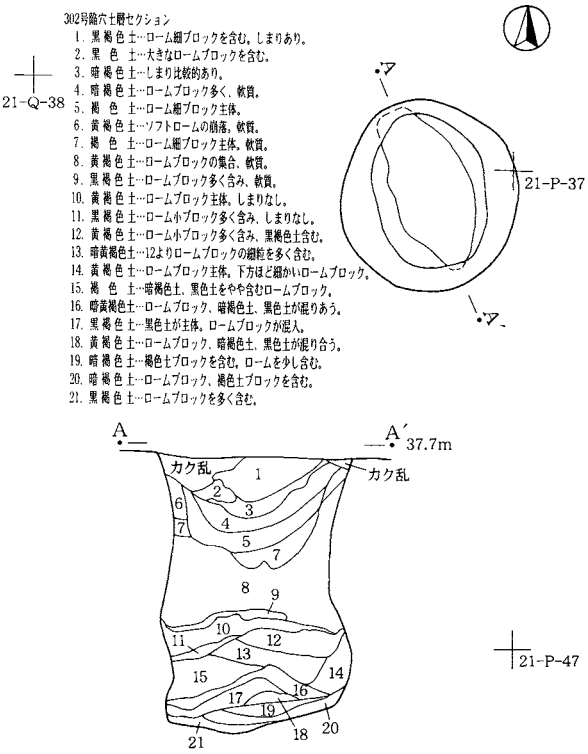


第93図　304号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

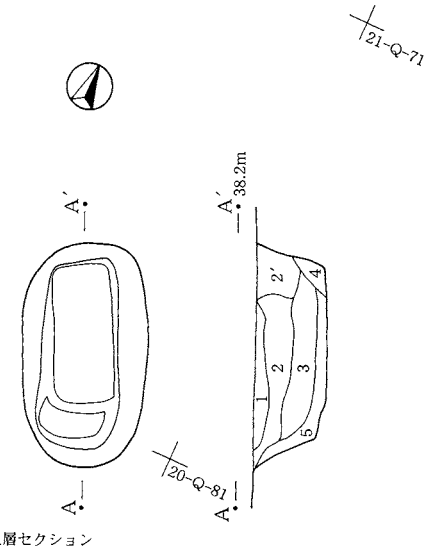


第94図　305号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

302号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…ローム細ブロックを含む。しまりあり。
2．黒 色 土…大きなロームブロックを含む。
3．暗褐色土…しまり比較的あり。
4．暗褐色土…ロームブロック多く、軟質。
5．褐 色 土…ローム細ブロック主体。
6．黄褐色土…ソフトロームの崩落。軟質。
7．褐 色 土…ローム細ブロック主体。軟質。
8．黄褐色土…ロームブロックの集合。軟質。
9．黒褐色土…ロームブロック多く含み、軟質。
10．黄褐色土…ロームブロック主体。しまりなし。
11．黒褐色土…ローム小ブロック多く含み、しまりなし。
12．黄褐色土…ローム小ブロック多く含み、黒褐色土含む。
13．暗黄褐色土…12よりロームブロックの細粒を多く含む。
14．黄褐色土…ロームブロック主体。下方ほど細かいロームブロック。
15．褐 色 土…暗褐色土、黒色土をやや含むロームブロック。
16．暗黄褐色土…ロームブロック、暗褐色土、黒色土が混りあう。
17．黒褐色土…黒色土が主体。ロームブロックが混入。
18．黄褐色土…ロームブロック、暗褐色土、黒色土が混り合う。
19．暗褐色土…褐色土ブロックを含む。ロームを少し含む。
20．暗褐色土…ロームブロック、褐色土ブロックを含む。
21．黒褐色土…ロームブロックを多く含む。



第92図　302号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



306号陥穴土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒。比較的しまりあり。
2．暗褐色土…ローム粒含む。比較的しまりあり。2′はやや黒味の強い部分。
3．黒色～黒褐色土…1より黒味を帯びる。しまり強い。
4．暗褐色土…ローム細ブロックを多量含む。軟質。
5．褐 色 土…ローム細ブロックが多量にみられる。粘性あり。しまりあり。

第95図　306号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

0　4m

は床面近くは急に、開口部近くはやや広がるように斜めに立ち上がる。覆土はセクション図を実測していないので不明である。遺物等は出土しなかった。第Ⅰ類のピットを持たないタイプである。

216号陥穴（第91図、図版18）

調査区中央南側、21－Q－37区に位置する。開口部は楕円形、坑底は楕円形になる。床面はほぼ平坦で西壁際に径15cm、深さ30cmの円形のピットが1個検出されている。規模は長軸1.85m、短軸1.52m、深さ1.17mである。長軸方位はN－25°－Eを示す。壁は床面から直立し、途中から開口部に向かってやや斜めに広がる。覆土は上層がソフトロームが主体の明～暗黄褐色土、中層がハードローム粒が多く含まれる暗黄褐色土、下層がソフトロームが主体の暗黄褐色土である。遺物等は出土しなかった。第Ⅳ類のピットを持つタイプである。

302号陥穴（第92図、図版18）

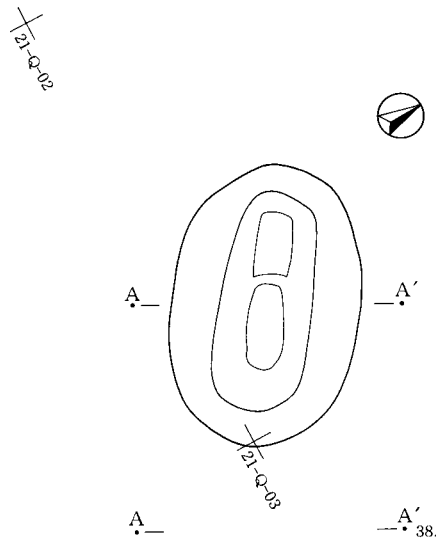
調査区中央、21－P－36区に位置する。開口部はほぼ円形、坑底は楕円形になる。床面は中央部がやや下がり気味である。ピット等は見られない。規模は長軸2.03m、短軸1.94m、深さ2.90mである。長軸方位はN－20°－Wを示す。壁は床面近くでややオーバーハング気味に立ち上がり、開口部付近でやや外側に広がる。覆土は上層が黒色土（腐植土）と褐色土（ソフトローム主体）が交互に堆積した数枚の土層となる。中層はハードロームブロックが崩落して形成された層である。下層は黒褐色土（腐植土主体でローム粒が混ざり込む）とロームブロック主体の暗黄褐色土が交互に堆積した十数枚の堆積層となる。顕著な崩落による自然堆積層と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅳ類でピットを持たないタイプである。

306号陥穴（第95図、図版19）

調査区中央東側、20－Q－70区に位置する。開口部はほぼ隅丸長方形、坑底はやや南側に張り出し部分が見られるものの基本的には長方形になるものと思われる。途中で掘り直したものかもしれない。床面にはピット等は見られない。規模は長軸2.38m、短軸1.32m、深さ0.73mである。長軸方位はN－23°－Wを示す。壁はやや斜めに立ち上がる。覆土は上層がローム粒を含みしまりのある黒～暗褐色土、中層が黒味、しまりもある黒色～黒褐色土、下層がソフトローム粒が多く含まれる褐色土である。土層断面から判断すると南側は後から掘った部分のようにも見える。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットを持たないタイプである。

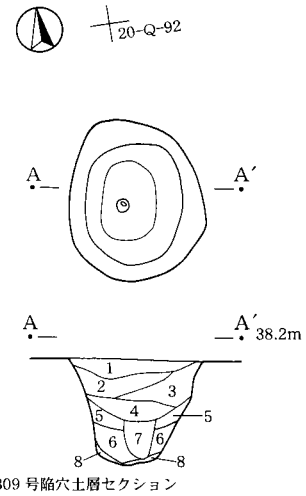
308号陥穴（第96図、図版19）

調査区中央、20－Q－92区に位置する。開口部は長楕円形、坑底は長楕円形に近い隅丸長方形になる。床面はやや南側が低く北側に多少高くなる傾向が窺われる。ピット等は見られない。規模は長軸2.94m、短軸1.98m、深さ2.30mである。長軸方位はN－55°－Wを示す。壁は床面から急激に立ち上がり、開口部に向かってやや外側に広がる。覆土は上層はローム粒が多少混ざる黒褐色土や暗褐色土が交互に堆積する。中層～下層までも似たような傾向が見られるが上層と比較するといずれも堆積状態は粗くスカスカな状況である。遺物等は出土しなかった。第Ⅱ類でピットを持たないタイプである。



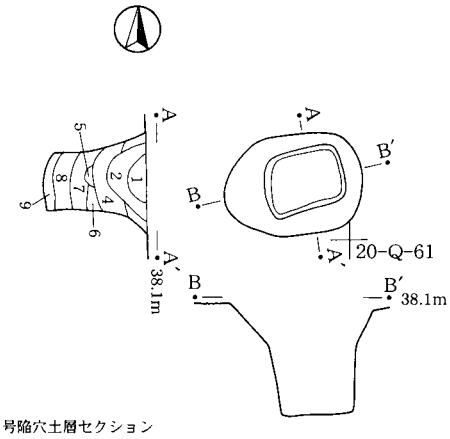
308 号陥穴土層セクション
1．黒　色　土…ローム粒子をわずかに含む。
2．黒 褐 色 土…ローム粒子をやや多く含む。
3．黒 褐 色 土…褐色土ブロックをやや多く含む。
4．暗 褐 色 土…褐色土ブロック少量、ロームブロック（2㎜）を少量含む。
5．暗 褐 色 土…ロームブロック（2㎜以上）をやや多量に含む。
6．暗黄褐色土…ロームブロックを多量に含む。
7．暗 褐 色 土…ローム粒子（小豆大）を多量に含む。堆積はやや疎。
8．暗黄褐色土…ローム粒子（小豆大）、ロームブロックを多量に含む。
9．暗黄褐色土…ロームブロック（5㎜）の層である。堆積は疎とサクサク。
10．暗 褐 色 土…ローム粒子を多量に含む。堆積は疎とサクサク。
11．黄 褐 色 土…ロームブロック（5㎜）の層である。堆積はサクサク。
12．暗黄褐色土…ローム粒子（大豆大）を多量に含む。堆積は疎でサクサク。
13．黄 褐 色 土…ロームブロックとローム粒子の層。堆積は疎でサクサク。
14．黄 褐 色 土…ロームブロック層である。堆積は疎でサクサク。
15．黒 褐 色 土…ローム粒子を少し含む。堆積は疎。
16．黄 褐 色 土…ロームブロック、ローム粒子の層で、堆積は疎。

第96図　308号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



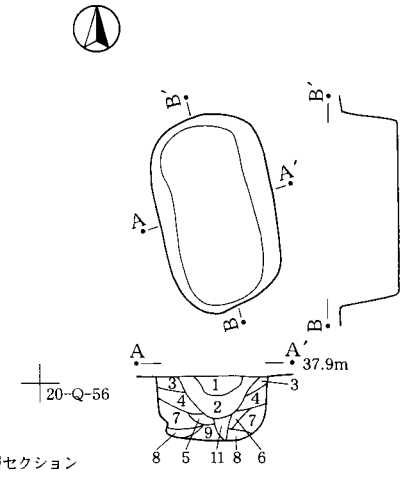
309 号陥穴土層セクション
1．暗 褐 色 土…ローム粒子をわずかに含む。
2．暗 褐 色 土…ローム粒子をわずか、ソフトロームを含む。
3．暗 褐 色 土…ソフトロームを少し含む。
4．黒　色　土…褐色土ブロックを少し含む。堆積はやや疎。
5．暗黄褐色土…ロームブロック（1㎜）を少し含む。
6．暗黄褐色土…ローム粒子をやや多く含む。
7．暗黄褐色土…ロームブロックを少し含む。6と比較してやや疎。
8．黄 褐 色 土…ロームブロック（3㎝）をやや多く含む。

第97図　309号陥穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



322 号陥穴土層セクション
1．黒 褐 色 土…ローム粒子を少し含む。
2．黒 褐 色 土…ローム粒子を少し、褐色土ブロックを少し含む。
3．暗黄褐色土…ロームブロックを多く含む。
4．暗 褐 色 土…褐色土ブロックを多く含む。
5．黒 褐 色 土…ローム粒子をわずかに含む。
6．暗 褐 色 土…ローム粒子を少し含む。
7．暗黄褐色土…ロームブロック（3㎝）を少し、ローム粒を少し含む。
8．暗黄褐色土…ロームブロックを多く含む。
9．暗 褐 色 土…ロームブロック（4㎝）をやや多く含む。堆積はやや疎。

第98図　322号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



323 号陥穴土層セクション
1．黒 褐 色 土…褐色土を含む。
2．黒 褐 色 土…ローム粒子をわずかに含む。
3．暗 褐 色 土…褐色土ブロックをやや多く含む。
4．暗 褐 色 土…ローム粒子を少し、褐色土を含む。
5．暗 褐 色 土…ローム粒子を含む。
6．暗黄褐色土…ロームブロック（3㎝）を多く含む。
7．黄 褐 色 土…ロームブロックを非常に多く含む。
8．暗 褐 色 土…褐色土ブロックを含む。堆積はやや疎。
9．黒 褐 色 土…褐色土ブロックを含む。
10．暗 褐 色 土…ロームブロックを多く含む。
11．暗 褐 色 土…褐色土ブロックをやや多く含む。

第99図　323号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

309号陥穴（第97図、図版19、20）

調査区中央、20－Q－92区に位置する。開口部は楕円形、坑底は隅丸方形になる。床面はほぼ平坦で中央に径12cm、深さ23cmの円形のピットが１個検出されている。規模は長軸1.67m、短軸1.43m、深さ1.02mである。長軸方位はN－16°－Eを示す。壁はやや斜めに立ち上がる。土層断面観察によると中層の位置で再利用している様子が窺われる。覆土は上層の暗褐色土の３枚は再利用後の自然堆積と思われるが、それ以下の土層は人為堆積である可能性は高い。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットを持つタイプである。

322号陥穴（第98図、図版20）

調査区中央、20－Q－50区に位置する。開口部はやや楕円がかった隅丸方形、坑底は方形になる。床面はほぼ平坦で、ピット等は見られない。規模は長軸1.43m、短軸1.07m、深さ1.15mである。長軸方位はN－76°－Eを示す。壁は床面から急激に立ち上がり、開口部にかけて南側でやや緩やかに立ち上がる。覆土は上層がローム粒や褐色土ブロックを少し含む黒褐色土や褐色土ブロックを多く含む暗褐色土、中層がローム粒を少し含む黒～暗褐色土、下層がロームブロックをやや多く含む暗～暗黄褐色土である。堆積の状態から埋まりながらも使用していた状況が窺われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットのないタイプである。

323号陥穴（第99図、図版20）

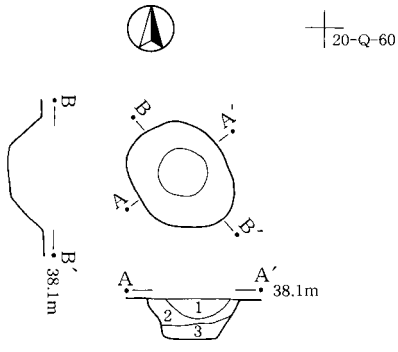
調査区中央、20－Q－46区に位置する。開口部、坑底とも隅丸長方形になる。床面はほぼ平坦で、ピット等は見られない。規模は長軸2.02m、短軸1.18m、深さ0.64mである。長軸方位はN－14°－Wを示す。壁は床面から少し斜めに立ち上がり、中程からほぼまっすぐに立ち上がる。覆土は上層が褐色土やローム粒を少し含む黒褐色土、中層がローム粒、褐色土をわずかに含む暗褐色土、下層が褐色土ブロックを多く含む暗黄褐色土である。人為的な埋土である可能性が高い。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットのないタイプである。

326号陥穴（第102図、図版20）

調査区中央北東側、20－Q－09区に位置する。開口部はやや丸みのある隅丸長方形、坑底は隅丸長方形である。床面はほぼ平坦で、中程長軸方向に径12cm、深さ40cmの円形のピットが２個検出されている。規模は長軸2.08m、短軸1.34m、深さ0.77mである。長軸方位はN－35°－Eを示す。壁は床面からほぼ垂直に立ち上がり、中程からやや斜めに立ち上がる。覆土は上層がローム粒や褐色土を少し含む黒褐色土、中層がソフトロームやロームブロックが混ざる暗黄褐色土、下層がローム粒をわずかに含む暗褐色土である。堆積の状態から埋まりながらも使用していた状況が窺われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットを持つタイプである。

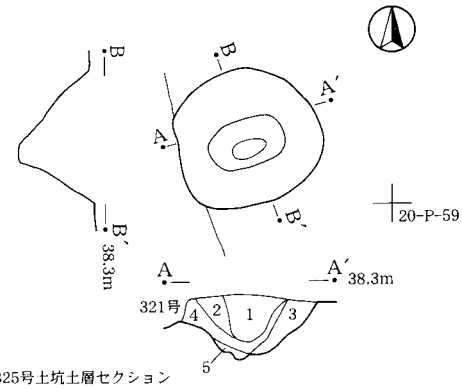
329号陥穴（第104図、図版21）

調査区中央、20－Q－24区に位置する。開口部はやや丸みのある隅丸長方形、坑底はやや不定形な長方形である。床面はほぼ平坦で、ピット等は見られない。規模は長軸1.87m、短軸1.08m、深さ0.69mであ



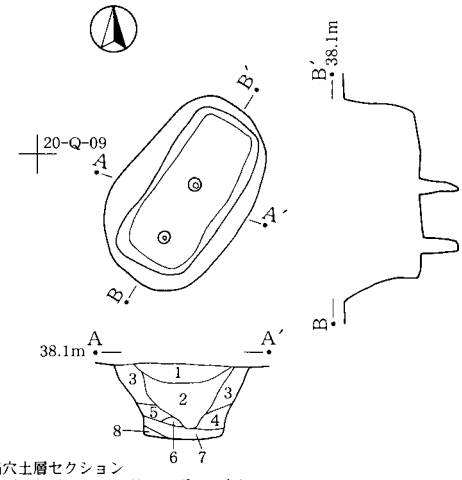
324号土坑土層セクション
1．暗褐色土…ローム粒子わずかに含む。
2．暗褐色土…ローム粒子わずか、褐色土ブロック少し含む。
3．暗褐色土…ソフトロームのブロックを少し含む。
堆積は上の２枚と比べてやや疎。

第100図　324号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



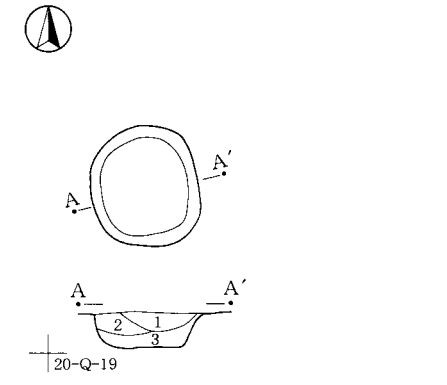
325号土坑土層セクション
1．黒 色 土…ローム粒わずかに含む。
2．黒褐色土…ローム粒を少し含む。
3．暗褐色土…ソフトロームブロックをやや多く含む。ローム粒子をわずかに含む。
4．暗褐色土…褐色土ブロックを少し含む。
5．黒褐色土…ローム粒を多く含む。ロームブロックを非常に多く含む。

第101図　325号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



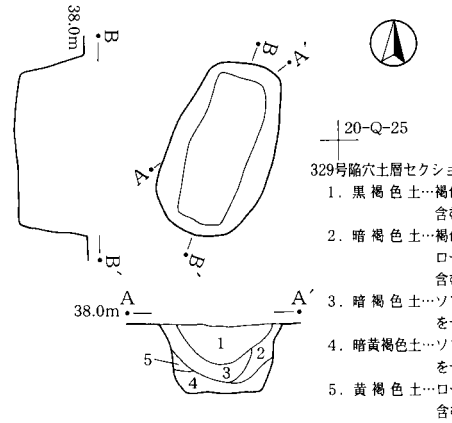
326号陥穴土層セクション
1．黒 褐 色 土…ローム粒子わずかに含む。
2．黒 褐 色 土…褐色土ブロックを少し含む。
3．暗 褐 色 土…ソフトロームブロックを少し含む。
4．暗黄褐色土…ロームブロックに暗褐色土が混ざる。
5．暗 褐 色 土…ローム粒をわずかに含む。
6．暗 褐 色 土…ソフトロームブロックをやや多く含む。
7．暗 褐 色 土…ローム粒をわずかに含む。堆積はやや疎。
8．暗 褐 色 土…ソフトロームブロックを多く含む。堆積はやや疎。

第102図　326号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



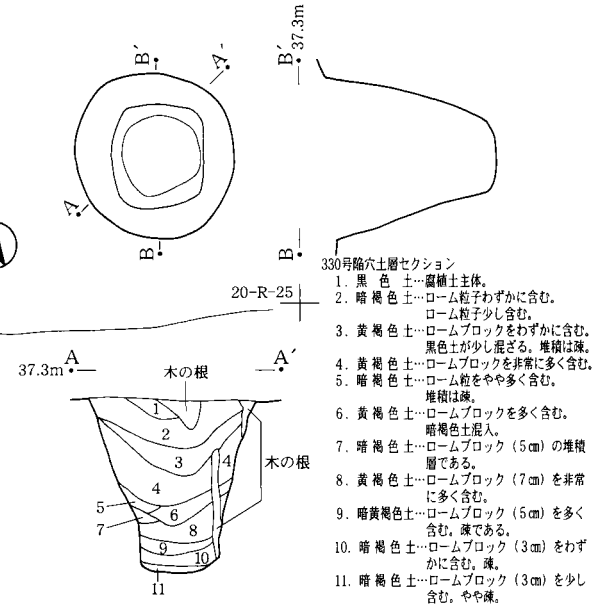
367号土坑土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒子を少し含む。
2．暗褐色土…ローム粒少を少し含む。
3．暗褐色土…ロームブロックをやや多く、ローム粒を少し含む。

第103図　327号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



329号陥穴土層セクション
1．黒 褐 色 土…褐色土ブロックを少し含む。
2．暗 褐 色 土…褐色土ブロックを多く、ロームブロックを少し含む。
3．暗 褐 色 土…ソフトロームブロックをやや多く含む。
4．暗黄褐色土…ソフトロームブロックをやや多く含む。
5．黄 褐 色 土…ロームブロックを多く含む。堆積はやや疎。ローム粒を多く含む。

第104図　329号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



330号陥穴土層セクション
1．黒 色 土…腐植土主体。
2．暗 褐 色 土…ローム粒子わずかに含む。ローム粒子少し含む。
3．黄 褐 色 土…ロームブロックをわずかに含む。黒色土が少し混ざる。堆積は疎。
4．黄 褐 色 土…ロームブロックを非常に多く含む。
5．暗 褐 色 土…ローム粒をやや多く含む。堆積は疎。
6．黄 褐 色 土…ロームブロックを多く含む。暗褐色土混入。
7．暗 褐 色 土…ロームブロック（5㎝）の堆積層である。
8．黄 褐 色 土…ロームブロック（7㎝）を非常に多く含む。
9．暗黄褐色土…ロームブロック（5㎝）を多く含む。疎である。
10．暗 褐 色 土…ロームブロック（3㎝）をわずかに含む。疎。
11．暗 褐 色 土…ロームブロック（3㎝）を少し含む。やや疎。

第105図　330号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

る。長軸方位はN－20°－Eを示す。壁は床面からやや斜めに立ち上がる。覆土は上層が褐色土ブロック等を少し含む黒～暗褐色土、中層がソフトロームを含む暗褐色土、下層がソフトローム、ロームブロックを多く含む暗黄褐色土である。いずれも自然堆積と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅲ類でピットを持たないタイプである。

330号陥穴（第105図、図版21）

調査区東側、20－R－74区に位置する。開口部はほぼ円形、坑底はやや不定形な円形になる。床面は中央部が緩やかに下がる。ピット等は見られない。規模は長軸1.74m、短軸1.66m、深さ1.79mである。長軸方位は真北を向く。壁は立ち上がりは急激で、途中からやや斜めに立ち上がる。覆土は上層がローム粒やロームブロック混じりの黒色～暗褐色土、中層がローム粒やロームブロックを多く含む暗～黄褐色土、下層がロームブロックを多く含む暗黄～暗褐色土である。いずれも自然堆積と思われる。遺物等は出土しなかった。第Ⅳ類でピットを持たないタイプである。

（2）炉穴

137号炉穴（第110図、図版なし）

調査区の西北側、20－N－53区の南東隅近くに位置する。径20cm、厚さ10cm程度で皿状に分布している。腐植土、ローム粒混じりの焼土である赤褐色土で構成されている。縄文時代早期の遺物の包含層中から検出されており、住居跡があった可能性もあるが、遺物の残存状況からは判断しかねる。

（3）土坑

007号土坑（第39図、図版９）

調査区の西側、21－N－43区に位置する。開口部、坑底とも楕円形である。床面は北側がピット状に落ちこむ。壁は南側のほうが比較的緩やかに立ち上がる。規模は長軸1.18m、短軸0.94m、深さ0.42mである。長軸方位はN－30°－Eを示す。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、下層が若干の腐植土混じりの黄褐色土である。いずれも自然堆積と思われる。遺物等は出土しなかった。覆土の特徴から縄文時代の土坑であると判断したが、性格等は不明である。

017号土坑（第42図、図版９）

調査区の西側、21－N－69区に位置する。開口部、坑底ともほぼ円形である。床面はやや中程が浅く皿状にくぼむ。壁は斜めに立ち上がる。規模は径1.18m、深さ0.15mである。覆土は若干の腐植土混じりのローム粒が主体の黒褐色土である。遺物等は出土しなかった。覆土等の特徴から縄文時代の土坑であると判断したが、性格等は不明である。

028号土坑（第45図、図版10）

調査区の西側、20－P－84区に位置する。開口部、坑底ともやや不整な円形である。床面はやや中程が浅く皿状にくぼむ。壁は斜めに立ち上がる。規模は径0.95m、深さ0.16mである。覆土はローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土である。覆土等の特徴から縄文時代の土坑であると判断したが、性格等は不明で

ある。

058号土坑（第57図、図版12）

調査区の北側、21－O－53区に位置する。057号陥穴、059号陥穴が近接する。開口部は楕円気味の円形、床面は不整な方形である。北側がやや棚状になる。壁は床から斜めに立ち上がる。規模は長軸1.64m、短軸1.33m、深さ0.54mである。長軸方位はN－40°－Wを示す。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、下層が腐植土混じりのローム粒、ロームブロックの黄褐色土である。いずれも自然堆積である。覆土等の特徴から縄文時代の土坑であると判断したが、性格等は不明である。未完成の陥穴である可能性も考えられる。

122号土坑（第74図、図版15）

調査区の北側、19－O－09区に位置する。開口部は楕円形、坑底は隅丸方形に近い。北側がやや棚状になる。壁は床からやや斜めに立ち上がる。規模は長軸1.41m、短軸0.97m、深さ0.52mである。長軸方位はN－20°－Eを示す。覆土はロームブロック、腐食土混じりローム粒が主体の褐色土である。覆土等の特徴から縄文時代の土坑であると判断したが、倒木痕等人為的なものでない可能性もある。

131号土坑（第77図、図版なし）

調査区の北側、19－P－36区に位置する。開口部、坑底とも長楕円形になる。床面はほぼ平坦で壁の立ち上がりは緩やかに立ち上がる。規模は長軸2.82m、短軸1.02m、深さ0.39mである。長軸方位はN－9°－Eを示す。覆土はローム粒混じりの腐植土である黒褐色土、下層が腐植土混じりのローム粒主体の黄褐色土である。縄文時代の土坑であると判断したが、平面形態から未完成の陥穴である可能性も考えられる。

169号土坑（第81図、図版なし）

調査区の東側、21－R－36区に位置する。開口部はやや不整な円形、坑底は円形で床面の中央部分に径12cm、深さ30cmの円形ピット1個が見られる。規模は径1.17m、深さ0.85mである。長軸方位は円形のため不明である。覆土は上層がローム粒を含みしまりが弱い暗褐色土、中層がローム粒、ロームブロックを含む黒褐色土、下層がローム粒、ロームブロック含む暗褐色土である。縄文時代の土坑であると判断したが、陥穴の第4類である可能性もある。

173号土坑（第83図、図版16）

調査区の中央やや東南側、21－Q－59区に位置する。開口部、坑底とも楕円形になる。床面はほぼ平坦である。壁は北側部分で急激に立ち上がる。他はやや斜めに立ち上がる。規模は長軸1.48m、短軸1.18m、深さ1.01mである。長軸方位はN－60°－Eを示す。覆土は上層が粒子が細かく粘性がない明褐色土、中層がソフトローム粒が少量混ざる黒褐色土、下層がソフトロームが混ざる暗褐色土である。縄文時代の土坑であると判断したが、性格等は不明である。

181号土坑（第84図、図版16）

調査区の南側、22－R－04区に位置する。開口部、坑底ともやや不整な楕円形になる。床面は南側がや

や浅く緩やかに立ち上がる。北側床面はやや深く壁も比較的斜めに立ち上がる。床面に径25cm、深さ10cm程の円形のピットが１個見られる。規模は長軸2.13m、短軸1.62m、深さ0.5mである。長軸方位はＮ－50°－Ｅを示す。覆土は上層がややしまりのある黒褐色土、中層がハードローム粒やしまりがある暗褐色土、下層がハードロームが主体の黄褐色土である。縄文時代の土坑であると判断したが、性格等は不明である。

303号土坑（第109図、図版なし）

調査区の中央の南側、21－Ｐ－72区付近に位置する。開口部は径0.8m程の円形で工程は南北方向に細く狭くなり、断面形は逆三角になる。深さは最大で0.5m程である。覆土は暗褐色土と記載されているがセクション図の記録がなく詳細は不明である。縄文時代の土坑と判断したが、性格等は不明である。

304号土坑（第93図、図版19）

調査区の中央の南側、21－Ｐ－61区に位置する。開口部、坑底ともほぼ円形である。床はほぼ平坦で壁はやや斜めに立ち上がる。規模は径1.78m前後、深さ0.24mである。覆土は柔らかい暗褐色土である。遺物は縄文時代の土器片や礫が数点出土している。縄文時代の土坑と判断したが、性格等は不明である。貯蔵穴のようなものであろうか。

305号土坑（第94図、図版19）

調査区の中央の南側、21－Ｐ－60区に位置する。開口部、坑底ともほぼ円形である。床は東側が壁際に向かって棚状になる。規模は径1.86～2.1m、深さ0.2mである。覆土の記録はないのでよく解らないが、305号土坑と似たような機能を想定されるものと思われる。

324号土坑（第100図、図版20）

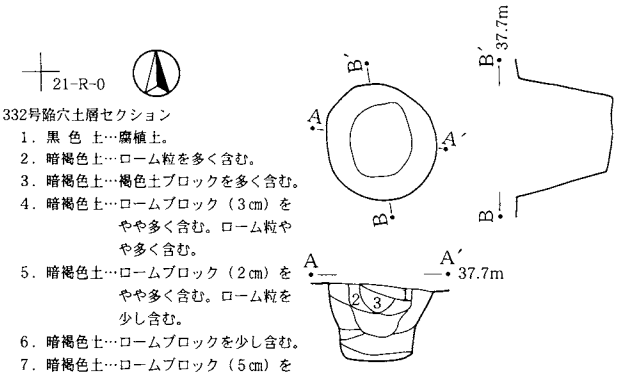
調査区の中央の南側、21－Ｐ－69区に位置する。開口部は楕円形、坑底はほぼ円形になると思われる。床面はほぼ平坦でピット等は見られない。壁は比較的斜めに立ち上がる。規模は長軸1.23m、短軸0.97m、深さ0.43mである。長軸方位はＮ－30°－Ｗを示す。覆土は上層がローム粒をわずかに含む暗褐色土、中層がローム粒をわずか、褐色土粒を少し含む暗褐色土、下層がソフトロームブロックを少し含み、堆積がやや粗い暗褐色土である。覆土の状況から縄文時代の土坑と判断したが、性格等は不明である。

325号土坑（第101図、図版なし）

調査区の中央、20－Ｐ－48区に位置する。開口部はほぼ楕円形、坑底は楕円形になる。床面は平坦で中央部が一部くぼむ。壁はやや斜めに立ち上がる。規模は径1.47m、深さ0.80mである。覆土は上層がローム粒をわずかに含む黒色土、中層がソフトローム、褐色土が混ざり合う暗褐色土、下層がローム粒を多く含む黄褐色土である。覆土の状況から縄文時代の土坑と判断したが、性格は不明である。

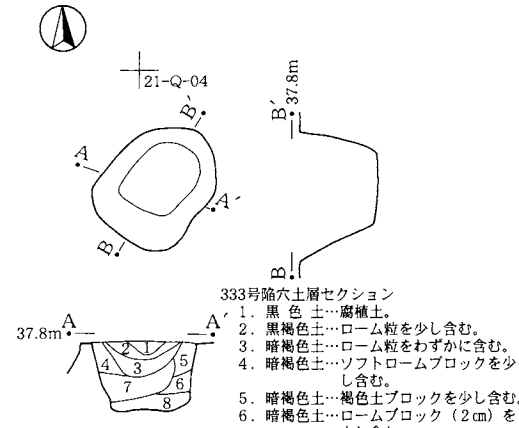
327号土坑（第103図、図版20）

調査区の北東側、20－Ｑ－09区に位置する。開口部、坑底ともにほぼ円形になる。床面はほぼ平坦で壁は比較的急激に立ち上がる。規模は径1.15～1.25m前後、深さ0.38mである。覆土は上層がローム粒を少



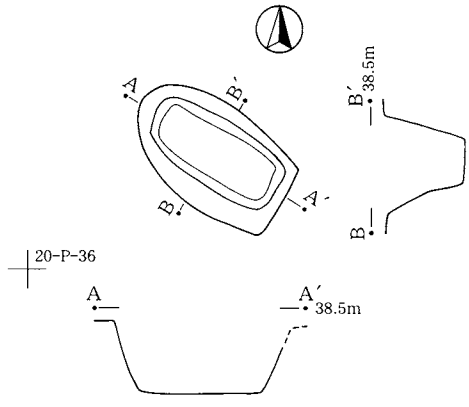
332号陥穴土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．暗褐色土…ローム粒を多く含む。
3．暗褐色土…褐色土ブロックを多く含む。
4．暗褐色土…ロームブロック（3㎝）をやや多く含む。ローム粒やや多く含む。
5．暗褐色土…ロームブロック（2㎝）をやや多く含む。ローム粒を少し含む。
6．暗褐色土…ロームブロックを少し含む。
7．暗褐色土…ロームブロック（5㎝）を少し、ローム粒を少し含む。
8．暗褐色土…ロームブロック（2㎝）を少し含む。堆積はやや疎。

第106図　332号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

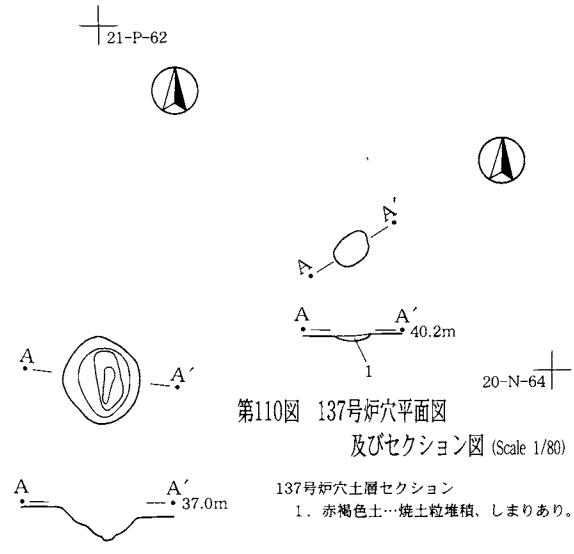


333号陥穴土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．黒褐色土…ローム粒を少し含む。
3．暗褐色土…ローム粒をわずかに含む。
4．暗褐色土…ソフトロームブロックを少し含む。
5．暗褐色土…褐色土ブロックを少し含む。
6．暗褐色土…ロームブロック（2㎝）を少し含む。
7．暗褐色土…ロームブロックをわずかに、ローム粒を少し、黒色土を少し混ぜる。
8．暗褐色土…ロームブロック（2㎝）を少し含む。ローム粒を少し含む。

第107図　333号陥穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第108図　337号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第110図　137号炉穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

137号炉穴土層セクション
1．赤褐色土…焼土粒堆積、しまりあり。

第109図　303号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

し含む黒褐色土、中層がローム粒を少し含む暗褐色土、下層がロームブロックを多く含み、ローム粒を少し含む暗褐色土である。覆土の状況から縄文時代の土坑と判断したが、性格は不明である。

第９表　駒井野荒追遺跡　縄文時代陥穴一覧表１

図版番号	遺構番号	規模・長軸m	規模・短軸m	規模・深さm	形態分類	ピットの有無	ピットの数	長軸方位	等高線との方向	備　　考
第38図	005号	2.25	1.25	0.90	第Ⅲ類	有	3	N-23°-E	直行	
第40図	009号	2.06	1.25	0.90	第Ⅲ類	有	10	N-37°-E	直行	
第41図	011号	2.44	1.42	2.48	第Ⅰ類	無		N-63°-E	平行	
第43図	018号	1.85	1.38	1.07	第Ⅲ類	有	6	N-18°-E	斜	
第44図	024号	1.80	1.38	0.83	第Ⅲ類	有	2	N-10°-W	平行	
第46図	030号	1.93	1.48	0.92	第Ⅲ類	有	2	N-3°-E	直行	
第47図	031号	1.78	1.53	1.84	第Ⅱ類	無		N-56°-W	直行	
第49図	032号	3.28	1.42	1.80	第Ⅰ類	無		N-7°-W	直行	
第48図	038号	3.42	1.30	1.62	第Ⅰ類	無		N-40°-W	直行	
第50図	046号	2.75	1.48	1.39	第Ⅰ類	無		N-74°-E	平行	
第51図	047号	2.87	0.90	1.03	第Ⅰ類	無		N-35°-W	直行	
第52図	048号	1.36	0.96	0.63	第Ⅲ類	有	1	N-70°-E	平行	
第53図	053号	3.18	0.42	1.18	第Ⅰ類	無		N-76°-W	平行	
第54図	055号	2.25	1.28	0.67	第Ⅲ類	有	4	N-37°-E	平行	
第55図	056号	2.13	1.45	0.76	第Ⅲ類	有	4	N-26°-E	平行	
第56図	057号	1.92	1.26	0.62	第Ⅲ類	有	5	N-25°-E	平行	
第58図	059号	2.62	0.67	1.02	第Ⅰ類	無		N-47°-E	平行	
第59図	060号	2.03	1.34	1.05	第Ⅲ類	有	6	N-28°-E	平行	
第60図	061号	2.03	1.13	0.83	第Ⅱ類	無		N-75°-E	平行	
第61図	064号	1.78	1.30	2.43	第Ⅳ類	無		N-50°-W	直行	覆土中層より土器片出土
第62図	080号	1.43	1.02	0.65	第Ⅲ類	有	2	N-87°-W	斜	090号陥穴(第Ⅰ類)より新しい
第63図	081号	1.95	1.23	0.89	第Ⅲ類	有	5	N-7°-E	直行	
第64図	085号	1.80	1.23	1.00	第Ⅲ類	無		N-9°-W	直行	
第65図	089号	1.55	1.25	0.83	第Ⅳ類	有	1	N-9°-W	直行	
第66図	090号	2.20	0.53	0.85	第Ⅰ類	無		N-5°-W	直行	080号陥穴(第Ⅲ類)より古い
第67図	100号	2.12	1.21	1.12	第Ⅱ類	無		N-56°-E	平行	
第68図	101号	1.40	0.94	1.08	第Ⅳ類	無		N-82°-W	斜	120号住居跡(古墳)の床下より検出
第69図	103号	1.73	1.12	0.56	第Ⅲ類	無		N-42°-E	平行	
第70図	114号	2.15	1.37	0.83	第Ⅲ類	有	5	N-14°-E	斜	
第71図	115号	2.48	1.55	0.97	第Ⅲ類	有	7	N-6°-E	平行	
第72図	116号	2.33	1.30	0.92	第Ⅲ類	無		N-5°-E	平行	
第73図	121号	1.50	0.88	0.78	第Ⅲ類	無		N-70°-W	平行	125号陥穴(第Ⅰ類)より新しい
第75図	123号	2.10	0.74	0.78	第Ⅰ類	無		N-62°-W	直行	
第73図	125号	2.20	0.73	1.86	第Ⅰ類	無		N-40°-W	平行	121号陥穴(第Ⅲ類)より古い
第76図	130号	2.37	1.26	2.02	第Ⅰ類	無		N-3°-E	平行	
第78図	135号	1.64	1.20	2.52	第Ⅱ類	無		N-38°-W	平行	
第80図	168号	2.08	1.76	1.20	第Ⅲ類	無		N-5°-E	直行	
第82図	170号	1.65	1.13	0.85	第Ⅳ類	有	1	N-20°-E	直行	
第85図	182号	1.87	1.48	0.92	第Ⅲ類	有	1	N-10°-W	直行	
第86図	183号	1.73	1.14	0.90	第Ⅲ類	有	1	N-12°-W	直行	
第87図	184号	3.25	1.05	1.25	第Ⅰ類	無		N-10°-W	直行	
第88図	192号	1.23	1.05	0.70	第Ⅳ類	有	4	N-90°-W	平行	時期の異なるピット、土坑など７基近接
第89図	194号	2.82	1.02	1.54	第Ⅰ類	無		N-51°-W	直行	

第10表　駒井野荒追遺跡　縄文時代陥穴一覧表２

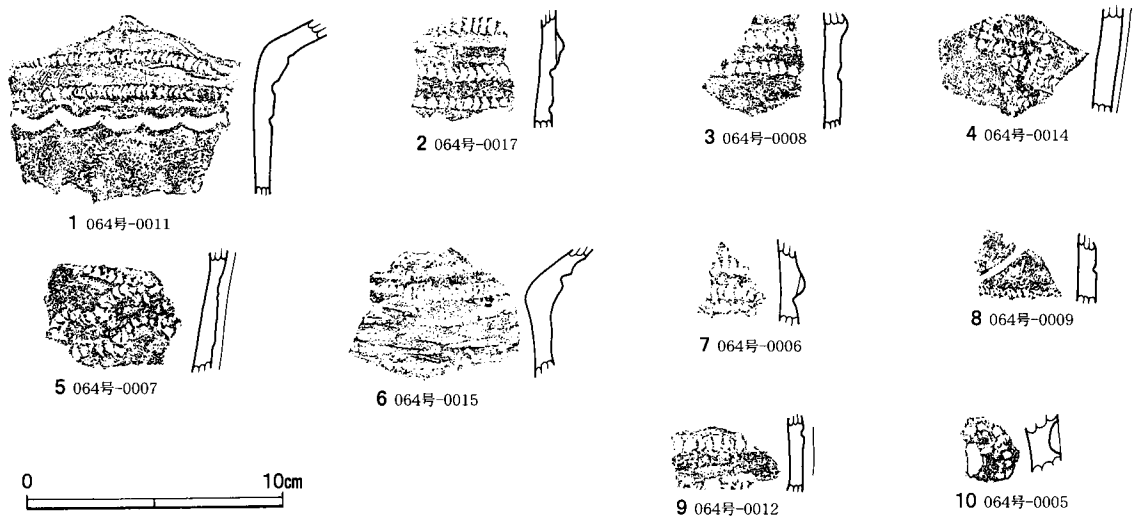
図版番号	遺構番号	規模・長軸m	規模・短軸m	規模・深さm	形態分類	ピットの有無	ピットの数	長軸方位	等高線との方向	備　　考
第90図	195号	3.05	0.70	1.06	第Ⅰ類	無		N-10°-W	直行	
第91図	216号	1.85	1.52	1.17	第Ⅳ類	有	1	N-25°-E	直行	
第92図	302号	2.03	1.94	2.90	第Ⅳ類	無		N-20°-W	斜	
第95図	306号	2.38	1.32	0.73	第Ⅲ類	無		N-23°-W	直行	
第96図	308号	2.94	1.98	2.30	第Ⅱ類	無		N-55°-W	直行	
第97図	309号	1.67	1.43	1.02	第Ⅲ類	有	1	N-16°-E	直行	
第98図	322号	1.43	1.07	1.15	第Ⅲ類	無		N-76°-E	平行	
第99図	323号	2.02	1.18	0.64	第Ⅲ類	無		N-14°-W	平行	
第102図	326号	2.08	1.34	0.77	第Ⅲ類	有	2	N-35°-E	平行	
第104図	329号	1.87	1.08	0.69	第Ⅲ類	無		N-20°-E	平行	
第105図	330号	1.74	1.66	1.79	第Ⅳ類	無		N-0°	平行	

第11表　駒井野荒追遺跡　縄文時代炉一覧表

図版番号	遺構番号	規模・長軸m	規模・短軸m	規模・深さm	備　　考
第110図	137号	0.2	0.2	0.1	住居跡に伴うものかもしれない

第12表　駒井野荒追遺跡　縄文時代土坑一覧表

図版番号	遺構番号	規模・長軸m	規模・短軸m	規模・深さm	特　　徴	長軸方位	備　　考
第39図	007号	1.18	0.94	0.42	床面に落ちこみあり	N-30°-E	性格不明
第42図	017号	1.18	1.18	0.15	床面は皿状にくぼむ		性格不明
第45図	028号	0.95	0.95	0.16	床面は皿状にくぼむ		性格不明
第57図	058号	1.64	1.33	0.54	断面は逆三角状	N-40°-W	性格不明
第74図	122号	1.41	0.97	0.52	壁はやや斜めに立ち上がる	N-20°-E	性格不明、倒木痕かもしれない
第77図	131号	2.82	1.02	0.39		N-9°-E	性格不明、未完成の陥穴の可能性あり
第81図	169号	1.17	1.17	0.85	陥穴である可能性もある		
第83図	173号	1.48	1.18	1.01	北側の壁が急激に立ち上がる	N-60°-E	性格不明
第84図	181号	2.13	1.62	0.5	南側は床から緩やかに立ち上がる	N-50°-E	性格不明
第109図	303号	0.8	0.8	0.5	円形、逆円錐形		性格不明
第93図	304号	1.78	1.78	0.24	土器片や礫片が出土		性格不明、貯蔵穴か？
第94図	305号	2.10	1.86	0.2	東側床面の一部が棚状になる		305号と同じようなものか？
第100図	324号	1.23	0.97	0.43		N-30°-W	
第101図	325号	1.47	1.47	0.8			
第103図	327号	1.25	1.15	0.38			



第111図　064号陥穴上層出土縄文土器

3　遺　　物

（1）064号陥穴上層出土縄文土器（第111図1～10）

1～8は縄文時代中期の阿玉台式土器の破片である。いずれも口縁部直下の胴部上半部に比定される破片で同一個体の破片と思われるが、接合したものはない。刺突による角押文と波状の沈線で区画されている。

この事例は特に興味深い意味合いがあると思われるのでとりあげた。縄文時代中期の阿玉台式土器の比較的大きめの破片がまとまって検出されており、下層が自然堆積した後土坑として再利用していた可能性が高い。この形態の陥穴が機能していた時期もそれ以前の時期に限定される可能性が高い。

（2）縄文時代早期の包含層（第112～118図）

駒井野荒追遺跡の北西側の20－N－51～73区付近ではまとまって縄文時代早期の土器群及び石器類が検出された。

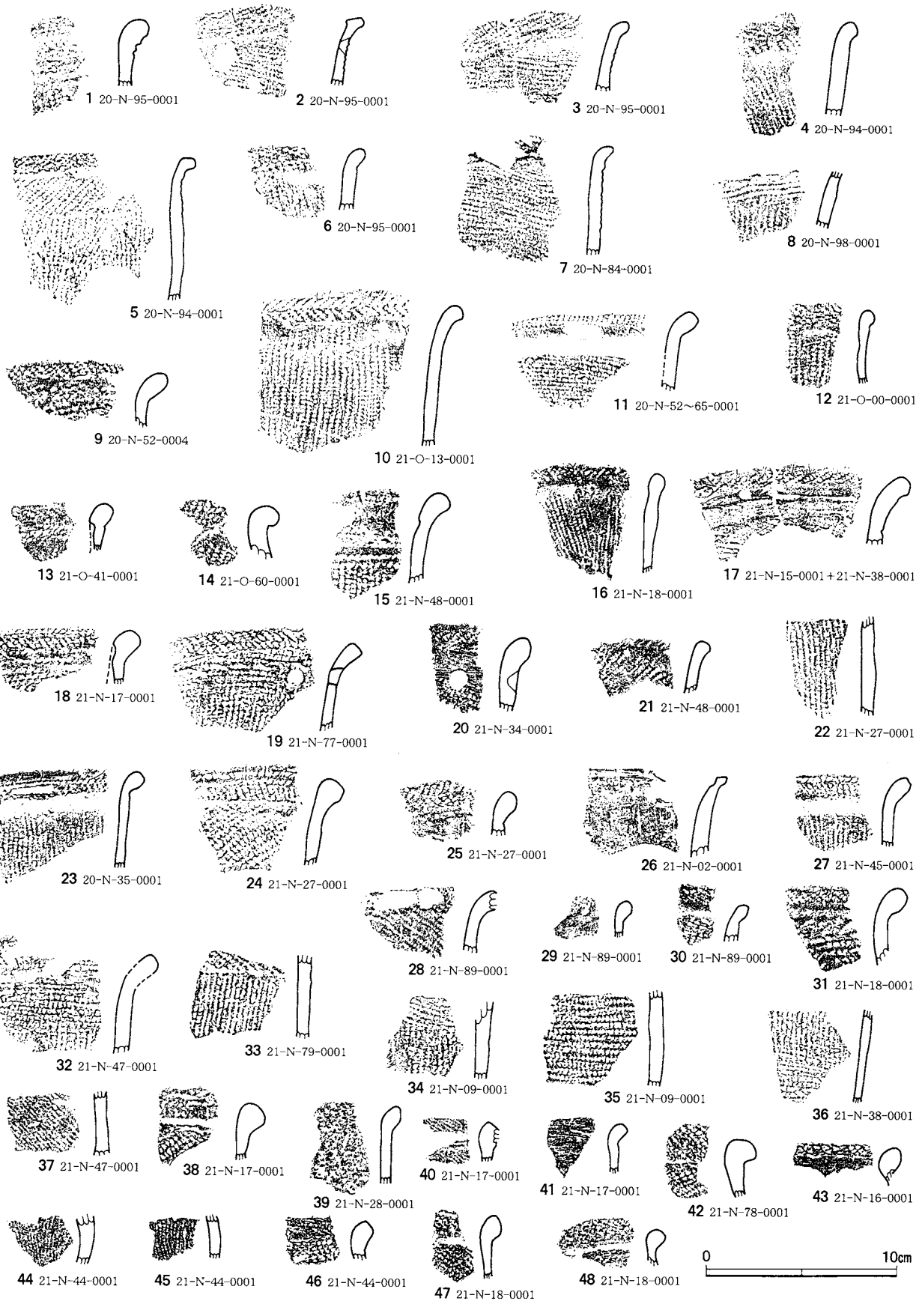
第Ⅰ群Ⅰ類土器

縄文時代早期の土器群である。包含層調査区の主体を占める。

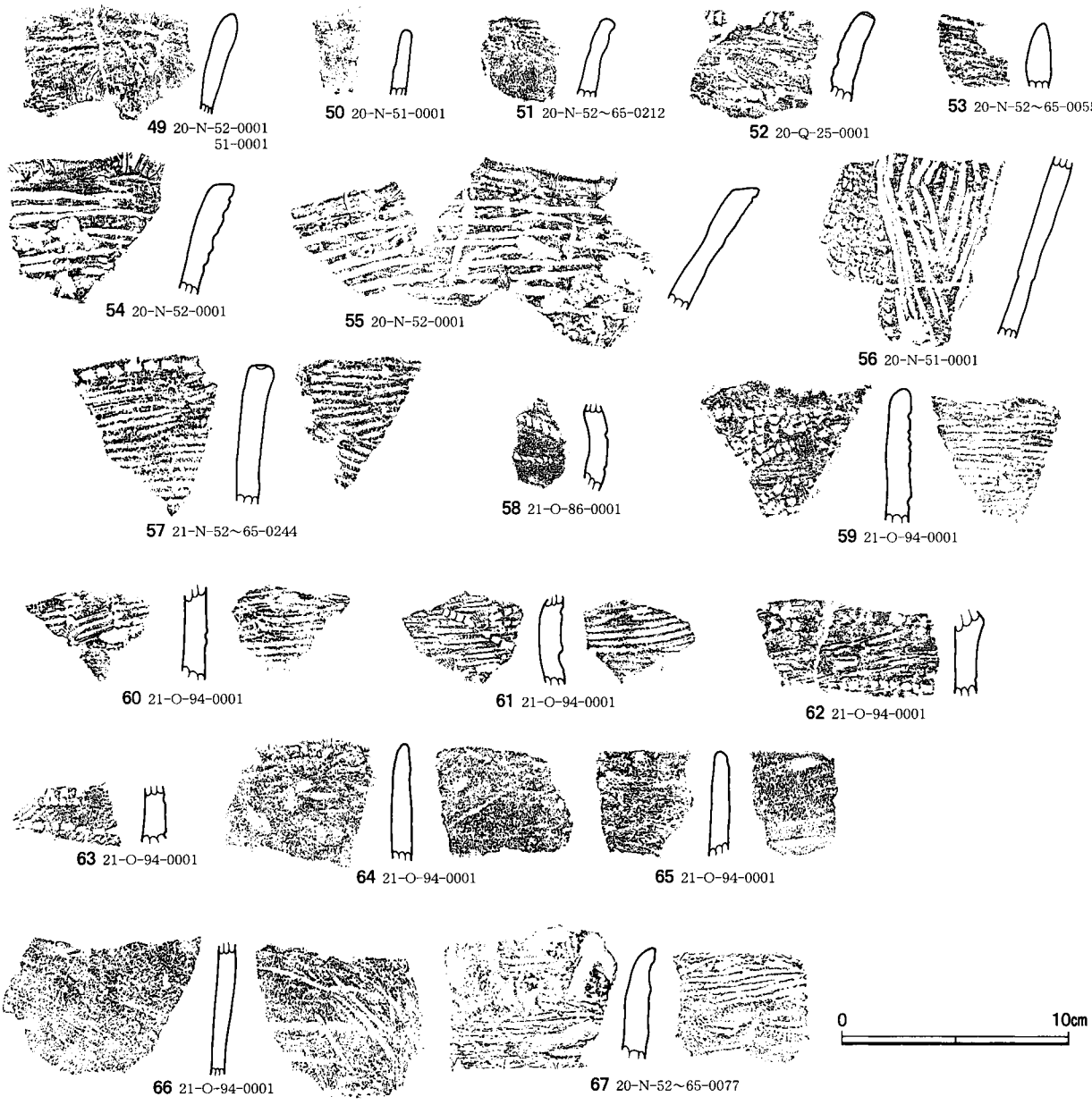
第Ⅰ群Ⅰ類土器（第112図1～48）撚糸文系の土器である。口唇部が大きく外反し、口唇上に原体が圧痕される。胴部は縦方向に施文される。全体に破片が多く特に口唇部から胴部上半部の破片が多く見られた。また、包含層調査区内でもっとも多くの破片が検出されている。

第Ⅰ群Ⅱ類土器（第113図49～67）沈線文系の土器である。49～62は田戸下層式と思われる土器片である。円形の棒状工具によって沈線が施文されている。63～67は田戸上層式と思われる土器片である。細沈線による区画を貝殻腹縁文で充填している。

第Ⅰ群Ⅲ類土器（第114図68～70）条痕文系の土器である。口縁部の破片で土器表面を主体に条痕で調整されている。



第112図　包含層出土縄文土器１



第113図　包含層出土縄文土器２

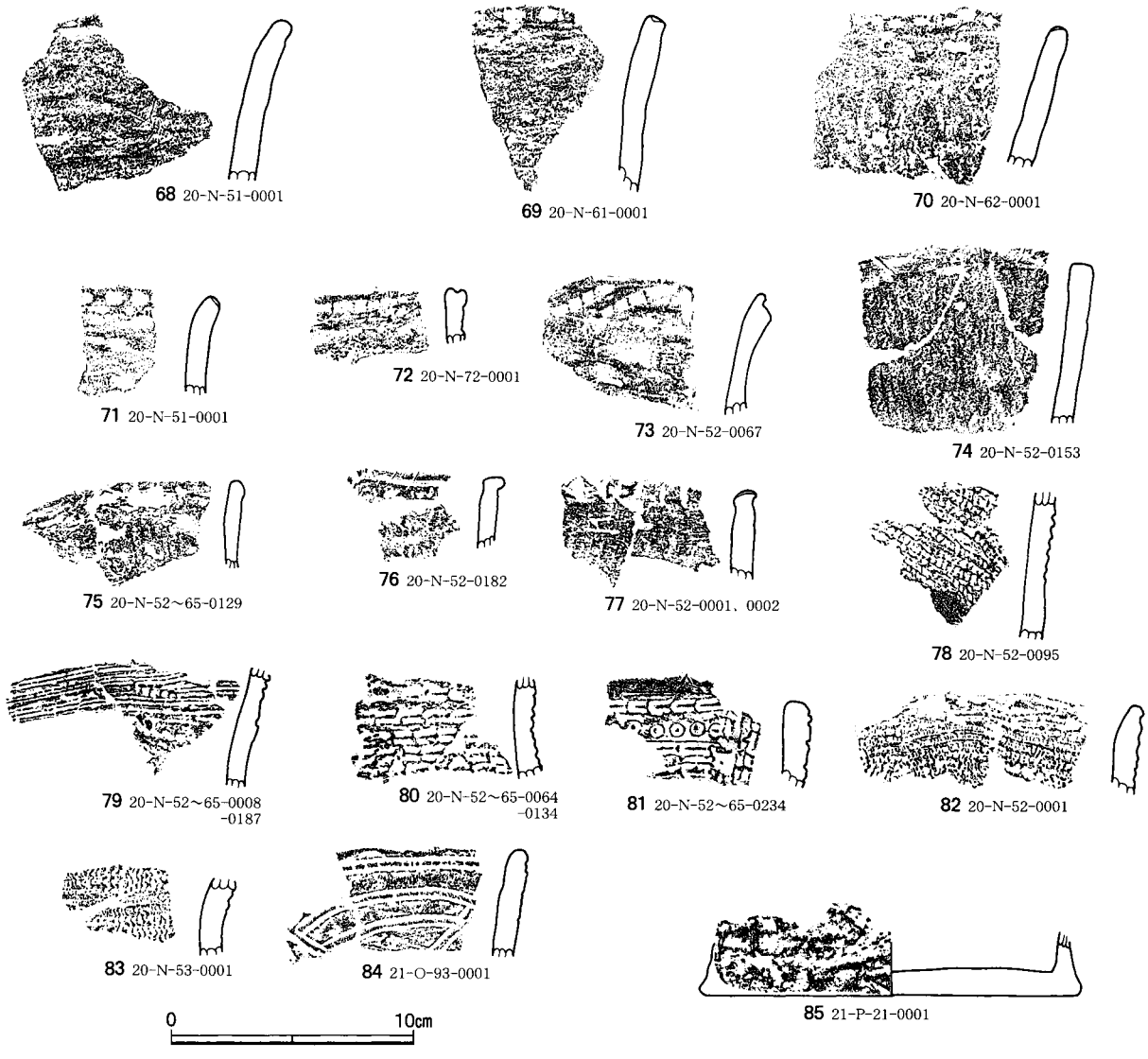
第Ⅱ群土器（第114図71～85）

縄文時代前期の土器群である。縄文の地紋と半裁竹管による沈線によって構成されるものが多い。包含層中より検出されたものはこれら以外にあまり見られなかった。

石器類（第116～118図１～45）

これらの石器はその殆どが包含層の土器片と伴って検出されたものである。ただしそれ以外の場所で検出されたものについても紙面の都合上併せて掲載した。なお個々の属性については表を参照していただきたい。なおそれぞれの石器の平面分布状況から住居跡等の遺構の存在の推定を試みたが、北東方向にやや偏りがあるくらいではっきりとその存在を明らかにすることはできなかった。

１、３は磨石である。２は叩き石である。４はスクレイパーである。５～34はチャートの剥片もしくは

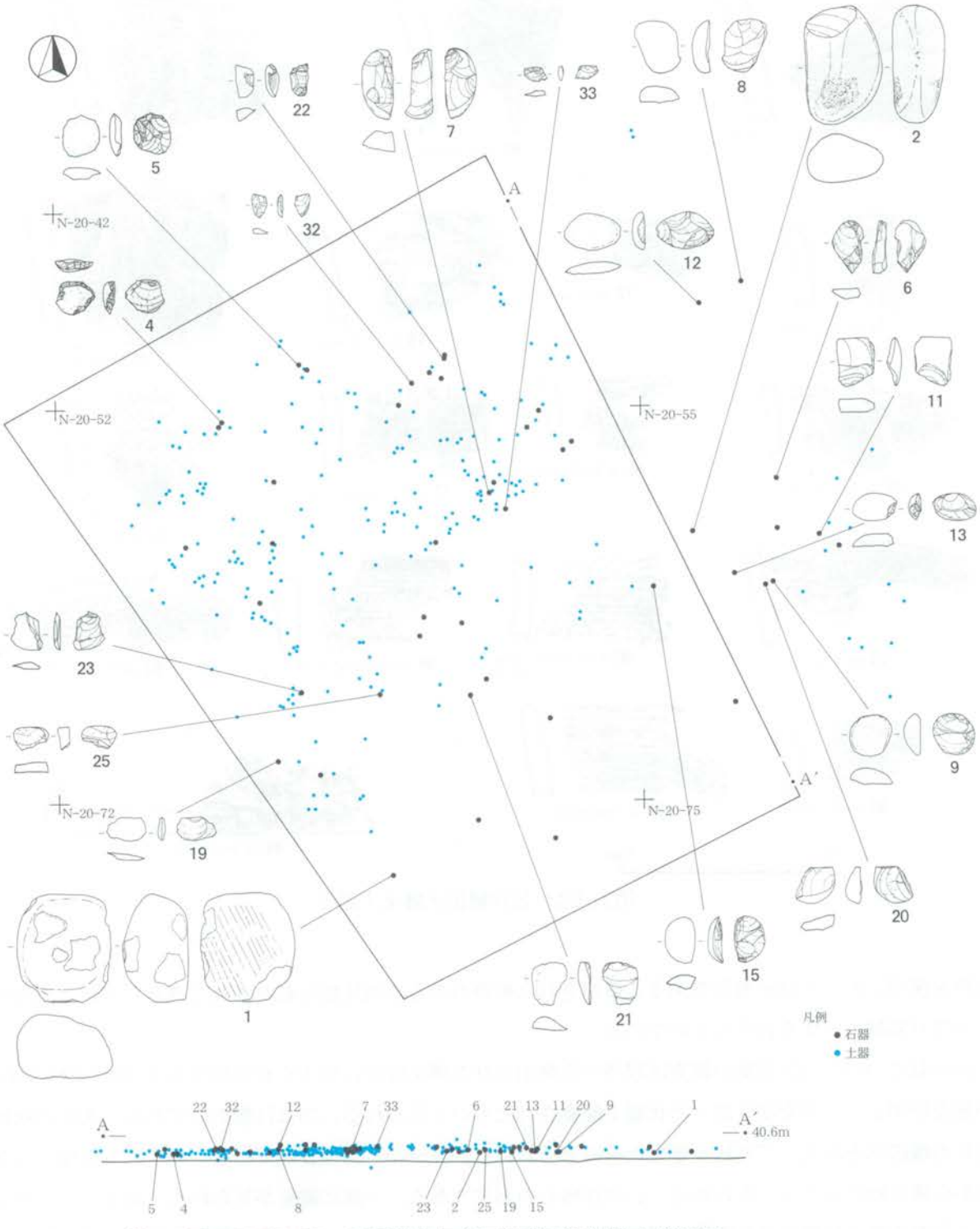


第114図　包含層出土縄文土器３

石核を使用したくさび形石器である。使用された形跡のある小剥片類と剥がされて残った石核と思われるもので石器群の主体を占めるものである。

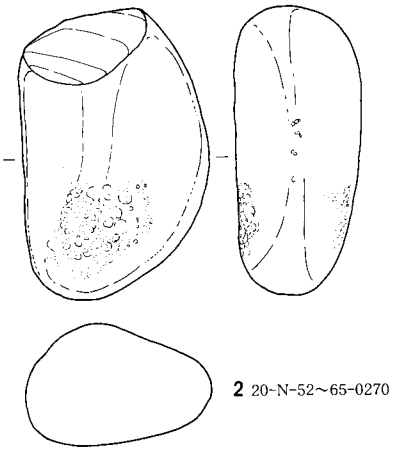
35～44については包含層の調査区以外から検出された縄文時代に属する石器類である。35は石核である。円礫を使用して一端を割り取った状態で廃棄されたものと思われる。36は打製石斧である。大形の板状の剥片の縁辺部を加工して形状を整えたものと思われる。37～40、46は石鏃である。いずれも形態、大きさ等から縄文時代のものと思われる。41は黒曜石の剥片である。一部に調整が見られる。42は台石である。大きな石の角に打撃による剥離と平坦面のほぼ中程に細かな打撃による打痕が観察される。43は叩き石である。円礫を半裁した面を使って打撃したことが窺われる形態である。比較的細かな打撃痕が多数見られる。包含層の調査区の一括遺物として取り上げられているため関係のある資料である可能性がある。44は磨石である。顕著ではないが横方向の擦痕が見られる。

注１）蜂屋孝之　1997　『成田市台ノ田Ⅱ遺跡』（財）千葉県文化財センター

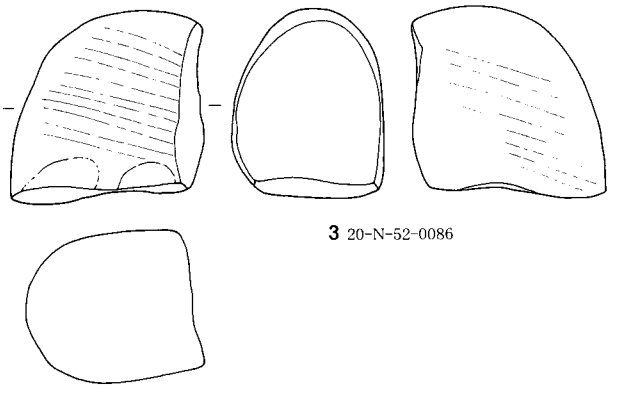


第115図　20-N-52～64区縄文包含層調査区遺物出土状況図 (Scale 1/100)

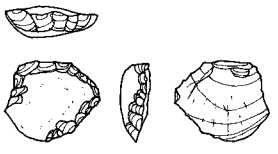
1 20-N-52～65-0125



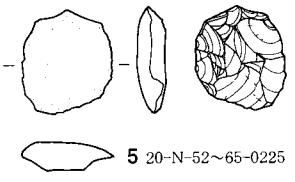
2 20-N-52～65-0270



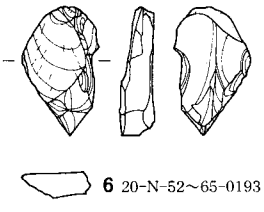
3 20-N-52-0086



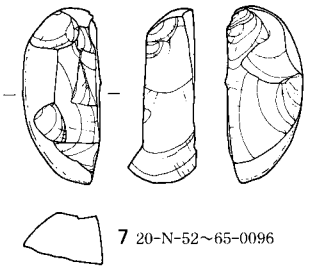
4 20-N-52～66-0155



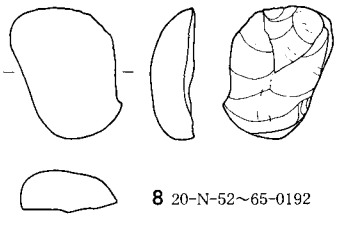
5 20-N-52～65-0225



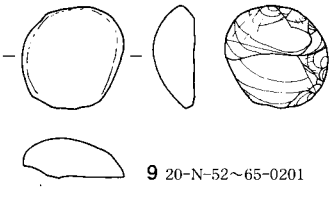
6 20-N-52～65-0193



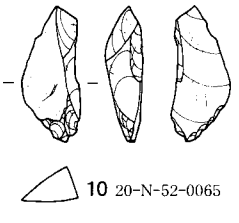
7 20-N-52～65-0096



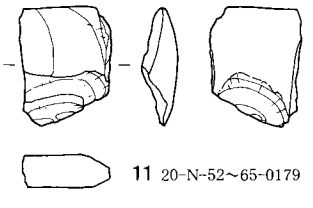
8 20-N-52～65-0192



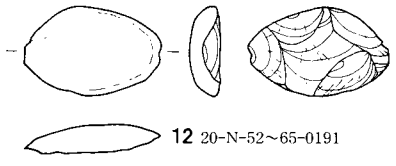
9 20-N-52～65-0201



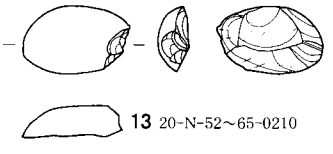
10 20-N-52-0065



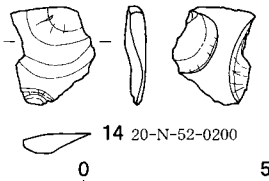
11 20-N-52～65-0179



12 20-N-52～65-0191



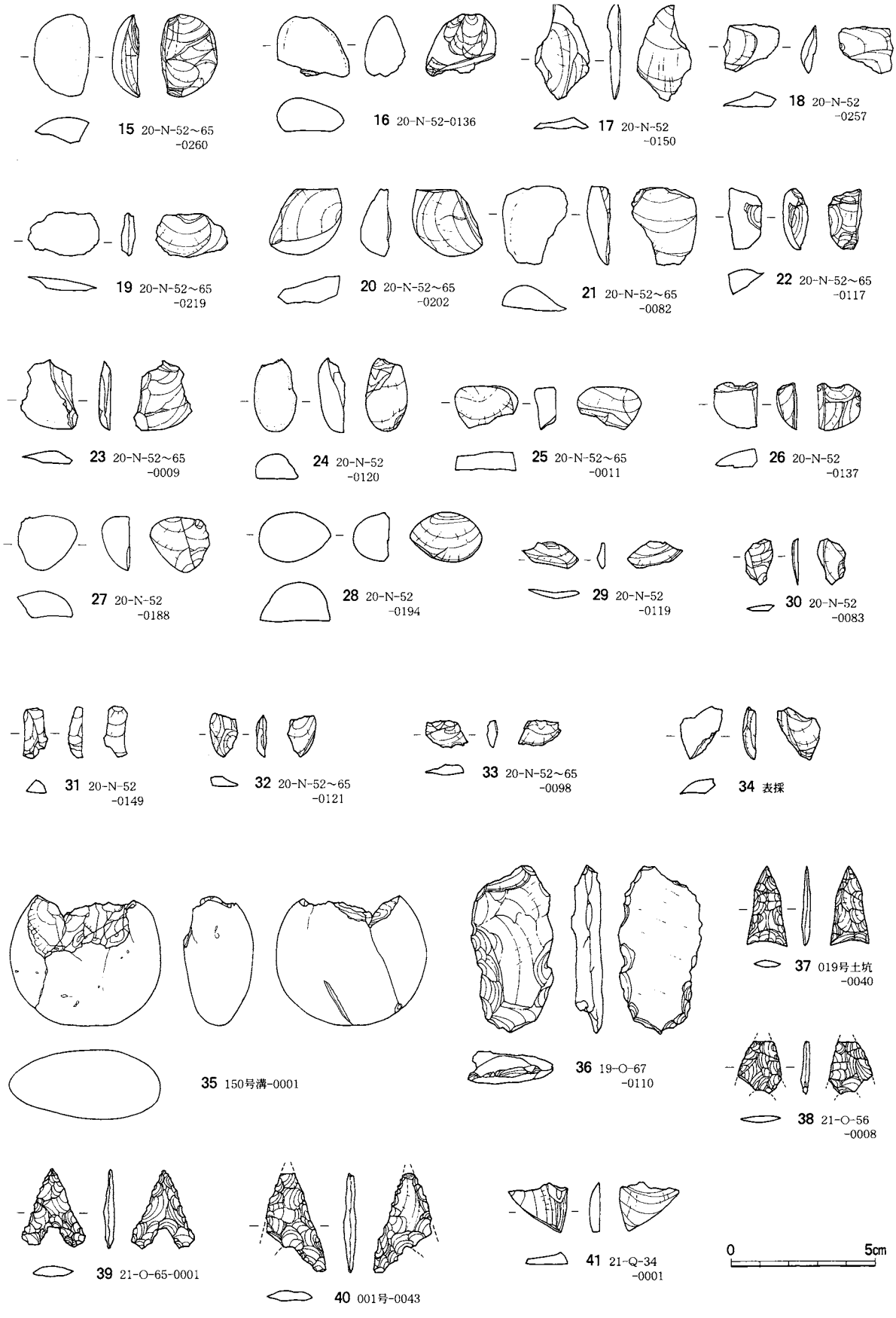
13 20-N-52～65-0210



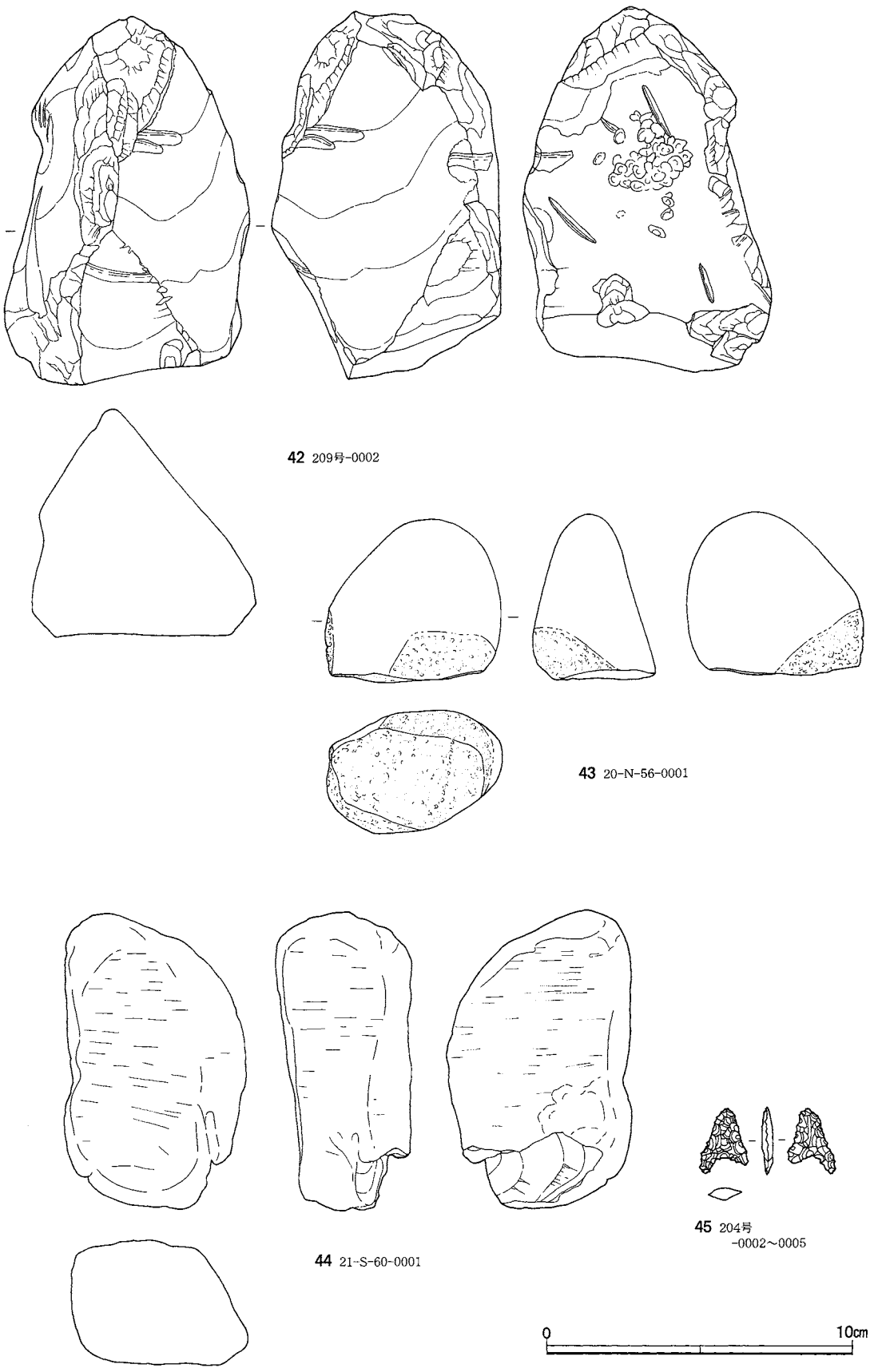
14 20-N-52-0200

0 5cm

第116図　縄文時代早期包含層出土石器実測図（1）(Scale 1/2)



第117図　縄文時代早期包含層出土石器等実測図(2)(Scale1/2)



第118図　縄文時代グリット等出土石器実測図(3)(Scale1/2)

表13　駒井野荒追遺跡　縄文時代石器属性表

図版番号	器　種	遺物番号	最大長mm	最大幅mm	最大厚mm	石　材	備　考
第116図1	磨石	20-N-52～65-125	68.2	60.2	41.3	安山岩	自然石利用の磨石
第116図2	叩き石	20-N-52～65-270	75.8	49.2	32.6	ホルンフェルス	一部破損
第116図3	磨石	20-N-52-86	50.1	50.2	40.1	凝灰岩	表裏に擦痕が見られる
第116図4	スクレイパー	20-N-52～65-155	20.4	22.6	8.0	チャート	背面は自然面
第116図5	R・フレイク	20-N-52～65-225	27.2	23.3	7.5	チャート	背面は自然面
第116図6	くさび形石器	20-N-52～65-193	33.9	18.2	9.2	チャート	一部に自然面を残す
第116図7	くさび形石器	20-N-52～65-96	46.1	20.8	13.2	チャート	一部に自然面を残す
第116図8	くさび形石器	20-N-52～65-192	35.1	27.5	11.9	珪質頁岩	背面は自然面
第116図9	くさび形石器	20-N-52～65-201	27.2	25.1	12.3	チャート	背面は自然面
第116図10	U・フレイク	20-N-52-65	35.3	17.5	7.2	珪質頁岩	縁辺部分に小剥離あり
第116図11	くさび形石器	20-N-52～65-199	31.1	27.2	8.4	チャート	
第116図12	くさび形石器	20-N-52～65-191	24.0	36.2	7.5	チャート	背面は自然面
第116図13	くさび形石器	20-N-52～65-210	17.5	27.5	8.1	チャート	背面は自然面
第116図14	くさび形石器	20-N-52-200	26.1	19.1	5.5	チャート	一部に自然面を残す
第117図15	くさび形石器	20-N-52～65-260	29.2	19.8	8.3	チャート	背面は自然面
第117図16	くさび形石器	20-N-52-136	21.2	23.5	16.3	チャート	背面は自然面
第117図17	くさび形石器	20-N-52-150	34.2	19.1	4.2	チャート	
第117図18	くさび形石器	20-N-52-257	17.2	19.3	5.3	珪質頁岩	一部に自然面を残す
第117図19	くさび形石器	20-N-52-219	15.1	24.4	5.2	チャート	背面は自然面
第117図20	くさび形石器	20-N-52～65-202	23.5	21.2	10.5	珪質頁岩	一部に自然面を残す
第117図21	くさび形石器	20-N-52～65-82	27.3	23.2	8.5	珪質頁岩	背面は自然面
第117図22	くさび形石器	20-N-52～65-117	21.1	11.2	8.4	チャート	一部に自然面を残す
第117図23	くさび形石器	20-N-52～65-9	24.3	19.8	4.3	チャート	一部に自然面を残す
第117図24	くさび形石器	20-N-52-120	26.2	14.5	10.2	チャート	背面は自然面
第117図25	くさび形石器	20-N-52～65-11	15.2	22.2	8.3	チャート	一部に自然面を残す
第117図26	くさび形石器	20-N-52-137	16.3	13.8	7.2	珪質頁岩	背面は自然面
第117図27	くさび形石器	20-N-52-188	19.1	21.1	9.8	珪質頁岩	背面は自然面
第117図28	くさび形石器	20-N-52-194	16.4	24.2	12.9	チャート	背面は自然面
第117図29	小剥片	20-N-52-119	9.2	19.2	2.5	チャート	
第117図30	小剥片	20-N-52-83	16.2	9.4	2.2	チャート	
第117図31	小剥片	20-N-52-149	17.8	7.8	5.2	石英	
第117図32	小剥片	20-N-52～65-121	15.2	10.3	3.2	チャート	
第117図33	小剥片	20-N-52～65-98	9.5	14.1	3.1	チャート	
第117図34	小剥片	表採	18.0	12.2	3.3	チャート	背面は自然面
第117図35	石核	150号溝-1	45.1	52.2	25.1	チャート	
第117図36	打製石斧	19-Q-67-110	57.5	29.2	10.3	粘板岩	
第117図37	石鏃	019号土坑-40	28.1	14.5	2.4	チャート	
第117図38	石鏃片	21-O-56-8			2.4	チャート	
第117図39	石鏃	21-O-65-1	26.5	21.9	4.1	安山岩	
第117図40	石鏃片	001号火葬墓-43			5.0	頁岩	
第117図41	剥片	21-Q-34-1	17.2	21.3	3.8	黒曜石	
第118図42	台石	209号住居跡-2	121.8	76.2	75.3	砂岩	
第118図44	叩き石	21-S-60-1	97.2	60.3	41.3	砂岩	
第118図45	石鏃	204号住居跡-2～5	20.3	16.3	3.2	凝灰岩	

Ⅳ　古墳時代～奈良・平安時代

1　概要

本遺跡で古墳時代～奈良・平安時代の所産とした遺構は、住居跡22軒、大溝１条、土坑６基である。

2　遺構と遺物

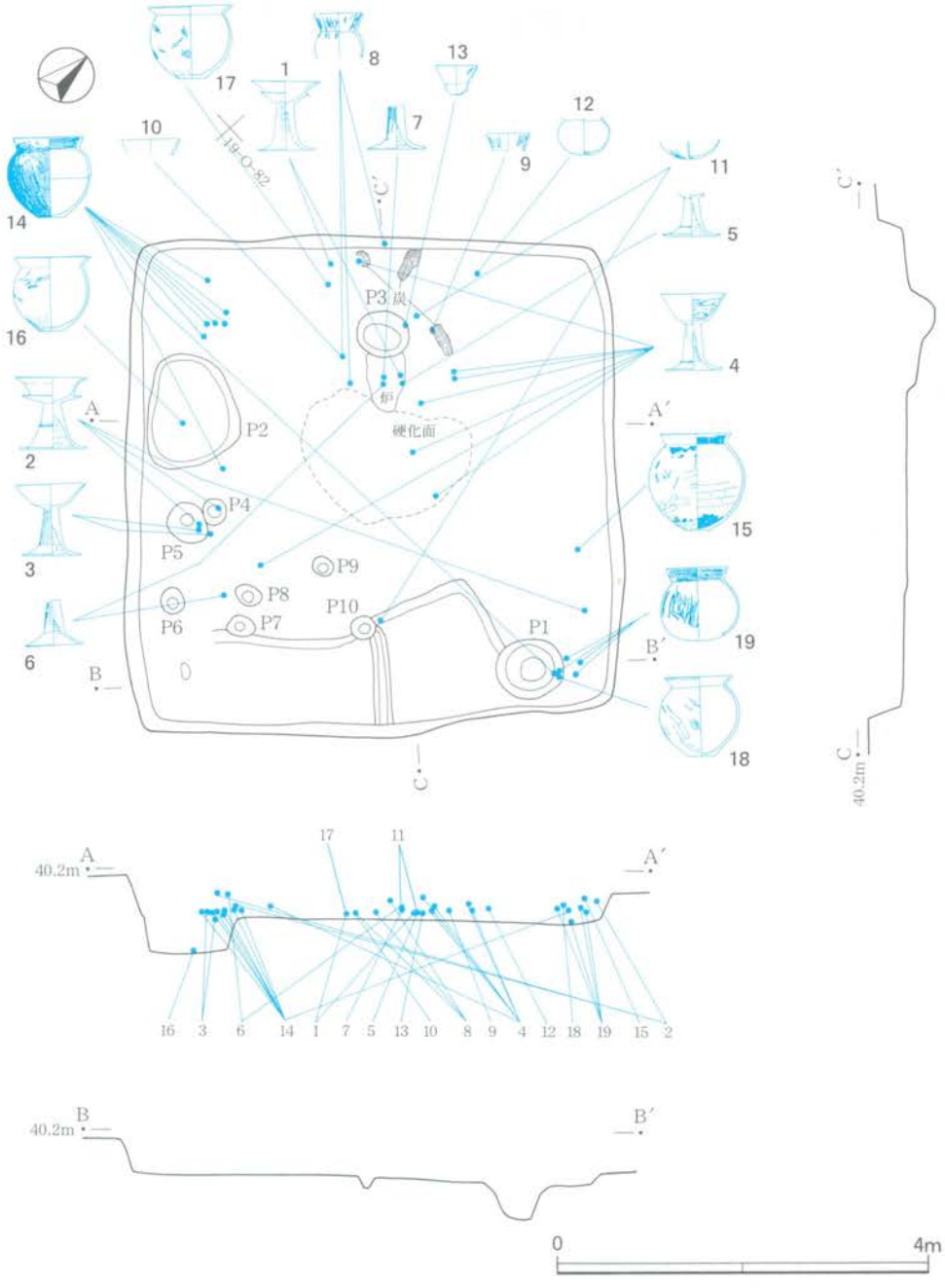
（１）住居跡

021号住居跡（第119図～121図１～22、図版25、26）

（遺構）調査区の西側、19－Ｏ－82区付近に位置する。平面形状はほぼ正方形である。規模は北西壁が、5.04m、北東壁4.98m、南東壁5.20m、南西壁5.24mである。主軸方位はＮ－45°－Ｗである。覆土は腐植土主体の暗褐色土で自然堆積である。北東壁よりに炉とおぼしきピットが検出されている。炉のある位置より南側の一角、床面のほぼ中央部分に近い範囲に硬化面が認められる。床面の南西壁側より間仕切り溝と思われる溝とピット等が検出されている。南東壁際より貯蔵穴と思われる大きなピットが検出されている。柱穴は確認されなかった。床面は全体に薄い焼土と炭化物の層に覆われていたので火災にあった住居跡である可能性が高い。住居跡の時期は伴出遺物等から古墳時代前期（五領期）に相当すると思われる。

（遺物）遺物は北東壁際の床面付近を中心に高杯や甕などの完形品がややまとまって検出している。図示したのは土師器高杯７点、土師器坩６点、土師器甕５点、、土師器壺１点、土玉３点である。

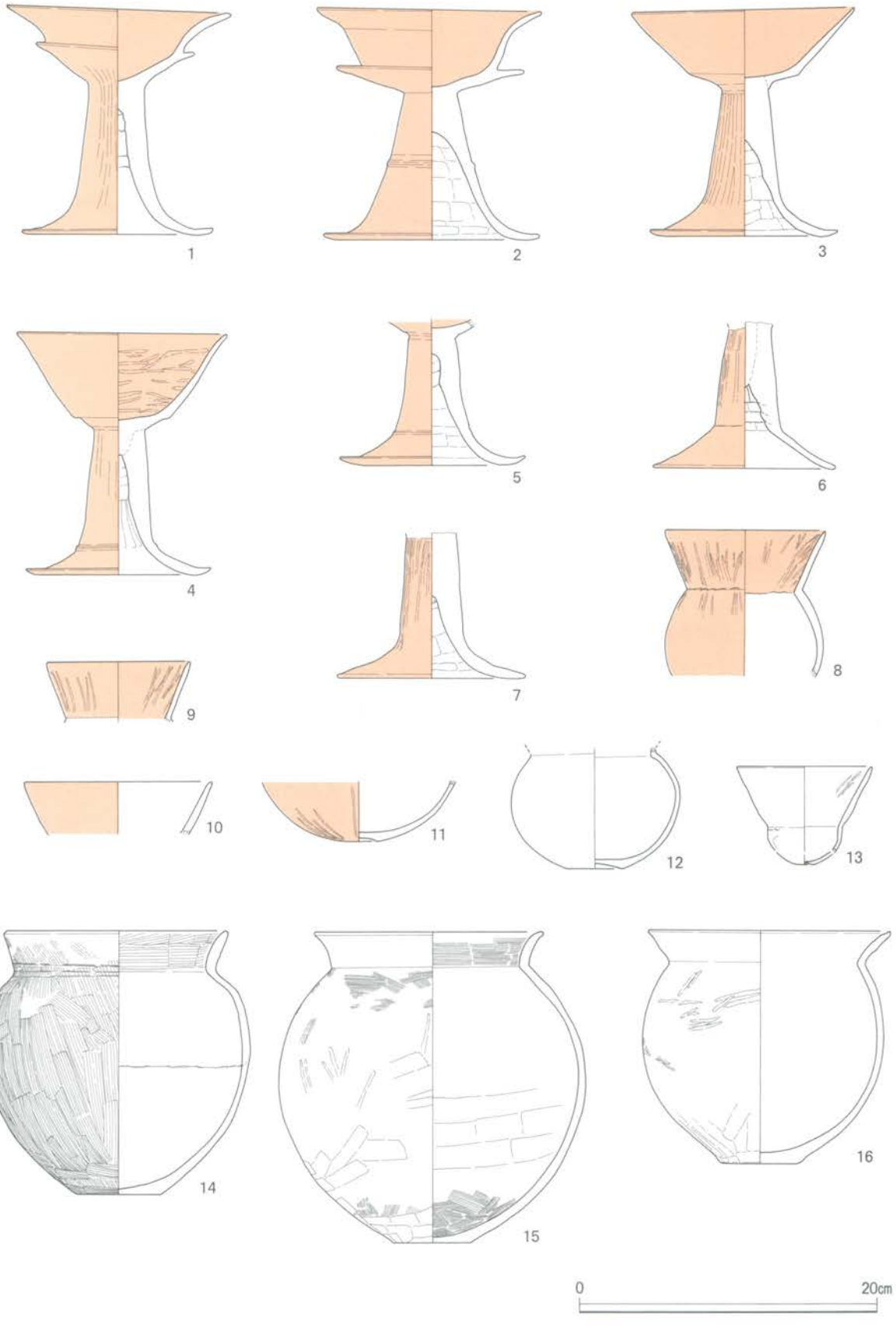
１～７は土師器の高杯である。１は土師器の高杯である。形態的には杯が高台に載る形である。口径15.1cm、裾径12.8cm、器高15.6cmである。内面はヨコナデ、外面はヨコナデ、ヘラミガキ後ナデで仕上げられている。内外面とも赤彩を施されている。全体にやや摩耗している。特に端部は顕著である。遺存状況はほぼ完形である。２は土師器の高杯である。１よりやや高台部分の張り出しが大きい。台部の中程に凹凸部分が１ヶ所見られる。口径15.2cm、裾径14.6cm、器高15.8cmである。内面はヨコナデ、外面はヨコナデ、ヘラミガキ後ナデで仕上げられている。内外面とも赤彩を施されている。全体にやや摩耗している。特に端部は顕著である。遺存状況は5/6程度である。３は土師器の高杯である。１、２と比べると台部の張り出しがない。口径15.0cm、裾径12.6cm、器高15.6cmである。内面はヨコナデ、外面はヨコナデ、ヘラミガキ後ナデで仕上げられている。内外面とも赤彩を施されている。杯部の口縁内面及び裾下内面にもスス付着が見られる。火災時の焼けのためではなさそうである。４は土師器の高杯である。杯部の口唇部が一部欠けているがほぼ完形である。口径14.2cm、裾径12.4cm、器高16.2cmである。内面はヨコナデ、外面はヨコナデ、ヘラミガキで仕上げられているが、器面が比較的荒れているため不明瞭である。脚部は外面ヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内外面とも赤彩が施されているようである。５は土師器の高杯の脚部である。脚部の2/3程度遺存している。裾径12.6cmで他は不明であるが、他の完形品のものとほぼ同規格と思われる。杯部の内面はミガキ、外面はナデで仕上げられている。脚部内面はヘラケズリ、外面はナデ後ミガキで仕上げられている。内外面とも赤彩が施されているようである。６は土師器の高杯の脚部である。脚部がほぼ遺存している。裾径12.2cmで他は不明である。脚部内面はヘラケズリ、外面はナデ後ミガキで



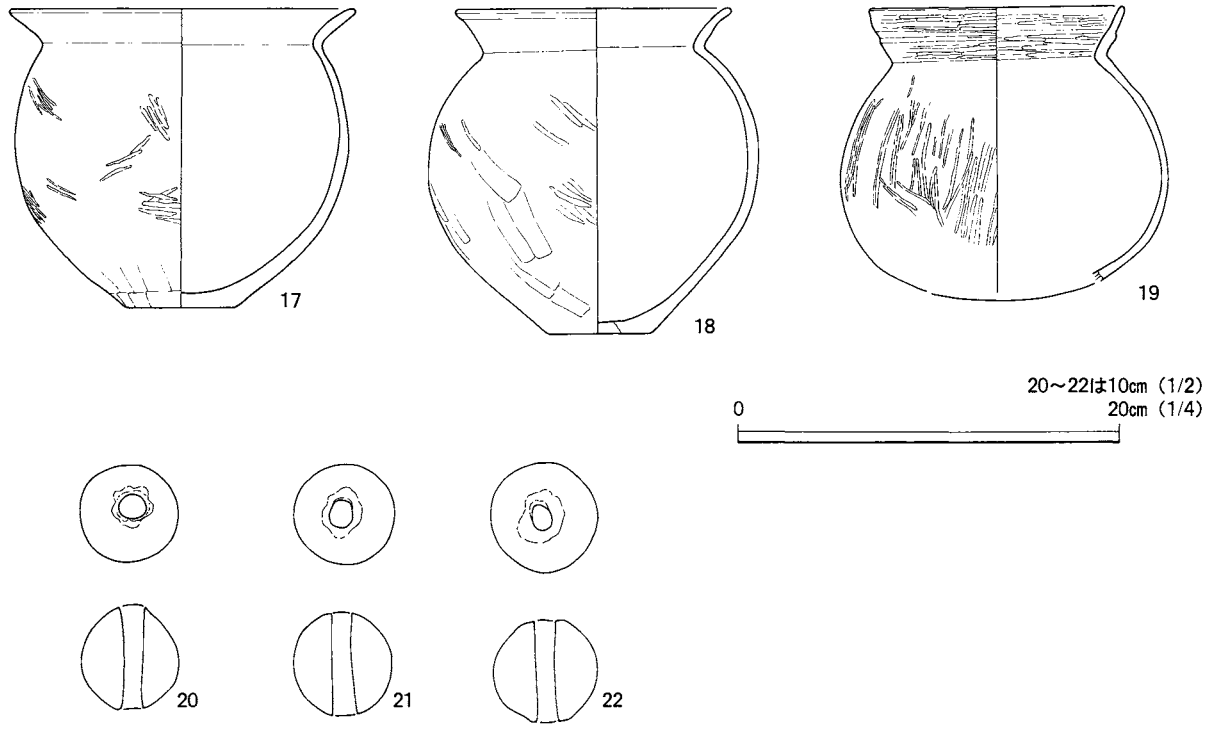
第119図　021号住居跡平面図（遺物分布含む）及びエレベーション図 (Scale 1/80)

仕上げられている。内外面とも赤彩が施されているようである。７は土師器の高杯の脚部である。脚部のほぼ1/2程度遺存している。裾径12.6cmで他は不明である。脚部内面はヘラケズリ、外面はナデ後ミガキで仕上げられている。内外面とも赤彩が施されている。内面に明瞭な輪積み痕を残す。

８～13は土師器の坩である。８は土師器の坩の口縁部～胴部にかけての1/3程度遺存しているものである。口径10.8cmで他は不明である。内面胴部以下はナデ、口縁部はミガキで仕上げられている。外面はナデ後縦方向のミガキで仕上げられている。内面口縁部赤彩、外面赤彩が施されている。９は土師器の坩の口縁部の破片である。口径9.6cmで他は不明である。内外面ともヨコナデ後ミガキで仕上げられている。また内外面とも赤彩が施されている。10は土師器の坩の口縁部の破片である。口径12.6cmで他は不明である。内



第120図　021号住居跡出土遺物実測図１



第121図　021号住居跡出土遺物実測図２

外面ともミガキで仕上げられているが、外面はやや荒れているため赤彩されていたかどうかは不明である。内面は赤彩されている。11は坩の底部破片である。底径2.6cmで他は不明である。内面はナデ、外面はミガキで仕上げられている。外面は赤彩が施されている。12は土師器の坩の胴部である。底径3.6cmで他は不明である。内面はナデ、外面はミガキで仕上げられている。内面は摩耗が著しい。外面口縁付近に赤彩の跡が見られるものの全体に塗布していたかどうかは不明である。また内面は黒色の付着物が認められる。漆様のものかもしれない。同様に外面の一部にも見られる。13は土師器の坩である。全体の1/2程度遺存している。内外面ともミガキで仕上がられている。全体に摩耗が著しい。内外面とも赤彩の痕跡は見られない。

14～18は土師器の甕である。14は土師器の甕のほぼ完形のものである。胴部の上半部に最大径のある器形である。口径15.1cm、底径5.6cm、器高17.7cmである。内面の口縁部は横方向の刷毛ナデ、外面は縦方向の刷毛ナデ仕上げである。内面胴部にかけてはナデで仕上げられており、中程に輪積み痕を残す。外面胴上半、内面下半部にはススが付着している。内面は下半部が剥落が著しい。15は土師器の甕の完形のものである。胴部の中程に最大径のある器形である。口径15.5cm、底径5.2cm、器高20.9cmである。外面口縁部はヨコナデ、胴部は刷毛整形後ヘラケズリ、ミガキで仕上げられている。内面は口縁部横方向の刷毛ナデ、胴部はヘラケズリ後ナデ、底部はナデで仕上げられている。外面はススがかなり付着している。16は土師器の甕のほぼ完形のものである。口縁部と胴部の最大径の差のあまりない器形である。口径16.3cm、底径5.5cm、器高15.7cmである。口縁部の内外面はヨコナデ、外面胴部以下はラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面胴部以下はナデで仕上げられている。外面はススがかなり付着している。17は土師器の甕で2/3程度遺存している。口縁部と胴部のほぼ中央部分に最大径のくる器形である。口径18.2cm、底径5.7cm、器高15.9cmである。縁部の内外面はヨコナデ、外面胴部以下はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面胴部以下は16よりは丁寧なナデで仕上げられている。外面はススがかなり付着している。18は土師器の

甕で5/6程度遺存している。胴部のほぼ中央部分に最大径がくる器形である。口径15.6cm、底径5.3cm、器高17.3cmである。内外面の口縁部はヨコナデ、外面胴部以下はヘラケズリ後、ミガキ、内面胴部以下はナデで仕上げられている。なお底面中央は焼成後内側から外側に向かって打ち欠いたと思われる跡が見られる。穿孔した可能性が考えられる。

19は土師器の壺である。底部は欠損しているがその他はほぼ完形である。口径13.4cm、推定器高15.8cmである。内面口縁部は横方向にミガキ、胴部はナデで仕上げられている。外面はミガキで仕上げられている。外面は被熱により胴部にかけてススけており、器面自体もやや荒れ気味である。ただ外面については全体に赤彩処理が施されていたと思われる。内面は意図的ではないと思われるが、吸炭により黒色化が進んでいる。

20～22は土玉である。20は最大径2.55cm、高さ2.7cm、孔径0.7cmである。21は最大径2.6cm、高さ2.55cm、孔径0.8cmである。22は最大径2.9cm、高さ2.6cm、孔径0.6cmである。調整はいずれも丁寧なナデで仕上げられている。色調は淡褐色～黒褐色である。

033号住居跡（第122図～124図１～５、図版27）

（遺構）調査区の中央より、20－Ｐ－30区付近に位置する。平面形状はやや長方形である。規模は北東壁が、2.79m、北西壁2.38m、南東壁2.48m、南西壁2.73mである。主軸方位はＮ－35°－Ｅである。覆土は腐植土主体の黒色土、黒褐色土、及びカマド付近の黄褐色土で自然堆積である。南西壁中央よりに梯子ピットと思われるピットが検出されている。北東壁中央のカマド付近より南西壁にかけて広い範囲で床の硬化部分が検出されている。カマド付近から中程の床面近くで炭化材の破片と焼土が検出されている。壁周溝は壁際全域に見られる。柱穴は確認されなかった。火災住居である可能性は高い。住居跡の時代は伴出遺物等から平安時代初頭に相当すると思われる。

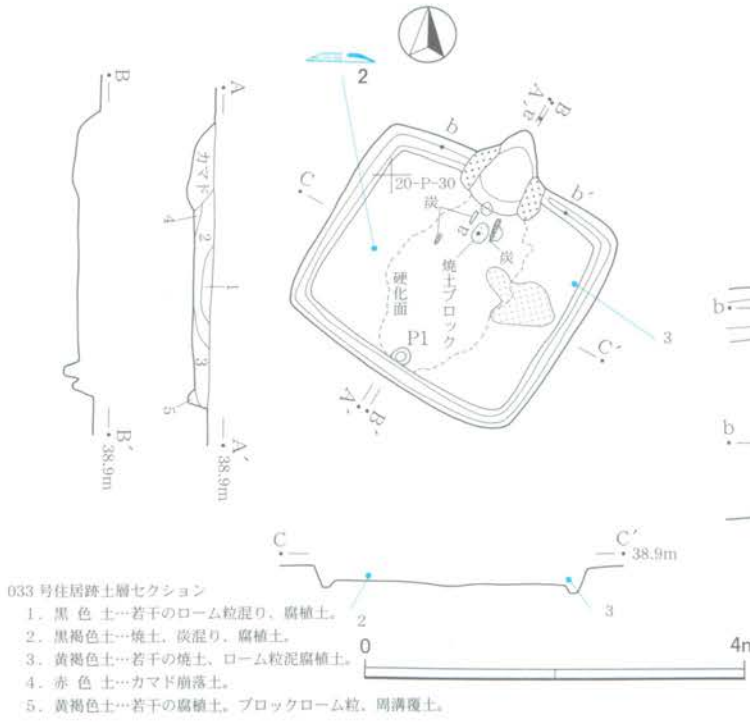
（遺物）遺物は床面付近から土師器の甕、須恵器蓋、甕破片、鉄製鎌などが散在している。図示したのは土師器甕２点、須恵器蓋１点、須恵器甕１点、鉄製鎌１点である。

１、４は土師器の甕である。１は土師器の甕である。口縁部～底部にかけて遺存している。破片が主体で全体の1/4程度遺存している。内面の口縁部はナデ、胴部上半部縦方向のヘラケズリ、胴部以下底部にかけてはミガキで仕上げられている。内面はナデで仕上げられていると思われれるが、焼成のためススけており詳細は不明である。４は土師器の甕の胴部下半部の大形破片である。当該部位の1/4程度遺存している。内面はナデ仕上げ、外面はヘラケズリ後、ミガキで仕上げている。

２は須恵器の蓋の破片である。1/3程度遺存している。内外面ロクロナデ仕上げと思われるが、内面は一部砥石に転用されているため擦痕が見られる。茶色の十文字の火ダスキ状の模様が表裏に観察される。焼成時に縛った跡と思われる。

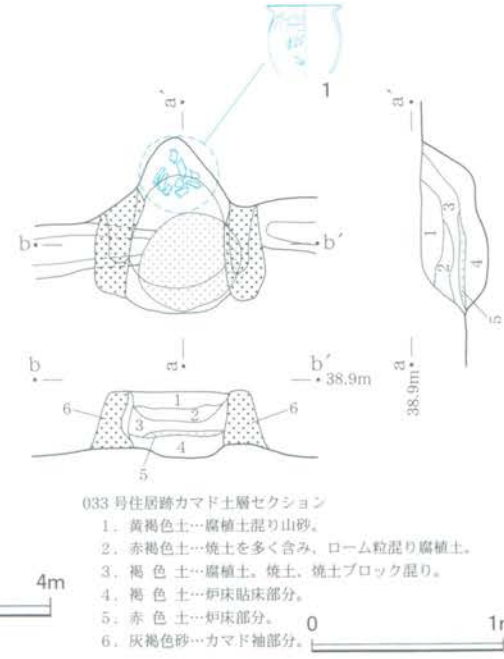
３は須恵器の甕の胴部破片である。表面はタタキ目、裏面には当て具痕が残る。

４は鉄製鎌である。全長19cm前後で基部に折り返しがある。全体に錆膨れが著しく残存状況はあまり良好ではない。



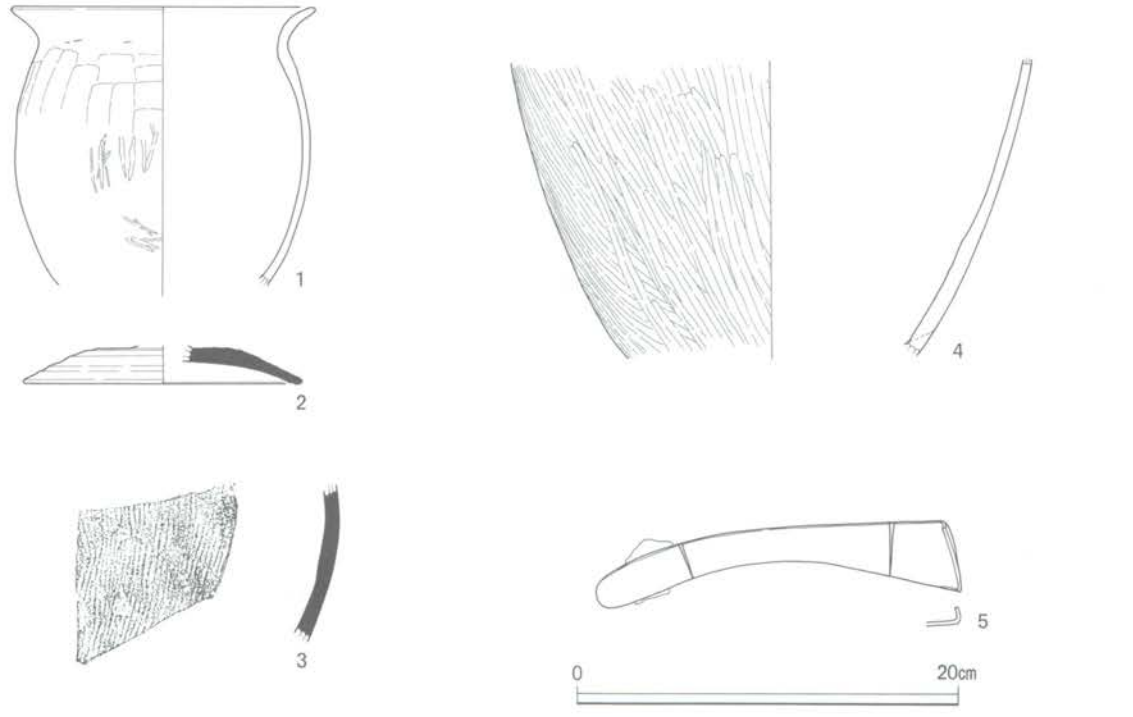
033 号住居跡土層セクション
1．黒 色 土…若干のローム粒混り、腐植土。
2．黒褐色土…焼土、炭混り、腐植土。
3．黄褐色土…若干の焼土、ローム粒泥腐植土。
4．赤 色 土…カマド崩落土。
5．黄褐色土…若干の腐植土。ブロックローム粒、周溝覆土。

第122図　033号住居跡平面図（遺物分布含む）
セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



033 号住居跡カマド土層セクション
1．黄褐色土…腐植土混り山砂。
2．赤褐色土…焼土を多く含み、ローム粒混り腐植土。
3．褐 色 土…腐植土。焼土、焼土ブロック混り。
4．褐 色 土…炉床貼床部分。
5．赤 色 土…炉床部分。
6．灰褐色砂…カマド袖部分。

第123図　033号住居跡カマド平面図（遺物分布含む）
及びセクション図 (Scale 1/40)



第124図　033号住居跡出土遺物実測図

034号住居跡（第125図～127図１～16、図版28、29）

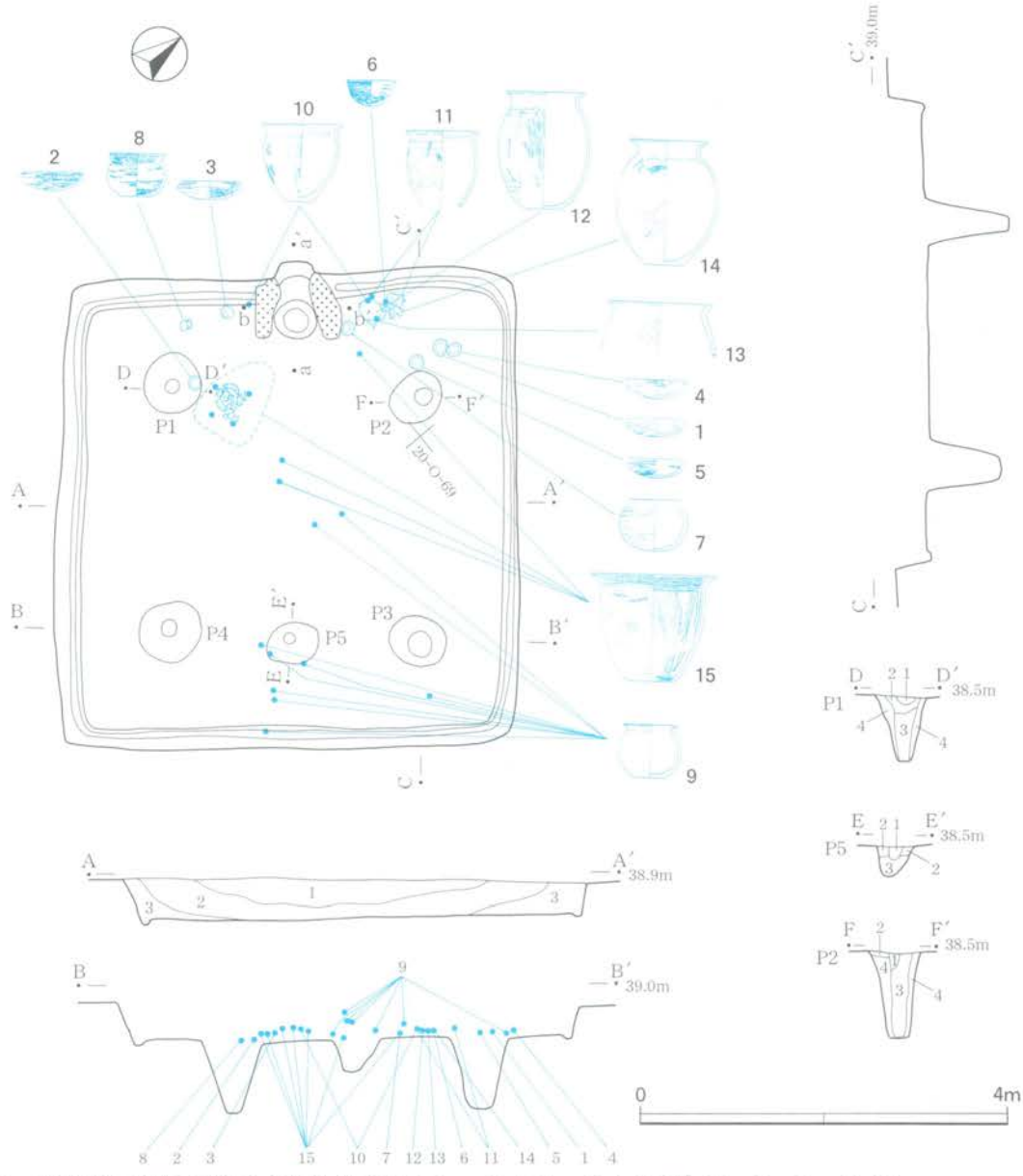
（遺構）調査区の西側、20－O－69区付近に位置する。平面形状はほぼ正方形である。規模は北西壁が、4.92m、北東壁5.08m、南東壁4.95m、南西壁5.06mである。主軸方位はN－53°－Wである。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、中層がローム粒、ロームブロック、腐植土混じりの褐色土、下層がローム粒、ロームブロック主体の暗褐色土でいずれも自然堆積である。北西壁にカマドを構築している。カマドは両袖ともしっかり残っており、炉床部分も検出されている。柱穴はP1～P4までの４本が検出されている。いずれも床面より80cm前後あり、しっかりしている。またカマドの反対側の壁際より梯子ピットと思われるピットP5が検出されている。床面は比較的しっかりしているものの明らかな硬化面は検出されていない。住居跡の時期は伴出遺物等から古墳時代後期（鬼高期）に相当すると思われる。

（遺物）遺物は北西壁カマド周辺部及び住居跡の中央部の床面付近を中心に甕や杯等の完形品がまとまって検出している。図示したのは土師器杯５点、椀１点、甕８点、甑１点、支脚１点である。

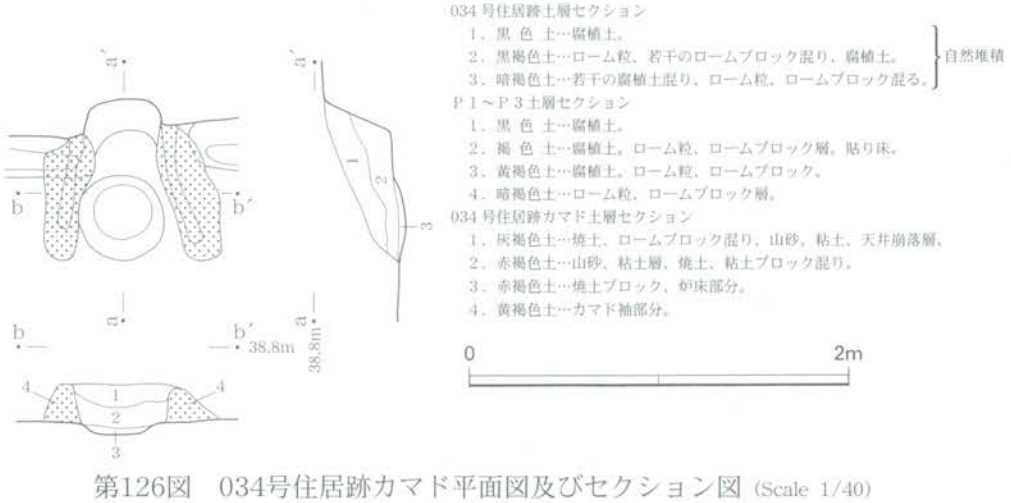
１～５は土師器の杯である。１は土師器の杯である。ほぼ完形である。口縁部に張り出し部分があり、口唇部が内曲する形態である。口径12.8cm、器高3.9cm、底径は丸底である。内面はヘラミガキ仕上げ、外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。外面は赤彩が施されている。口唇部の摩耗が著しい。２は土師器の杯である。ほぼ完形である。１と同様に口縁部に張り出し部分があり、口唇部が内曲する形態である。口径13.0cm、器高4.1cm、底径は丸底である。内面はミガキ仕上げ、外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。３は土師器の杯である。ほぼ完形である。１、２と同様に口縁部に張り出し部分があり、口唇部が内曲する形態である。口径12.4cm、器高4.1cm、底径は丸底である。内面はミガキ仕上げ、外面はヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。４は土師器の杯である。他のものとやや異なり口縁部の張り出しが無くやや口唇部に向かって内曲気味の形態である。口径13.7cm、器高4.1cm、底径は丸底である。内面はミガキ仕上げ、外面はヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。口唇部は若干の摩耗が見られる。５は土師器の杯である。ほぼ完形である。１～３と同様に口縁部に張り出し部分があり、口唇部が内曲する形態である。内面はミガキ仕上げ、外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。

６は土師器の椀である。ほぼ完形である。丸底で胴部に微妙な張り出しが見られる形態である。内面はヨコナデ後弱いミガキで仕上げられている。外面はミガキで仕上げられている。

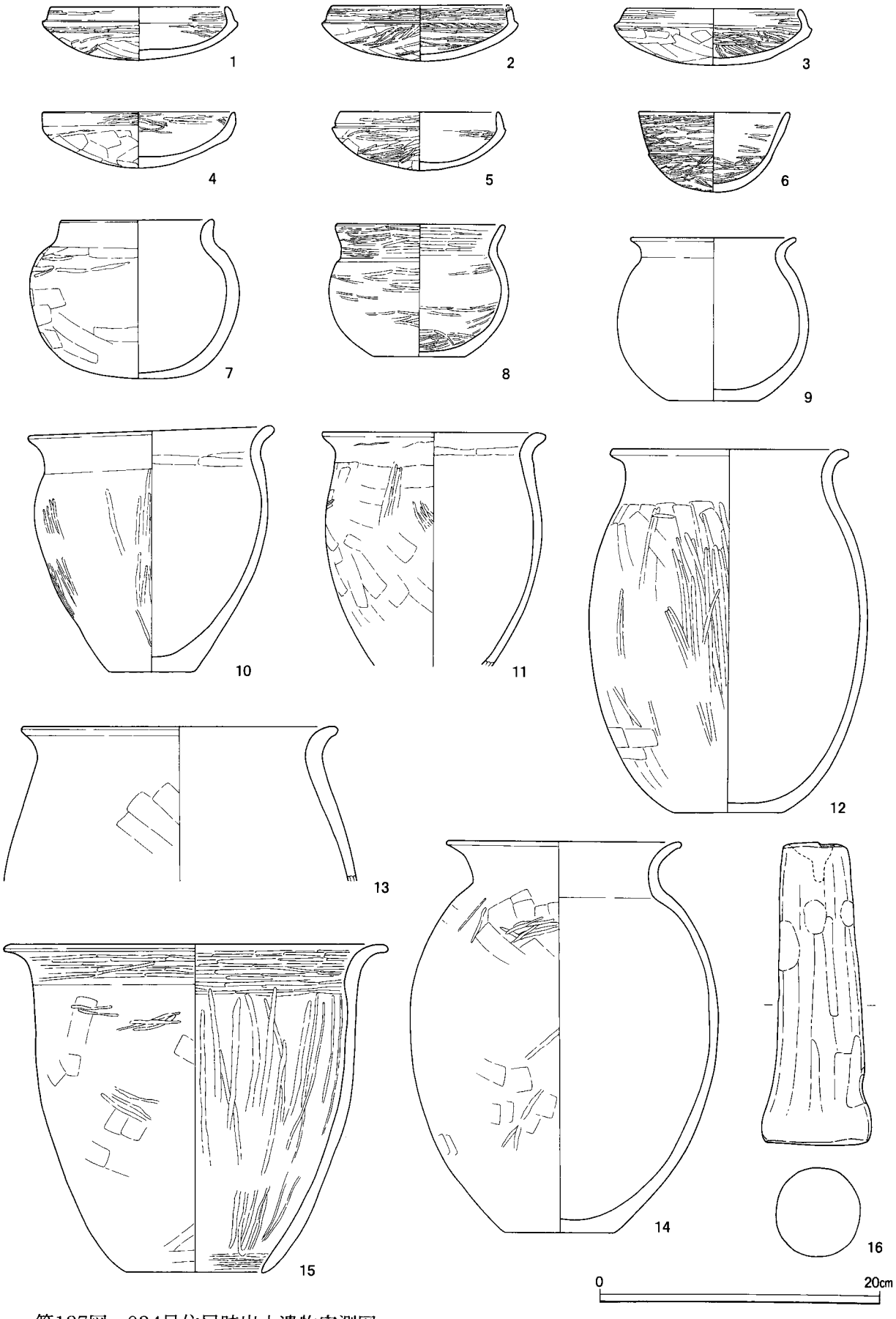
７～14は土師器の甕である。７は土師器の小形の甕である。完形である。胴部中央で最大径となり口縁部は直立する形態である。口径11.0cm、器高11.3cmで底はやや丸底ぎみで計測は不能である。内面はナデ仕上げ、外面は口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。８は土師器の小形の甕である。完形である。胴部の最大径と口径がほぼ同じようになる形態である。口径12.2cm、底径6.6cm、器高9.4cmである。内外面ともに丁寧なミガキで仕上げられている。９は土師器の小形の甕である。2/3程度遺存している。胴部やや下半に最大径のある形態である。口径11.8cm、底径6.4cm、器高11.6cmである。内面はナデ後弱いミガキで仕上げられている。外面はヘラケズリと思われるが、表面が荒れているため詳細は不明である。10は土師器の甕である。ほぼ完形である。胴部最大径が胴部やや上半部に位置し、口縁部とほぼ同じくらいある形態である。口径27.6cm、底径6.1cm、器高12.6cmである。内面は丁寧なナデで仕上げられている。頸部には横方向のヘラナデが残る。外面は口縁部ヨコナデ、胴部にかけてはヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。11は土師器の甕の口縁部～胴部下半部にかけて2/3程度遺存しているものである。口径と胴部最大径がほぼ同規模になる形態でやや縦長になると思われる。口径16.0cmで他は不



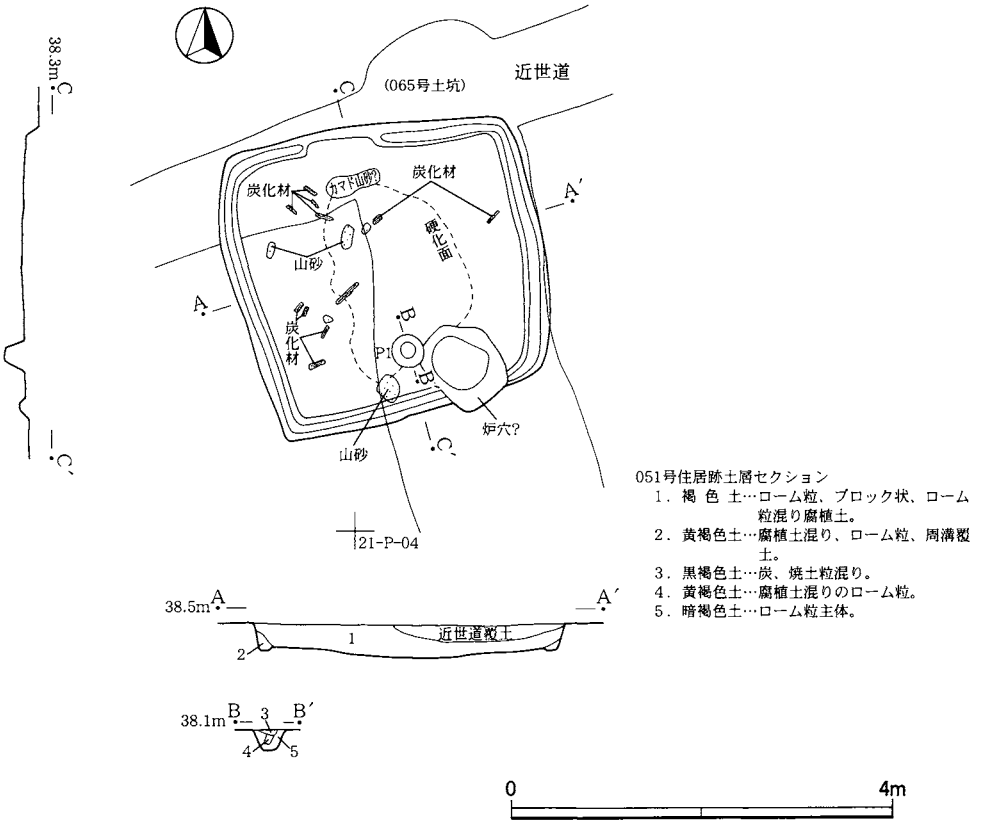
第125図　034号住居跡平面図（遺物分布含む）、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第126図　034号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第127図　034号住居跡出土遺物実測図



第128図　051号住居跡平面図(炭化材、山砂分布含む)、セクション及びエレベーション図(Scale1/80)

明である。内面は丁寧なナデで仕上げられている。外面は口縁部ヨコナデ、胴部にかけてはヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。12は土師器の甕でほぼ1/2程度遺存している。胴部中央部分に最大径があり、やや胴長の形をしている。口径17.0cm、底径7.7cm、器高25.9cmである。内面は丁寧なナデで仕上げられているが、器面の剥落が著しい。外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。13は土師器の甕の口縁部～胴部上半部の大形破片である。該当部位の1/3程度遺存している。口径22.6cmで他は不明である。胴部中程に最大径がくる器形であると思われる。内面はナデで仕上げられている。外面口縁部はヨコナデ、頸部以下はヘラケズリ後ナデで仕上げられている。14は土師器の甕でほぼ完形である。胴部中央部分に最大径になる器形である。口径16.9cm、底径8.0cm、器高27.9cmである。内面はナデで仕上げられている。外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。口縁部については内外面ともヨコナデで仕上げられている。

15は土師器の甑である。口縁部～胴部を中心に2/3程度遺存している。底部にかけてやや丸みのある器形である。口径27.4cm、孔径9.7cm、器高23.4cmである。内面底部、口縁部は横方向のミガキ、胴部はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。外面は口縁部ナデ後ミガキ、胴部～底部にかけてはヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。外面は部分的に黒変している。

16は支脚である。ほぼ完形である。砂質の強い粘土を使用して作られている。高さ21.7cm、最大径7.9cmである。体部上方に指頭痕が見られることから手持ちでヘラによる面取りを行っている模様である。

051号住居跡（第128図、図版29）

（遺構）調査区の中央部分、20－Ｐ－94区付近に位置する。平面形状はやや不整な方形である。規模は中近世の003号道路状遺構により北側壁に近い上部部分が削平されているが北西壁は、3.18m、北東壁2.82m、南東壁2.88m、南西壁3.08mである。主軸方位はＮ－13°－Ｗである。覆土はローム粒、ブロック状ローム粒混じりの腐植土が主体の褐色土である。北西壁にカマドを構築していたと思われるが道路状遺構で壊されていて一部痕跡が検出されたのみである。柱穴は検出されていない。南側壁際より梯子ピットと思われるピットＰ1が検出されている。また南側より貯蔵穴と思われるピットが検出されている。住居跡に伴うものと考えられているが、住居廃絶時には埋め戻されていたと考えられる。床面は中程に範囲が踏みしめられた範囲で比較的しっかりしている。床面の南西よりを主体に焼土ブロック、炭化材などが検出されており、火災住居跡と思われる。時期は平安時代（国分期）に相当すると思われる。

（遺物）遺物は細かな土師器の破片等しか検出されておらず、図示可能な遺物等は皆無である。

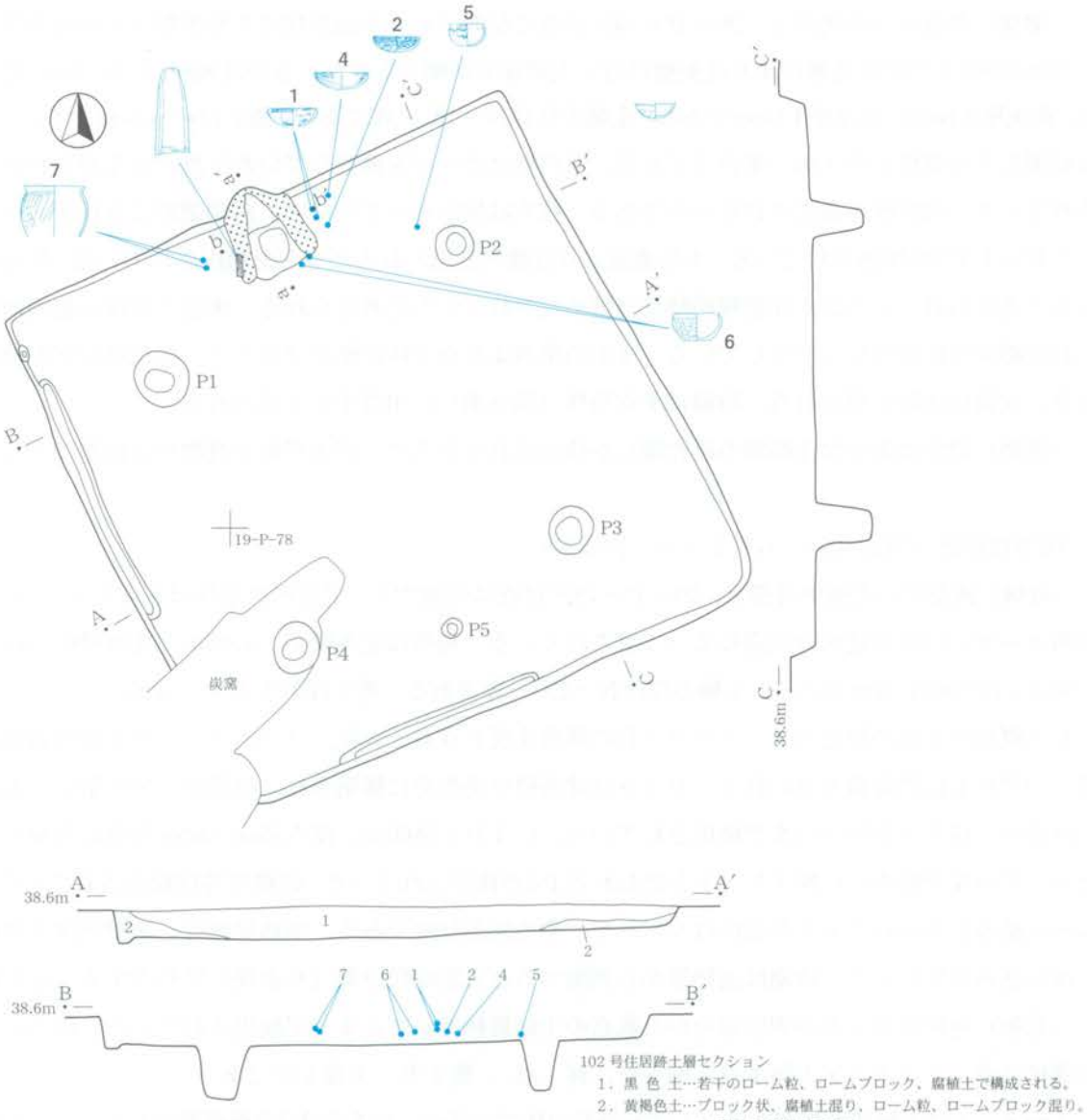
102号住居跡（第129図～131図１～８、図版30）

（遺構）調査区の北側中央部分、19－Ｐ－78区付近に位置する。平面形状はほぼ正方形に近い形である。南西コーナー付近は近世の炭窯によって壊されている。規模は北西壁が、5.96m、北東壁6.15m、南東壁6.05m、南西壁6.02mである。主軸方位はＮ－23°－Ｗである。覆土は若干のローム粒、ロームブロック混じりの腐植土主体の黒色土と、ブロック状の腐植土混じりローム粒、ロームブロック主体の黄褐色土である。いずれも自然堆積と思われる。カマドは北西壁中央部分に構築され、袖部分、炉床部分とも非常に残りは良い。柱穴はＰ1～Ｐ4まで検出されている。いずれも径60cm、深さ55cm～60cm程度の規模である。またカマドの反対壁際には梯子ピットと思われるＰ5が検出されている。貯蔵穴等は検出されていない。床面は殆ど踏みしめられたような箇所は見られず、やや凹凸気味である。南西壁側に一部壁周溝と思われる浅い落ち込みが見られる。時期は遺物等から判断すると古墳時代中期（和泉期）に相当すると思われる。

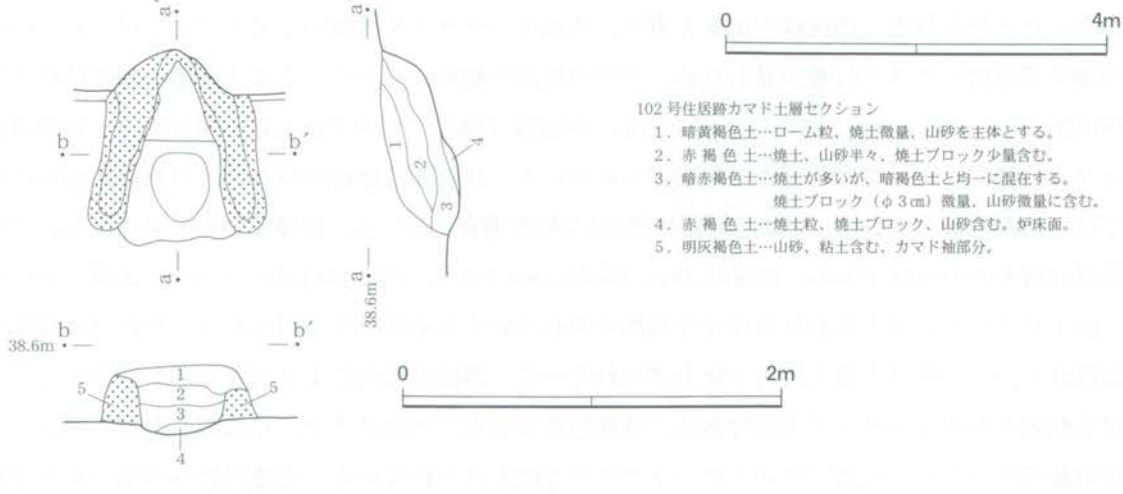
（遺物）遺物はカマドの周辺部分から数点の土師器杯等がまとまって検出されている。図示したのは土師器杯３点、ミニチュア土器１点、椀１点、鉢１点、、甕１点、支脚１点である。

１～２、４は土師器の杯である。１は土師器の杯で底部の一部を除き2/3程度遺存している。ややロ唇部が内曲する形態を呈する。口径10.2cmで底部は丸底になると思われる。器高は現高4.1cmであるが当初はもう少しあったと思われる。内面はナデ後ミガキ、外面はヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。口縁内外面に部分的にススの付着が見られる。ややロ唇部が摩耗している。２は土師器の杯でほぼ完形である。口径10.3cm、器高4.5cmで底径は丸底である。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。外面は底部ヘラケズリ、口縁部にかけてはミガキで仕上げられている。口唇部は摩耗が少ない。口唇部外面から内面にかけてはススが付着している。４は土師器の杯で1/3程度遺存している。口縁部がやや直立気味に立ち上がるが底部は緩やかな丸底である。口径12.0cm、器高3.9cmである。内面口縁部はミガキ、底部にかけてもミガキで仕上げられていると思われるがやや器面が荒れているため詳細は不明である。外面は口縁部がミガキ、底部以下はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面は吸炭による黒色処理が施されている。

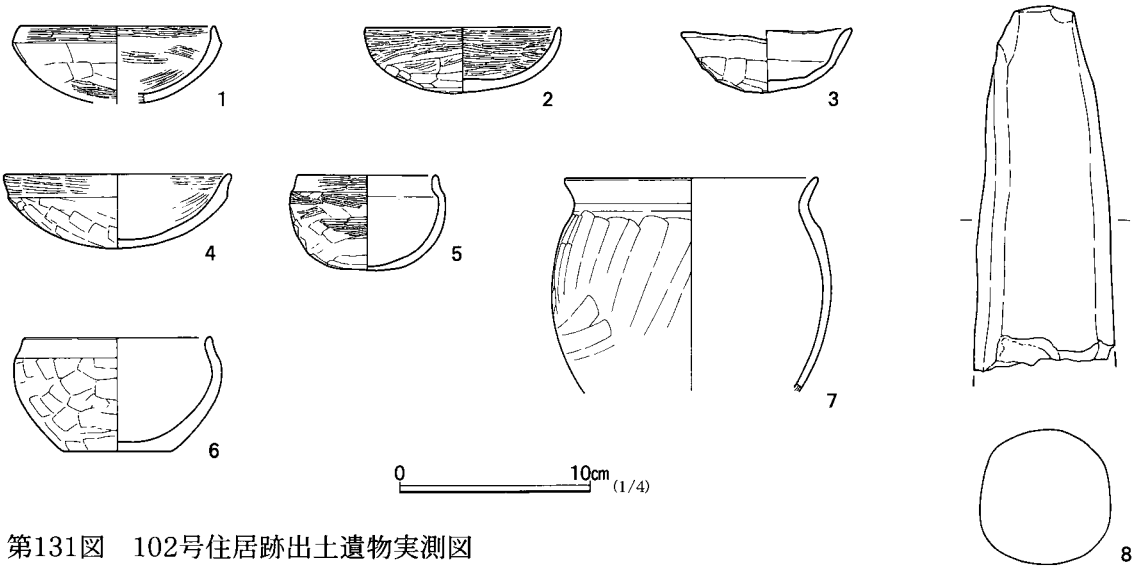
３は土師器の杯のミニチュア土器である。ほぼ完形である。内面はナデ、口縁部にかけてはヨコナデ、外面は口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。全体に歪みの強いものである。使用された跡は見られない。



第129図　102号住居跡平面図（遺物分布含む）、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第130図　102号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第131図　102号住居跡出土遺物実測図

５は土師器の椀である。完形である。小形であるためミニュチュア土器とも思われるが、調整等は非常に精緻である。口径7.3cm、器高5.0cmで丸底である。内面はナデ後弱いミガキで仕上げられている。外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。

６は土師器の鉢である。全体の1/3程度遺存している。口径9.8cm、器高6.0cm、器高5.8cmである。内面は口縁部ヨコナデ、底部にかけては丁寧なナデで仕上げられている。外面は口縁部ヨコナデ、底部、底面にかけてはヘラケズリで仕上げられているが内外面とも器面が荒れている。

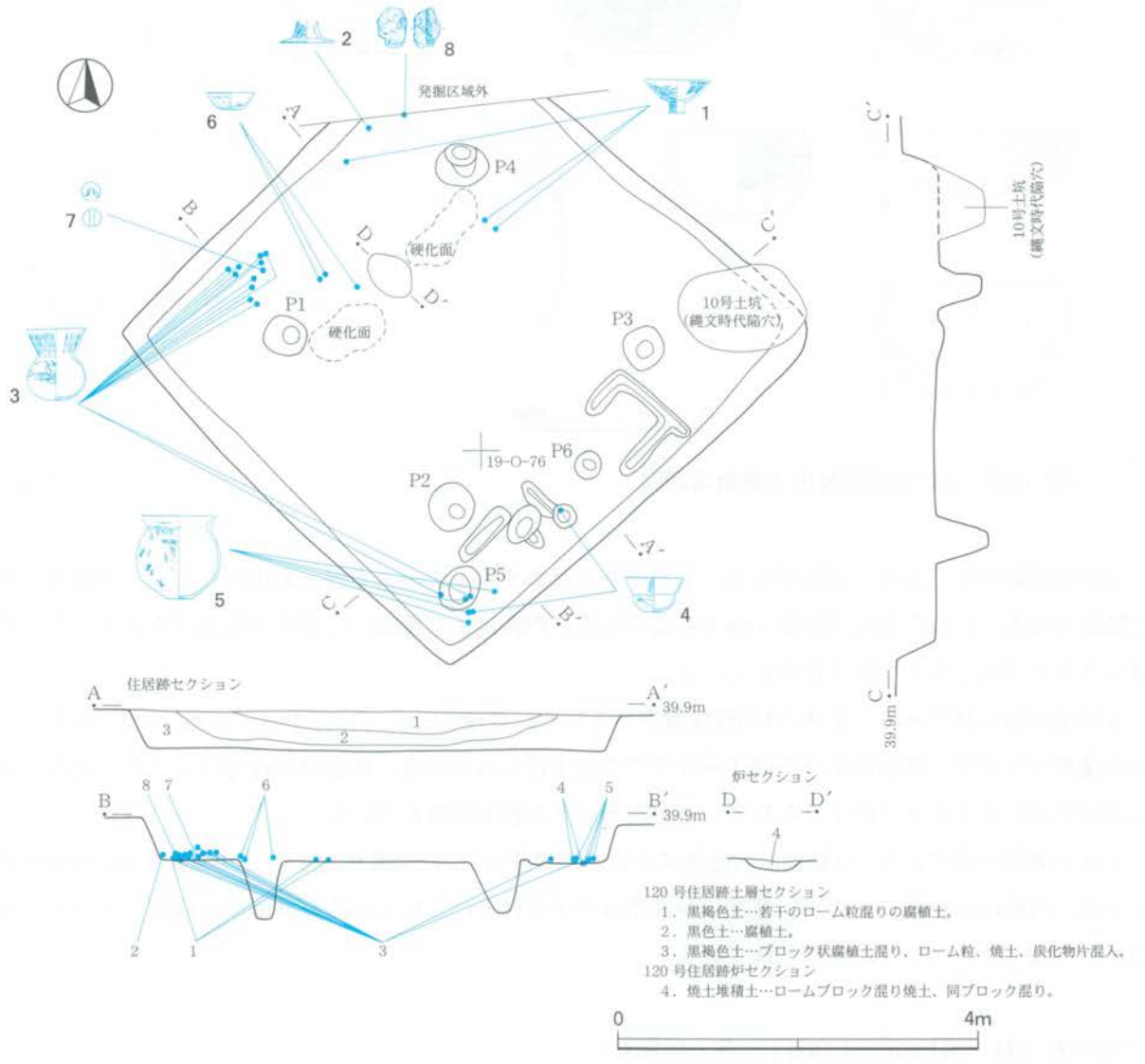
７は土師器の甕である。口縁部から底部にかけての破片で1/3程度遺存している。口径13.4cmで他は不明である。内面は口縁部ヨコナデ、底部にかけてはナデで仕上げられている。外面は口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。

120号住居跡（第132図～133図１～８、図版31）

（遺構）調査区の北側中央部分、19－Ｏ－76区付近に位置する。平面形状はほぼ正方形に近い形である。北東コーナー付近は次年度に調査をおこなったが、確認できなかった。規模は北西壁が、5.22m、北東壁5.60m、南東壁5.56m、南西壁5.28mである。主軸方位はＮ－48°－Ｗである。覆土は上層が若干のローム粒混じりの腐植土である黒褐色土、中層が腐植土主体の黒色土である。下層はブロック状の腐植土混じりの黄褐色土である。いずれも明瞭な自然堆積と思われる。北西壁より床面に炉が構築されている。柱穴はＰ1～Ｐ4まで検出されている。いずれも径50cm、深さ55cm～65cm程度の規模である。また南東壁側に間仕切り溝、ピットなどが検出されている。炉の反対壁際には梯子ピットと思われるＰ5が検出されている。北西側の炉の周辺の床面の一部に踏みしめられた箇所が見られる。南東壁際にやや高まりが見られる。祭壇状の施設かもしれない。時期は遺物等から判断すると古墳時代前期（五領期）に相当すると思われる。

（遺物）遺物は北西壁際及び南コーナー付近に数点の土師器杯等がまとまって検出されている。図示したのは土師器高杯２点、杯１点、坩２点、甕１点、、土玉１点、軽石製砥石１点である。

１、２は土師器の高杯である。１は土師器の高杯で杯部がほぼ遺存している。口径14.6cmである。杯部の内外面とも丁寧なミガキで仕上げられている。やや全体に摩滅している。内外面とも赤彩されている。

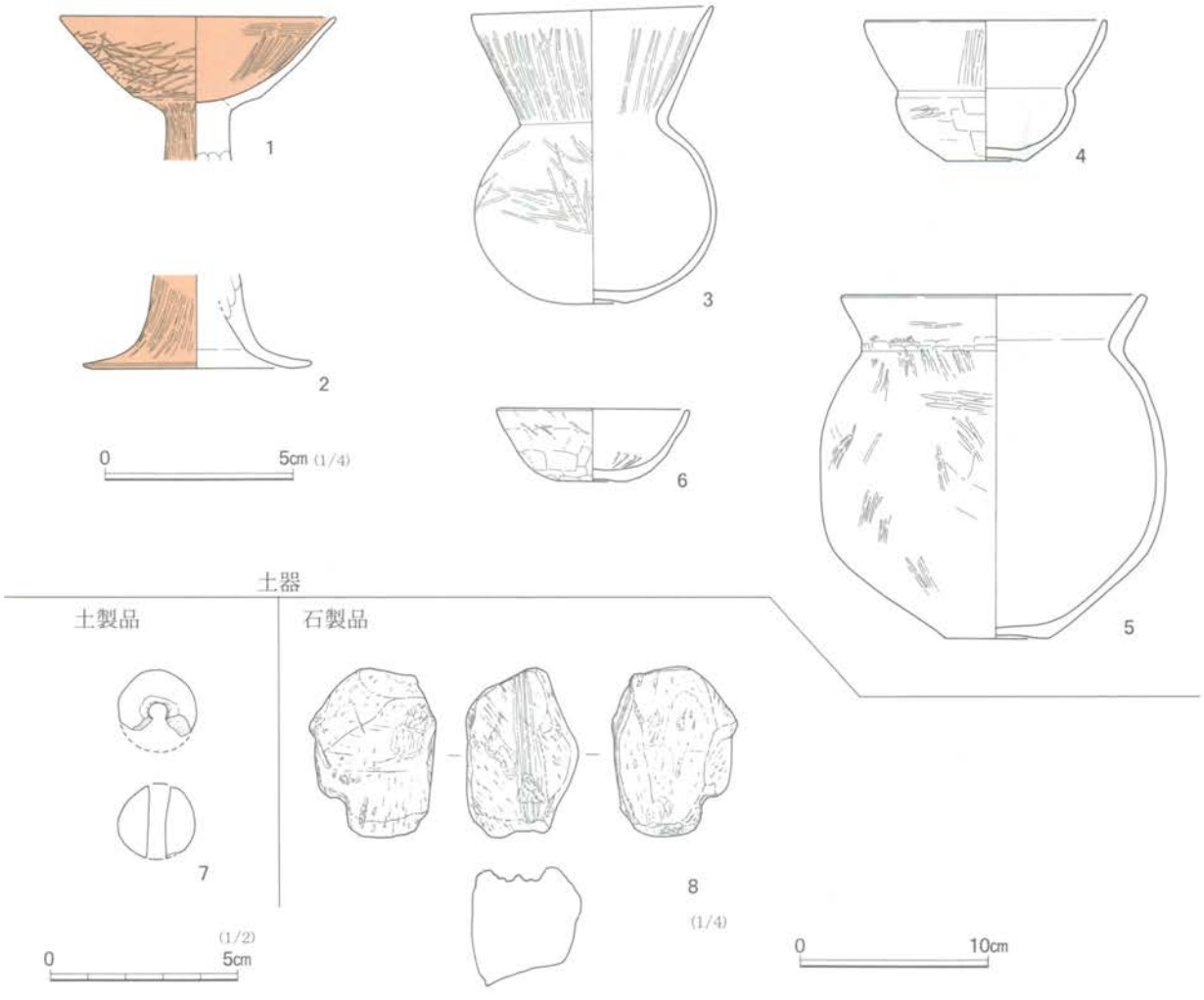


第132図　120号住居跡平面図（遺物分布含む）、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

2は土師器の高杯の脚部の裾部を中心に1/3程度遺存している。裾径は12.2cmである。脚部の外面は丁寧なミガキ、内面はナデで仕上げられている。直接の接合はしないが、1の資料と同一個体である可能性は高い。

3、4は土師器の坩である。3は土師器の坩で一部欠損部は見られるもののほぼ完形である。口径13.0cm、底径3.2cm、器高15.9cmである。外面はナデ後ミガキで丁寧に仕上げられている。内面は口縁部から頸部にかけてミガキで仕上げられている。内面胴部以下は比較的丁寧なナデで仕上げられている。内外面とも赤彩された痕跡を残す。被熱のため黒変している箇所が見られる。4は土師器の坩で1/2程度遺存している。口径13.0cm、底径4.2cm、器高7.7cmである。外面底面は無調整、体部はヘラケズリ後ミガキ、口縁部はナデ後ミガキで仕上げられている。内面は全体にナデで仕上げられている。

5は土師器の甕である。胴下部、口縁部に一部に欠落部分がみられるもののほぼ完形である。破損した



第133図　120号住居跡出土遺物実測図

後に被熱したため黒変、もしくは赤化した部分が認められる。胴部中程に最大径がくる器形である。口径16.4cm、底径5.4cm、器高18.4cmである。外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、胴部にかけては丁寧なナデで仕上げられている。

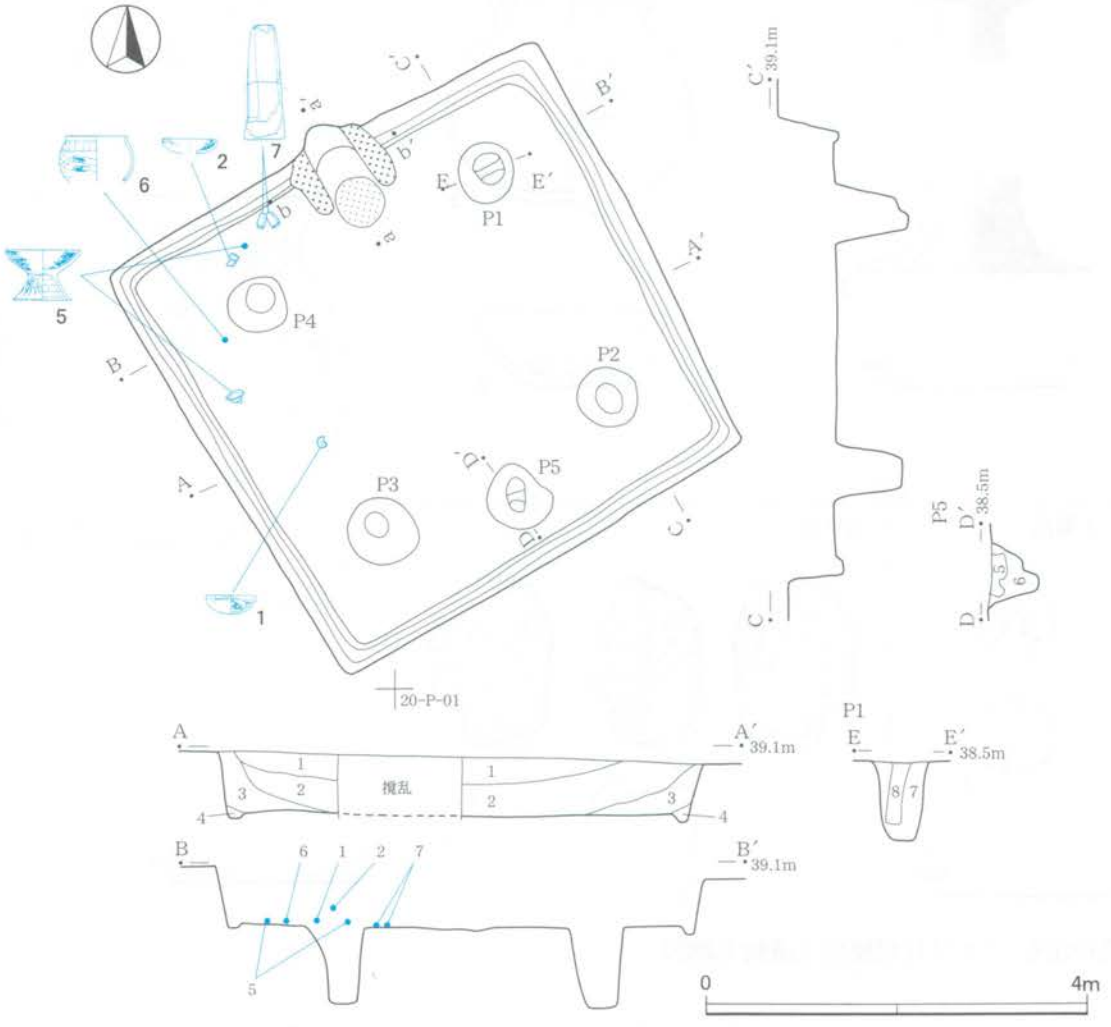
6は土師器の杯である。やや整形が雑で手捏ね風な感は否めない。2/3程度遺存している。口径10.4cm、底径3.5cm、器高3.9cmである。外面はヘラケズリ後弱いミガキ、内面はナデで仕上げられている。外面の底部はナデで仕上げられている。

7は土玉である。最大径2.1cm、高さ1.9cm、孔径0.6cmである。おおよそ2/3程度遺存している。

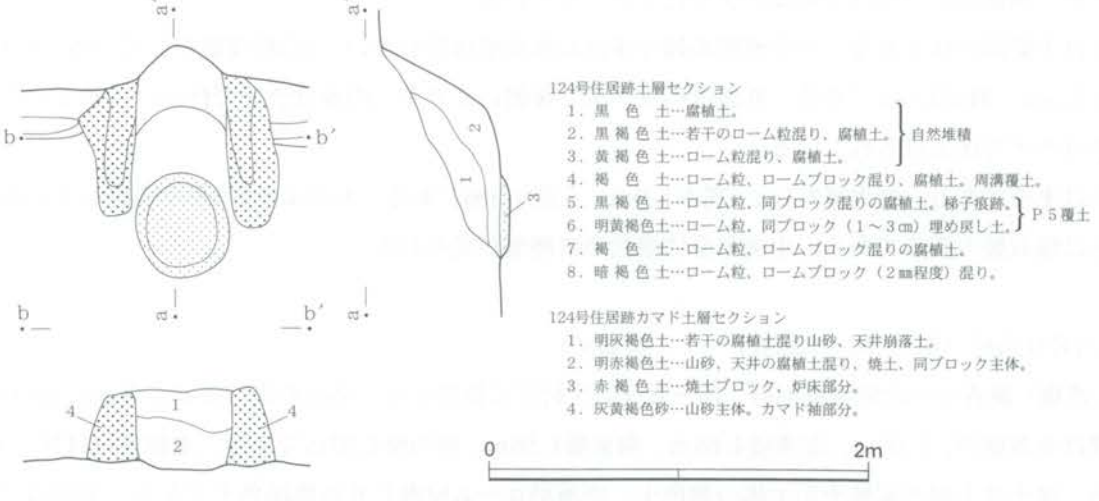
8は軽石製の砥石である。中央部分に溝状の研磨痕が見られる。

124号住居跡（第134図～136図1～7、図版32）

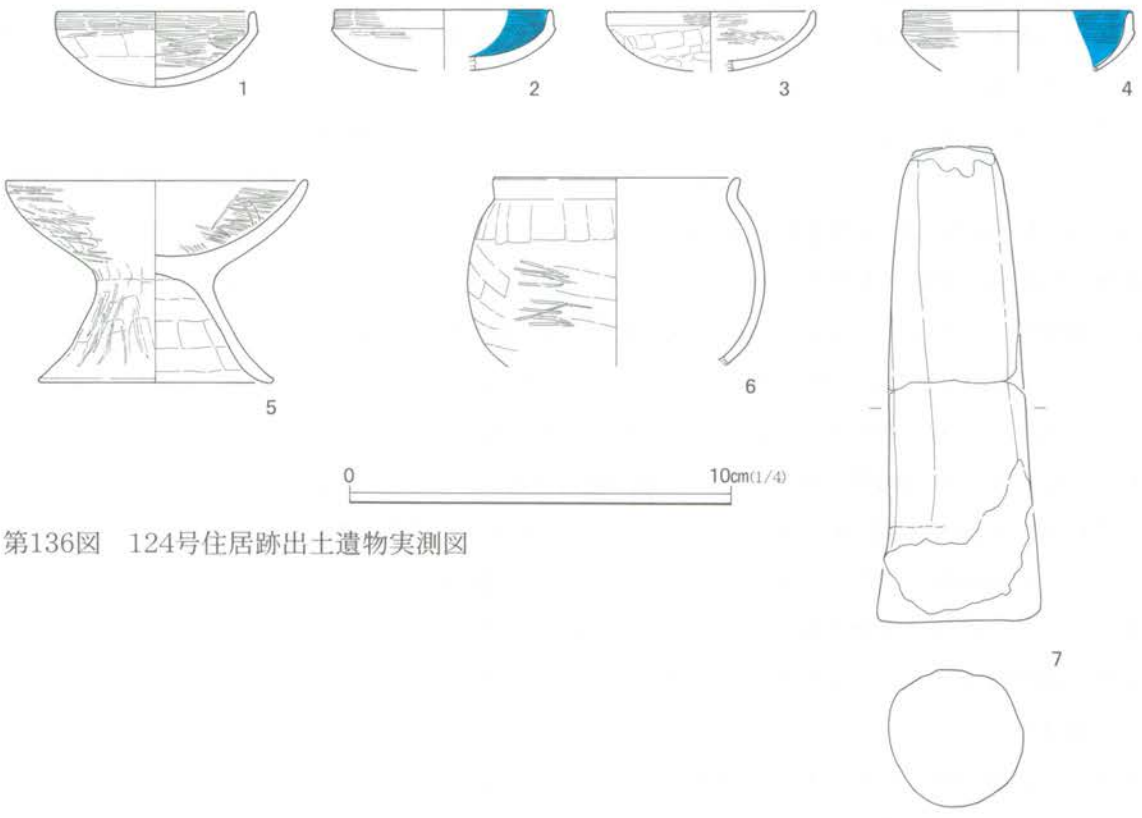
（遺構）調査区の北側中央部分、19－P－91区付近に位置する。平面形状はほぼ正方形に近い形である。規模は北西壁が、5.08m、北東壁4.88m、南東壁4.88m、南西壁4.92mである。主軸方位はN－30°－Wである。覆土は上層が腐植土が主体の黒色土、中層がローム粒混じりの黒褐色土である。下層はブロック状の腐植土混じりの黄褐色土である。いずれも明瞭な自然堆積と思われる。北西壁中央にカマドが構築され



第134図　124号住居跡平面図（遺物分布を含む）、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第135図　124号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第136図　124号住居跡出土遺物実測図

ている。カマドの両袖と炉床部分は良好に検出されている。柱穴はＰ1～Ｐ4まで検出されている。いずれも径60cm、深さ80cm前後の規模である。またカマドと逆の南東壁側に梯子ピットＰ5が検出されている。深さは50cm程度である。床面は顕著な硬化面は認められない。時期は遺物等から判断すると古墳時代後期（鬼高期）に相当すると思われる。

（遺物）遺物はカマドの左袖付近の北西壁際及び南西壁付近にかけて床面付近に数点の土師器杯、高杯等が検出されている。図示したのは土師器杯４点、高杯１点、甕１点、土製支脚１点である。

１～４は土師器杯である。１は土師器の杯である。5/6程度遺存している。口径10.4cm、器高4.0cmで丸底である。内面は部分的にススが付着している。外面は荒れが激しいがおそらくヘラケズリ後ミガキ等の調整を行っていると思われる。内面は剥落が見られるものの比較的丁寧なミガキで仕上げられている。２は土師器の杯である。1/3程度遺存している。口径11.3cm、器高3.2cmで丸底になると思われる。外面口縁部～内面にかけてはミガキの後黒色処理を行っている。外面底部はやや器面が荒れているがヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられていると思われる。３は土師器の杯の1/3程度の破片である。口径11.3cm、丸底であるが器高は不明である。外面底部はヘラケズリで調整、外面口縁部から内面にかけてはミガキで仕上げられている。内面は２ほど顕著ではないがおそらく吸炭による黒色処理を行っていると思われる。４は土師器杯の破片である。1/6程度遺存している。口径12.0cmで丸底と思われる。器高は不明である。

５は土師器の高杯である。脚部はほぼ完全に遺存している。杯部は口縁部の一部を残す程度で他は1/3ほど残っている。口径15.8cm、器高10.5cm、裾径12.3cmである。外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面は脚部はヘラケズリで調整、杯部は丁寧にミガキで仕上げられている。

６は土師器の甕の口縁部から胴部下部にかけての大形破片である。口径13.0cmで底径、器高は不明である。外面はヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。口縁部は内外面ともヨコナデ、内面胴部下部にかけてはナデで仕上げられている。

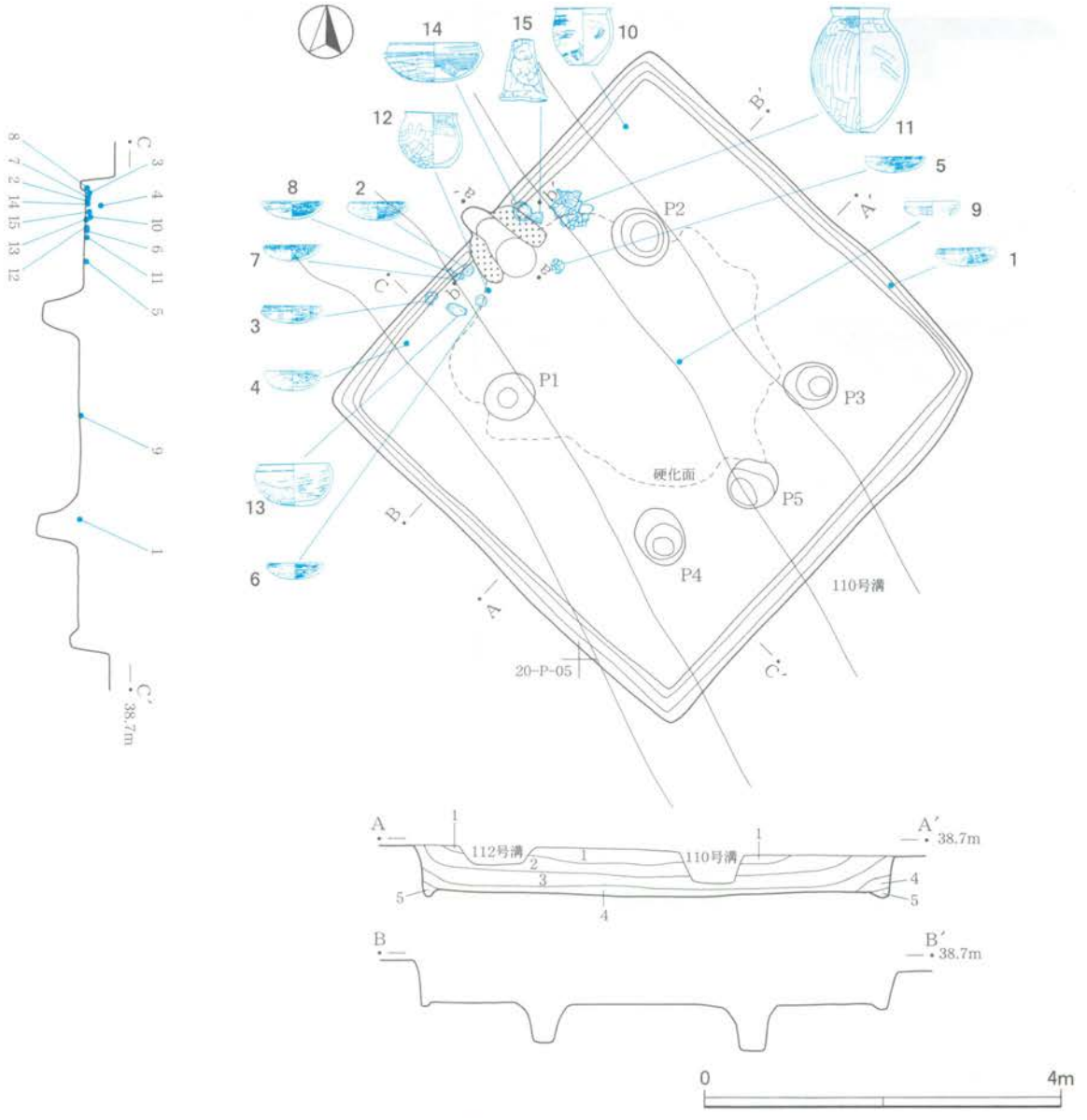
７は土製支脚である。全体にヘラによるナデで仕上げられている。被熱のため表面の剥落が著しい。

128号住居跡（第137図～139図１～15、図版33、34）

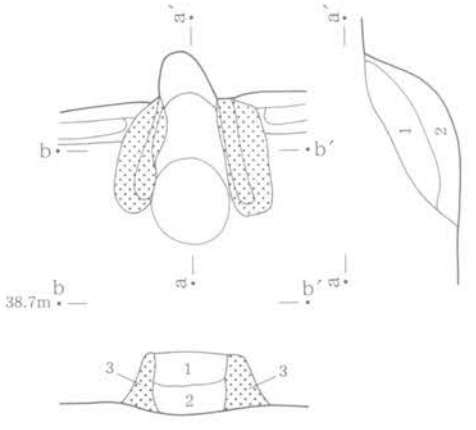
（遺構）調査区の北側中央部分、19－Ｐ－95区付近に位置する。平面形状はほぼ正方形に近い形である。規模は北西壁が、5.25m、北東壁5.20m、南東壁5.32m、南西壁5.37mである。主軸方位はＮ－48°－Ｗである。覆土は上層が腐植土が主体の黒色土、中層がローム粒混じりの褐色土である。下層はローム粒、ロームブロック混じりの黒～黒褐色土である。いずれも明瞭な自然堆積と思われる。北西壁中央にカマドが構築されている。カマドの両袖と炉床部分は良好に検出されている。柱穴はＰ1～Ｐ4まで検出されている。いずれも径50～60cm、深さ45cm前後の規模である。またカマドと逆の南東壁側に梯子ピットＰ5が検出されている。深さは50cm程度である。床面はカマド周辺から南東壁側にかけての中央部分を中心に顕著な硬化面が認められる。時期は遺物等から判断すると古墳時代後期（鬼高期）に相当すると思われる。

（遺物）遺物はカマドの両袖を中心に土師器杯、甕、鉢等が多数検出されている。図示したのは土師器杯９点、甕３点、鉢２点、土製支脚１点である。

１～９は土師器の杯である。１は土師器の杯で完形である。形態は口縁部が緩やかに内曲し、底部は緩やかな丸底となる。口径13.0cm、器高4.1cmである。内面は丁寧なミガキにより仕上げられている。外面口縁部は横方向に丁寧なミガキ、底部はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面は吸炭による黒色処理が施されている。２は土師器の杯で完形である。形態は１と同様に口縁部が緩やかに内曲し、底部は緩やかに丸底となる。口径12.5cm、器高3.9cmである。内面は丁寧なミガキにより仕上げられている。外面口縁部は横方向にミガキ、底部はヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。３は土師器の杯である。形態は１、２よりやや内曲しながら上を向くようになる。底部は丸底である。ほぼ3/4程度遺存している。口径12.7cm、器高3.9cmである。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。外面口縁部は横方向のミガキ、底部はヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。４は土師器の杯である。丸底で口縁部が急激に直立する器形である。ほぼ5/6程度遺存する。口径12.4cm、器高4.4cmである。内面は口縁部は横方向、底部にかけては中心から周辺部にかけて同心円状に弧を描いてミガキをかけている。外面口縁部は横方向、底部はヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。５は土師器の杯である。丸底で口縁部が急激に立ち上がる。４よりはやや横に広がる器形である。ほぼ完形である。口径13.3cm、器高3.8cmである。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。外面口縁部はミガキ、底部にかけてはヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。６は土師器の杯である。丸底で口縁部がやや急激に立ち上がる。底部の一部が欠損するもののほぼ完形である。口径12.5cm、器高3.6cmである。内面は丁寧なミガキ、外面口縁部はミガキ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。口縁部はやや摩耗が進んでいる。７は土師器の杯である。丸底で口縁部がやや急激に立ち上がる。口縁部の一部が欠損するもののほぼ完形である。口径12.5cm、器高3.7cmである。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。外面口縁部はミガキ、底部にかけてはヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。７は土師器の杯である。丸底で口縁部が急激に立ち上がる。口縁部の一部が欠損するもののほぼ完形である。口径12.5cm、器高3.7cmである。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。外面口縁



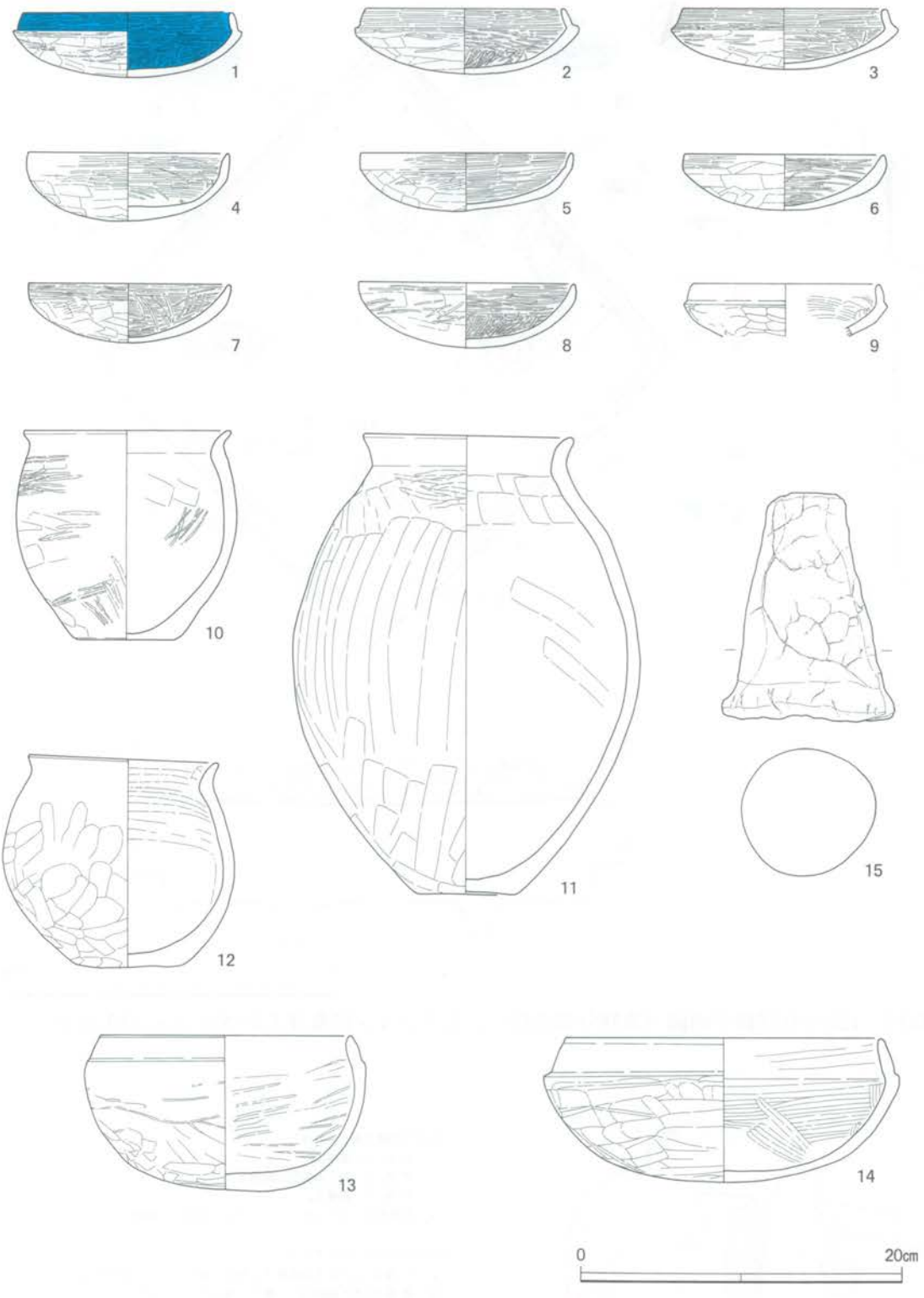
第137図　128号住居跡平面図（遺物分布含む）、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



128 号住居跡土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．褐 色 土…ローム粒混り腐植土。
3．黒 色 土…腐植土。
4．黒褐色土…ローム粒，ロームブロック混り，腐植土。

128 号住居跡カマドセクション
1．灰 褐 色 土…若干の腐植土、焼土粒混り山砂、天井崩落土。
2．赤 褐 色 土…山砂混り、焼土、焼土ブロック混り。
3．灰黄褐色土…暗褐色土粒混、山砂主体、カマド袖部。

第138図　128号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第139図　128号住居跡出土遺物実測図

部はミガキ、底部にかけてはヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。内面は吸炭による黒色処理を行っている。８は土師器の杯である。丸底で口縁部が急激に立ち上がる。口縁部の一部が欠損するもののほぼ完形である。また、口縁部は全体的に摩耗している。口径13.7cm、器高4.0cmである。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。外面口縁部はミガキ、底部にかけてはヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられて

いる。内面は吸炭による黒色処理を行っている。９は土師器の杯である。口縁部から底部にかけて残存しており、丸底の底面部分はほとんど欠損している。口唇部分はかなり荒れている。口径11.7cmで丸底になると思われるが、底面部分がないため器高は不明である。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。外面口縁部は横方向の丁寧なミガキ、底部にかけてはヘラケズリ後やや弱いミガキで仕上げられている。

10は土師器の小形甕である。全体の1/3程度遺存している。底部から比較的広がりながら立ち上がり、胴部上半部で最大径にある器形である。口径12.8cm、底径6.6cm、器高13.0cmである。内面はヘラケズリ後ミガキ、外面口縁部ヨコナデ、胴部以下がヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。
内面の器壁の荒れが著しい。外面にはかなりのススが付着している。11は土師器の甕である。ほぼ完形である。胴部中央部分に最大径のあるやや細長い印象の器形である。口径13.3cm、底径6.2cm、器高28.5cmである。内面口縁部はヨコナデ、胴部以下はナデで丁寧に仕上げられている。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリ後弱いミガキで仕上げられている。12は土師器の甕である。口縁部の一部を除きほぼ完形である。口径12.3cm、底径6.8cm、器高12.5cmである。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下は斜め方向のヘラケズリで調整されている。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下はナデで仕上げられている。内外面とも器面が荒れている。

13は土師器の鉢である。ほぼ完形である。口縁部がやや内曲する全体に丸みある器形である。口径15.5cm、高さ9.2cmで丸底である。外面はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。底面はヘラケズリ調整で仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下はナデ後弱いミガキで仕上げられている。14は土師器の鉢である。おおよそ4/5以上は遺存している。口径20.4cm、器高8.1cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ後弱いミガキ、胴部以下はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。底面はヘラケズリで調整されている。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下はミガキで仕上げられている。

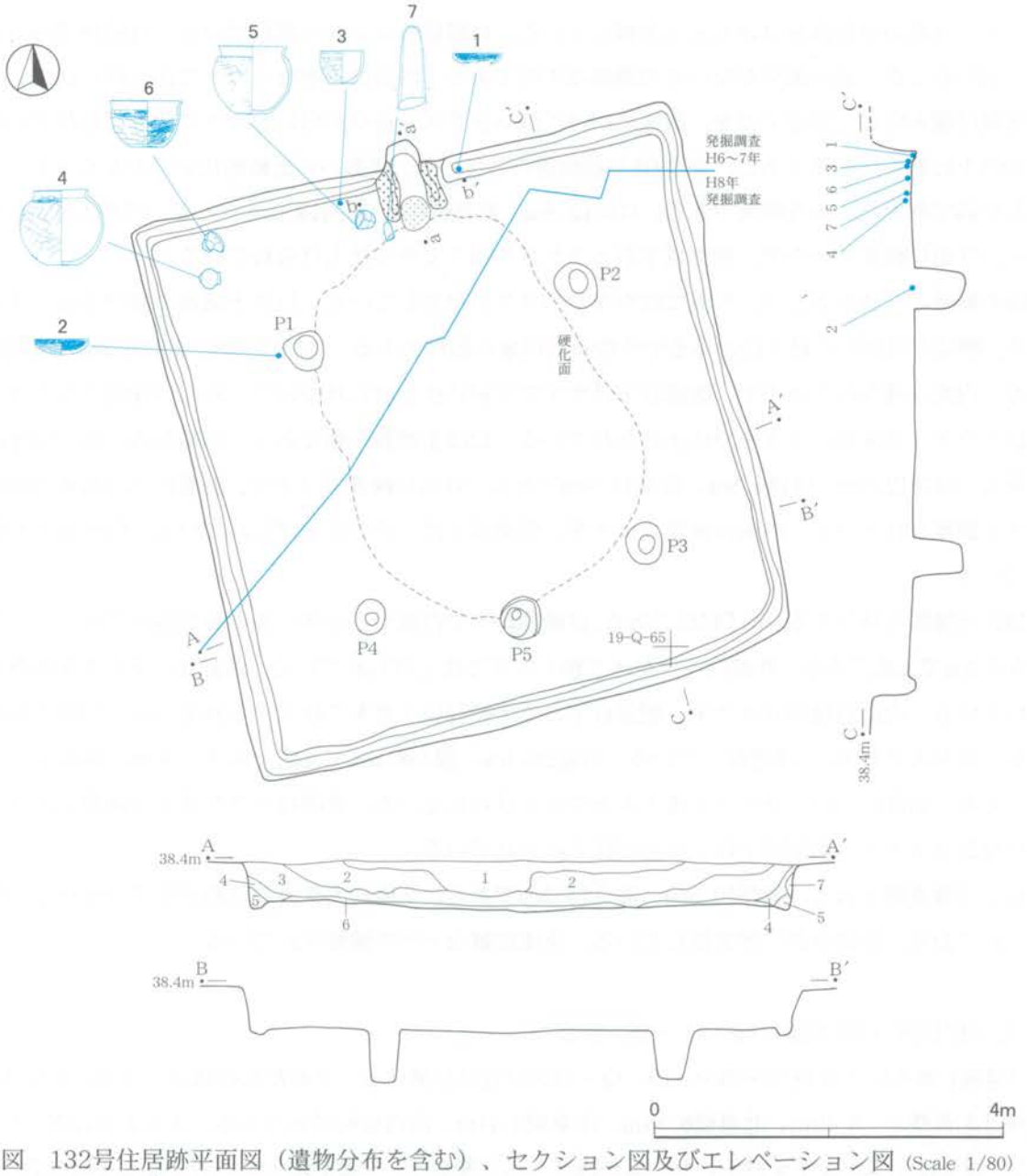
15は土製支脚である。裾径10.8cm、高さ14.2cmである。全体に大きめな砂粒が混ざった粘土を使用して作られており、裾部分が一部欠損している。全体に雑なナデで調整されている。

132号住居跡（第140図～142図１～16、図版35）

（遺構）調査区の北側中央部分、19－Q－54区付近に位置する。平面形状はほぼ正方形に近い形である。規模は北西壁が、6.40m、北東壁6.36m、南東壁6.44m、南西壁6.52mである。主軸方位はN－15°－Wである。覆土は上層が粒子が細かいローム粒混じりの黒褐色土、中層が焼土粒が若干混じる暗褐色土である。下層は焼土粒、ロームブロック混じりの暗～暗黄褐色土である。いずれも明瞭な自然堆積と思われる。北西壁中央にカマドが構築されている。カマドの両袖と炉床部分は良好に検出されている。柱穴はP1～P4まで検出されている。いずれも径40～45cm、深さ60cm前後の規模である。またカマドと逆の南東壁側に梯子ピットP5が検出されている。深さは50cm程度である。床面はカマド周辺から南東壁側にかけての中央部分を中心に顕著な硬化面が認められる。時期は遺物等から判断すると古墳時代後期（鬼高期）に相当すると思われる。

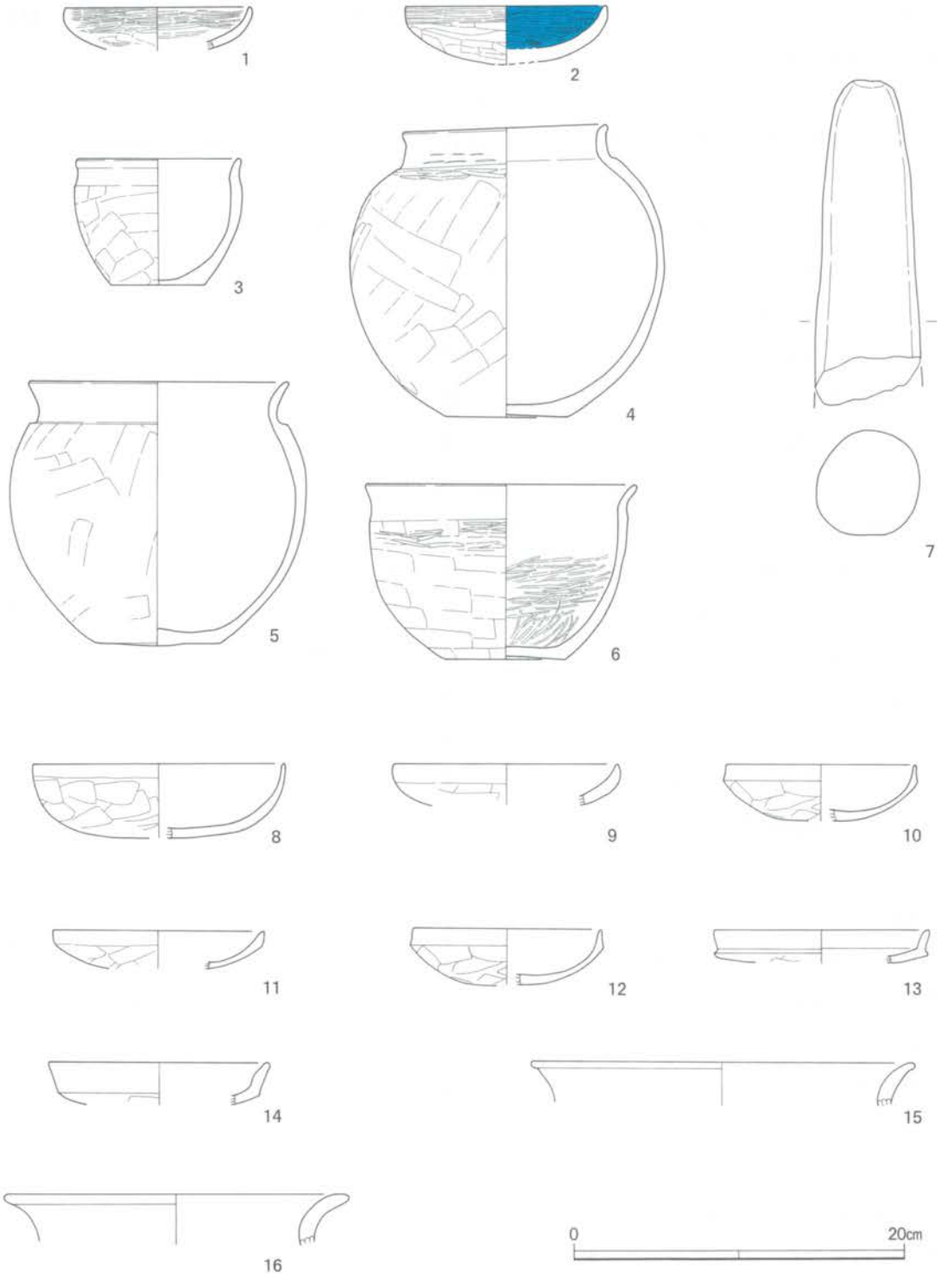
（遺物）遺物はカマドを中心に土師器杯、甕、鉢等が検出されている。図示したのは土師器杯９点、甕４点、土師器鉢２点、土製支脚１点である。

１～２、８～16は土師器の杯である。１は土師器の杯で1/6程度遺存している。形態は口縁部がほぼ直立し底形は丸底である。口径11.2cmで器高は不明である。外面口縁部ミガキ、底部にかけてはヘラケズリ後



第140図　132号住居跡平面図（遺物分布を含む）、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

第141図　132号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第142図　132号住居跡出土遺物実測図(Scale1/4)

ミガキで仕上げられている。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。２は土師器の杯で1/2程度遺存している。形態は１と同様に丸底で口縁部がほぼ直立する。口径12.3cm、器高3.6cmである。外面口縁部ミガキで、底部以下はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。また内面は吸炭による黒色処理が行われていたと思われる。８は土師器の杯で1/4程度遺存している。器形はや

や底面が広がり比較的急激に立ち上がる。口径15.3cm、器高4.5cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面はミガキで仕上げられている。９は土師器の杯の口縁部破片である。口径13.9cmで器高は不明である。丸底になるものと思われる。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面はミガキで仕上げられている。10は土師器の杯の破片で1/4程度遺存している。口縁部がやや内曲する器形である。口径11.5cm、器高3.4cmで丸底である。外面口縁部はミガキ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面はミガキで仕上げられている。また黒色処理が施されている。11は土師器の杯の破片である。口縁部にかけて比較的緩やかに立ち上がる丸底の器形と思われる。口径12.9cmで器高等は不明である。外面口縁部はヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面はミガキで仕上げられている。外面の一部に赤彩の痕跡が認められる。12は土師器の杯の破片である。口縁部が内曲し、立ち上がる丸底の器形になると思われる。口径13.0cmで器高は不明である。外面口縁部はナデで仕上げられている。内面は比較的丁寧なナデで仕上げられている。13は土師器の杯の破片である。口縁部が底部途中より屈曲しながら立ち上がる器形である。外面口縁部がナデ、底部はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

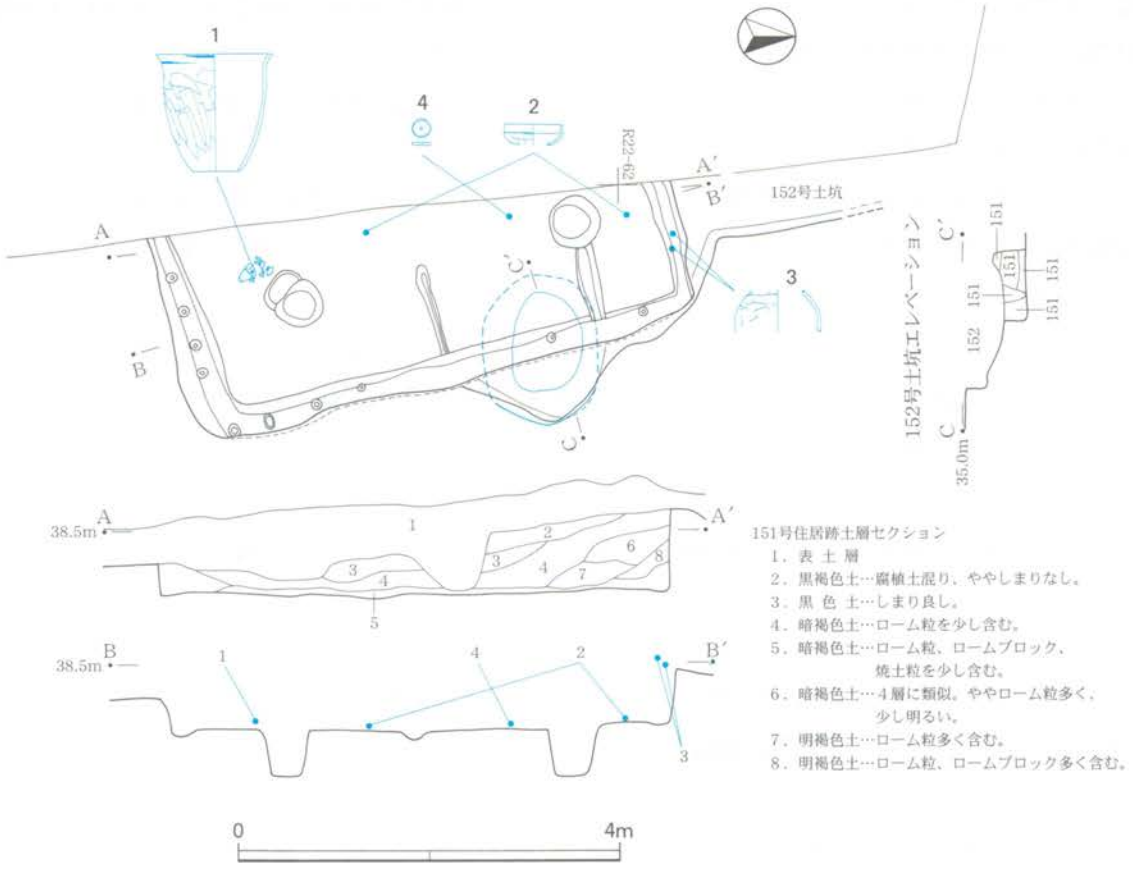
３、６は土師器の鉢である。３は土師器の鉢で1/3程度遺存している。底部からやや斜めに立ち上がり口縁部で緩やかにくびれる小形の鉢である。口径10.0cm、底径5.6cm、器高7.7cmである。外面口縁部はヨコナデ、胴部以下はヘラケズリ、底面はヘラケズリで仕上げられている。内面は全体にナデで仕上げられている。内面の口縁部付近にはススが付着している。６は土師器の鉢で1/2程度遺存している。底部からやや斜めに立ち上がり口縁部で緩やかにくびれる小形の鉢である。口径16.5cm、器高10.6cm、底径7.2 cmである。外面口縁部はヨコナデ、胴部はミガキ、底部はヘラケズリ後ミガキで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、胴部から底部にかけてミガキで仕上げられている。外面は被熱により一部黒変している。

４、５、14、15は土師器の甕である。４は土師器の甕でほぼ完形である。胴部のほぼ中程に最大径のくる器形である。口径12.5cm、器高17.7cm、底径7.4cmである。外面口縁部はヨコナデ、胴部以下はヘラケズリ、底部の一部はミガキで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。14は土師器の甕の口縁部破片である。15は土師器の甕の口縁部破片である。口径23.4cmで他は不明である。内外面ともナデで仕上げられている。16は土師器の甕の口縁部破片である。口径21.0cmで他は不明である。内外面ともナデで仕上げられている。

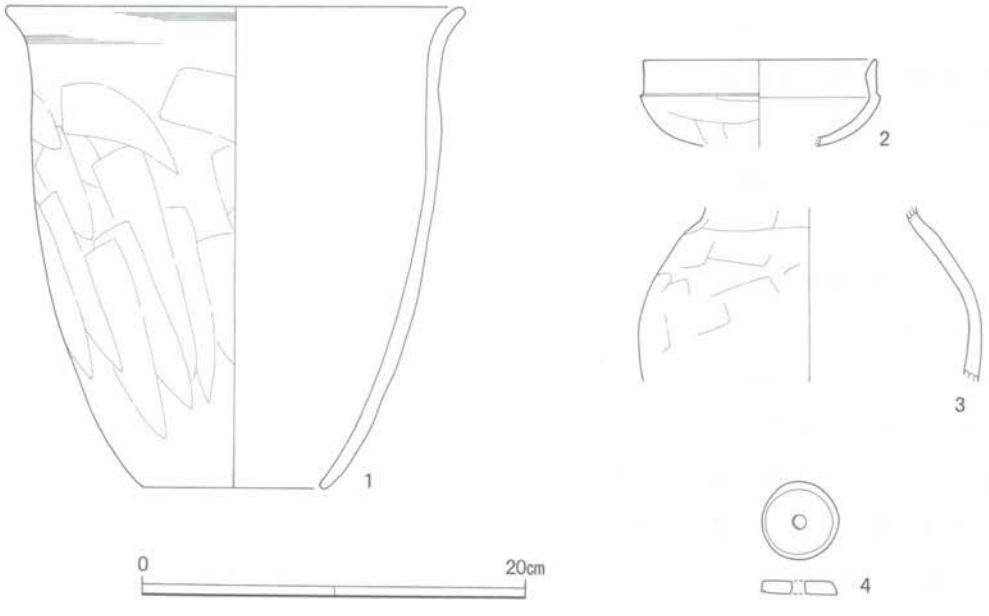
７は土製支脚である。裾径6.0cm、残高19.8cmである。胎土は非常に粗い山砂主体の粘土を使用している。やや角張った感じが強い。

151号住居跡（第143図～144図１～４、図版37）

（遺構）調査区の東よりの南側部分、22－Ｒ－52区付近に位置する。平面形状はほぼ正方形に近い形になると思われるが、西側の殆どは調査時には消失しており詳細は不明である。規模は北東壁が5.25mで他は不明である。主軸方位はＮ－13°－Ｗである。覆土は上層が粒子が細かいローム粒混じりの黒褐色土、中層が焼土粒が若干混じる暗褐色土である。下層は焼土粒、ロームブロック混じりの明褐色土である。いずれも明瞭な自然堆積と思われる。北西壁側にカマドが構築されていたと思われるが、2/3程度消失のため詳細は不明である。なお北東壁側には152号土坑が住居跡より新しい時期に作られていた。覆土中からスラグが多量に検出されている。柱穴はＰ1、Ｐ2が検出されている。いずれも径50cm、深さ50cm前後の規模であ



第143図　151号住居跡平面図（遺物分布含む）、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第144図　151号住居跡出土遺物実測図 (Scale 1/4)

る。また壁周溝内より小ピット、間仕切り溝と思われる施設等が検出されている。床面は硬化面が認められない。時期は遺物等から判断すると古墳時代後期(鬼高期)に相当すると思われる。

(遺物) 遺物はP1付近から土師器杯、土師器甕1点、石製紡錘車1点、P2付近から土師器甑など4点等が検出されている。

1は土師器甑である。3/4程度遺存している。口径23.8cm、底径10.4cm、器高25.2cmである。外面口縁部は横方向のナデ、胴部以下は縦方向のヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部横方向のミガキ、胴部以下は縦方向のミガキで仕上げられている。

2は土師器杯の破片である。口径12.2cm、器高4.5cmである。なお、底形は丸底である。外面口縁部は横方向のナデ、底部はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

3は土師器甕の胴部破片である。外面胴部は横方向のヘラケズリで仕上げられている。内面は横方向のナデで仕上げられている。

4は滑石製の紡錘車である。径3.8cm、厚み0.8cm、重さ18.0gである。裾の部分は一部欠損している。

154号住居跡 (第145図～146図1、図版37、38)

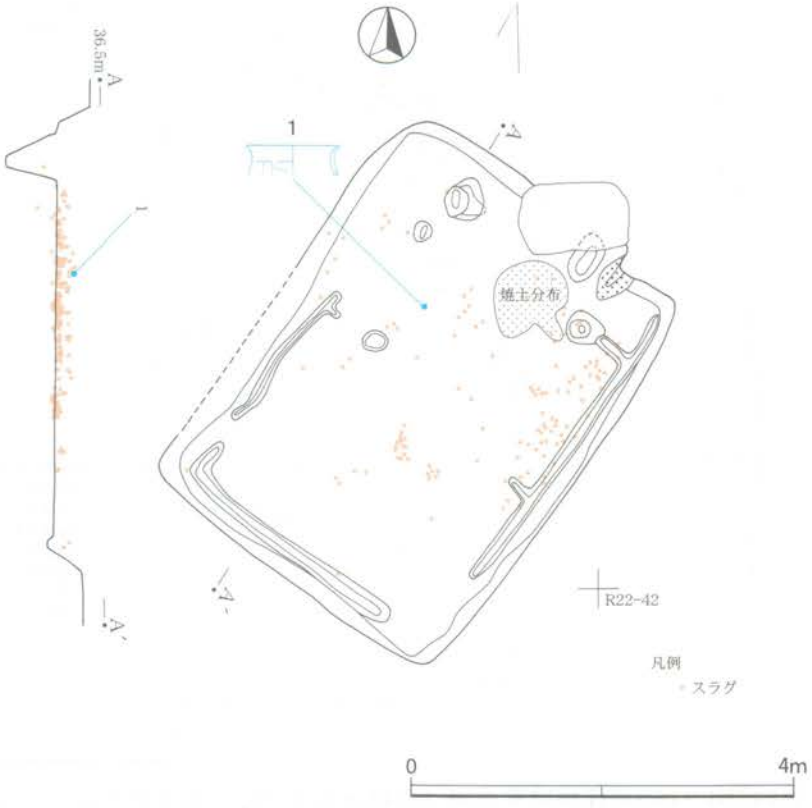
(遺構) 調査区の東よりの南側部分、22－R－32区付近に位置する。平面形状は長方形に近い形になる。規模は北東壁が2.58m、南東壁4.70m、南西壁3.64m、北西壁4.76mである。主軸方位はN－37°－Eである。覆土は粒子が細かいローム粒混じりの黒褐色土～暗褐色土が主体と思われるが記録されていないので詳細は不明である。北東壁側にカマドが構築されているが右側の袖の一部が残されているのみである。カマドの南西部分に焼土の検出されている範囲が確認されているがカマドの一部とは思われず小鍛治施設の一部である可能性が高い。また壁周溝は住居跡のカマドのある北東壁以外の壁際南よりに検出されている。柱穴と思われる小ピットは北側よりに2個検出されている。また、鍛冶滓を中心とするスラグが多量に住居跡の東よりからまとまって検出されている。床面は顕著な硬化面が認められない。時期は遺物等から判断すると平安時代にかかる小鍛治工房跡と思われる。鍛冶関連の遺物については後で記載する。

(遺物) 遺物は遺構の中程で1点土師器の甕の破片が出土している。他はスラグが多量に出土している。1は土師器の甕の口縁部破片である。口径19.5cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

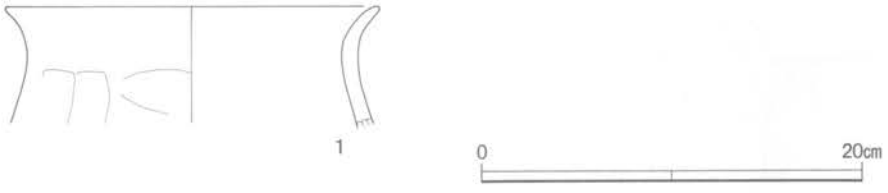
155号住居跡 (第147図～149図1～2、図版38)

(遺構) 調査区の東よりの南側部分、22－R－45区付近に位置する。平面形状はやや南東側が斜面に向かって傾斜しているために削平されており、壁の残りが悪いためやや不整形な方形となる。規模は北西壁が4.05m、北東壁4.70m、南東壁3.90m、南西壁4.22mである。主軸方位はN－25°－Wである。覆土は上層がローム粒子、小ブロックが多く混ざる明褐色土～褐色土が主体、下層が焼土、炭化粒が多く混ざる暗褐色土である。北西壁側にカマドが構築されている。比較的袖の、炉床部の残りは良好である。壁周溝は斜面部に向かう北東、北西部分については検出されていない。柱穴はP1～P4まで検出されている。いずれも径50～60cm、深さ30～40cmである。また床面付近で確認されている焼土ブロック、炭化材等から火災住居跡の可能性が高い。時期は遺物等から判断すると古墳時代後期(鬼高期)に相当すると思われる。

(遺物) 遺物は住居跡の南西壁付近より土師器杯1点、鉢1点が出土している。



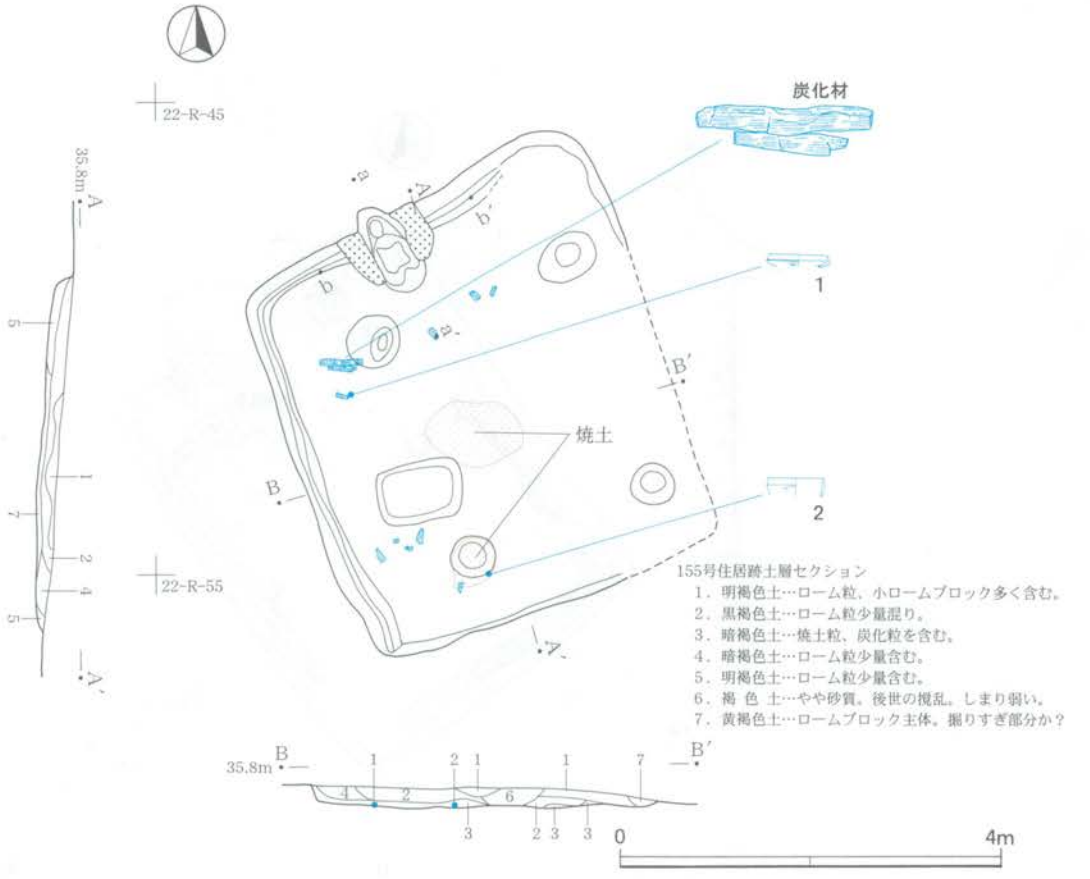
第145図　154号住居跡平面図（遺物分布含む）及びエレベーション図 (Scale 1/80)



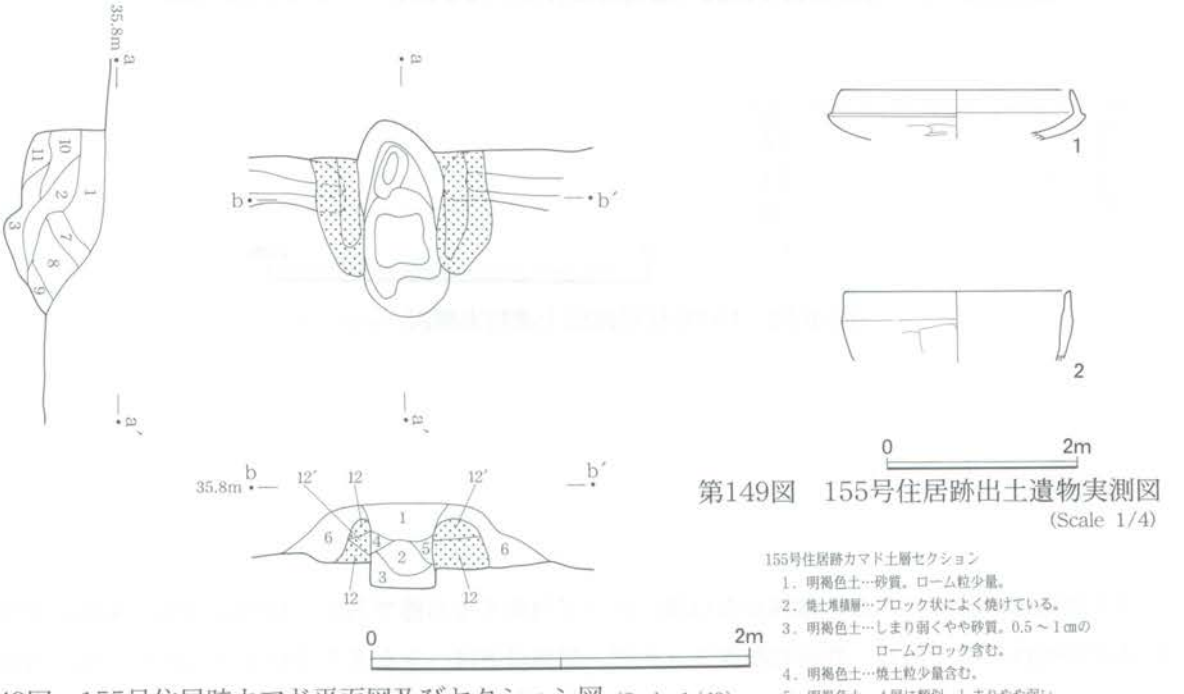
第146図　154号住居跡出土遺物実測図 (Scale 1/4)

1は土師器杯の破片である。体部から口縁にかけて内曲する形態である。口径12.2cmで丸底になると思われるが器高は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面は弱いミガキで仕上げられている。

2は土師器の鉢の破片である。口縁部から胴部下部にかけての破片である。口径11.9cmで他は不明である。外面口縁部はヨコナデ、胴部以下はヘラケズリで仕上げられている。

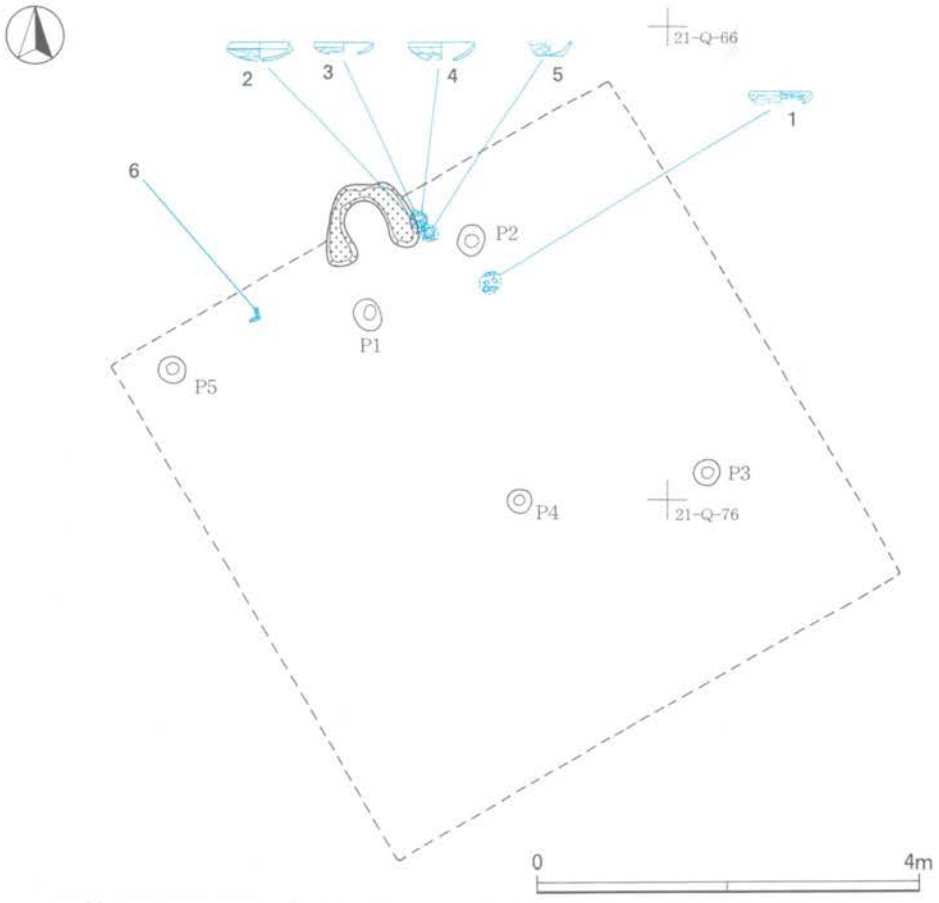


第147図　155号住居跡平面図（遺物分布等含む）及びセクション図 (Scale 1/80)

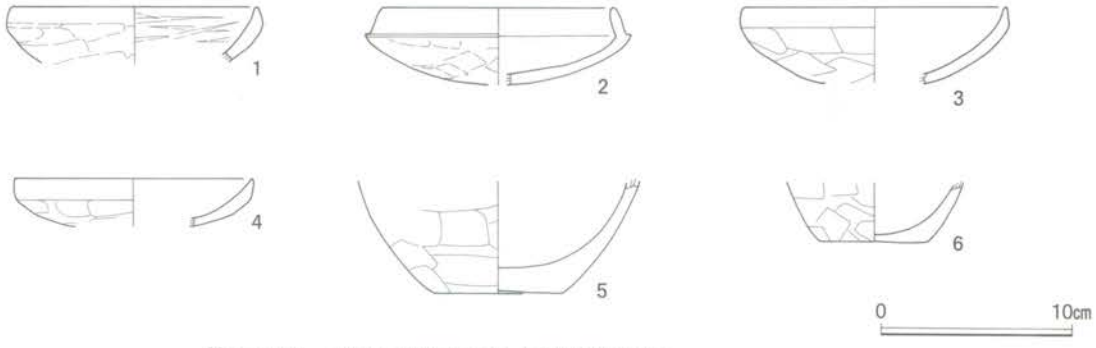


第148図　155号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)

第149図　155号住居跡出土遺物実測図
(Scale 1/4)



第150図　189号住居跡平面図及び遺物分布図 (Scale 1/80)

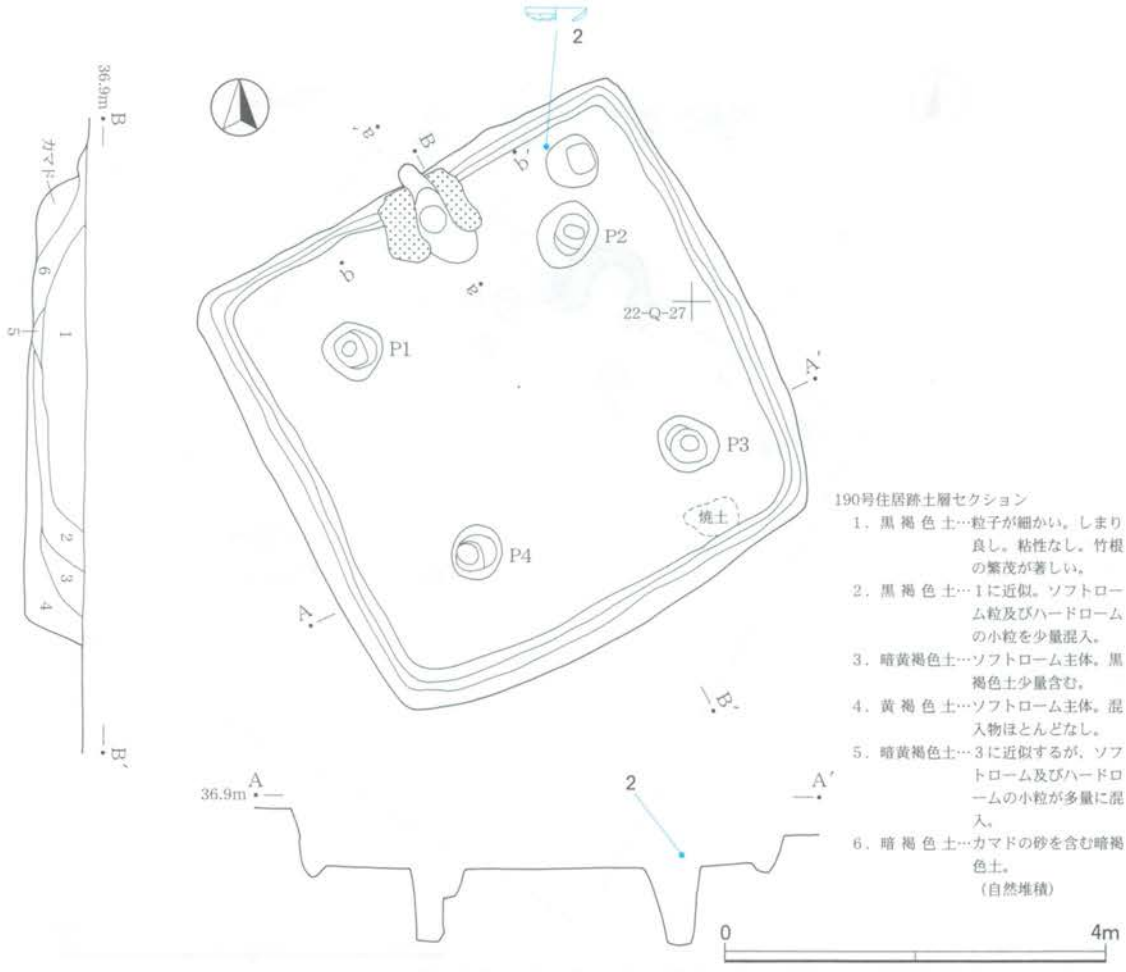


第151図　189号住居跡出土遺物実測図 (Scale 1/4)

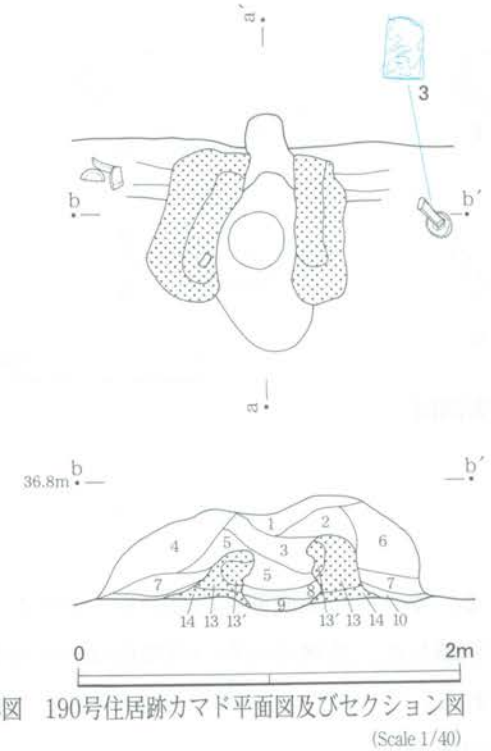
189号住居跡（第150図～151図１～６、図版39)

（遺構）調査区の東南部分の21－Q－65区付近に位置する。カマドの基底部の山砂が検出されたこととその周辺から検出された土器とピットで住居跡であったと判断した。遺構そのものの規模は不明であるが遺物等から古墳時代後期(鬼高期)あたりであろうと推測される。

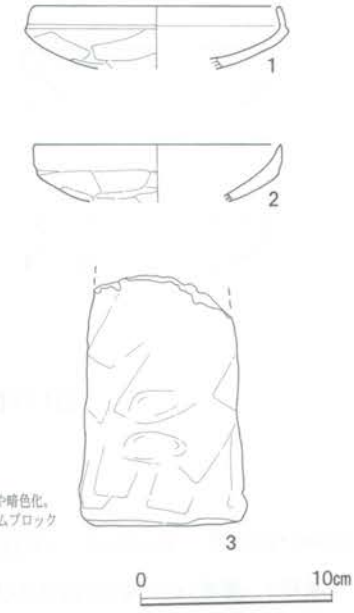
（遺物）遺物はカマド周辺部で土師器の杯４点、甕２点が出土している。



第152図　190号住居跡平面図（遺物分布図含む）、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第153図　190号住居跡カマド平面図及びセクション図
(Scale 1/40)



第154図　190号住居跡出土遺物実測図 (Scale 1/40)

１～４は土師器の杯である。１は土師器の杯の口縁部破片である。口縁部については2/3程度遺存している。口縁部でやや内曲する器形で底部はおそらく丸底と思われる。口径12.8cmで丸底と思われる。器高は不明である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはミガキで仕上げられている。２は土師器の杯でほぼ2/3程度遺存している。口縁部で強く内曲する器形で丸底になる。口径12.3cm、器高4.0cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部にかけては弱いミガキで仕上げられている。３は土師器の杯で底部を除きほぼ遺存している。口縁部で直立し底部は丸底になる器形である。口径13.8cm、器高3.9cmで丸底になる。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部にかけては弱いミガキで仕上げられている。４は土師器の杯の破片で口縁部で直立し丸底になると思われる。口径12.5cmで器高は不明である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

５、６は土師器の甕である。５は土師器の甕の底部である。底径6.9cmで他は不明である。外面底部ヘラケズリ、底面ヘラケズリで仕上げられている。内面はナデ仕上げと思われる。６は土師器の甕の底部である。底径5.8cmで他は不明である。調整等は５と同様である。

190号住居跡（第152図～154図１～３、図版39）

（遺構）調査区の東よりの南側部分、22－Q－26区付近に位置する。平面形状は壁や床の残りも良好でほぼ正方形となる。規模は北西壁が5.08m、北東壁5.08m、南東壁5.12m、南西壁5.09mである。主軸方位はN－27°－Wである。覆土は上層が腐植土主体の黒褐色土、下層がソフトロームが主体の暗褐色土である。北西壁側にカマドが構築されている。比較的袖の、炉床部の残りは良好である。壁周溝は全周を巡る。柱穴はP1～P4まで検出されている。いずれも径60cm前後、深さ70～80cmである。カマドの東側で貯蔵穴とおぼしきピット5、また柱穴P3の南側壁際で粘土ブロックが検出されている。床面は顕著な硬化面は検出されていない。時期は遺物等から判断すると古墳時代後期（鬼高期）に相当すると思われる。

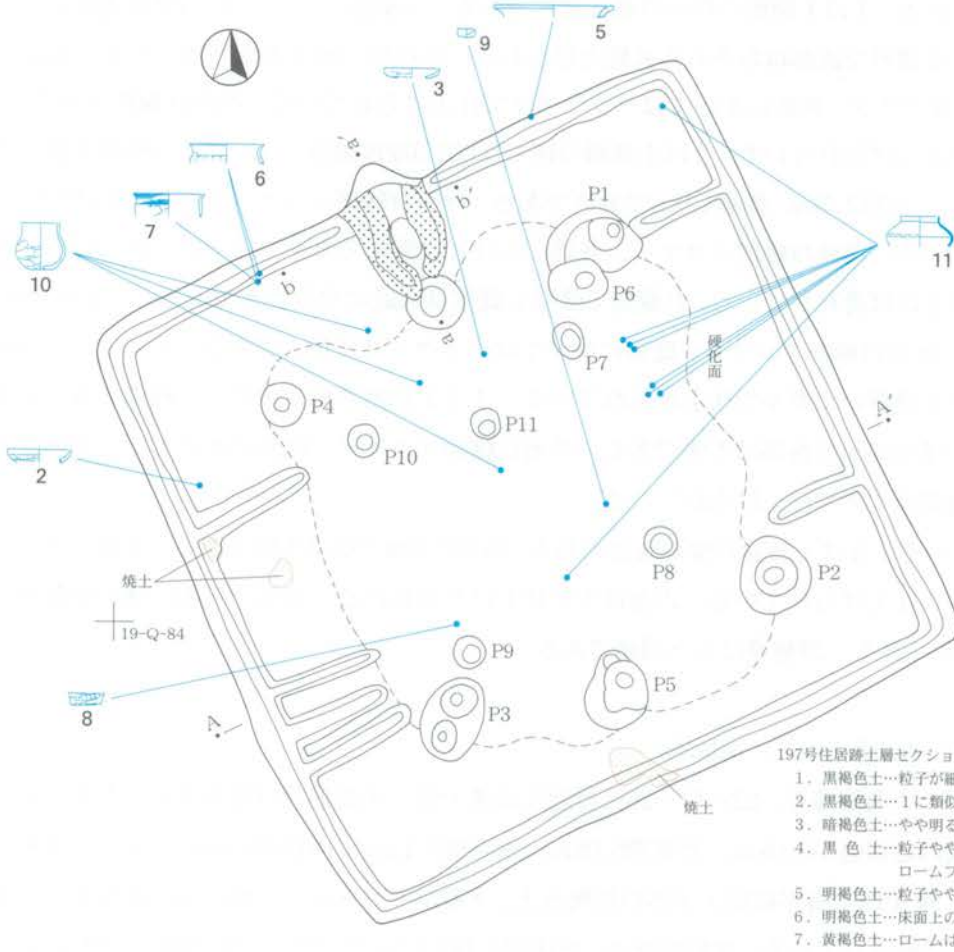
（遺物）遺物は住居跡の北西壁カマド付近より土師器杯１点、土製支脚１点等が出土している。

１、２は土師器の杯である。１は土師器の杯の口縁部破片である。口径13.1cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。２は土師器の杯の口縁部破片である。口縁部が内曲し丸底になると思われる。口径13.0cmで他は不明である。外面口縁部ナデ後底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、底部にかけてはミガキで仕上げられている。

３は土製支脚である。裾径13.3cm、残器高12.9cmである。先端部分については欠損しているため不明である。砂質の粘土を使用していて表面の剥落は著しい。表面はヘラケズリで所々調整してあり、指頭痕を残している。

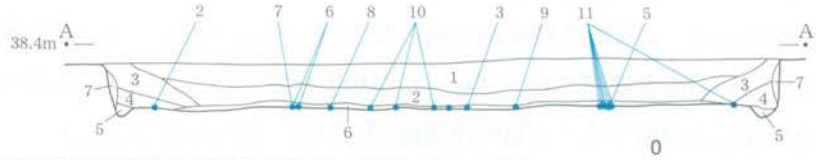
197号住居跡（第155図～157図１～12、図版40）

（遺構）調査区の北側やや東より部分、19－Q－74区付近に位置する。平面形状は壁や床の残りも良好でほぼ正方形となる。規模は北西壁7.00m、北東壁7.00m、南東壁7.06m、南西壁6.96mである。主軸方位はN－26°－Wである。覆土は上層が粒子が細かくローム粒を少量含む黒褐色土、下層がやや焼土粒を含

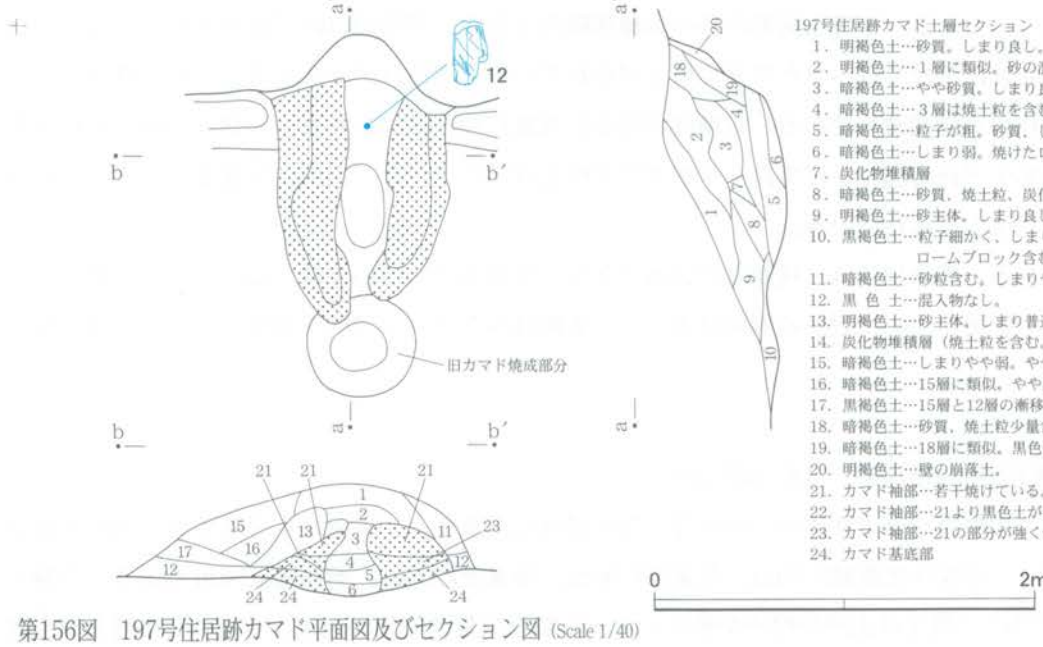


197号住居跡土層セクション

1．黒褐色土…粒子が細かくしまり良し。ローム粒少量含む。
2．黒褐色土…1に類似。しまり良し。焼土粒含む。
3．暗褐色土…やや明るい。粒子しまり普通。ローム粒含む。
4．黒 色 土…粒子やや粗。しまり弱。1～2㎜
ロームブロック含む。
5．明褐色土…粒子やや粗。しまり弱。ローム粒主体。
6．明褐色土…床面上の堆積土しまり良し。貼り床。
7．黄褐色土…ロームは壁の崩落土。



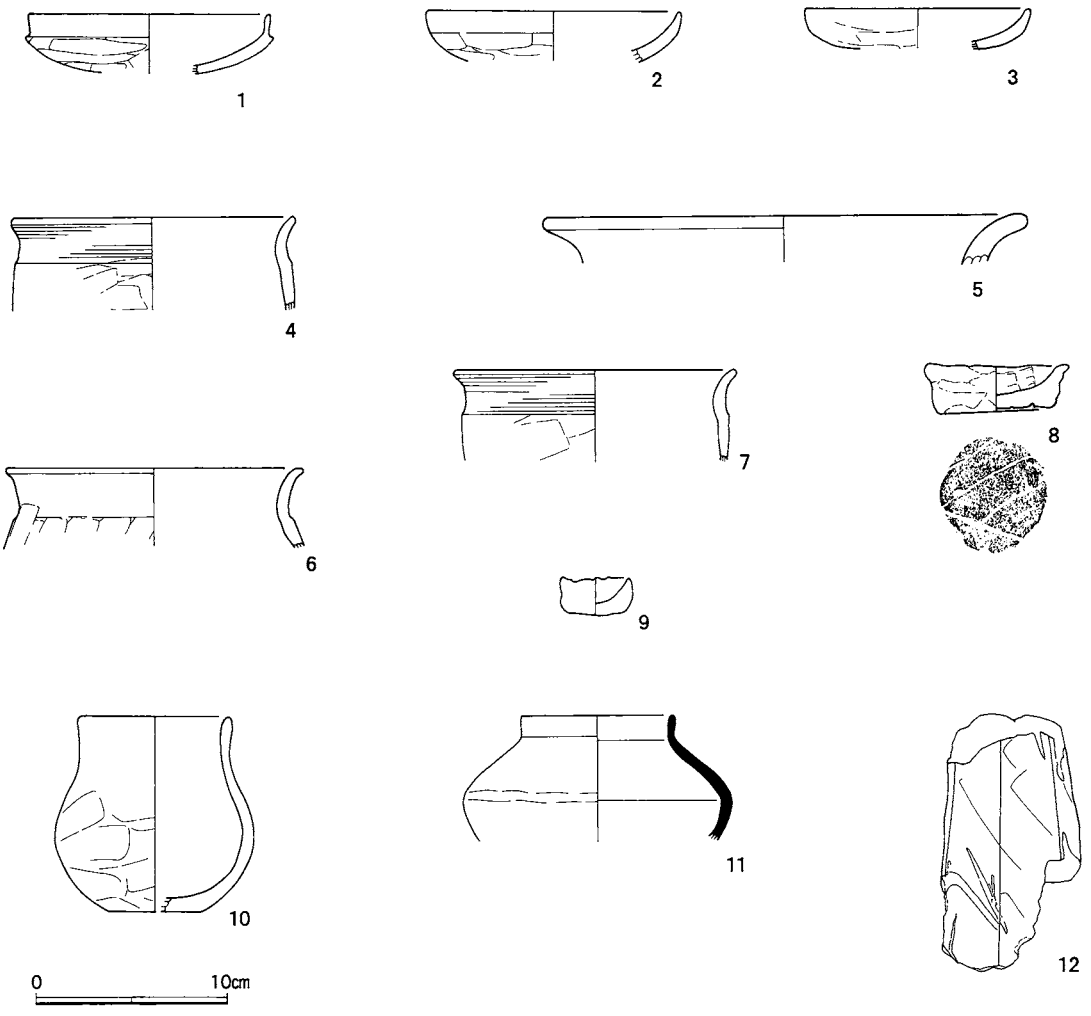
第155図　197号住居跡平面図（遺物分布含む）及びセクション図 (Scale 1/80)



197号住居跡カマド土層セクション

1．明褐色土…砂質。しまり良し。焼土粒。炭化粒含む。
2．明褐色土…1層に類似。砂の混入多。
3．暗褐色土…やや砂質。しまり良し。
4．暗褐色土…3層は焼土粒を含む。
5．暗褐色土…粒子が粗。砂質。しまり弱。焼土粒多く含む。
6．暗褐色土…しまり弱。焼けたロームブロック含む。
7．炭化物堆積層
8．暗褐色土…砂質。焼土粒、炭化粒を含む。
9．明褐色土…砂主体。しまり良し。焼土粒含む。
10．黒褐色土…粒子細かく、しまり良し。焼土粒、焼けた
ロームブロック含む。
11．暗褐色土…砂粒含む。しまりやや弱。
12．黒 色 土…混入物なし。
13．明褐色土…砂主体。しまり普通。袖部の残存。
14．炭化物堆積層（焼土粒を含む。）
15．暗褐色土…しまりやや弱。やや砂質。焼土粒少量含む。
16．暗褐色土…15層に類似。やや黒色。
17．黒褐色土…15層と12層の漸移層。焼土粒少量含む。
18．暗褐色土…砂質。焼土粒少量含む。
19．暗褐色土…18層に類似。黒色化。
20．明褐色土…壁の崩落土。
21．カマド袖部…若干焼けている。
22．カマド袖部…21より黒色土が多く混ざる。
23．カマド袖部…21の部分が強く焼けて赤味を帯びる。
24．カマド基底部

第156図　197号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第157図　197号住居跡出土遺物実測図(Scale1/4)

む黒褐色土で、壁際に暗褐色の壁崩落土が見られる。北西壁側にカマドが構築されている。比較的袖の、炉床部の残りは良好である。壁周溝は全周を巡る。北東、南西壁側には間仕切り溝も見られる。柱穴P1～P4は拡張された時点でのものでP7～P10の古い時期の柱穴も床下より検出されている。また、P6ピットのように建て替えされたとおぼしき柱穴も検出されている。カマドの南側には古いカマドの掘り方の一部も残されていた。P5ピットは梯子穴と思われるがこのピットも外側に少し移動して作り替えられているようである。床面は住居跡の床面の柱穴より中程の範囲で顕著な硬化面が検出されている。時期は遺物等から判断すると古墳時代中期（和泉期）に相当すると思われる。

（遺物）遺物は住居跡の中程を中心に土師器杯、甕等が破片で多数出土している。

1～3は土師器の杯である。1は土師器の杯の口縁部～底部破片である。全体の1/4程度遺存している。口径12.6cm、器高3.2cmで丸底である。底部は丸底で緩やかに立ち上がり口縁部で直立する。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部はナデで仕上げられている。2は土師器の杯の口縁部破片である。丸底で口縁部が緩やかに立ち上がる。口径13.3cmで丸底で他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、底部にかけてはミガキで仕上げられている。内面の一部ススが付着している。3は土師器の杯の

口縁部～底部破片である。口径11.6cmで丸底で他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、底部にかけては弱いミガキで仕上げられている。

４～７は土師器甕である。４は土師器の甕の口縁部破片である。口縁部がやや外反し胴部が比較的立ち上がる器形のものである。口径15.0cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部から胴部にかけてはナデで仕上げられている。５は土師器の甕の口縁部の破片である。口径25.1cmで他は不明である。内外面口縁部はヨコナデで仕上げられている。６は土師器の甕の口縁部の破片である。当該部位の1/5程度遺存している。口径15.6cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下はナデで仕上げられている。７は土師器の甕の口縁部である。口径15.2cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部から胴部にかけてはナデで仕上げられている。

８～９は手捏ね土器である。８は手捏ね土器の杯である。口径7.6cm、器高2.4cm、底径6.4cmである。外面底面には木葉痕を残す。外面はナデで輪積み痕を残す。内面はヘラ状の工具で調整した後ナデで仕上げられている。９は手捏ね土器の杯である。口径4.0cm、器高2.0cm、底径3.0cmである。内外面とも指頭痕が見られナデで調整されていたことがわかる。

10は土師器の小形の甕である。胴部が膨らみ口縁部がやや細く直立する器形である。口径7.6cm、器高10.2cm、底径4.3cmである。外面口縁部ヨコナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部から底部にかけてナデで仕上げられている。

11は須恵器の小形の甕で口縁部から胴部にかけて2/3程度遺存している。口縁部は細く直立する。胴部上半部分に最大径がある器形と思われる。口径8.0cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はロクロナデで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、胴部以下はロクロナデで仕上げられている。

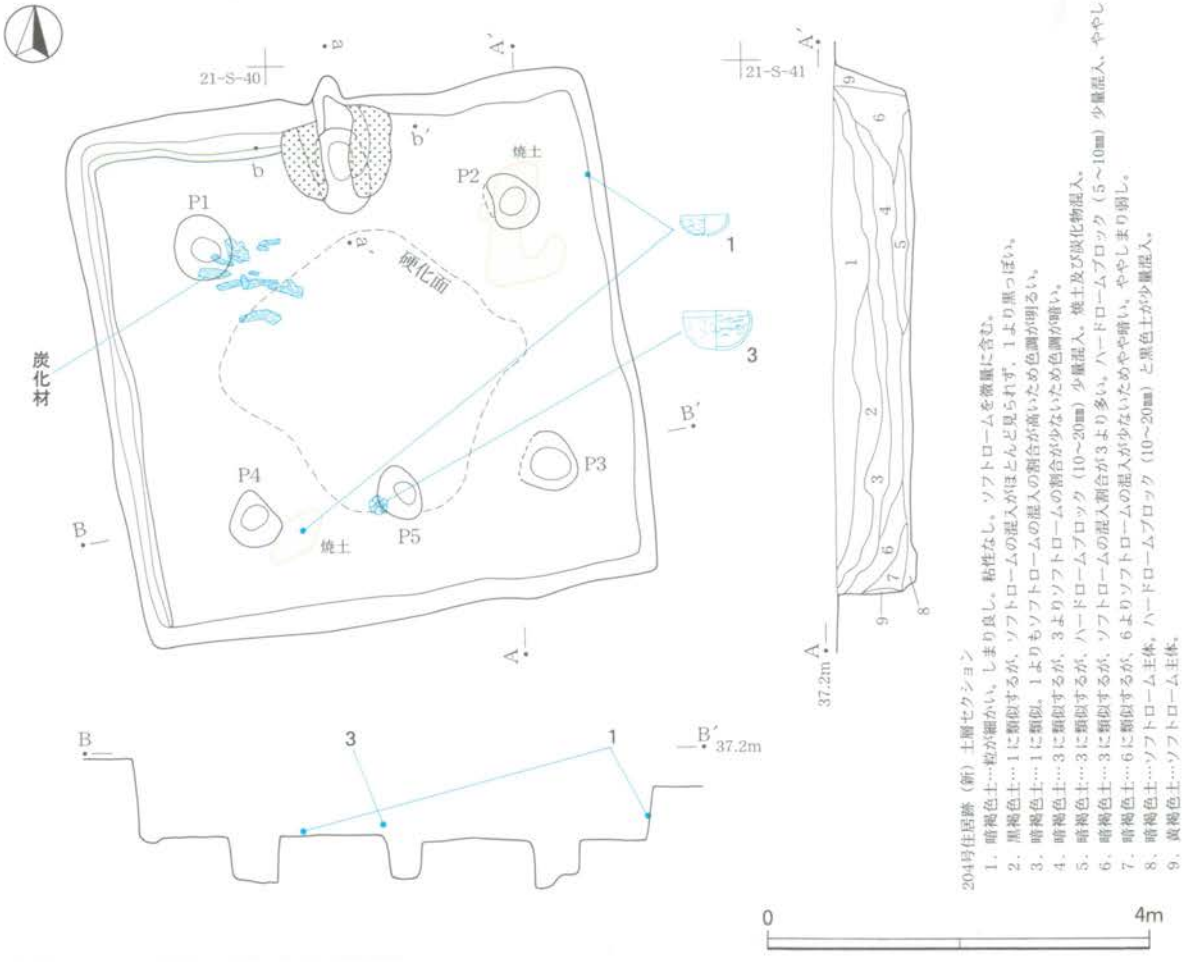
12は土製支脚である。先端部分、裾部分とも欠損している。砂質の粘土を使用していて表面の剥落は著しい。表面はヘラケズリで所々調整してあり、指頭痕を残している。

204号住居跡(新)（第158図～159図、第161図１～４、図版41）

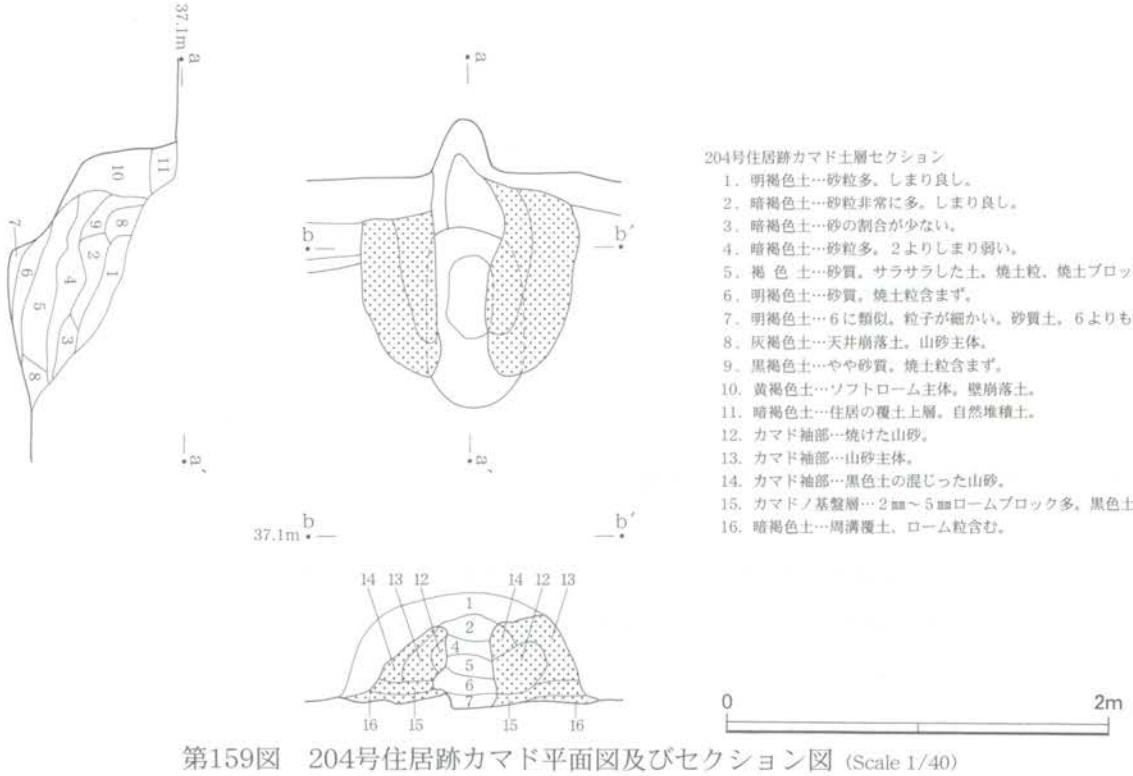
（遺構）調査区の最も東より部分、21－Ｓ－40区付近に位置する。平面形状は壁や床の残りも良好でほぼ正方形となる。規模は北西壁5.60m、北東壁5.40m、南東壁5.52m、南西壁5.58mである。主軸方位はＮ－7°－Ｗである。覆土は上層がソフトローム粒を微量に含む暗褐色土～黒褐色土、下層がソフトローム粒や焼土粒を少量含む暗褐色土で、壁際に黄褐色の壁崩落土が見られる。北西壁側にカマドが構築されている。比較的袖の、炉床部の残りは良好である。壁周溝はカマド左側袖から南西壁側を巡る。柱穴Ｐ1～Ｐ4は拡張された時点でのもので204号住居跡(旧)の古い時期の柱穴も床下より検出されている。カマドの部分と袖左側の壁周溝については新しい時期の住居に壊されて消失している。Ｐ5ピットは梯子穴と思われる。床面は住居跡の床面の柱穴より中程の範囲で顕著な硬化面が検出されている。Ｐ2、Ｐ4付近からは焼土ブロック、Ｐ1付近からは建物の部材と思われる炭化材が集中して検出されており、火災住居跡と思われる。時期は遺物等から判断すると古墳時代後期(鬼高期)に相当すると思われる。

（遺物）遺物は住居跡のＰ5付近から土師器の鉢、Ｐ4付近で杯が検出されている。

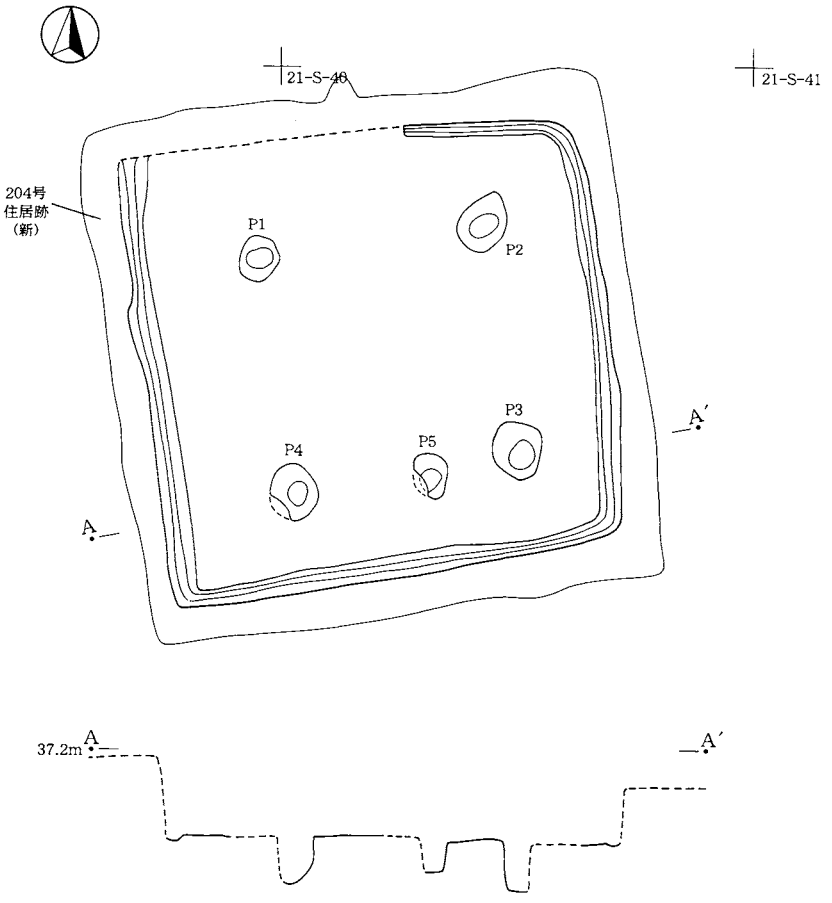
１、２は土師器の杯である。１は土師器の杯の3/4程度遺存しているものである。口縁部がやや内曲し、丸底になる器形である。口径9.8cm、器高4.2cmで丸底である。外面口縁部の一部にススが付着している。



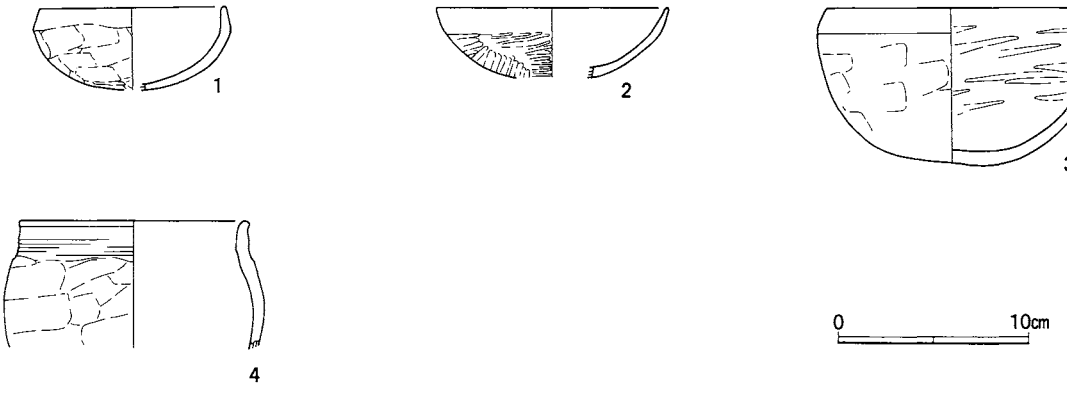
第158図　204号住居跡平面図（遺物分布図を含む）、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第159図　204号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第160図　204号住居跡(旧)平面図及びエレベーション図(Scale 1/80)



第161図　204号住居跡(新)出土遺物実測図(Scale 1/4)

外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。2は土師器の杯の破片である。丸底で口縁部にかけて緩やかに立ち上がる器形である。口径12.3cm、器高3.1cm、丸底である。外面口縁部から底部にかけてはミガキで仕上げられている。内面口縁部から底部にかけてもミガキで仕上げられている。

3は土師器の鉢である。口縁部の一部と胴部の一部が欠損しているもののほぼ完形である。丸底で緩やかに立ち上がり胴部から口縁部にかけて急激に立ち上がり口唇部で内曲する器形である。口径13.4cm、器高8.2cmで丸底である。内面は黒色処理を行っている。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリ後ナデで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、胴部以下は粗いミガキで仕上げられている。

4は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径11.7cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下はナデで仕上げられている。

204号住居跡(旧)（第160図）

（遺構）調査区の最も東より部分、21－S－40区付近に位置する。204号住居跡(新)の床面下より検出された。平面形状は壁周溝と柱穴P1～P4、梯子ピットP5により確認可能でほぼ正方形となる。規模は北西壁4.97m、北東壁4.64m、南東壁4.90m、南西壁4.86mである。主軸方位は(新)と同様にN－7°－Wである。北西壁側にカマドが構築されていたと思われるが立て替えした時点で完全に壊されているため不明である。壁周溝はカマド左側袖から北西壁側が壊されている以外は検出されている。柱穴P1～P4は径50cm、深さ50cmほどのものがP1～P4まで配置されている。P5ピットは梯子穴と思われる。時期は新旧関係から判断すると古墳時代後期(鬼高期)に直前に相当すると思われる。

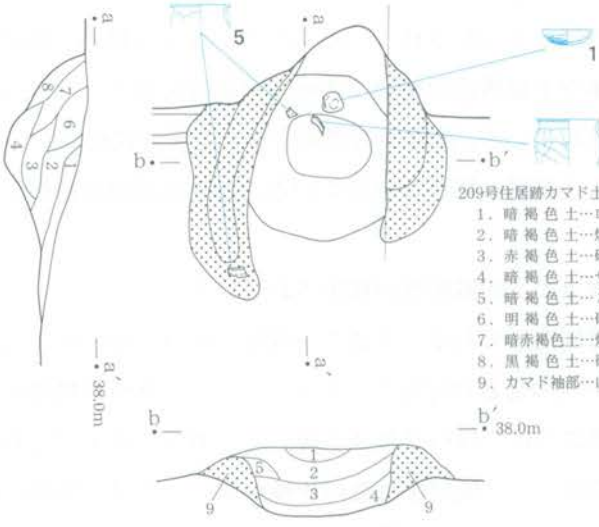
209号住居跡（第162図～164図1～6、図版42）

（遺構）調査区の北側やや東より部分、19－Q－68区付近に位置する。平面形状は壁の北側部分が溝により攪乱を受けているものの床の残りも良好である。形態は南北にやや長い方形となる。規模は北東壁5.18m、南東壁3.96m、南東壁4.86m、北西壁3.86mである。主軸方位はN－75°－Eである。覆土は確認面から床面までが20cm程度で浅く腐植土が主体の暗褐色土が見られるのみである。北東壁側にカマドが構築されているが2回にわたり調査されたためカマドの左右の袖の残りは均等ではない。それでも比較的袖の、炉床部の残りは良好である。壁周溝はところどころ攪乱でこわされているもののかなりの範囲で確認されている。柱穴等のピットは検出されなかった。簡単な上屋構造の建物であった可能性もある。平成13年度に調査された南側の床面部分で一部硬化面が検出されている。遺物から判断すると古墳時代後期（鬼高期）に相当すると思われる。ほぼ同じ灯明皿と思われる土師器の杯が3点出ていることや住居跡の特徴から通常の住居ではない可能性がある。

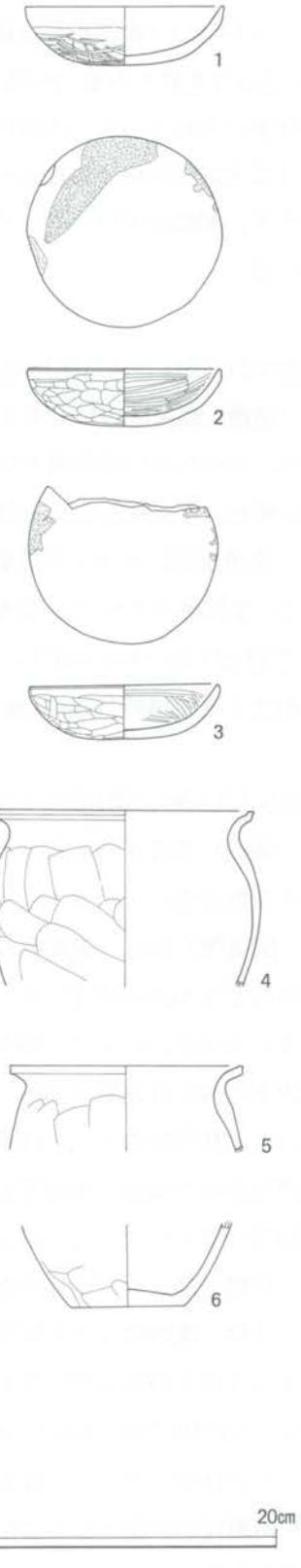
（遺物）遺物はカマド付近及び南東壁付近より数点の土師器杯等が検出されている。

1～3は土師器の杯である。1は土師器の杯でほぼ完形である。丸底で口縁部にかけて緩やかに立ち上がる。口径10.7cm、器高3.2cmで丸底である。カマド内の焚き口付近から出土している。外面口縁部の一部にススが付着している。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリ後ヘラミガキで仕上げられている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。灯明皿として使用された可能性が高い。2は土師器の杯で完形である。1と同様に丸底で口縁部にかけて緩やかに立ち上がる器形である。口径10.5cm、器高2.7cm、丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリ後ヘラミガキで仕上げられている。内面はナデ後丁寧なミガキで仕上げられている。内面はススがかなり広い範囲で付着している模様である。明らかに灯明皿として使用していた跡がうかがわれる。3は土師器の杯でほぼ3/4遺存している。1、2同様に

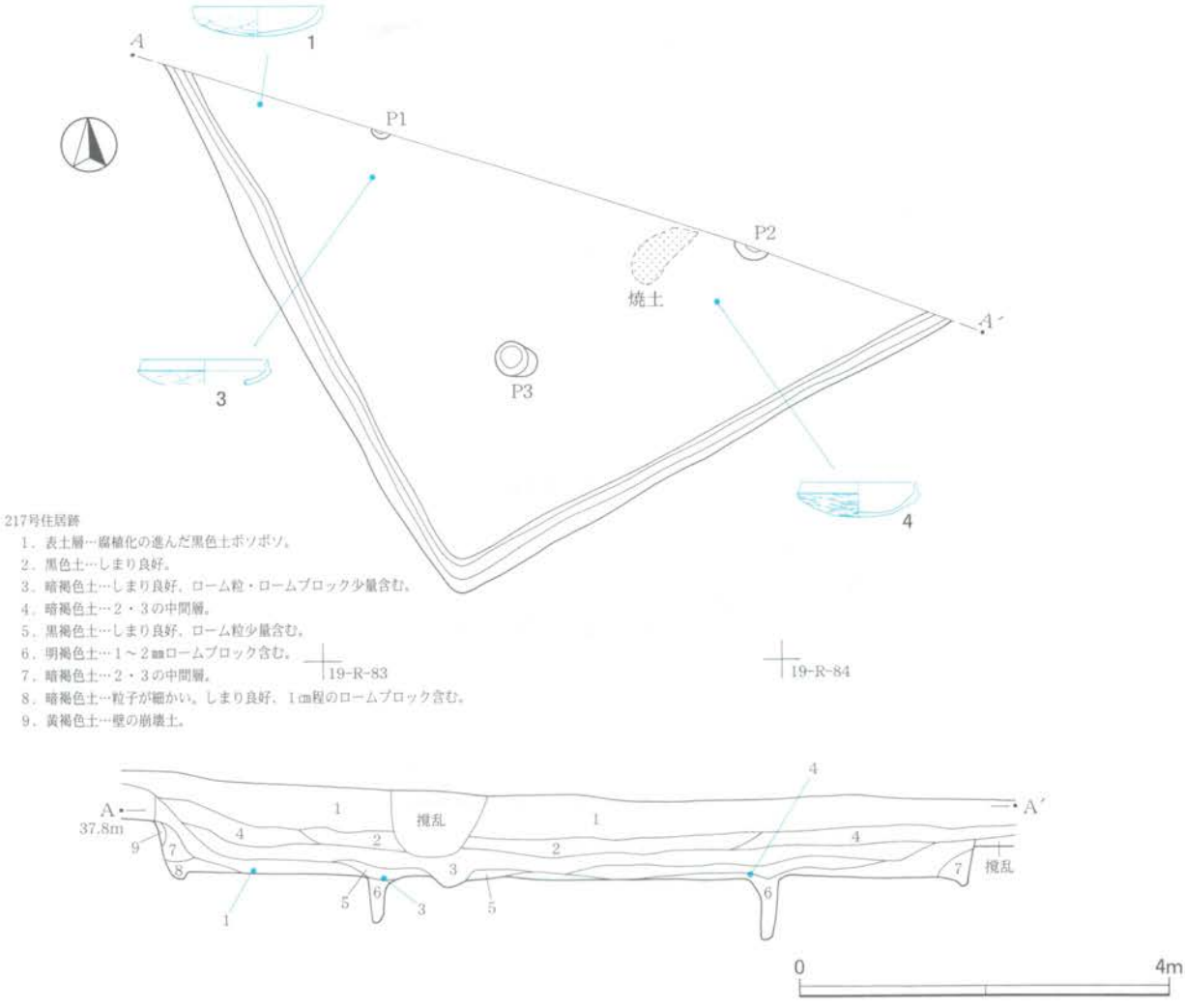
第162図　209号住居跡平面図（遺物分布含む）
セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



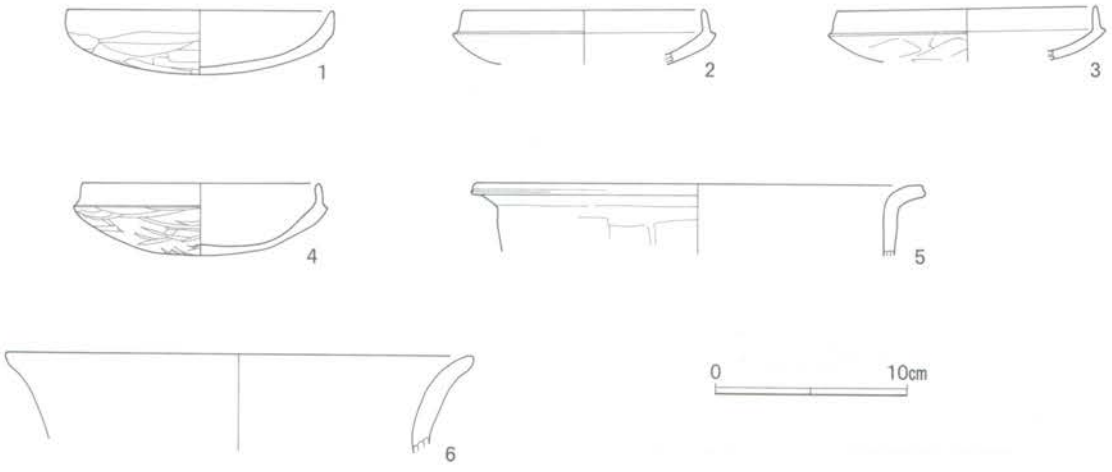
第163図　209号住居跡カマド平面図（遺物分布含む）
及びセクション図 (Scale 1/40)



第164図　209号住居跡出土遺物
実測図 (Scale 1/4)

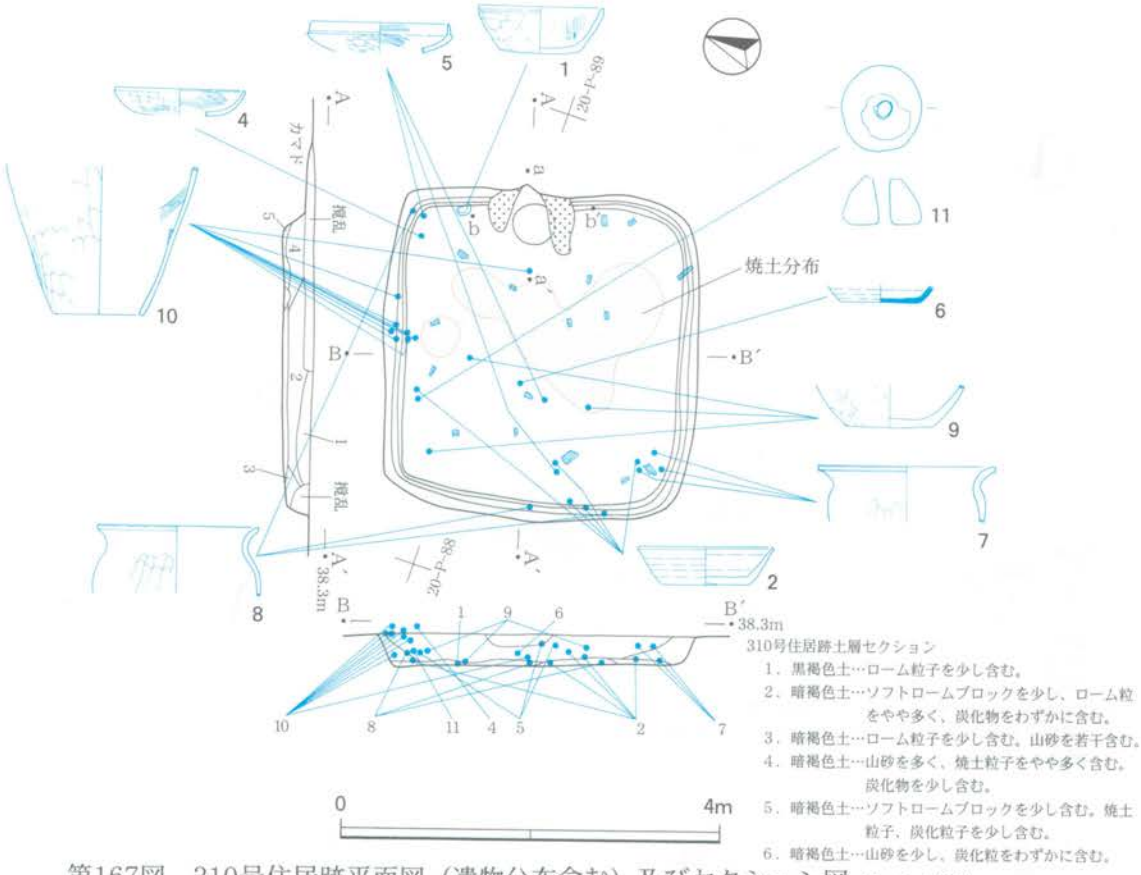


第165図　217号住居跡平面図（遺物分布含む）及びセクション図 (Scale 1/80)

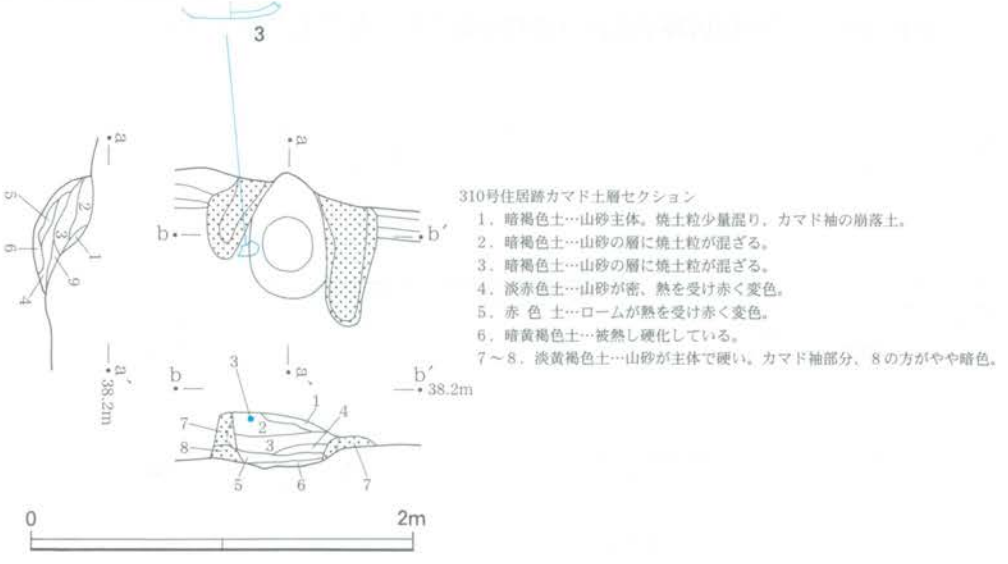


第166図　217号住居跡出土遺物実測図 (Scale 1/4)

丸底で口縁部にかけて緩やかに立ち上がる器形である。口径10.3cm、器高2.8cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は丁寧なミガキで仕上げられている。2より顕著な形で明らかに灯明皿として使用されていた跡がうかがわれる。



第167図　310号住居跡平面図（遺物分布含む）及びセクション図 (Scale 1/80)



第168図　310号住居跡カマド平面図（遺物分布含む）及びセクション図 (Scale 1/40)

4～6は土師器の甕である。4は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片で当該部位の1/3程度が遺存している。口径14.0cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、胴部以下はナデで仕上げられている。最終調整の際倒立させて行ったと思

われ口唇部が平坦になっている。５は土師器の甕の口縁部の破片である。口径12.0cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、胴部以下はナデで仕上げられている。最終調整の際倒立させて行ったと思われ口唇部が平坦になっている。６は土師器の甕の底部破片である。底径6.4cmで他は不明である。外面底部底面はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

217号住居跡（第165図～166図１～６、図版43）

（遺構）調査区の北東側、19－Ｒ－73区付近に位置する。平面形状は正方形に近い形状になると思われるが、北側部分は調査時にはすでに消失しており、確証はない。規模は柱穴から壁までの位置関係から推測すると７ｍ前後になると思われる。主軸方位はカマドが北西壁にあると仮定するならＮ－28°－Ｗである。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、下層がローム粒混じりの暗褐色土である。床面の一部から焼土ブロックも検出されている。遺物から判断すると古墳時代後期（鬼高期）に相当すると思われる。

（遺物）遺物は住居跡の床面付近で土師器杯等が数点検出されている。

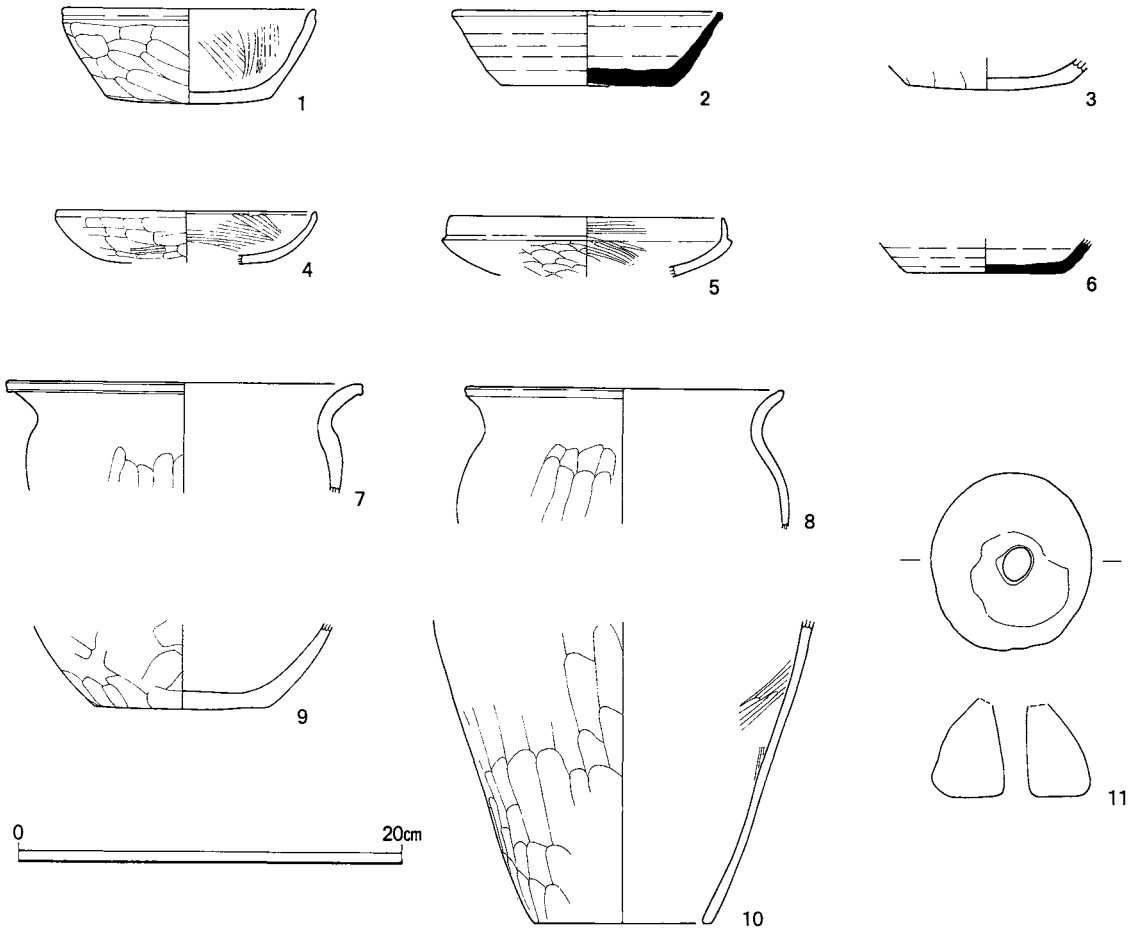
１～４は土師器の杯である。１は土師器の杯が1/4程度遺存している。丸底で底部は比較的緩やかに立ち上がり口縁部でほぼ直立するような器形である。口唇部が全体にやや荒れている。口径13.9cm、器高3.5cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデで仕上げられている。２は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。丸底で底部にかけて緩やかに立ち上がり口縁部で内曲する器形である。口径12.8cm、丸底で器高は不明である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデで仕上げられている。３は土師器の杯の口縁部から底部にかけての破片である。丸底で底部にかけて緩やかに立ち上がり口縁部で内曲する器形である。口径13.6cmで丸底で器高は不明である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデで仕上げられている。４は土師器の杯で口縁部の一部を除きほぼ完形である。丸底で比較的緩やかに立ち上がり口縁部で内曲する器形である。口径12.5cm、器高3.8cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部以下はヘラナデで仕上げられている。内外面口縁部付近はやや黒変している。

５は土師器の甑の口縁部破片である。口径24.0cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面はヘラナデで仕上げられている。

６は土師器の甕の口縁部破片である。口径24.6cmで他は不明である。外面口縁部はヨコナデで仕上げられている。内面口縁部はヨコナデで仕上げられている。

310号住居跡（第167図～169図１～11、図版43）

（遺構）調査区の中央部分、20－Ｐ－89区付近に位置する。平面形状は正方形に近い形状になる。北東壁3.24m、南東壁3.38m、南西壁3.28m、北西壁3.36mである。主軸方位はＮ－72°－Ｅである。覆土は上層がローム粒混じりのしまりのある黒褐色土、下層がロームブロック混じりの暗褐色土である。カマドは北東壁中央部分に構築されている。攪乱により壁の一部が壊されているものの袖及び炉床の残りは良好である。柱穴等は検出されていない。床面中央部分には炭化材混じりの焼土ブロックも広範囲に検出されて



第169図　310号住居跡出土遺物実測図(Scale 1/4)(11は1/2)

いる。遺物も住居内廃絶時に伴う形で多数検出されている。住居跡の時期を遺物等から判断すると古墳時代後期(鬼高期)に相当すると思われる。

(遺物) 遺物は住居跡の覆土下層から床面直上で土師器杯等が多数検出されている。図示したのは土師器の杯４点、須恵器杯２点、土師器甕３点、土師器甑１点、土製紡錘車１点である。

１、３～５は土師器の杯である。１は土師器の杯が1/2程度遺存している。底部からやや斜めに立ち上がり口唇部で直立するような器形である。口径10.6cm、器高5.2cm、底径7.0cmである。外面口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ後一部弱いミガキで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはナデ後ミガキで仕上げられているが、剥落が著しく残りはよくない。３は土師器の杯の底部から底面の破片である。底面から底部にかけてやや緩やかに立ち上がる１と同じ器形かと思われる。底径8.7cmで他は不明である。外面底部底面はヘラケズリで仕上げられている。内面はヘラナデ仕上げと思われる。４は土師器の杯の破片である。比較的丸みのある底部から弧を描きながら立ち上がる器形である。口径10.9cm、器高2.6cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリ後ヘラナデで仕上げられている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。５は土師器の杯の破片である。丸底で口縁部でやや内曲する器形である。口径11.6cm、丸底で器形は不明である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ後ミガキ、底部にかけてはナデ後ミガキで仕上げられている。

２、６は須恵器の杯である。２は須恵器の杯で1/3程度遺存している。底部から口縁部にかけて斜めに立

ち上がる。口径11.6cm、器高4.3cm、底径7.4cmである。外面口縁部から底部にかけてはロクロナデ、底面糸切り後ヘラケズリで仕上げられている。内面はロクロナデ仕上げである。６は須恵器の杯の底部破片である。底径6.8cmで他は不明である。外面底部ロクロナデ、底面糸切り後ヘラナデで仕上げられている。内面はロクロナデ仕上げと思われる。

７～９は土師器の甕である。７は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径15.0cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部にかけては縦方向のヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、胴部はナデで仕上げられている。８は土師器の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径13.5cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、胴部にかけては縦方向のヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、胴部にかけてはナデで仕上げられている。９は土師器の甕の底部底面の破片である。底径7.4cmで他は不明である。外面底部横方向のヘラケズリ、底面は多方向のヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられていると思われるが、器面の荒れが著しいため詳細は不明である。

10は土師器の甑の胴部下部から底部である。底径7.5cmで他は不明である。外面胴部から底部にかけては縦方向のヘラケズリで仕上げられている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。

11は土製紡錘車である。最大径4.3cm、高さ2.6cm、孔径0.9cmである。整形はヘラナデ仕上げと思われる。

311号住居跡（第170図～172図１～２、図版44）

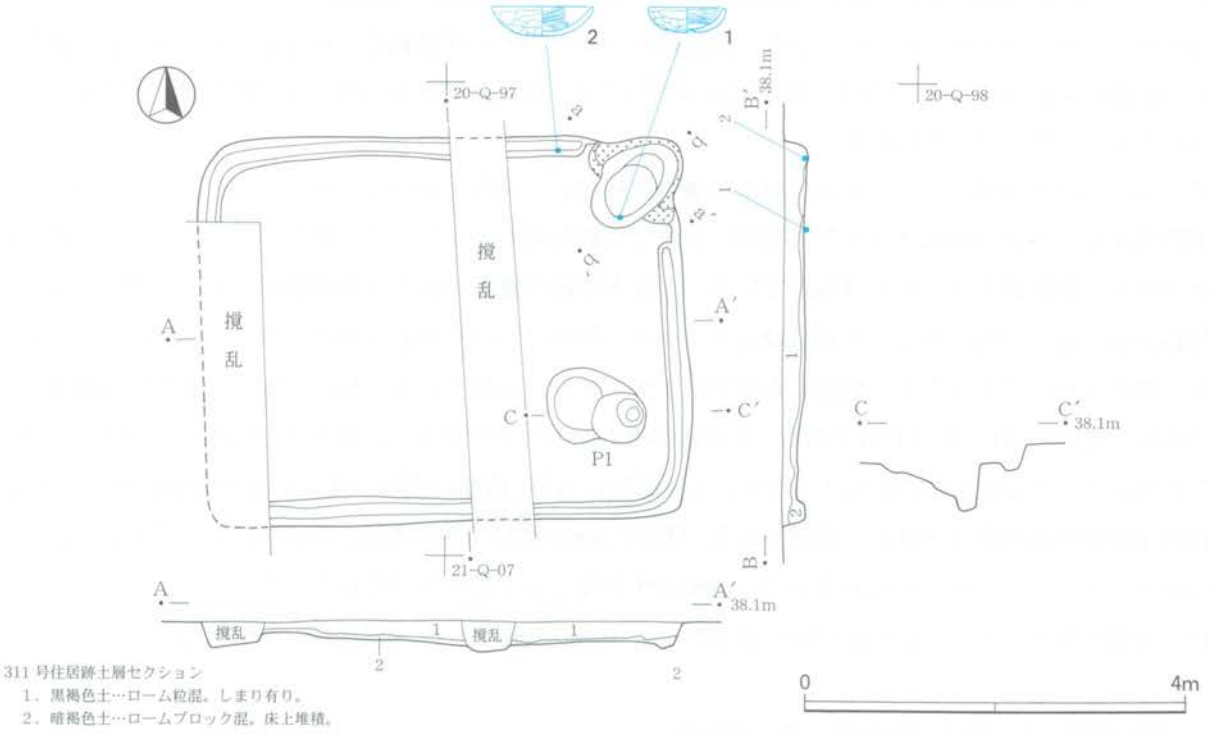
（遺構）調査区の中央部分のやや東側の20－Q－97区付近に位置する。平面形状はやや長方形に近い形状になる。カマドが北東壁コーナーにあり、ほぼ長辺が東西方向、短辺が南北方向を向く。北壁4.52m、東壁4.00m、南壁4.44m、西壁4.08mである。長軸方位はN－89°－Eである。覆土は上層がローム粒混じりのしまりのある黒褐色土、下層がロームブロック混じりの暗褐色土である。カマドは北東壁隅部分に構築されている。両袖及び炉床の残りは良好である。柱穴は南東隅にP1が１個検出されている。立て替えかどうかは不明であるが深さの異なる箇所が２カ所ある。西側壁と床面中央部分は新しい溝により壊されている。住居跡の時期を遺物等から判断すると古墳時代後期（鬼高期）に相当すると思われる。

（遺物）遺物は住居跡の床面直上で土師器杯２点が検出されている。

１、２は土師器の杯である。1は土師器の杯で1/2程度遺存している。丸底で口縁部にかけて緩やかに立ち上がる器形である。口径8.3cm、器高2.4cmで丸底である。外面口縁部から底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面はナデ後一部ミガキで仕上げられている。全体に調整が甘くやや小さいので手捏ね土器風と思われる。２は土師器の杯で完形である。丸底で口縁部にかけて緩やかに立ち上がる器形である。口径10.7cm、器高3.0cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部はナデ後ミガキで仕上げられている。内面には灯明皿として使用されていた跡がうかがわれる。この杯は209号住居跡（小鍛冶工房跡？）で出土していたものと酷似しておりその関連が注目される。

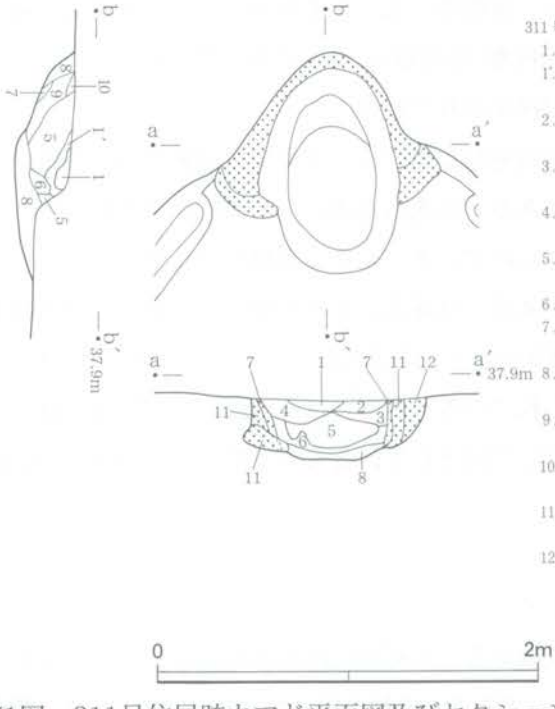
317号住居跡（第173図～177図１～23、図版45～48）

（遺構）調査区の中央部分、20－R－62区付近に位置する。平面形状は正方形に近い形状になる。北西壁6.22m、北東壁6.40m、南東壁6.20m、南西壁6.24mである。主軸方位はN－13°－Wである。覆土は上層がローム粒が僅かに含む黒色土、中層がローム粒を少し、褐色土ブロックをやや多く含む暗褐色土、下



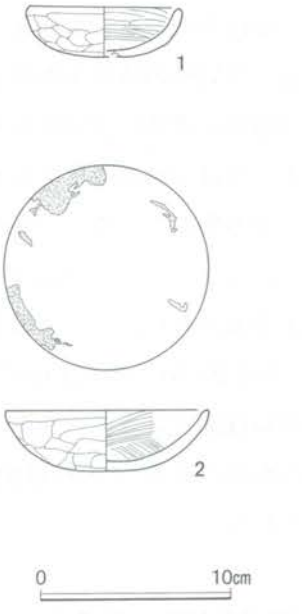
311 号住居跡土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒混。しまり有り。
2．暗褐色土…ロームブロック混。床上堆積。

第170図　311号住居跡平面図(遺物分布含む)及びセクション図 (Scale 1/80)

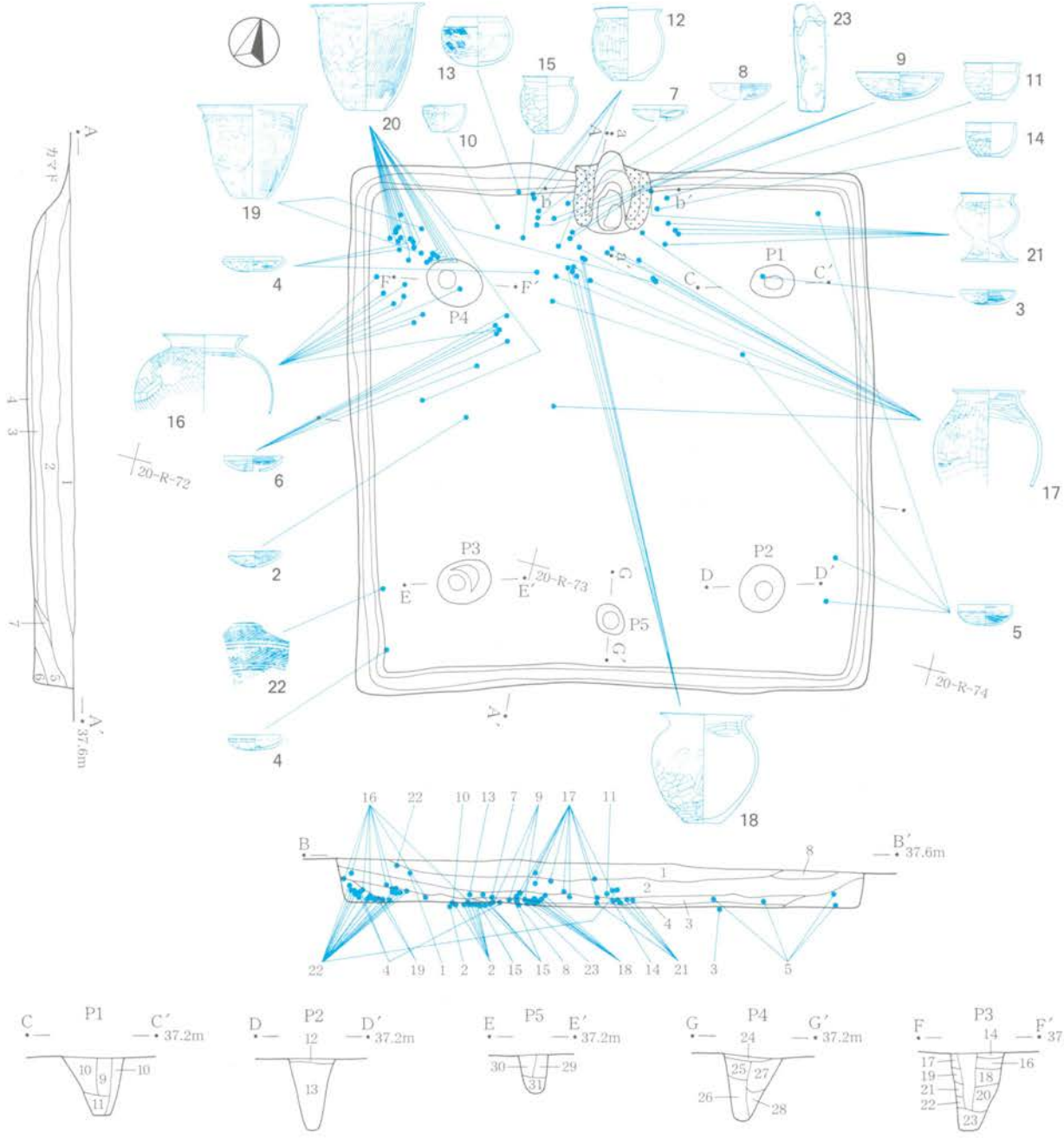


311 号住居跡カマドセクション
1．黒 褐 色 土…ローム粒混。しまり有り。
1′．黒 褐 色 土…ローム粒を若干含む。山砂を少し含む。
2．赤　色　土…熱を受け、赤色硬化した土のブロック。
3．暗 褐 色 土…焼土ブロック（1㎝）を少し含み、山砂を少し含む。
4．暗赤褐色土…山砂を多く含み、焼土ブロックを少し含む。
5．赤 褐 色 土…赤く変色した山砂を多く含む。ブロック状に灰が混ざる。
6．暗 褐 色 土…山砂ブロックをやや多く含む。
7．赤　色　土…熱を受け硬化した山砂層。カマド側壁部分。
8．暗 褐 色 土…山砂を多く含む。焼土粒を少し含む。
9．暗 褐 色 土…焼土ブロック、焼土粒をやや多く含む。山砂を少し含む。
10．暗 褐 色 土…ロームブロックを少し含む。山砂を少し含む。
11．灰 褐 色 土…山砂を主体とする層。カマド袖部分。
12．灰 褐 色 土…山砂にロームが混ざる。

第171図　311号住居跡カマド平面図及びセクション図 (Scale 1/40)



第172図　311号住居跡出土遺物実測図 (Scale 1/4)



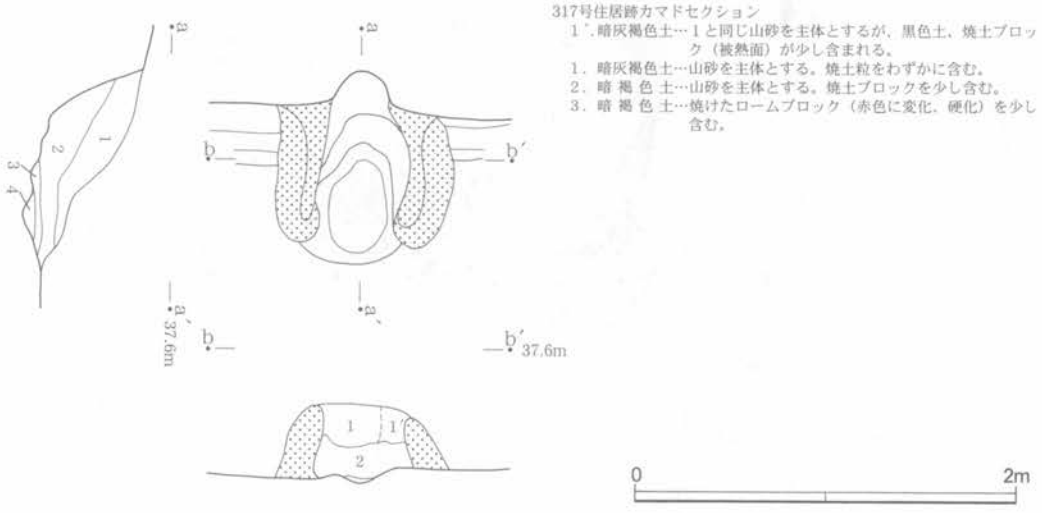
317号住居跡土層セクション

1．黒　色　土…ローム粒子をわずかに含む。
2．暗 褐 色 土…ローム粒子を少し、褐色土ブロックをやや多く含む。
3．黒 褐 色 土…ローム粒子をやや多く、焼土粒子をわずかに含む。
4．黒 褐 色 土…ロームブロック（～3㎜）、ローム粒子をわずかに含む。炭化物、焼土粒子を少し含む。
5．暗黄褐色土…ローム粒子を少し含む。ロームブロック（～2㎜）をわずかに含む。褐色土が混ざる。
6．暗茶褐色土…ローム粒子をやや多く含む。
7．暗 褐 色 土…ローム粒子を少し含む。堆積は3，6と比べてやや密である。
8．黒 褐 色 土…ローム粒子をわずかに含む。ブロック状に堆積していると思われ広がりはない。

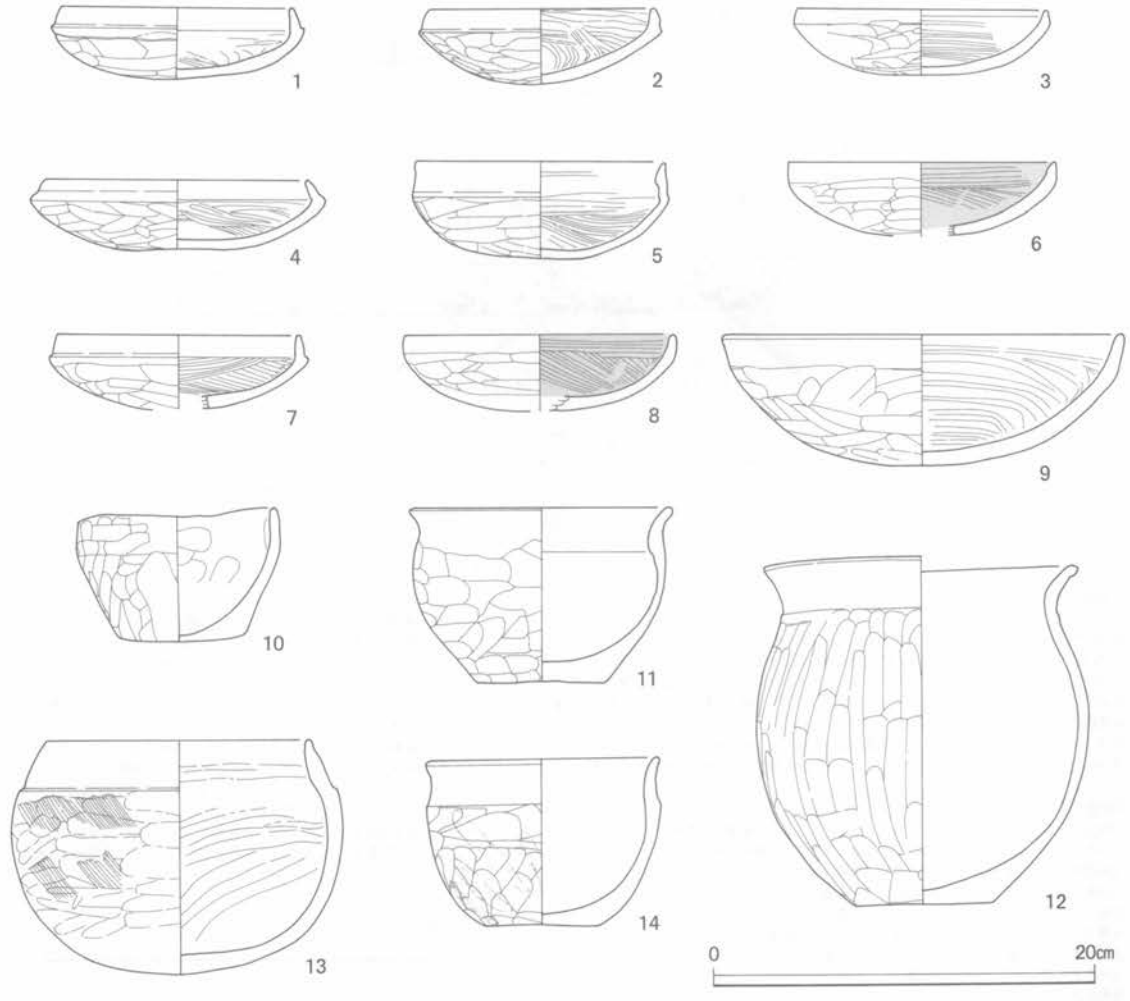
317号住居跡P1，P2，P3，P4，P5土層セクション

9．暗褐色土…ローム粒子を少し、ロームブロックを少し含む。堆積はやや疎。
10．黄褐色土…ロームブロックを一様に詰めてあり下方で少し堆積が疎となる。
11．黄褐色土…ローム粒子を非常に多く含む。堆積は疎でサクサク。
12．黒褐色土…ローム粒子をやや多く含む。（住居覆土）
13．黄褐色土…ロームブロックを詰めてある。柱痕は見あたらず。
14．黒褐色土…ローム粒子、炭化物粒子を少し含む。（住居覆土）
15．黒褐色土…ローム粒子を多く含む。堆積はやや疎。
16．黄褐色土…ロームブロックのみの層。
17．暗褐色土…ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
18．暗褐色土…ローム粒子、ロームブロックを多く含む。堆積が17より疎。
19．暗 褐 色 土…ロームブロック、ローム粒を多く含む。堆積が18より疎。
20．黄 褐 色 土…ロームブロックのみの層。16よりブロックが小さく堆積が疎。
21．暗 褐 色 土…ローム粒子を含む。堆積は疎。
22．暗 褐 色 土…ローム粒子を少し含む。堆積は疎でサクサク。
23．黄 褐 色 土…ローム粒子（大豆大）のみの層である。堆積は疎でサクサク。
24．黒 褐 色 土…ローム粒子、炭化物粒子を少し含む。（住居覆土）
25．暗 褐 色 土…ローム粒子（小豆大）を少し、ローム粒を少し含む。
26．暗黄褐色土…ローム粒子（小豆大）を非常に多く含み、堆積は密である。
27．黄 褐 色 土…ロームブロックを詰めている。堆積は密である。
28．黄 褐 色 土…ロームブロックが27より小さめで堆積が疎でサクサク。
29．暗 褐 色 土…ローム粒子を少し含む。
30．暗黄褐色土…ロームブロックを多く、ローム粒子を少し含む。
31．暗 褐 色 土…ローム粒子を少し含む。粒子を粗く堆積は疎でサクサク。

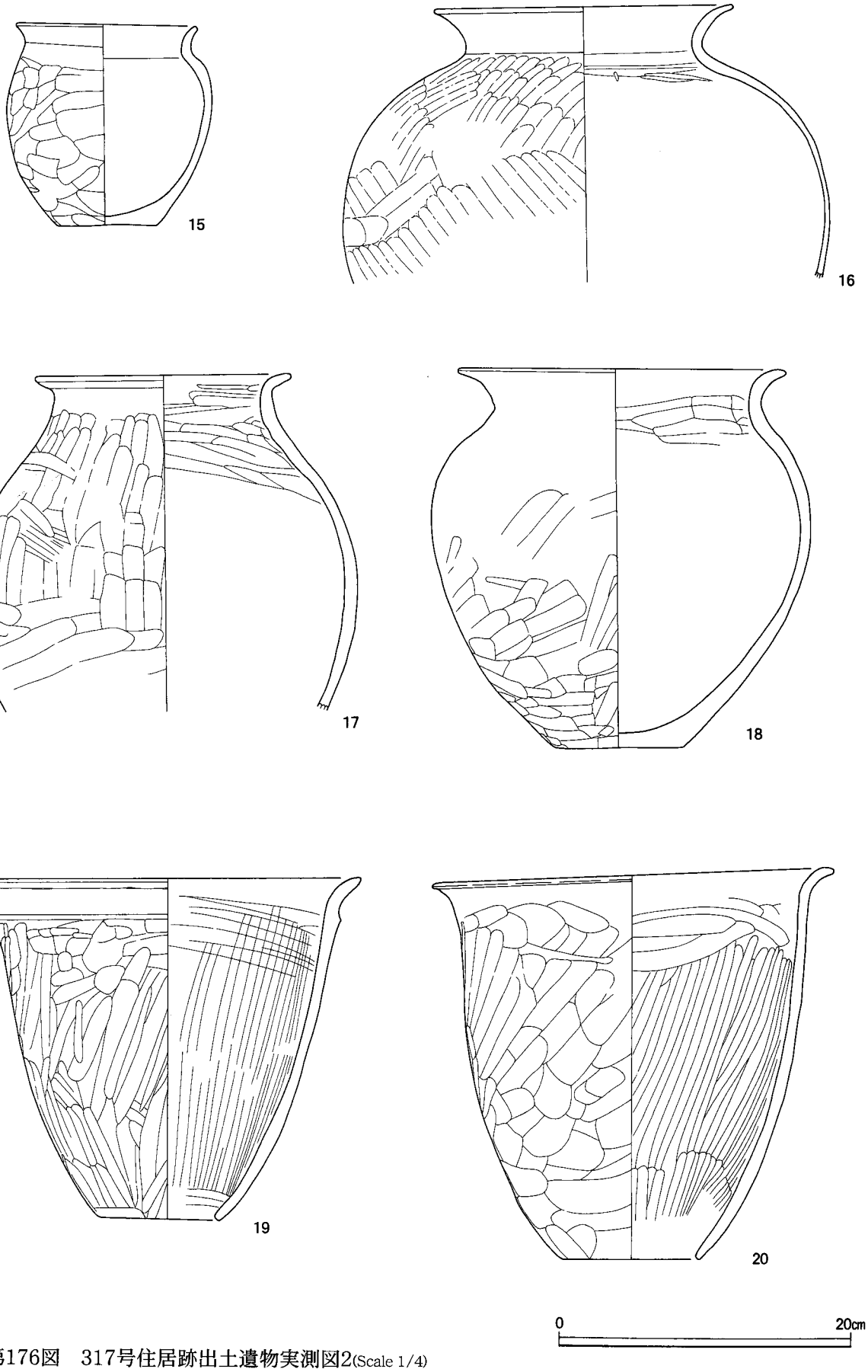
第173図　317号住居跡平面図(遺物分布を含む)及びセクション図 (Scale 1/80)



第174図　317号住居跡カマド平図及びセクション図(Scale 1/40)



第175図　317号住居跡出土遺物実測図1(Scale 1/4)



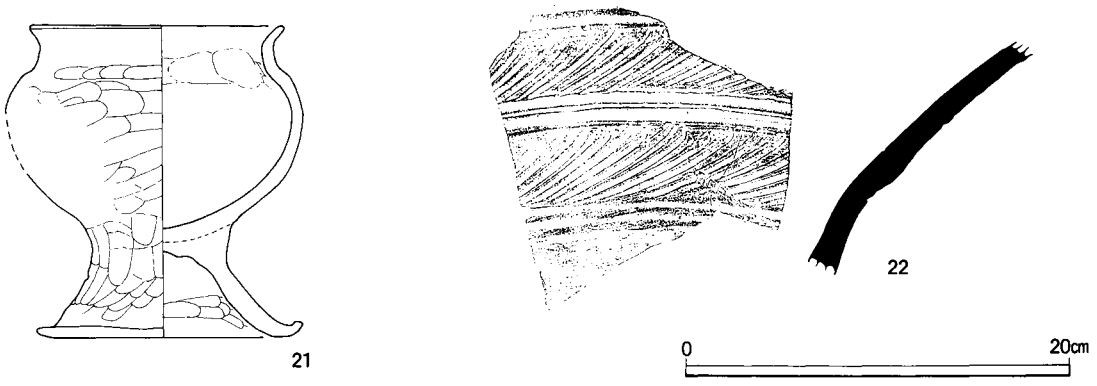
第176図　317号住居跡出土遺物実測図2(Scale 1/4)

層がローム粒や炭化粒を多く含む黒褐色土である。カマドは北西壁中央部分に構築されている。両袖や炉床もしっかり残されている。柱穴P1～P4まで検出されており柱痕の残るものもある。概ね径80cm、深さ75cm前後の規模である。またカマドの向かい側より梯子ピットP5も検出されている。床面での顕著な硬化面は検出されていない。遺物はカマドの東側及びカマド周辺で多数の完形の土師器杯、鉢、甕、高杯等が検出されている。住居跡の時期を遺物等から判断すると古墳時代後期(鬼高期)に相当すると思われる。

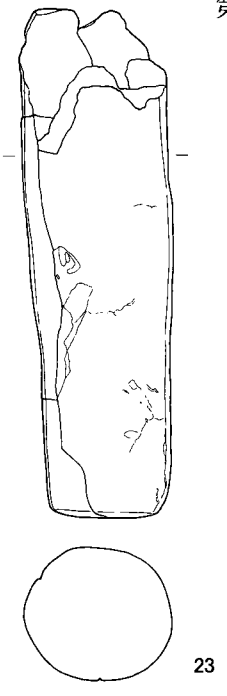
(遺物) 遺物は住居跡の覆土下層から床面直上で特にカマド周辺から土師器杯等が多数検出されている。図示したのは土師器の杯8点、鉢5点、甕5点、甑2点、台付き甕1点、須恵器甕破片1点、土製支脚1点である。

1～9は土師器の杯である。1は土師器の杯の完形である。底部は丸底で口縁部にかけて内曲する。口径12.1cm、器高3.9cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部底面はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデ後ミガキで仕上げられている。口唇部の欠損が著しい。2は土師器の杯の完形である。底部は丸底で口縁部にかけて1ほどではないが内曲する。口径12.5cm、器高3.7cm、丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデ後ミガキで仕上げられている。3は土師器の杯で3/4程度遺存している。底部は丸底で口縁部がほぼ直立する器形である。口径13.2cm、器高3.3cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部底面はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデ後ミガキで仕上げられている。4は土師器の杯で2/3程度遺存している。底部は丸底で緩やかに立ち上がり、口縁部は内曲する。口径13.3m、器高3.5cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部底面はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデ後ミガキで仕上げられている。5は土師器の杯で底部の一部を除きほぼ完形である。丸底で口縁部が他のものよりやや長く直線的に立ち上がる器形である。口径13.5cm、器高4.7cm、丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部底面はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラナデ後丁寧なミガキで仕上げられている。6は土師器の杯で1/3程度遺存している。底部は丸底で口縁部にかけて緩やかに立ち上がる器形である。口径14.0cm、器高3.9cmで丸底である。外面口縁部ヘラナデ後ミガキ、底部ヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部から底部にかけてはヘラミガキで仕上げられている。また内面は黒色処理が施されている。7は土師器の杯で1/3程度遺存している。底部は丸底で口縁部が内曲する器形である。口径12.8cm、器高4.0cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ後弱いミガキ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ミガキ、底部にかけてもミガキで仕上げられている。8は土師器の杯で1/3程度遺存している。底部は丸底で口縁部にかけて緩やかに立ち上がる器形である。口径14.4cm、器高4.0cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ、底部はヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部から底部にかけてミガキで仕上げられている。また内面は黒色処理が施されている。口唇部は細かく剥落している。

9～11、13、14は土師器の鉢である。9は土師器の鉢である。大形の浅鉢形の土器で完形である。丸底の杯を大形にしたような器形である。口径20.8cm、器高5.7cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部はヘラミガキで仕上げられている。10は土師器の鉢である。小形の鉢で完形である。口径10.0cm、器高6.7cm、底径6.6cmである。外面口縁部ナデ、底部にかけては斜め縦方向のヘラケズリ、底面は多方向からのヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ナデ、底部にかけてはヘラナデで仕上げられている。内面は使用のため比較的黒ずみ細かく剥落



第177図　317号住居跡出土遺物実測図3(Scale 1/4)



している。11は土師器の鉢形土器でやや頸部の作りだしが見られる甕形に近い器形である。口径13.7cm、器高9.3cm、底径6.9cmである。外面口縁部ヨコナデ、胴部から底部底面ヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部にかけてはヘラナデで仕上げられている。13は土師器の鉢で完形である。丸底で胴部に最大径があり、幾分口縁部にかけて縮まる器形である。口径13.4cm、器高12.3cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、胴部から底部にかけては横方向のヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、底部ナデ後の丁寧なミガキで仕上げられている。14は土師器の鉢で完形である。11に似た形状でやや小さいものである。口径12.3cm、器高8.8cm、底径6.2cmである。外面口縁部ヨコナデ、胴部から底部にかけては横方向のヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデで仕上げられている。

12、15～18は土師器の甕である。12は土師器の甕で口縁部の一部を除きほぼ完形である。比較的小さな底面よりやや丸みを持ちながら胴部の中程に最大径のある器形である。頸部も比較的長めである。口径16.2cm、器高17.6cm、底径6.3cmである。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下は縦方向のヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下はナデで仕上げられていると思われるが、器面の剥落が著しく詳細は不明である。15は土師器の甕で底部の一部を除きほぼ完形である。胴部上半部に最大径のくるような器形である。口径12.3cm、器高14.3cm、底径6.8cmである。外面口縁部ヨコナデ、胴部以下は横方向を主体としたヘラケズリ、底面はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラナデで仕上げられている。16は大形の甕の口縁部から胴部にかけての破片である。胴部上半部がかなり大きくふくらむ大形の器形である。口径20.8cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、頸部から胴部にかけては斜め方向のヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部にかけてはナデで仕上げられている。17は土師器の甕で口縁部から胴部下半部まで4/5程度遺存している。胴部中央部分に最大径があり、口縁部が比較的小さく胴部が長い器形である。口径17.5cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、頸部から胴部にかけて縦方向のヘラケズリが主体で、胴部下半部以下は横方向のヘラケズリで仕上げられ

ている。内面口縁部ヨコナデ、頸部は横方向のヘラケズリ、胴部以下はナデで仕上げられている。18は土師器の甕でほぼ完形のものである。胴部上半部分に最大径がある器形である。口径21.8cm、器高25.8cm、底径8.8cmである。外面口縁部ヨコナデ、胴部縦方向のヘラケズリ、底部は横方向のヘラケズリ、底面はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、頸部横方向のヘラケズリ、胴部以下はナデで仕上げられている。

19、20は土師器の甑である。いずれもほぼ完形である。19は口縁部の下部が幾分突起状に張り出す。器形も20と比較するとやや胴部が短く全体に開きぎみである。口径27.7cm、器高23.2cm、底径8.4cmである。外面口縁部ヨコナデ、頸部は横方向のヘラケズリ、胴部から底部にかけては縦方向のヘラケズリで仕上げられている。内面は全体が縦方向のヘラミガキで仕上げられた後底部及び口縁部付近を横方向にヘラミガキで仕上げられている。20は器形的には口唇部がかなり外反する。口径27.6cm、器高26.4cm、底径9.6cmである。外面口縁部ヨコナデ、頸部から胴部にかけてはやや斜め方向のヘラケズリ、底部以下は横方向のヘラケズリを主体として仕上げられている。内面は口縁部が横方向のヘラナデ、胴部から底部は縦方向のヘラミガキで仕上げられている。

21は土師器台付き甕である。底部のかなりの部分がないもののある程度遺存している。口径13.1cm、器高16.2cm、裾径13.9cmである。外面口縁部ヨコナデ、頸部から胴部にかけて横方向のヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、胴部以下はヘラナデもしくはナデで仕上げられている。脚部外面縦方向のヘラケズリ、内面横方向のヘラケズリ、ナデで仕上げられている。

22は須恵器の甕の頸部の大形破片である。外面はヘラ状工具による横方向の沈線、斜め方向に櫛目状の模様を配している。内面はヘラケズリを一部施している。

23は土製支脚である。裾部分が欠損している。砂が多い粘土を使用して作られており、表面はヘラナデ仕上げのようである。径7.6cmで残長は26.8cmである。

（２）土坑等

076号土坑（第178図、図版29）

（遺構）調査区の北側、19－Q－78区付近に位置する。平面形状は円形に近い楕円形である。坑底部分が楕円状ですぼまり、底部までやや斜めに広がり、そこから開口部へ向かってはほぼまっすぐに立ち上がる。規模は長軸1.44m、短軸1.20m、深さ1.52mである。長軸方位はN－73°－Eである。覆土は上層が腐植土を主体とする黒色土～黒褐色土で自然堆積である。その下は壁崩落土の褐色土を主体とする中層、ロームブロック混じりの黒褐色土である下層で構成される。性格等は不明であるが、古墳時代後期以降の土坑と思われる。井戸とするには形状深さなどから否定せざるえない。

104号土坑（第179図、図版32）

（遺構）調査区の北西側、19－O－69区付近に位置する。平面形状は丸みの強い楕円形である。坑底部分でやや方形気味の楕円形で開口部に向かって比較的真っ直ぐに立ち上がる。規模は長軸1.68m、短軸1.36m、深さ1.76mである。長軸方位はN－40°－Eである。覆土は上層が、腐植土が主体の黒色土で一番最下部より馬歯が出土しており、二次利用として馬を埋葬した可能性がある。そこから下の覆土の堆積は５層に分層されているがローム粒の多い黄褐色土と腐植土の多い黒褐色土が交互に堆積した自然堆積の層序である。元々古墳時代後期頃に作られた土坑（貯蔵穴？詳細な性格は不明）と思われるが、後世に馬の埋葬か何かを行っているものである。

127号土坑（第180図、図版32）

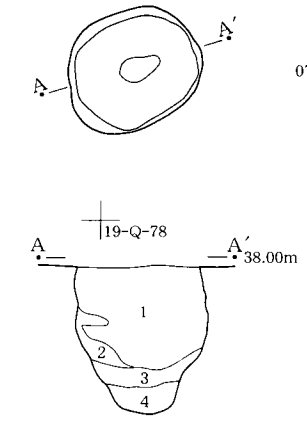
（遺構）調査区の北側、19－P－72区付近に位置する。平面形状はやや角張った不規則な楕円形である。坑底部分でやや方形気味の楕円形で開口部に向かってやや開き気味に立ち上がる。規模は長軸2.24m、短軸2.08m、深さ1.92mである。長軸方位はN－20°－Wである。覆土は上層が腐植土が主体の黒色土、中層がローム粒、ロームブロック混じりの明黄褐色土、下層が腐植土主体の黒色土、ローム粒、ロームブロック混じりの黄褐色土である。古墳時代後期以降に作られた土坑と思われる。井戸のような性格が考えられるが詳細は不明である。

134号土坑（第181図、図版36）

（遺構）調査区のやや中央より、20－P－12区付近に位置する。平面形状は楕円形である。坑底部分はやや不正形な丸みのある方形で開口部に向かってやや開き気味に立ち上がる。規模は長軸2.24m、短軸1.84m、深さ2.56mである。長軸方位はN－３°－Eである。覆土は上層の黒色土～黄褐色土の３枚が自然堆積で、下層の５枚の黄褐色土～黒色土が人為的な埋め戻しと考えられる。古墳時代後期以降の井戸かと思われる土坑である。

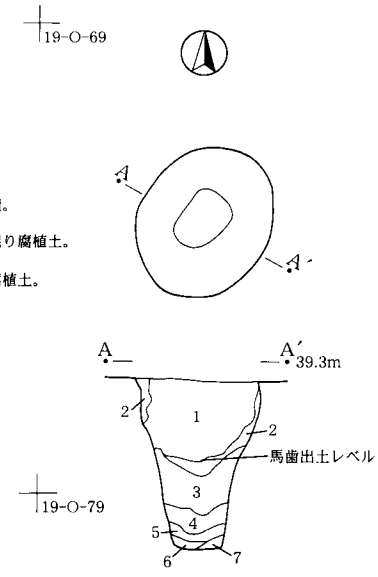
138号土坑（第182図、図版36）

（遺構）調査区の北側、19－P－93区付近に位置する。平面形状は楕円形である。坑底部分はやや軸が異なる楕円形でやや丸底気味で平坦ではない。開口部に向かってはやや開き気味に立ち上がる。規模は長軸1.76m、短軸1.68m、深さ1.84mである。長軸方位はN－15°－Eである。覆土は上層がローム粒、腐植

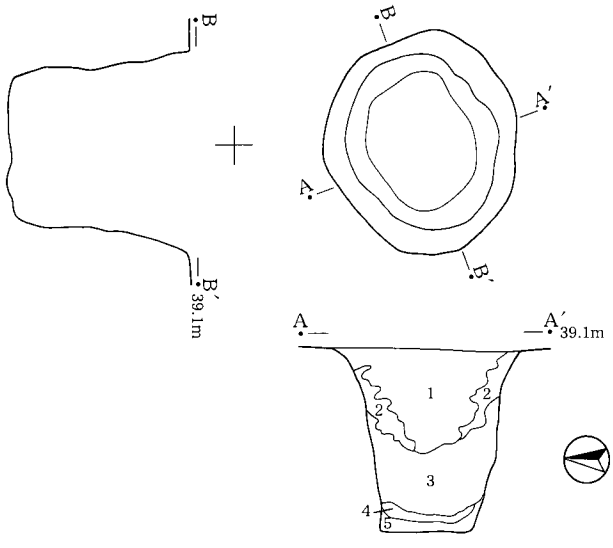


076号土坑
1．黒 色 土…ほぼ純粋の腐植土、自然堆積。
2．黒褐色土…若干のローム粒混り腐植土。
3．褐 色 土…ローム粒、ロームブロック混り腐植土。
壁崩落土。
4．黒褐色土…若干のロームブロック混り腐植土。

第178図　076号土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



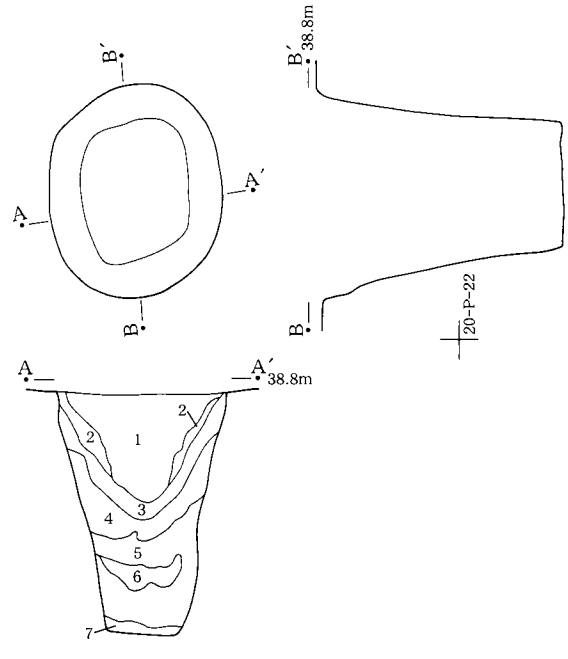
第179図　104号土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



104号土坑土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．褐 色 土…ローム粒混り、腐植土。
3．黄褐色土…腐植土混り、ローム粒、ロームブロック（2～10）含む。
4．黄褐色土…3よりも腐植土多い。
5．黄褐色土…3とほぼ同様。
6．褐 色 土…ローム粒混り腐植土。
7．黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒含む。

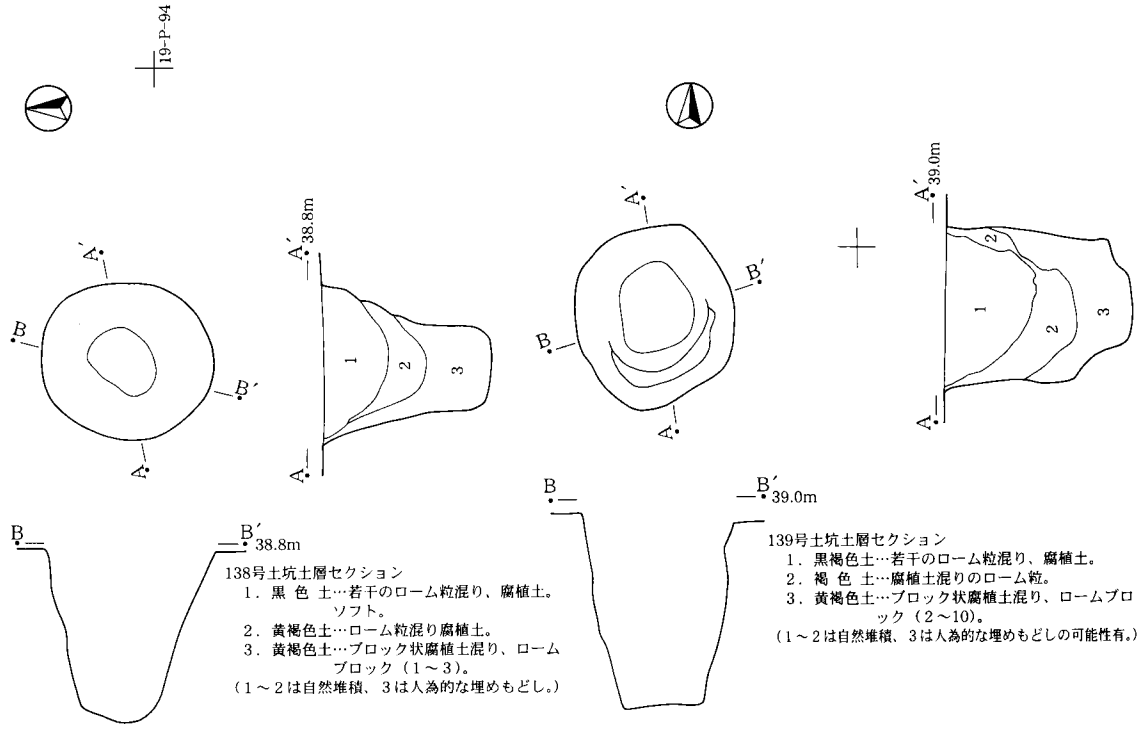
127号土坑土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。明瞭な自然堆積。
2．褐 色 土…ローム粒混りり腐植土。
3．明黄褐色土…ローム粒、ロームブロック、若干の腐植土が不均質に混在。
4．黒 色 土…ほぼ純粋の腐植土。
5．明黄褐色土…ローム粒、同ブロック含む。

第180図　127号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale1/80)



134号土坑土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．黒 褐 色 土…ローム粒混りの腐植土。自然堆積。
3．黄 褐 色 土…腐植土（不均質）混りのローム粒。
4．黄 褐 色 土…ブロック状、腐植土混りのローム粒、ロームブロック（2～4）を含む。
5．明黄褐色土…ロームブロック（1～2）含む。
6．褐 色 土…ロームブロック混り腐植土。
7．黒 色 土…ロームブロック混り腐植土。
（4～7はおそらく人為的な埋めもどしと思われる。）

第181図　134号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale1/80)



第182図　138号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale1/80)

第183図　139号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale1/80)

土が混ざる黒色土、中層がローム粒が多く混ざる腐植土が主体の黄褐色土、下層がブロック状に腐植土の混ざるロームが主体の黄褐色土である。下層は人為的な堆積と思われる。古墳時代以降の土坑と思われる。性格は不明である。井戸とも思われるが確証はない。

139号土坑（第183図、図版36）

（遺構）調査区の北側、 19－Ｐ－62区付近に位置する。平面形状は楕円形である。坑底は楕円形に近い不正形である。中段になる部分が壁際に見られるが、元々のものではなく崩落してできあがった可能性もある。規模は長軸1.84m、短軸1.68m、深さ1.84mである。長軸方位はＮ－10°－Ｗである。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土が主体の黒褐色土、中層が腐植土混じりのロームが主体の褐色土、下層がブロック状の腐植土混じりのロームブロック主体の黄褐色土である。下層は人為的の堆積と思われる。138号土坑と似た性格付けのできる土坑と思われる。

(3) 遺構外出土土器等（第184図１～20）

遺構外及び遺構の所属時期に属さない土器等のうち主なものを取り上げた。１～４までは019号内からの出土であったが、整理時に近世以降の攪乱ということが判明した。いずれにしろ古墳時代のまとまった資料と思われるので取り上げておいた。その他のものについても遺構付近や包含層の調査時に検出されている。

１は土師器の杯で完形のものである。丸底で緩やかに立ち上がり口縁部で内曲する器形である。口径12.4cm、器高3.9cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部は多方向からのヘラケズリで仕上げられている。内面

口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデ後弱いミガキで仕上げられている。口唇部に細かい破損が見られる。古墳時代後期(鬼高期)のものと思われる。

2は土師器の杯で2/3程度遺存している。丸底で緩やかに立ち上がり、口縁部でほぼ直立するような器形である。口径13.9cm、器高4.1cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部は周辺から中心に向かってのヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、底部はヘラナデ後ミガキで仕上げられている。古墳時代後期(鬼高期)のものと思われる。

3は土師器の杯で2/5程度遺存している。丸底で緩やかに立ち上がり、口縁部でほぼ直立するような器形である。2よりはやや器高が低い。口径13.9cm、器高3.3cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部はヘラケズリ後よわいミガキで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、底部はミガキで仕上げられている。古墳時代後期(鬼高期)のものと思われる。

4は須恵器の甕の胴部上半部の破片である。内外面ともロクロナデ仕上げと思われる。150号溝の覆土中から検出されている。

5は土師器の甕の口縁部の破片である。口径20cm程になると思われる。150号溝の覆土中から検出された。外面口縁部ヨコナデ、頸部に縦方向のヘラケズリが見られる。内面口縁部ヨコナデ、頸部以下はナデで仕上げられている。

6は土師器の高杯の脚部の頸部破片である。脚部のつなぎの下半部分である。19－O－56区から検出されている。外面は赤彩されている。021号住居跡で検出された高杯と類似しており古墳時代前期（和泉期）のものと思われる。

7は土師器の杯の破片である。19－O－56区から検出されている。口径12.0cm、丸底気味で器高等は不明である。外面口縁部ヨコナデ、底部はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデで仕上げられている。

8は中近世の焙烙の破片である。22－R－06区から検出されている。土師質土器はこの時期のものは他に検出されていないのでここに載せておいた。

9は221号溝の覆土中から検出された土師器の高杯の脚部の頸部に当たる部分である。6と同様の時期と思われ、古墳時代前期(和泉期)のものであろう。外面はヘラケズリ、内面はナデで仕上げられている。赤彩等が施されていた。

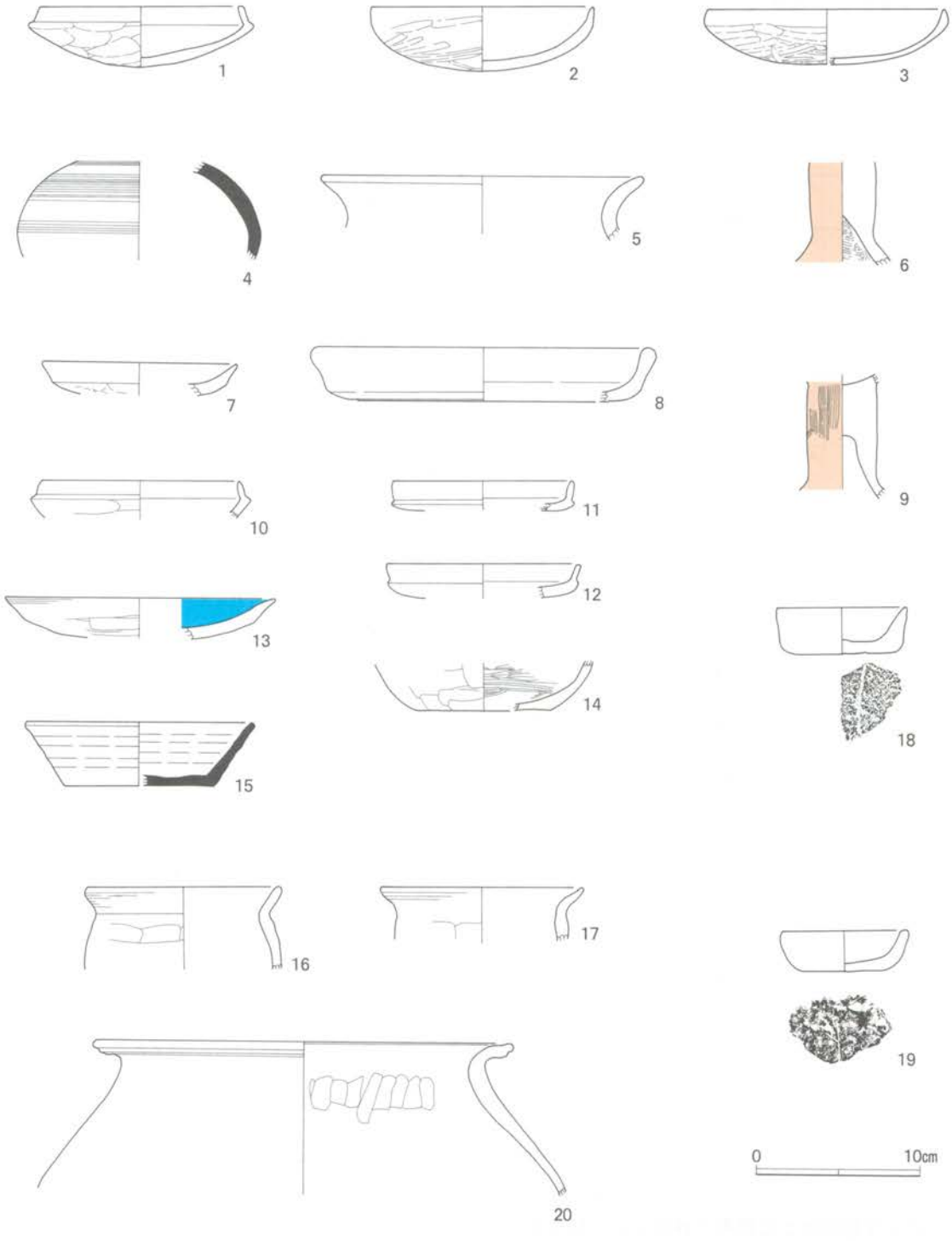
10は土師器の杯の口縁部破片である。19－Q－64区から検出されている。丸底で口縁部の内曲する器形である。口径12.4cm、丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部は横方向のヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部ヨコナデ、底部はミガキで仕上げられている。古墳時代後期(鬼高期)のものと思われる。

11は土師器の杯の口縁部破片である。22－Q－44区から検出されている。口径11.2cm、丸底である。調整、時代等は10とほぼ同じである。

12は土師器の杯の口縁部破片である。22－Q－34区から検出されている。口径12.0cm、丸底である。調整、時代等は10とほぼ同じである。

13は土師器の皿もしくは杯の口縁部破片である。22－Q－45区から検出されている。口径16.8cmで丸底である。外面口縁部ヨコナデ、底部はヘラケズリで仕上げられている。内面はナデ後ミガキで仕上げられている。内面は黒色処理を行っている。

14は土師器の杯の底部底面の破片である。22－R－40区から検出されている。底径8.3cmである。外面底部横方向のヘラケズリ、底面はヘラケズリで仕上げられている。内面はミガキで仕上げられている。内外



第184図　遺構外出土土器実測図

面とも赤彩が施されている。

15は須恵器の杯でほぼ1/3程度遺存している。003号道路状遺構の覆土中から検出された。底面から口縁部に向かって斜めに真っ直ぐ立ち上がる器形である。口径14.1cm、器高3.9cm、底径9.2cmである。外面口縁部から底部にかけてロクロナデ、底面はヘラケズリで仕上げられている。内面は口縁部から底部にかけてはロクロナデ、底面はナデで仕上げられている。

第14表　021号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第120図1	45、47	高杯	口径15.1 裾径12.8 器高15.6	完形 やや摩耗	やや硬質 長石、雲母粒 多く含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ 内外面赤彩
第120図2	8、9、42	高杯	口径15.2 裾径14.6 器高15.8	5/6遺存 やや摩耗	やや硬質 長石、雲母粒 多く含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ 内外面赤彩
第120図3	7、50	高杯	口径15.0 裾径12.6 器高15.6	ほぼ完形 内面剥落	長石、雲母粒 少量	器表：淡褐色 器肉：褐色	やや良	内面：ミガキ後ナデ、炭化物付着 外面：ミガキ後弱いナデ 内外面赤彩
第120図4	4、22～25 31、46	高杯	口径14.2 裾径12.4 器高16.2	ほぼ完形 口唇部良好 全体に摩耗	長石、雲母粒 多く含む	器表：淡褐色 器肉：暗褐色	普通	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ 内外面赤彩
第120図5	48	高杯	口径 裾径12.6 器高	脚部2/3遺存	長石、雲母粒 多く含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ミガキ、脚部ヘラケズリ 外面：ミガキ、ナデ 内外面赤彩
第120図6	1、3、5、19	高杯	口径 裾径12.2 器高	脚部のみ遺存	長石、雲母粒 少量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ミガキ、脚部ヘラケズリ 外面：ミガキ、ナデ 外面赤彩
第120図7	19	高杯	口径 裾径12.6 器高	脚部1/2遺存	長石、雲母粒 多く含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ミガキ、脚部ヘラケズリ 外面：ミガキ、ナデ 外面赤彩、輪積み痕残す
第120図8	16、17、35	坩	口径10.8 底径 器高	口縁～胴部 1/3遺存	長石、雲母粒 やや多く含む	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：胴部以下ナデ、口縁部ミガキ 外面：ミガキ 内面口縁部赤彩、外面赤彩
第120図9	1、32	坩	口径9.6 底径 器高	口縁部1/3 遺存	長石、雲母粒 少量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヨコナデ、後ミガキ 外面：ヨコナデ、後ミガキ 内外面赤彩
第120図10	16	坩	口径12.6 底径 器高	口縁部1/3 遺存	長石、雲母粒 やや多く含む	器表：灰褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：ミガキ、器面が荒れている 外面：ミガキ、器面が荒れている 内面赤彩
第120図11	6、21	坩	口径 底径2.6 器高	底部1/3 遺存	長石、雲母粒 やや多く含む	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ミガキ 外面赤彩
第120図12	49	坩	口径 底径3.6 器高	胴部ほぼ遺存	長石、雲母粒 やや多く含む	器表：褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ミガキ、全体に摩耗 外面胴部上半炭化物付着(漆)？
第120図13	55、70	坩	口径9.2 底径 器高6.6	ほぼ1/2遺存	長石、雲母粒 やや多く含む	器表：灰白色 器肉：淡褐色	普通	内面：ミガキ 外面：ミガキ
第120図14	1、9、10～13 37、39、43	甕	口径15.1 底径5.6 器高17.7	ほぼ完形	小砂粒多量、 緻密	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ、輪積み痕残す 外面：刷毛整形、ナデ
第120図15	40	甕	口径15.5 底径5.2 器高20.9	ほぼ完形	小砂粒多量、 緻密	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部刷毛ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ 外面ナデ後刷毛整形、ミガキ
第120図16	51	甕	口径16.3 底径5.5 器高15.7	ほぼ完形	小砂粒多量、 緻密	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ後ミガキ
第121図17	44	甕	口径18.2 底径5.7 器高15.9	2/3程度遺存	小砂粒多量、 緻密	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ後ミガキ、胴部スス付着
第121図18	39	甕	口径15.6 底径5.3 器高17.3	5/6程度遺存	小砂粒多量、 緻密	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ後ミガキ、胴部スス付着
第121図19	27、28、29 39、41	壺	口径13.4 底径 器高(15.8)	底部を除き ほぼ完形	小砂粒多量、 緻密	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ミガキ、胴部ナデ 外面：ヘラミガキ 外面赤彩、内面吸炭黒色化
第121図20	4	土玉	最大径2.55 高さ2.7 孔径0.7	完形	細粒緻密		良	一部吸炭黒色化
第121図21	14	土玉	最大径2.6 高さ2.55 孔径0.8	完形	細粒緻密		良	一部吸炭黒色化
第121図22	15	土玉	最大径2.9 高さ2.6 孔径0.6	完形	細粒緻密		良	一部吸炭黒色化

第15表　033号住居跡出土土器等（鉄鎌含む）観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第124図1	10～13、15 17	甕	口径15.1 裾径12.8 器高15.6	口縁～胴部 破片	小砂粒多量、 緻密	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ、煤付着 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第124図2	3	須恵器蓋	口径14.6	1/3程度遺存	雲母細粒多量	器表：暗灰褐色 器肉：灰褐色	良	内面：ロクロナデ 外面：回転ヘラケズリ、ヨコナデ 内外面十字の火だすき痕、硯使用
第124図3	5	須恵器甕		胴部破片	長石細粒多量	器表：青灰色 器肉：暗灰色	良	内面：当て具による凹凸 外面：平行のタタキ目
第124図4	6、7	甕		胴部破片	長石、石英、 雲母、粗粒	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ヘラミガキ
第124図5	8	鉄鎌	全長19.1 折り返し幅3.5 背厚0.2	ほぼ完形				基部に折り返し 中央部にかけて屋根材の茅の炭化材が付着。錆が著しい

第16表　034号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第127図1	86	杯	口径12.8 器高3.9 丸底	ほぼ完形	長石、雲母粒、密	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ヘラミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ 口唇部の摩耗が著しい、外面赤彩
第127図2	73	杯	口径13.0 器高4.1 丸底	ほぼ完形	長石、雲母粒、密	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ 口唇部の摩耗
第127図3	76	杯	口径12.4 器高4.1 丸底	ほぼ完形	長石、雲母粒、密	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ 口唇部の摩耗
第127図4	87	杯	口径13.7 器高4.1 丸底	ほぼ完形	砂粒少量、密	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ 口唇部の摩耗
第127図5	85	杯	口径11.6 器高4.2 丸底	ほぼ完形	砂粒多量、密	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第127図6	82、96	椀	口径10.8 器高5.8 丸底	ほぼ完形	小砂粒少量、密	器表：黒褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ヨコナデ後弱いミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第127図7	78	小形甕	口径11.0 器高11.3 丸底気味	完形	粒子かなり粗い砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：赤褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヨコナデ、ヘラケズリ後弱いミガキ
第127図8	75	小形甕	口径12.2 底径6.6 器高9.4	完形	小砂粒少量、密	器表：黒褐色 器肉：淡褐色	良	内面：丁寧なミガキ 外面：丁寧なミガキ
第127図9	42、46、49 53、61、62 65～68他	小形甕	口径11.8 底径6.4 器高11.6	口縁部一部欠損 2/3遺存	粗、砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ後弱いミガキ 外面：ヘラケズリと思われるが荒れているため詳細不明
第127図10	79、81	甕	口径17.6 底径6.1 器高12.6	ほぼ完形	粗、砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：丁寧なナデ 外面：ヘラケズリ後ミガキ 明瞭なミガキ跡は不明
第127図11	81、84	甕	口径16.0 底径6.1 器高12.6	底部欠損 2/3程度遺存	密、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：丁寧なナデ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第127図12	88	甕	口径17.0 底径7.7 器高25.9	1/2程度遺存	やや粗、長石粒主体多く含む	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：丁寧なナデ、器面の剥落が著しい 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第127図13	83、89	甕	口径22.6	該当部位の1/3程度遺存	密、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ後ナデ
第127図14	83	甕	口径16.9 底径8.0 器高27.9	ほぼ完形	密、小砂粒多量	器表：燈褐色 器肉：褐色	良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ後ミガキ、口縁部ヨコナデ
第127図15	3、12、14 16、17、20 35、36他	甑	口径27.4 孔径9.7 器高23.4	口縁部～胴部を中心に2/3程度	密、小砂粒多量	器表：燈褐色 器肉：褐色	良	内面：ヘラケズリ後ミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ 外面一部黒変
第127図16	80	支脚	高さ21.7 最大径7.9	ほぼ完形	小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：褐色	普通	全体をヘラによる面取りで調整 煤付着

第17表　102号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第131図1	16、17	杯	口径10.2 器高4.1 丸底	2/3程度遺存	やや粗、砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ミガキ 外面：口縁部ミガキ、底部ヘラケズリ後ミガキ
第131図2	3	杯	口径10.3 器高4.5 丸底	完形	緻密、小砂少量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	良	内面：丁寧なミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ 口唇部の摩耗は少ない
第131図3	21	杯 ミニュチュア土器	口径9.0 器高4.4 丸底	ほぼ完形	やや粗、砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ナデ、口縁部ヨコナデ 外面：ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ
第131図4	2	杯	口径12.0 器高3.9 丸底	ほぼ完形	緻密、小砂多量	器表：赤褐色 器肉：黒褐色	普通	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ 内面黒色処理
第131図5	15	椀	口径7.3 器高5.0 丸底	ほぼ完形	緻密、小砂多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第131図6	1、19、20	鉢	口径9.8 器高6.0 底径5.8	1/3程度遺存	やや粗、砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	良	内面：丁寧なナデ、口縁部ヨコナデ 外面：ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ
第131図7	7、18	甕	口径13.4 器高 底径	1/3程度遺存	緻密、砂粒多量	器表：黒褐色 器肉：褐色	普通	内面：ナデ、口縁部ヨコナデ 外面：ヘラケズリ、口縁部ヨコナデ
第131図8	22	支脚	高さ19.2 最大径7.1	基部破損	小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：褐色	普通	全体をヘラによる面取りで調整

第18表　120号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第133図1	20、21、52	高杯杯部	口径14.6 器高 底径	杯部遺存 脚部欠損	砂質、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ミガキ 外面：ミガキ 摩滅、内外面赤彩
第133図2	28	高杯脚部	口径 器高 裾径12.2	脚部1/3遺存	小砂多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ナデ 外面：ミガキ後赤彩 やや摩滅気味、外面赤彩
第133図3	1～9、30 31、36、38	坩	口径13.0 器高15.9 底径3.2	ほぼ完形	密、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	良	内面：ナデ、口縁部ミガキ 外面：ナデ後ミガキ 赤彩痕跡
第133図4	1、25、32	坩	口径13.0 器高7.7 底径4.2	1/2遺存	密、小砂多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第133図5	31～33、35	甕	口径16.4 器高18.4 底径5.4	ほぼ完形	緻密、小砂多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	やや良	内面：丁寧なナデ 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第133図6	1、12、13 40	杯	口径10.4 器高3.9 底径3.5	2/3程度遺存	やや粗、砂粒多量	器表：黒褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第133図7	10	土玉	最大径2.1 高さ1.9 孔径0.6	2/3程度遺存	緻密、砂粒多量	器表：褐色 器肉：褐色	普通	全体に丁寧なナデ
第133図8	29	軽石製砥石	長9.1 幅6.7 厚6.3	ほぼ完形				中央部分に溝状の研磨痕

第19表　124号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第136図1	4	杯	口径10.4 器高4.0 丸底	5/6程度遺存	やや粗、小砂粒多量	器表：燈褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ 内面スス付着、斑状剥離が著しい
第136図2	8	杯	口径11.3 器高3.2 丸底	1/3程度遺存	やや粗、小砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ミガキ、吸炭による黒色処理 外面：口縁部ミガキ、底部ヘラケズリ後ミガキ
第136図3	1	杯	口径11.0 器高3.1 丸底	1/3程度遺存	やや粗、小砂粒少量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第136図4	1	杯	口径12.0 器高 丸底	1/6程度遺存	密、小砂多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ミガキ後吸炭による黒色処理 外面：ミガキ
第136図5	6、9	高杯	口径15.8 器高10.5 裾径12.3	脚部残存 杯部1/4遺存	密、小砂多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：脚部ヘラケズリ、杯部ミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第136図6	2	甕	口径13.0 器高 底径	1/6程度遺存	密、砂粒多量	器表：燈褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第136図7	13、14	土製支脚	最大径7.4 高25.0以上	底部一部破損	小砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	良好	全体にヘラによるナデ仕上げ 表面の剥落が著しい

第20表-1　128号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第139図1	24	杯	口径13.0 器高4.1 丸底	完形	密、小砂粒多量	器表：黒褐色 器肉：暗褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ 内面吸炭による黒色処理
第139図2	23	杯	口径12.5 器高4.2 丸底	完形	密、石英小粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ミガキ、底部ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図3	21	杯	口径12.7 器高3.9 丸底	3/4程度遺存	密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ミガキ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図4	2	杯	口径12.4 器高4.4 丸底	5/6程度遺存	やや密、雲母、小粒粒多量	器表：燈褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ミガキ、底部ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図5	26、36	杯	口径13.3 器高3.8 丸底	ほぼ完形	密、小砂多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ミガキ、底部ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図6	18	杯	口径12.5 器高3.6 丸底	ほぼ完形	密、雲母小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：暗褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図7	1、22	杯	口径12.5 器高3.7 丸底	ほぼ完形 口縁部一部欠損	密、雲母小砂粒多量	器表：黒褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図8	27	杯	口径13.7 器高4.0 丸底	ほぼ完形 口縁部一部欠損	密、雲母小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図9	10	杯	口径11.7 器高 丸底	口縁部から底部残存	密、小砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ミガキ、ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図10	7	小形甕	口径12.8 器高13.0 底径6.6	1/3程度遺存	やや粗い 小砂粒多量	器表：燈褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヘラケズリ後ミガキ 外面：ヨコナデ、ヘラケズリ後ミガキ 内面器壁荒れ顕著
第139図11	30	甕	口径13.3 器高28.5 丸底6.2	完形	やや粗い 砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ヨコナデ、ナデ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ

第20表-2　128号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第139図12	20	小形甕	口径12.3 器高12.5 底径6.3	口縁部の一部欠損 9/10遺存	やや粗い、小砂粒多量	器表：燈褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ナデ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図13	27	鉢	口径12.8 器高13.0 底径6.6	ほぼ完形	やや粗い 小砂粒多量	器表：燈褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヘラケズリ後ミガキ 外面：ヨコナデ、ヘラケズリ後ミガキ
第139図14	11、13、16 19、30	鉢	口径13.3 器高28.5 丸底6.2	4/5以上遺存	密 砂粒やや少量	器表：褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ミガキ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第139図15	28	土製支脚	裾径10.8 高さ14.2	裾部分一部欠損	粗 大きめの砂粒多量	器表：褐色 器肉：褐色	普通	外面：ナデ

第21表　132号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第142図1	13	杯	口径11.2 器高 丸底	1/6程度遺存	密、小砂粒少量	器表：赤褐色 器肉：茶褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：ヘラケズリ後ミガキ
第142図2	4	杯	口径12.3 器高3.6 丸底	1/2程度遺存	密、小砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ミガキ、底部ヘラケズリ後ミガキ　内面吸炭による黒色処理
第142図3	9	鉢	口径10.0 器高7.7 底径5.5	1/3程度遺存	密、小砂粒多量	器表：燈褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ
第142図4	11	甕	口径12.5 器高17.7 底径7.4	完形	密、砂粒多量 多量	器表：燈褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ 外面：ヘラケズリ後弱いミガキ
第142図5	1、8	甕	口径15.8 器高16.0 底径7.4	2/3程度遺存	やや粗、砂多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底面ヘラケズリ、胴部ヘラケズリ後ナデ
第142図6	10	鉢	口径16.5 器高10.6 底径7.2	1/2程度遺存	密、小砂粒少量	器表：燈褐色 器肉：暗褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、ヘラケズリ後弱いミガキ
第142図7	10	鉢	口径16.5 器高10.6 底径7.2	1/2程度遺存	密、小砂粒少量	器表：燈褐色 器肉：暗褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後弱いミガキ
第142図8	104	杯	口径15.3 器高4.5 丸底	1/4程度遺存	密、小砂粒やや多量	器表：燈褐色 器肉：褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第142図9	104	杯	口径13.9 器高 丸底	1/10程度遺存	やや粗、砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第142図10	102、103 132	杯	口径11.5 器高3.4 丸底	1/4程度遺存	密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面黒色処理
第142図11	105	杯	口径12.9 器高2.3 丸底	1/10程度遺存	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 外面の一部に赤彩の跡あり
第142図12	104	杯	口径13.0 器高2.5 丸底	1/10程度遺存	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：丁寧なナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第142図13	105	杯	口径13.4 器高2.5 丸底	1/10程度遺存	密、小砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第142図14	105	甕	口径23.4 器高	破片	密、小砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ナデ
第142図15	105	甕	口径12.9 器高2.3	破片	密、小砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ナデ

第22表　151号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第144図1	1、2、10 16～19、21 22、26	甑	口径23.8 器高25.2 底径10.4	3/4程度遺存	密、小砂粒やや多量	器表：茶褐色 器肉：褐色	良好	内面：丁寧なミガキ 外面：口縁部ナデ、胴部以下ヘラケズリ
第144図2	5、15	杯	口径12.2 器高 丸底	1/6程度遺存	密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第144図3	31、32	甕	口径 器高 底径	胴部破片	粗、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ナデ
第144図4	11	滑石製紡錘車	口径3.8 厚み0.8 高さ18.0	完形				

第23表　154号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第146図1	39	甕	口径19.5 器高 底径	口縁部破片	密、小砂粒やや多量	器表：明褐色 器肉：明褐色	良好	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ

第24表　155号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第149図1	21	杯	口径12.2 器高 底径	口縁部破片	密、小砂粒やや多量	器表：暗褐色 器肉：褐色	良好	内面：丁寧なナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ
第149図2	44	鉢	口径11.9 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ

第25表　189号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第151図1	9	杯	口径12.8 器高 丸底	口縁部2/3遺存	密、小砂粒やや多量	器表：赤褐色 器肉：褐色	良好	内面：ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第151図2	11	杯	口径12.3 器高4.0 丸底	1/2程度遺存	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：弱いミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第151図3	4、5、一括	杯	口径13.8 器高3.9 丸底	底部を除きほぼ完形	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ヨコナデ、ミガキ 外面：ナデ、ヘラケズリ
第142図4	11	甕	口径12.5 器高17.7 底径7.4	完形	密、砂粒多量多量	器表：燈褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第151図5	6、一括	甕	口径 器高 底径6.9	底部のみ遺存	やや粗、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヘラナデ 外面：ヘラケズリ
第151図6	1	甕	口径 器高 底径5.8	底部のみ遺存	やや粗、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヘラナデ 外面：ヘラケズリ

第26表　190号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第154図1	2	杯	口径13.1 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒少量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第154図2	1	杯	口径13.0 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒少量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第154図3	7	土製支脚	裾径13.3 高さ	裾から胴部残存	粗、砂粒多量	器表：明褐色 器肉：明褐色	普通	外面：ヘラケズリ、指頭痕あり

第27表　197号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第157図1	2	杯	口径12.6 器高3.2 丸底	口縁部1/4遺存	密、小砂粒やや多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第157図2	23	杯	口径13.3 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒少量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部弱いミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第157図3	30	杯	口径11.6 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第157図4	1	甕	口径15.2 器高 底径	口縁部破片	やや密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第157図5	34	甕	口径25.1 器高 底径	口縁部破片	やや粗、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ
第157図6	1	甕	口径15.6 器高 底径	口縁部破片	やや粗、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第157図7	51	甕	口径15.0 器高 底径	口縁部破片	やや密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第157図8	48	手捏ね土器杯	口径7.6 器高2.4 底径6.4	完形	やや粗、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ナデ、輪積み痕、木葉痕有り
第157図9	37	手捏ね土器杯	口径4.0 器高2.0 底径3.0	完形	やや粗、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ、指頭痕有り 外面：ナデ、指頭痕有り
第157図10	1、2、15、20 29、63	小形甕	口径7.6 器高10.2 底径4.3	1/2程度遺存	やや密、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：赤褐色	良好	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第157図11	1、2、26、33 42～47、49 59	須恵器甕	口径8.0 器高 底径	口縁部～胴部2/3遺存	密、小砂粒少量	器表：灰色 器肉：淡灰色	普通	内面：ロクロナデ 外面：口縁部ナデ、胴部ロクロナデ
第157図12	1	土製支脚	裾径 高さ	先端、裾部欠損	粗、砂粒多量	器表：明褐色 器肉：明褐色	普通	外面：顕著なヘラケズリ、指頭痕あり

第28表　204号住居跡（新）出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第161図1	2～5	杯	口径9.8 器高4.2 丸底	3/4程度遺存	密、小砂粒やや多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第161図2	7	杯	口径12.3 器高3.1 丸底	口縁部破片	密、小砂粒少量	器表：暗褐色 器肉：黒褐色	良好	内面：ミガキ 外面：ミガキ
第161図3	3	鉢	口径13.4 器高8.2 丸底	ほぼ完形	密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：黒褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第161図4	2～5	甕	口径11.7 器高 底径	口縁部破片	やや密、小砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ

第29表　209号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第164図1	6	杯 (灯明皿)	口径10.7 器高3.2 丸底	ほぼ完形	密、小砂粒やや多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 外面煤付着
第164図2	19	杯 (灯明皿)	口径10.5 器高2.7 丸底	ほぼ完形	密、小砂粒少量	器表：明褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ナデ後丁寧なミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 後ミガキ　内面煤付着
第164図3	20	杯 (灯明皿)	口径10.3 器高2.8 丸底	3/4程度遺存	密、小砂粒やや多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ 内面煤付着
第164図4	7、13	甕	口径14.0 器高 底径	口縁部～胴部破片	やや密、小砂粒多量	器表：明褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第164図5	4、5	甕	口径12.0 器高 底径	口縁部破片	やや密、小砂粒多量	器表：明褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第164図6	1、9、17	甕	口径 器高 底径6.4	底部破片	やや粗、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：底部ナデ 外面：底部底面ヘラケズリ

第30表　217号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第166図1	6	杯	口径13.9 器高3.5 丸底	1/4程度遺存	密、小砂粒やや多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヘラナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第166図2	1	杯	口径12.8 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒やや多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヘラナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第166図3	1、4	杯	口径13.6 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒やや多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ヘラナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第166図4	1、5	杯	口径12.5 器高3.8 丸底	ほぼ完形	やや密、小砂粒多量	器表：明褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、ヘラナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第166図5	1	甑	口径24.0 器高 底径	口縁部破片	やや密、小砂粒多量	器表：赤褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第166図6	1、9、17	甕	口径24.6 器高 底径	口縁部破片	やや粗、砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや不良	内面：口縁部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ

第31表-1　310号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第169図1	237	杯	口径10.6 器高5.2 底径7.0	1/2程度遺存	密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ後ミガキ、剥落が著しい 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第169図2	66	須恵器杯	口径11.6 器高4.3 底径7.4	1/3程度遺存	密、小砂粒少量	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	普通	内面：ロクロナデ 外面：口縁部ロクロナデ、底面糸切り後ヘラケズリ
第169図3	244	杯	口径 器高 底径8.7	底部底面破片	やや粗、小砂粒多量	器表：明褐色 器肉：明褐色	普通	内面：ヘラナデ 外面：底部底面ヘラケズリ
第169図4	92	杯	口径10.9 器高2.6 丸底	口縁部～底部破片	やや密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：褐色	普通	内面：ナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ後ヘラナデ
第169図5	39、176	杯	口径11.6 器高 丸底	口縁部～底部破片	密、小砂粒少量	器表：明褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ナデ後ミガキ、底部ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ
第169図6	47	須恵器杯	口径 器高 底径6.8	底部底面破片	密、小砂粒少量	器表：灰色 器肉：灰色	良好	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ、底面糸切り後ヘラナデ
第169図7	34、35、91	甕	口径15.0 器高 底径	口縁部から胴部破片	やや密、砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：褐色	やや良好	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第169図8	120、131 177、194 194、197	甕	口径13.5 器高 底径	口縁部から胴部破片	やや密、砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：褐色	やや良好	内面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第169図9	28、55、78	甕	口径 器高 底径7.4	底部底面破片	粗、砂粒多量	器表：明褐色 器肉：明褐色	普通	内面：ナデ、器面の荒れが著しい 外面：底部底面ヘラケズリ

第31表-2　310号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第169図10	153、213 215、229 230	甕	口径 器高 底径7.5	胴部下部～底部破片	やや密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：明褐色	良好	内面：ナデ後ミガキ 外面：ヘラケズリ
第169図11	58	土製紡錘車	最大径4.3 高さ2.6 孔径0.9	一部欠損	やや粗、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	外面：ヘラナデ

第32表　311号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第172図1	2	杯 (手捏ね風)	口径8.3 器高2.4 丸底	1/2程度遺存	やや密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：黒褐色	普通	内面：ナデ後一部ミガキ 外面：ヘラケズリ
第172図2	3	杯 (灯明皿)	口径10.7 器高3.0 丸底	完形	密、小砂粒少量	器表：明褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ、内面灯明皿使用跡あり

第33表-1　317号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第175図1	128	杯	口径12.1 器高3.9 丸底	完形	密、小砂粒少量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、ヘラナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第175図2	191	杯	口径12.5 器高3.7 丸底	完形	密、小砂粒少量	器表：茶褐色 器肉：淡灰色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、ヘラナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第175図3	112、148	杯	口径13.2 器高3.3 丸底	3/4程度遺存	密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、ヘラナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ底部底面ヘラケズリ
第175図4	131、132	杯	口径13.3 器高3.5 丸底	2/3程度遺存	やや密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、ヘラナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ底部底面ヘラケズリ
第175図5	75、76、125 177	杯	口径13.5 器高4.7 丸底	底部の一部破損ほぼ完形	密、小砂粒少量	器表：明褐色 器肉：明褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ後ミガキ　外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第175図6	24、25、49 113、129 250	杯	口径14.0 器高3.9 丸底	1/3程度遺存	密、小砂粒少量	器表：茶灰色 器肉：褐色	良好	内面：ヘラミガキ、黒色処理 外面：口縁部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ
第175図7	105、179	杯	口径12.8 器高4.0 丸底	1/3程度遺存	やや密、砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：褐色	やや良好	内面：口縁部ミガキ、底部ミガキ 外面：口縁部ミガキ、底部ヘラケズリ
第175図8	194	杯	口径14.4 器高4.0 丸底	1/3程度遺存	密、小砂粒少量	器表：暗褐色 器肉：褐色	やや良好	内面：ヘラミガキ、黒色処理 外面：口縁部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ
第175図9	183、184 189、190	鉢	口径20.8 器高5.7 丸底	ほぼ完形	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、ヘラナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第175図10	149	鉢	口径10.0 器高6.7 底径6.6	完形	やや粗、小砂粒多量	器表：明褐色 器肉：褐色	良好	内面：口縁部ナデ、底部ヘラナデ 外面：口縁部ナデ、底部底面ヘラケズリ
第175図11	176	鉢	口径13.7 器高9.3 底径6.9	完形	やや密、小砂粒多量	器表：明褐色 器肉：褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第175図12	151	甕	口径16.2 器高17.6 底径6.3	口縁部の一部を除きほぼ完形	やや粗、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、底部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ　内器面剥落
第175図13	152	鉢	口径13.4 器高12.3 丸底	完形	密、小砂粒少量	器表：明褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第175図14	175	鉢	口径12.3 器高8.8 底径6.2	完形	密、小砂粒少量	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ヘラナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第176図15	150	甕	口径12.3 器高14.3 底径6.8	底部の一部を除きほぼ完形	やや粗、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、胴底部ヘラナデ 外面：口縁部ヨコナデ、底部底面ヘラケズリ
第176図16	30、50、52 57、81～83	甕	口径20.8 器高 底径	口縁部～胴部破片	やや密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部以下ナデ　外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ
第176図17	1、2、7、9 14、124	甕	口径17.5 器高 底径	口縁部～胴部4/5遺存	やや密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第176図18	165、166 186	甕	口径21.8 器高25.8 底径8.8	ほぼ完形	やや密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ、胴部以下ナデ　外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ
第176図19	142、146	甕	口径27.7 器高23.2 底径8.4	ほぼ完形	やや密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、頸部以下ヘラケズリ　外面：口縁部ヨコナデ、胴部以下ヘラケズリ
第176図20	22、142、143	甕	口径27.6 器高26.4 底径9.6	ほぼ完形	やや密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、頸部ヘラナデ、胴部以下ヘラミガキ　外面：口縁部ヨコナデ胴部以下ヘラケズリ
第177図21	12、13、173 ～175	台付甕	口径13.1 器高16.2 裾径13.9	底部の一部欠損	密、小砂粒少量	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、頸部以下ヘラケズリ、ナデ　外面：口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ
第177図22	66	須恵器甕	口径 器高 底径	大形破片	密、小砂粒多量	器表：灰色 器肉：淡灰色	良好	内面：ヘラケズリ 外面：沈線

第33表－２　317号住居跡出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第177図23	192	土製支脚	口径7.6 残長26.8	裾部分破損	砂質粘土、ザラザラの質感	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	普通	外面：ナデ仕上げ

第34表　遺構外出土土器等観察表

挿図番号	遺物番号	器種	法量(cm)	遺存度	胎　土	色　調	焼成	調　整
第184図１	019号－6	土師器杯	口径12.4 器高3.9 丸底	完形	密、小砂粒少量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ､ヘラナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ､底部底面ヘラケズリ　口唇部細かい破損
第184図２	019号－1 4、5	土師器杯	口径13.9 器高4.1 丸底	2/3程度遺存	密、小砂粒少量	器表：茶褐色 器肉：淡灰色	良好	内面：口縁部ヨコナデ､ヘラナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ､底部底面ヘラケズリ
第184図３	019号－3	土師器杯	口径13.2 器高3.3 丸底	2/5程度遺存	密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ､ヘラナデ後ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ底部底面ヘラケズリ後弱いミガキ
第184図４	150号溝 13、25	須恵器甕	口径 器高	胴部上半部破片	密、小砂粒多量	器表：灰色 器肉：淡灰色	やや良好	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ
第184図５	150号溝 17	土師器甕	口径20.0 器高	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	良好	内面：口縁部ヨコナデ、頸部ナデ 外面：口縁部ヨコナデ､頸部ヘラケズリ
第184図６	19－O－55 1	土師器高杯	口径 器高 裾径	脚部破片	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：脚部ナデ 外面：脚部ナデ、赤彩
第184図７	19－O－55 1	土師器杯	口径12.0 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：ナデ 外面：口縁部ヨコナデ、黒色処理？
第184図８	22－R－06 2	焙烙	口径21.2 器高3.2 底径16.4	口縁部破片	やや粗、砂粒多量	器表：黒色 器肉：淡褐色	やや不良	内外面：ナデ
第184図９	221号溝 1	土師器高杯	口径 器高	脚部破片	密、砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：脚部ナデ 外面：脚部ヘラケズリ
第184図10	19－Q－64 1	土師器杯	口径12.4 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ､底部ヘラケズリ
第184図11	22－Q－45 1	土師器杯	口径11.2 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：暗褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ､底部ヘラケズリ
第184図12	22－Q－34 1	土師器杯	口径12.0 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：口縁部ヨコナデ、底部ミガキ 外面：口縁部ヨコナデ､底部ヘラケズリ
第184図13	22－Q－45 1	土師器皿 もしくは杯	口径16.8 器高 丸底	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	やや良好	内面：ナデ後底部ミガキ、黒色処理 外面：口縁部ヨコナデ､底部ヘラケズリ
第184図14	22－R－40 1	土師器杯	口径 器高 底径8.3	底部底面破片	密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	良好	内面：ミガキ 外面：底部底面ヘラケズリ 内外面赤彩
第184図15	003号溝 1	須恵器杯	口径14.1 器高3.9 底径9.2	1/3程度遺存	密、小砂粒多量	器表：淡灰色 器肉：淡灰色	良好	内面：ロクロナデ、底面ナデ 外面：ロクロナデ、底面ヘラケズリ
第184図16	21－R－71 1	土師器甕	口径12.1 器高 底径	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ 外面：口縁部ヨコナデ､頸部以下ヘラケズリ
第184図17	21－R－71 1	土師器甕	口径12.6 器高 底径	口縁部破片	密、小砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：茶褐色	普通	内面：口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ 外面：口縁部ヨコナデ､頸部以下ヘラケズリ
第184図18	19－O－56 1	土師器杯 手捏ね風	口径8.1 器高2.9 底径6.2	1/3程度遺存	密、小砂粒多量	器表：淡褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ナデ、底面木葉痕
第184図19	87号－2	土師器杯 手捏ね風	口径7.8 器高2.6 底径5.2	1/3程度遺存	密、小砂粒多量	器表：褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ 外面：ナデ、底面木葉痕
第184図20	209号－21	素焼き 大甕	口径25.8 器高 底径	大形破片	やや密、砂粒多量	器表：茶褐色 器肉：淡褐色	普通	内面：ナデ、頸部ヘラナデ 外面：口縁部ヨコナデ、胴部ナデ

16は土師器の甕の口縁部破片である。口径12.1cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、頸部以下ヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、頸部以下はナデで仕上げられている。

17は土師器の甕の口縁部破片である。口径12.6cmで他は不明である。外面口縁部ヨコナデ、頸部以下はヘラケズリで仕上げられている。内面口縁部ヨコナデ、頸部以下はナデで仕上げられている。16、17は古墳時代後期頃のものと思われる。

18は土師器の杯の破片で手捏ね風のものである。内外面ともナデで仕上げられている。外面底面には木葉痕が残されている。口径8.1cm、器高2.9cm、底径6.2cmである。

19は土師器の杯の破片で手捏ね風のものである。18と比べるとやや立ち上がりが緩やかで丸みがある。外面底面には木葉痕が残されている。口径7.8cm、器高2.6cm、底径5.2cmである。18、19とも古墳時代後期頃のものと思われる。

20は素焼きの大甕である。時期的には古代末から中世初頭にあたるものであろう。口径25.8cmである。外面はナデ、内面頸部にヘラ調整が残る。胎土が粗く砂質が強い粘土を使用している。

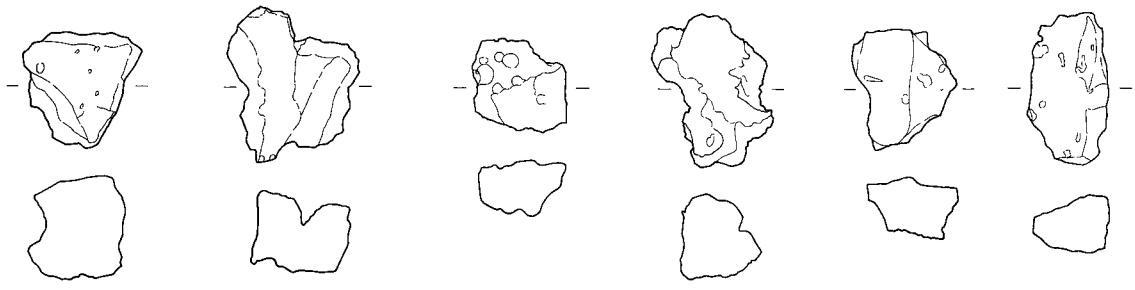
(4) 製鉄関連遺物 (第185図～186図１～23)

駒井野荒追遺跡の中では遺構等から製鉄関連の遺物が多数出土している。詳細なデータ等は一覧表に掲載しておいたので参照されたい。

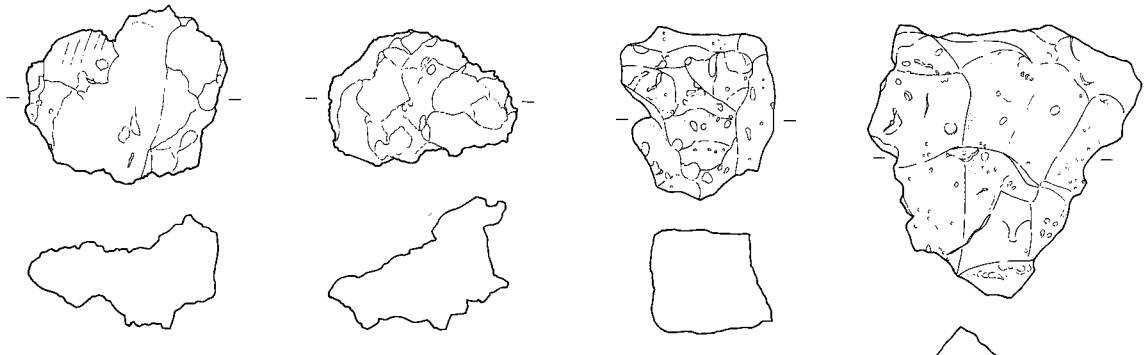
１～４までは132号住居跡から検出された鉄滓類である。132号住居跡は古墳時代後期(鬼高期)のものである。１、３、４は含鉄鉄滓、２は炉壁溶解物である。

５～９までは152号土坑から検出された含鉄鉄滓である。10～21までは同じく152号土坑から検出された椀形鍛冶滓である。遺構の時期は古代末～中世頃のものと考えられる。

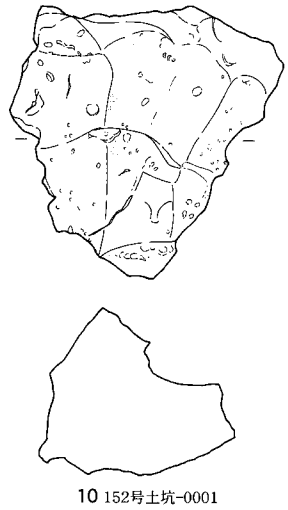
22～23は154号住居跡(小鍛冶跡？)から検出された椀形鍛冶滓である。このほかにも小鍛冶に関連した多数の鉄滓が検出されており古墳時代後期以降の製鉄関連の遺構と考えても良さそうである。



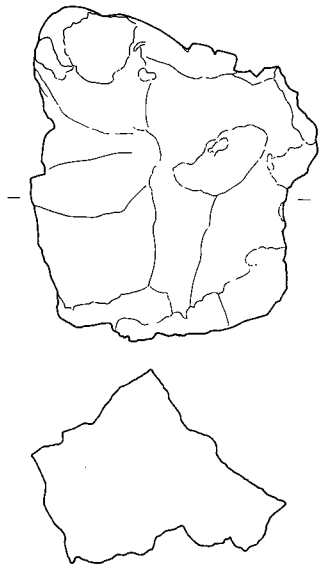
1 132号住居跡-0001　2 132号住居跡-0001　3 132号住居跡-0001　4 132号住居跡-0001　5 152号土坑-0001　6 152号土坑-0001



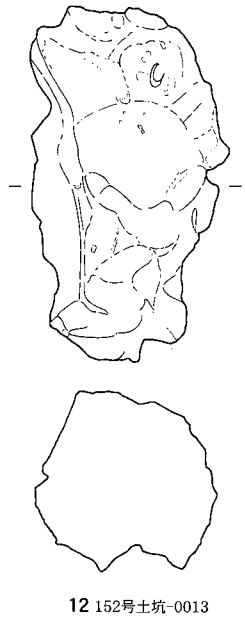
7 152号土坑-0001　8 152号土坑-0001　9 152号土坑-0001



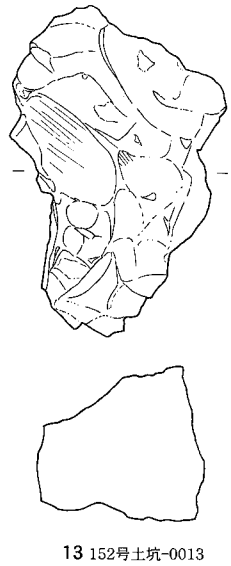
10 152号土坑-0001



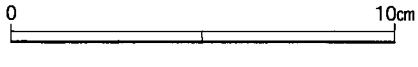
11 152号土坑-0001



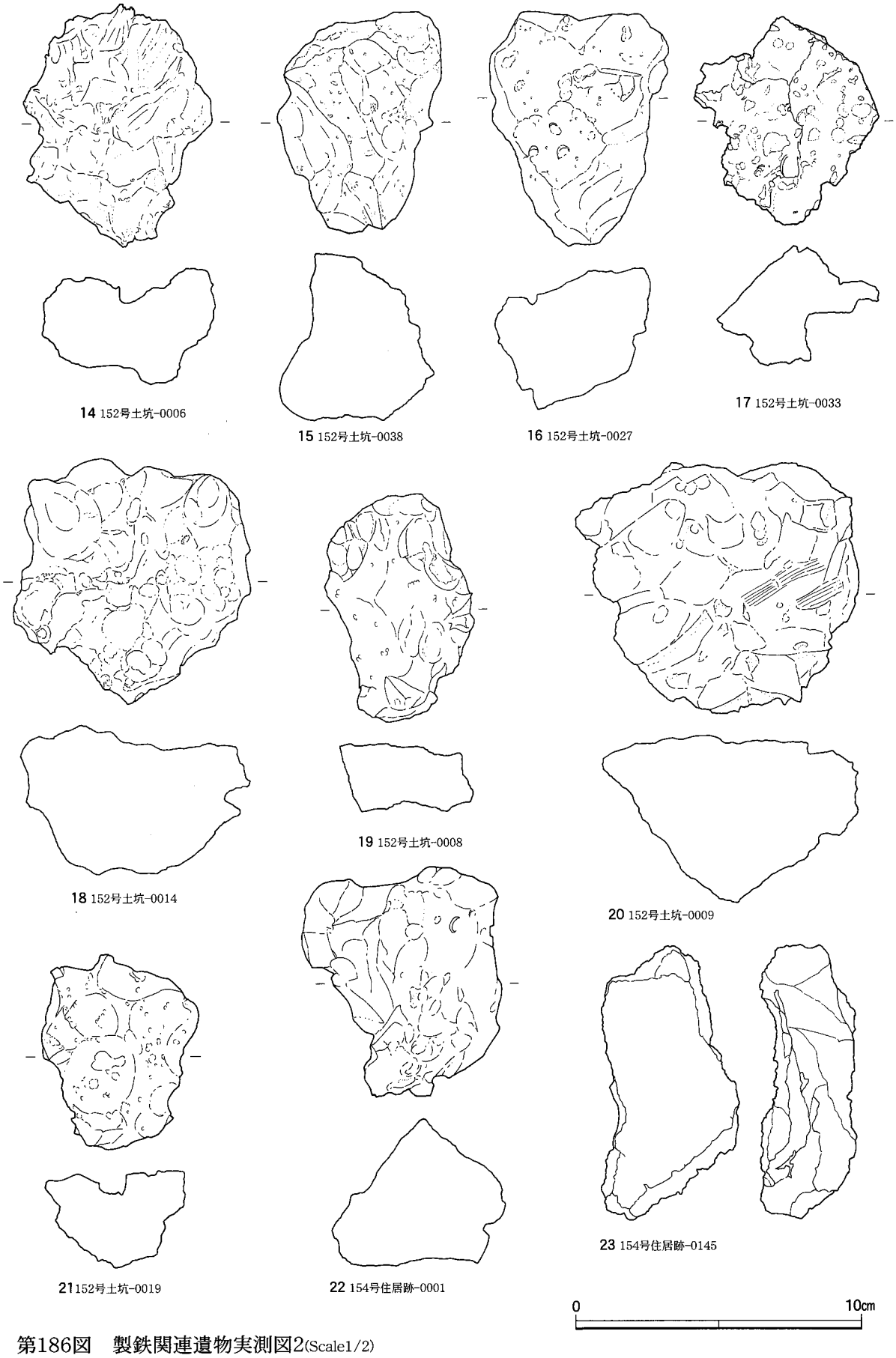
12 152号土坑-0013



13 152号土坑-0013



第185図　製鉄関連遺物実測図1(Scale1/2)



第186図　製鉄関連遺物実測図2(Scale1/2)

表35-1　駒井野荒追遺跡　製鉄関連資料一覧表

遺構No.	遺構	遺物番号	遺物種類	長軸(mm)	短軸(mm)	厚み(mm)	重量(g)	磁着度	メタル度	備考欄
132	住居跡	1	含鉄鉄滓	43.0	32.0	22.0	31.3	3	△	一括
132	住居跡	1	炉壁溶解物	44.1	27.1	25.8	29.41	3	なし	一括
132	住居跡	1	含鉄鉄滓	31.2	30.5	26.3	44.2	3	△	一括
132	住居跡	1	含鉄鉄滓	28.3	22.9	14.8	15.32	3	△	一括
150	溝状遺構	12	炉内滓	50.4	49.1	40.5	34.16	3	錆化(△)	
150	溝状遺構	一括	炉内滓	28.6	27.3	22.4	18.69	2	△	
152	土坑	1	炉内滓				159.60	3	△	一括破砕
152	土坑	5	炉内滓	45.9	33.6	39.5	66.33	3	△	
152	土坑	6	炉内滓				206.5	3	錆化(△)	破砕
152	土坑	7	炉内滓	40.9	32.4	30.5	64.74	3	△	
152	土坑	8	炉内滓	77.2	47.1	32.6	196.8	4	△	
152	土坑	9	炉内滓	100.5	96.9	57.5	698.4	4	△	
152	土坑	10	炉内滓	59.6	46.1	36.5	116.62	3	△	
152	土坑	11	炉内滓	50.0	26.1	32.6	72.31	2	△	
152	土坑	11	炉内滓	36.0	27.3	29.1	31.55	2	なし	
152	土坑	12	炉内滓	46.0	39.5	22.4	70.89	3	△	
152	土坑	13	炉内滓	92.1	49.0	47.5	331.8	4	△	
152	土坑	14	炉内滓	80.3	79.6	52.8	395.6	5	△	
152	土坑	15	炉内滓	84.3	54.6	47.4	226.4	4	△	
152	土坑	17	鍛冶滓	74.3	47.0	41.2	85.62	4	△	
152	土坑	18	炉内滓	44.4	38.7	25.0	65.71	3	△	
152	土坑	19	炉内滓	67.5	53.5	36.7	187.30	3	△	
152	土坑	22	鍛冶滓	47.8	43.2	27.2	55.23	3	錆化(△)	
152	土坑	23	炉内滓	35.3	34.5	21.7	32.40	3	△	
152	土坑	26	炉内滓	52.6	48.6	35.8	64.42	4	△	
152	土坑	27	炉内滓	72.8	59.4	60.9	386.00	4	△	
152	土坑	30	炉内滓	70.5	46.4	46.9	193.0	4	△	
152	土坑	32	炉内滓	41.3	26.8	27.6	36.81	3	△	
152	土坑	33	炉内滓	72.9	52.7	36.7	190.30	4	△	
152	土坑	35	椀形鍛冶滓	77.7	50.3	37.0	187.60	4	△	鍛冶滓付着
152	土坑	37	炉内滓	58.8	42.0	33.1	108.79	2	△	
152	土坑	38	炉内滓	71.1	59.4	63.5	329.30	4	△	
154	住居跡	1	椀形鍛冶滓	75.9	71.3	48.2	339.50	3	△	一括
154	住居跡	54	含鉄鉄滓	44.1	34.1	29.6	31.45	3	錆化(△)	
154	住居跡	55	椀形鍛冶滓	28.9	24.2	13.8	8.59	2	なし	
154	住居跡	56	鍛冶滓	23.8	21.0	19.7	4.67	4	錆化(△)	
154	住居跡	57	鍛冶滓	28.6	20.4	20.1	6.36	4	錆化(△)	
154	住居跡	58	鍛冶滓	17.8	14.5	13.2	4.50	4	△	
154	住居跡	59	鍛冶滓	32.9	20.7	18.6	13.02	3	錆化(△)	
154	住居跡	60	鍛冶滓	24.7	23.8	21.8	10.94	4	錆化(△)	
154	住居跡	61	椀形鍛冶滓	47.5	42.5	24.7	51.74	4	錆化(△)	工具痕付き
154	住居跡	62	鍛冶滓	31.7	17.4	18.9	13.63	5	錆化(△)	
154	住居跡	63	鍛冶滓	30.2	25.4	16.9	7.45	5	錆化(△)	
154	住居跡	64	鍛冶滓	23.3	14.7	10.7	1.90	3	錆化(△)	
154	住居跡	64	椀形鍛冶滓	29.6	20.9	13.4	8.06	3	△	
154	住居跡	65	鍛冶滓	21.1	18.6	15.7	9.58	4	△	
154	住居跡	66	鍛冶滓	40.0	18.2	21.4	10.43	3	錆化(△)	
154	住居跡	67	鍛冶滓	22.7	19.1	15.1	6.02	1	△	
154	住居跡	68	含鉄鉄滓	28.7	27.8	24.1	27.17	3	△	
154	住居跡	69	椀形鍛冶滓	44.8	26.9	26.6	46.10	3	錆化(△)	工具痕付き
154	住居跡	70	炉壁溶解物	23.1	19.2	17.0	9.96	4	なし	
154	住居跡	71	鍛冶滓	22.7	19.6	12.3	5.34	2	錆化(△)	
154	住居跡	72	鍛冶滓				5.87	2	錆化(△)	破砕
154	住居跡	73	鍛冶滓	26.9	27.8	16.6	8.43	2	錆化(△)	
154	住居跡	73	椀形鍛冶滓	17.1	13.4	10.7	2.96	3	錆化(△)	
154	住居跡	74	鍛冶滓	23.7	22.1	17.8	8.18	3	錆化(△)	
154	住居跡	75	鍛冶滓	18.8	17.7	14.6	3.75	2	錆化(△)	
154	住居跡	76	鍛冶滓	38.6	18.9	13.3	5.41	2	錆化(△)	
154	住居跡	77	鍛冶滓				5.40	3	錆化(△)	粉砕
154	住居跡	78	鍛冶滓	27.6	17.8	17.8	4.69	2	錆化(△)	
154	住居跡	79	鍛冶滓	45.9	35.9	18.3	15.45	4	錆化(△)	
154	住居跡	80	鍛冶滓	24.0	15.8	13.7	6.34	3	錆化(△)	
154	住居跡	81	鍛冶滓	35.4	22.4	18.8	9.47	4	錆化(△)	
154	住居跡	82	椀形鍛冶滓	30.0	29.5	24.6	18.45	3	錆化(△)	
154	住居跡	83	鍛冶滓	29.7	18.0	12.0	3.96	2	錆化(△)	
154	住居跡	84	鍛冶滓	20.6	15.3	9.5	2.27	2	錆化(△)	
154	住居跡	85	炉壁溶解物	30.4	29.7	13.8	8.58	2	なし	
154	住居跡	85	含鉄鉄滓	28.7	15.8	13.8	6.32	1	△	
154	住居跡	86	鍛冶滓	15.2	14.4	11.3	3.66	3	錆化(△)	
154	住居跡	87	鍛冶滓	18.1	17.3	20.8	5.28	4	錆化(△)	
154	住居跡	88	鍛冶滓	22.8	16.0	11.5	4.46	4	錆化(△)	
154	住居跡	89	鍛冶滓	20.3	18.1	11.3	3.11	3	錆化(△)	
154	住居跡	90	炉壁溶解物				5.37	4	なし	破砕
154	住居跡	91	椀形鍛冶滓	57.6	49.4	31.7	118.72	4	錆化(△)	
154	住居跡	92	椀形鍛冶滓	36.1	30.4	30.2	39.18	5	錆化(△)	
154	住居跡	93	鍛冶滓	24.1	19.1	14.3	5.10	3	錆化(△)	
154	住居跡	94	鍛冶滓	62.1	45.1	33.4	72.89	6	錆化(△)	
154	住居跡	95	鍛冶滓	18.0	16.2	10.3	2.69	4	錆化(△)	
154	住居跡	96	鍛冶滓	32.0	30.1	22.3	14.15	2	錆化(△)	工具痕付き
154	住居跡	97	椀形鍛冶滓	44.0	32.2	22.2	42.59	3	錆化(△)	
154	住居跡	98	流動滓	25.0	17.6	16.3	7.15	1	なし	
154	住居跡	99	椀形鍛冶滓	36.5	33.5	23.1	35.01	4	錆化(△)	
154	住居跡	100	金床石？						なし	
154	住居跡	101	鍛冶滓	21.0	17.9	16.8	2.43	3	錆化(△)	
154	住居跡	102	椀形鍛冶滓	16.2	14.2	11.1	3.16	2	△	
154	住居跡	103	鍛冶滓	13.5	11.1	7.8	1.45	3	錆化(△)	
154	住居跡	104	鍛冶滓	13.3	10.8	8.7	1.03	3	錆化(△)	
154	住居跡	105	不明鉄製品	36.5	25.5	13.4	7.72			
154	住居跡	106	炉壁溶解物	17.8	12.8	11.5	2.42	2	なし	

表35-2　駒井野荒追遺跡　製鉄関連資料一覧表

遺構No.	遺構	遺物番号	遺物種類	長軸(㎜)	短軸(㎜)	厚み(㎜)	重量(g)	磁着度	メタル度	備考欄
154	住居跡	106	鍛冶滓	24.7	17.7	9.4	4.02	2	錆化(△)	
154	住居跡	107	含鉄鉄滓	20.4	18.5	11.5	7.15	1	△	
154	住居跡	108	鍛冶滓	10.2	7.9	6.4	4.10	3	△	
154	住居跡	109	鍛冶滓	20.9	17.7	13.2	2.40	4	錆化(△)	
154	住居跡	110	鍛冶滓	14.6	7.3	5.7	0.45	1	△	
154	住居跡	111	鍛冶滓				5.48	3	錆化(△)	破砕
154	住居跡	112	鍛冶滓	16.6	11.1	10.9	0.76	2	錆化(△)	
154	住居跡	113	炉壁溶解物	18.0	13.8	13.2	3.98	1	なし	
154	住居跡	114	鍛冶滓	43.5	28.8	23.5	13.51	4	錆化(△)	
154	住居跡	115	羽口溶解物	30.0	24.1	19.0	15.98	3	なし	
154	住居跡	116	羽口溶解物	15.7	12.7	8.2	1.08	1	なし	
154	住居跡	117	羽口溶解物	13.2	11.3	5.4	0.82	1	なし	
154	住居跡	117	鍛冶滓	19.7	16.8	11.9	2.51	2	錆化(△)	
154	住居跡	118	鍛冶滓	37.1	21.2	18.8	11.71	2	錆化(△)	
154	住居跡	119	椀形鍛冶滓	29.0	25.3	17.6	21.75	5	錆化(△)	
154	住居跡	120	鍛冶滓	22.5	18.6	14.6	3.65	4	錆化(△)	
154	住居跡	121	鍛冶滓	14.0	13.4	9.1	1.27	3	錆化(△)	
154	住居跡	122	鍛冶滓	34.2	17.5	20.8	9.52	5	錆化(△)	
154	住居跡	123	鍛冶滓	17.3	16.6	10.5	17.70	3	錆化(△)	
154	住居跡	124	鍛冶滓	22.1	17.9	14.5	2.76	3	錆化(△)	
154	住居跡	125	炭化物							
154	住居跡	126	再結合滓	20.9	16.0	6.1	1.43	1	△	
154	住居跡	127	鍛冶滓	14.2	1.22	8.8	1.56	2	錆化(△)	
154	住居跡	128	羽口溶解物	19.8	17.7	10.4	3.21	1	なし	
154	住居跡	128	鍛冶滓	13.2	10.8	10.3	1.44	3	錆化(△)	
154	住居跡	129	椀形鍛冶滓	50.8	30.0	31.9	55.82	4	△	
154	住居跡	130	鍛冶滓	34.1	22.9	19.7	10.48	3	錆化(△)	
154	住居跡	131	椀形鍛冶滓	35.7	3.00	21.1	18.95	2	錆化(△)	
154	住居跡	132	鍛冶滓	24.3	19.2	11.5	2.87	3	錆化(△)	
154	住居跡	133	鍛冶滓	24.2	22.2	17.1	5.70	3	錆化(△)	
154	住居跡	134	鍛冶滓	13.9	12.4	8.7	1.02	3	錆化(△)	
154	住居跡	135	鍛冶滓	19.0	13.8	15.5	3.79	2	錆化(△)	
154	住居跡	136	鍛冶滓	21.9	18.4	18.0	7.77	3	錆化(△)	
154	住居跡	137	鍛冶滓	21.7	19.6	12.1	3.16	2	錆化(△)	
154	住居跡	138	鍛冶滓	11.2	7.7	5.7	0.15	1	なし	
154	住居跡	139	鍛冶滓	26.1	15.1	12.8	5.07	3	錆化(△)	
154	住居跡	140	鍛冶滓	25.5	25.3	11.0	2.64	3	錆化(△)	
154	住居跡	141	鍛冶滓	36.1	26.2	19.1	7.13	3	錆化(△)	
154	住居跡	142	鍛冶滓	33.6	19.1	21.1	9.16	3	錆化(△)	
154	住居跡	143	含鉄鉄滓	45.8	35.1	21.0	18.68	3	錆化(△)	
154	住居跡	144	鍛冶滓	19.9	11.4	10.3	2.08	3	錆化(△)	
154	住居跡	145	炉壁溶解物	95.5	44.9	27.4	87.96	2	なし	
154	住居跡	146	鍛冶滓	32.4	22.4	18.9	6.50	4	錆化(△)	
154	住居跡	147	椀形鍛冶滓	52.5	39.4	28.7	49.51	3	錆化(△)	
154	住居跡	148	鍛冶滓	19.3	14.8	10.5	18.10	3	錆化(△)	
154	住居跡	149	炉壁溶解物	24.6	21.3	19.3	8.69	2	なし	
154	住居跡	150	含鉄鉄滓	35.5	30.7	28.3	11.35	3	△	
154	住居跡	151	炉壁溶解物	25.8	15.3	12.8	5.16	2	なし	
154	住居跡	152	鍛冶滓	21.8	21.3	11.1	5.00	3	錆化(△)	
154	住居跡	153	羽口片	26.1	24.9	18.3	6.43	1	なし	
154	住居跡	154	鍛冶滓	36.5	25.3	20.7	15.65	2	錆化(△)	
154	住居跡	154	鍛冶滓	24.6	18.1	11.8	3.06	4	錆化(△)	
154	住居跡	155	炉壁溶解物	16.7	15.3	12.1	2.58	2	なし	
154	住居跡	156	羽口溶解物	15.0	13.8	11.3	2.68	2	なし	
154	住居跡	157	鍛冶滓	60.8	31.3	29.7	41.03	4	錆化(△)	
154	住居跡	158	鍛冶滓	30.7	20.9	16.1	6.25	3	錆化(△)	
154	住居跡	159	鍛冶滓	32.9	22.3	17.0	5.52	4	錆化(△)	
154	住居跡	160	鍛冶滓				13.78	5	錆化(△)	粉砕
154	住居跡	161	含鉄鉄滓	35.6	27.2	24.6	10.16	5	錆化(△)	
154	住居跡	162	鍛冶滓	18.2	18.1	15.9	1.92	3	錆化(△)	
154	住居跡	163	鍛冶滓	44.7	25.6	13.3	10.68	2	錆化(△)	
154	住居跡	164	鍛冶滓	28.2	24.7	22.1	7.57	2	錆化(△)	
154	住居跡	165	椀形鍛冶滓	21.4	12.0	11.8	3.73	2	錆化(△)	
154	住居跡	166	鍛冶滓	11.8	9.0	6.6	0.58	1	錆化(△)	
154	住居跡	167	羽口溶解物	11.9	11.7	9.5	1.05	1	なし	
154	住居跡	168	羽口溶解物	14.3	9.9	11.0	1.03	1	なし	
154	住居跡	172	鍛冶滓	16.6	13.2	9.9	1.72	3	錆化(△)	
154	住居跡	173	鍛冶滓	14.3	12.1	7.6	0.86	1	錆化(△)	
154	住居跡	174	鍛冶滓	24.2	17.2	9.4	3.55	3	錆化(△)	
154	住居跡	175	炉壁溶解物	22.7	16.5	14.3	7.34	4	錆化(△)	
154	住居跡	176	鍛冶滓	12.6	12.6	7.9	0.87	2	錆化(△)	
154	住居跡	178	羽口溶解物	21.5	15.8	15.1	5.02	3	なし	
154	住居跡	179	鍛冶滓	28.3	16.6	14.2	4.59	4	錆化(△)	
154	住居跡	180	鍛冶滓	17.8	12.6	11.0	1.50	3	錆化(△)	
154	住居跡	181	炉壁溶解物	14.5	14.9	9.9	1.36	1	なし	
154	住居跡	182	椀形鍛冶滓	31.6	29.0	13.8	15.57	2	△	
154	住居跡	183	鍛冶滓	20.7	17.3	9.5	2.61	1	錆化(△)	
154	住居跡	184	鍛冶滓	7.8	7.2	5.0	0.32	2	△	
154	住居跡	185	鍛冶滓	20.7	14.8	8.5	2.30	2	錆化(△)	
154	住居跡	186	鍛冶滓				5.65	2	錆化(△)	破砕
154	住居跡	187	鍛冶滓	22.8	22.6	19.4	10.28	2	錆化(△)	
154	住居跡	189	鍛冶滓	23.7	16.8	15.7	4.43	2	錆化(△)	
154	住居跡	190	鍛冶滓	39.4	26.8	24.6	16.34	3	錆化(△)	
154	住居跡	191	鍛冶滓				11.00	3	錆化(△)	破砕
154	住居跡	192	含鉄鉄滓	29.9	28.0	25.9	18.45	3	錆化(△)	
154	住居跡	193	鍛冶滓	21.0	19.9	7.7	2.76	2	錆化(△)	
154	住居跡	194	鍛冶滓	40.5	23.5	25.4	23.89	3	錆化(△)	
154	住居跡	195	含鉄鉄滓	38.3	28.2	27.5	21.58	4	錆化(△)	
154	住居跡	196	鍛冶滓	24.6	14.7	7.2	1.24	2	錆化(△)	
154	住居跡	197	炉壁	19.1	15.1	19.4	4.28	2	なし	
154	住居跡	198	鍛冶滓	32.9	26.7	20.2	7.76	3	錆化(△)	
154	住居跡	205	羽口溶解物	11.9	10.2	7.2	0.79	1	なし	

表35-3　駒井野荒追遺跡　製鉄関連資料一覧表

遺構No.	遺構	遺物番号	遺物種類	長軸(㎜)	短軸(㎜)	厚み(㎜)	重量(g)	磁着度	メタル度	備考欄
154	住居跡	206	鍛冶滓	19.5	17.3	12.5	3.86	3	錆化(△)	
154	住居跡	207	鍛冶滓	23.4	13.3	14.0	3.49	3	錆化(△)	
154	住居跡	208	鍛冶滓	21.9	14.0	13.1	3.51	1	錆化(△)	工具痕付き
154	住居跡	209	鍛冶滓	33.4	30.8	21.0	20.61	3	錆化(△)	
154	住居跡	210	羽口片	12.6	8.4	9.9	0.73	1	なし	
154	住居跡	211	鍛冶滓	13.7	11.6	9.5	0.86	3	錆化(△)	
154	住居跡	212	鍛冶滓	28.2	21.6	12.8	7.46	2	錆化(△)	
154	住居跡	213	鍛冶滓	35.5	33.9	29.6	20.98	3	錆化(△)	
154	住居跡	214	椀形鍛冶滓	27.7	21.9	18.6	14.77	2	錆化(△)	
154	住居跡	215	椀形鍛冶滓	11.0	7.9	7.6	0.56	2	錆化(△)	
154	住居跡	216	鍛冶滓	22.6	15.3	13.8	4.41	2	錆化(△)	
154	住居跡	222	炉壁溶解物	29.6	16.5	11.5	12.20	3	なし	
154	住居跡	224	鍛冶滓	36.5	24.6	19.9	18.36	4	錆化(△)	
154	住居跡	225	鍛冶滓	42.6	31.9	18.3	30.16	5	△	
154	住居跡	226	鍛冶滓	19.5	14.7	12.0	17.40	2	△	
154	住居跡	227	鍛冶滓	20.8	14.4	14.4	3.42	3	△	
154	住居跡	228	羽口溶解物	14.4	12.4	12.0	2.23	1	なし	
154	住居跡	229	鍛冶滓	22.9	15.0	12.8	2.18	4	錆化(△)	
154	住居跡	230	鍛冶滓	25.8	21.4	14.8	6.45	2	△	
155	住居跡	24	鍛冶滓	37.9	29.0	17.2	11.88	4	錆化(△)	
155	住居跡	45	鍛冶滓	29.0	23.4	22.0	9.37	3	錆化(△)	
209	住居跡	1	含鉄鉄滓	30.5	20.1	18.1	15.28	2	△	
209	22－Q－44	1	鍛冶滓	28.9	20.1	23.5	11.88	2	錆化(△)	
209	22－R－33	1	含鉄鉄滓	44.2	40.5	27.6	52.12	4	△	

V 中・近世

1 概　要

本遺跡で中・近世の所産とした遺構は、火葬墓５基、土坑42基、地下式壙４基、掘立柱建物跡１棟、小竪穴５基、竪穴状遺構３棟、溝23条、柵列状遺構５条、道路状遺構１条等である。

2 遺構と遺物

（1）遺　構

001号火葬墓（第187図、図版49）

（遺構）調査区の西側、21－O－28区付近に位置する。平面形状はやや不整な長方形である。規模は長軸2.32m、短軸1.76m、深さ0.64mである。確認段階で直上より五輪塔の空輪、風輪部分の石が倒れたような状態で検出されている。また南東の本体部分の床直より茅状の炭化したものが検出されている。覆土は上層が腐植土混じりのローム粒が主体の褐色土で自然堆積である。下層がローム粒、ロームブロック混じりの褐色土で人為的な堆積である。火葬墓の上で五輪塔が検出された珍しい例と思われる。長軸方位はN－45°－Wである。

006号有天井土坑（第188図、図版49）

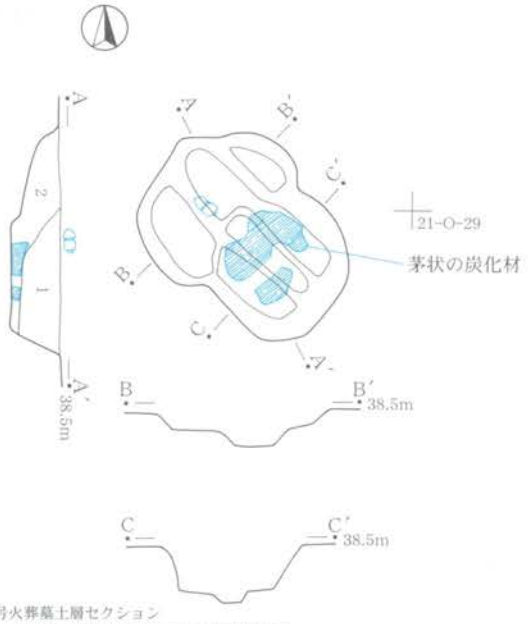
（遺構）調査区の西側、20－N－88区付近に位置する。平面形状はほぼ楕円形でやや西側に袋状にオーバーハングする。規模は長軸1.52m、短軸11.2m、深さ0.88mである。床部分はやや袋状で平坦ではない。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の黒色土、中層が腐植土混じりのローム粒主体の黄褐色土で自然堆積である。下層はロームブロックや腐植土ブロックを含む暗黄褐色土である。人為的な埋め戻しと考えられる。形態的には墓坑と思われるが確証はない。長軸方位はN－10°－Eである。

010号火葬墓（第189図、図版49）

（遺構）調査区の西側、20－N－29区付近に位置する。平面形状はやや丸みのある方形の本体部分と楕円形の燃焼部からなる。規模は本体部分が一辺0.9m程で深さ0.2m、燃焼部が長軸0.8m、短軸0.64mである。覆土は燃焼部の上層が焼土粒、炭化粒混じりの腐植土が主体の黒色土で骨片が若干混じる。下層も黒色土であるが堅くたたきしめられたような土である。本体部分の上層がローム混じりの腐植土が主体の褐色土である。下層が腐植土混じりのローム粒が主体の黄褐色土である。本体部分と燃焼部分の間に一部天井を残す。火葬墓と思われる。主軸方位はN－60°－Eである。

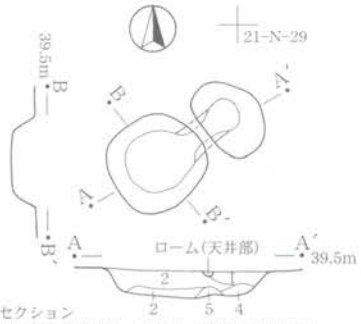
016号火葬墓（第190図、図版50）

（遺構）調査区の西側、20－N－68区付近に位置する。平面形状はほぼ円形に近い形態である。中程が溝状に落ち込む。規模は径0.88m、深さ1.5～0.4mで床面は中央部分が深く掘れ平坦ではない。覆土は上



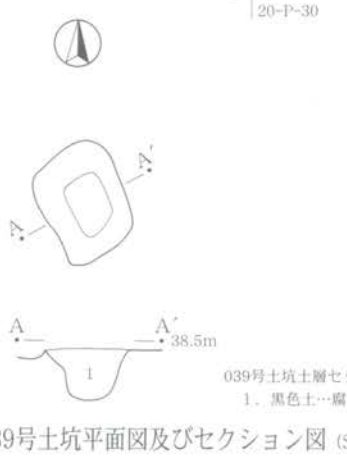
001号火葬墓土層セクション
1．褐色土…腐植土混りのローム粒自然堆積。
2．褐色土…ローム粒、ロームブロック混りの腐植土。人為的堆積。

第187図　001号火葬墓平面図(茅分布含む)、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



010号火葬墓土層セクション
1．黒 色 土…焼土粒、炭片混り、腐植土（骨片が若干混入）。
2．褐 色 土…ローム粒混り、腐植土（斑状）。
3．黄褐色土…腐植土混りローム粒。
4．黒 色 土…焼土粒混り腐植土（かたくたたきしめられたようである）。
5．黄褐色土…地山ソフトロームに被熱が及んだものか。若干の焼土粒混りのローム粒。

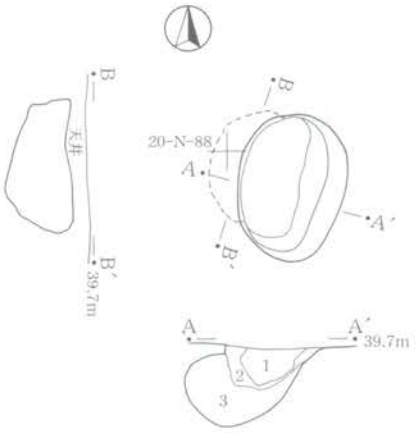
第189図　010号火葬墓平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



039号土坑土層セクション
1．黒色土…腐植土。

第191図　039号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

0　4m

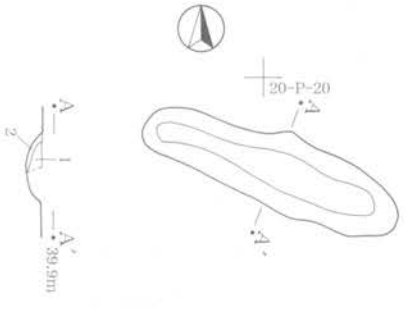


006号有天井土坑土層セクション
1．黒 褐 色 土…ローム粒混り腐植土。
2．黄 褐 色 土…腐植土混りのローム粒、不均質。
3．明黄褐色土…ロームブロック、部分的に腐植土ブロックを含む。

第188図　006号有天井土坑平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

016号火葬墓土層セクション
1．黒 色 土…若干のローム粒混り、腐植土。
2．黒褐色土…ローム粒、炭片混りの腐植土。

第190図　016号火葬墓平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



049号土坑土層セクション
1．黒色土…腐植土。
2．褐色土…腐植土混り、ローム粒。
} 自然堆積

20-P-30

第192図　049号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

層が若干のローム粒混じりの腐植土が主体の黒色土、下層がローム粒、炭化粒が混ざる腐植土が主体の黒褐色土である。火葬墓と思われる。

039号土坑（第191図、図版なし）

（遺構）調査区の中程、20－Ｐ－30区付近に位置する。平面形状はやや長方形に近い形態である。規模は長辺1.14m、短辺0.88m、深さは0.42mである。坑底はやや丸底気味である。覆土は腐植土が主体の黒色土で覆われている。形態等の特徴から中近世以降の墓坑である可能性もあるが、遺物の検出がないため定かではない。長軸方位はＮ－29°－Ｗである。

049号土坑（第192図、図版50）

（遺構）調査区の中程、20－Ｐ－20区付近に位置する。平面形状は細長い長楕円形に近い形状である。規模は長軸2.8m、短軸0.72mで深さは0.2mで、坑底は丸底気味である。覆土は上層が腐植土を主体とした黒色土、下層が腐植土とローム粒が混ざった褐色土である。いずれも自然堆積である。完成された遺構ではない可能性が高い。長軸方位はＮ－70°－Ｗである。

050号土坑（第193図、図版50）

（遺構）調査区の中程、20－Ｐ－40区付近に位置する。平面形状は長方形に近い形状である。規模は長辺1.68m、短辺0.96mで深さ0.1mである。坑底は平坦である。覆土はローム粒混じりの腐植土が主体の黒色土である。中近世以降の墓坑の可能性がある。長軸方位はＮ－80°－Ｅである。

062号土坑（第194図、図版50）

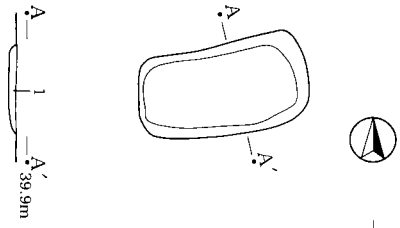
（遺構）調査区の北西側、20－Ｏ－34区付近に位置する。平面形状はやや楕円形に近い形状である。規模は長軸1.04m、短軸0.79mで深さ0.3mである。坑底はやや中程が逆三角に落ち込む。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の黒色土、下層が若干の腐植土とローム粒が不均質に混ざった暗黄褐色土である。覆土、規模等から柵列のピットの一部である可能性もあるが、近くには並ぶものがないため不明である。長軸方位はＮ－30°－Ｅである。

063号土坑（第195図、図版50）

（遺構）調査区の北西側 、20－Ｏ－34区付近に位置する。平面形状はほぼ長方形になる。規模は長辺1.52m、短辺1.04mで深さ0.48mである。坑底はほぼ平坦である。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、層が若干のローム粒、ブロック混じりの腐植土が主体の黒褐色土、下層が若干のローム粒混じりの腐植化が強い黒色土である。中近世以降の墓坑の可能性が高いが遺物等がないため詳細は不明である。長軸方位はＮ－70°－Ｅである。

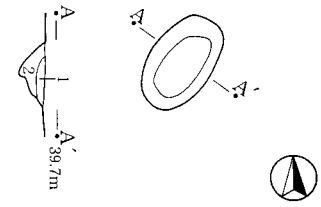
065号土壙墓（第196図、図版50）

（遺構）調査区の北西側、20－Ｏ－44区付近に位置する。平面形状は長方形が基本で短辺方向の壁に開口部がやや崩落して広がる。長辺2.32m、短辺0.82mで深さは0.64mである。坑底はほぼ平坦である。北



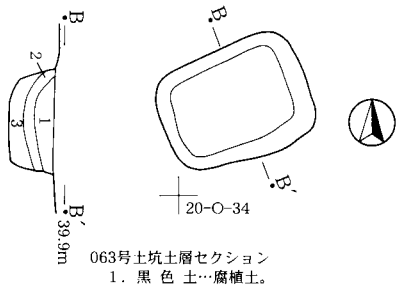
050号土坑土層セクション
1．黒色土…若干のローム粒混り、腐植土。

第193図　050号土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



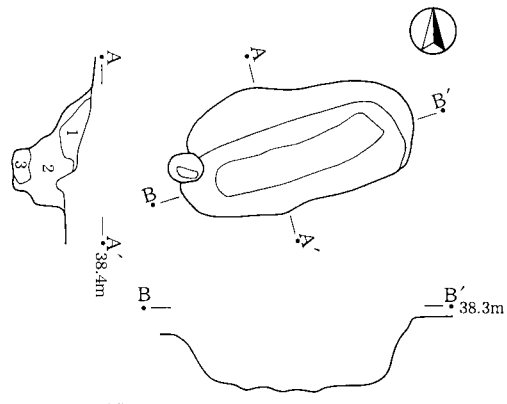
062号土坑土層セクション
1．黒　色　土…ローム粒混り、腐植土。
2．明黄褐色土…若干の腐植土混り、ローム粒、不均質。

第194図　062号土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



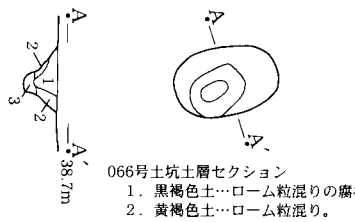
063号土坑土層セクション
1．黒　色　土…腐植土。
2．黒褐色土…若干のローム粒、小ブロック混り、腐植土。
3．黒　色　土…若干のローム粒、2層より腐植化強し。

第195図　063号土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



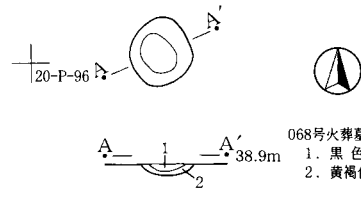
065号土壙墓土層セクション
1．黒　色　土…腐植土。
2．黒褐色土…ロームブロック混りの腐植土。
3．黒　色　土…若干のローム粒混り腐植土。
全て人為堆積。

第196図　065号土壙墓平面図、セクション図
及びエレベーション図(Scale1/80)



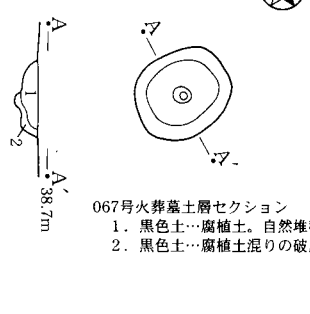
066号土坑土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒混りの腐植土。　自然堆積
2．黄褐色土…ローム粒混り。
3．褐　色　土…ローム粒、ロームブロック混りの腐植土。

第197図　066号土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



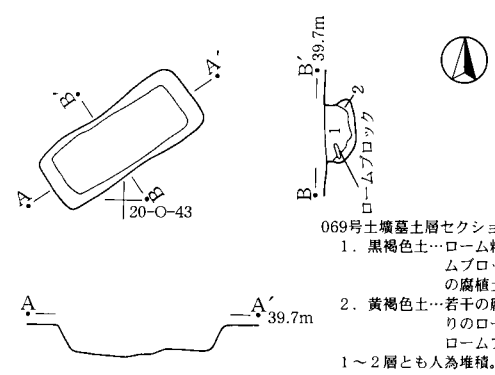
068号火葬墓土層セクション
1．黒　色　土…骨片、炭片混り腐植土。
2．黄褐色土…若干の腐植土混りローム粒。

第199図　068号火葬墓平面図及びセクション図(Scale1/80)



067号火葬墓土層セクション
1．黒色土…腐植土。自然堆積。
2．黒色土…腐植土混りの破片。

第198図　067号火葬墓平面図及びセクション図(Scale1/80)



069号土壙墓土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒、ロームブロック混りの腐植土。
2．黄褐色土…若干の腐植土混りのローム粒、ロームブロック。
1～2層とも人為堆積。

第200図　069号土壙墓平面図、セクション図
及びエレベーション図(Scale1/80)

0　4m

側の壁側はかなり崩落している。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、中層がロームブロック混じりの腐植土が主体の黒褐色土、下層が若干のローム粒が混じった腐植土が主体の黒色土である。形態等から中世末頃の土壙墓と考えられる。長軸方位はＮ－69°－Ｅである。

066号土坑（第197図、図版51）

（遺構）調査区の中央、20－Ｐ－90付近に位置する。平面形状はほぼ楕円形になる。長軸1.13m、短軸0.72mで深さ0.4mである。坑底は小さくピット状に縮まり、断面は逆台形を呈する。覆土は上層がローム粒混じりの黒褐色土、中層がローム粒混じりの黄褐色土である。これらは自然堆積である。下層はローム粒、ロームブロック混じりの腐植土主体の褐色土で人為堆積である。形態的には柱穴状のピットであるが近隣には関連の遺構はない。長軸方位はＮ－79°－Ｅである。

067号火葬墓（第198図、図版51）

（遺構）調査区の中央、20－Ｐ－80区付近に位置する。平面形状はやや楕円がかった円形に近い形である。長軸0.96m、短軸0.88mで深さ0.25mである。坑底はほぼ平坦で中程に小ピットを持つ。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、下層が腐植土混じりの炭化物が主体の黒色土である。中世末の火葬墓と考えられる。長軸方位はＮ－60°－Ｅである。

068号火葬墓（第199図、図版なし）

（遺構）調査区の中央、20－Ｐ－96区付近に位置する。平面形状はやや不整な円形に近い形である。径0.64mで深さ0.15mである。坑底はやや丸底気味である。覆土は上層が骨片、炭化物片混じりの黒色土、下層が若干の腐植土混じりのローム粒主体の黄褐色土である。中世末以降の火葬墓と考えられる。

069号土壙墓（第200図、図版51）

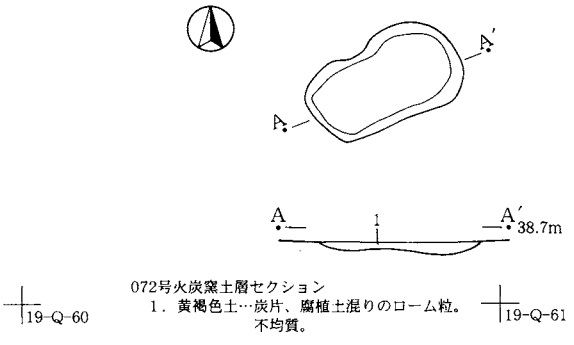
（遺構）調査区の西より中央、20－Ｏ－43区付近に位置する。平面形状はほぼ長方形である。長辺1.76m、短辺0.68mで深さ0.28mである。坑底はやや丸底気味で南西部分が北東部分より幾分深くなる傾向が見られる。覆土は上層がローム粒、ロームブロック混じりの腐植土主体の黒褐色土、下層が若干の腐植土混じりのローム粒、ロームブロック主体の黄褐色土でいずれも人為堆積である。土壙墓ではあるが中世まで遡るかどうかは不明である。長軸方位はＮ－55°－Ｅである。

072号炭窯（第201図、図版なし）

（遺構）調査区の北側、19－Ｑ－50区付近に位置する。平面形状はやや不整な丸みのある長方形に近い形である。床面はやや丸底気味で壁はやや斜めに立ち上がる。長辺1.6m、短辺0.96mで深さは床面中央部分で0.2m程度である。覆土は炭片、腐植土混じりのローム粒主体で不均質な黄褐色土である。中近世以降の炭窯である。長軸方位はＮ－65°－Ｅである。

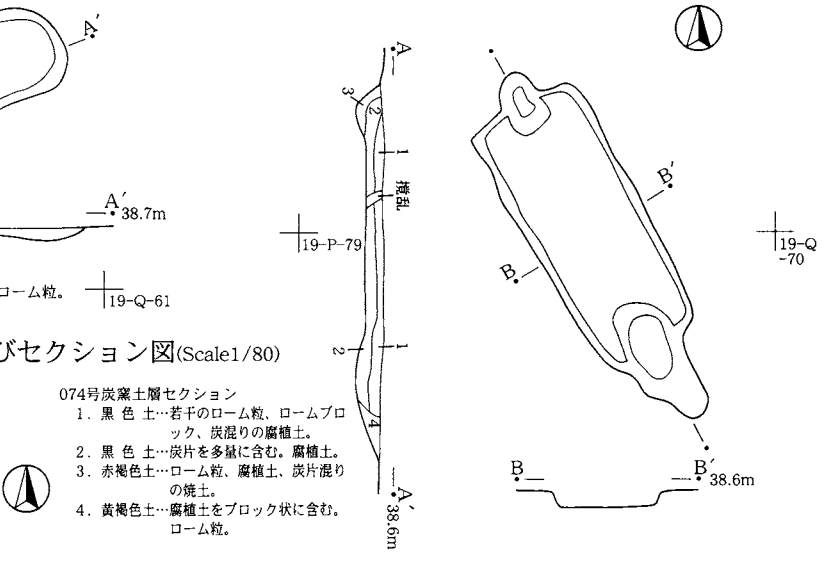
074号炭窯（第202図、図版51）

（遺構）調査区の北側中央、19－Ｐ－79区付近に位置する。平面形状は長方形を基本に燃焼部と煙突部



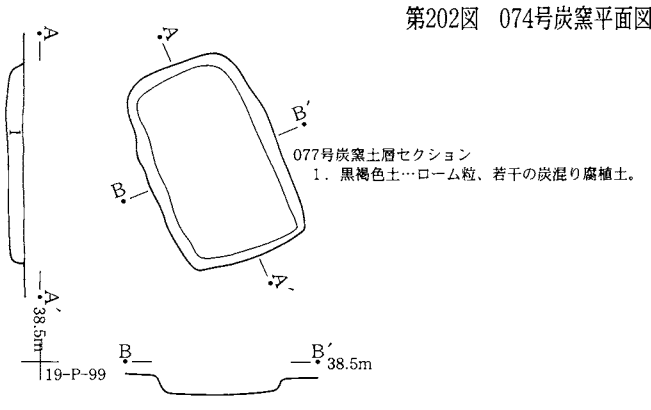
072号火炭窯土層セクション
1．黄褐色土…炭片、腐植土混りのローム粒。不均質。

第201図　072号炭窯平面図及びセクション図(Scale1/80)



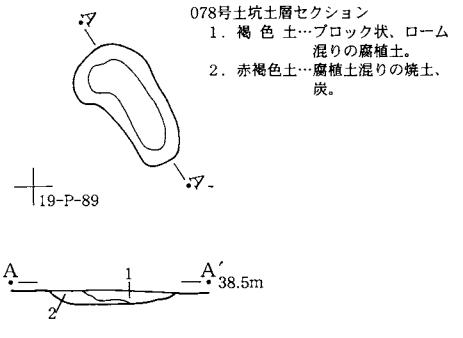
074号炭窯土層セクション
1．黒 色 土…若干のローム粒、ロームブロック、炭混りの腐植土。
2．黒 色 土…炭片を多量に含む。腐植土。
3．赤褐色土…ローム粒、腐植土、炭片混りの焼土。
4．黄褐色土…腐植土をブロック状に含む。ローム粒。

第202図　074号炭窯平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale1/80)



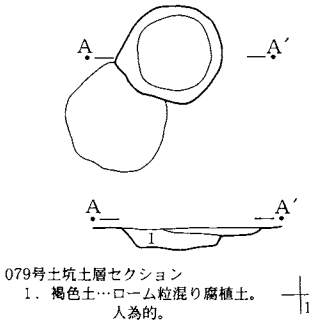
077号炭窯土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒、若干の炭混り腐植土。

第203図　077号炭窯平面図、セクション図及びエレベーション図(Scale1/80)



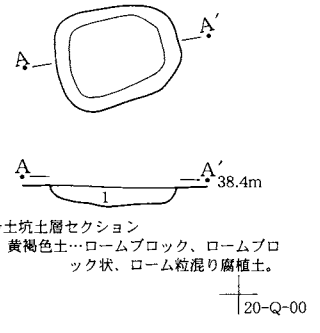
078号土坑土層セクション
1．褐 色 土…ブロック状、ローム混りの腐植土。
2．赤褐色土…腐植土混りの焼土、炭。

第204図　078号土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



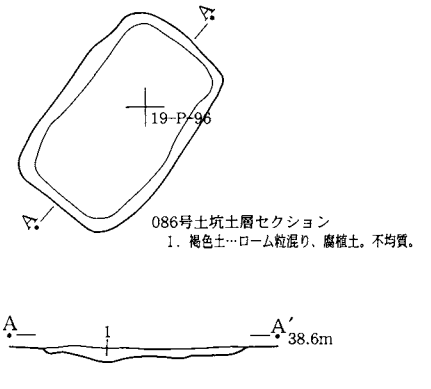
079号土坑土層セクション
1．褐色土…ローム粒混り腐植土。人為的。

第205図　079号土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



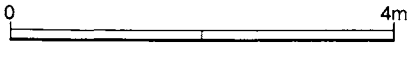
082号土坑土層セクション
1．黄褐色土…ロームブロック、ロームブロック状、ローム粒混り腐植土。

第206図　082土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



086号土坑土層セクション
1．褐色土…ローム粒混り、腐植土。不均質。

第207図　086土坑平面図及びセクション図(Scale1/80)



分を持つ。床面はほぼ平坦で燃焼部と煙道部分がやや深くなる。全長4.08m、幅1.28mで深さ0.25mである。覆土は上層がローム粒、ロームブロック混じりの腐植土主体の黒色土、下層が炭化材を多量に含む黒色土である。中近世以降の炭窯である。長軸方位はN－30°－Wである。

077号炭窯（第203図、図版51）

（遺構）調査区の北側中央、19－P－99区付近に位置する。平面形状はほぼ長方形である。床面はほぼ平坦である。長辺2.16m、短辺1.44mで深さ0.2mである。覆土はローム粒、若干の炭混じりの腐植土主体の黒褐色土である。中近世以降の炭窯である。長軸方位はN－22°－Wである。

078号土坑（第204図、図版52）

（遺構）調査区の北側中央、19－P－89区付近に位置する。平面形状は不整形な楕円形に近い形である。坑底はやや丸底気味で壁際は緩やかに立ち上がる。長軸1.44m、短軸0.64mで深さ0.2mである。覆土は上層がブロック状ローム混じりの腐植土が主体の褐色土、下層が腐植土混じりの焼土、炭が主体の赤褐色土である。やや形は変則的ではあるが、炭窯か火葬墓の可能性がある。長軸方位なN－30°－Wである。

079号土坑（第205図、図版52）

（遺構）調査区の北側中央、19－P－89区付近に位置する。平面形状は円形に近い形である。坑底はほぼ平坦で壁はやや斜めに立ち上がる。径1.04mで深さ0.3mである。覆土はローム粒混じりの腐植土が主体の褐色土である。やや人為的な堆積である。覆土から判断すると火葬墓ではない。

082号土坑（第206図、図版51）

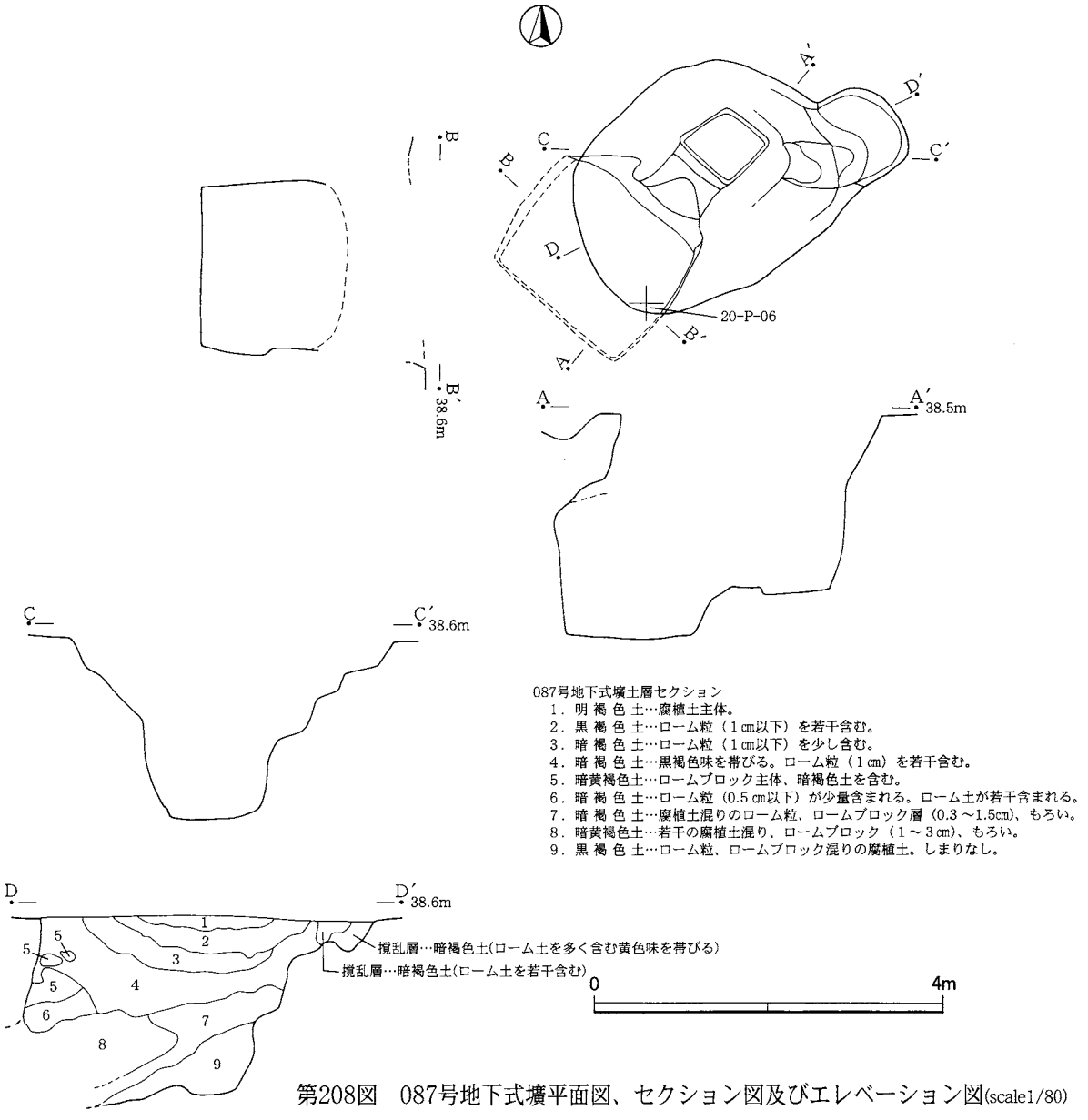
（遺構）調査区の中央、20－Q－00区付近に位置する。平面形状は長方形に近いやや不整形である。坑底はほぼ平坦で壁はやや緩やかに立ち上がる。長辺1.28m、短辺0.96mで深さ0.3mである。覆土はロームブロック、ローム粒混じりの腐植土が主体の黄褐色土である。土壙墓である可能性がある。長軸方位はN－79°－Eである。

086号土坑（第207図、図版52）

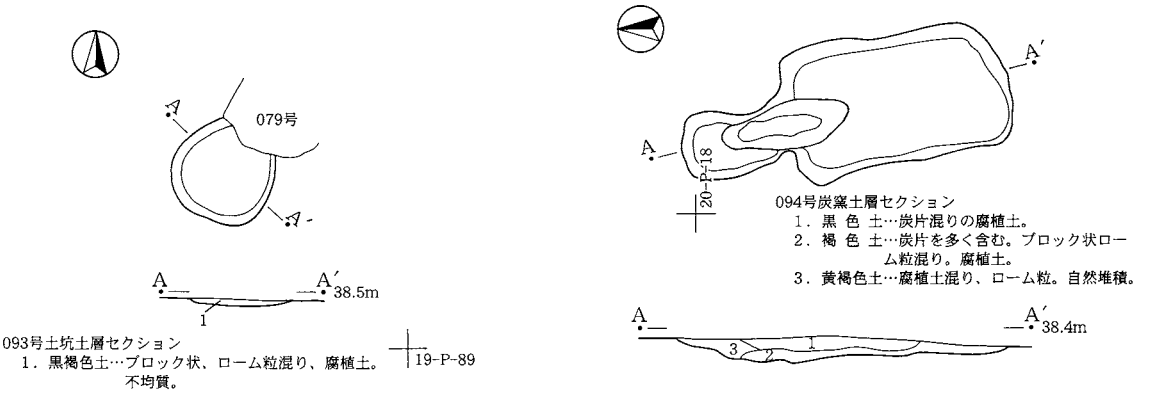
（遺構）調査区のやや北側中央、19－P－96区付近に位置する。平面形状はほぼ長方形である。坑底はやや凹凸気味で確認面からの深さもないので壁の立ち上がりもあまり急ではない。長辺2.24m、短辺1.44mで深さ0.15mである。覆土はローム粒混じりの腐植土が主体である褐色土である。全体に不均質で人為的な堆積と思われる。形態的には077号炭窯と似たような平面形であるが、覆土がやや異なるため炭窯とするには確証がない。長軸方位はN－40°－Eである。

087号地下式壙（第208図、図版52）

（遺構）調査区やや北側中央、20－P－06区付近に位置する。北東隅に階段状の施設、中央部に前室があり、南西隅に後室がある。前室部分は深さ最大2.08mあり、後室は最大2.64mで高低差0.5m程ある。後室部分は天井までの高さが1.6m、幅1.84m、長さ1.6mの直方体状で残りは非常に良好であった。



第208図　087号地下式壙平面図、セクション図及びエレベーション図(scale1/80)



第209図　093号土坑平面図及びセクション図(scale1/80)　第210図　094号炭窯平面図及びセクション図(scale1/80)

覆土は下層部分が天井の崩落でいっきに埋もれた後に上層の腐植土を主体とした暗褐色土と黒褐色土が交互に自然堆積した様子が窺われる。中世末頃の地下式壙である。主軸方位はN－44°－Eである。

093号土坑（第209図、図版52）

（遺構）調査区やや北側中央、19－P－89区付近に位置する。079号土坑の南西にあり、一部壊されている。径1.1m程の円形で深さ0.1mで床面はほぼ平坦で壁の立ち上がりは緩やかである。覆土は全体にブロック状でローム粒が混ざり腐植土が主体の黒褐色土である。中近世の土壙墓の可能性もあるが覆土の残りが悪いため不明である。

094号炭窯（第210図、図版なし）

（遺構）調査区のやや北側中央、20－P－18区付近に位置する。焚き口が北西方向にあり、本体部分が南東方向を向く。本体部分は長辺2.32m、短辺1.36mのやや不整な長方形である。床面は焚き口部分がやや深く、本体部分が0.2mほどでほぼ平坦で南東壁に向かって緩やかに立ち上がる。覆土は上層が炭混じりの腐植土主体の黒色土、下層が炭を多く含み、ブロック状のローム粒が混ざった腐植土主体の褐色土である。いずれも自然堆積である。中近世以降の炭窯と思われる。長軸方位はN－15°－Wである。

095号土坑（第211図、図版なし）

（遺構）調査区の北側中央、19－Q－80区付近に位置する。A、Bと新旧部分もしくは付属施設かとも思われるがいずれにせよそれほど時間差のあるようには思えない。Aの部分はやや不整な楕円形に近い形である。長軸1.2m、短軸1.0mで深さ0.2m程度である。覆土はローム粒混じりの腐植土が主体でソフトローム粒を含む褐色土である。土壙墓である可能性は高い。長軸方位はN－70°－Wである。

096号土壙墓（第212図、図版52）

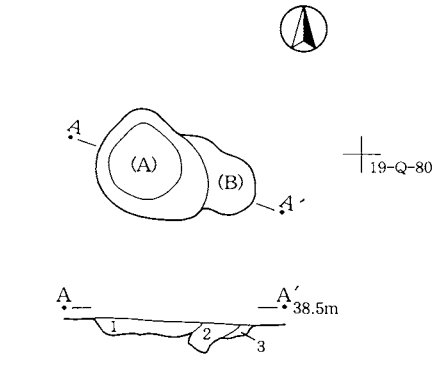
（遺構）調査区の北側中央、20－Q－00区付近に位置する。平面形状はほぼ長方形である。長辺2.32m、短辺0.8mで深さ0.2mである。坑底はほぼ平坦で壁際は比較的急に立ち上がる。覆土はローム粒、炭片が混ざる暗褐色土である。人為堆積である。中世末から近世初頭と思われる土壙墓である。長軸方位はN－72°－Eである。

098号土坑（第213図、図版52）

（遺構）調査区の北側中央、19－Q－43区付近に位置する。平面形状はやや方形に近い楕円形である。長軸1.76m、短軸0.8mで深さ0.48mである。坑底はほぼ平坦で壁はやや斜めに急激に立ち上がる。覆土は上層がローム粒混じりの腐植土主体の黒褐色土、下層が若干の腐植土が混ざったローム粒主体の明黄褐色土である。いずれも自然堆積と思われる。形態等から土壙墓と思われるが確証はない。長軸方位はN－36°－Eである。

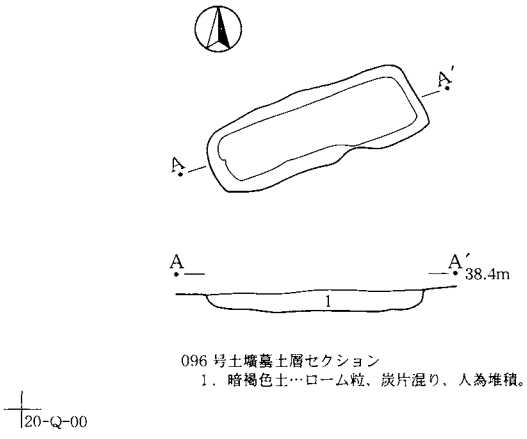
099号（A）炭窯（第214図、図版53）

（遺構）調査区の北側、19－P－67区付近に位置する。平面形状は焚き口部分がやや北西側で張り出し、



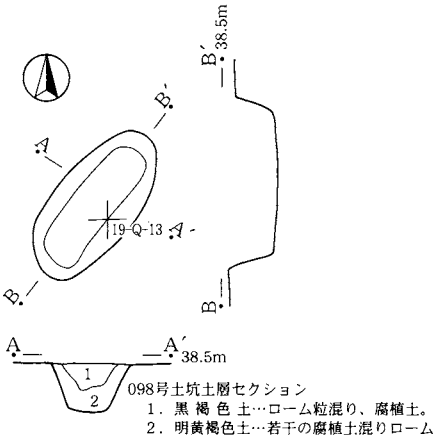
095号土坑土層セクション
1．褐 色 土…ローム粒混りの腐植土。ソフトローム含む。
2．黒 色 土…ブロック状ローム粒混り、腐植土主体。
3．黄褐色土…ブロック状腐植土混り、ローム粒主体。

第211図　095号土坑平面図及びセクション図(scale1/80)



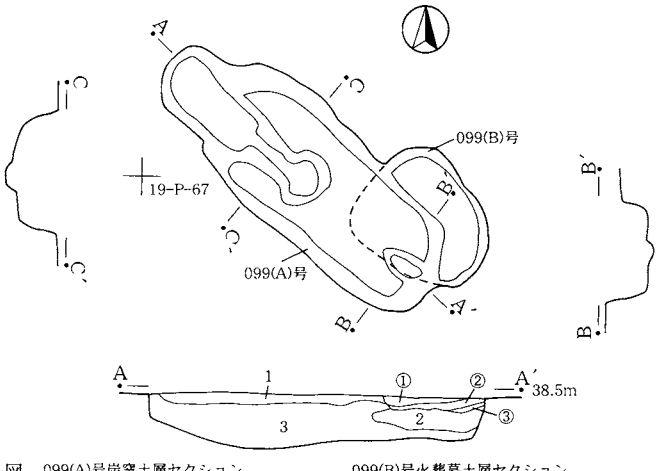
096 号土壙墓土層セクション
1．暗褐色土…ローム粒、炭片混り、人為堆積。

第212図　096号土壙墓平面図及びセクション図(scale1/80)



098号土坑土層セクション
1．黒 褐 色 土…ローム粒混り、腐植土。
2．明黄褐色土…若干の腐植土混りローム粒。
いずれも自然堆積。

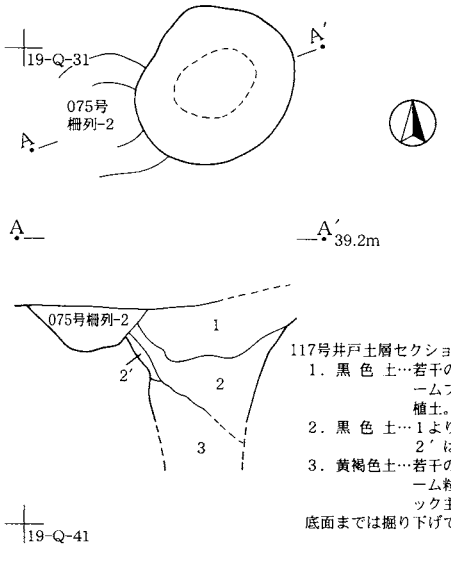
第213図　098号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図(scale1/80)



099(A)号炭窯土層セクション
1．黒 色 土…腐植土。
2．黒 色 土…1より腐植強し。
3．黒褐色土…ロームブロック、炭、焼土混り腐植土。

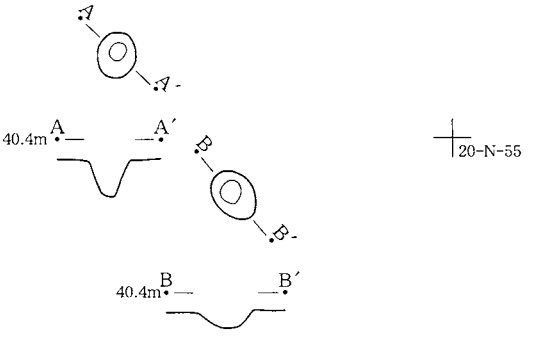
099(B)号火葬墓土層セクション
①．黒色土…腐植土。
②．黒褐色土…炭、ローム粒混りの腐植土。
③．黒色土…炭、焼土。

第214図　099(A)、(B)号炭窯、火葬墓平面図、セクション図及びエレベーション図(scale1/80)



117号井戸土層セクション
1．黒 色 土…若干のローム粒、ロームブロック混り腐植土。
2．黒 色 土…1よりも腐植強し。2′は1に近い。
3．黄褐色土…若干の腐植土混りローム粒、ロームブロック主体。
底面までは掘り下げていない。

第215図　117号井戸平面図及びセクション図(scale1/80)



第216図　129号柱列平面図及びエレベーション図(scale1/80)

やや不整な長方形になる。長辺3.60m、短辺1.38mで深さが最大で0.56mで床面はやや壁際に向かって緩やかに立ち上がり壁はほぼ直立する。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、下層がロームブロック、炭、焼土混じりの腐植土主体の黒褐色土である。中・近世以降の炭窯である。長軸方位はN－48°－Wである。

099号(B)土坑（第214図、図版53）

（遺構）調査区の北側、19－P－67区付近に位置する。(A)の南東隅の煙道部にかかる部分の上側に掘り込まれており、(A)よりは新しい時期に作られたものと思われる。平面形状はやや不整な円形に近い。規模は最大幅1.36m、深さは0.15mである。覆土は上層が腐植土主体の黒色土、下層が炭、ローム粒混じりの腐植土が主体の黒褐色土である。火葬墓と思われるが上部構造が危ういため詳細は不明である。

117号井戸（第215図、図版なし）

（遺構）調査区の北側、19－Q－31区付近に位置する。切り合い関係により075号柵列状遺構より古い時期の井戸と思われる。やや楕円形に近い不整形である。最大径1.76m、深さは確認面から2m以上である。崩落の危険性があるためそれ以下については掘り下げなかった。覆土は上層が若干のローム粒、ロームブロック混じりの腐植土主体の黒色土である。中層が上層より腐植化の強い黒色土、下層が若干の腐植土混じりのローム粒、ロームブロック主体の黄褐色土である。中近世の井戸と思われる遺構である。

129号柱列（第216図、図版53）

（遺構）調査区の北西側、20－N－55区付近に位置する。径0.5m、深さ0.25～0.4mの規模で北西から南東方向にかけて２個配置される。対応するピットも見られないため建物等かどうかは不明である。

152号土坑（第217図、図版53、54）

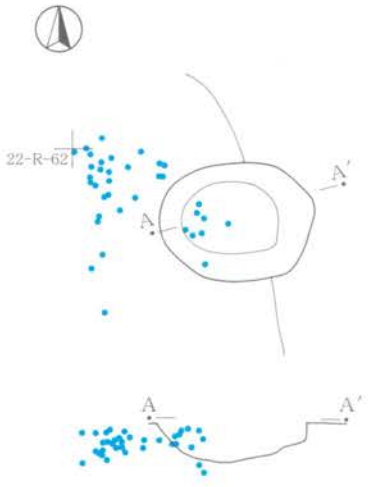
（遺構）調査区の最南端、22－R－62区付近に位置する。円形のプランの土坑と考えられるが、151号住居跡の覆土上層に鉄滓が混ざりこんでいる状況がうかがわれることから、西側に土坑が広がっていた可能性が考えられる。推定の最大径1.6m、深さ0.2m前後と思われる。古墳時代後期の小鍛冶に関連した施設の可能性も考えられるが中世以降のものである可能性も捨てきれない。遺構の性格としては鉄滓の捨て場である可能性が高い。

153号炭窯（第218図、図版54）

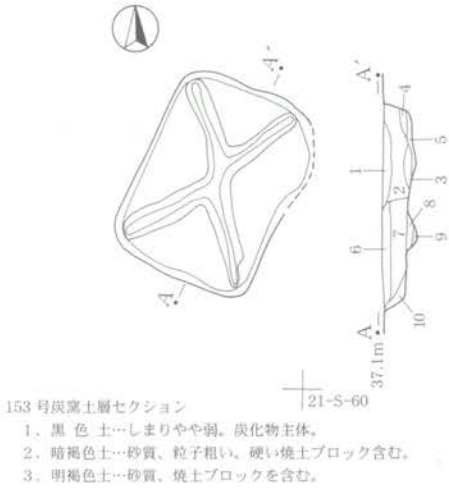
（遺構）調査区の東南部分、21－S－60区付近に位置する。方形のプランで床面の中程に×字状の溝状の落ち込みがある。長辺は2.16m、短辺1.60mで深さは0.25m前後である。覆土は上層が締まりがややあり、炭化物、灰が主体の黒色土、中層が砂質で粒子が細かく硬い焼土ブロックを多く含む暗褐色土である。下層は砂質で焼土ブロックを含む暗褐色土である。特異な形の炭窯ではあるが上部構造は不明である。長軸方位はN－29°－Eである。

155号炭窯（第219図、図版なし）

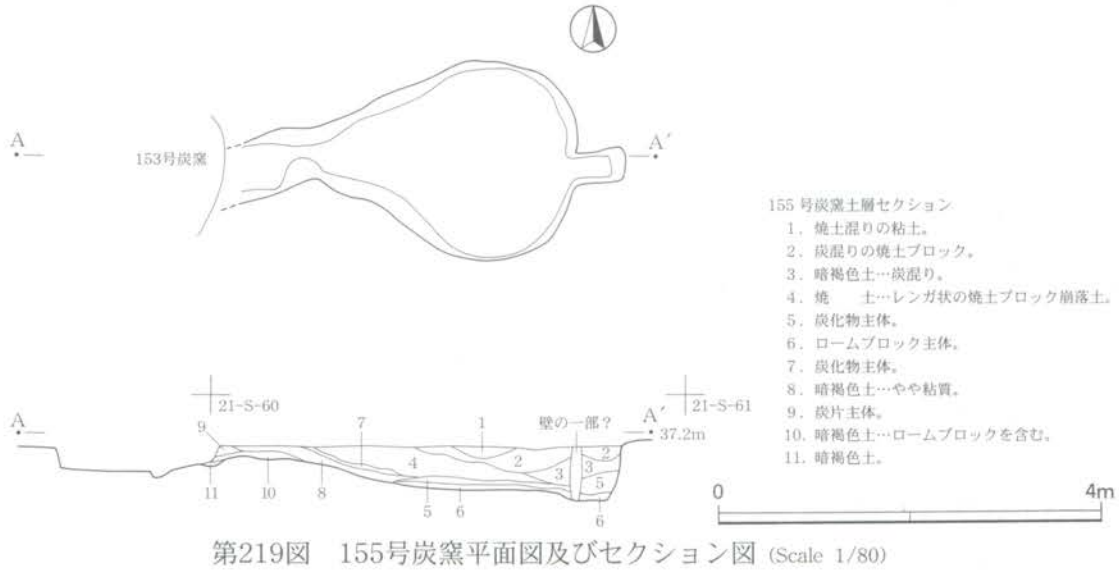
（遺構）調査区の東南部分、21－S－60区付近に位置する。平面形状は東側に煙道部があり本体はやや



第217図　152号土坑平面図（スラグ分布含む）及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第218図　153号炭窯平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



第219図　155号炭窯平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

イチジク状になり焚き口側が溝状に開口する形である。西側は一部153号炭窯と接する。全長４ｍあまり、最大幅2.08ｍで最大の深さ0.5ｍ程である。中近世以降の炭窯である。

158号土坑（第220図、図版55）

（遺構）調査区の東南部分、21－Ｒ－29区付近に位置する。157号溝により北側を壊されている。元々楕円形のプランと思われる。坑底はほぼ平坦で壁は比較的緩やかに立ち上がるようである。残長軸1.76ｍ、短軸1.72ｍで深さ0.2ｍ前後である。覆土は締まりがやや弱い暗褐色土である。土壙墓の可能性がある土坑である。長軸方位はＮ－35°－Ｅである。

159号土坑（第220図、図版55）

（遺構）調査区の東南部分、21－R－29区付近に位置する。158号土坑の北西側に位置し、同様に157号溝に壊されている。元々長方形のプランと思われる。坑底はほぼ平坦で中程にピット状の落ち込みが見られる。残長辺2.4m、短辺1.44mで深さは平均で0.2m、ピット部分で0.4m程である。覆土は締まりがやや弱い暗褐色土である。158号土坑と同様に土壙墓である可能性もある。長軸方位N－8°－Eである。

160号土坑（第221図、図版なし）

（遺構）調査区の東南部分、21－R－28区付近に位置する。平面形状はやや不整な楕円形である。坑底はほぼ平坦で壁はやや斜めに立ち上がる。長軸1.84m、短軸1.52mで深さ0.28m前後である。覆土は上層が締まりよく、炭化粒とローム粒を多く含む黒色土である。下層がローム粒を多く含む明褐色土である。土壙墓である可能性がある。長軸方位はN－90°－Wである。

161号土坑（第222図、図版なし）

（遺構）調査区の東南部分、21－R－36区付近に位置する。平面形状は丸みのある方形である。坑底はほぼ平坦で壁はやや斜めに立ち上がる。一辺2.26m前後で深さ0.2mである。覆土は上層が炭化粒、ローム粒が多く含まれる黒色土である。下層がローム粒が多く含まれる黄褐色土と暗褐色土である。いずれも自然堆積である。土壙墓である可能性が高い。

162号土坑（第223図、図版55）

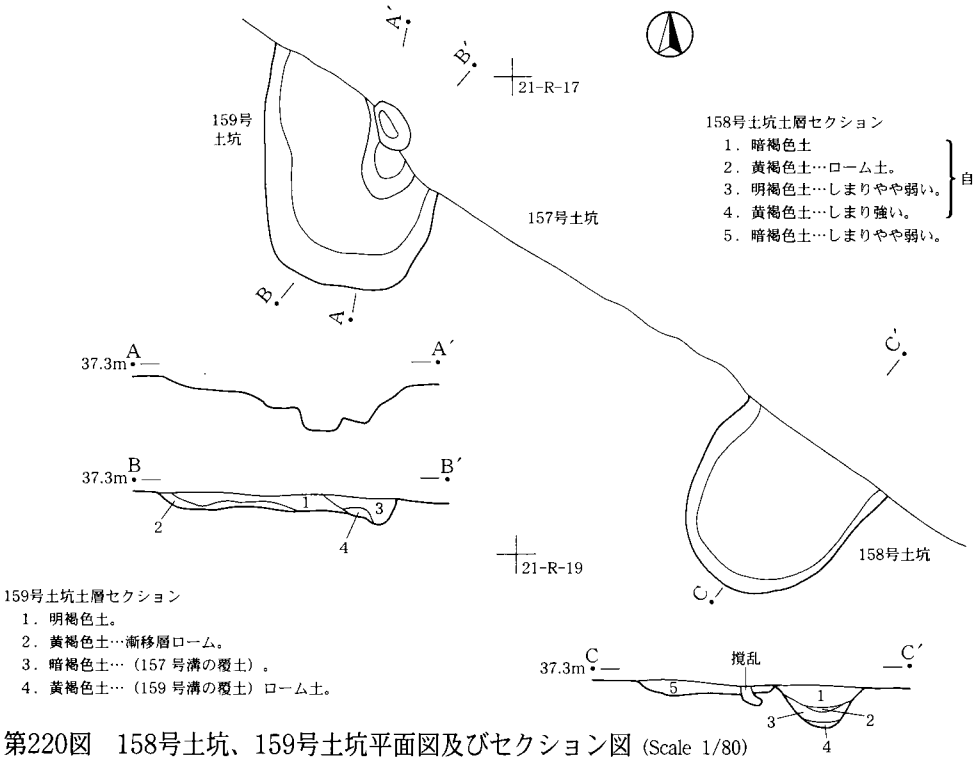
（遺構）調査区の東南部分、21－R－36区付近に位置する。平面形状は中程にピットがあるやや長方形に近い形である。坑底は南側がやや深く北側はやや浅くなる。最大長2.0m、最大幅1.44mで深さ0.25m、ピットの深さ0.65m程である。覆土はローム粒が含まれる暗褐色土が主体である。ピットの用途が不明であるため土壙墓である可能性は低い。長軸方位はN－15°－Eである。

163号土坑（第224図、図版54）

（遺構）調査区の東南部分、21－R－16区付近に位置する。平面形状は開口部が北西部分に張り出し部分のある楕円形、底面近くは方形のピット状になる。坑底はほぼ平坦で壁は急激に立ち上がる。方形のピット部分は長辺0.96m、短辺0.72mで深さ0.8mである。開口部は最大長2.08m、幅1.52mである。覆土は上層がローム粒を少し含む黒褐色土、中層が締まりがよくローム粒、ロームブロックを少し含む黒褐色土、下層が粒が細かく締まりがよくハードロームブロックが混ざる暗褐色土である。周辺部分が壁の崩落部分と考えると縦坑で規模が小さい土壙墓とも考えられる。

164号土坑（第225図、図版54）

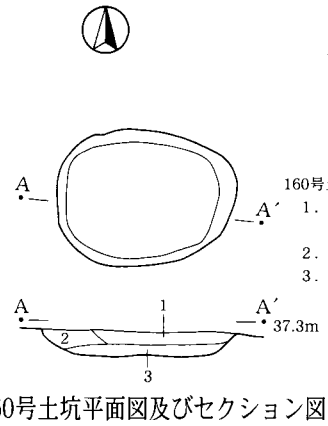
（遺構）調査区の東南部分、21－R－76区付近に位置する。平面形状は楕円形に近い方形である。長辺1.76m、短辺0.96mで深さ0.60mである。坑底はやや西側が低くなるもののほぼ平坦で壁は急激に立ち上がる。覆土は上層がローム粒を含む黒褐色土、中層がローム粒、ロームブロックを少量含む暗褐色土、下層が締まりが強くロームブロックを少量含む黒褐色土である。いずれも自然堆積であるため土壙墓とは考



158号土坑土層セクション
1．暗褐色土
2．黄褐色土…ローム土。
3．明褐色土…しまりやや弱い。
4．黄褐色土…しまり強い。
5．暗褐色土…しまりやや弱い。
} 自然堆積

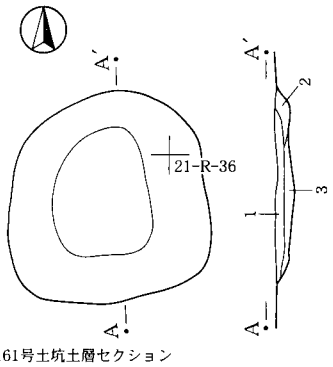
159号土坑土層セクション
1．明褐色土。
2．黄褐色土…漸移層ローム。
3．暗褐色土…（157号溝の覆土）。
4．黄褐色土…（159号溝の覆土）ローム土。

第220図　158号土坑、159号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



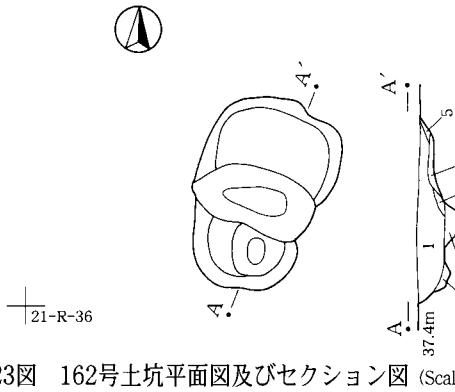
160号土坑土層セクション
1．黒褐色土…しまり良。炭化粒、ローム粒多。
2．暗褐色土…ローム粒多く含む。
3．明褐色土…ローム粒含む。

第221図　160号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



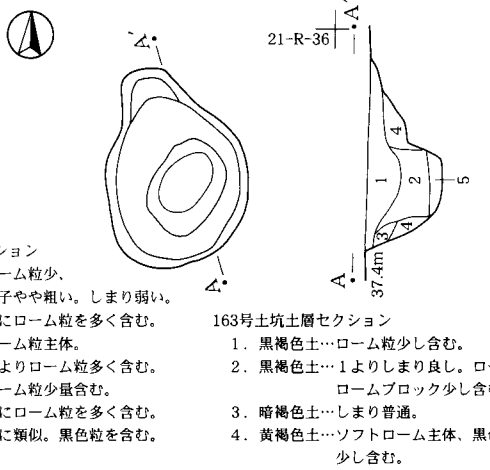
161号土坑土層セクション
1．黒 色 土…しまり良。炭化粒、ローム粒多く含む。
2．黄褐色土…ローム漸移層。黒色土粒含む。
3．暗褐色土…ローム粒多く含む。
} 自然堆積

第222図　161号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



162号土坑土層セクション
1．暗褐色土…ローム粒少、粒子やや粗い。しまり弱い。
2．褐 色 土…1にローム粒を多く含む。
3．黄褐色土…ローム粒主体。
4．黄褐色土…3よりローム粒多く含む。
5．黒褐色土…ローム粒少量含む。
6．明褐色土…1にローム粒を多く含む。
7．明褐色土…6に類似。黒色粒を含む。

第223図　162号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



163号土坑土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒少し含む。
2．黒褐色土…1よりしまり良し。ローム粒、ロームブロック少し含む。
3．暗褐色土…しまり普通。
4．黄褐色土…ソフトローム主体、黒色土粒少し含む。
5．明褐色土…粒子細かくしまり良し。下部にハードロームブロック混入。

第224図　163号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

0　4m

えられない。貯蔵穴のような用途であるかもしれない。長軸方位はN－88°－Wである。

165号土坑（第226図、図版54）

（遺構）調査区の東南部分、21－R－75区付近に位置する。開口部は崩落のためやや不整形であるが、坑底では方形である。長辺1.44m、短辺0.64mで北側壁がやや膨らむ。深さは0.72mである。坑底はほぼ平坦で壁は急激に立ち上がる。覆土は不明である。164号土坑のように貯蔵穴の可能性も考えられる。長軸方位はN－68°－Wである。

166号土坑（第227図、図版54）

（遺構）調査区の東南部分、21－R－77区付近に位置する。167号土坑より前に構築されている。開口部は楕円形で長軸1.92m、短軸1.52mで深さは0.96mである。坑底部分はほぼ長方形で長辺0.96m、短辺0.64mで平坦である。堆積状況は自然堆積で陥穴的機能を持たした土坑の可能性が高い。長軸方位はN－40°－Wである。

167号土坑（第227図、図版なし）

（遺構）調査区の東南部分、21－R－76区付近に位置する。平面形状はやや不整な楕円形である。長軸1.04m、短軸0.75mで深さ0.2mである。セクション図から推測すると土坑の東側に炭化物堆積層があることがわかる。このことからこの土坑は中世末頃の火葬墓の施設の一部である可能性が高い。覆土の上層から人骨混じりの炭化物が検出されている。長軸方位はN－80°－Eである。

174号炭窯（第228図、図版なし）

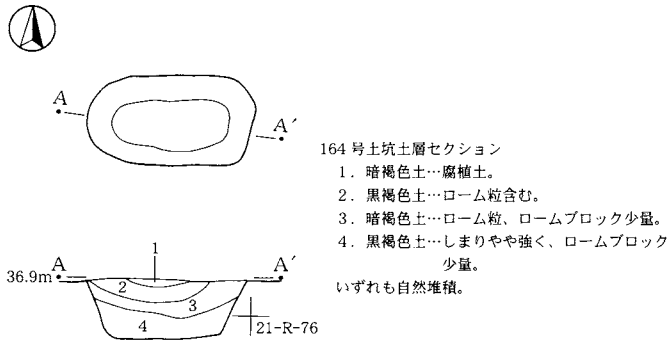
（遺構）調査区のやや中央よりの南の部分、21－Q－59区付近に位置する。平面形状は南東側の焚き口部分と思われる楕円形のピット、北西側に煙道部と思われるピットを持つ本体部分に分かれる。全長は2.88m、最大幅1.4mで深さは煙道部のもっとも深いところで0.32mである。セクション図がないため覆土の状況は不明である。長軸方位はN－55°－Wである。

175号炭窯（第229図、図版なし）

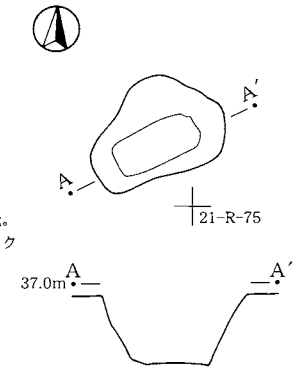
（遺構）調査区のやや中央よりの南の部分、21－Q－49区付近に位置する。平面形状は北西側に煙道部を持つ本体部のみでやや楕円形に近い形である。全長1.92m、幅1.6mで深さは0.1mである。確認面から非常に浅く覆土の状況は不明である。長軸方位はN－69°－Wである。

176号炭窯（第230図、図版なし）

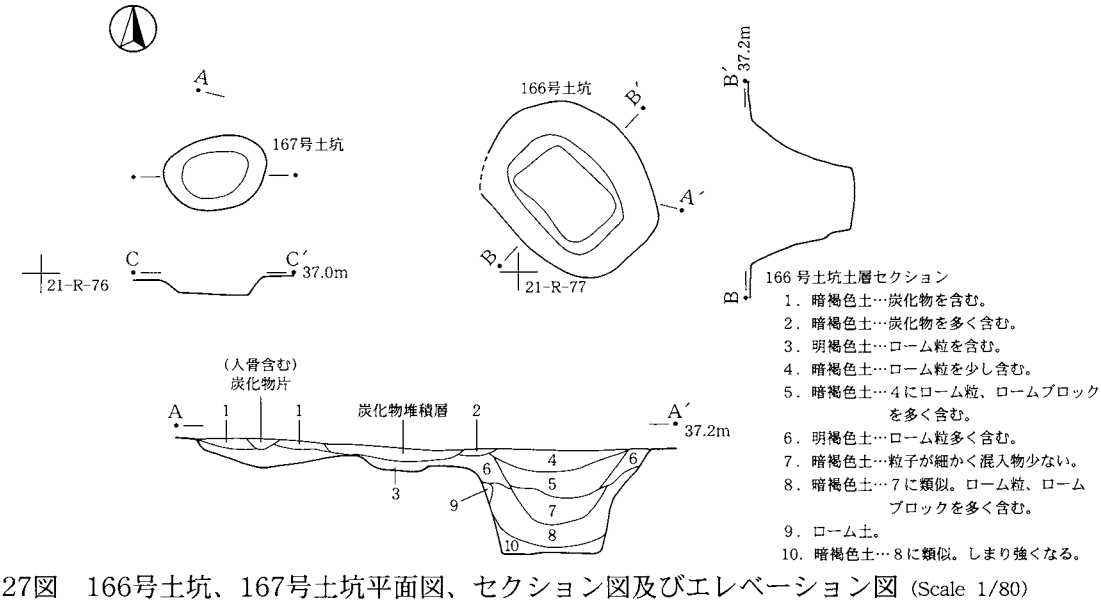
（遺構）調査区のやや中央よりの南の部分、21－R－50区付近に位置する。平面形状は178号溝により壊されているが、南東側の煙道部のピットと溝に接する本体部分とさらに北西側に延びる楕円形の焚き口部分に分かれる。全長は4.48m、最大幅1.36mで深さは0.15m程である。確認面から非常に浅く覆土の状況は不明である。長軸方位はN－60°－Wである。



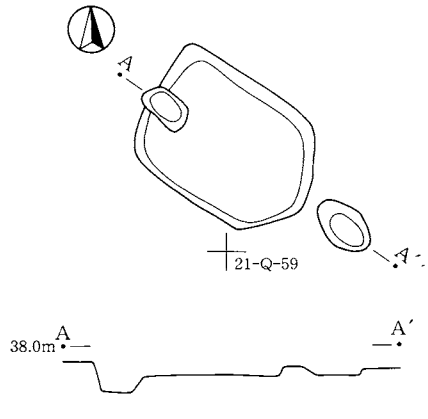
第225図　164号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



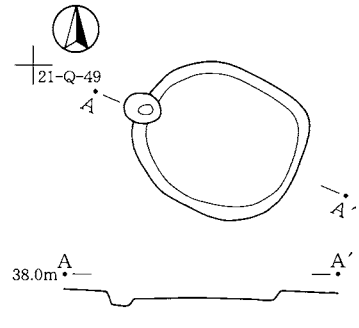
第226図　165号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第227図　166号土坑、167号土坑平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第228図　174号炭窯平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第229図　175号炭窯平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

179号炭窯（第231図、図版なし）

（遺構）調査区のやや中央よりの南の部分、21－R－81区付近に位置する。平面形状は北側が焚き口で、南側は本体部分で構成される。平面形状は北側の焚き口部分と南側の本体部分とに分かれる。全長は3.20m、最大幅1.44mで深さは0.3m程である。覆土は炭化物や焼土粒が多い暗褐色土である。操業直後に埋め戻しが行われた模様である。長軸方位はN－18°－Eである。

185号土坑（第232図、図版なし）

（遺構）調査区のやや中央よりの南の部分、21－R－70区付近に位置する。平面形状は東西方向に細長いやや不整な楕円形に近い形である。全長4.00m、最大幅1.53m、深さ0.25m程である。覆土は中央部分の上層に焼土が検出されている。中層から下層にかけてはソフトローム粒が混ざる暗褐色土である。形態から火葬墓である可能性がある。長軸方位はN－65°－Wである。

187号炭窯（第233図、図版なし）

（遺構）調査区の中央よりの南の部分、21－Q－64区付近に位置する。平面形状はやや隅丸の方形である。長辺2.24m、短軸1.68m、深さ0.58mである。覆土は記録されていないので不明である。炭窯と思われるが火葬墓である可能性もある。

188号炭窯（第233図、図版なし）

（遺構）調査区の中央よりの南の部分、21－Q－74区付近に位置する。187号炭窯の南にあり、関連するものと考えられる。平面形状はやや隅丸の方形である。一辺1.84mで深さ0.4mである。覆土は記録されていないので不明である。炭窯と思われるが火葬墓である可能性もある。

191号炭窯（第234図、図版56）

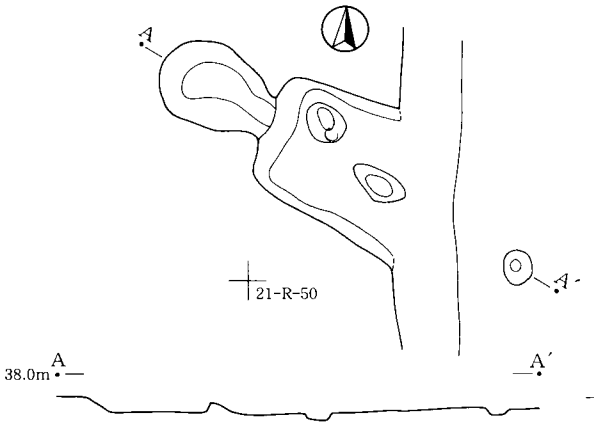
（遺構）調査区の北側中央部分、20－Q－01区付近に位置する。平面形状はやや不整な長方形で焚き口が北西側に、煙道部が南東側にある。長辺3.12m、短辺0.88mで、深さ0.2m前後である。付近にピットが２個検出されているが関連は不明である。覆土は炭化物を多く含む黒色土が主体である。長軸方位はN－22°－Wである。

193号土坑群（第234図、図版56）

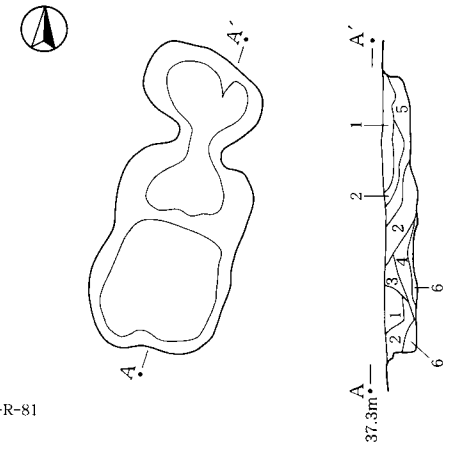
（遺構）調査区の北側中央部分、20－Q－01区付近に位置し、191号炭窯の東側にある。平面形状はやや隅丸の長方形である。長辺1.76m、短辺0.96mで、深さ0.2m前後である。覆土は記録されていないので不明であるが、形態等から土壙墓である可能性がある。長軸方位はN－28°－Wである。隣接してピットと円形の小土坑が見られるが、小土坑の方は覆土がはっきりしないため確定はできないが、火葬墓の可能性がある。

196号炭窯（第235図、図版なし）

（遺構）調査区の中央よりやや南、21－Q－45区付近に位置する。平面形状は細長い短冊状で北側のや

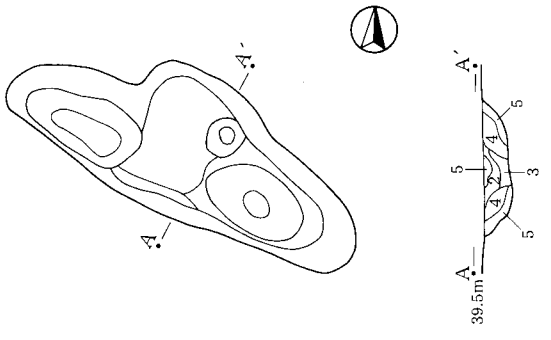


第230図　176号炭窯平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



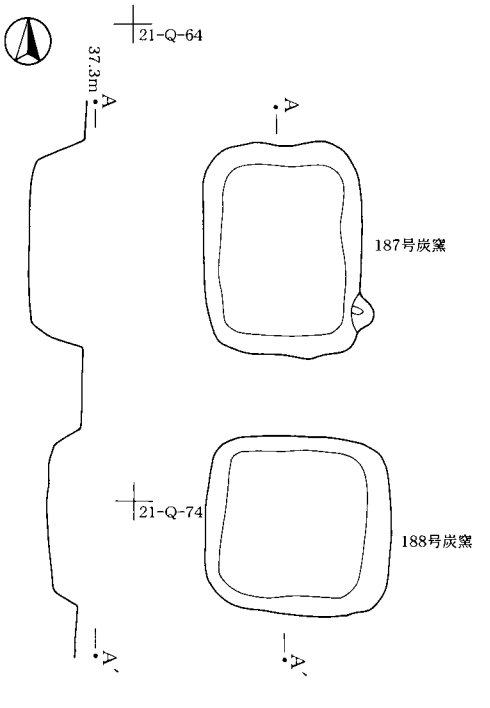
第231図　179号炭窯平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

179号炭窯土層セクション
1．暗褐色土…炭化物の混入ほとんどなし。
2．暗褐色土…1より炭化物の混入やや多い。
　ローム粒少量混入。
3．暗褐色土…2より炭化物の混入多い。
4．暗褐色土…3より炭化物の混入が多く半分近くを占める。
5．暗褐色土…多感物の混入。1よりは多く、
　2よりは少ない。
6．暗黄褐色土…ソフトローム主体。
　炭化物の混入ほとんどない。

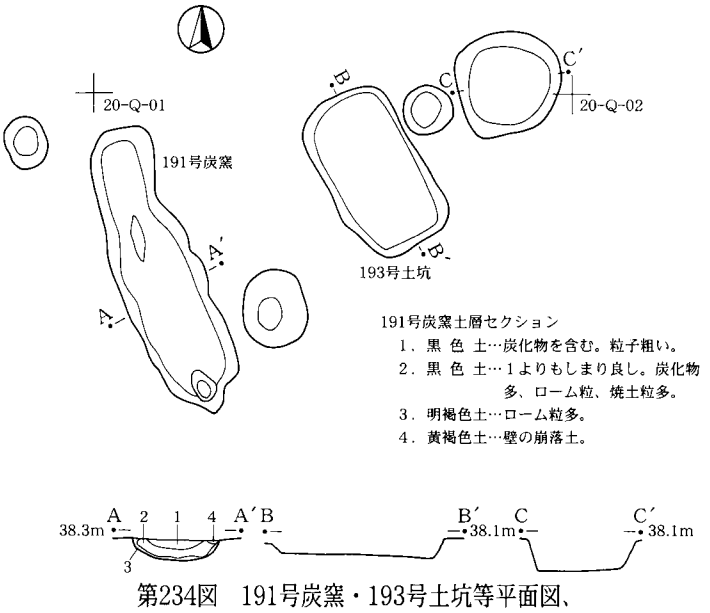


185号土坑土層セクション
1．焼土。
2．明褐色土…粒子が細かい。粘性なし。焼土の混入あり。
　しまり良し。
3．明褐色土…2に近似するが、焼土の混入ほとんどなし。
4．暗褐色土…粒子が細かい。粘性なし。しまり良し。
5．暗黄褐色土…ソフトローム主体。
　暗褐色土の粒子を含む混合土。

第232図　185号土坑平面図及びセッション図 (Scale 1/80)



第233図　187号炭窯・188号炭窯平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



191号炭窯土層セクション
1．黒 色 土…炭化物を含む。粒子粗い。
2．黒 色 土…1よりもしまり良し。炭化物
　多、ローム粒、焼土粒多。
3．明褐色土…ローム粒多。
4．黄褐色土…壁の崩落土。

第234図　191号炭窯・193号土坑等平面図、
セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

0　4m

や深い丸みのある部分と南側のやや浅い長方形の部分とに分かれる。全長6.24m、最大幅1.12mで深さは最大0.4mである。どちらが煙道部で焚き口かということは定かではないが、321号と似たような形態であるため南側が煙道部であるかとも思われる。長軸方位はN－12°－Eである。

198号土坑（第236図、図版なし）

（遺構）調査区の北側、20－Q－01区付近に位置する。平面形状はほぼ円形である。径0.70m前後で深さ0.25mである。規模からすると柱穴状のピットの可能性もあるが土壙墓の可能性もある。覆土は不明である。

199号土坑（第237図、図版57）

（遺構）調査区の北側、20－Q－02区付近に位置する。平面形状はやや不整な楕円形である。長軸2.08m、短軸1.84mで深さ0.4mである。覆土は記録されていないので不明であるが、形態的の土壙墓である可能性がある。長軸方位はN－41°－Wである。

200号土坑（第238図、図版なし）

（遺構）調査区の北東側、19－Q－93区付近に位置する。平面形状はやや不整な楕円形で坑底は中央部分のピットが深く全体に壁に向かって斜めに立ち上がる逆三角形になる。覆土が記録されていないため詳細は不明であるが、倒木痕の可能性もある。長軸方位はN－45°－Wである。

201号土坑（第239図、図版なし）

（遺構）調査区の北側中央部分、20－Q－03区付近に位置する。平面形状は円形の本体部分に南側に張り出し部分が見られる。全長1.76m、幅1.36m、深さ0.32mである。覆土が記録されていないため詳細は不明であるが、形態等から火葬墓である可能性がある。主軸方位はN－39°－Wである。

202号土坑（第240図、図版なし）

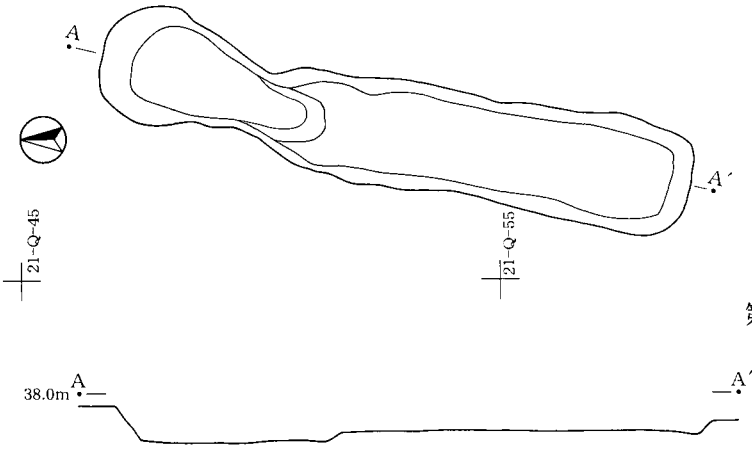
（遺構）調査区の北東側、19－Q－84区付近に位置する。平面形状はやや丸みのある方形である。一辺1.28m前後で深さ0.25mである。坑底はほぼ平坦で壁はやや斜めに立ち上がる。覆土が記録されていないため詳細は不明であるが、形態等から土壙墓もしくは火葬墓の可能性がある。

203号土坑（第241図、図版なし）

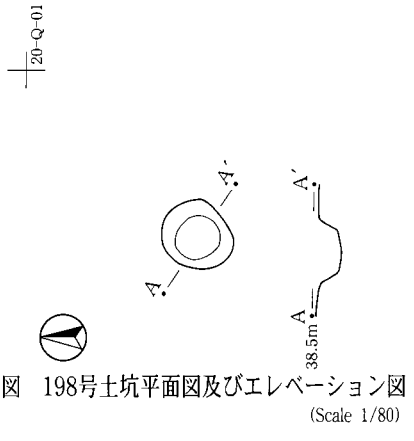
（遺構）調査区の北東側、19－Q－94区付近に位置する。平面形状は南東側の円形ピット部分と周りの方形の部分、さらに北西部分に楕円形の付属施設が配置される。全長2.32m、幅１m程で深さは円形ピット部分で最大0.5mである。床面は北西部分の付属施設部分に向かって浅くなる。炭窯かとも思われるが覆土等の記録がないため詳細は不明である。

205号土坑（第242図、図版56）

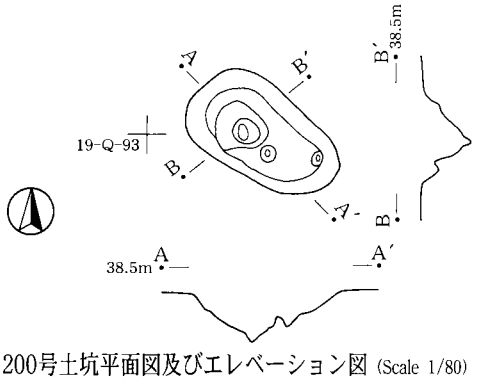
（遺構）調査区の中央の南側、21－Q－32区付近に位置する。207号溝に切られており、元々井戸として



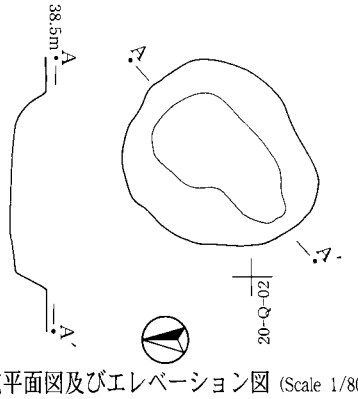
第235図　196号炭窯平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



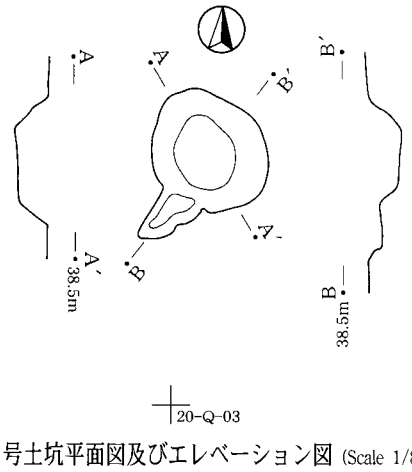
第236図　198号土坑平面図及びエレベーション図
(Scale 1/80)



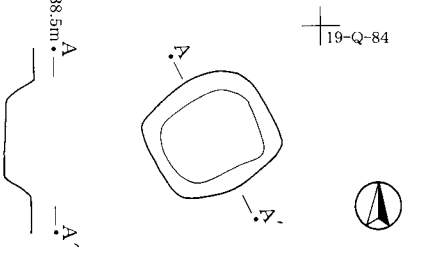
第238図　200号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



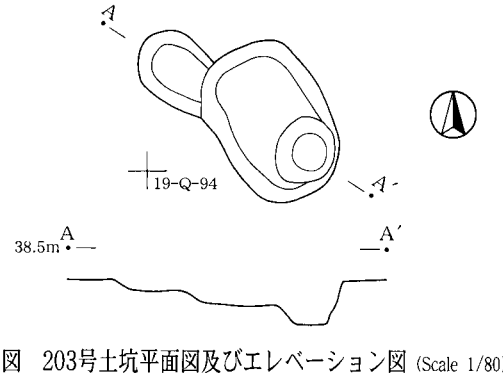
第237図　199号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第239図　201号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

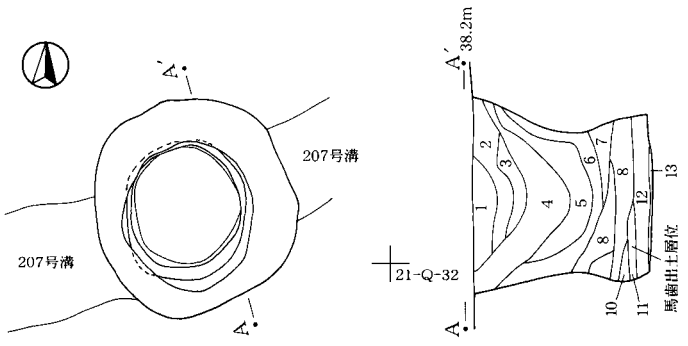


第240図　202号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



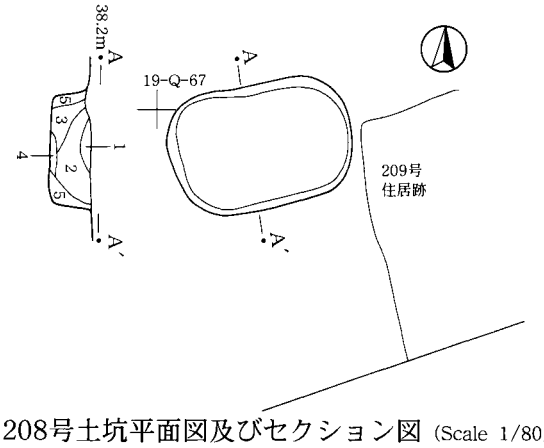
第241図　203号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

作られていたと思われる土坑であるが、覆土下層より馬歯が検出されており二次的に馬埋葬土坑として使用されている。平面形状はほぼ円形で坑底部分で少しオーバーハング気味で立ち上がり開口部でやや広がる。径2.25m前後で深さが1.92mである。覆土は上層がローム粒混じりの黒褐色土が主体の層で自然堆積、



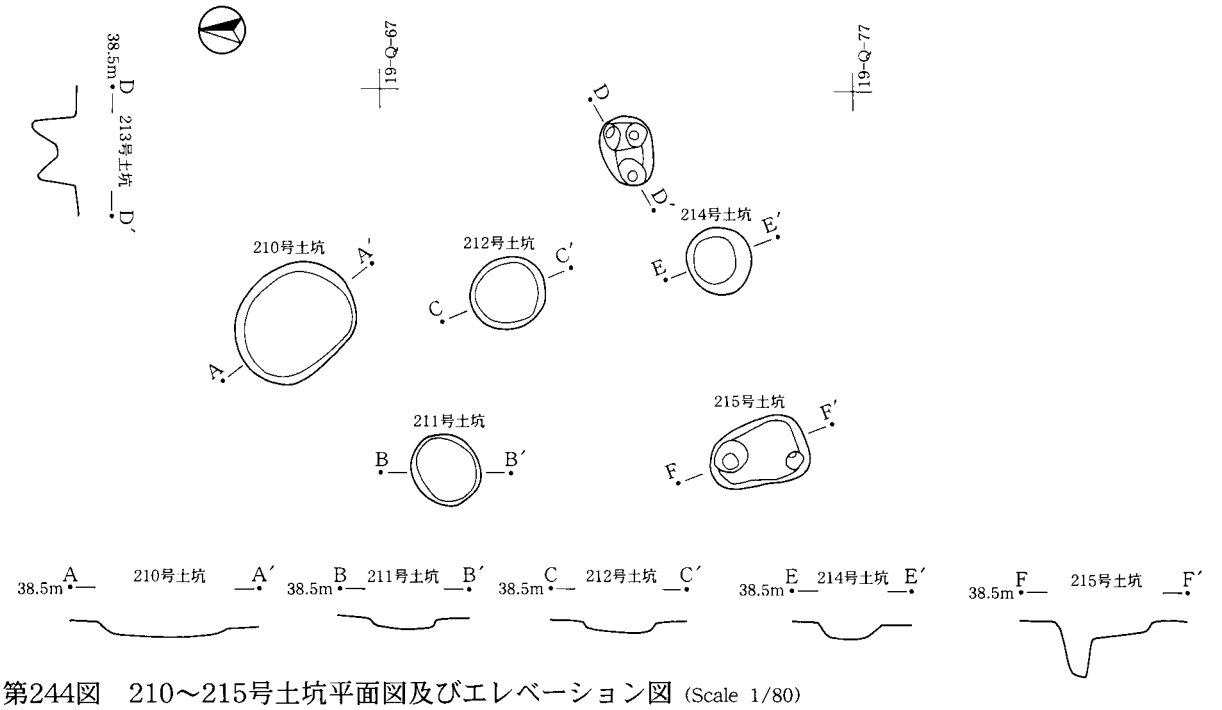
205号土坑土層セクション
1．黒褐色土…しまり良し。
2．黒褐色土…1より黒い。しまり良し。
3．黒 色 土…しまり良し。
4．黒褐色土…ローム粒を少し含む。
5．暗褐色土…ローム粒、3～5㎜、ロームブロックを少し含む。
} 自然堆積
6．明褐色土…ローム粒、ロームブロック主体。
バサバサしてしまり弱い。
7．暗褐色土…粒子が細かく、しまりが弱い。ローム粒多く含む。
8．黒褐色土…しまり強く粘性あり。
5㎜～2㎝大ロームブロック含む。
9．黒 色 土…粒子細かく均質化した黒色土。しまり強く粘性あり。
2～5㎜ロームブロック少量含む。
10．黄褐色土…6に類似。粒子がやや細かくなる。
11．暗褐色土…粘性あり、2～5㎜ロームブロック少量含む。
しまり良し。
12．明褐色土…粘性しまりあり。
ローム粒、ロームブロック多く含む。
13．ロームブロックと炭と混在層。底面の上に堆積
（6～13は人為的に埋めもどしたと思われる。）

第242図　205号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)

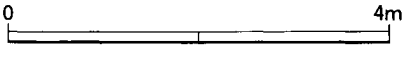


208号土坑土層セクション
1．暗褐色土…ローム粒を少し含む。
2．黒褐色土…2～3　ロームブロックを含む。
3．暗褐色土…しまりやや弱い。ローム粒含む。
4．黒 色 土…粒子細かく、しまり良し。
下部にローム粒、ローム小ブロック多く含む。
5．黄褐色土…ローム粒、ロームブロック主体。壁崩落土。
（全て自然堆積）

第243図　208号土坑平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



第244図　210～215号土坑平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



中層がロームブロック混じりの暗褐色土で人為堆積と思われる。下層上位で馬歯が検出されている。床面近くでは炭とロームブロックが混ざったような層が見られ、有機物の堆積するような機能を有した土坑であることがうかがわれる。

208号土坑（第243図、図版57）

（遺構）調査区の北東側、19－Q－67区付近に位置する。209号住居跡の西側にある。覆土等から直接関わりのないものと判断した。平面形状は楕円形に近い隅丸方形である。長辺1.84m、短辺1.28m、深さ0.4mである。坑底はほぼ平坦で壁は急激に立ち上がる。覆土の床直上に有機質の黒色土が挟まっており土壙墓と考えても良さそうである。

210号～215号土坑（第244図、図版56）

（遺構）調査区の北東側、19－Q－67区付近に位置する。210号土坑はやや楕円形に近い円形である。径0.96m～1.3mで深さが0.1mである。211号土坑はほぼ円形である。径0.72m前後で深さは0.1mである。212号土坑はほぼ円形である。径0.8mで深さは0.1mである。214号土坑はほぼ円形である。径0.72mで深さは0.2mである。これらの土坑は土壙墓である可能性があるが、覆土の記録がないため詳細は不明である。213号土坑及び215号土坑はやや不整な方形に近い形で床面にピットを持つものである。覆土の記録がないため詳細は不明であるが、倒木痕の可能性もある。

301号竪穴状遺構（第245図、図版59）

（遺構）調査区の中央南側、21－P－19区付近に位置する。340号溝、112号溝によって床及び壁の一部が壊されている。平面形状はほぼ楕円形である。長軸3.28m、短軸2.72mで深さは0.25mである。覆土はローム粒が混ざり炭化物が多く含まれる黒褐色土である。床直部分にソフトロームの混ざった層が挟まっている。住居もしくは作業小屋とするにはやや不安があるがそれに近い機能があると思われる。

312号小竪穴（第246図、図版59）

（遺構）調査区の中央やや東より、20－Q－79区付近に位置する。平面形状は北西角に径0.7mの円形ピットを持つ隅丸長方形に近い形である。長辺2.24m、短辺1.92mで深さは0.4mである。床面はほぼ平坦で中央部分に多少の凹凸が認められる。覆土は上層がロームブロック混じりでやや軟質な黒褐色土、中層がロームブロックを多量に含むやや軟質な黒色～黒褐色土、下層がロームブロックを含む褐色土である。床直には貼り床が施されている。314号小竪穴と同様に中世の土壙墓(火葬墓)の可能性がある。

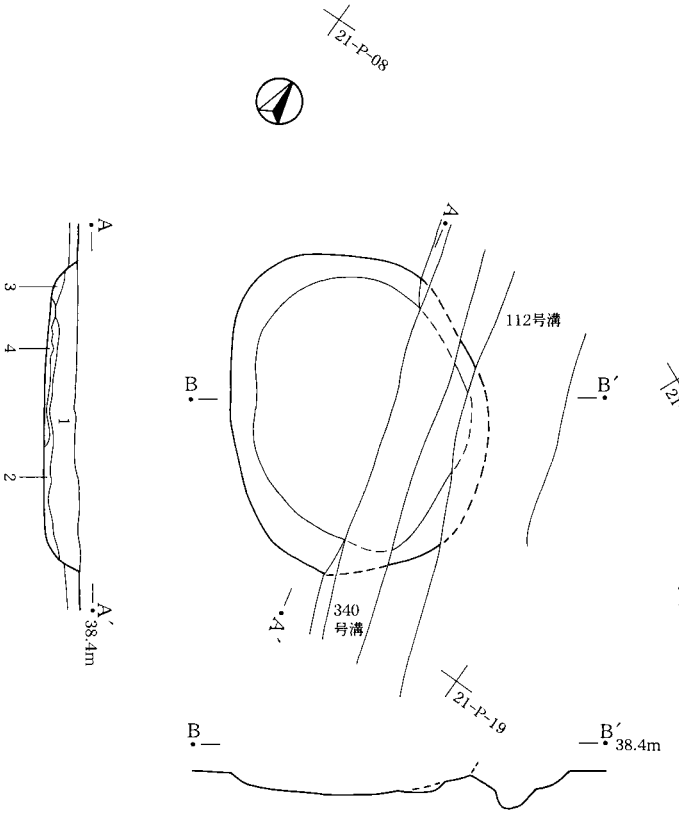
313号地下式壙（第247図、図版59）

（遺構）調査区の中央東より、21－Q－08区付近に位置する。平面形状は南西部にテラス状の入り口施設を持ち、開口部が楕円形で坑底部が長方形である。底面はほぼ平坦である。開口部の長軸は2.64m、短軸は2.24mで深さは1.2mである。覆土の状況から314号小竪穴を壊して作られており、時代的には中世末頃に位置づけられると思われる。覆土の状況からしばらくして天井が崩落したと考えられる。

（遺物）床面より開元通寶(唐銭)２枚を含む元祐通寶２枚、至道通寶２枚等の北宋銭が計13枚検出されている。

314号小竪穴（第247図、図版59）

（遺構）調査区の中央東より、21－Q－08区付近に位置する。313号地下式壙によって一部壊されている

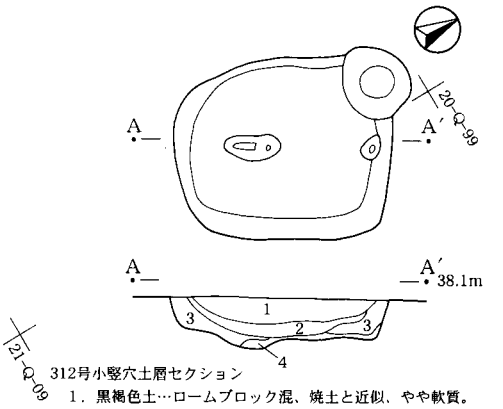


301号竪穴状遺構土層セクション

1．黒褐色土…ローム粒混り、炭化物多く混入。しまりあり。
2．暗褐色土…黒褐色土、黄褐色土が混ざったもの。
3．褐色土…ソフトロームとの漸移的な土。
4．黄褐色土…ソフトローム的土に炭化粒含む。

} 3、4は床かもしれない。

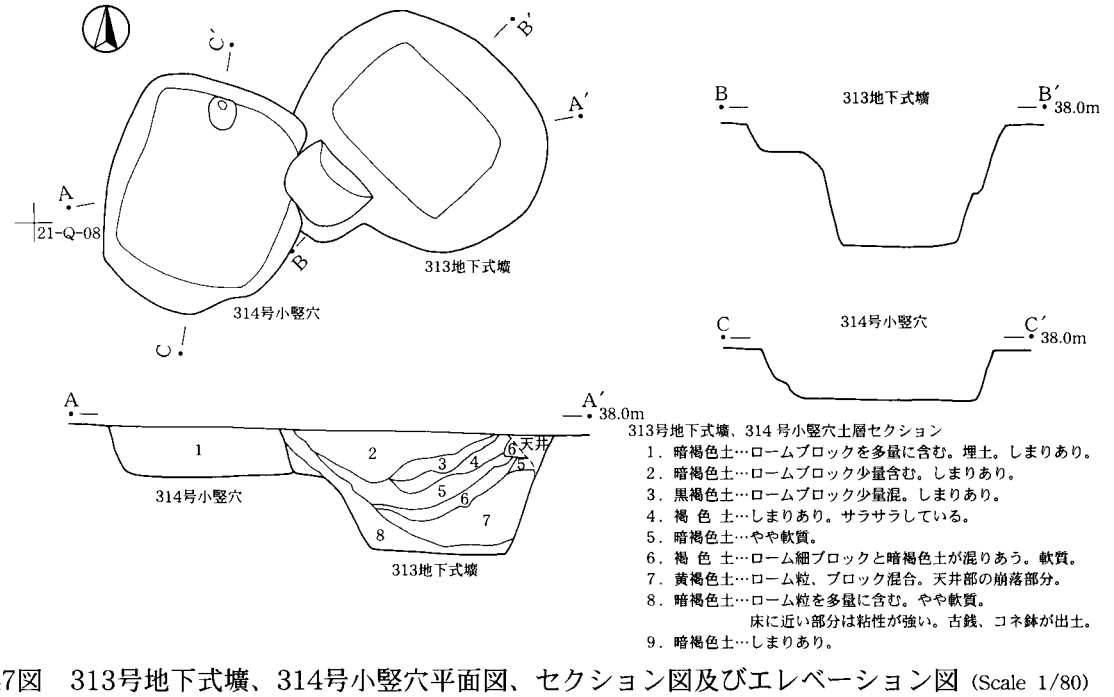
第245図　301号竪穴状遺構平面図、セクション図
及びエレベーション図 (Scale 1/80)



312号小竪穴土層セクション

1．黒褐色土…ロームブロック混、焼土と近似、やや軟質。
2．黒色～黒褐色土…1より黒い。ロームブロック多量に含む。
やや軟質。
3．褐 色 土…ロームブロック含む。軟質。
4．黄褐色土…ロームブロックと褐色土ブロックと混合。
しまりあり。貼床かもしれない。

第246図　312号小竪穴平面図
及びセクション図 (Scale 1/80)



313号地下式壙、314号小竪穴土層セクション

1．暗褐色土…ロームブロックを多量に含む。埋土。しまりあり。
2．暗褐色土…ロームブロック少量含む。しまりあり。
3．黒褐色土…ロームブロック少量混。しまりあり。
4．褐 色 土…しまりあり。サラサラしている。
5．暗褐色土…やや軟質。
6．褐 色 土…ローム細ブロックと暗褐色土が混りあう。軟質。
7．黄褐色土…ローム粒、ブロック混合。天井部の崩落部分。
8．暗褐色土…ローム粒を多量に含む。やや軟質。
床に近い部分は粘性が強い。古銭、コネ鉢が出土。
9．暗褐色土…しまりあり。

第247図　313号地下式壙、314号小竪穴平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

0　4m

ことから古いことが明らかである。平面形状はほぼ方形で床面はほぼ平坦である。長辺2.40m、短辺2.0mで深さは0.5mである。規模は312号小竪穴とほぼ同じである。床面には１個小ピットが検出されている。ロームブロックを多量に含む暗褐色土である。312号小竪穴と同様に中世の土壙墓(火葬墓)の可能性がある。

315号小竪穴（第248図、図版60）

（遺構）調査区の中央東より、21－Q－08区付近に位置する。314号小竪穴の南側にある。平面形状は南東隅に径0.88mの円形のピット状の張り出しが認められるものの本体は長辺2.16m、短辺1.60mで深さ0.05～0.1mの長方形である。床面はほぼ平坦で中央部分に径0.32m、深さ0.4mのピットがある。覆土の記録はないものの形態等から314号小竪穴と同様に中世の土壙墓(火葬墓)である可能性がある。

316号小竪穴（第249図、図版60）

（遺構）調査区の東側、20－Q－79区付近に位置する。平面形状は一辺1.68m程の方形で壁際は開口部にかけてやや崩落気味である。深さは0.4mである。床面はほぼ平坦で壁は急激に立ち上がる。覆土は下層に黄褐色ロームブロックに炭化物が含まれる層があり、埋土の堆積状況から火葬を二次埋葬した土葬墓である可能性である。

318号掘立柱建物跡（第250図、図版60）

（遺構）調査区の東側、20－R－41区付近に位置する。規格は３間×５間で規模は4.67m×9.6mである。柱穴は径0.4m～0.6mの円形もしくは楕円形で深さは浅いもので0.4m、深いもので0.6mほどである。長軸方位はN－55°－Eである。

319号竪穴状遺構（第251図、図版60）

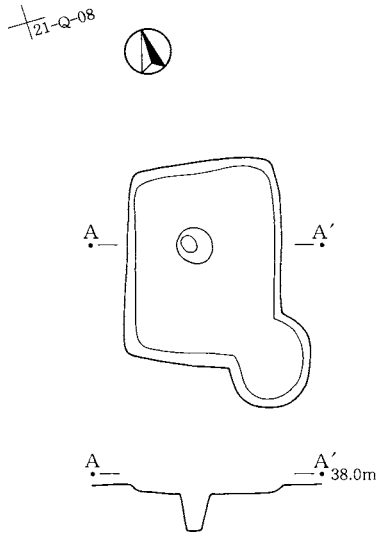
（遺構）調査区の北東側、20－Q－08区付近に位置する。平面形状は長方形に近い不整形な形である。最大長6.96m、最大幅3.84m、深さ0.25mである。床面はほぼ平坦であるが、特に硬化した面は観察されていない。掘立柱建物跡の北西側にあり、関連性のある遺構とも考えられる。覆土は上層がローム粒を少し含む黒褐色土、下層がソフトローム、ローム粒を少し含みやや堆積の粗い黒褐色土である。壁はやや緩やかに立ち上がる。作業場的機能が想定される場所であろうか。

320号地下式壙（第252図、図版60）

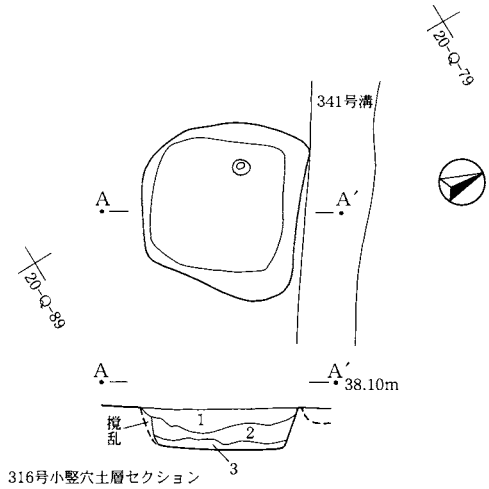
（遺構）調査区の中程、20－Q－96区付近に位置する。平面形状は北東部にテラス状の入り口施設を持ち、開口部が楕円形で坑底部が方形である。底面はほぼ平坦である。開口部の長軸は3.36m、短軸は2.16mで深さは2.0mである。時代的には他の地下式壙と同様に中世末頃に位置づけられると思われる。覆土の状況からしばらくして天井が崩落したと考えられる。

321号炭窯（第253図、図版60）

（遺構）調査区のほぼ中央、20－P－59区付近に位置する。平面形状は北側に焚き口、南側に煙道部の

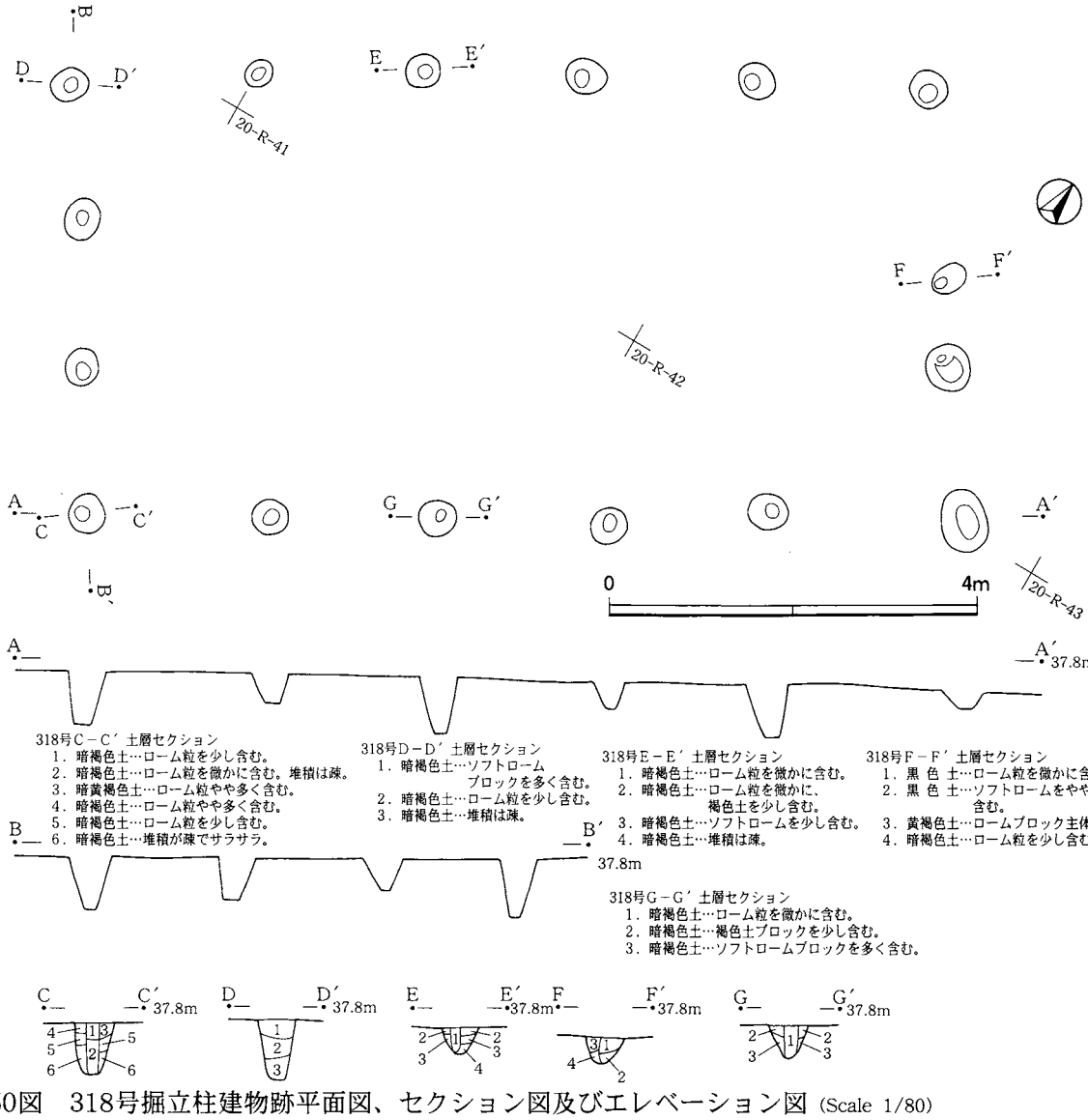


第248図　315号小竪穴平面図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



316号小竪穴土層セクション
1．暗褐色土…表土に近似。ローム粒多く含む。焼土一部あり。
2．暗褐色土…細炭化物多。少量の焼土粒。1より軟質。中程は黒っぽい。
3．暗褐色土…黄褐色土ロームブロック、炭化物を含む。軟質。埋土と思われる。

第249図　316号小竪穴平面図及びセクション図 (Scale 1/80)



318号C－C′土層セクション
1．暗褐色土…ローム粒を少し含む。
2．暗褐色土…ローム粒を微かに含む。堆積は疎。
3．暗黄褐色土…ローム粒やや多く含む。
4．暗褐色土…ローム粒やや多く含む。
5．暗褐色土…ローム粒を少し含む。
6．暗褐色土…堆積が疎でサラサラ。

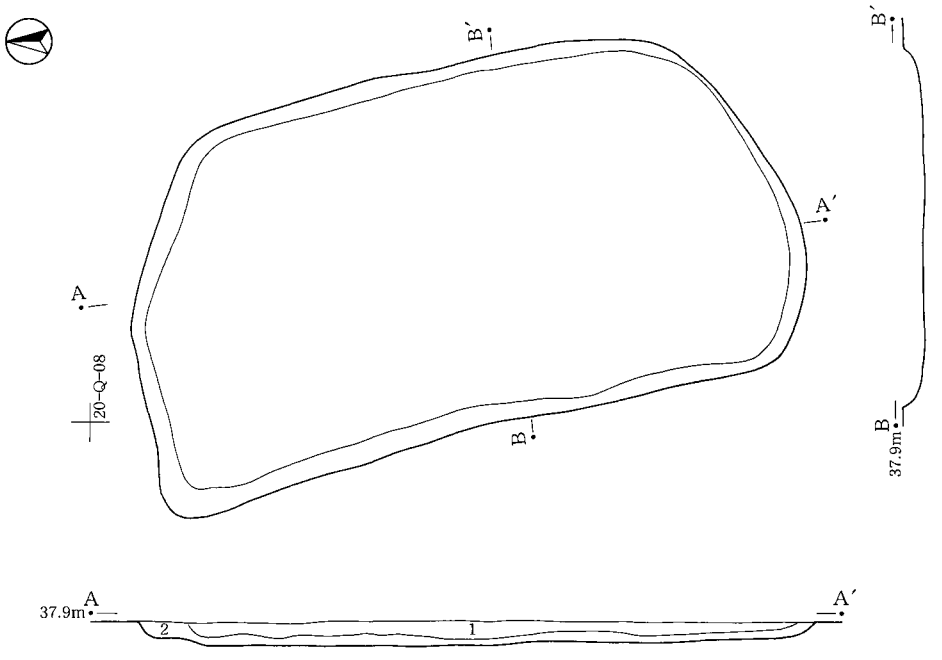
318号D－D′土層セクション
1．暗褐色土…ソフトローム
ブロックを多く含む。
2．暗褐色土…ローム粒を少し含む。
3．暗褐色土…堆積は疎。

318号E－E′土層セクション
1．暗褐色土…ローム粒を微かに含む。
2．暗褐色土…ローム粒を微かに、
褐色土を少し含む。
3．暗褐色土…ソフトロームを少し含む。
4．暗褐色土…堆積は疎。

318号F－F′土層セクション
1．黒 色 土…ローム粒を微かに含む。
2．黒 色 土…ソフトロームをやや多く
含む。
3．黄褐色土…ロームブロック主体の土。
4．暗褐色土…ローム粒を少し含む。

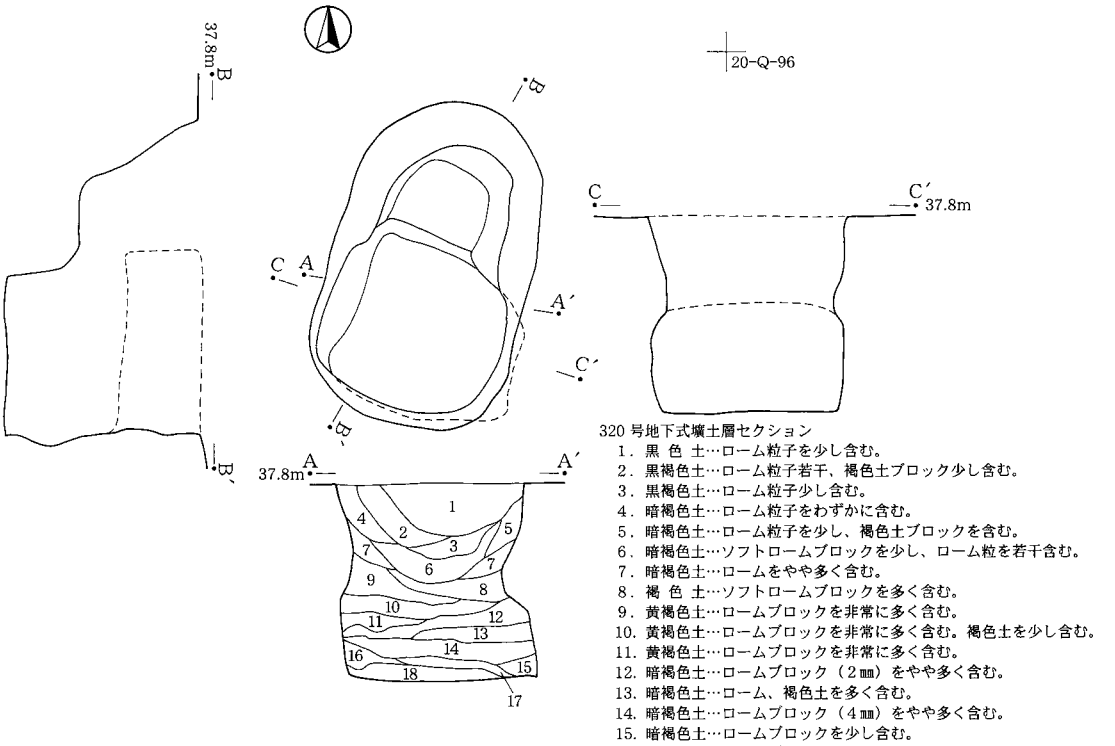
318号G－G′土層セクション
1．暗褐色土…ローム粒を微かに含む。
2．暗褐色土…褐色土ブロックを少し含む。
3．暗褐色土…ソフトロームブロックを多く含む。

第250図　318号掘立柱建物跡平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



319 号竪穴状遺構土層セクション
1．黒褐色土…ローム粒子を少し含む。
2．黒褐色土…ソフトロームブロックを多く含む。ローム粒子を少し含む。堆積は1と比べてやや疎。

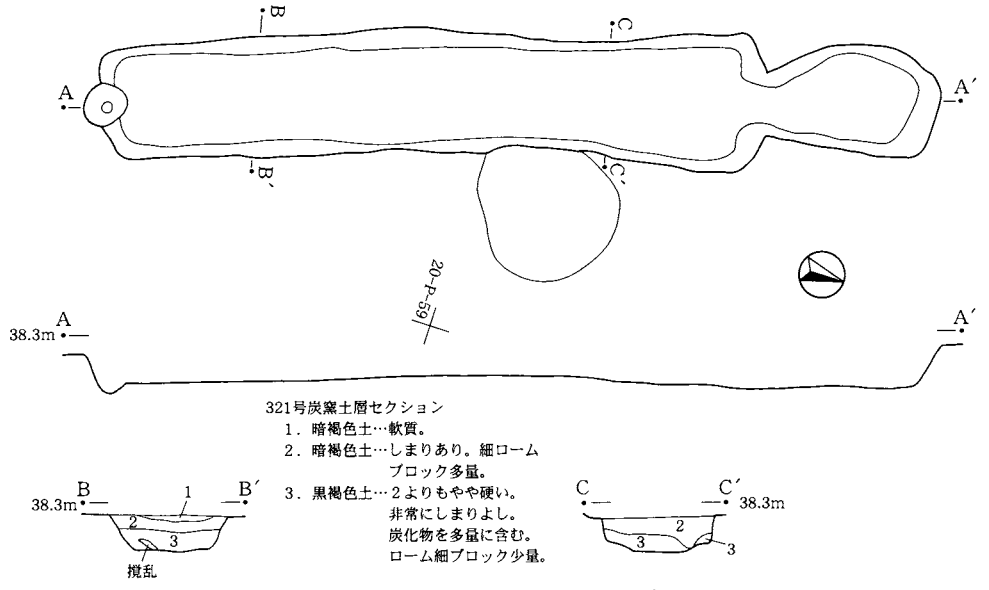
第251図　319号竪穴状遺構平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



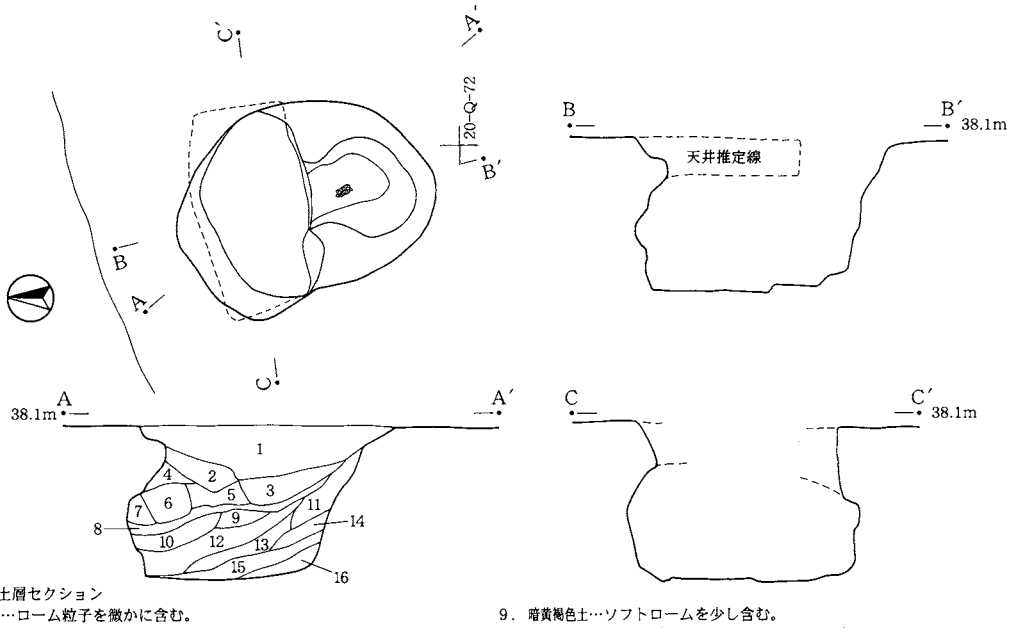
320 号地下式壙土層セクション
1．黒 色 土…ローム粒子を少し含む。
2．黒褐色土…ローム粒子若干、褐色土ブロック少し含む。
3．黒褐色土…ローム粒子少し含む。
4．暗褐色土…ローム粒子をわずかに含む。
5．暗褐色土…ローム粒子を少し、褐色土ブロックを含む。
6．暗褐色土…ソフトロームブロックを少し、ローム粒を若干含む。
7．暗褐色土…ロームをやや多く含む。
8．褐 色 土…ソフトロームブロックを多く含む。
9．黄褐色土…ロームブロックを非常に多く含む。
10．黄褐色土…ロームブロックを非常に多く含む。褐色土を少し含む。
11．黄褐色土…ロームブロックを非常に多く含む。
12．暗褐色土…ロームブロック（2㎜）をやや多く含む。
13．暗褐色土…ローム、褐色土を多く含む。
14．暗褐色土…ロームブロック（4㎜）をやや多く含む。
15．暗褐色土…ロームブロックを少し含む。
16．暗褐色土…ロームブロックを少し含む。堆積少し疎。
17．暗褐色土…ローム粒子（小豆大）を少し含む。堆積はやや疎。
18．黒褐色土…ロームブロックを少し含む。

0　4m

第252図　320号地下式壙平面図、セクション図
及びエレベーション図 (Scale 1/80)



第253図　321号炭窯平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)



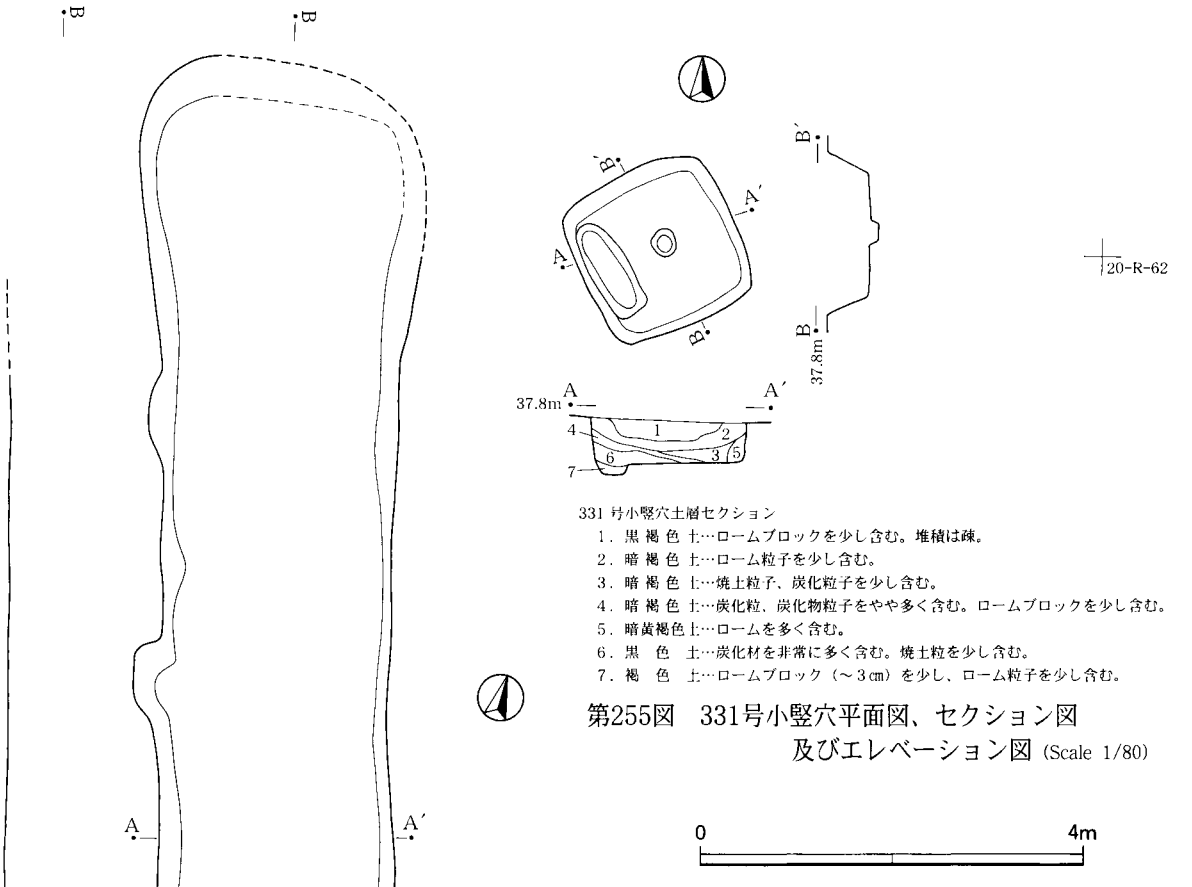
328号地下式壙土層セクション

1．黒褐色土…ローム粒子を微かに含む。
2．暗褐色土…褐色土ブロックを多く含む。
3．暗褐色土…ロームブロックを微かに含む。
4．暗褐色土…ソフトロームブロックを少し含む。堆積はやや密。
5．暗褐色土…ソフトロームを少し、褐色土ブロックを微かに含む。
6．暗褐色土…ロームブロックを多く含む。天井の崩落。
7．黒褐色土…堆積は疎。
8．黒褐色土…ロームブロック（～3㎝）を少し、褐色土ブロックを少し含む。
9．暗黄褐色土…ソフトロームを少し含む。
10．黄褐色土…ロームブロックの中に黒色土が混ざる。
11．暗黄褐色土…ソフトロームを多く含む。堆積はやや疎。
12．黄褐色土…ロームブロックを中心にするロームの堆積。まれに黒色土が混ざる。
} 天井の崩落部
13．黄褐色土…ロームブロック（～3㎝）を少し、ローム粒を多く含む。
14．暗褐色土…ロームブロック（～5㎝）を少し含む。ローム粒子を少し含む。堆積は疎。
15．暗褐色土…ロームブロック（～3㎝）を少し含む。堆積は疎。
16．黄褐色土…ロームブロック（～3㎝）を主体とするロームの堆積。

第254図　328号地下式壙平面図、セクション図及びエレベーション図 (Scale 1/80)

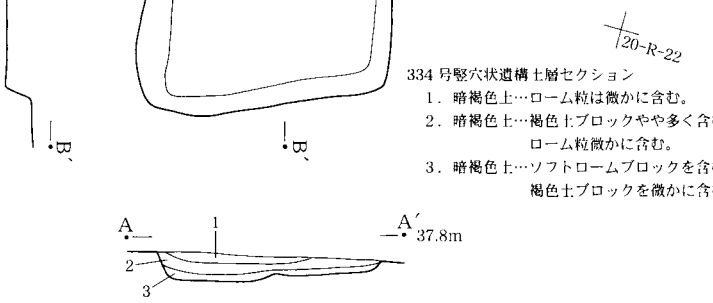
0　4m

ピットを配した細長い短冊状の形状である。最大長9.04m、最大幅1.52m、深さ0.4mである。床面はやや中程が高くなる傾向があるが概ね平坦である。焚き口部分には焼成の顕著な部分が検出されている。覆土は埋め戻しがされたような3枚の堆積である。主軸方位はN－18°－Wである。



331 号小竪穴土層セクション
1．黒 褐 色 土…ローム ブロックを少し含む。堆積は疎。
2．暗 褐 色 土…ローム粒子を少し含む。
3．暗 褐 色 土…焼土粒子、炭化粒子を少し含む。
4．暗 褐 色 土…炭化粒、炭化物粒子をやや多く含む。ローム ブロックを少し含む。
5．暗黄褐色土…ロームを多く含む。
6．黒　色　土…炭化材を非常に多く含む。焼土粒を少し含む。
7．褐　色　土…ローム ブロック（～3㎝）を少し、ローム粒子を少し含む。

第255図　331号小竪穴平面図、セクション図
及びエレベーション図 (Scale 1/80)



334 号竪穴状遺構土層セクション
1．暗褐色土…ローム粒は微かに含む。
2．暗褐色土…褐色土ブロックやや多く含む。
　　ローム粒微かに含む。
3．暗褐色土…ソフトローム ブロックを含む。
　　褐色土ブロックを微かに含む。

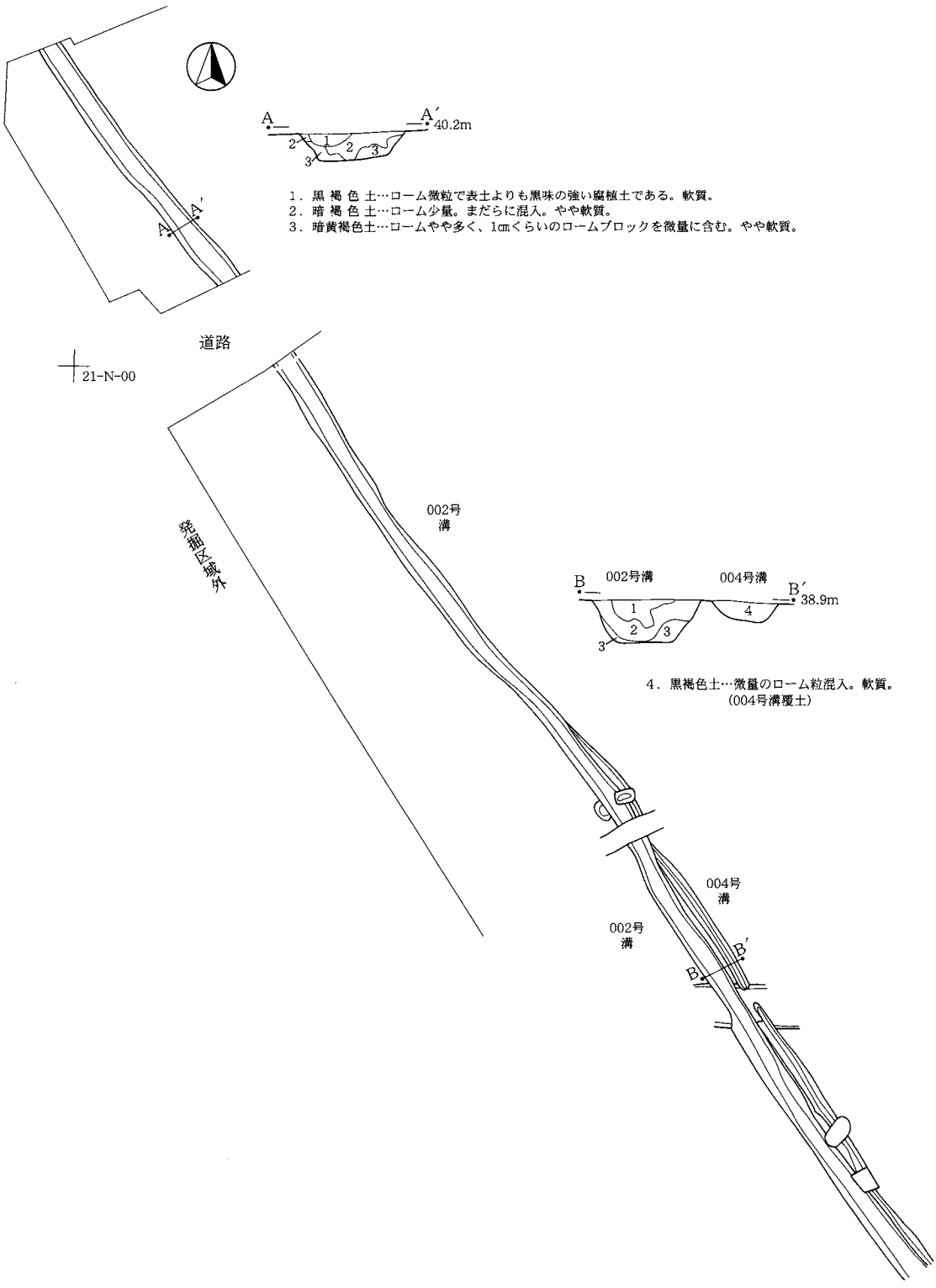
第256図　334号竪穴状遺構平面図、セクション図
及びエレベーション図 (Scale 1/80)

328号地下式壙（第254図、図版61）

（遺構）調査区のほぼ中央、20－Q－72区付近に位置する。平面形状は南側にテラス状の入り口施設を持ち、開口部が楕円形で坑底部が方形である。床面は南側に向かって多少階段状に上がる。開口部の長軸は2.72m、短軸2.0mで深さは1.6mである。時代的には他の地下式壙と同様に中世末頃に位置づけられると思われる。覆土の状況からしばらくして天井が崩落したと考えられる。

331号小竪穴（第255図、図版61）

（遺構）調査区の北東側、20－R－62区付近に位置する。平面形状はほぼ正方形に近い形で壁際の一部に溝状の落ち込みと床面中程に小ピットを一個持つ。一辺1.6m、深さ0.4mである。覆土下層に炭化材の混入や焼土が認められるところから火葬墓である可能性が高い。

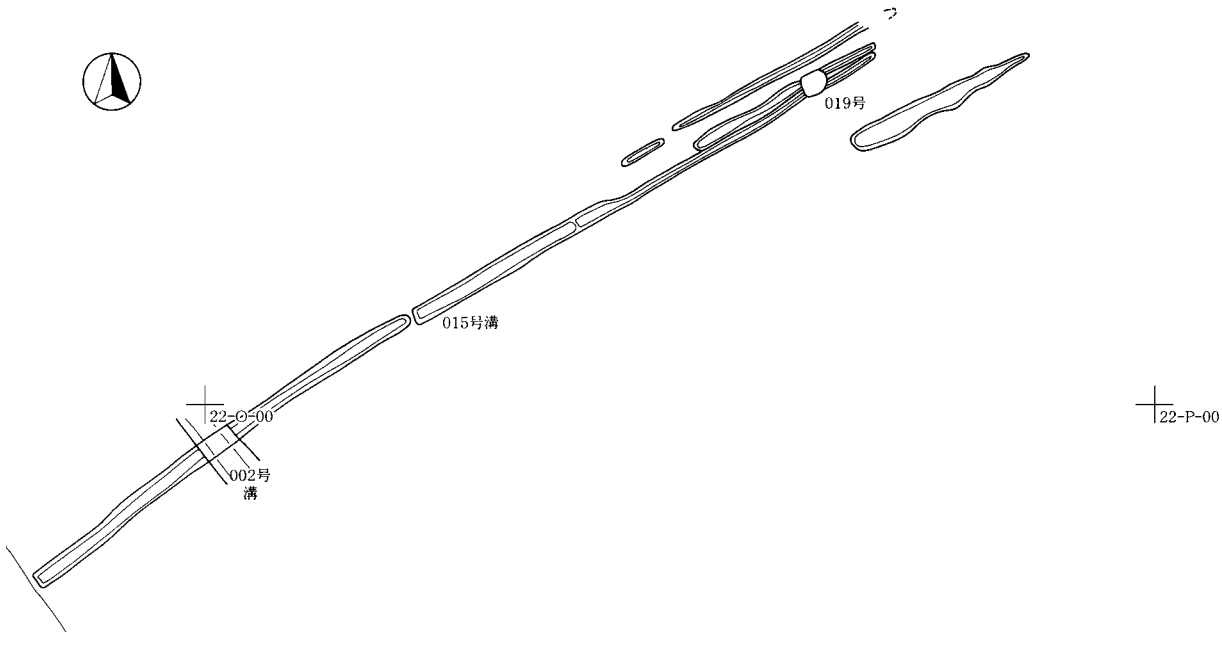


第257図　002号溝、004号溝平面図(Scale1/400)及びセクション図(Scale1/80)

334号竪穴状遺構（第256図、図版なし）

（遺構）調査区の北東側、20－Ｒ－22区付近に位置する。平面形状は長方形に近いやや不整なかたちである。全長10.56m、最大幅2.40m、深さ0.25mである。床面はほぼ平坦である。覆土の状況から掘立柱建物跡と関連した施設あるいは作業場のようなものと思われる。柱穴等が見あたらないため、建物のような

第258図　003号道路状遺構、008号柵列、023号溝平面図(Scale1/400)及びセクション図(Scale1/80)



第259図　015号溝平面図(Scale1/400)

上屋構造のあった可能性は低い。

002号溝、004号溝（第257図、図版62）

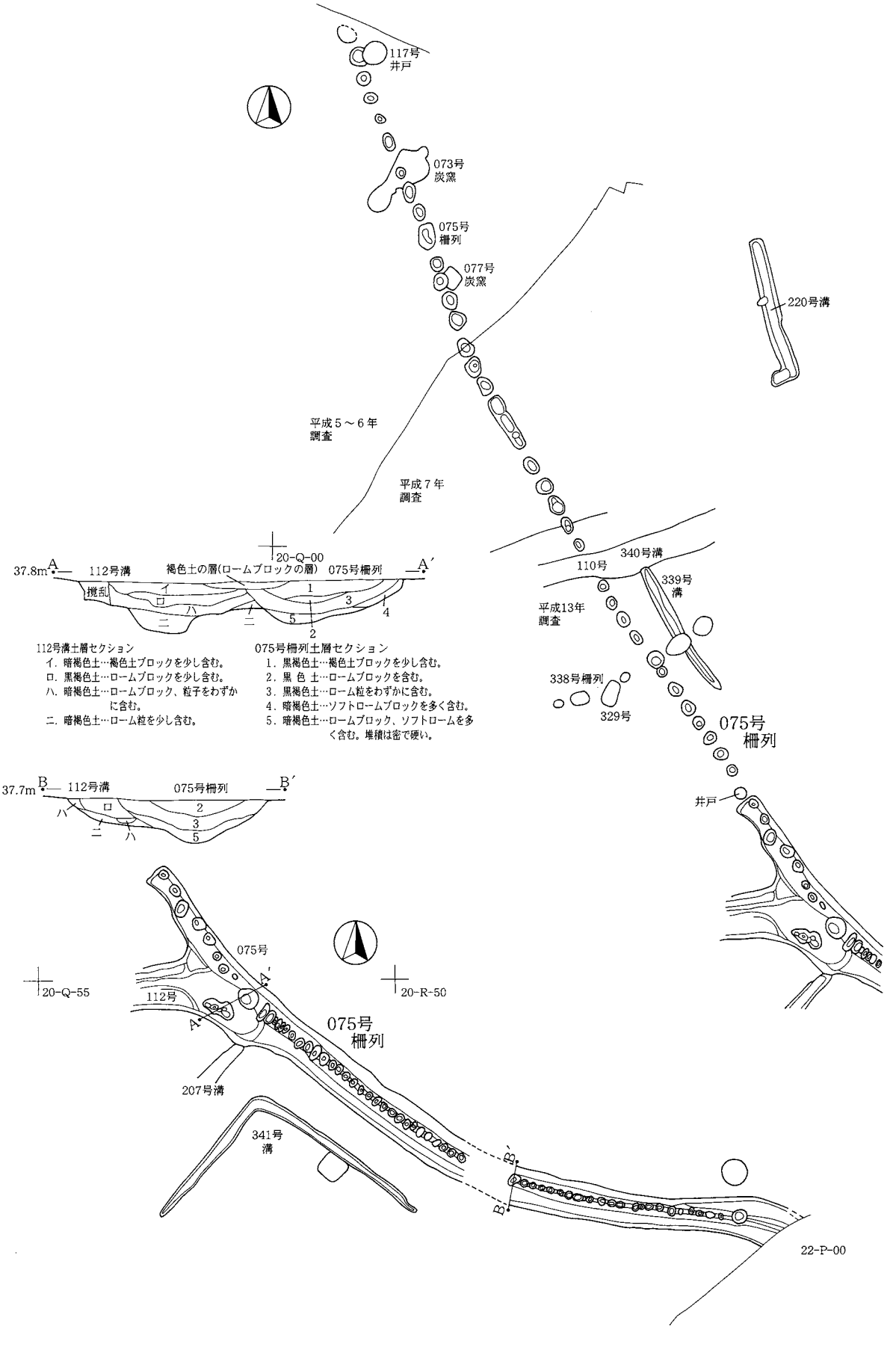
（遺構）002号溝は調査区の西端から南西方向、20－N－50区付近から22－O－11区付近にかけて北西から南東方向に斜めに直線的に作られている。全長は93.6mである。004号溝は21－N－77区付近で分岐して南西方向に002号溝と並行して作られている。全長は30mである。002号は北側では幅1.3m、深さ0.35m、南側では1.4m、深さ0.5mでやや深くなる傾向がある。覆土も004号溝よりしっかりしていて古い時期に作られていることがわかる。004号溝は北側部分はおそらく002号溝の上層部分に含まれるのではないかと思われる。

003号道路状遺構、008号柵列、023号溝（第258図、図版62）

（遺構）003号道路状遺構は調査区の南西端から中央部分、21－N－65区付近から20－P－86区付近まで斜め横方向に直線的に作られている。底面に踏み固められた面が一枚見られることから道路状遺構とした。全長は124mである。幅は１m前後で深さは0.2m程である。また112号溝は方向的にみてさらにこの道が東側に向かって作られたものと判断されるがややこちらの方が深く覆土も安定した状況で検出されている。002号の溝よりも新しい時期に作られてものと思われる。

008号柵列は１m前後の円形もしくは楕円形のピットが003号道路状遺構に一部並行して検出されており、地境の植栽列と考えるのがもっとも妥当であるかと思われる。

023号溝は20－P－95区付近で003号道路状遺構とほぼ直行して交わるが、さらに北側部分では検出され



第260図　075号柵列、220号溝、341号溝平面図(Scale1/400)及び075号柵列、112号溝セクション図(Scale1/80)

てなく南側も斜面手前で消失している。覆土の状況から道路状遺構より古い時期に作られた溝と思われる。全長16mで幅1.8m、深さ0.6m前後である。

015号溝（第259図、図版なし）

（遺構）015号溝は調査区の最西南端から北東方向、22－N－28区付近から21－O－79区付近まで斜めに直線的に作られている。基本的に003号道路状遺構と並行するように検出されている。全長52mで幅0.8mで硬くなる面が一枚見られることから道路状遺構と考えたほうが良さそうである。002号溝との前後関係は不明である。

075号柵列、220号溝、341号溝（第260図、図版58、62）

（遺構）075号柵列は調査区の北側から東側にかけてやや弓状に作られている。19－Q－20区付近から20－Q－37区付近にかけては径0.8m～1.2m程の円形もしくは楕円形のピット列で１m前後の間隔で配置されている。20－Q－37区付近から20－R－86区付近にかけてはピット列を挟んで溝状の遺構となる。112号溝が西側から斜め方向に20－Q－57区付近で合流するため溝の幅も拡張されている。北側部分も元々溝の伴ったピット列であった可能性もあるが今となっては判断しかねる。一部は植栽列、それに伴う道であると思われる。

220号溝は19－Q－66区付近に位置し、幅1.2m、全長10m程の溝で深さ0.2mで覆土の上層に宝永火山灰層が検出されている。道の一部あるいは畑等の地境の一部として認識される。

341号溝は20－Q－68区付近で075号の南側で並行する細長い溝である。幅は最大で1.0m程で深さも0.2m程しかないことから簡単な構造であることがわかる。ほぼ直角に曲がることなどから畑など生産地を区分けするための溝か何かではなかったかと思われる。

105号溝、109号溝、110号溝、112号溝、113号溝、118号溝（第261図、図版58）

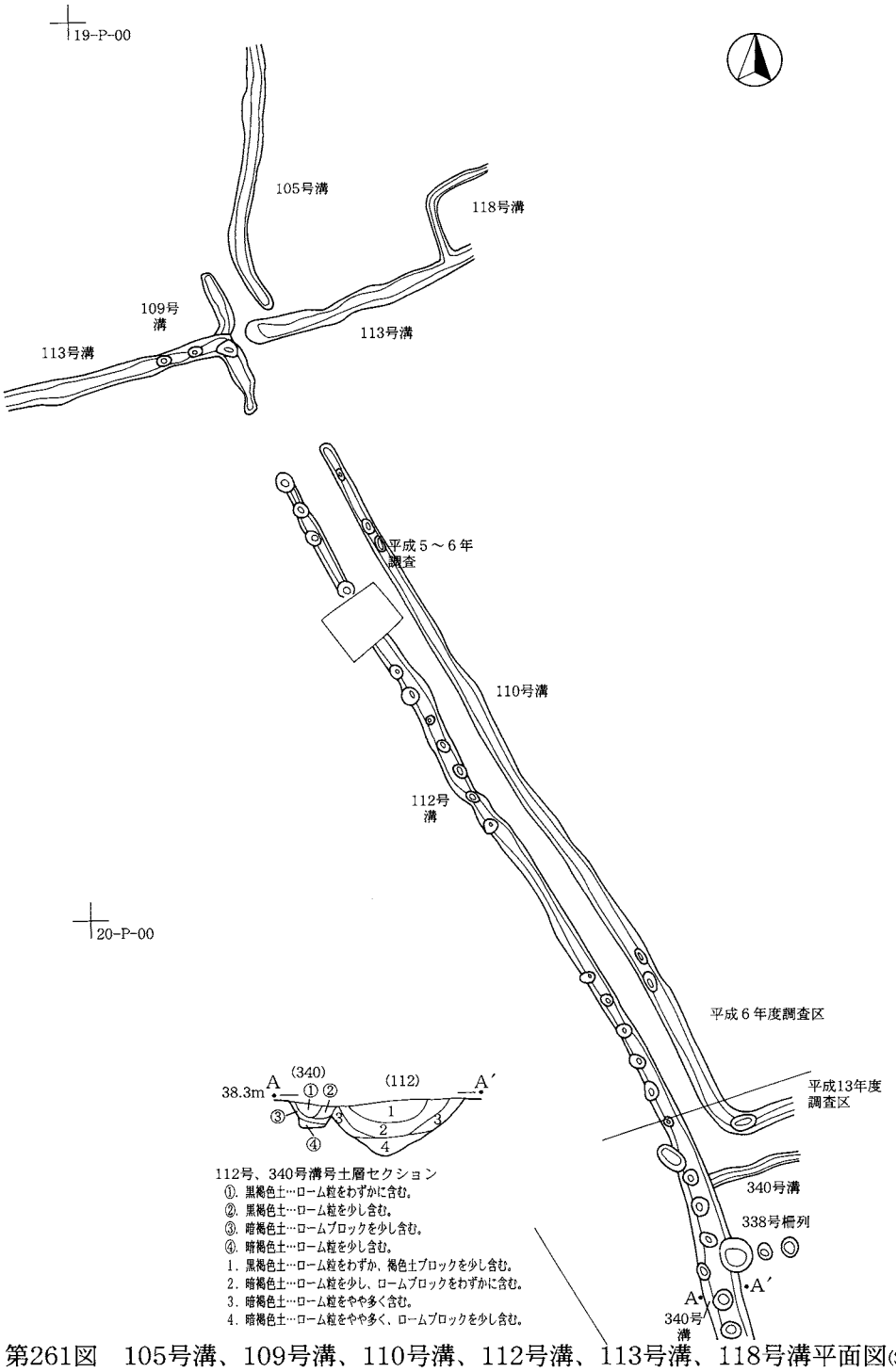
（遺構）105号溝は調査区の中央北端の19－P－02区付近から113号溝付近の19－P－32区付近まで南北15mにわたって検出されている。幅1.2mで深さ0.2mである。方向的にみて110号溝と一連のものと思われる。調査区外の北側にはさらに延びていたものと思われる。110号溝との間は区域内外の結ぶ空間ととらえられる。

109号溝は19－P－32区付近で113号溝に切られる形で途切れる。全長4.0m、幅1.2mで深さ0.2mである。105号と一部並行する形で検出されている。

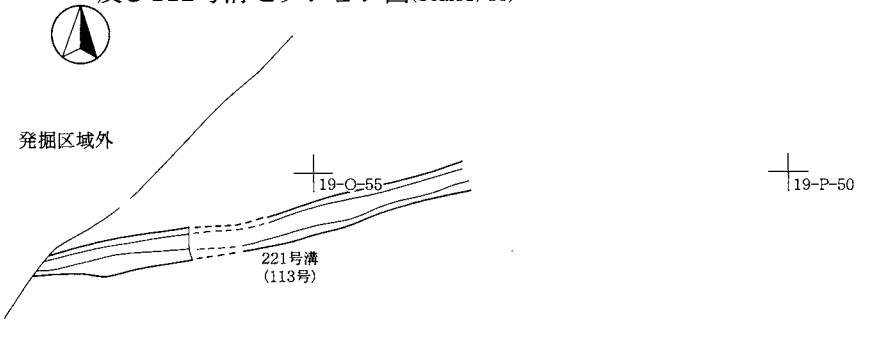
110号溝は19－P－53区付近で112号溝と並行する形で南北方向に20－P－27区付近で東西方向に直角に折れ曲がる。平成６年度調査分では全長42mが検出されている。幅1.2mで深さ0.3m程である。112号溝と違って床面はほぼ平坦である。南側に行くほどやや深くなる傾向が窺われる。

112号溝は19－P－53区付近で110号溝と並行し、20－P－57区付近では340号溝と合流している。南側では北側より幅もあり深くなる傾向が見られる。北側では0.3m、南側で最大0.6mほどある。柱列状のピットも見られ、110号溝とは若干違う機能があるとも考えられる。

113号溝は19－P－40区付近から19－P－35区付近にかけて東西方向に110号溝、112号溝と直行する形で検出されている。113号溝は東側で118号溝と分岐しているが幅は１m前後、深さは0.2mでほぼ同規模であ



第261図　105号溝、109号溝、110号溝、112号溝、113号溝、118号溝平面図(Scale1/400)
及び112号溝セクション図(Scale1/80)



第262図　221号溝平面図(Scale1/400)

る。

これらの溝はピットを持つものは柵列の伴う溝、その他は区画溝と考えられる。旧表土上に土手の確認がされていないため馬土手に伴う溝とは断定できないがその可能性はある。

221号溝（第262図、図版なし）

（遺構）221号溝は19－O－53区付近から19－P－57区付近にかけて東西方向に検出されている。西端は谷に向かって直行する形で消失している。東側は113号に向かう方向で途切れており、同一の溝として考えてよさそうである。幅は1.2m前後、深さは0.2m前後と浅い。区画溝としての機能が考えられる。

110号溝、339号溝、340号溝、112号溝、075号柵列、218号柵列、338号柵列（第263図、265図、図版58）

（遺構）110号溝の平成12年度調査分については20－P－27区付近から東西方向に直角に折れ曲がり、19－Q－88区付近で消失しており、全長56m、幅１m、深さ0.2m～0.3mである。340号溝と一部で交差するものの前後関係については不明である。

339号溝は20－Q－05区付近から南北方向に12m、幅１m、深さ0.2m前後で南側で消失している。他の溝と同じように区画のための溝かどうかは不明である。

340号溝は20－P－27区付近で112号溝と合流して直行していると思われる。20－P－27区から19－Q－88区付近まで交差しながら並行しているが前後関係については不明である。幅１m、深さ0.2～0.3mである。

112号溝は北側から続いているもので、20－P－57区付近からさらに南に幅が1.6m、深さ0.5m前後になり続き、20－P－88区付近でほぼ直行して20－Q－58区付近で075号柵列に伴う溝と合流する。この部分に関しては、比較的幅が広く床は平坦で床面直上には硬化面が認められるため道路として二次利用された可能性が高い。

218号柵列は19－Q－99区付近から20－R－44区付近にかけて北西方向から南東方向に22m程の間に径1.2m前後の円形もしくは楕円形のピット列が検出されている。深さは0.3～0.5mで植栽列である可能性は高い。

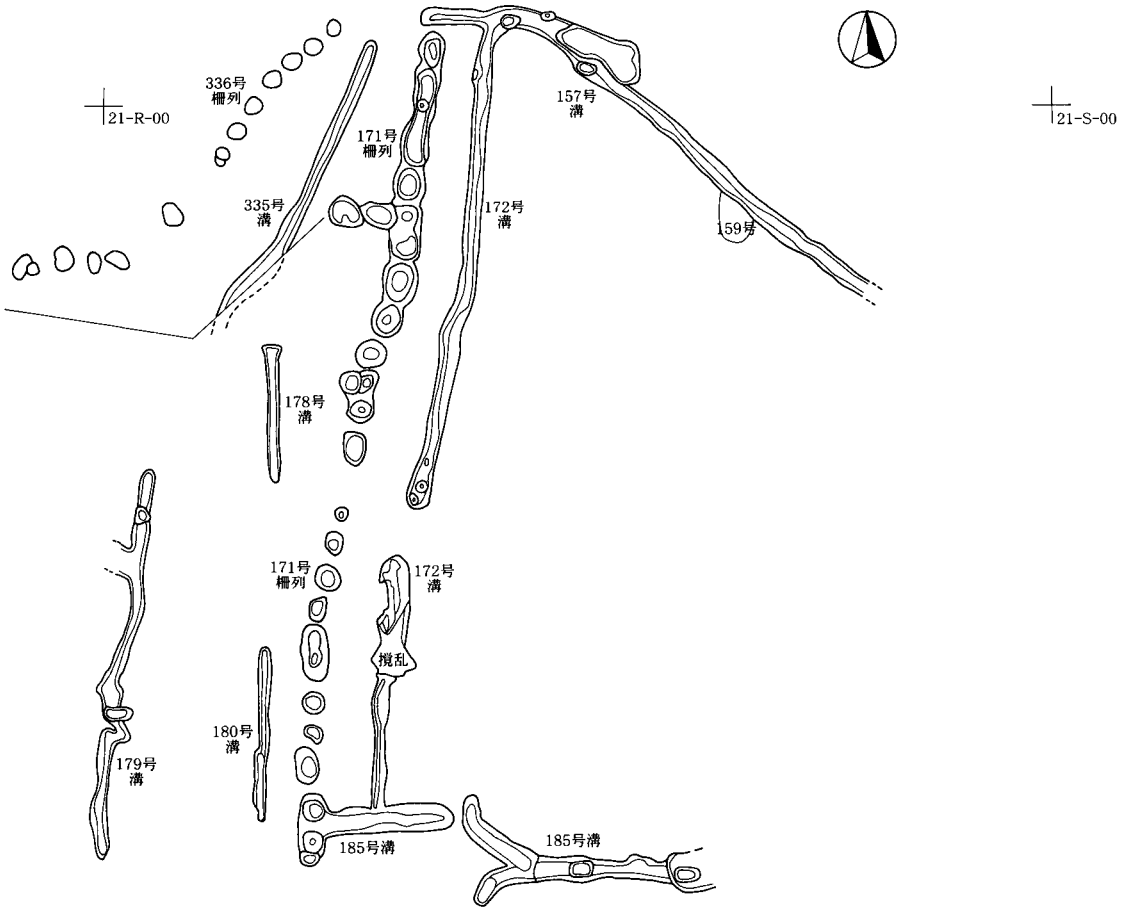
338号柵列は20－P－47区付近で112号溝と直行して分岐し東西方向に44m程、径0.8m～１mほどの 円形もしくは楕円形のピット列で検出されている。075号柵列と20－Q－25区付近で交差してやや北東気味に20m検出されたところで218号柵列の手前2.3mで直角に折れ、218号柵列と並行して17mほど検出されて途切れる。規模等から考えるとこれも植栽列である可能性は高い。

157号溝、172号溝、178号溝、179号溝、180号溝、185号溝、335号溝、171号柵列、336号柵列
（第264図、266図、図版61）

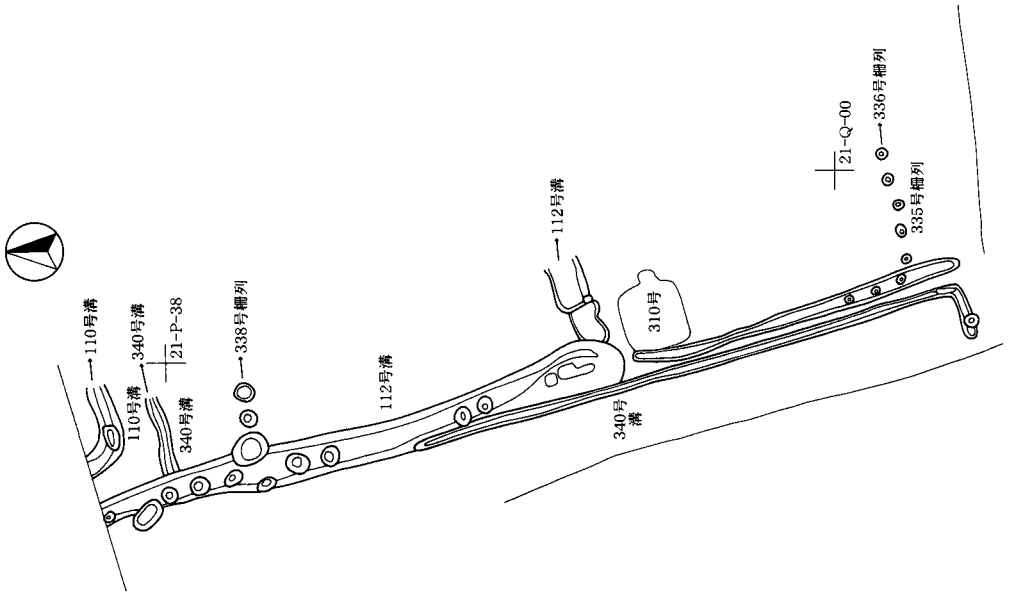
（遺構）157号溝は341号溝が消失した方向から東へ20mほど離れた地点、20－R－94区から21－R－28区付近にかけて検出されている。全長28m、幅1.2m、深さ0.2m前後である。区画のための溝と思われる。

172号溝は20－R－94区付近で157号溝から南方向に分岐する。26m検出された後、一度切れるが同方向にさらに12mほど伸び185号溝と直交して交わる。前後関係については不明である。全長38m、幅1.2m、深さ0.2m前後である。区画のための溝と思われる。

第263図　110号溝、339号溝、340号溝、112号溝、075号柵列、218号柵列、338号柵列平面図(Scale1/400)
及び110号溝、339号溝、340号溝セクション図(Scale1/80)



第264図　157溝、172号溝、178号溝、179号溝、180号溝、185号溝、335号溝、171号柵列、336号柵列平面図(Scale1/400)



第265図　112号溝、340号溝平面図(Scale1/400)

178号溝は335号溝の南側に位置し、21－Ｒ－12区付近から南方向に全長７ｍ、幅0.9m、深さ0.2m前後と浅く南側に行くほど浅くなり消失する。区画のための溝と思われる。

179号溝は180号溝の西側に位置し、21－Ｒ－30区付近から南方向に全長21m、幅0.8m、深さ0.2mでやや不規則に歪んだり、西側にのびていくような部分もあり、区画溝としては企画性に乏しい。

180号溝は178号溝の南側に位置し、21－Ｒ－52区付近から南方向に全長９ｍ、幅0.8m、深さ0.2m前後と浅く南側に行くほど浅くなり消失する。区画のための溝と思われる。

185号溝は21－Ｒ－82区付近で171号柵列、185号溝と直交するように合流する。東西方向に検出されており、分岐した部分も含め24m程検出され東側で浅くなり消失する。幅１ｍ、深さ0.2m程で比較的浅い。区画のための溝と思われる。

335号溝は178号溝の北側にあり、20－Ｒ－92区付近から21－Ｒ－21区付近に北北東から南南西の方向に18m程検出されている。幅１ｍ、深さ0.2m程で比較的浅い。方向的には179号溝と結びつく方向であるが南側の部分では調査時に検出されていない。区画のための溝と思われる。

171号柵列は172号溝の西側ほぼ２ｍに位置し、20－Ｒ－94区付近から21－Ｒ－82区付近にかけて43m程検出されている。径１ｍ前後の様々な大きさの円形もしくは楕円形のピット列からなる。おそらく植栽列になるものかと思われる。溝とピットの２ｍの間に土手がある可能性が考えられる。

207号溝、335号溝、336号柵列（第266図、図版57、61）

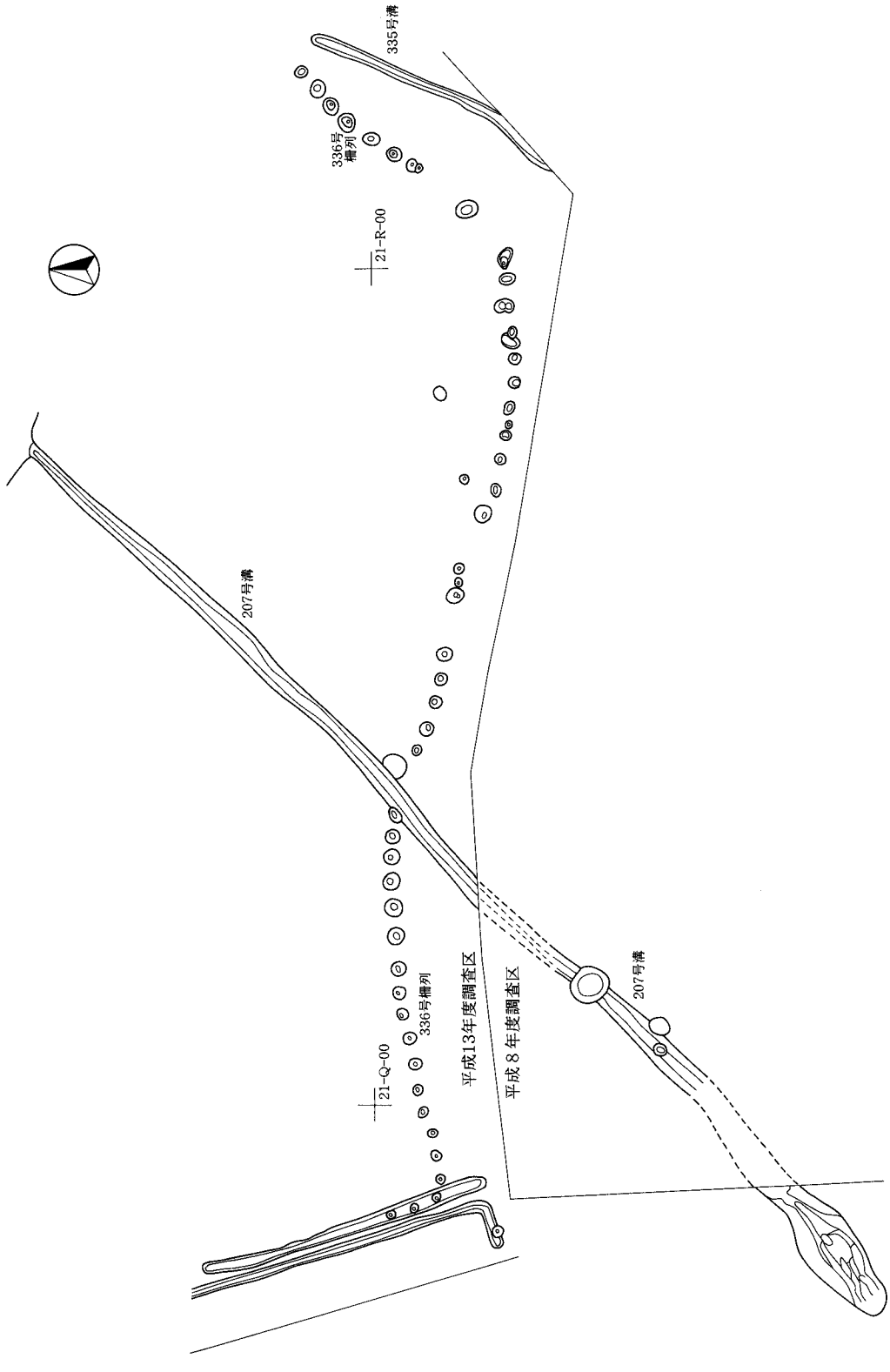
（遺構）209号溝は20－Ｑ－57区付近で112号溝と分岐し、南西方向へ70m程検出され南西端で土坑状になって収束する。その先端部は斜面に向かっており、そのせいかもしれない。幅１ｍ、深さ0.2m前後で205号は埋まった後に溝が作られていたようである。平成８年度調査区域では下層確認調査の段階で掘り抜かれており、本調査時には残っていなかった。南西に斜めに向かう道の可能性もあるが、硬化面が観察されたという記録がないため詳細は不明である。

336号柵列は東西方向に21－Ｐ－09区付近から20－Ｒ－92区付近までやや南北に緩やかに曲がりながら比較的等間隔に小ピットが並ぶ。柵列なのか植栽列なのかは定かではない。209号溝より新しい時期のものと思われる。

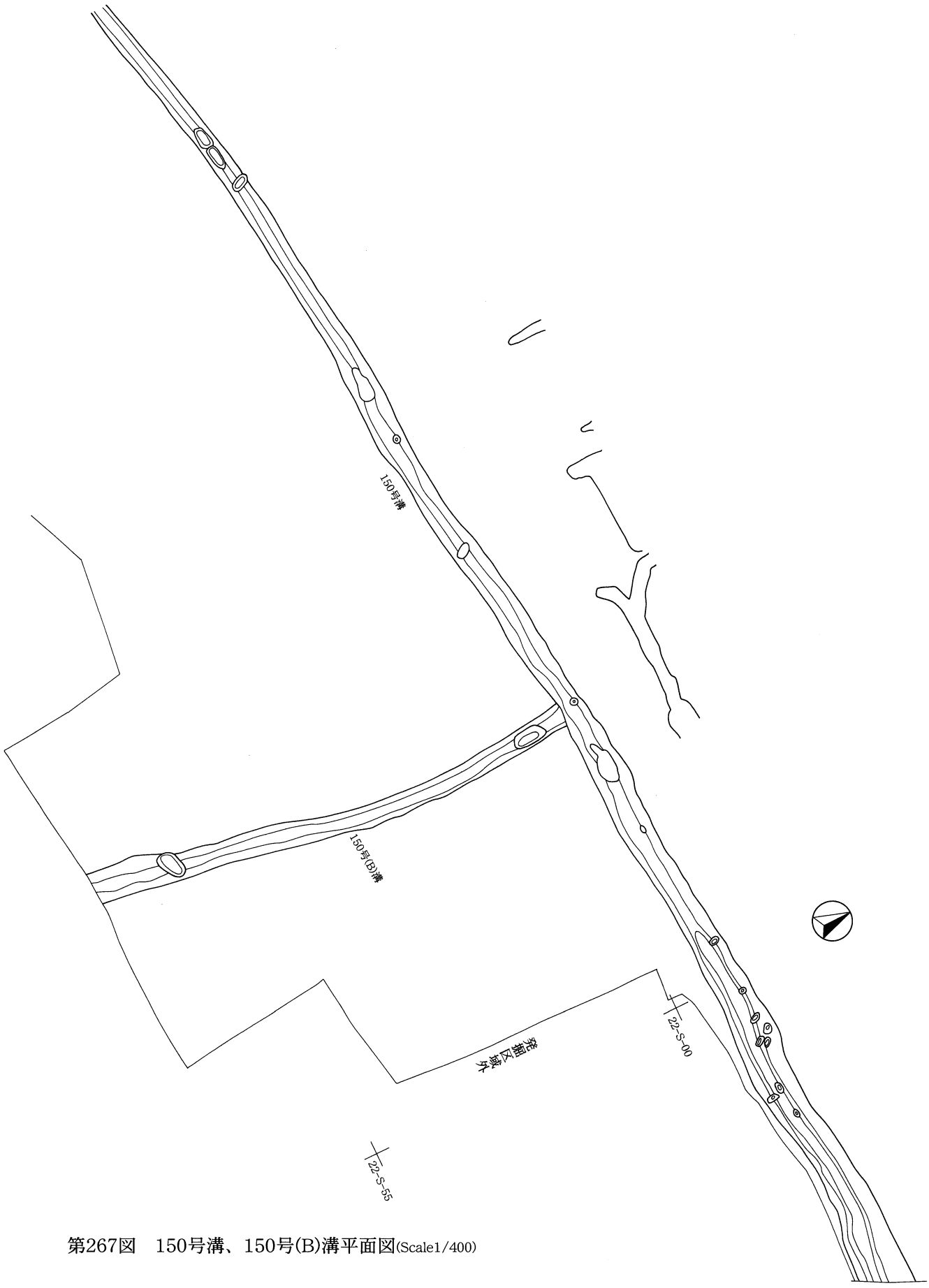
150号溝、150号（Ｂ）溝（第267図、図版36）

（遺構）150号溝は22－Ｑ－13区付近から21－Ｓ－95区付近にかけてほぼ東西に直行する大きな溝である。実測可能な遺物はあまりないため正確な時期は不明であるが、古ければ古代末、新しければ中世初頭あたりに所属する可能性がある。東側の深い場所では１ｍ近い覆土、西側では狭く浅くなるがそれでも幅１ｍ深さ0.3mはある。床面も平坦でしっかりしている。他の溝等よりは古い時期に作られたものと思われる。

150号（Ｂ）溝は150号溝と22－Ｒ－05区付近で分岐し、ほぼ南の方向に斜面直前まで深くなりながら続く。全長は37m程で幅は最大で２ｍほどあり、規模、構造などから推測すると150号溝とほぼ同じ時期に同じような目的で作られたものと思われる。



第266図　207号溝、335号溝、336号柵列平面図(Scale1/400)



第267図　150号溝、150号(B)溝平面図(Scale1/400)

（２）中・近世関係遺物（第268図１～７）

１は001号火葬墓の覆土中から検出された板碑の上半部である。石材は緑がかった粘板岩である。表に文字の様な彫りこみが一部観察されるが内容は定かではない。

２は同じく001号火葬墓の上部から検出された五輪塔の空輪、風輪の部分である。残りの部分については見つかっていない。

３は204号住居跡の覆土中から検出された中世末の陶質の擂り鉢片である。胎土は石英粒を多く含みやや硬質で粗い感が強い。少量ではあるが類似した擂り鉢片が調査区内で検出されている。色調は口縁部がやや灰色がかっているがその他は明るい茶色である。

４は150号（Ｂ）溝から検出された中世の陶質の捏ね鉢の大形破片である。他にも数点同じような破片が検出されている。胎土は石英、長石の比較的大きい粒を多く含み粗い。色調は表裏とも明るい淡褐色である。

５は表採された陶質の土製の管である。色調は暗褐色、胎土は細かく緻密である。中世末頃のものと思われる。

６は154号住居跡一括の遺物の中から採取された凝灰岩製の砥石である。住居跡に所属する遺物の可能性もある。

７は22－Ｑ－44グリッドから検出された泥メンコである。巾着を模倣したものと思われる。近世の遺物かと思われる。

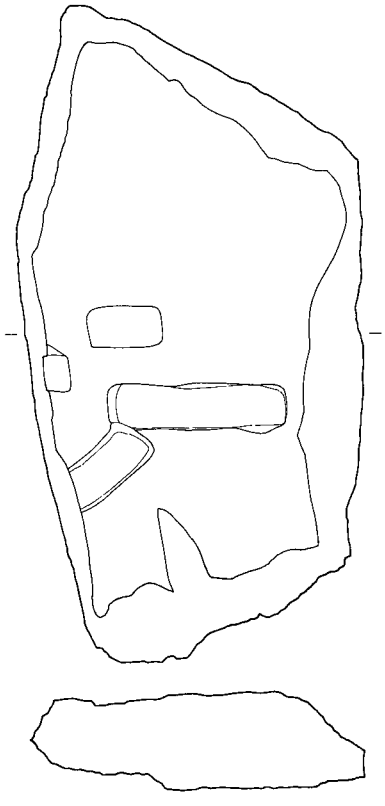
その他に図示していないが、舶来青磁の小椀の高台部分の破片が１点、336号の柵列から検出されている。

（３）金属器等及び銭貨（第269図～270図１～64）

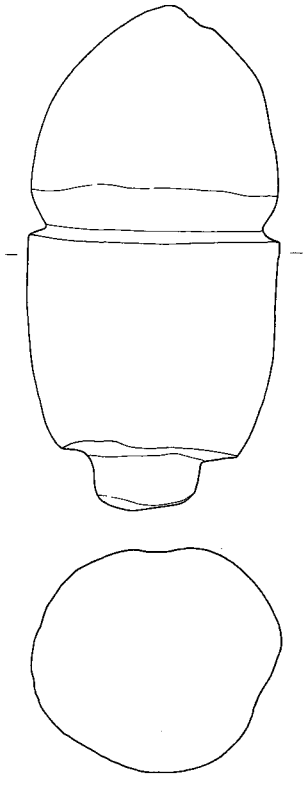
１～３は鉄製品である。１は207号溝の一括で検出された鉄製品で先端部に突起部分があり、鍵ではないかと思われる。２は310号住居跡の一括で検出された鉄製品で棒状の工具の様なものである。住居の所属するものかもしれない。３は331号小竪穴（火葬墓）の覆土中より検出された鉄製品で先端部は欠損しているものの片刃の小刀のようなもので副葬品の可能性がある。

４～５は青銅製品である。４は132号住居跡の一括で検出された青銅製の煙管、５は118号溝の一括で検出された青銅製の煙管である。いずれも近世に遺物である。

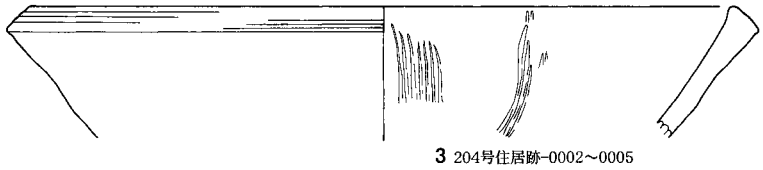
６～64は銅製銭貨である。６～51までは112号溝から検出されている。６は元祐通寶である。初鋳年が1086年の北宋銭である。７は至道通寶である。初鋳年が995年の北宋銭である。８は洪武通寶である。初鋳年が1368年の明銭である。９は天聖元寶である。初鋳年1023年の北宋銭である。10は永楽通寶である。初鋳年1408年の明銭である。なお、裏に１枚不明の銅銭が付着している。11、12は皇宋通寶である。初鋳年が1038年の北宋銭である。なお、11には裏に１枚不明の銅銭が付着している。13は熙寧元寶である。初鋳年が1068年の北宋銭である。14は元符通寶である。初鋳年が1098年の北宋銭である。15は熙寧元寶である。初鋳年が1068年の北宋銭である。16は洪武通寶である。初鋳年が1368年の明銭である。17は熙寧元寶である。初鋳年が1068年の北宋銭である。18は皇宋通寶である。初鋳年が1038年の北宋銭である。19は洪武通寶である。初鋳年が1368年の明銭である。背に「銭」と書かれている。20は大観通寶である。初鋳年が1107年の北宋銭である。21は景徳元寶である。初鋳年が1004年の北宋銭である。1/3程欠損している。22は洪武通寶である。初鋳年が1368年の明銭である。23は不明である。24は天禧通寶である。初鋳年が1017年の北宋銭である。25は元豊通寶である。初鋳年が1078年の北宋銭である。26は熙寧元寶である。初鋳年が1068年の



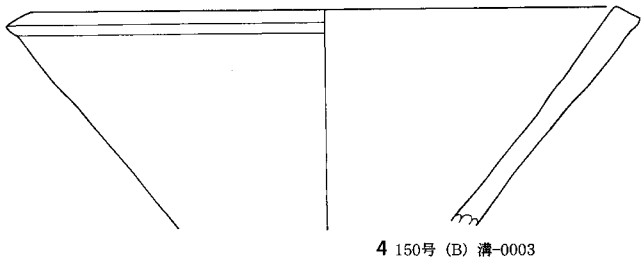
1 001号火葬墓-0043



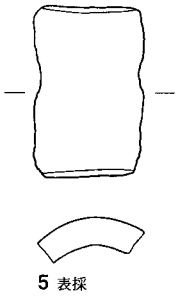
2 001号火葬墓-0002



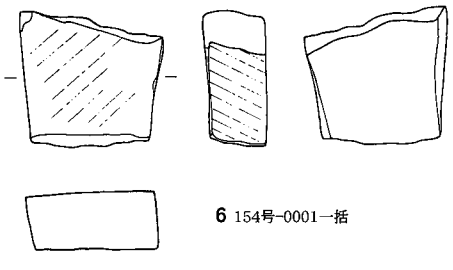
3 204号住居跡-0002～0005



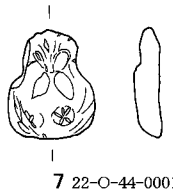
4 150号（B）溝-0003



5 表採



6 154号-0001一括

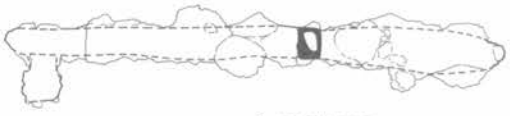


7 22-O-44-0001

0　10、20cm

（1～4は1/4、5～7は1/2）

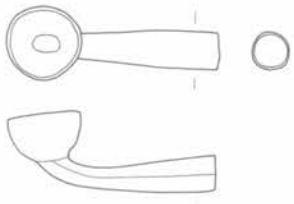
第268図　中・近世関係遺物実測図



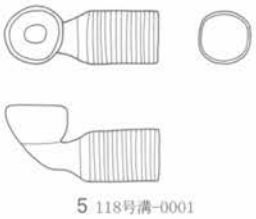
1 207号溝-0001

2 310号住居跡-0031

3 33号小竪穴-0001



4 132号住居跡-0001



5 118号溝-0001

6 112号溝-0002

7 112号溝-0003

8 112号溝-0003

9 112号溝-0003

10 112号溝-0002（2枚）

11 112号溝-0003（2枚）

12 112号溝-0004

13 112号溝-0004

14 112号溝-0004

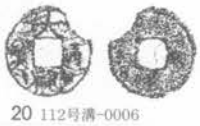
15 112号溝-0006

16 112号溝-0006

17 112号溝-0006

18 112号溝-0006

19 112号溝-0006



20 112号溝-0006

21 112号溝-0007

22 112号溝-0008

23 112号溝-0008

24 112号溝-0009

25 112号溝-0009

26 112号溝-0009

27 112号溝-0009+0017

28 112号溝-0010

29 112号溝-0011

30 112号溝-0012

31 112号溝-0013

32 112号溝-0014

33 112号溝-0014

34 112号溝-0014

35 112号溝-0014（2枚）

36 112号溝-0015（2枚）

37 112号溝-0016

38 112号溝-0016

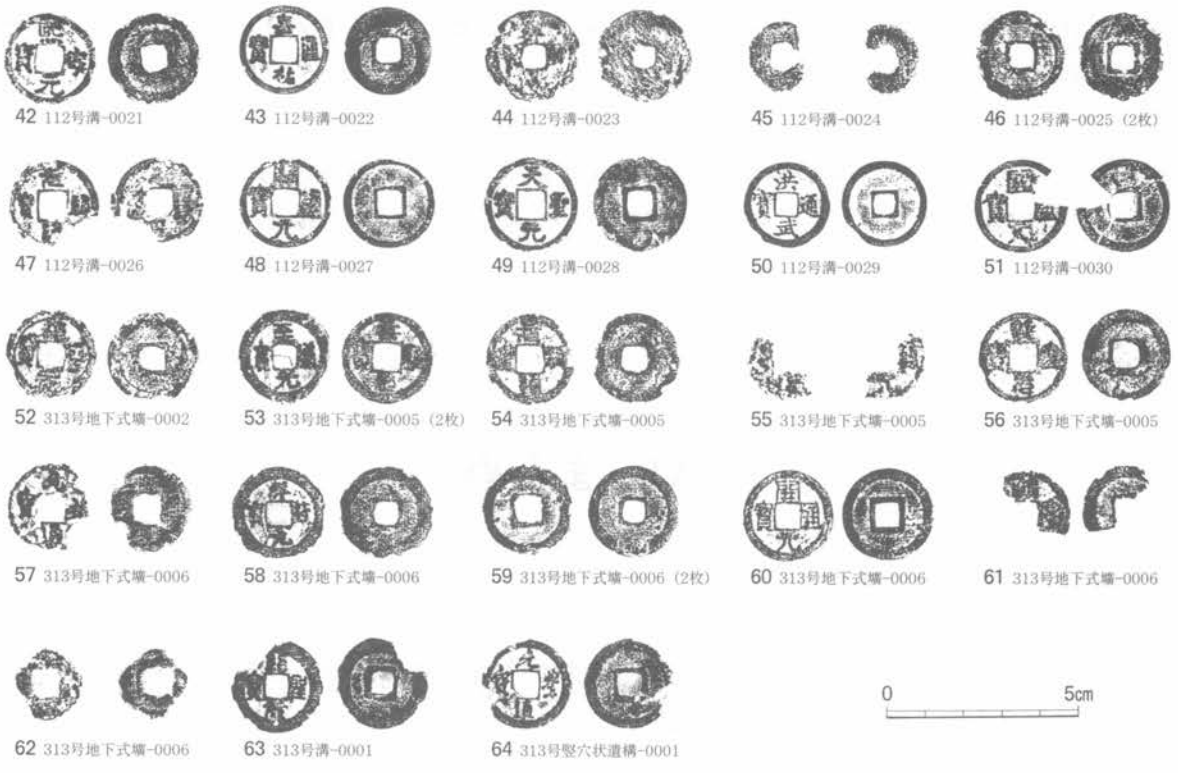
39 112号溝-0018

40 112号溝-0019

41 112号溝-0020

0 5cm

第269図　金属器等実測図及び銭貨拓影図（1）(Scale 1/2)



第270図　銭貨拓影図（２）（Scale 1/2）

北宋銭である。27は開元通寶である。初鋳年が621年の唐銭である。1/2程度欠損している。28は皇宋通寶である。初鋳年が1038年の北宋銭である。29は皇宋通寶かと思われるが文字が不鮮明なため断定できない。初鋳年が1038年の北宋銭である。30は永楽通寶である。初鋳年が1408年の明銭である。31は元祐通寶かと思われるが文字が不鮮明なため判断できない。初鋳年が1086年の北宋銭である。32は祥符元寶である。初鋳年が1009年の北宋銭である。33は永楽通寶である。初鋳年が1408年の明銭である。34は熙寧元寶である。初鋳年が1068年の北宋銭である。35は景徳元寶である。初鋳年が1004年の北宋銭である。なお、裏に１枚不明の銅銭が付着している。36は２枚が付着しており、表側が元祐通寶で初鋳年が1086年の北宋銭である。裏側が天聖元寶で初鋳年が1023年の北宋銭である。37は大観通寶である。初鋳年が1107年の北宋銭である。一部が欠損している。38は元豊通寶である。初鋳年が1078年の北宋銭である。39は永楽通寶である。初鋳年が1408年の明銭である。40は景徳元寶である。初鋳年が1004年の北宋銭である。41は元豊通寶である。初鋳年が1078年の北宋銭である。42は熙寧元寶である。初鋳年が1068年の北宋銭である。43は嘉祐通寶である。初鋳年が1056年の北宋銭である。44は祥符元寶である。初鋳年が1009年の北宋銭である。やや劣化が進んでいる。45、46は劣化が著しく文字が判読できない。46は２枚重なっているが２枚とも文字の判読ができない。47は元祐通寶である。初鋳年が1086年の北宋銭である。48は開元通寶である。初鋳年が621年の唐銭である。49は天聖元寶である。初鋳年が1023年の北宋銭である。50は洪武通寶である。初鋳年が1368年の明銭である。51は開元通寶である。初鋳年が621年の唐銭である。半分欠損している。

52～62は313号地下式壙から検出されている。52は治平元寶である。初鋳年が1064年の北宋銭である。53は２枚重なっている。表が至道元寶である。初鋳年が995年の北宋銭である。裏が嘉祐通寶である。初鋳年

が1056年の北宋銭である。54は元祐通寶である。初鋳年が1086年の北宋銭である。55は開元通寶である。初鋳年が621年の唐銭である。半分欠損している。56は至道元寶である。初鋳年が995年の北宋銭である。57は元祐通寶である。初鋳年が1086年の北宋銭である。一部欠損が見られる。58は祥符元寶である。初鋳年が1009年の北宋銭である。59は２枚が重なってどちらも裏面で文字の判別が不可能なものである。60は開元通寶である。初鋳年が621年の唐銭である。開元通寶の中では一番遺存状況が良好である。61、62はいずれも一部しか残っておらず文字の判読は不可能である。63は207号溝から検出された紹聖元寶である。初鋳年が1094年の北宋銭である。64は319号竪穴状遺構から検出された元豊通寶である。初鋳年が1078年の北宋銭である。

Ⅵ　まとめ

旧石器時代　Ⅲ層～Ⅳ層にかけての石器集中地点が８カ所で把握された。第１、２地点はⅣ層の立川ローム Ⅳ層相当の切り出しタイプの小形のナイフ形石器を伴う石器群で、多くは第２地点のように礫群を伴うことがある。また、第３～８地点は過去の印旛郡市の調査[1)]で検出された旧石器時代の石器群と同じⅢ層の細石刃前後の石器群で、定形的な石器は少なく小形のやや不整形な剥片を伴うことが多い。いずれの石器集中地点も内容から判断して比較的小規模な行動の結果残されたことは明らかである。また第１地点と第２地点の石器そのものは似通った石材を使用しており、ほぼ同時期の活動の結果残されたものと思われるが連続性ははっきりと認めることはできない。Ⅲ層の細石刃を伴う石器群及びⅣ層に主体を持つ小形のナイフ形石器伴う石器群ともに小集団が比較的短期間、単発的に活動していた遺跡ということができる。

縄文時代　台地の西側の一角に縄文時代早期の一時期の土器が検出されており、中程で炉も検出されており定住的な要素は少なからず見られる。さらに調査区内の台地上の周辺を中心に陥穴54基や土坑14基といった遺構があり、印旛郡市の調査[2)]でも同様な陥穴が33基検出されており主体的な場の機能としては狩猟採集といった活動がなされていた遺跡ということができる。また少なくとも陥穴はⅠ類～Ⅳ類に分類されたもので形態ごとに時期が異なる可能性がある。切り合い関係からⅠ類の細長い溝状の090号陥穴よりⅢ類の方形の080号陥穴の方が新しい時期に作られていたことが判る。またⅣ類の064号陥穴の上層からまとまって縄文時代中期阿玉台式の土器片がまとまって出土しており、これらの形態の陥穴はそれ以前の活動の結果残されたものと考えられる。包含層の土器や石器などが比較的早期の時期にまとまっていることが明らかであるため狩猟採集を行うための臨時の拠点がこの場所である可能性が高い。隣の台ノ田Ⅱ遺跡[3)]でも似たようなことが窺われる。

古墳時代　古墳時代を通じて小規模な集落が形成されていたことが住居跡の調査からわかっている。021号住居跡では多くの赤彩された特殊な形の高杯や坩などが検出されており当該時期の資料としては注目されるものと思われる。また古墳時代後期の時期には比較的多くの住居跡が見つかっており、この時期に集落としては最大規模であったと思われる。

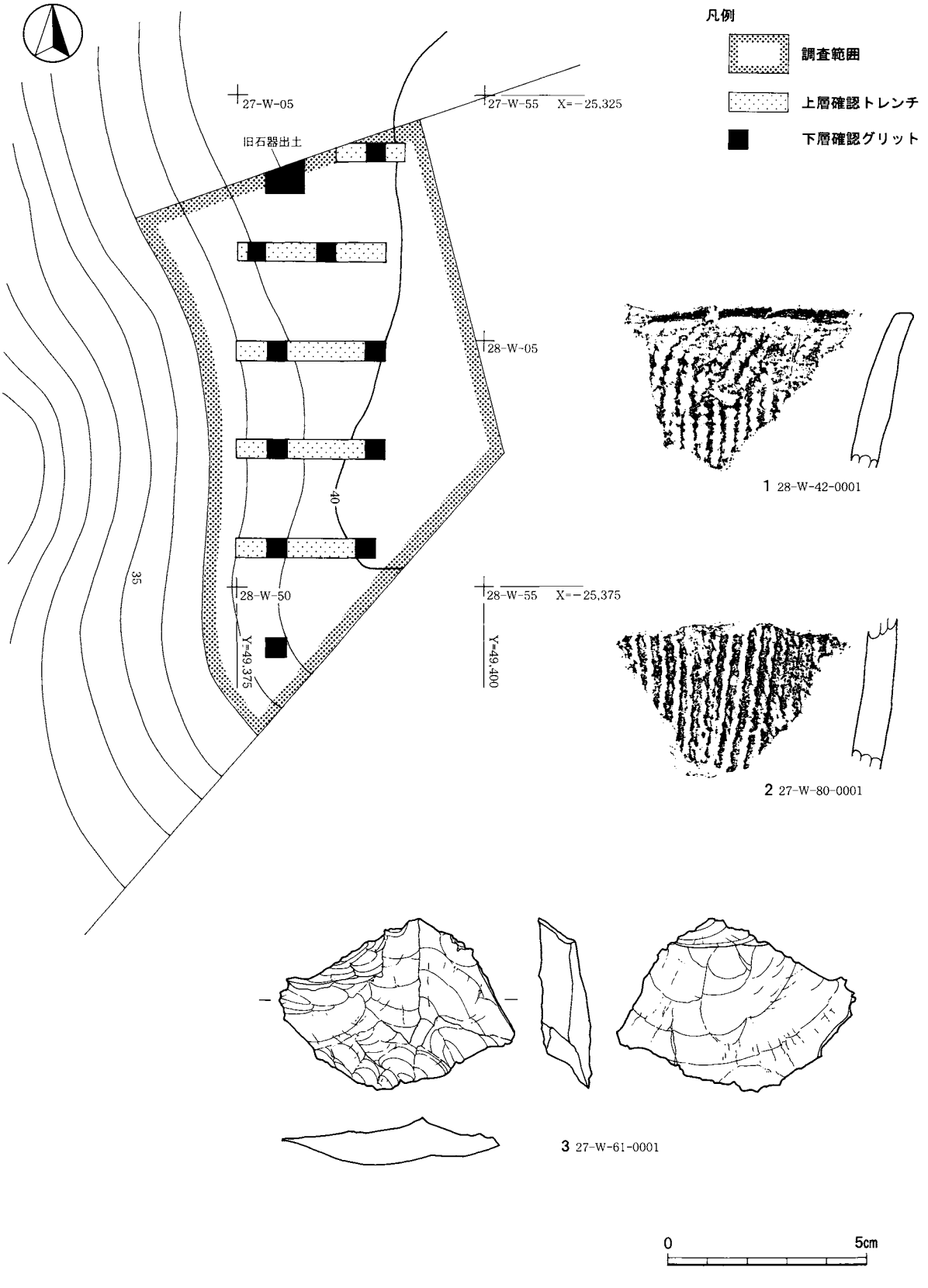
奈良～平安時代　数軒の住居跡が見られるところから前時代に引き続き小規模な生活の場であったことは想像に難くない。また時期はあまりはっきりしないものの小鍛冶跡と思われる154号住居跡や廃滓跡と思われる152号土坑など製鉄関連遺構の存在も注目される。209号住居跡、311号住居跡などは長方形のやや不

規則な形態と柱穴がないもので簡単な上屋構造の建物の可能性が高い住居跡での灯明皿の存在など興味深い資料も多い。

中・近世　001号火葬墓と伴い出土した五輪塔（空風輪のみ）、板碑片があり墓石としての供養塔として立てられていたことが理解できる良好な資料と思われる。また、いくつかの小竪穴が火葬墓あるいは土葬墓などとして作られていたり、地下式壙が小竪穴を壊して作られていたりしており、中世末頃の墓制を探るうえで貴重な資料となると思われる。さらに東側で中世の掘立柱建物跡とそれを取り囲む様に溝と溝に並行する柵列もしくは植栽列の存在があり、またその周辺には中近世の居住域と生産地とに区画のための溝を設けている可能性が考えられる溝があり、当時の生活生産を考える上で貴重な資料になるかと思われる。

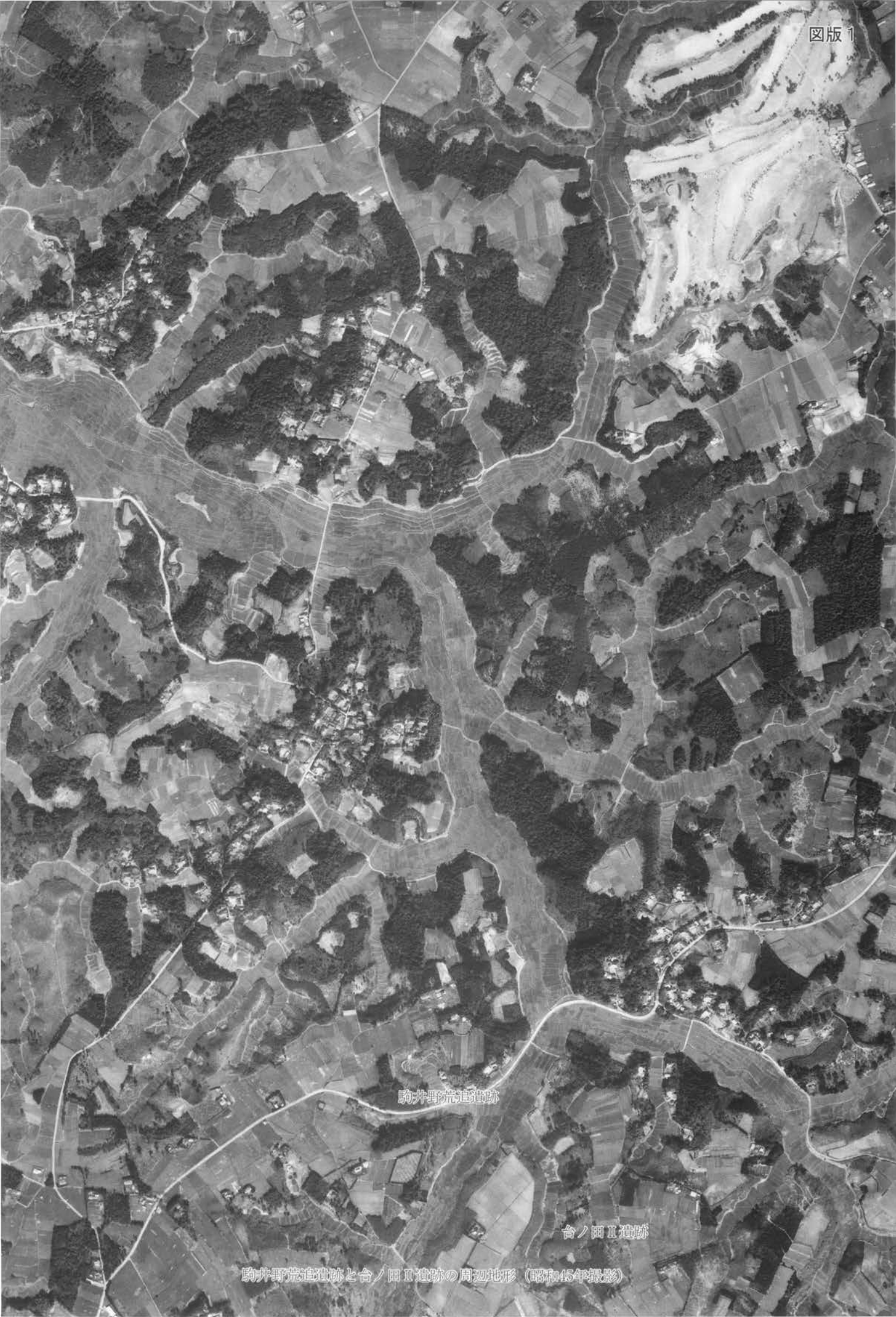
注１　林田利之　1992　『駒井野荒追遺跡』（財）印旛郡市文化財センター
　２　同上
　３　蜂屋孝之　1997　『成田市台ノ田Ⅱ遺跡』（財）千葉県文化財センター

第271図　台ノ田Ⅱ遺跡位置図 (Scale 1/2500)



第272図　台ノ田Ⅱ遺跡確認調査範囲 (Scale 1/600) 及び出土遺物実測図 (Scale 2/3)

写　真　図　版



駒井野荒追遺跡と台ノ田Ⅱ遺跡の周辺地形（昭和45年撮影）

図版２

平成６年度調査前風景

平成７年度調査前風景

平成12年度調査前風景

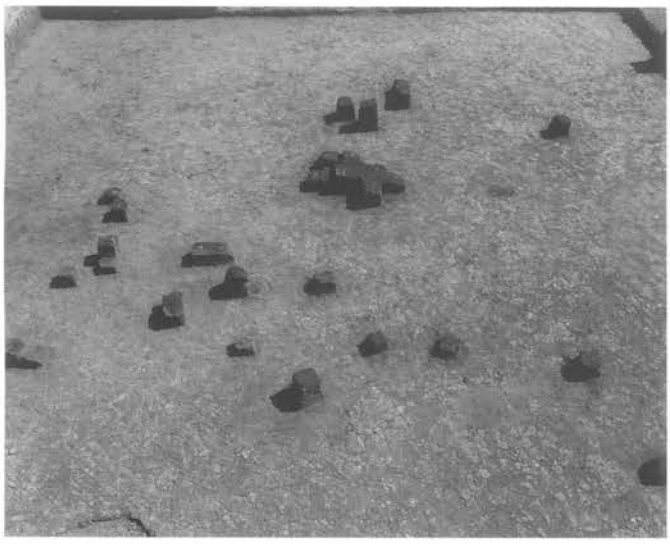
基本層序(20-O-20グリット北面)-平成６年度

基本層序(22-O-57グリット北面)-平成７年度

基本層序(20-Q-46グリット北面)-平成13年度

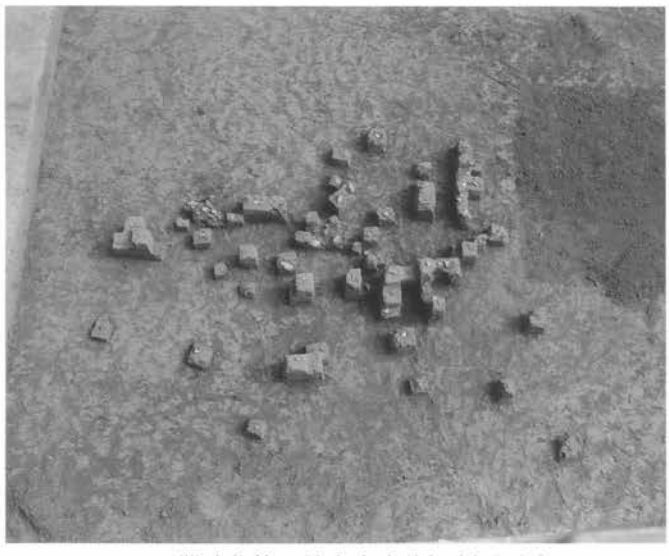
平成13年度上層確認トレンチ

平成13年度上層遺構分布状況(西から)



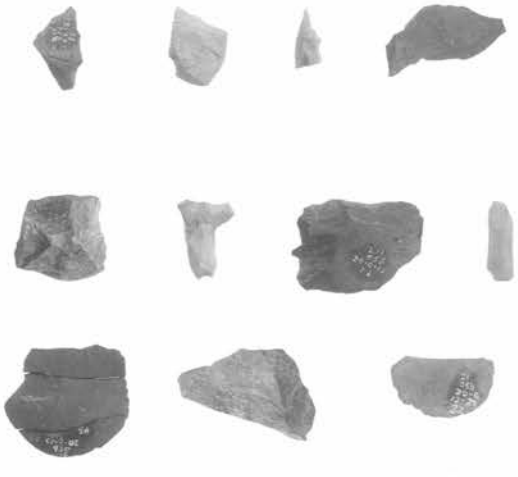
旧石器時代第１地点出土状況
（19-O-92～20-O-04プレ）

旧石器時代第１地点出土遺物

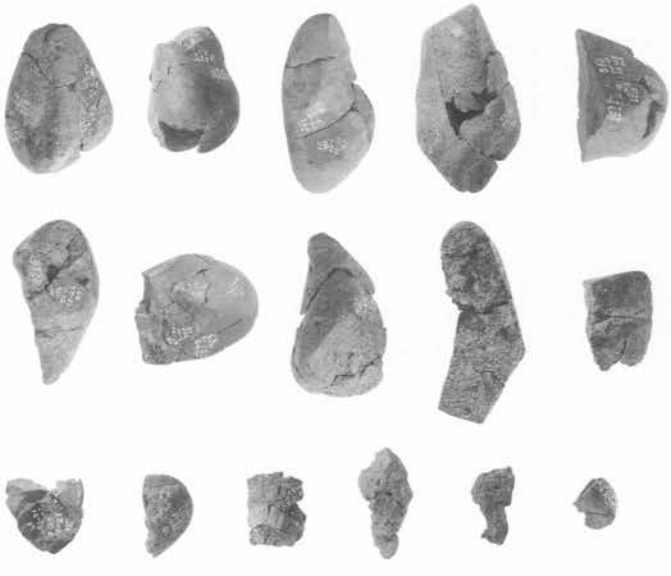


旧石器時代第２地点出土状況（上から）
（20-O-22プレ、礫群含む）

旧石器時代第２地点出土状況（横から）
（20-O-22プレ、礫群含む）



旧石器時代第１地点出土遺物



旧石器時代第２地点（第１礫群）接合礫

図版４

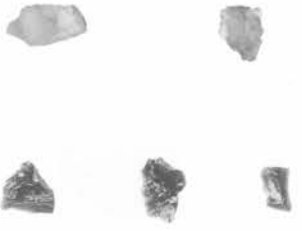
旧石器時代第３地点出土状況
(21-O-83～95プレ)

旧石器時代第３地点出土状況

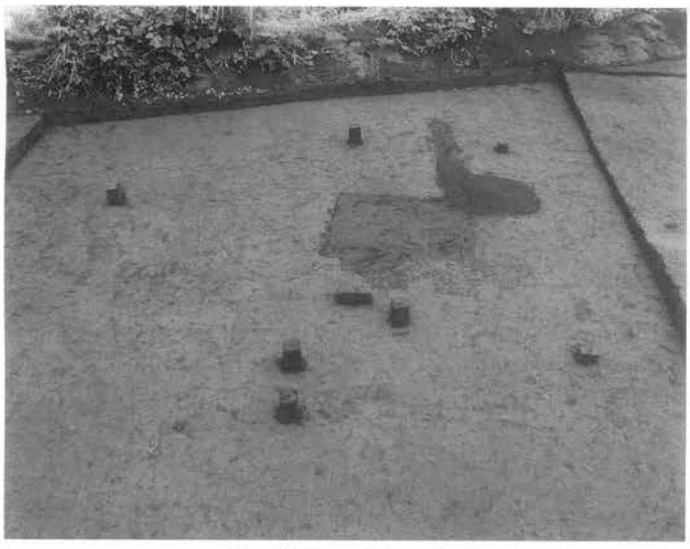
旧石器時代第４地点出土状況
(21-O-56～77プレ)

旧石器時代第４地点出土状況

旧石器時代第５地点出土状況
(21-O-99～21-P-00プレ)



旧石器時代第５地点出土状況



旧石器時代第６地点出土状況
（21-Ｐ-12～23プレ）

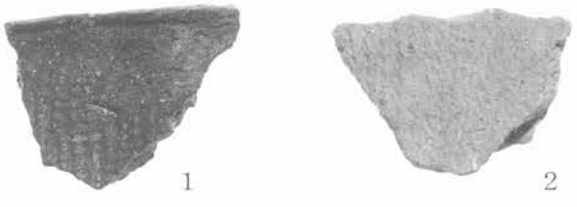
旧石器時代第６地点出土状況

台ノ田Ⅱ(2)遺跡調査前風景

台ノ田Ⅱ(2)遺跡確認調査

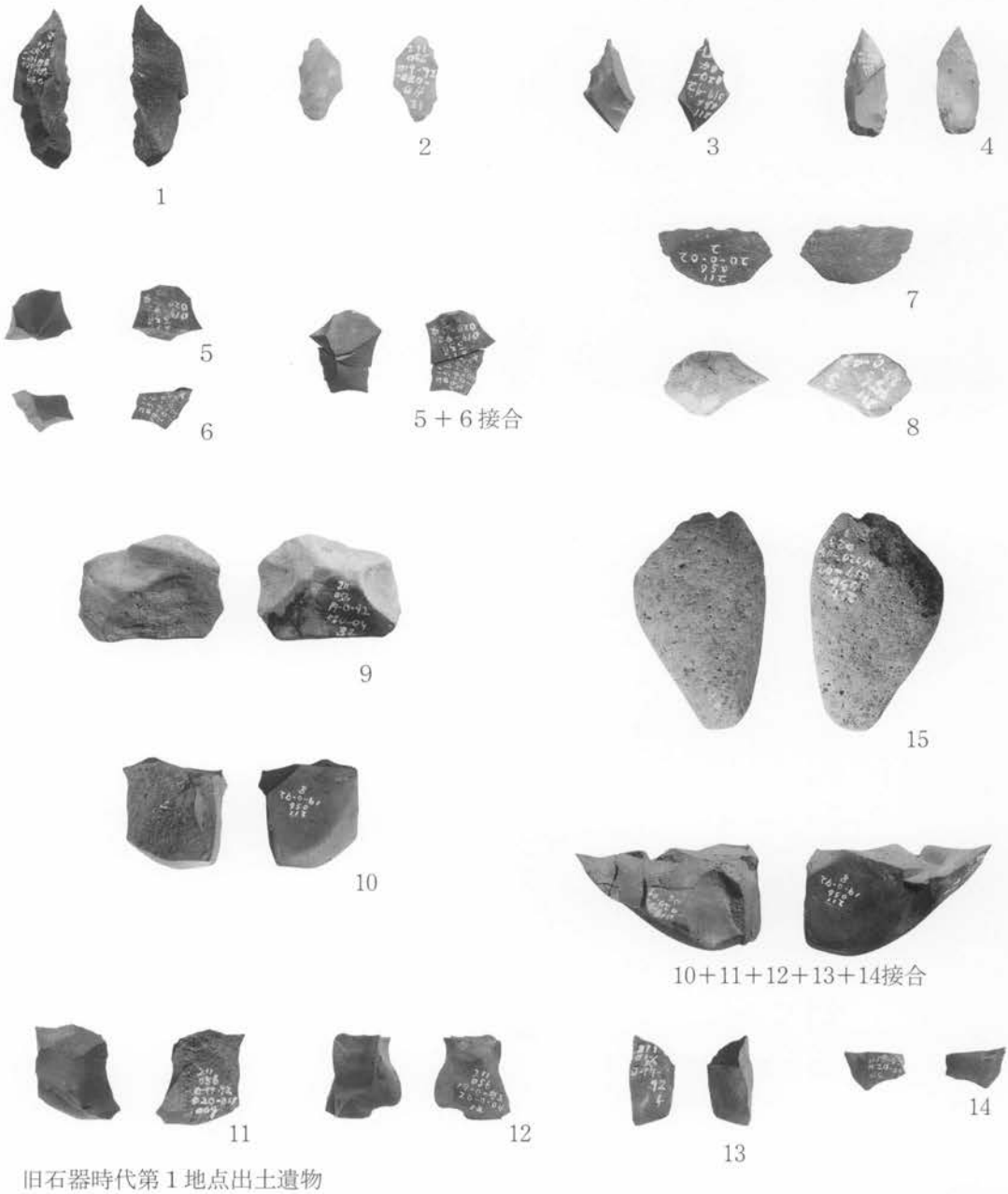
3

台ノ田Ⅱ(2)遺跡出土旧石器時代遺物

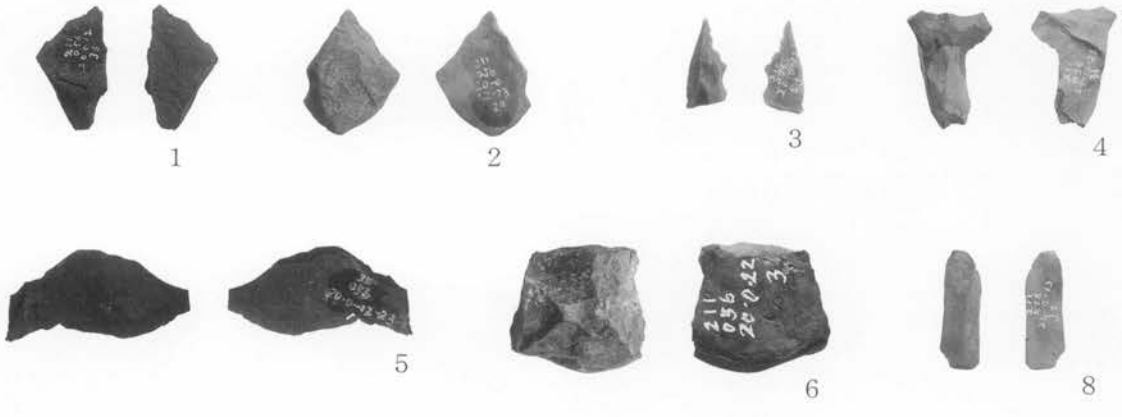


1　　2

台ノ田Ⅱ(2)遺跡出土旧石器時代遺物



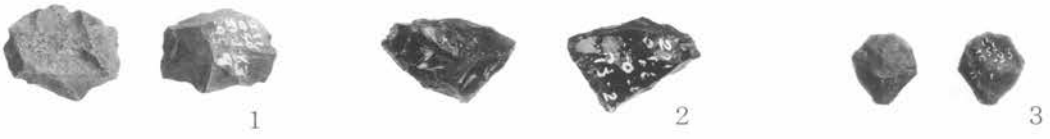
旧石器時代第１地点出土遺物



旧石器時代第２地点出土遺物１

9＋10＋11接合

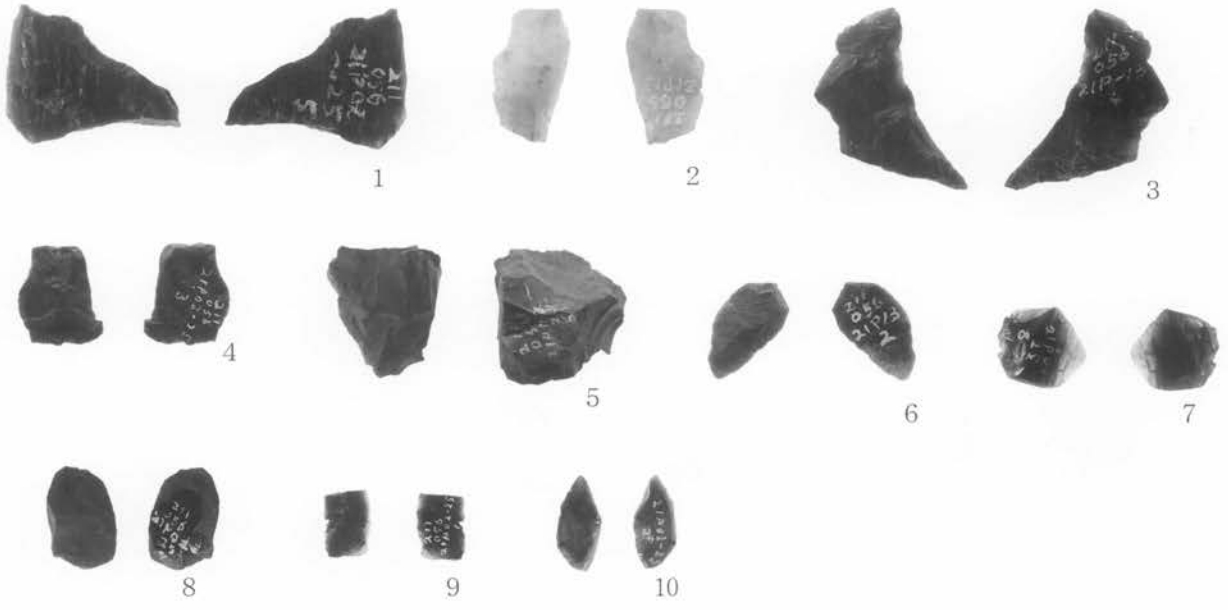
旧石器時代第２地点出土遺物２



旧石器時代第３地点出土遺物

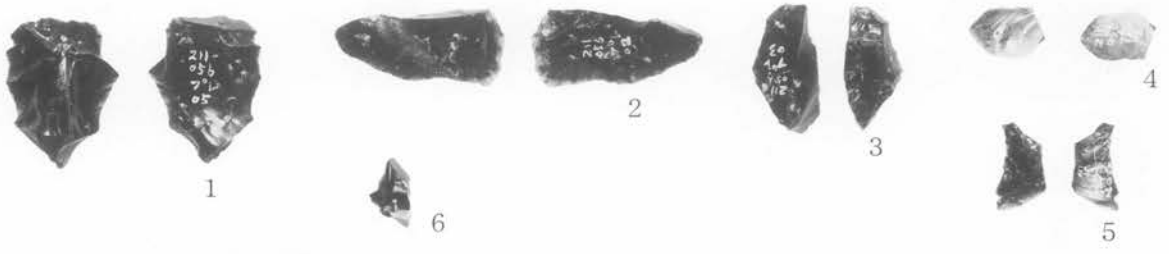
旧石器時代第４地点出土遺物

旧石器時代第５地点出土遺物



旧石器時代第６地点出土遺物

旧石器時代第７地点出土遺物



旧石器時代第８地点出土遺物

旧石器時代確認グリット他出土遺物

005号陥穴全掘

007号土坑全掘

009号陥穴全掘

011号陥穴全掘

017号土坑全掘

018号陥穴全掘

024号陥穴全掘

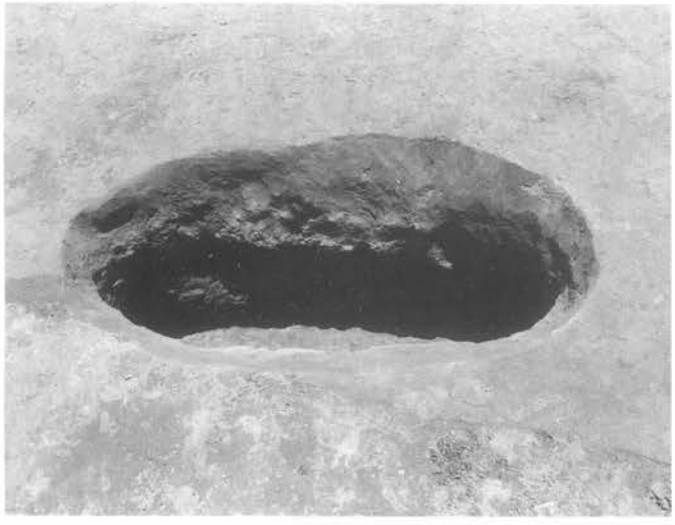
028号土坑全掘

031号陥穴全掘

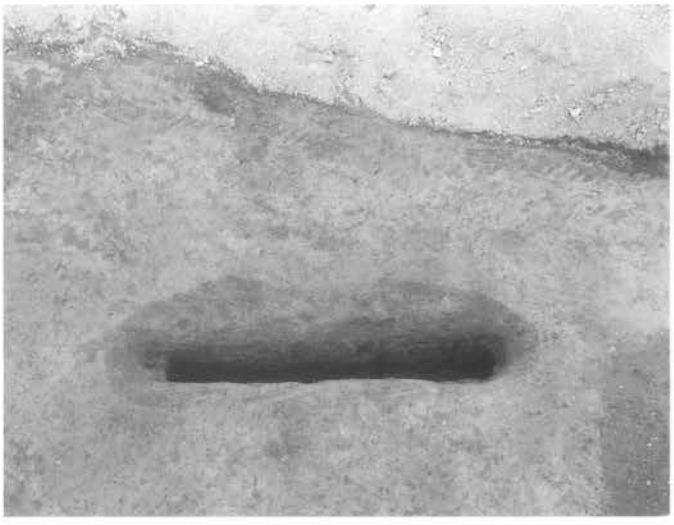
032号陥穴全掘

032号陥穴セクション

038号陥穴・039号土坑全掘



046号陥穴全掘



047号陥穴全掘

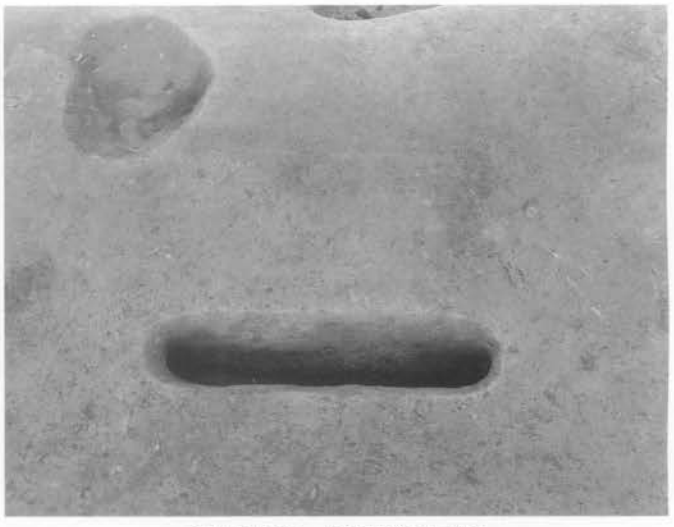
048号陥穴全掘

055号陥穴全掘

056号陥穴復元

056号陥穴全掘

057号陥穴全掘

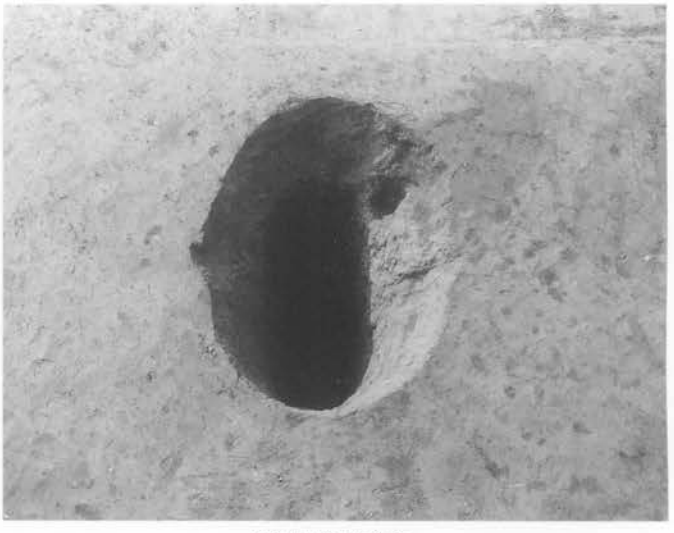


058号土坑・059号陥穴全掘

058号土坑全掘

060号陥穴全掘

061号陥穴全掘



064号陥穴全掘

053号陥穴全掘

080号陥穴セクション

080号陥穴全掘

081号陥穴全掘

085号陥穴全掘

089号陥穴全掘

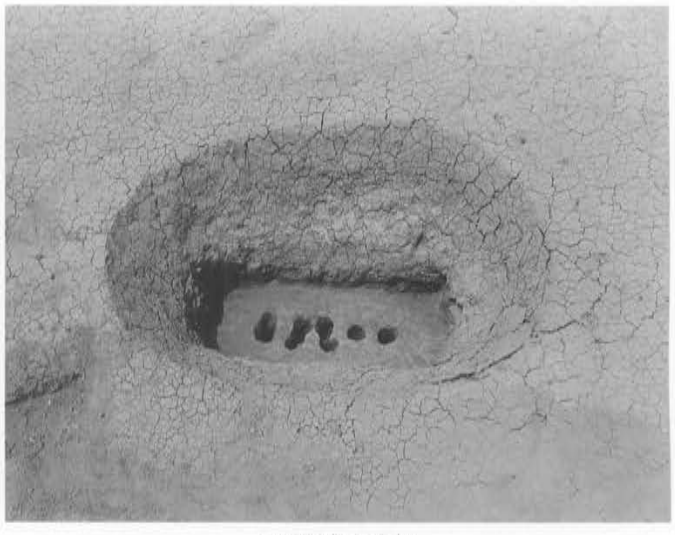
090号陥穴全掘

100号陥穴全掘

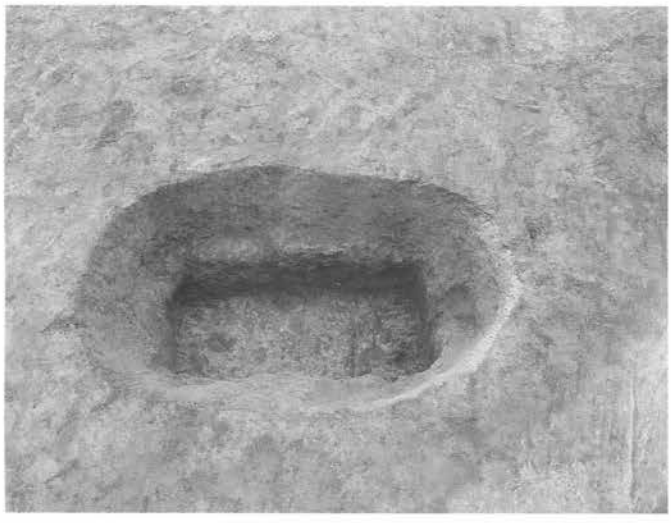
101号陥穴全掘

103号陥穴全掘

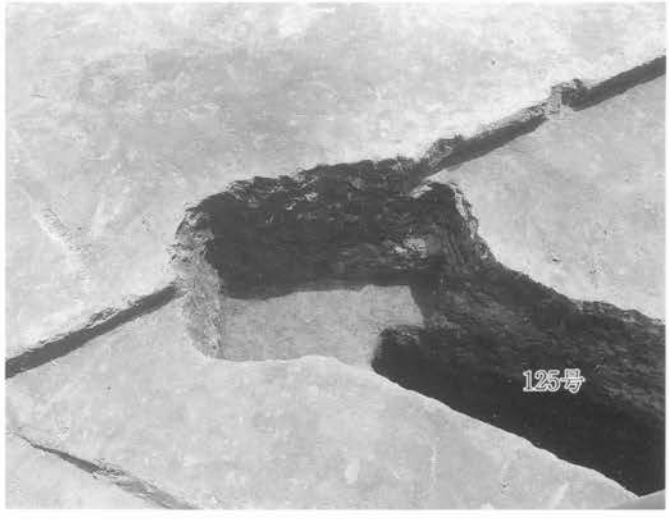
114号陥穴全掘



115号陥穴全掘

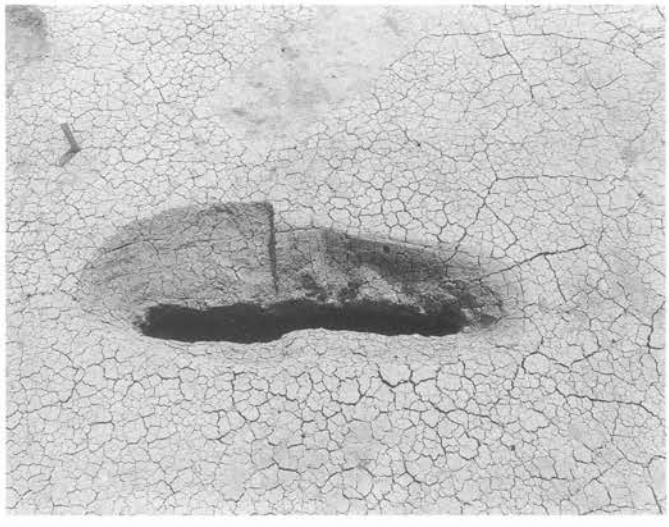


116号陥穴全掘

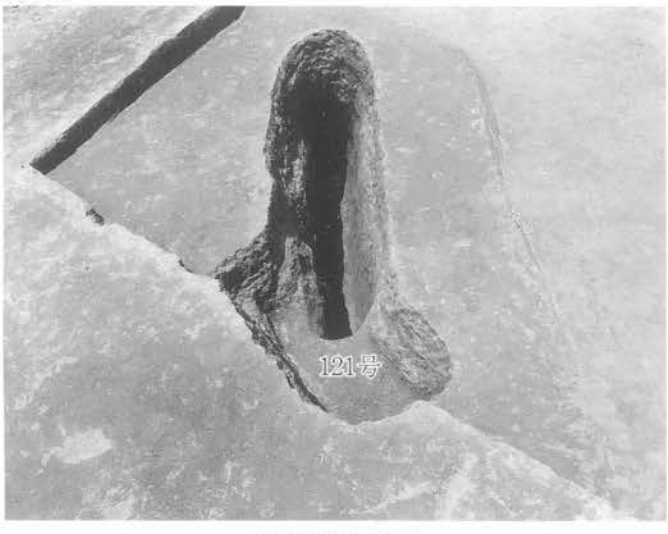


121号陥穴全掘

122号土坑全掘



123号陥穴全掘



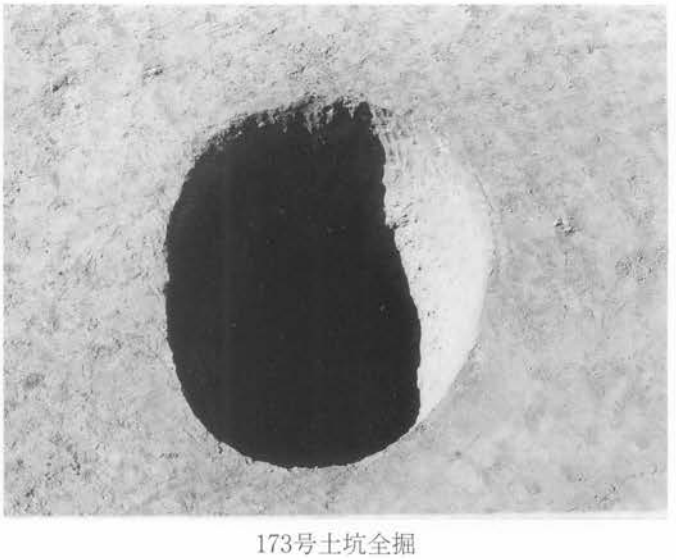
125号陥穴全掘

130号陥穴全掘

135号陥穴全掘

136号陥穴全掘

168号陥穴全掘

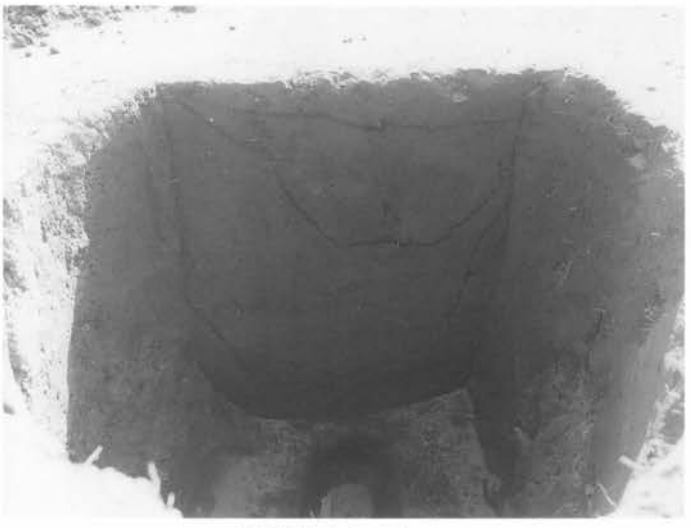


173号土坑全掘

181号土坑全掘

182号陥穴全掘

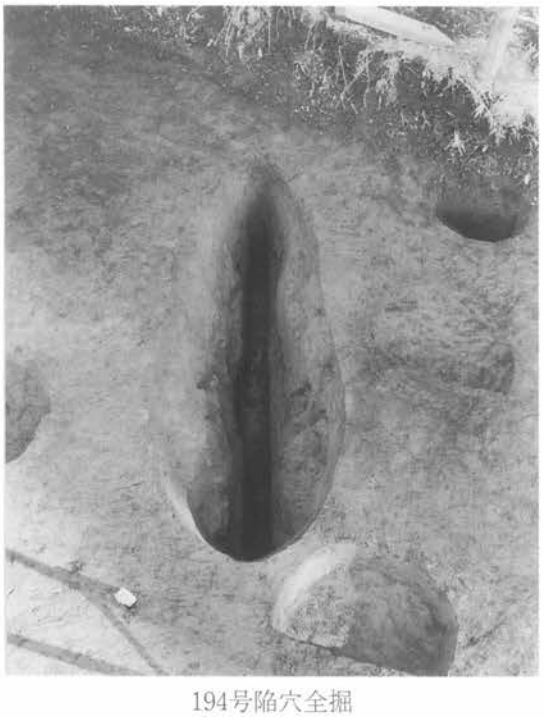
183号陥穴全掘



183号陥穴セクション

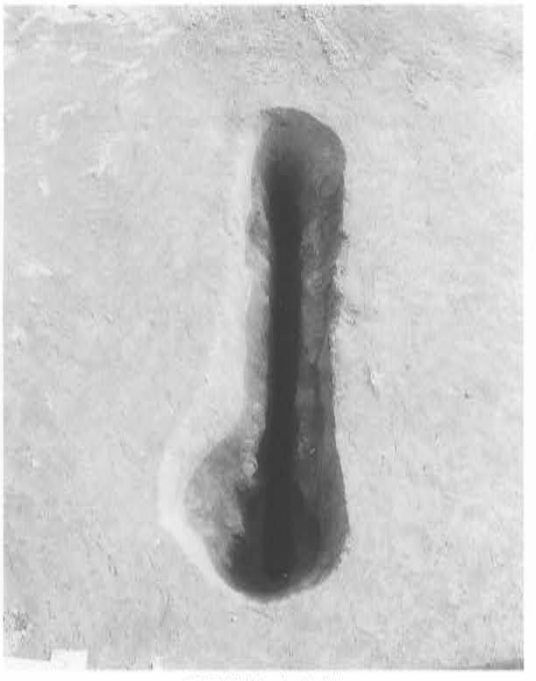
184号陥穴全掘

192号陥穴全掘



194号陥穴全掘

192号陥穴セクション



195号陥穴全掘

216号陥穴セクション

302号陥穴（左半分）

216号陥穴全掘

302号陥穴（上部構造）

304号土坑全掘

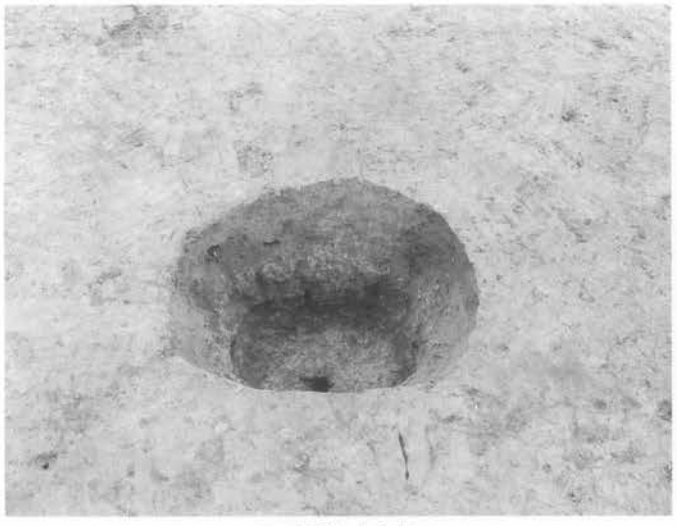
305号土坑全掘

306号陥穴全掘

308号陥穴セクション

308号陥穴全掘

309号陥穴セクション



309号陥穴全掘

322号陥穴全掘

323号陥穴全掘

324号土坑全掘

326号陥穴全掘

327号土坑全掘

329号陥穴全掘

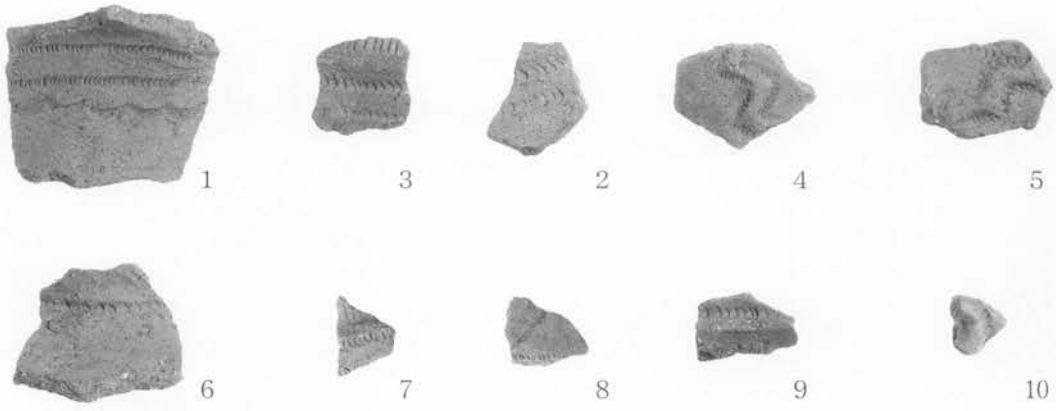
330号陥穴セクション

330号陥穴全掘

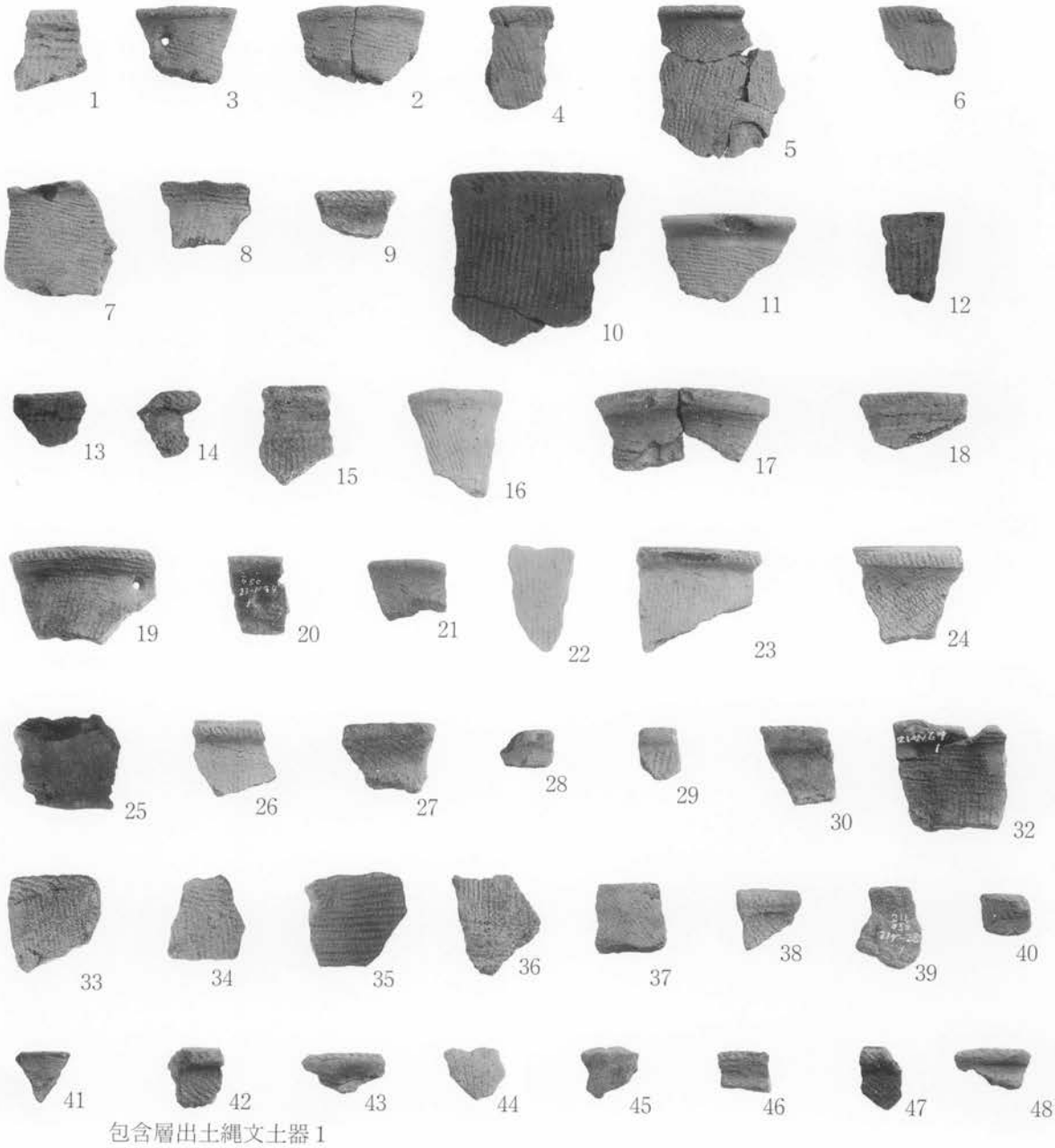
332号陥穴全掘

333号陥穴全掘

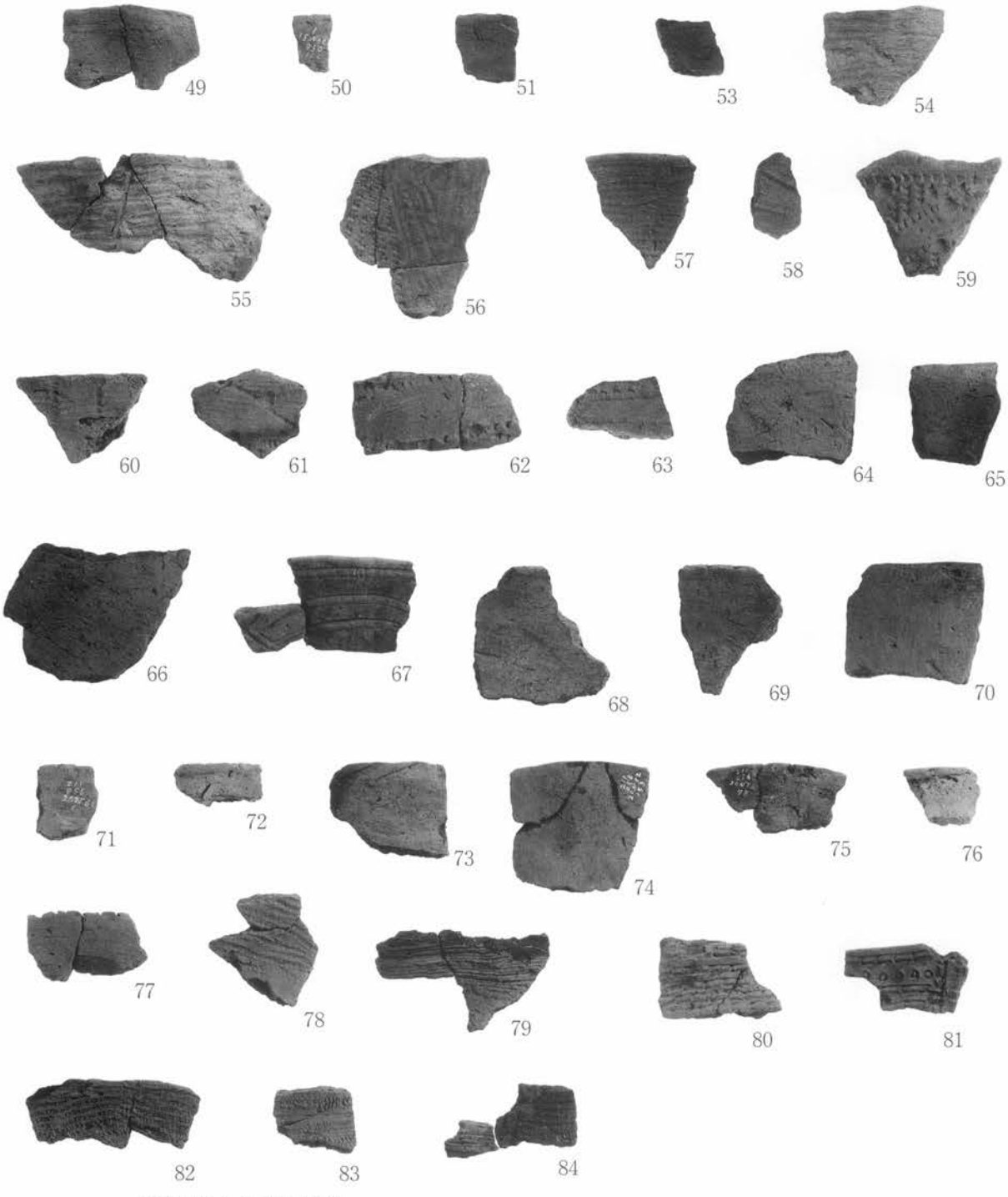
337号陥穴全掘



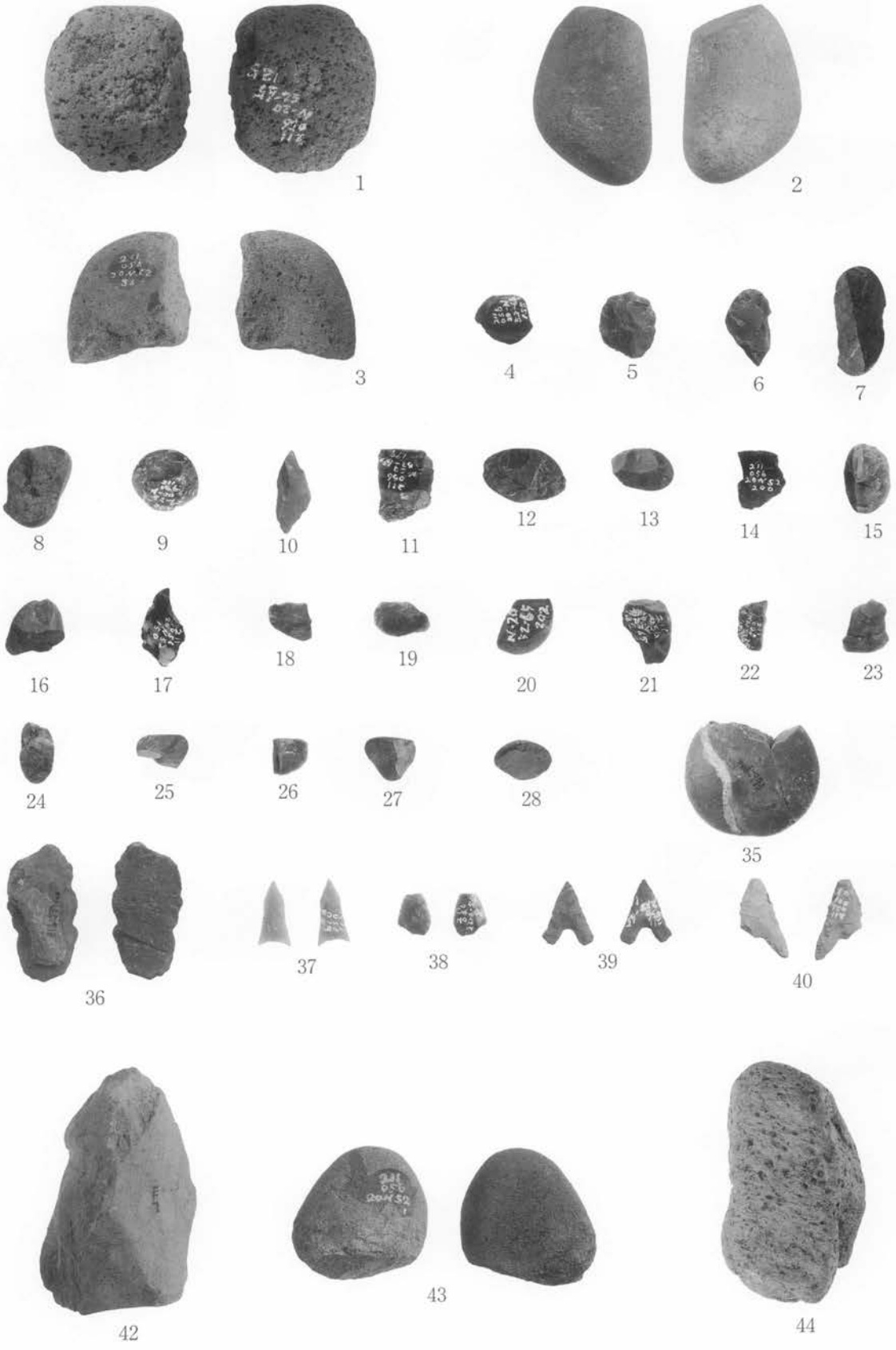
064号陥穴上層出土縄文土器



包含層出土縄文土器 1


49
50
51
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84

包含層出土縄文土器２


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
35
36
37
38
39
40
42
43
44

縄文時代石器

021号住居跡

021号住居跡-1

021号住居跡-2

021号住居跡-3

021号住居跡-4

021号住居跡-8

021号住居跡-6

021号住居跡-5

021号住居跡-7

021号住居跡-12

021号住居跡-13

021号住居跡-14

021号住居跡-15

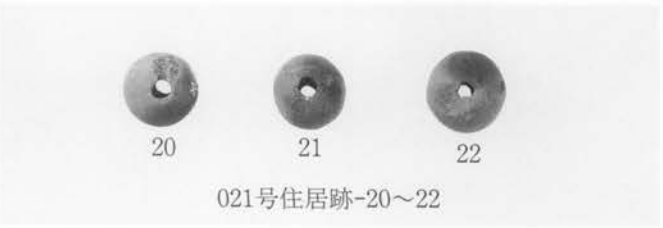
021号住居跡-16

021号住居跡-17

021号住居跡-18

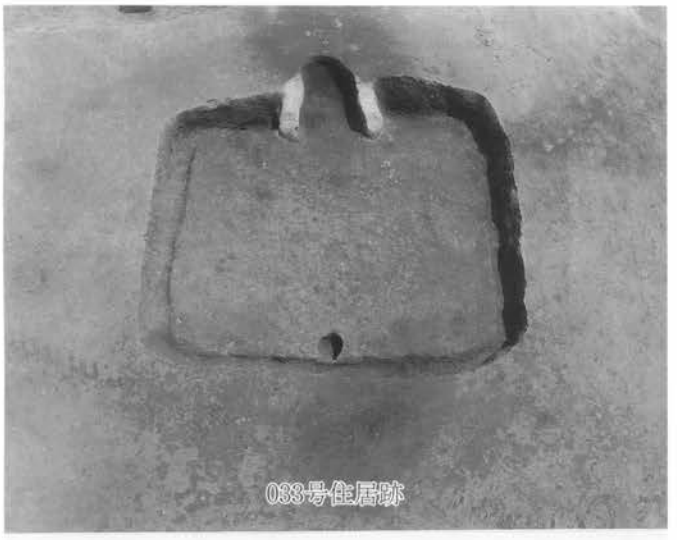
021号住居跡-19

021号住居跡-9　10

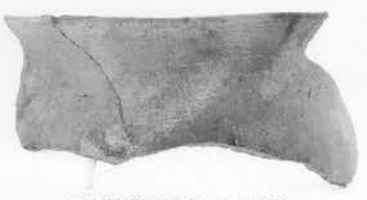


20　21　22

021号住居跡-20～22


033号住居跡

033号住居跡カマド


033号住居跡-1（上）

033号住居跡-2

033号住居跡-1（下）

033号住居跡-3

033号住居跡-4

033号住居跡-5

034号住居跡

034号住居跡カマド

034号住居跡-1

034号住居跡-2

034号住居跡-3

034号住居跡-4

034号住居跡-5

034号住居跡-6

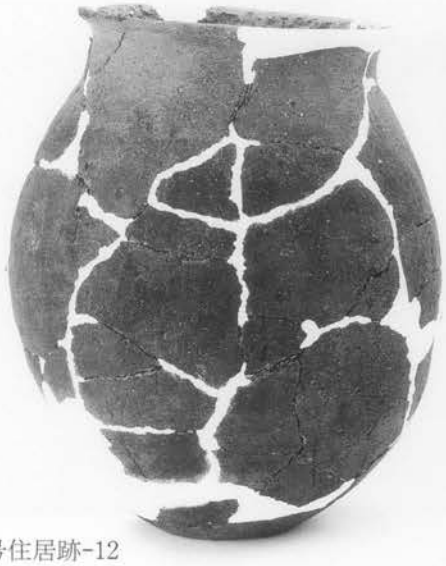
034号住居跡-7

034号住居跡-8

034号住居跡-9

034号住居跡-10

034号住居跡-11



034号住居跡-12

034号住居跡-13

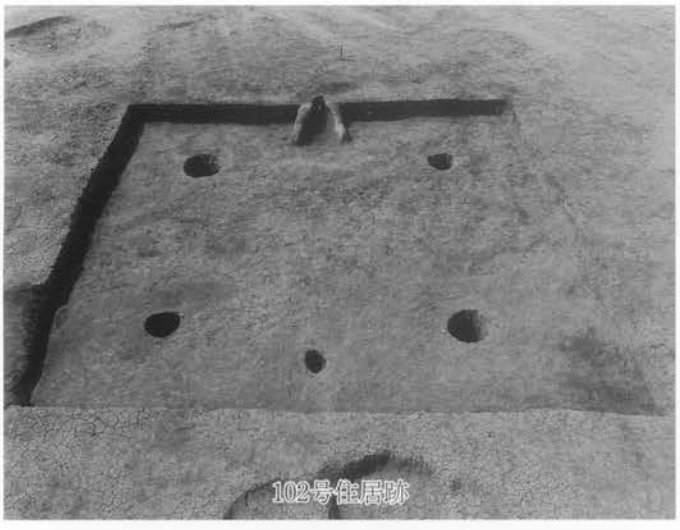
034号住居跡-14

034号住居跡-15

051号住居跡（平安時代）

076号土坑

図版30



102号住居跡-1

102号住居跡-3

102号住居跡-2

102号住居跡-4

102号住居跡-7

102号住居跡-5

102号住居跡-8

102号住居跡-6

120号住居跡

120号住居跡-1

120号住居跡-2

120号住居跡-3

120号住居跡-4

120号住居跡-5

120号住居跡-6

120号住居跡-7

120号住居跡-8

124号住居跡

124号住居跡-1

124号住居跡-2

124号住居跡-5

104号土坑（馬歯出土）

124号住居跡-6

104号土坑

124号住居跡-7

127号土坑

128号住居跡

128号住居跡カマド、遺物出土状況

128号住居跡-1

128号住居跡-2

128号住居跡-3

128号住居跡-4

128号住居跡-5

128号住居跡-6

128号住居跡-7

128号住居跡-8

128号住居跡-9

128号住居跡-10

128号住居跡-12

128号住居跡-14

128号住居跡-11

128号住居跡-13

128号住居跡-15

132号住居跡（平成６年、７年調査部分）

132号住居跡

132号住居跡北西コーナー遺物出土状況

132号住居跡北側カマド付近遺物出土状況

132号住居跡-2

132号住居跡-3

132号住居跡-6

132号住居跡-4

132号住居跡-5

132号住居跡-7

134号井戸

138号土坑

139号土坑

150号溝（大溝）

150号大溝（西から）

150号大溝（西側部分）

150号大溝（中央部分）

150号大溝

150号大溝セクション

151号住居跡

151号住居跡-1

151号住居跡-4

154号住居跡

154号住居跡南側スラグ出土状況

154号住居跡セクション

154号住居跡スラグ出土状況

155号住居跡炭化材等出土状況

同左（アップ）

155号住居跡

155号住居跡カマドセッション

155号住居跡カマド

190号住居跡

190号住居跡カマドセッション

190号住居跡カマド

189号住居跡-2

190号住居跡遺物出土状況

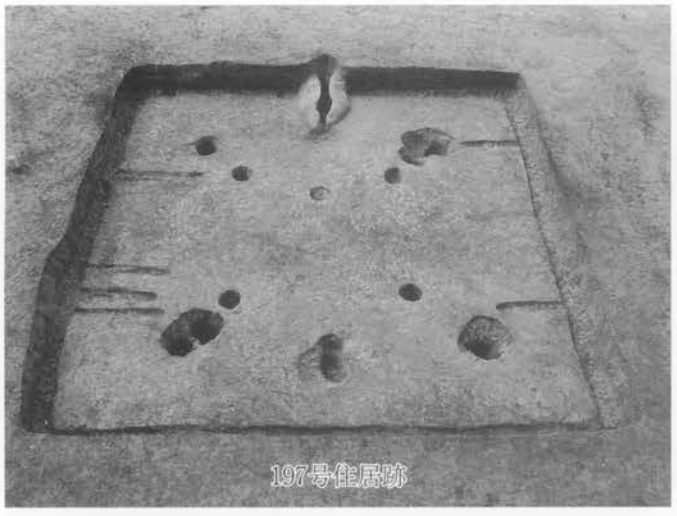
189号住居跡-3

189号住居跡-4

190号住居跡-3

189号住居跡-5

189号住居跡-6


197号住居跡

197号住居跡カマドセッション

197号住居跡カマド

197号住居跡-1

197号住居跡-6

197号住居跡-8

197号住居跡-9

197号住居跡-10

197号住居跡-12

197号住居跡-11

204号住居跡

204号住居跡カマド

204号住居跡炭化材出土状況

204号住居跡カマドセッション

204号住居跡(新)-1

204号住居跡(新)-3

209号住居跡（北側部分）

209号住居跡（南側部分）

209号住居跡カマド（左袖）

209号住居跡カマドない遺物出土状況

209号住居跡遺物出土状況

209号住居跡-1

209号住居跡-5

209号住居跡-4

209号住居跡-2

209号住居跡-3

209号住居跡-6

217号住居跡

217号住居跡-4

310号住居跡カマドセクション

310号住居跡遺物出土状況

310号住居跡

310号住居跡カマド

310号住居跡-10

310号住居跡-7

310号住居跡-9

310号住居跡-2

310号住居跡-1

310号住居跡-11

311号住居跡

311号住居跡カマド

311号住居跡遺物出土状況

311号住居跡カマドセクション

311号住居跡-1

311号住居跡-2

317号住居跡全景

317号住居跡セクション

317号住居跡カマドセクション

317号住居跡カマド全掘

317号住居跡遺物出土状況

317号住居跡カマド付近遺物出土状況

317号住居跡カマド左、南側遺物出土状況

317号住居跡カマド右側遺物出土状況

317号住居跡カマド右袖遺物出土状況

317号住居跡北西コーナー付近遺物出土状況

317号住居跡-1

317号住居跡-2

317号住居跡-3

317号住居跡-4

317号住居跡-5

317号住居跡-6

317号住居跡-7

317号住居跡-9

317号住居跡-8

317号住居跡-10

317号住居跡-11

317号住居跡-12

317号住居跡-13

317号住居跡-14

317号住居跡-15

317号住居跡-16

317号住居跡-17

317号住居跡-18

317号住居跡-19

317号住居跡-20

317号住居跡-21

317号住居跡-22

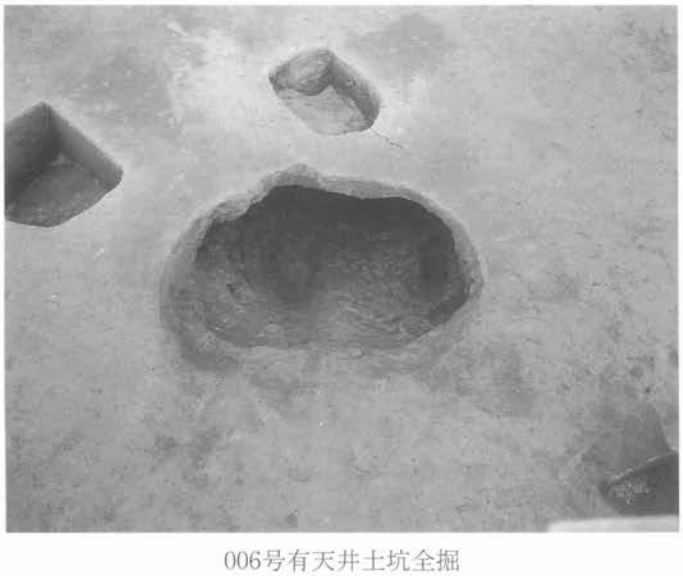
317号住居跡-23

001号火葬墓出土五輪塔、板碑片

001号火葬墓検出状況

001号火葬墓内茅出土状況

001号火葬墓全掘



006号有天井土坑全掘

010号火葬墓全掘

016号火葬墓全掘

049号土坑全掘

050号土坑全掘

062号土坑全掘

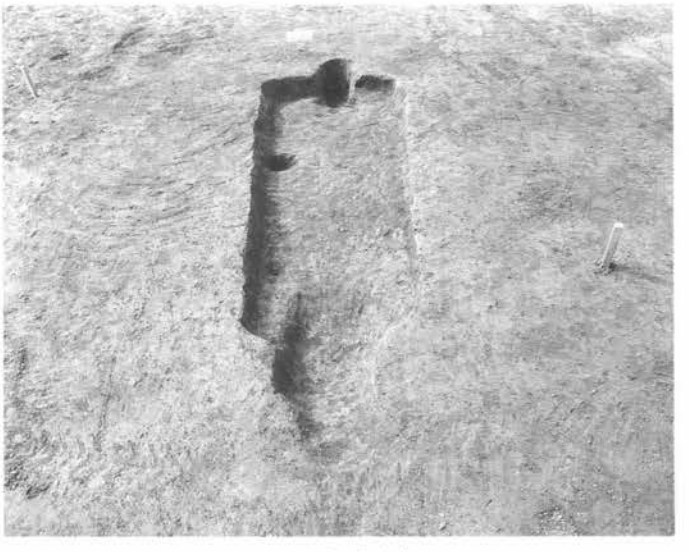
063号土坑全掘

065号土壙全掘

066号火葬墓全掘

067号土坑全掘

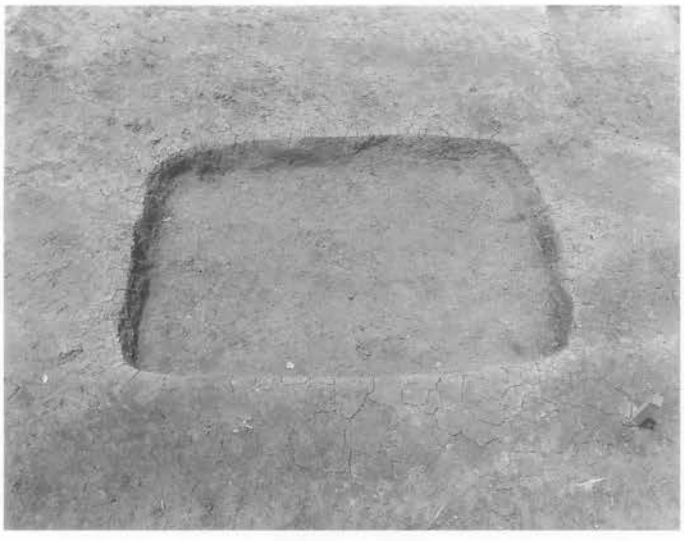
069号土壙墓全掘



074号炭窯全掘

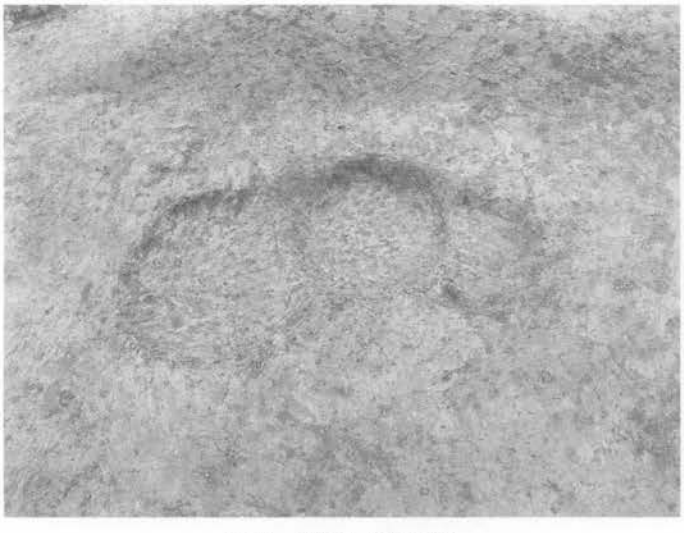
077号炭窯全掘

082号土坑全掘



086号土坑全掘

087号地下式壙全掘

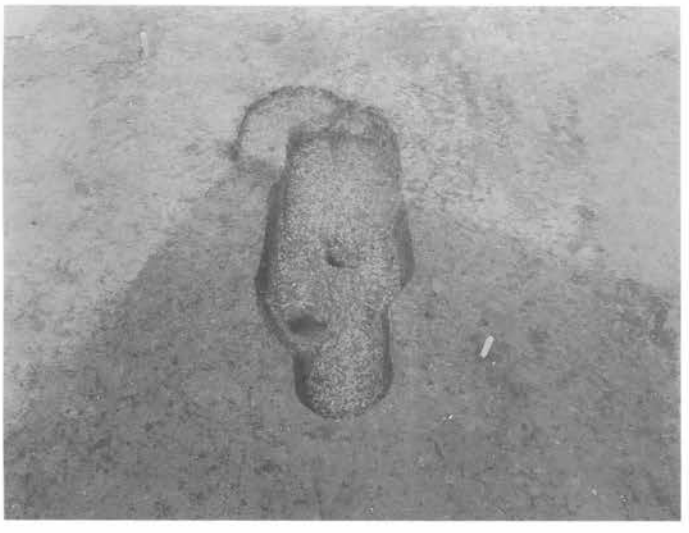


079・093号土坑全掘

098号土坑全掘

078・098号土坑全掘

096号土坑全掘



099号炭窯全掘

129号柱列セクション

109・113号溝

110・112号溝

118号溝

152号土坑出土鉄滓

152号土坑

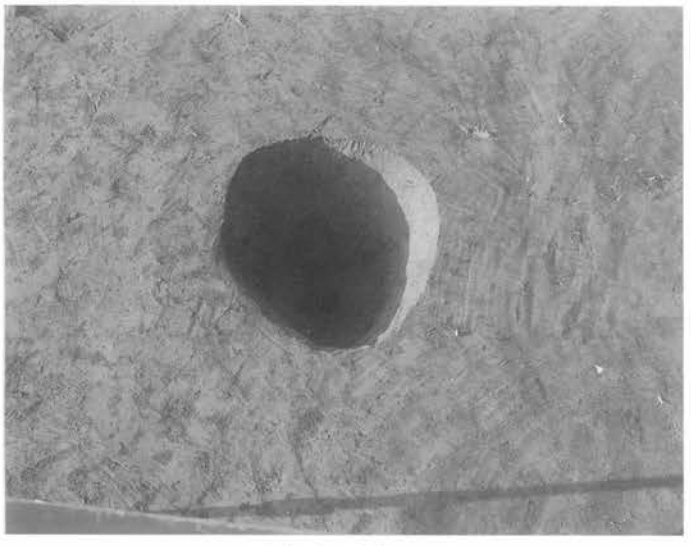
153号土坑（時期不明）

164号土坑

165号土坑

163号土坑（不明）

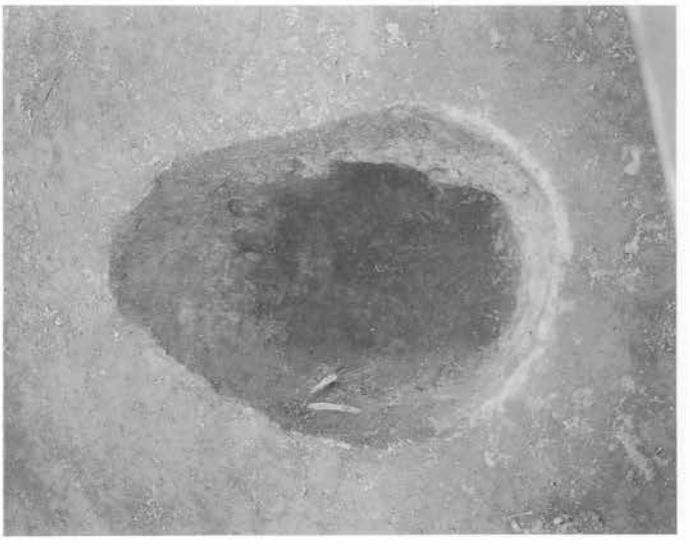
166号土坑



169号土坑（時期不明）

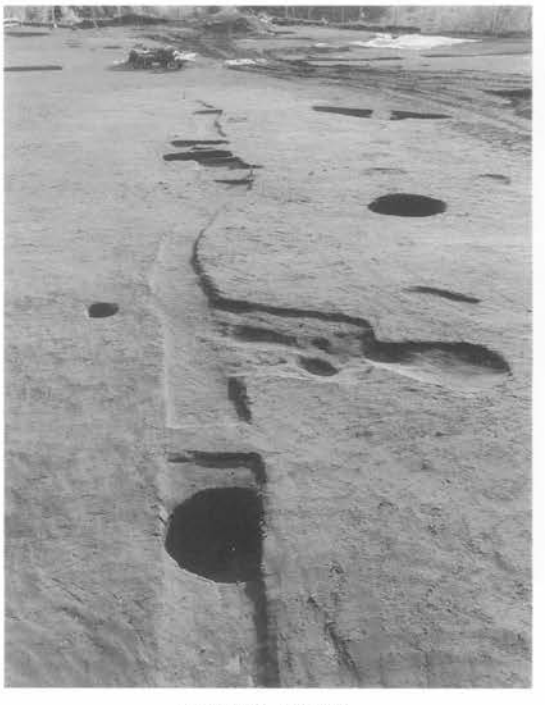
171・172号溝

157号溝・158・159号土坑



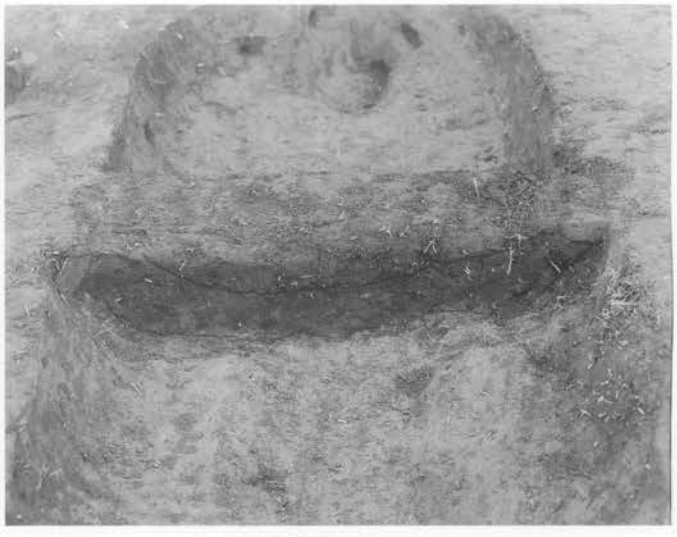
159号土坑

162号土坑



177号溝（近世）

191号炭窯



191号炭窯セクション

193号土坑（不明）

205号土坑セクション

210土坑

210～215号ピット群

208号土坑セクション

207号溝

208号土坑

208号土坑

199号土坑

218号土坑

101・338・340号全景（西から）

075号柵列

110・112号全景

112号溝（西側）

075・112号セクション

075・112号（東側）

207号（西側）

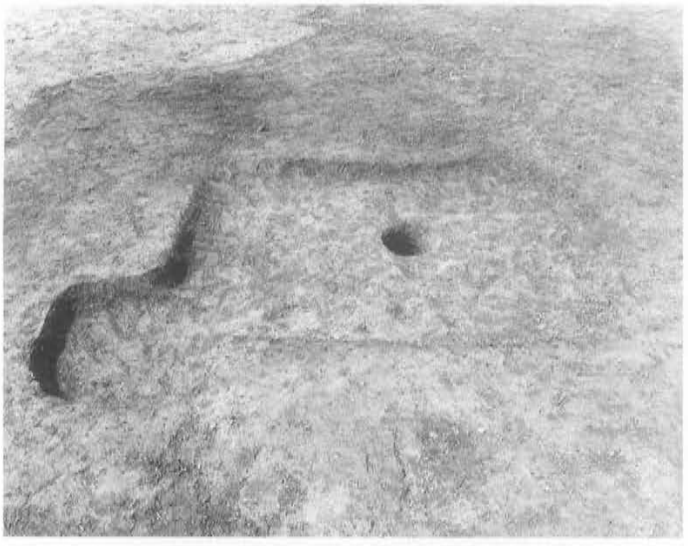
207号（北側）

301号竪穴状遺構全景

312号小竪穴

313・314号セクション

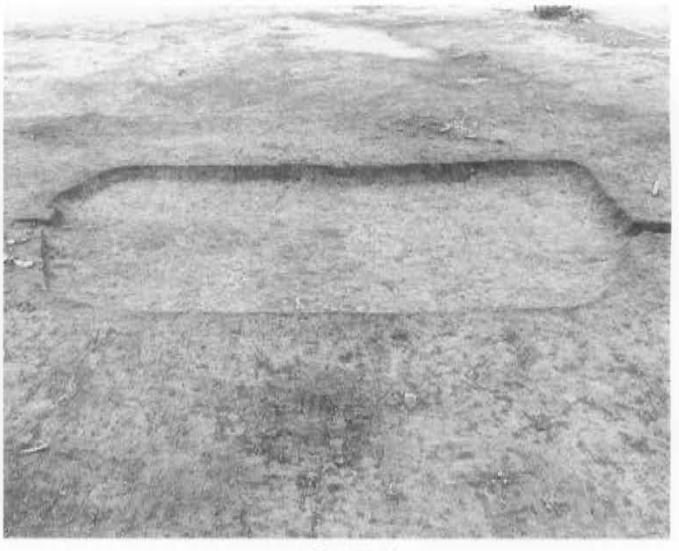
312～314号小竪穴・地下式壙



315号小竪穴

316号小竪穴

318号掘立柱建物跡



319号小竪穴

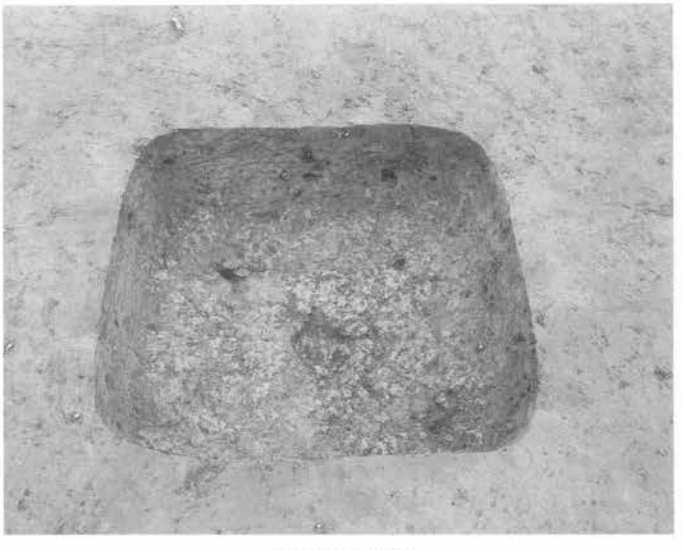
320号地下式壙セクション

321号炭窯・325号土坑

328号馬歯出土地下式壙

328号地下式壙セクション

328号地下式壙



331号小竪穴

335号溝・336柵列

336号柵列

002号溝全掘20-N-70付近

003号道路状遺構全掘

003号道路状遺構全掘（東側）

008号溝全掘

023号溝全掘

075号柵列全掘

報告書抄録

ふりがな	なりたこくさいぶつりゅうふくごうきちまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ2
書名	成田国際物流複合基地埋蔵文化財発掘調査報告書2
副書名	成田市駒井野荒追遺跡・成田市台ノ田Ⅱ(2)遺跡
巻次	
発行年月日	西暦2003年3月25日

所収遺跡名	所在地	コード		経緯度		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
駒井野荒追遺跡	千葉県成田市駒井野字廣田899-1ほか	211	056	35°46′25″	140°22′47″	19940201～19940729（一次） 19941101～19950327（二次） 20010803～20011129（三次）	16,300 11,000 5,112	成田国際物流複合基地造成に伴う埋蔵文化財調査
台ノ田Ⅱ(2)遺跡	千葉県成田市駒井野字台ノ田2018ほか	211	059	35°46′25″	140°22′48″	20010713～20010802（二次）	1,200	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
駒井野荒追遺跡	包蔵地	旧石器時代	石器集中地点 8ヵ所	ナイフ形石器、石核、R・フレイク、U・フレイク、剥片	台地全体に旧石器時代から中近世まで遺跡が営まれている。特に古墳時代前期の資料はこの追記においては希なことから貴重な資料を提供していると思われる。
	包蔵地	縄文時代	陥穴54基、炉穴1基、土坑14基	縄文土器(早期～中期)、くさび形石器、土師器、須恵器、スラグ	
	包蔵地	古墳時代～平安時代	住居跡22軒、大溝1条、土坑6基		
	墓域	中世～近世初頭	火葬墓5基、土坑42基、地下式壙4基、掘立柱建物跡1棟、小竪穴5基、竪穴状遺構3棟、溝23条、柵列状遺構5条、道路状遺構1条	捏ね鉢、擂り鉢、焙烙、鉄製品、陶磁器	
	屋敷跡				
台ノ田Ⅱ(2)遺跡	包蔵地	旧石器時代		剥片1点	
		縄文時代		縄文時代土器片2点(早期)	

千葉県文化財センター調査報告第452集

成田国際物流複合基地埋蔵文化財調査報告書2

－成田市・駒井野荒追遺跡－

－成田市・台ノ田Ⅱ(2)遺跡－

平成15年3月25日 発行

編　集　財団法人 千葉県文化財センター

発　行　千　葉　県　企　業　庁

千葉市中央区長洲1-9-1

財団法人 千葉県文化財センター

四街道市鹿渡809-2

印　刷　三　陽　工　業　株　式　会　社

市原市五井5510-1